物件名称：藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

一連番号	図面番号	図　面　名　称	一連番号	図面番号		一連番号	図面番号		一連番号	図面番号		一連番号	図面番号		一連番号	図面番号	
	共－ 001	図面リスト（1）		A － 047	断面図（2）		A － 097	展開図（6）		A － 147	自動灌水システム図（1）		AF － 101	地下１階　家具指示図		LⅢ－ 100	耐火リスト
	－			A － 048	断面図（3）		A － 098	ホール展開図（1）		A － 148	自動灌水システム図（2）		AF － 102	１階　家具指示図		LⅢ－ 101	地下１階法規チェック図
	－			A － 049	矩計図（1）		A － 099	ホール展開図（2）		A － 149	簡易排煙装置図（X2～X3通）		AF － 103	２階　家具指示図		LⅢ－ 102	１階法規チェック図
	－			A － 050	矩計図（2）		A － 100	ホール展開図（3）		A － 150	簡易排煙装置図（X3～X4通）		AF － 104	３階　家具指示図		LⅢ－ 103	２階法規チェック図
	A － 001	建築工事特記仕様書（1）		A － 051	矩計図（3）		A － 101	地下１階天井伏図		A － 151	簡易排煙装置図（X4～X5通）		AF － 105	４階　家具指示図		LⅢ－ 104	３階法規チェック図
	A － 002	建築工事特記仕様書（2）		A － 052	矩計図（4）		A － 102	１階天井伏図		A － 152	簡易排煙装置断面図		AF － 106	５階　家具指示図		LⅢ－ 105	４階法規チェック図
	A － 003	建築工事特記仕様書（3）		A － 053	階段詳細図（1）		A － 103	２階天井伏図		－			AF － 107	家具詳細図（1）		LⅢ－ 106	５階法規チェック図
	A － 004	建築工事特記仕様書（4）		A － 054	階段詳細図（2）		A － 104	３階天井伏図		AT－ 101	ピット階桶指示図		AF － 108	家具詳細図（2）		LⅢ－ 107	日影図（1）
	A － 005	建築工事特記仕様書（5）		A － 055	地下１階平面詳細図（1）		A － 105	４階天井伏図		AT－ 102	地下１階桶指示図		AF － 109	家具詳細図（3）		LⅢ－ 108	日影図（2）
	A － 006	建築工事特記仕様書（6）		A － 056	地下１階平面詳細図（2）		A － 106	５階天井伏図		AT－ 103	１階桶指示図		AF － 110	家具詳細図（4）		LⅢ－ 108-2	日影図（3）
	A － 007	建築工事特記仕様書（7）		A － 057	地下１階平面詳細図（3）		A － 107	調理室機器リスト		AT－ 104	２階桶指示図		AF － 111	図書室家具図（1）		LⅢ－ 109	地下１階バリアフリーチェック図
	A － 008	建築工事特記仕様書（8）		A － 058	地下１階平面詳細図（4）		A － 108	調理室機器配置図		AT－ 105	３階桶指示図		AF － 112	図書室家具図（2）		LⅢ－ 110	１階バリアフリーチェック図
	A － 009	建築工事特記仕様書（9）		A － 059	地下１階平面詳細図（5）		A － 109	建具工事特記仕様書（1）		AT－ 106	４階桶指示図		AF － 113	図書室家具図（3）		LⅢ－ 111	２階バリアフリーチェック図
	A － 010	音響関連特記仕様書（1）		A － 060	地下１階平面詳細図（6）		A － 110	建具工事特記仕様書（2）		AT－ 107	５階桶指示図		AF － 114	図書室家具図（4）		LⅢ－ 112	３階バリアフリーチェック図
	A － 011	音響関連特記仕様書（2）		A － 061	１階平面詳細図（1）		A － 111	地下１階建具指示図		AT－ 108	屋上桶指示図		－			LⅢ－ 113	４階バリアフリーチェック図
	A － 012	建築工事補足仕様書（1）		A － 062	１階平面詳細図（2）		A － 112	１階建具指示図		－			EV － 101	昇降機設備図（1）		LⅢ－ 114	５階バリアフリーチェック図
	A － 013	建築工事補足仕様書（2）		A － 063	１階平面詳細図（3）		A － 113	２階建具指示図		AS－ 101	地下１階サインプロット図		EV － 102	昇降機設備図（2）		LⅢ－ 115	地下１階消火設備指示図
	A － 014	建築工事補足仕様書（3）		A － 064	１階平面詳細図（4）		A － 114	３階建具指示図		AS－ 102	１階サインプロット図		EV － 103	昇降機設備図（3）		LⅢ－ 116	１階消火設備指示図
	A － 015	建築工事補足仕様書（4）		A － 065	１階平面詳細図（5）		A － 115	４階建具指示図		AS－ 103	２階サインプロット図		EV － 104	昇降機設備図（4）		LⅢ－ 117	２階消火設備指示図
	A － 016	建築工事補足仕様書（5）		A － 066	１階平面詳細図（6）		A － 116	５階建具指示図		AS－ 104	３階サインプロット図		EV － 105	昇降機設備図（5）		LⅢ－ 118	３階消火設備指示図
	A － 017	建築工事補足仕様書（6）		A － 067	２階平面詳細図（1）		A － 117	建具表（1）		AS－ 105	４階サインプロット図		EV － 106	昇降機設備図（6）		LⅢ－ 119	４階消火設備指示図
	A － 018	耐震･耐風圧　天井補強　特記･要領図		A － 068	２階平面詳細図（2）		A － 118	建具表（2）		AS－ 106	５階サインプロット図		EV － 107	昇降機設備図（7）		LⅢ－ 120	５階消火設備指示図
	A － 019	案内図		A － 069	２階平面詳細図（3）		A － 119	建具表（3）		AS－ 107	サイン詳細図（1）		EV － 108	昇降機設備図（8）		LⅢ－ 121	便所計画検討図
	A － 020	敷地配置図		A － 070	２階平面詳細図（4）		A － 120	建具表（4）		AS－ 108	サイン詳細図（2）		EV － 109	昇降機設備図（9）		－	
	A － 021	地盤面算定図		A － 071	２階平面詳細図（5）		A － 121	建具表（5）		AS－ 109	サイン詳細図（3）		EV － 110	昇降機設備図（１０）		－	
	A － 022	日影平均地盤面算定図		A － 072	３階平面詳細図（1）		A － 122	建具表（6）		AS－ 110	サイン詳細図（4）		EV － 111	昇降機設備図（１１）		－	
	A － 023	現況図		A － 073	３階平面詳細図（2）		A － 123	建具詳細図（1）		AS－ 111	サイン詳細図（5）		EV － 112	昇降機設備図（１２）		－	
	A － 024	着工前現況図		A － 074	３階平面詳細図（3）		A － 124	建具詳細図（2）		AS－ 112	サイン詳細図（6）		EV － 113	昇降機設備図（１３）		－	
	A － 025	建築面積求積図・求積表		A － 075	３階平面詳細図（4）		A － 125	建具詳細図（3）		AS－ 113	サイン詳細図（7）		－			－	
	A － 026	床面積求積図・求積表　地下１階		A － 076	３階平面詳細図（5）		A － 126	建具詳細図（4）		AS－ 114	サイン詳細図（8）		G － 101	舗装平面図		－	
	A － 027	床面積求積図・求積表　１階		A － 077	４階平面詳細図（1）		A － 127	建具詳細図（5）		AS－ 115	サイン詳細図（9）		G － 102	植栽平面図		－	
	A － 028	床面積求積図・求積表　２階		A － 078	４階平面詳細図（2）		A － 128	建具詳細図（6）		AS－ 116	サイン詳細図（１０）		G － 103	植栽平面図（中高木）		－	
	A － 029	床面積求積図・求積表　３階		A － 079	４階平面詳細図（3）		A － 129	建具詳細図（7）		AS－ 117	サイン詳細図（１１）		G － 104	植栽平面図（低木地被）		－	
	A － 030	床面積求積図・求積表　４階		A － 080	４階平面詳細図（4）		A － 130	建具詳細図（8）		AS－ 118	サイン詳細図（１２）		G － 105	雨水排水計画平面図		－	
	A － 031	床面積求積図・求積表　５階		A － 081	５階平面詳細図（1）		A － 131	建具詳細図（9）		AS－ 119	サイン詳細図（１３）		G － 106	雨水排水施設構造図		－	
	A － 032	外部仕上表・内部仕上表（1）		A － 082	５階平面詳細図（2）		A － 132	建具詳細図（１０）		AS－ 120	サイン詳細図（１４）		G － 107	逆L型擁壁平面図・展開図・構造図		－	
	A － 033	内部仕上表（2）		A － 083	５階平面詳細図（3）		A － 133	建具詳細図（１１）		AS－ 121	サイン詳細図（１５）		G － 108	西側通路詳細図		－	
	A － 034	内部仕上表（3）		A － 084	５階平面詳細図（4）		A － 134	建具詳細図（１２）		－			G － 109	北側通路詳細図		－	
	A － 035	床・壁・天井下地リスト（1）		A － 085	ホール詳細図（1）		A － 135	建具詳細図（１３）		－			G － 110	東側通路詳細図（1）		－	
	A － 036	ピット階平面図		A － 086	ホール詳細図（2）		A － 136	建具詳細図（１４）		－			G － 111	東側通路詳細図（2）		－	
	A － 037	地下１階平面図		A － 087	ホール舞台機構全体図（1）		A － 137	部分詳細図（1）		－			－			－	
	A － 038	１階平面図		A － 088	ホール舞台機構全体図（2）		A － 138	部分詳細図（2）		－			－			－	
	A － 039	２階平面図		A － 089	多目的交流ホール詳細図（1）		A － 139	部分詳細図（3）		－			－			－	
	A － 040	３階平面図		A － 090	多目的交流ホール詳細図（2）		A － 140	部分詳細図（4）		－			－			－	
	A － 041	４階平面図		A － 091	多目的交流ホール詳細図（3）		A － 141	部分詳細図（5）		－			－			－	
	A － 042	５階・屋上平面図		A － 092	展開図（1）		A － 142	部分詳細図（6）		－			－			－	
	A － 043	屋根伏図		A － 093	展開図（2）		A － 143	部分詳細図（7）		－			－			－	
	A － 044	立面図（1）		A － 094	展開図（3）		A － 144	部分詳細図（8）		－			－			－	
	A － 045	立面図（2）		A － 095	展開図（4）		A － 145	断熱範囲図		－			－			－	
	A － 046	断面図（1）		A － 096	展開図（5）		A － 146	防水範囲図					－			－	

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

	設計番号	図面番号
図面リスト（1）		共 － 001
	縮尺 A1:－ A3:－	日付 2019・02・28
		No

Ⅰ. 設　計　概　要

一般事項

建物名称	藤沢公民館・労働会館等複合施設	所在地	神奈川県藤沢市本町一丁目1224番地1
建築主	藤沢市		
用途	08140 公民館(図書館その他これに類するもの)		
その他の用途	08490 自動車車庫 [BIF階駐車場] 08990 老人福祉センター その他それらに類するもの [BIF藤沢西部地域包括支援センター、3F放課後児童クラブ] 08210 児童福祉施設等 [BIF地域生活支援センター おあしす、3F藤沢子供の家] 08470 事務所 [BIF藤沢西部地区ボランティアセンター、4F若年者労働支援事業] 08450 飲食店 [5Fレストラン]		
工事種別	⊙新築 ・増築 ・改築 ・改修 ・その他 (　　)		

建築概要

用途地域	近隣商業地域、第一種住居地域	防火地域	準防火地域
その他の地域地区	景観計画区域		
建ぺい率	65.0(8(75.08)　%	容積率	200　%
工期	着工：平成 29年 7月 1日 ── 竣工：平成 31年 2月 28日		
概成工期	着工：平成　年　月　日 ── 竣工：平成　年　月　日		
敷地面積	3367.87 ㎡		
総建築面積	2488.14 ㎡	建ぺい率	73.88　%
延べ床面積	7932.14 ㎡	容積率	181.75　%
容積率対象床面積	6120.99 ㎡	容積対象外床面積	1816.43 ㎡
道路種別	市道	道路幅員	12.0m、7.0m、4.0m
敷地状況	傾斜地		

棟別概要

棟名	①公民館・労働会館				
階数	地上5階/地下1階				
軒高	GL+24.200				
最高の高さ	GL+25.300				
基礎下端	GL-2.150				
構造種別	RC造、一部SRC造				
	⊙耐震構造・免震構造				
地業	直接基礎				
建築面積		消防法別表1 (普通・無窓)			
構造制限	⊙耐火 ・準耐火 ・制限無				

各階床面積		項(普・無)
階	㎡	
5階	210.44 ㎡	16項イ(普・無)
4階	1013.97 ㎡	16項イ(普・無)
3階	862.23 ㎡	16項イ(普・無)
2階	1485.18 ㎡	16項イ(普・無)
1階	1936.48 ㎡	16項イ(普・無)
B1階	2440.02 ㎡	16項イ(普・無)
	㎡	
合計	7948.32 ㎡	16項イ

外部仕上げ	仕上げ表による
内部仕上げ	仕上げ表による

注：以下、⊙ のついたものを適用する。

電気設備

方式	設備概要
受電設備	・ 3φ 3W 6600 V 50 Hz ・屋内形 ⊙屋外形
発電設備	・ 3φ 3W 200 V 50 Hz ⊙ディーゼル機関 ・ガスタービン (⊙キュービクル形 ・開放形 ・)
電力貯蔵設備	・直流電源装置 (・鉛 ・アルカリ) ・交流無停電電源装置 (・鉛 ・アルカリ)
幹線設備	⊙動力 (3φ 3W 200V) ⊙電灯 (1φ 3W 200V/100V)
通信・情報設備	⊙構内情報通信網設備 ((⊙配管 ⊙ｹｰﾌﾞﾙ ・ﾈｯﾄﾜｰｸ機器) ⊙構内交換設備(⊙ﾃﾞｼﾞﾀﾙPBX ・VoIP) ⊙情報表示設備(⊙マルチサイン装置 ・出退表示装置 ⊙時刻表示装置) ⊙映像音響設備 ⊙拡声設備 (・業務用 ・非常用 ⊙業務用非常用兼用 W 回線) ⊙誘導支援設備 (⊙音声誘導装置 ⊙インターホン ⊙保守用 ⊙外部受付用 ・) ⊙トイレ等呼出装置 ・受付呼出装置 ⊙テレビ共同受信設備 ((⊙UHF ⊙BS ・CS ⊙110°CS ・124°128°CS) ・テレビ電波障害防除設備 ⊙監視カメラ設備 (・アナログ伝送 ⊙ネットワーク伝送) ⊙駐車場管制設備 ・防犯・入退室管理設備 (・防犯装置 ・入退室管理装置)
自動火災報知設備	⊙R型 級 回線 (・単独 ⊙複合) ・自動閉鎖装置 ・ｶﾞｽ漏れ
雷保護設備	・JIS A4201-1992 ⊙JIS A4201-2003(・ Ⅰ⊙Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) ⊙受雷部C(・笠木 ⊙突針 ・棟上導体)
警報監視制御設備	・警報盤 ・簡易型監視制御装置 ⊙監視制御装置

給排水衛生設備

上水供給方式	・水道直結式 ・増圧給水方式 ・高置水槽式 ⊙加圧ポンプ式
雑用水(中水)	・水源 (・処理水 ・雨水 ・井水) ・供給方法 (・高置水槽式・加圧ポンプ式・)
給湯方式	・中央 (・貯湯式・瞬間式 ・ガス・電気) ⊙個別式 (⊙貯湯式⊙瞬間式) ⊙ガス⊙電気)
排水方式	⊙直接放流 ・浄化槽 ⊙屋内 ⊙分流式・合流式) ⊙屋外 (・分流式⊙合流式)
消火設備	⊙屋内消火栓・屋外消火栓・スプリンクラー・不活性ガス⊙危消⊙連結送水管・
ガス設備	⊙都市ガス ・液化石油ガス (・ボンベ・バルク)

空気調和設備

エネルギー	⊙電気 ⊙ガス ⊙都市 ・液化石油ガス) ・油 (・重油 ・灯油) ・廃熱利用
熱源方式	⊙中央熱源 ⊙個別空調 ・地域熱源
熱源機器	・冷凍機 ・ボイラー (温水発生器含) ・ヒートポンプ冷凍機 ・冷温水発生機 ・蓄熱槽 ・氷蓄熱ユニット ・コジェネレーション
配管方式	⊙冷温水配管 (⊙2管式 ・4管式) ⊙冷媒配管 (⊙2管式 ・3管式)
空調ｿﾞｰﾝ方式	⊙単一ダクト ・単一ダクト＋ファンコイルユニット ・ファンコイルユニット ・パッケージ形空調機 (床置) ・空冷ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾕﾆｯﾄ (・マルチタイプ・セパレート) ・ガスエンジンヒートポンプユニット ・氷蓄熱ヒートポンプユニット ・小型水熱源ヒートポンプユニット
換気方式	・中央 ⊙個別 (⊙第1種 ⊙第2種 ⊙第3種 ⊙自然換気システム
排煙方式	⊙自然 ・機械 ⊙告示免除 ・避難安全検証法
自動制御	・電気 ・電子 (・デジタル調節器) ⊙デジタル (・DDC、中央監視装置)

昇降機設備

エレベーター	⊙乗用 (⊙車椅子兼用 ・荷物用(kg) ・ 20人乗 ・ 60ｍ／分 ・ 1台 ⊙乗用 (⊙車椅子兼用 ・荷物用(kg) ・ 11人乗 ・ 60ｍ／分 ・ 1台
非常用エレベーター	・ ・ 人乗 ・ ｍ／分 ・ 台
エスカレーター	・ ・幅 mm ・ 基

機械駐車設備

乗り入れ方式	・
適用車種 (収容台数)	・大型車用 (台) ・中型車用 (台) ・中小型車用 (台)

注：以下、記入値及び ※ ⊙のついたものを適用する。

設計気象条件

気象条件

外気温湿度	夏： 33.1 ℃、 61 % 冬： 2.1 ℃、 34 %
積雪量	0.30 m (kg／㎡cm) 多雪区域の指定 ・指定あり ⊙指定なし
凍結深度	なし
最多降水量	39 mm／10min 設計降雨強度 234mm/h
風向	年間最多： N 冬： N

耐風性能分類

風圧力	建築基準法に基づき定められた風速 (Vo) ⊙ 34 m/s 地表面粗度区分： ・Ⅰ ・Ⅱ ⊙Ⅲ ・Ⅳ
耐風性能分類 (「官庁施設の基本的性能基準」に準ずる) (W:風圧力,再現期間)	
構造体	・Ⅰ(1.3W,200年) ・Ⅱ(1.15W,100年) ※Ⅱ(1.0W,50年:建基法) ・
建築非構造部材	・Ⅰ(1.3W,200年) ※Ⅱ(1.15W,100年) ⊙Ⅲ(1.0W,50年:建基法) ・
建築設備	・Ⅰ(1.3W,200年) ※Ⅱ(1.15W,100年) ⊙Ⅲ(1.0W,50年:建基法) ・
その他	・風洞実験による ・時刻歴応答解析による ・

騒音規制

	昼間	朝・夕	夜間
近隣商業地域	65 dB以下	60 dB以下	50 dB以下
第一種住居地域	55 dB以下	50 dB以下	45 dB以下

耐震安全性の分類他

「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」耐震安全性の分類に準ずる

施設分類等	建物(棟名) ①公民館・労働会館
構造体	・Ⅰ⊙Ⅱ・Ⅲ
建築非構造部材	⊙A ・B
建築設備	⊙甲 ・乙 ⊙特定 ・一般
エレベーターの耐震クラス	⊙S ・A
エスカレーターの耐震処置	・

※ 昇降機の耐震処置は「昇降機技術基準の解説」2014年版による

設計水平震度

※耐震構造の水平震度は以下による

建築非構造部材の水平震度は下表による

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
A類	1.0	1.0	0.6
B類	1.0	0.6	0.4

建築設備の水平震度は下表による

イ 重要機器(水槽類を除く,防振支持の機器については,括弧内の数字)

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	2.0 (2.0)	1.5 (1.5)	1.0 (1.0)
一般	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)

ロ 一般機器(水槽類を除く,防振支持の機器については,括弧内の数字)

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
一般	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

ハ 重要水槽

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	2.0	1.5	1.5
一般	1.5	1.0	1.0

ニ 一般水槽

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	1.5	1.0	1.0
一般	1.0	0.6	0.6

■注意事項
①建築非構造部材の定義
1.外壁及びその仕上げ
2.建具及びガラス
3.間仕切り及び内装材
4.天井及び床材
5.屋根材
6.造り付けの家具及び事務機器類
7.外構その他
②建築設備の重要機器等の指定は、電気・機械設備工事特記仕様書による。
③鉛直震度は各々の水平震度の1/2とする。

場所		建物(棟名) ①新公民館棟	②	③
		屋上及び塔屋	屋上及び塔屋	屋上及び塔屋
上層階、屋上及び塔屋	上層階の定義 ・2～6階建の場合は最上階 ・7～9階建の場合は上層2階 ・10～12階建の場合は上層3階 ・13階建以上の場合は上層4階	5階 ～ 5階	階 ～ 階	階 ～ 階
中間階	地階、1階と上層階を除く 但し、1階＝1階の床面を除く1階	4階 ～ 2階	階 ～ 階	階 ～ 階
1階及び地階	地階 但し、1階＝1階の床面	1階及び地階	1階及び地階	1階及び地階

Ⅱ. 工事発注形態

Ⅲ. 工　事　区　分

注：該当項目は番号に◯印の付いたものを適用する。区分は⊙印か、※印のないものは※印のついたものを適用する。

分類	項目	建築	電気	空調	衛生	昇降	機駐	土木	別途
① 共通	1.工事用電力、上下水道、ガス引込み工事(引込み負担金を含む)	※							
	2.工事用電力、上下水道、ガス使用料金(基本料金を含む)	※							
	3.本設電力引込み工事		◯						
	4.本設上水引込み工事				◯				
	5.本設下水引込み工事				※				
	6.本設ガス引込み工事				※				
	7.本設電力引込み負担金			•					※
	8.本設上水引込み負担金				•				※
	9.本設下水引込み負担金				•				※
	10.本設ガス引込み負担金				•				※
	11.本設受電後引き渡し迄の基本料金	※	※	※	※	※			•
	本設受電後引き渡し迄の使用料金	※	※	※	※	※			
	12.本設後引き渡し迄の上水基本料金	※	※	※	※	※			•
	本設後引き渡し迄の上水使用料金	※	※	※	※	※			
	13.本設後引き渡し迄の下水基本料金	※	※	※	※	※			•
	本設後引き渡し迄の下水使用料金	※	※	※	※	※			
	14.本設後引き渡し迄のガス基本料金	※	※	※	※				•
	本設後引き渡し迄のガス使用料金	※	※	※	※				
	15.本設電話引込み工事	※	◯						
	16.本設電話引込み負担金		•						※
	17.工事上の各種申請、届出費用	※	※	※	※	※			
	18.既存上下水道、ガス管の撤去及び手続き(届出費用を含む)	※			•				
	19.工事施工に関する電波障害調査	⊙							
	20.工事施工に関する電波障害対策工事	•							
② 機械基礎	1.大規模な機器類の基礎の製作及び設置	※	•	•	•				
	2.同上アンカーボルトの箱入れ、埋込み設置	•	※	※	※				
	3.小規模な機器類の基礎や架台の製作及び設置	•	※	※	※				
	4.外灯基礎の製作及び設置		※						
	5.設備機器類の取付け用インサート及び吊りボルトの製作及び設置		※	※	※	※	※		
	6.S造の設備機器類吊り下げ用取付け金物の製作及び設置	※							

分類	項目	建築	電気	空調	衛生	昇降	機駐	土木	別途
③ 躯体工事	1.地中梁の連通管、通気管及び人通孔の製作、設置及び補強	※							
	2.地下室等の二重壁内の水抜き管の製作及び設置	※							
	3.S、SRC造梁貫通鋼管スリーブの製作、設置及び補強	※							
	4.RC造梁貫通スリーブの製作及び設置	※	※	※	※	※			
	5.同上補強	※							
	6.床や壁の貫通及び半貫通部分のスリーブ、箱等の製作及び設置	※	※	※	※	※			
	7.同上補強	※							
	8.各貫通穴あけ箇所の空隙充填及び補修	※	※	※	※	※			
	9.梁貫通予備スリーブの孔蓋の製作、設置及び耐火被覆	※	•	•	•	•	•		
	10.防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※			
④ 躯体以外の開口・貫通	1.工場製作の床パネル、開仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※							
	2.現場製作の床、間仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※							
	3.間仕切り壁開口部の空隙充填及び補修	※							
	4.天井付各種機器類の取付け用の開口、取付け枠の製作、設置及び補強(吹出口、吸込口等を含む)	※							
	5.床や壁の直付け各種器具類の取付け枠の製作、設置及び補強	※							
	6.ブロック、れんがへの設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※							
	7.ALC版、押出し成形セメント板、PC版類の設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※							
	8.床や壁の石材面の設備機器取付け用開口の製作	※							
⑤ ピット・マンホール・水槽等	1.湧水槽、蓄熱槽等の各種水槽の躯体断熱層、内外の防水及び仕上げ	※							
	2.同上マンホール蓋及びタラップの設置	※							
	3.屋内の排水溝、配管ピット及び配線ピットの内外の防水及び仕上げ	※				•			
	4.同上付属蓋類の設置	※	•	•	•				
	5.同上内設備配管類の架台の製作及び設置		※	※	※				
	6.屋内の電気引込み用マンホール及びタラップの設置	※							
	7.電気設備用ハンドホール及びマンホール蓋の設置		※						
	8.屋内マンホールの躯体、錆鉄蓋及び化粧蓋の設置	※	※						
	9.屋外マンホールの躯体、錆鉄蓋の設置	※	※	※	※				
	10.屋外マンホールの化粧蓋の設置	※	※	※	※				
	11.同上化粧蓋の仕上	※							
	12.浄化槽設備の躯体、内外防水及び仕上げ	※			•				
	13.同上用マンホール蓋及びタラップの設置	※			•				
	14.排水槽、浄化槽等の内外装置の設置				※				
	15.湧水槽、蓄熱槽等用液面電極取付け座の設置				※				
	16.同上用各種満減水警報、液面電極棒取付け				※				
	17.同上用電気配管配線		※						
⑥ 点検口・ガラリ	1.設備機器及び配管配線用の床、壁及び天井の点検口の製作及び設置	※	•	•	•	•			
	2.外壁に取りつく給排気用ガラリの製作及び配置(接続用アングル、防鳥ネットを含む)	※		•					
	3.同上外壁ガラリのウェザーカバー及びチャンバーの製作及び設置	•		※					
	4.内壁等に取りつく吹出口、吸込口のガラリ等の製作及び設置			※					
	5.同上化粧用特殊ガラリの製作及び設置	※							
	6.各室建具ガラリの製作及び設置	※							
⑦ 雨水排水工事	1.ルーフドレイン類、軒樋及び縦どいの設置	※							
	2.同上凍結防止ヒーター装置の設置		※						
	3.同上縦どいの第一桝への配管接続	※			•				
	4.同上第一桝の製作及び設置	※			•				
	5.雨水利用時、貯留槽への流入配管接続	※			•				
	6.同上貯留槽への流入遮断弁の設置	※							
	7.同上貯留槽からのオーバーフロー管の設置	※							
	8.同上貯留槽以降の雨水利用設備	※							
⑧ 便所、浴室、湯沸室等	1.流し台、ガス台、戸棚及びフードの製作及び設置	※			•				
	2.同上給排水管及び排水金物の接続				※				
	3.同上フードへのダクト接続			※	•				
	4.洗面化粧台の製作及び設置	※			•				
	5.同上給排水管接続				※				
	6.同上陶製洗面器の設置				※				
	7.既製浴槽の設置	※							
	8.ユニットシャワー類の設置	※							
	9.同上給排水管接続				※				
	10.同上ダクト接続			※					
	11.同上一次側電気配管配線		※						
	12.既製化粧鏡の設置	•			※				
	13.特注化粧鏡の設置	※			•				
	14.大便器等水平区画の耐火区画の製作及び設置				※				
	15.手すり、ベビーベット、ベビーチェアー				⊙				
⑨ 防火設備(防火戸等)	1.防火(煙)シャッターの製作・設置及び自動閉鎖装置の製作及び設置	※							
	2.同上用連動制御器と感知器との製作と設置及び配管、配線工事		※						
	3.防火戸の扉、枠の製作・設置(自動閉鎖装置用切り込み補強共)	※							
	4.同上用自動閉鎖装置、連動制御器及び感知器の製作と設置及び配管、配線工事		※						
	5.可動式防煙壁の製作・設置及び自動降下装置線衝装置の製作及び設置	※							
	6.同上用連動制御器、感知器の製作・設置及び配管配線工事		※						
	7.電動式排煙窓の開放装置の製作、設置及び二次側配管配線工事	※							
	8.セキュリティー区画等に用いる扉の配管配線用ボックスの製作及び設置	※							
	9.同上用配管工事		※						
	10.同上用配線及び装置の製作及び設置		•					※	
	11.防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※			
	12.機械排煙口、排煙ダンパーの製作・設置及び手動開閉装置の製作及び設置	•		※					
	13.同上用配管、配線工事(受信機～機械排煙口)		※						
	14.同上用配管、配線工事(機械排煙口～手動開閉装置)			※					
	15.防煙ダンパーの製作、設置及び自動閉鎖装置の製作及び設置			※					
	16.同上用連動制御器、感知器の製作、設置及び配管配線工事		※						

分類	項目	建築	電気	空調	衛生	昇降	機駐	土木	別途
⑩ 設備工事等	1.自家発電設備用オイルタンク及びサービスタンク迄の油配管工事			•	⊙				
	2.サービスタンク用防油堤躯体及び仕上げ	※							
	3.自家発電設備用一次側給排水配管工事				※				
	4.自家発電運転用給排気設備工事		※	•					
	5.ユニットバス・ユニットシャワーの換気扇の設置	⊙	•	※					
	6.一般換気扇の設置	•	•	※					
	7.同上用の取付枠の製作及び設置	※	•	•	•				
	8.機器類付属制御盤とその二次側配管配線工事			※	※	※			
	9.自動制御などの現場盤への電源接続		※						
	10.設備用機器、付属制御盤への電源接続及び接地工事		※						
	11.生産設備用機器、付属制御盤などの取付及び二次側配管配線工事								※
	12.電動ブラインド、電動カーテン、電動シャッター、自動ドアなどの制御盤及び二次側配管配線工事	※							
	13.ガス漏れ警報設備		※						
	14.制御用の電極棒の設置		•	※	⊙				
	15.制御用のフロートスイッチの設置		•	⊙	※				
	16.光天井などの照明器具用箱付及び下面仕上材料(ルーバー等)の設置	※							
⑪ 昇降機	1.機械室の床開口設置及び補強	※							
	2.機械室の床配管ピット及び蓋の製作及び設置	•				※			
	3.巻揚機周囲のチェッカープレートの製作及び設置					※			
	4.昇降路内ピットの防水、集水桝及び点検用タラップの製作及び設置	※							
	5.各階出入り口開口の設置及び補強	※							
	6.出入り口三方枠取付け用下地鉄骨の設置	⊙				•			
	7.出入り口扉三方枠の製作及び設置	⊙				※			
	8-1.三方枠取付け	•				※			
	8-2.三方枠廻り空隙の充填及び補修	⊙							
	9.軌条、中間ビーム、ブラケット等昇降路内の鋼製部材一式の製作及び設置	•				※			
	10.9のうち中間ビームの製作及び設置	⊙							
	11.9のうち軌条取付け用下地鉄骨の製作及び設置	⊙							
	12.機械室天井フックの製作及び設置	※							
	13.ホール押し釦、インジケーター、鋼索等の躯体開口の設置及び補強	※							
	14.昇降路、ピット内の保守用コンセントの設置		※						
	15.昇降路外の遠方操作又は警報監視インターホン用配管配線工事		※						
	16.遠方操作盤、警報監視盤及インターホンの設置及び調整(監視盤DC電源共)					※			
	17.一次側電源供給工事		※						
	18.機械室内非常電源と商用電源切替え開閉装置の製作及び設置					•			
	19.同上インターホン本体及び取り付け					•			
⑫ 機械駐車設備	1.機器類設置用フックの製作						※		
	2.機器類設置用フックの設置	※							
	3.ターンテーブルピット内の防水と仕上げ	※							
	4.ターンテーブルピット内の排水管工事	※							
	5.一次側電源供給工事		※						
	6.非常用電源設備工事(バッテリー)						※		
	7.消火設備工事						※		
	8.カーブミラーの製作及び設置	※					•		
⑬ 外構関係	1.外構範囲の整地、舗装、マーキング工事	※						•	
	2.外構範囲の雨水排水設備(桝、配管等)	※						•	
	3.外構範囲の雨水排水抑制設備、調整池工事	※							
	4.外構範囲の汚水・雑排水設備工事(桝、配管)						※		
	5.外灯設備、弱電設備(ITVその他)の配線工事			※					
	6.外灯設備、弱電設備(ITVその他)の基礎工事			※					
	7.外灯設備、弱電設備(ITVその他)の埋設配管			※					
	8.外構範囲の散水栓設備(埋設管含む)							※	
	9.外構範囲のサイン工事(基礎含む)	※							
	10.上記サイン工事までの電気設備工事			※					
	11.門扉設置工事(基礎含む)	※							
	12.先行土木工事部分の仕上げ復旧工事	※						•	
⑭ 太陽光	1.太陽電池アレイの製作及び設置	•	⊙						
	2.接続箱の製作及び設置	•	⊙						
	3.太陽電池アレイ架台の基礎の製作及び設置	※	•						
	4.パワーコンディショナー及び系統連係保護装置の製作及び設置	•	⊙						
	5.データ計測装置の製作及び設置	•	⊙						
	6.表示装置の製作及び設置	•	⊙						
	7.日射計・気温計の製作及び設置	•	⊙						
	8.電気配線・配管工事(太陽電池アレイ～接続箱)	•	⊙						
	9.電気配線・配管工事(接続箱～パワーコンディショナー)	•	※						
	10.電気配線・配管工事(パワーコンディショナー～データ計測装置・日射計・気温計・表示装置・受電設備等)	•	※						
⑮ その他	1.屋外キュービクル等のネットフェンスの設置	※	•						
	2.煙突工事(内部ライニング、タラップ、掃除口扉及び水抜き管、煙導接続口の設置を含む)	※							
	3.同上煙導の製作及び設置			※	※	※			
	4.クレーン及びホイストの製作及び設置	•							※
	5.同上クレーンレールの製作及び設置	•							•
	6.同上電源盤以降の配管配線工事		•						※
	7.消火器の設置(諸官庁手続き共、書類作成は本工事)	•							⊙
	8.同上設置用ボックス	※							
	9.高調波対策		•	⊙	⊙	⊙			
	10.駐車場管制		⊙						
	11.駐車場管制基礎	⊙							

注：該当項目は番号に◯印の付いたものを適用する。区分は⊙印か、※印のないものは※印のついたものを適用する。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号	
		A — 001	
建築工事特記仕様書 (1)	縮尺 1／A1:- A3:-	日付 2019・02・28	No

改訂：2016.09.01

Ⅳ. 建 築 工 事 特 記 仕 様 書

① 共通仕様

a. ☒面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築標準仕様書（建築工事）平成28年版（以下「標準仕様書」という）
b. 本特記仕様書における「監理者」については「監督職員」と読み替える。

② 特記事項

a. 項目は番号に○印の付いたものを適用する。
b. 特記事項は⊙印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印の付いた場合は共に適用する。
c. 特記事項に記載の（ . ）内の表示番号は「標準仕様書」の当該項目、当該☒及び当該表を示す。
d. 特記事項で「図示」とあるは、設計☒面記載事項を意味する。
e. Ⓖ 印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。

③ 適用基準等

⊙工事写真の撮り方（改訂第２版）建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修）
⊙建物解体工事共通仕様書同解説（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
・

④ 設計図書の優先順位

設計図書に関する優先順位は次による。
1） 補足訂正追加事項
2） 特記仕様書
3） 2）以外の☒面
4） 「共仕」、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築工事監理指針平成28年版
5） 建築工事標準詳細☒（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修平成28年版）

項　目	特　記　事　項

1章　一　般　共　通　事　項

① 建築材料等

本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監理者の承認を受ける。
※石綿（アスベスト）含有建材は使用を禁止する。

② 特別な材料の工法

「共仕」及び「補仕」に記載されていない特別な材料の工法は監理者の承認を受けて、当該製品の指定工法によることができる。

③ 施工条件

・管理用スロープを、新設切り替え時以外、市民の生活動線として使えるようにすること。 (1.3.5)
・

④ 発生材の処理等

引き渡しを要するもの ・ (1.3.11(b)(1))
特別管理産業廃棄物 ⊙なし (1.3.11(b)(1))
・あり 名　称（ ）
処理方法（ ）

汚染土壌　土壌汚染調査 ⊙行う（調査費は本工事に含む） ・調査済み
汚染土壌の処置 ⊙処置対策を行う（対策費は本工事に含む） ・処置済み
汚染物質の種類（ ）
汚染物質の処置対策 ・☒示

現場において再利用を☒るもの ・ (1.3.11(b)(2))
再資源化を☒るもの ⊙アスファルト、再生砕石 (1.3.11(b)(2))

⑤ 着工時・中間時及び完成時の提出書類

提出書類は枠設計工事監理要領の「工事に関する書類作成要領-受注者が提出する書類-」による。
※工事写真の撮り方建築編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
・着工時に設計☒をＡ３版に縮小を行い、白焼き製本を提出する。
※３部　⊙　部

⑥ 竣工写真等

下記のものを監理者の指示する指定の台紙に貼付け、又は指定のカバー、ケースに収納し撮影個所を明記し提出する。 (補1.7.3)

種類	分　類	規　格	撮影箇所数	部数	版のおおきさ（ ）等 mm
竣工写真	※カラープリント	※キャビネ版	外部（10）内部（60）	・xx部	※102×127以上
	・リバーサルフィルム		外部（　）内部（　）	・　部	※102×127以上
	・カラースライド		外部（　）内部（　）	・　部	※26×36以上
	※ディスク		外部（　）内部（　）	・　部	※200万画素以上
ビデオ記録	※DVD（ナレーション、BGM付）		・工事記録（　工事）	・　巻	・編集時間　分程度
			・竣工時記録	・　巻	・編集時間　分程度
航空写真	・		・	・　部	

２つ折り製本　部　・折り込み製本（A4版金文字入り）　部

⑦ 完成時の提出☒書

工事完成時の提出☒書は下記による。 (1.7.1)(補1.7.1)(補1.7.2)
完成☒　※工事完成後１ヶ月以内に下記の☒面などを提出する。 (1.7.2)(補1.7.1)
⊙原☒一式（新規に作成、又は原☒訂正）A1サイズ1部
⊙ＣＡＤ☒面データ（・一般☒　・指定☒（　））　3部
・マイクロフィルム（マスターフィルム　※1部　・　部）
⊙２つ折り製本　1部　・折り込み製本（A4版金文字入り）　部
⊙Ａ３縮小２つ折り白焼き製本　6部

完成☒の種類及び記入内容

区　分		種　類	記入内容（下記及び監理者の指示する内容）
建築☒	一般☒	⊙設計概要書	建物と概要、内外仕上表、敷地・建物の面積表
		⊙配置☒及び案内☒	建物と敷地の関係、外構計画概要
		⊙各階平面☒	室名、室面積、耐震壁の位置
		⊙各立面☒	外壁仕上げ、打継目地、伸縮目地
		⊙断面☒	標準地盤面、道路・隣地斜線、階高、天井高、（2面以上作成）
		・	
	その他	⊙矩計☒	基本的寸法、対応した平面☒、立面☒
		⊙平面詳細☒	必要な寸法・仕上げ、各部分納まり（施工☒に依る）
		⊙部分詳細☒	必要な寸法・仕上げ、各部分納まり（施工☒に依る）
		⊙展開☒	天井高、主要な仕上げ
		⊙各種伏☒	天井伏☒、床伏☒、屋根伏☒、主要な仕上げ
		⊙仕上げ表	建物外部・内部の仕上げ
		⊙建具表	建具の各仕様、防火性能（建具指示☒以外は施工☒に依る）
		⊙特記仕様書	
		⊙法規チェック☒	防火区画、防煙区画、防火設備（戸）
		⊙防災計画書	防火区画、防煙区画、防火設備（戸）
		⊙外構☒、植栽☒	舗装種別、土木工作物、樹種等
		⊙その他監理者が指示する☒面	☒面リスト、各室面積表 サイン☒、工程☒、日影☒
		・	

完成☒の種類及び記入内容 (補1.7.1)

区　分	種　類	記入内容（下記及び監理者の指示する内容）
構造☒	⊙各伏☒	杭、基礎、柱、梁、床、必要な寸法・符号
	⊙軸組☒	杭、基礎、柱、梁、床、必要な寸法・符号
	⊙断面表	寸法、鉄筋、鉄骨
	⊙架構☒	配筋、必要な寸法
	⊙詳細☒	必要な寸法・符号、配筋
	⊙床荷重表	
	⊙床荷重伏☒	
	⊙特記仕様書	
	・	
	・	
施工☒等	⊙総合☒	一式
	⊙躯体☒	必要な寸法、納まり、符号
	⊙カーテンウォール施工☒	必要な寸法、符号
	⊙カーテンウォール施工計画書	
	⊙全ての施工☒	
	・	

保全に関する資料　※1.7.3(a)による（提出部数　※1部　・　部）　(1.7.3)(補1.7.4)
数量調書　※作成する（提出部数　※1部　・　部）　・作成しない
作成する範囲及び項目
外　装：　開口部：
内　装：　その他：
屋　根：

※ディスクによる竣工データファイル（ディスク：　セット）　(補1.7.2)
※作成する範囲は完成写真、完成☒及び保全に関する資料とする。（対象書類及びデジタル化仕様などについては、「枠設計工事監理要領」による。）

⑧ 工事区分等

☒示によるほか、工事区分による（○印.⊙印.※印により適用する）。但し、疑義を生じた場合は工事着手前に質疑応答書をもって確認する。
設備工事など他の工事との取合わせ部分は、補強納まり仕上げなどを検討できる施工☒を提出して監理者の承認を受ける。

⑨ 総合☒等

作成☒面の種別 (補1.5.1)

種　類	作成☒・縮尺				
	⊙平面☒	⊙天井伏☒	⊙天井内伏☒	・展開☒	・
⊙総合☒	※1/50 ・1/100	※1/50 ・	⊙1/50（指定室） ・	※1/50（指定室） ・	・
・総合施工☒	・1/50 ※1/20	※1/50 ・	※1/50（指定室） ・	※1/50（指定室） ・	・

各工事間の相互調整完了後の総合☒、総合施工☒（詳細寸法等を記述した☒面）の監理者による取扱い。
※確認を行う　・承認を行う

⑩ 起工式・上棟式等に要する費用

※工事請負金額に含む（起工式　式　式）　⊙含まない

⑪ 契約

⊙藤沢市契約約款による

⑫ 建設工事保険等

受注者は本工事の全ての物件に対して、建設工事保険等に加入し、それらの証書の写しを契約後すみやかに監理者を経て建築主に提出する。
建設工事保険会社　※工事費見積要項書による。

⑬ 施工者による自主的な品質管理

受注者は当該工事の施工管理にあたり、日常工事に直接係わる現場作業所職員の構成とは別に、施工品質の自主的管理を目的とする自主施工管理者を選任し、この者を含めた自主施工管理体制を組織し、品質管理を徹底すること。当該自主施工管理者は、品質管理上の重要な事項と時期及び監理者の指示する事項について、施工品質の確保のための指導、監督を実施すること。尚、指導、監督を実施した事項は、記録し監理者に報告すること。 (補1.7.5)

⑭ 現場情報の電子的な情報交換

工事期間中、施工品質の管理と現場の円滑な運用を目的として、工程表・工事写真・議事録・その他、現場情報をインターネットを使用して情報交換が可能とすること。

⑮ 電気保安技術者

※適用する　・適用しない　(1.3.3)

⑯ 技能士

適用工事種別 (1.5.2)

工事種目	技能職種	工事種目	技能職種
鉄筋工事	⊙鉄筋施工（鉄筋組立て作業）	金属工事	⊙内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）
ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	⊙型枠施工		
鉄骨工事	⊙とび	左官工事	⊙左官
ﾌﾞﾛｯｸ及びALC EPSﾊﾟﾈﾙ工事	・ブロック建築 ・ALCﾊﾟﾈﾙ施工	建具工事	⊙サッシ施工 ⊙ガラス施工
防水工事	防水施工	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	⊙カーテンウォール施工
	⊙アスファルト防水工事作業	塗装工事	⊙塗装（建築塗装作業）
	・合成ゴム系シート防水工事作業	内装工事	内装仕上げ施工
	⊙シーリング防水工事作業		⊙プラスチック系床仕上げ工事作業
	⊙ウレタンゴム系塗膜防水工事作業		⊙ボード仕上げ工事作業
石工事	⊙石材施工（石張り作業）		⊙表装（壁装作業）
タイル工事	⊙タイル張り		⊙カーペット系床仕上げ工事作業
木工事	⊙建築大工	舗装工事	⊙造園
屋根及びとい工事	⊙建築板金（内外装板金作業） ・かわらぶき		

※各工事種目の技能士資格は１級を原則とする。
※タイル工事施工計画書作成にあたり、左官工事との整合を☒ると共に１級技能士による内容確認を行う。

⑰ 性能試験

性能試験の範囲及び内容は、各工事特記仕様書の性能試験の項目による。
（要する費用は工事請負金額に含む。）
構造関係の試験は、建築工事特記仕様書(10)(11)＜構造関係(1)(2)＞の各項目による。

⑱ 試験及び検査の立会い

試験及び検査の立会いに要する費用（交通費及び宿泊費）で工事負担金額に含まれるもの。
※工事現場外での試験及び検査　・

⑲ 設計GL

※☒示(TP+16.39m)　・設計GL＝現状GL（ ）

⑳ 作品の対外発表

施工業者又は関係者が、本工事に関する内容を新聞雑誌等に発表する際には、工事期間中及び建物完成後を問わず、事前に発表の企画内容を建築主及び枠設計、モニタリング業者に通知して、その了承を得ること。また、仕上り原稿について建築主及び枠設計、モニタリング業者の最終承認を得るものとする。

㉑ 化学物質を発生する建築材料等

本工事に使用する建築材料等の選定にあたっては、環境への配慮を行う。 (1.4.1)
化学物質の濃度測定は特記による。 (1.5.9(a))
仕上げユニットの材料選定にあたっては、環境への配慮を行う。 (1.4.1)
仕上げユニットの化学物質濃度の測定は特記による。 (1.5.9(a))

22. 合法木材の証明書等

本工事に使用する木材は、持続可能な森林から産出された合法木材であることとし証明書等を監理者に提出する。

㉓ 技術検査

工事施工中の技術検査　・実施する (1.6.2(a))
・実施回数（ ）
・実施段階（ ）
・実施しない

2章　仮　設　工　事

① 仮囲い

危険防止及び保安上支障のないものとし、工事現場周囲に体裁よく設ける。
⊙鋼板製　（※ペイント仕上　・塗装なし　高さ　※3m　・　m 程度）
・有刺鉄線塀（高さ　m程度）

② 監理者事務所

※設ける　規模　・10㎡ ⊙20㎡ ・35㎡ ・65㎡ ・100㎡ ・　㎡ 程度 (2.3.1(a))
・設けない

③ 監理者事務所の備品

備品 ⊙机、椅子、書棚、黒板、製図板、掛時計、寒暖計 (2.3.1(b)(1))
⊙ゴム長靴、雨合羽、防寒服、保護帽、懐中電灯、安全帯、安全靴
⊙電話機、ファクシミリ、コピー機（通信費、複写費、工事連絡便を含む）
⊙衣類ロッカー、冷暖房機器、消火器、湯沸器、掃除具
⊙パソコン機器一式（⊙外付け記憶装置　⊙アプリケーションソフト　⊙印刷装置　⊙LAN設備　⊙インターネット設備　・　を含む）
数量　⊙監理者人数と必要に応じた数量とする。

④ 工事用水

構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

⑤ 工事用電力

構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

⑥ 障害物の処理

※現場説明事項によるほか、工事上撤去移設を要する軽徴なものは本工事の範囲とする。

⑦ 工事用看板

※監督職員の指示による。 (補2.5.1)
・

⑧ 仮設計画書

建物位置と敷地との相対関係、搬出入方法と敷地内外の条件、足場の危険防止、衛生、安全計画書等を作成し監理者に提出する。（建設省営監発第１３号（平成７年５月２５日）「建築工事安全施工技術指針」・建設省経建発第１号（平成５年１月１２日）「建設工事公衆災害防止対策要綱」を厳守すること。）

※外部足場　手摺先行先送り方式

3章　土　工　事

① 埋戻し及び盛土

種別 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種　建築汚泥から再生した処理土　G
⊙その他　流動化処理土 (3.2.3(b))(表3.2.1)

② 建設発生土の処理

※構外に搬出し関係法令等に従い適切に処理する。
（残土処理事業許可通知書の写しを提出すること） (3.2.5)
・構内指示の場所に敷均す。
・構内指示の場所に堆積する。
⊙構外指定場所に処分（搬出調書等を監理者に提出する。）

③ 山留めの撤去

山留め　・撤去 (3.3.3)
⊙存置（設置地盤-300mm以浅については撤去）

4章　地　業　工　事

1. 床下防湿層等

防湿層・断熱層 (4.6.5(a))

種別	防湿層材料	断熱層材料	適用箇所
・Ａ種	ポリエチレンフィルム厚0.15mm	—	
・Ｂ種	ポリエチレンフィルム厚0.15mm	ポリスチレンフォーム厚　30mm	
・Ｃ種	—	木繊セメント板　厚　mm	

注）木繊セメント板は寒冷地、凍結の恐れのある箇所では使用しないこと。

＊ここに記載以外は建築工事特記仕様書(10)＜構造関係(1)＞参照

5章　鉄　筋　工　事

建築工事特記仕様書(10)＜構造関係(1)＞参照

6章　コンクリート工事

① コンクリートの仕上り

コンクリートの打放し仕上げの程度 (6.2.5(b)(1))(表6.2.4)

せき板の種別	仕上がりの程度		適用箇所
⊙合板	⊙Ａ種	化粧打放し仕上げ	・
	※Ｂ種	打放し仕上げ	※仕上げ塗材仕上げ面
	⊙Ｃ種	打放しのまま	・
⊙特殊樹脂	⊙リブ仕上げ		・☒示

② 型　枠

材料 (6.8.3)

せき板の種別		規　格	厚さmm	適用箇所
⊙木製	⊙合板	⊙JAS規格（表面加工品）	※12　・	
		⊙JAS規格　B-C	※12　・	
	⊙合板以外	⊙杉板		
⊙特殊樹脂	⊙壁	⊙リブ型枠		
・金属製	・床	※鉄骨工事(7.2.7)による（構造特記7.2）		
	・壁	・		
・断熱材兼用		※ｹﾗｲｯｸ粉混入木繊ｾﾒﾝﾄ板	・30・40・50	

注）ＪＡＳ規格とは「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」を表す。
せき板面気泡緩衝材張り（ＭＣＲ工法用シート） (6.8.3(e))
・使用する　※難燃性ポリエチレン気泡シート
※コンクリート増打厚　10m／m
・使用しない

スリーブの材種 (6.8.3(1))(表6.9.1)

材　種	寸　法	箇所数	適用箇所
⊙鋼管	※☒示　・	※☒示　・	
・硬質塩化ビニル管	※☒示　・	※☒示　・	
・溶融亜鉛めっき鋼板	※☒示　・	※☒示　・	
⊙つば付き鋼管	※☒示　・	※☒示　・	
⊙紙チューブ	※☒示　・	※☒示　・	

注）鉄骨部分の貫通孔は構造☒による。

③ 耐震スリット

スリットの種別（設置位置、形状は構造☒による。）

方向		耐火性能	防水性能
⊙垂直方向	※完全(完貫通型) スリット ・	⊙耐火型 ・非耐火型	⊙有り ・無し
⊙水平方向	※完全(完貫通型) スリット ・	⊙耐火型 ・非耐火型	⊙有り ・無し

目地の種別

方向	内壁	外壁
・目地材	・シーリング材（見え掛かりのみ）	・シーリング材（内外とも）
・目地寸法（mm）	※20×10　・	※20×10　・

※耐火壁の箇所は耐火目地材を充填すること。

④ 土間コンクリート

壁際伸縮調整目地　※設ける　（・材料 ラスタイト　厚さ 20 mm）
・設けない
施工箇所：屋外スロープ

＊ここに記載以外は建築工事特記仕様書(10)＜構造関係(1)＞参照

7章　鉄　骨　工　事

① 耐火被覆 耐火構造

耐火被覆材料及び耐火性能 (7.9.2)

構造区分	耐火性能	適用箇所	種　類	[認定番号]	厚さmm
屋根	30分	ホール	☒示	[ ] [ ]	
床	1時間	階床～　階床		[ ] [ ]	
	2時間	階床～　階床		[ ] [ ]	
梁	1時間	階床梁～　階床梁		[ ] [ ]	
	2時間	1階床梁～　2階床梁	☒示	[ ] [ ]	
	3時間	階床梁～　階床梁		[ ] [ ]	
斜材 水平材	1時間	階床～　階床		[ ] [ ]	
	2時間	階床～　階床		[ ] [ ]	
斜材 鉛直材	1時間	階　～　階		[ ] [ ]	
	2時間	階　～　階		[ ] [ ]	
	3時間	階　～　階		[ ] [ ]	
柱	1時間	階　～　階		[ ] [ ]	
	2時間	階　～　階		[ ] [ ]	
	3時間	階　～　階		[ ] [ ]	
外壁 延焼恐れ	1時間	階～　階		[ ] [ ]	
外壁 上記以外	30分	階～　階		[ ] [ ]	
非耐力壁	合成耐火壁 1時間			[ ] [ ]	
間仕切壁	1時間			[ ] [ ]	

注）外壁欄の「延焼恐れ」とは、「延焼の恐れのある部分」を表し、又「上記以外」とは「上記以外の部分」を表す。

＊ここに記載以外は建築工事特記仕様書(11)＜構造関係(2)＞参照

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢					設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建築工事特記仕様書（２）	縮尺 1／A1:- A3:-	日付 2019・02・28
		No

8章　コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1. 建築用コンクリートブロック

補強コンクリートブロック造　(8.2)

材料　ブロック　種類　※空洞ブロック１６（Ｃ種普通ブロック）・☒示　(8.2.2(a))
正味厚さ　・
モデュール呼び寸法　・
圧縮強さ　・
表8.2.2以外のコンクリート設計基準強度（Ｆｃ）　※21 N/㎟　・　(8.2.4(b))(表8.2.2)
各部の配筋　※別☒[各部配筋]8節[補強コンクリートブロック造の配筋]による(8.2.5(b))
・☒示

コンクリートブロック帳壁及び塀　(8.3)

材料　ブロック　種類　※表8.3.1による　・☒示　(8.3.2(a))(表8.3.1)
正味厚さ　・100 mm　・120 mm　・150 mm　・190 mm
モデュール呼び寸法　・
圧縮強さ　・

各部の配筋　※別☒[各部配筋]9節[コンクリートブロック帳壁及び塀の配筋]による
・☒示　(8.3.3(b))

②. ALCパネル

材料　(8.4.2(a))(補8.4.2)

区　分	表面形状	単位荷重 N/㎡	厚さ mm	耐火性能等
⊙外壁パネル	平パネル	3,500	100	—
・外壁大型パネル				—
・間仕切壁パネル				—
・屋根パネル				—
・床パネル				

外壁パネル構法　(8.4.3)(表8.4.2)

壁種別	建物高さ18m以下	建物高さ18m超31m以下
縦壁	※A種　・	※A種　・
横壁	※B種　・	※B種　・
風圧力	※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。	

間仕切壁パネル構法　(8.4.4)(表8.4.3)

壁種別	階層が連続する場合	スラブ間に用いる場合
縦壁	※C種　・E種　・	・C種　・E種　・
横壁	※D種　・	※D種　・

屋根パネル構法　※敷設筋構法　・　(8.4.5)(補8.4.3)
床パネル構法　※敷設筋構法　・　(8.4.5)(補8.4.3)
外壁パネルのパネル幅、最小限度　※300mm　・　(8.4.3(d))
外壁パネルの出隅、入隅部の伸縮調整目地幅　※20mm　・　(8.4.3(g))
パネルコーナー部の処理　外壁パネル　※☒示　・
間仕切壁パネル　※☒示　・
間仕切壁パネルの伸縮調整目地　・設ける（図示）　・設けない
パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.12 による
耐火目地材　※ロックウール　・セラミックファイバー　(8.4.3(h))(補8.4.4(b))
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　・　(補8.4.4(c))
溶接技能者　※JIS Z 3801の基本級以上
ALCパネルにタイル張りを施す場合　※特記仕様書11.2による

3. 押出成形セメント板（ECPパネル）

材料　(8.5.2(a))(8.5.3(a))(8.5.3(b))(8.5.4(a))(表8.5.1)(表8.5.2)(補8.5.2)(補8.5.4)

施工箇所	種　類	表面形状	単位荷重 N/㎡	厚さ mm	取付工法
・外壁					・A種
					・B種
	風圧力：※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。				・D種
・間仕切壁					・B種
					・C種

外壁パネル相互の目地幅　※長辺8mm 短辺15mm以上　・　(8.5.3(f))
外壁パネルの出隅、入隅部の伸縮調整目地幅　※15mm　・　(8.5.3(g))
パネルコーナー部の処理　外壁パネル　※☒示　・
間仕切壁パネル　※☒示　・
パネル開口の限度を超える開口部の補強　※補8.5.5による　・☒示 (8.5.5(d))(補8.5.5)
開口部の箇所数　・☒示　・
開口部の補強　・☒示　・
パネルの取扱い　※8.5.3及び補8.5.3による　(8.5.3)(補8.5.3)
施工☒　※補8.5.7による　(補8.5.7)
耐火性能　※☒示　(補8.5.6(a))
中空充填材（外壁は除く）　※ロックウール　(補8.5.6(b))
耐火目地材　※ロックウール　・セラミックファイバー　(補8.5.6(c))
耐火構造以外の目地材　※製造所の仕様　・　(8.5.3(j))
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　・　(補8.5.6(d))
パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.11 による

4. 繊維補強セメントコンクリート複合材

材料　(補8.6.2)(補8.6.4)

材　料	・CFRC	・GRC	・
表面仕上げ材			
表面形状			
添加剤			
添加量（%）			
複合材圧縮強度（N/㎟）			
複合材曲げ強度（N/㎟）			
かさ比重			
製法	・プレミックス法 ・	・ダイレクトスプレー法 ・プレミックス法	・ ・
適用箇所			

タイル・石型枠先付工法における耐久性能　(補8.6.3)
低アルカリ性セメント　・適用する　・適用しない
耐火性能　・1 時間（適用箇所：　）　(補8.6.5)
・2 時間（適用箇所：　）
耐火目地材　※ロックウール　・セラミックファイバー
耐火構造以外の目地材　※製造所の仕様　・
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　・
パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.11 による

5. 穴あきPC板

材料　(補8.7.2(a))

種類	板厚	呼幅	板長	配筋種別	表面形状	表面仕上	区分
・壁板		x	x	・３０種板 ・４５種板			・常備品 ・注文品
・		x	x	・３０種板 ・４５種板			・常備品 ・注文品
・		x	x	・３０種板 ・４５種板			・常備品 ・注文品

工法　(補8.7.6)

部　位		工　法	層間変位量
外壁	・縦張り	※層間変位対応工法　・固定取付け工法	
	・横張り	※層間変位対応工法　・固定取付け工法	
間仕切	・縦張り	・層間変位対応工法　・固定取付け工法 上部ロックウール充填高さ ※50 mm　・　mm	
	・横張り	・層間変位対応工法　・固定取付け工法	
床	・普通床	※現場溶接工法　・置きスラブ工法	
	・構造床	・水平力負担床工法　・合成床板工法	

パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.11 による　(補8.7.3(d))
開口部の箇所数　・☒示　・　(補8.7.7(a))
開口部の補強方法　・☒示　・　(補8.7.7(b))
耐火性能　・☒示　・　(補8.7.8(a))
耐火目地材　※ロックウール　・　(補8.7.8(b))
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　・成形板張付け　(補8.7.8(c))
コーナー部の材種　・RC　・SUS304　・

9章　防水工事

①. アスファルト防水

種別　(9.2.3)(表9.2.3)～(表9.2.8)

工　法	種　別	施工箇所
※熱工法	A1-1	屋根、屋上広場
	A-1	エントランステラス、管理用スロープ
	A1-4	風除室１、２
・トーチ工法		

改質アスファルトルーフィングシート　※非露出複層防水用Ｒ種　厚さ・　mm以上
・露出複層防水用Ｒ種　厚さ・　mm以上　(9.2.2(c)(5))
部分粘着層付改質アスファルト　※非露出複層防水用Ｒ種
ルーフィングシート　厚さ・　mm以上　(9.2.2(C)(6))
露出防水工法の端部押え金物　(9.2.2(f))(9.2.4(d)(3)(ⅱ))
材　種　※アルミニウム製　・
形状寸法　※L-30×15×2.0　・
保護防水工法の端部押え金物　(9.2.4(d)(3)(ⅰ))
⊙設ける　材　種　※アルミニウム製　・SUS製
形状寸法　※FB-20×2.5（アルミニウム製）　・L-30×12×2.0（SUS製）
・設けない
保護防水断熱工法用断熱材　(9.2.2(h))
・JIS A 9511 A種硬質ウレタンフォーム２種１号（厚さ・　mm）
⊙JIS A 9521 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂA（スキン層付き）(厚さ・25 mm)
・JIS A 9511 A種押出法ポリスチレンフォーム３種ｂ（スキンあり）(厚さ・　mm)
東西アスファルト事業協同組合ＲＢボード及び日本アスファルト防水工業協同組合ＢＫボード或いは同等品以上（厚さ・　mm）
露出防水断熱工法用断熱材　(9.2.2(i))
・JIS A 9521 硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号（厚さ・　mm）
・JIS A 9521 硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号（厚さ・　mm）
・JIS A 9511 A種硬質ウレタンフォーム保温材、保温板２種１号（厚さ・　mm）
・JIS A 9511 A種硬質ウレタンフォーム保温材、保温板２種２号（厚さ・　mm）
絶縁用シート　(9.2.2(i))
保護防水断熱工法　※フラットヤーンクロス（70 g/㎡程度）　・
保護防水工法　※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm　・
保護コンクリート（平場）の厚さ　(9.2.5(d)(2))
※80 mm　⊙☒示
保護コンクリート以外の平場保護材料
・☒示　・
立上り部の保護材料　(9.2.2(n))(9.2.2(o))(9.2.3(1)～(4))(9.2.5(e))
・れんが（※JIS R 1250　・　）　・コンクリート　・
・モルタル　⊙乾式保護材（押出成形セメント板t=15　）
D種・Ｄｉ種の脱気装置　(9.2.3(5))(9.2.3(6))
平　場　材種　※SUS製　・錆鉄製
数量　※防水層平場70㎡程度毎に１箇所　・
立上り部　材種　※SUS製　・錆鉄製　・塩ビ製
数量　※防水層立上り部長さ10m程度毎に１箇所　・
（但し、平場部脱気型の数量により設けないことができる。）
D種・Ｄｉ種の仕上塗料　種類・　使用量・　(9.2.3(5)(6))
屋内防水密着工法の保護層　・設ける　・設けない　(9.2.3(7))
防水層の下地　(9.2.4(a))
平　場　※コンクリート直均し　・モルタル塗り（適用箇所　）
立上り部　※コンクリート打放し　・モルタル塗り（適用箇所　）
屋上排水溝　形状、寸法　※☒示　(9.2.5(g))
ひび割れ防止金網　※溶接金網2.6φ50×50　・平ラスF500（JIS A 5505）
伸縮調整目地　※特記仕様書9.11シーリングによる
水勾配　※☒示　・1/200以上

2. 改質アスファルトシート防水

種別　(9.3.2(a))(表9.3.1)

工法	種別	施工箇所
屋根露出防水密着工法	・AS-T1	
	・AS-T2	
屋根露出防水絶縁工法	・AS-T3	
	・AS-T4	
	・AS-J1	
屋根露出防水絶縁断熱工法	・AS1-T1	
	・AS1-J1	

改質アスファルトシートの種類・厚さ　※表9.3.1～表9.3.3　(9.3.2(a)(1))
・　mm以上
粘着層付改質アスファルトシート及び　(9.3.2(a)(2))
部分粘着層改質アスファルトシートの種類・厚さ　※表9.3.1～表9.3.3
・　mm以上
絶縁断熱工法に用いる断熱・材材質　※9.3.2(C)(2)・　(9.3.2(c)(2))
厚さ・　mm
仕上塗料　種類・　使用量・　(9.3.3(C)(2)(3))
絶縁工法・絶縁断熱工法の脱気装置　(9.3.3(2)(3))
種類・　設置数量・
絶縁断熱工法の防湿層　・設ける　・設けない　(9.3.3(3))

3. 合成高分子系ルーフィングシート防水

種別　(9.4.3)

	工法	種別	施工箇所
	接着工法	・S-F1	
		・S-F2	
	機械的固定工法	・S-M1	
		・S-M2	
		・S-M3	
断熱工法	接着工法	・S1-F1	
		・S1-F2	
	機械的固定工法	・S1-M1	
		・S1-M2	
屋内	屋内保護密着工法	・S-C1	

ＡＬＣパネル下地の場合は接着工法とする
ルーフィングシートの種類・厚さ　※表9.4.1,表9.4.2,表9.4.3　(9.4.2(a)(1))
・　mm以上
絶縁シート　※発泡ポリエチレンシート　(9.4.2(b))
固定金具の材質及びせん断形状　※9.4.2(C)(2)・　(9.4.2(c)(2))
断熱工法に用いる断熱材・材質　※9.4.2(C)(3)・　(9.4.2(c)(3))
厚さ・　mm
立上り面のシート厚さ　※15mm・　mm　(9.4.3)(表9.4.1)(表9.4.2)
仕上塗料　種類・　使用量・　(9.4.3)(表9.4.1)(表9.4.2)
モルタル塗り　厚さ・　mm　(9.4.3)(表9.4.3)
PCコンクリート部材下地の目地処理　※☒示　・　(9.4.4(d))
PCコンクリート部材の入隅部の増張り(S-F1,S1-F1)　※☒示　・　(9.4.4(e)(2))
機械式固定工法の設計風圧力　(9.4.4(f)(2)(ⅰ))
※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による　・
脱気装置　※設ける　（材種・　数量・　個／㎡）
PCコンクリート下地及びALCパネル下地種別S-C1の
場合の目地処理　※☒示　・　(9.4.4(d))
PCコンクリート部材ALCパネル下地及びPCコンクリート部材　(9.4.4(e)(2))
の増張り（S-C1）　※☒示　・　(9.4.4(e)(2))
床塗り工法　※15.2.5[工法](b)(2)及び(3)　・　(9.4.4(j)(i)(ⅰ))
タイル張り下地等の下地モルタル塗り　※15.2.5(c)(1)・　(9.4.4(j)(i)(ⅱ))
保護コンクリートの厚さ・　mm　(9.4.4(j)(2))
立上り部の保護モルタル塗厚　※ 7mm以下　・　mm　(9.4.4(j)(3))

④. 塗膜防水

種別　(9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
⊙Ｘ－１	管理用スロープ	・Ｙ－１	
⊙Ｘ－２	屋上広場、ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ隅部、庇他	・Ｙ－２	
⊙	水槽（壁、床）	・	

└特殊塗膜防水：大関科学パラテックス（ポリマーセメント系塗膜防水Ｂ-２工法）

仕上塗料　種類・　使用量・　(9.5.3(a)(1))
Ｘ－１種の脱気装置　(9.5.3(a)(2))
平場　材種　※SUS製　・錆鉄製
数量　※防水層平場50㎡程度毎に１箇所

Ｙ－２種の保護層材料　(9.5.3(b)(2))
絶縁用シート　・ポリエチレンフィルム　・フラットヤーンクロス
保護材　・保護コンクリート（厚　mm）・保護モルタル（厚　mm）

⑤. ケイ酸質塗布防水

種別及び適用部位　(9.6.1(b))

種別	適用部位
※Ｃ－ＵＩ	ＥＶピット、雨水貯留槽
・Ｃ－ＵＰ	

特殊な下地処理　※☒示　・　(9.6.4(b)(4))

6. 複合防水

種別　(補9.7)

種　別	仕　様	施工箇所
・［塗膜］＋［FRP］系		
・［改質アス］＋［FRP］系		
・［改質アス］＋［塗膜］系		
・［改質アス］＋［塗膜］積層系		
・［シート］＋［塗膜］系		
・［シート］＋［FRP］系		

7. 金属シート防水

材料　(補9.8)

材料・厚さ　mm	仕上げ	下葺き材・厚さ　mm	下地材・厚さ　mm
※SUS304　※0.4	※2D　・2B	※軟質発泡ポリスチレン	※木毛セメント板・15・20・25
	・カラーS1系	※4　・4+10	・硬質木片セメント板・18・25
・SUS316　・	・カラーF系	・	・パーライトM+木毛セメント複合板
	・鋼めっき		・20・25・30・40・50
・	・	・	・

8. セメント質系防水

種別

種　別	仕　様	施工箇所
・ポリマーセメントペースト系（水和凝固型）		
・モルタル防水		

9. 外壁防水

種別　(補9.9)

種　別	仕上げ	工　法	施工箇所
・アクリルゴム系	・ふっ素樹脂系	・吹付け	
	・アクリルシリコン系	・ローラー	
・	・	・	

10. 地下外壁防水

種別

種　別	仕　様	施工箇所
・		
・		

⑪. 責任施工の保証

受注者、施工業者及び材料製造者は保証期間中に施工上の過失又は使用材料の不良などにより事故を生じた場合、無償にて補償復旧をなすものとする。

⑫. シーリング

材料　(9.7.2(b))(表9.7.1)

工法・部位・構成材			シーリングの種類 SR-1 HM	SR-1 LM	SR-2	SR-2	1-8-2	WS-2	WS-1 LM	PS-2	PU-2	AC-1
カーテンウォール	ガラス・マリオン形式	⊙ガラスとめ			※							
	金属パネル形式	⊙方立、無目ジョイント			※							
		⊙ガラスとめ			※							
		⊙パネル目地			※							
	PC板形式 ・石打込みPC（大理石以外）	・PC板間目地						※				
		・サッシ廻り目地						※				
	・タイル打込みPC	・ガラスとめ			※							
	・吹付け塗装PC											
各種外装パネル	・塗装金属板	・パネル目地						※				
	・アルミニウム板	・サッシ廻り目地						※				
	・GRC板	・板間目地 ・仕上あり						※			・	
		・仕上なし						※				
	・押出成形セメント板	・サッシ廻り ・仕上あり						※			・	
		目地 ・仕上なし						※				
	ALCパネル（スライド工法）	・ALCパネル ・仕上あり									※	
		目地 ・仕上なし						※				
	（ロッキング工法）	・サッシ廻り ・仕上あり									※	
		目地 ・仕上なし						※				
	石張り（乾式工法）（大理石以外）	・石目地						※				
		・石下躯体目地									※	
		・サッシ廻り目地						※				
ガラス	ガラス廻り	⊙ガラスとめ	※									
		⊙ガラス開目地	※									
	SSG構法（※ｻｯｼ及びｶﾞﾗｽﾒｰｶと協議する）	・ガラスとめ										
		・ガラス開目地										
	DPG構法（ＭＰＧ構法）	・ガラスとめ			※							
		・ガラス開目地			※							
建具金属	サッシ廻り	⊙水切り、皿板目地						※				
	サッシ工場シール	⊙シーリング材受								※		
笠木	金属製笠木	⊙笠木開目地			※							
	石材笠木（大理石以外）	・笠木開目地						※				
	PC製笠木	・笠木開目地						※				
コンクリート壁	RC壁	⊙打ち継ぎ ・仕上あり								・	※	
		伸縮目地 ・仕上なし						※		・		
		⊙サッシ廻り ・仕上あり								・	※	
		目地 ・仕上なし						※		・		
		⊙PCコンクリート廻り目地						※				
		・ALCパネル ・仕上あり									※	
		廻り目地 ・仕上なし						※				
		⊙押出成形セメント板廻り目地						※				
	石張り（湿式工法） 大理石以外	・石目地						※				
		・石下躯体目地									※	
		・サッシ廻り目地						※				
	大理石	・石目地								※		
		・サッシ廻り目地								※		
	タイル張り	⊙タイル目地					・			※		
		⊙タイル下躯体目地									※	
		⊙サッシ廻り目地					※			・		
内装	石張り（乾式工法）（大理石）	・石目地								※		
		・サッシ廻り目地								※		
	遮音壁取合い部	⊙遮音壁取合い部廻り目地										※
水回り	浴室・浴槽	・目地	※									
	キッチン・キャビネット	⊙目地	※									
	洗面・化粧台	⊙目地	※									
各種外装汚染防止	ﾀｲﾙ・石・ｶﾞﾗｽ・金属ﾊﾟﾈﾙ	⊙目地					※					
		・										
		・										
		・										
		・										

シーリング材の種類・耐久性区分

材料記号	シーリング材の種類	耐久性区分
SR-1HM	1成分形シリコーン系（高モジュラス形）	9030G
SR-1LM	1成分形シリコーン系（低モジュラス形）	10030
SR-2	2成分形シリコーン系	10030
IB-2	2成分形ポリイソブチレン系（目地周辺汚染防止用）	10030
MS-2	2成分形変成シリコーン系	9030
MS-1LM	1成分形変成シリコーン系(50%モジュラス、0.2 N/mm以下)	8020
PS-2	2成分形ポリサルファイド系	9030
PU-2	2成分形ポリウレタン系	8020
AC-1	1成分形アクリル系	7020

目地　寸法　※☒示　・　(9.7.3(a))
適用箇所　※☒示　・

※「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に該当する場合のシーリング防水の保証条件は、日本シーリング工事業協同組合連合会・日本シーリング材工業会発刊の「品確法に対するシーリング防水の保証条件と補償範囲について」による

⑬. 性能試験

(補1.8.1(c)(1))(9.7.5(b))

試験の方法		試験箇所
⊙漏水試験		屋根
・塗膜厚試験		
・金属シート防水漏水試験		
・金属シート防水真空試験		
・シーリングの接着性試験	※簡易接着性試験	
	・引張接着性試験	

防水の種別	竣工後保証期間	防水の種別	竣工後保証期間
⊙アスファルト防水（保護防水）	※10年間　・	・アスファルト防水（露出防水）	※10年間　・
・合成高分子系ルーフィングシート防水	※10年間　・	・複合防水	※10年間　・
		・セメント質系防水	※5年間　・
・金属シート防水	※10年間　・	・外壁防水	※10年間　・
⊙塗膜防水	※10年間　・	・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水	※10年間　・

※屋上緑化部分には耐根層を設け、屋上緑化部分防水の保証期間は耐根層を設けた場合を原則とする。

改訂：2016.09.01

１０章　石　工　事

1. 一般事項

石材の刻付け　※☒示　・10.1.3(a)による　(10.1.3(a))
粗面仕上げの合端の見隠れ、のみ込み部分及び周囲見掛り部分の納まり　(10.1.3(b)(1))
※☒示　・
便所、浴室等の水がかりの部分に使用する大理石の穴処理
※透明樹脂にて穴埋め処理　・

2. 材　料

天然石の品質　(10.2.1(a)(1))
床　用　※２等品　・
床用以外　※１等品　・
(10.2.1(a))(表10.2.1)(補表10.2.1)
天然石の種類･表面仕上げ　(10.2.3)(10.4.2)(10.5.2)(10.6.2)(10.6.3)(10.7.2)(10.7.3)(10.7.4)

種類・産地・名称	厚さmm	仕上げの種類	適用箇所

石材の形状及び寸法　※☒示　・10.2.1(a)(3)による　(10.2.1(a)(3))
テラゾブロック及びテラゾタイルの種石の種類・表面仕上げ　(10.2.1(b))(表10.2.2)

種石の種類	種石の大きさmm	板厚mm	仕上げの種類	適用箇所
※大理石	※1.5～12		※本磨き　・	
・				

テラゾブロックの形状、寸法　(10.2.1(b)(3)(ⅰ))
※☒示　・
テラゾタイルの寸法
※☒示　・　(10.2.1(b)(3)(ⅱ))
取付け金物　(10.2.)
外壁湿式工法及び内壁空積工法用金物　(10.2.2(a))(表10.2.3)
受け金物の形状及び寸法　※10.2.2(a)(2)による・☒示
乾式工法用金物　方式　・スライド方式　・ロッキング方式　(10.2.2(b))(表10.2.4)
特殊部位用金物
引金物　だぼ　かすがい及び受け金物　(10.2.2(c)(1))
※10.2.2(a)による　・
吊り金物、化粧吊りボルト　※10.2.2(c)(3)による　・　(10.2.2(c)(3))
ファスナー　※10.2.2(c)(2)による　・　(10.2.2(c)(2))
アンカー　※10.2.2(d)による　・　(10.2.2(d))
あと施工アンカー　※10.2.2(e)による　(10.2.2(e))
その他の金物の材質、形状及び寸法　※10.2.2(f)による　・　(10.2.2(f))
その他の材料　(10.2.3)
取付け用モルタル　※10.2.3(a)(4)による　・　(10.2.3(a)(4))
既調合の目地用モルタル　※10.2.3(a)(5)による　・　(10.2.3(a)(5))
石裏面処理材　※10.2.3(b)による　・　(10.2.3(b))
裏打ち処理材　※10.2.3(c)による　・　(10.2.3(c))
金物の固定に使用する充填材料　※10.2.3(f)による　・　(10.2.3(f))

3. 壁の石張り工法

外壁石張り
工法及び下地ごしらえ
・外壁湿式工法（石厚70mm以下の石材，１階腰壁または根石部分等）　(10.3.1)
下地ごしらえ　(10.3.3(b))
※流し筋工法　・あと施工アンカー工法　・あと施工アンカー横筋流し工法　(10.2.3(e))
ドレインパイプの材質
※ステンレスSUS304　・樹脂ネット製　・
・乾式工法（高さ31m以下の建物の外壁）　(10.5.1)(10.5.3)
・PC板打込み工法　(補10.8)
石裏面処理　(10.2.3(b)(10.3.2(b)(3))(10.5.2(b)(2))
※☒行う（小口とも）（適用箇所　）・行わない
石裏打ち処理　(10.2.3(c))(10.3.2(b)(3))(10.5.2(b)(2))
・行う　（適用箇所　）・行わない
白華防止用混和材　・使用する　・使用しない
乾式工法の耐衝撃　・破損防止　・１段目の石まで砕石、モルタル裏込め
乾式工法の巾木上端部分　※防水処理　※ドレインパイプ
内壁石張り
工法及び下地ごしらえ
・内壁空積工法（高さ4m以下の内壁）　(10.4.1)(10.4.3)
石材厚さ　※有効20mm以上　・　(10.4.2(a))
下地ごしらえ　(10.4.3(b)(1))
※あと施工アンカー・横筋流し工法　・あと施工アンカー工法
※床面から300mm 全てとろ工法
・乾式工法（石厚70mm以下の石材，高さ31m以下の建物の内壁）　(10.5.1)(10.5.3)
石裏打ち処理　(10.3.2(b)(4))(10.4.2(b)(4))(10.5.2.(b)(2))
・行う　（適用箇所　）　・行わない
目地　(9.7.3(a)(3))(10.3.3(e))(10.4.3(e))(10.5.3(f))(表11.1.1)

工法	目地種類	目地位置	目地材料	目地幅mm
外壁湿式工法	一般目地	・☒示	※シーリング・	・5　・
	伸縮調整目地	・☒示　・10.3.3(e)(2)	※シーリング・	・
内壁空積工法	一般目地	・☒示	・	・5　・
	伸縮調整目地	・☒示　・10.4.3(e)(2)	※シーリング・	・8　・
乾式工法	目地	・☒示　・	※シーリング・	・8　・
			・	

注）1．シーリングは特記仕様書９章１１による。
2．内壁空積工法のねむり目地はテフロンテープを横目地合端の上端に２箇所貼り付けること。

乾式工法
石のだぼ穴位置　※10.5.2(b)(1)による・☒示　(10.5.2(b)(1))
だぼ穴径　※8　mm　・　mm　(補10.5.2(c)(2))
だぼピン径　※6　mm　・　mm　(補10.5.2(c)(2))
構造体のコンクリート増し打ち　※20mm　・　mm　(補10.5.2(a)(1))
耐風圧性能　(10.5.3(a))(補10.5.1(c))
性能値　※建築基準法施行令第82条の5及び建設省告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力：※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。
耐震性能　※設計震度(K)　水平方向Kh=1.0　鉛直方向Kv=0.5　(補10.5.1(c))

4. 床及び階段の石張り

床及び階段石張りの裏面処理　・行う（適用箇所　）(10.6.2(a)(2))(10.6.3(a)(3))
・行わない
目地　(10.6.2(e))(10.6.3(d))

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅　mm	
一般目地	・☒示	・モルタル	屋内	・3～6　・
		・シーリング	屋外	・4　・
伸縮調整目地	※☒示	・モルタル	・	
	・10.6.2(e)(2)	・シーリング		

屋内床本磨きのワックス　・行う（適用箇所　）・行わない　(10.1.5(c))

5. 特殊部位の石張り

特殊部位の石張り　(10.7.1)(10.7.2)(10.7.3)(10.7.4)

部　位	石材の種類	表面仕上げ	形状・厚さmm	取付け工法
・アーチ			・☒示	※10.7.2(d)
・上げ裏			・☒示	※10.7.2(d)
・笠　木			・☒示	※10.7.3(d)
・甲　板			・☒示	※10.7.3(d)
・隔　板			・☒示	※10.7.4(b)
			・	

石裏面処理　(10.7.2(a)(3))(10.7.3(a)(3))
・行う（適用箇所：　）・行わない
石裏打ち処理　(10.7.2(a)(3))
・行う（適用箇所：　）・行わない
一般目地及び伸縮調整目地の位置及び寸法　(10.7.2(f)(1)(ⅰ))(10.7.2(f)(2)(Ⅱ))
・☒示　・
目地　(10.7.2(e))(10.7.3(e))

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅 mm	適用箇所
一般目地	・☒示	・	・☒示　・6　・8	・
	・			
伸縮調整目地	・☒示	※シーリング	・☒示　・6　・8	・
	・			

笠木、甲板等の乾式工法の場合の取付けしろ　(10.7.3(b)(2))
※10.5.3(b)による　・
笠木、甲板等の乾式工法の場合の石裏補強用モルタル　(10.7.3(d)(2))
・行う　・行わない
陽板の厚さ　※40mm　・　(10.7.4(a)(1))
※その他乾式工法に関する仕様は特記仕様書10.3壁の石張り工法に準ずる。

6. タイル状花崗岩類及び大理石

石及び仕上げの種類

石の種類	形状、寸法	仕上げの種類	工　法	適用箇所
・	・	・	・	・

7. 性能試験

(補1.8.1(c)(2))(補1.8.1(c)(11))

試験の方法	試験箇所	試験の方法	試験箇所
・吸水率試験		・あと施工アンカー引抜き試験	
・圧縮強さ試験			

１１章　タ　イ　ル　工　事

① 材料

タイルの種類　(11.2.2)(11.3.2)(11.4.2)

形状 寸法	きじの質	成形法	色調	釉薬	役物	耐凍害性	耐滑り性	面状	備考
⊙風除室 エントランスホール他	⊙磁器・陶器 ・せっ器	⊙湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ⊙施釉	・有 ⊙無	・有 ⊙無	・有 ⊙無	・	ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾐﾆﾗﾙD
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・	

耐滑り性有の場合の基準　・C.S.R≧　・C.S.R･B≧
※有機系接着材による外壁陶磁器タイル張り用タイルは専用タイルとする。
※タイルは社団法人全国タイル業協会加入のメーカーの製品とする。
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地　(11.1.3)

適用箇所	壁目地	床目地
目地の材料	※特記仕様書9章11シーリングによる	・
目地の位置	・表11.1.1　※☒示	※☒示　・
目地の寸法	※11.1.3(c)　・	・幅25mm、深さ25mm　・☒示

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地に接するタイルの側面の形状及び仕上げ
※☒示　・
※張り付モルタル（既製調合モルタル）
※目地材（既製調合目地材）
まぐさ等のはく落防止用引き金物　(11.2.2(b))(11.2.4(a))
※使用する　タイルの種類　※小口タイル以上二丁掛け以下　・
適用箇所　・まぐさ　・ひさし先端下部　・
タイルの試験張り　・行う（　程度）⊙行わない　(11.2.2(c))(11.3.2)(11.4.2)
タイルの見本焼き　・行う（　回）㎡　⊙行わない　(11.2.2(c))(11.3.2)(11.4.2)

② 2. セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

壁タイル張り工法　(11.2.7(c)(1))(表11.2.3)

タイルの種類	タイルの寸法	工　法	
内装タイル	・	・改良積上げ張り	・壁タイル接着剤張り
	・	・	
外装タイル	・小口以上二丁掛け以下	※密着張り	・改良積上げ張り
		・改良圧着張り	
	・	・	
外装タイル（ユニットタイル）	・25mm角を超え小口タイル未満	・マスク張り	・
		・ユニットタイルバイブレーション工法（シート張り）	
	・25mm角以下	※モザイクタイル張り	・
外装タイル	・	・その他の工法（建築工事監理指針11.3.4）	・

ALCパネルにタイル張りを行う場合は、下記に準拠すること。
※「ALCパネル工場タイル張り工法指針（案）・同解説（改定版）」（日本建築仕上学会）
・
壁タイル張りはく落防止工法　(11.2.7(a)(1))
工　法　※目荒し工法(超高圧水洗150pa以上)・MCR工法　・立体繊維材料張り工法
適用箇所　・
床タイル張り工法　(補11.3.3(b))

工　法	適用箇所	工法選択の目安（備考）
・敷きモルタル張り		大型タイル、張付け面積小
・下地モルタル張り		一般タイル、ユニットタイル
・圧着張り		重量物通過

③ 接着剤による陶磁器質タイル張り

壁タイル張り工法　(11.3.7(b)(1))(表11.3.2)

タイルの種類	タイルの大きさ	工法	裏足高さと裏面反り	備考
⊙内装タイル	・ ・	内装壁タイル接着剤張り	・	ホワイエ
・外装タイル	※小口以上二丁掛け以下 ・	外装壁タイル接着剤張り	・裏あし高さ0.9mm以下かつ裏面反り±0.7mm以下	
			・上記以外	
・内装タイル以外のユニットタイル	※小口未満	外装壁タイル接着剤張り	・裏あし高さ0.9mm以下かつ裏面反り±0.7mm以下	
			・上記以外	

内装壁タイル接着剤張りに使用する有機質接着剤の　(11.3.3(a))
ホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆　・
外壁壁タイル接着剤張りの目地のシーリング材　(11.3.4(b))
打ち継ぎ目地及びひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系　・
伸縮調整目地・その他の目地　※変成シリコーン系・
壁タイル張りはく落防止工法　(11.3.7(a)(1))
工法　・目荒し工法(超高圧水洗)　・MCR工法

4. 陶磁器質タイル型枠先付け

種別　(11.4.2(2))(11.4.3(b))(表11.4.1)

適用タイルの種類	種別	タイル型枠先付け面のせき板
小口タイル、二丁掛けタイル	・タイルシート法	・合板(6,9.3(b)(2))・金属製タイル先付け用パネル
	・目地棟法	・合板(6,9.3(b)(2))・
大形タイル	・桟木法	・合板(6,9.3(b)(2))・

5. 陶磁器質タイル先付けPC部材

種類　・タイルシート法　・目地棟法　・タイル単体法
仕様等の適用基準　※国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針」最新版
タイル工事陶磁器質タイル型枠先付けPC部材に準拠する。

6. 特殊タイル

タイルの種類

形状 寸法	きじの質	成形法	色調	釉薬	役物	用途 屋内外	用途 部位	耐凍害性	滑り抵抗性	面状	備考
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	

滑り抵抗性有の場合の基準　・C.S.R≧　・C.S.R･B≧
特殊タイル張り工法　・

7. 性能検査

(11.1.5(c))(表11.1.2)(補1.8.1(c)(3))

試験の方法	適用箇所
※接着力試験	

8. その他（外壁タイル）

・社団法人全国タイル業協会編「陶磁器質タイル張り工事標準仕様書」
・社団法人全国タイル業協会編「設計上の配慮事項」「施工管理上の注意事項」

１２章　木　工　事

① 表面仕上げ

・Ａ種　⊙Ｂ種　・Ｃ種　・手加工仕上げかんな削り　(12.1.4)(表12.1.1)
適用箇所は☒示

② 木材

含水率　※Ａ種　・Ｂ種　(12.2.1(a)(2))(表12.2.1)
「製材の日本農林規格」による製材　(12.2.1(b)(1))

区分	樹種	寸法	等級	形状	含水率
下地用針葉樹製材	・	・	・１級 ※２級	・板類耳付・押角	・　%以下
造作用針葉樹製材	・	・	※見掛かり上小節それ以外小節 ・	・板類 ・角類	・　%以下
広葉樹製材	・	・	※１等 ・	・耳付材有 ・耳付材無	・10　%以下

「製材の日本農林規格」以外の製材　(12.2.1(b)(2))(表12.2.2)

区分	樹種	寸法	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率
下地	・	・	・	・	・	・　%以下
造作	・	・	※Ａ種 ・Ｂ種	・	・	・　%以下
仕上げ	・	・	・	・	・	・　%以下

代用樹種禁止　樹種・　禁止箇所・　(11.2.1(b)(2))
造作用集成材のホルムアルデヒド放散量　※12.2.1（c）・　(12.2.1(c))
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材　(12.2.1(c)(ⅰ))

区分	樹種	寸法	見付け材面の等級	化粧薄板の厚さ
造作用集成材	⊙タモ	⊙☒示 ・	※１等 ・	―
化粧ばり造作用集成材	薄板・芯材・	・	※１等 ・	・
化粧ばり構造用集成柱	薄板・芯材・	・	―	・

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材　(12.2.1(c)(Ⅱ))

区分	樹種	寸法	見付け材面の品質	化粧薄板の厚さ	含水率
造作用集成材	・	・	・	―	※15％以下・
化粧ばり造作用集成材	薄板・芯材・	・	・	―	※15％以下・
化粧ばり構造用集成柱	薄板・芯材・	・	・	・	※15％以下・

単板積層材のホルムアルデヒド放散量　※12.2.1(d)・　(12.2.1(d))
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材　(12.2.1(d)(ⅰ))

厚さ	表面の品質	防虫処理
・	・表面の化粧加工有（・天然木　・塗装） ・表面の化粧加工無（・　）	・

「単板積層材の日本農林規格」以下の造作用単板積層材　(12.2.1(d)(Ⅱ))

厚さ	表面の品質	含水率	防虫処理
・	・表面の化粧加工有（・天然木　・塗装） ・表面の化粧加工無（・　）	※14％以下・	・

床張り用合板等のホルムアルデヒド放散量　※12.2.1(e)・　(12.2.1(e))
普通合板　(12.2.1(e)(ⅰ))

厚さ	表表示の樹種	接着の程度	板面の品質	備考
※5.5mm ⊙12mm	・ ・	※Ⅰ類 ・	※２等以上(広葉樹) ※C-D以上（針葉樹）	

防虫処理　・
構造用合板　(12.2.1(e)(Ⅱ))

厚さ	表表示の樹種	接着の程度	等級	板面の品質	備考
※12mm ・	・ ・	※Ⅰ類 ・特類(湿潤)	※２級以上 ・	※C-D以上 ・	

構造用合板の防虫処理　・　(12.2.1(e)(Ⅱ))
構造用合板の強度等級　・　(12.2.1(e)(Ⅱ))
パーティクルボード　(12.2.1(e)(Ⅲ))

厚さ	表表示の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
※15mm ⊙20mm	・	・	・	・

構造用パネル　等級・　厚さ・　mm　(12.2.1(e)(ⅳ))

3. 接合具等

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆　・　(12.2.2(c))

4. 木れんが

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆　・　(12.2.3(b))

5. 防腐・防蟻処理

下地木材への防腐・防蟻処理　(12.3.1)
・防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理（適用部位・　性能区分・　）
・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理（処理方法※12.3.1(3)(Ⅱ)　・　）
・ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理（処理方法・　）

6. 防虫処理

防虫処理　・　(12.3.2)

7. 鉄筋コンクリート等の内部間仕切軸組及び床組

木材　(12.4.1)

部位	樹種等
・間仕切軸組	※杉又は松 ・
・床組	※杉又は松 ・
・土間スラブの類の場合の土台，転ばし大引及び転ばし根太	※ひのき又は保存処理木材

8. 出入口その他

木材　(12.5.1)

部位	樹種等
・吊元枠，水掛りの下枠及び敷居	※ひのき　・
・上部以外	※松又は杉・

⑨ 床板張り

縁甲板及び上がりかまちに用いる木材　※ひのき　・　(12.6.1)

10. 壁及び天井下地

下地木材　※杉又は松　・　(12.6.1)

11. 性能試験

・含水率試験　（試験箇所　）　(補1.8.1(c)(4))

１３章　屋根及びとい工事

1. 長尺金属板葺

材料　・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル　(13.2.2(a))(表13.2.1)
・溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯のＡ種、SG
・冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
・塗装ステンレス鋼板
・その他

塗膜の耐久性の種類　・　(13.2.2(a))
めっき付着量　・　(13.2.2(a))
金属板の板厚　・0.4㎜　・0.5㎜　・0.6㎜　・0.8㎜　・　㎜　(13.2.2(a))
下葺材料　・アスファルトルーフィング940　・　(13.2.2(c))(表13.2.2)
・アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）
断熱材　※あり（材種・　厚さ・　㎜）・なし
屋根葺形式　・瓦葺き（心木無し）　・平葺　・横葺　・図示　(13.2.3(a))
屋根葺工法　・　(13.2.3(b))
耐風圧性能　(13.2.3(c))
性能値　建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力：　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。
耐積雪性能　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件の積雪荷重に対して安全であること。　(13.2.3(c))
雪止め　・設置する（工法　※図示　・　）・設置しない　(13.2.3(d)(10))

2. 折板葺

材料　・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル　(13.3.2(b))(表13.2.1)
・溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯のA種、SG
・冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
・塗装ステンレス鋼板
・その他
金属板の板厚　・0.6㎜　・0.8㎜　・　㎜　(13.3.2(a))
塗膜の耐久性の種類　・　(13.3.2(a))
めっき付着量　・　(13.3.2(a))
形式　・重ね形　・はぜ締め形　・かん合形　・　(13.3.2(a))
寸法　・山高（　㎜）　・山ピッチ（　㎜）　(13.3.2(a))
耐力　・等分布荷重　N/㎡　(13.3.2(a))
ボルト材料　※SUS304（ナット共）
面戸板　※軒先面戸及び2重面戸は図示　(13.3.2(e))
断熱材　※あり（材種・　厚さ・　㎜　防火性能・　）(13.3.2(g))
・なし
耐火性能　※30分耐火　・なし　(13.3.2(g))
風圧力・積雪荷重　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(13.3.3(a))

3. シングル葺

種別

種　別	施工箇所
・アスファルトシングル葺	
・不燃シングル葺	
・金属箔シングル葺	
・	

責任施工の保証期間（竣工期日以降）　※10年間

4. 粘土瓦葺

材料　種類　※J型　・　・　(13.4.2(a)(1))
大きさ　※53A　・　・
産地　・　・　・
役物瓦の種類　・　(13.4.2(a)(2))
雪止め使用　・使用する　・使用しない　(13.4.2(a)(2))
瓦桟木　材質・　寸法・　(13.4.2(b)(1))
棟補強用心材　材質・　寸法・　(13.4.2(c))

下葺材料　※13.2.2(c)による
風圧力・積雪荷重　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(13.4.3(a))
木材以外の野地板　材料・
留付け工法・
桟木の留付け工法　・　(13.4.3(c)(2))
棟の工法　・7寸丸伏せ棟　・のし一体棟　・のし積み棟　(13.4.3(d))

⑤ とい

材種　たてどい　※配管用鋼管　・非鉄金属（・SUS　・アルミ）　(13.5.2(a))(表13.5.1)
・ステンレス管　・アルミ管（内面耐食塗装）
内樋については断熱材巻きとする
・硬質ポリ塩化ビニル管（・VP　・RF-VP）・耐火被覆硬質塩化ビニル管　・
軒どい　※図示　・
製造所：　（製品名：　）(表13.5.1)
軒どいの伸縮継手　※設ける　・設けない
伸縮継手の間隔　※10m以内　・図示
オーバーフローの水抜　材種　※SUS304　・　形状・
金属屋根のドレイン部ゴミ除去金網　※設ける　・設けない
材料　※ステンレスメッシュ　・
ルーフドレンなど　(13.5.2(b))(表13.5.1)
排水方法　・竪引　・横引
寸法　・80　・100　・125　・150　・
材種　※錆鉄製　・SUS製　・
防露　※行う　・行わない　(13.5.2(d))(表13.5.4)(表13.5.5)
材料　※表13.5.4による（寒冷地の保温材厚さ　㎜）
工法　※表13.5.5による
防露材のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・F☆☆☆
掃除口　※設ける　・設けない

6. 性能試験

(補1.8.1(c)(5))

試験の種類	試験箇所
・とい満水試験	全箇所

14章　金属工事

1. あと施工アンカー

設計用引張強度は下の表による
※引抜き耐力確認試験　(14.1.3(b)(4))(補1.8.1(b)(11))

あと施工アンカー種別	施工箇所	設計用引張強度	備考
・	・	・　N/cm²	・
・	・	・　N/cm²	・
・	・	・　N/cm²	・

② 表面処理

ステンレスの表面仕上げ　(14.2.1)(補14.2.1)

種　別	施工箇所	備　考
⊙HL仕上	建具、タラップ他	鏡面仕上の板厚は2㎜以上
⊙No2B程度	外部	
・エッチング仕上		
・鏡面エッチング仕上		
・鏡面仕上（No.8）⊙バフ仕上（No.7）	手摺他	
・カラーステンレス（　仕上）		
・パイブレーション仕上		

アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.2(a))(表14.2.1)
・陽極酸化皮膜　JISH8601

表面処理	種　別	皮膜厚㎛	色　合	施工箇所
無着色陽極酸化皮膜	・A-1種	※15	※標準	
	・C-1種	※6	・標準　・標準外	
着色陽極酸化皮膜	・A-2種	※15	※標準	
	・C-2種	※6	・標準　・標準外	

⊙陽極酸化塗装複合皮膜　JISH8602

色　合	※標準（・無着色：B-1種　⊙着色：B-2種）　・標準外（・ホワイト）
塗装の艶	・あり　※なし
表面仕上（ダイライン）	※標準（ダイラインあり）　⊙標準外（ダイラインなし：梨地処理）

JISH8602 改正規格の種類（性能規格）

種類	複合耐食性		耐候性	
	紫外線蛍光ランプ耐候性試験	キャス試験	キセノンランプ式促進耐候性試験	サンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験
	試験時間 h			
・A1	240	120	4000	3000
・A2	240	120	2000	1500
※B	240	72	1000	750
・C	—	—	350	250
備考	紫外線蛍光ランプ耐候性試験を行った後、キャス試験を実施する。		キセノンランプ式促進耐候性試験又はサンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験のいづれかを実施する。	

A1 過酷な環境で，かつ，紫外線露光量の多い地域の屋外
A2 過酷な環境の屋外
※B 一般的な環境の屋外
C 屋内
・過酷な環境とは，腐食・劣化の激しい地域で海浜及び沿岸
・一般的な環境とは，工業地域，都市地域及び田園地域
・海浜とは，海岸線から300m以内の地域
・沿岸とは，海岸線から300mを超えて2km以内の地域
・紫外線露光量の多い地域とは，亜熱帯海洋性気候に類似した地域（南西諸島等）

⊙着色塗装皮膜

表面処理	種　別	塗装厚	仕上がり	施工箇所
着色塗装皮膜	・B-FE(P)	・　㎛	・ソリッド・メタリック	
	⊙B-FE(F)	⊙　40㎛	・ソリッド⊙メタリック	
	・	・		

注）B-FE(P)：高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り　B-FE(F)：中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り

着色陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　(14.2.2(b))
・自然発色
・その他の電解着色（　）

鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	⊙A種（HDZ55）	屋上ルーバー下地　他
	・B種（HDZ45）	
	・C種（HDZ35）	
電気亜鉛めっき	・D種　5級	
	・E種　4級	
	・F種　3級	
表面処理	・JIS G 3302※1	
亜鉛めっき鋼板	・JIS G 3313※2	
常温亜鉛めっき	・ZRC工法　※3	

注）※1：溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
※2：電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
※3：ZRC乾燥皮膜厚76㎛以上塗布

亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の焼付塗装仕上げ　(補14.9)

塗装種別	素地材料	仕上がり	表面処理	塗膜厚（㎛）	施工箇所
・高温焼付形ふっ素樹脂エナメル(B-FE(P))	・	・	・化成皮膜	・	・
・中温焼付形ふっ素樹脂エナメル(B-FE(F))	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・

③ 軽量鉄骨天井下地

天井材の単位面積当たりの質量が20kg/㎡を超える天井，水平でない天井，システム天井　⊙なし
天井高6m以上で面積200㎡を超える天井　⊙なし
野縁の種類　屋内　※19形　・25形　(14.4.2(b))(表14.4.1)
屋外　・19形　※25形
屋外下地の形式及び寸法　(14.4.3(a)(b))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
吊りボルトの間隔が900を超える補強方法　※図示　(14.4.4(e)(1))
天井ふところ1.5m以上の補強方法　(14.4.4(h))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
天井ふところ3.0m以上の補強方法　※図示　(14.4.4(h))
耐震性を考慮した補強　(14.4.4(j))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
屋外の軒天井，ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強　(14.4.4(k))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。

特殊軽量鉄骨天井下地　製造所、工法（　同等品，使用部位：　）
・図示

④ 軽量鉄骨壁下地

スタッド及びランナーの種類　⊙50形　⊙65形　⊙90形　⊙100形　(14.5.3(a))(表14.5.1)
高さ5.0mを超えるスタッド　※図示

特殊軽量鉄骨壁下地　製造所、工法（　同等品，使用部位：　）
・図示

⑤ 金属成形板張り

天井の金属成形板　(14.6.2(a))

種　別	・スパンドレル形		⊙パネル形	・
製　法	・押出し	・ロール	⊙プレス	・
材　種	・		⊙アルミニウム	・
表面処理・仕上	・		⊙B-2	・
寸　法　㎜	・		⊙　　・	
板　厚　㎜	・		⊙1.2	・
施工箇所	・		⊙風除室天井、庇	・

取付け用下地　※14.4（軽量鉄骨天井下地）による　・図示　(14.6.3(a))
長尺ものの伸縮調整継手　・設けない　※設ける（施工箇所は図示による）　(14.6.3(e))

壁の金属成形板

種　別	・折板	・サイディング類	・金属成形断熱パネル	・
製　法	・	・	・	・
材　種	・	・	・	・
表面処理・仕上	・	・	・	・
寸　法　㎜	・	・	・	・
板　厚　㎜	・	・	・	・
施工箇所	・	・	・	・
外装パネル工　法	多雪区域の指定	※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。		
	風圧力			

⑥ アルミニウム製笠木

笠木本体の材料　※アルミニウム押出形材　・アルミニウム合金押出形材　(14.7.2(a))
笠木部材の種類　・250形　・300形　・350形　(表14.7.1)
伸縮調整継手　⊙設ける（　m以内）　・設けない
役物の種類及び工法　※主材製造所の仕様　・　(14.7.2(b))
表面処理　・A－1種　・B－1種　⊙B-FE(P)　(14.7.2(c)(1))(表14.2.1)
風圧力　建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(14.7.3(a)(1))

多雪地域と指定された地域における笠木の固定金具の取付方法
※図示

⑦ 手すり

材料の種別　※図示　・鉄鋼　・SUS304　・アルミニウム　(14.8.2(a)(1))

⑧ タラップ

材料の種別・表面処理　※SUS304（※HL　・　）(14.8.3(a)(1))(14.8.3(a)(2))
・鉄鋼　（※C種　・　）

⑨ エキスパンションジョイント

ＥＸＰＪカバー可動量（Ｘ，Ｙ方向）
※下表による　⊙図示

可動量				
屋根	外壁	床	内壁	天井
※ 50% ・100%	※ 50% ・100%	※ 50% ・100%	※ 50% ・100%	※ 50% ・100%

可動量50%の場合であっても，耐震安全性分類のA類は，屋根の止水帯と各部位の耐火帯は，可動量100%に追従すること。
安全機構
※可動量を100%としない場合は安全機構を設ける。　(補14.11.1)
床カバーの安全機構の設置　※図示　・

構造クリアランス、仕様　(補14.11.2)
※下表による　・図示
（構造躯体の層間変形角　⊙ＲＣ造，ＳＲＣ造：1/200　・Ｓ造：1/100　・計算：1/　.1/　）

階	階高㎜	1FLからの床高さ㎜	床クリアランス㎜以上	床可動量㎜以上	耐火帯	止水帯（床）	断熱材	遮音帯
パラペット					・無	※有	・有	・有
階					・無	・有	・有	・有
8階					・無	・有	・有	・有
7階					・無	・有	・有	・有
6階					・無	・有	・有	・有
5階					・無	・有	・有	・有
4階					・無	・有	・有	・有
3階					・無	・有	・有	・有
2階					・無	・有	・有	・有
1階					・無	・有	・有	・有

耐火帯　※特記なき限り有り
耐火帯は防火区画の壁、床においては建築基準法施行令第107条2項に規定する「1時間遮熱性能」、外壁、屋根部分においては同第107条3項に規定する「30分遮熱性能」（延焼のおそれのある部分については1時間）とし、仕様は製造所の仕様による。
止水帯　※止水帯は外壁，屋根部分に施し，仕様は製造所の仕様による。また，その他の部分で止水帯を施す場合は上表による。

断熱材　※特記なき限り無し
・断熱材（仕様　）
遮音帯　※特記なき限り無し
・遮音帯（仕様　）

主材料・仕上
※下表による　・図示

部位	屋根	外壁	床	内壁	天井
主材料	・	⊙SUS	⊙SUS	・	・
仕上	・	⊙SUS	⊙鋼製材	・	・

耐荷重性能
床　※下表による　・図示

適用箇所
⊙軽歩行用
・重歩行用
・車両用　T-5
・車両用　T-14
⊙車両用　T-25

屋根・外壁の耐風圧力・耐積雪量
※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。

10. パンチングメタル

材質	打抜型	板厚（㎜）	孔径（㎜）	芯々距離（㎜）	施工箇所

11. エキスパンドメタル

種　類	品　番	施工箇所

12. ステンレス鋼板の曲げ加工

工法　※普通曲げ　・角出し曲げ（・A角　⊙B角　・C角）　(補14.10.1)

13. 性能試験

(補1.8.1(c)(6))(補14.9.7(b))

試験の方法	試験箇所
・アルミニウム表面処理の皮膜及び塗膜の品質試験	・
・溶融亜鉛めっきの亜鉛の付着量試験	・
・電気亜鉛めっきの皮膜厚さ試験及び塩水噴霧試験	・
・金属素地上の焼付け塗装の塗膜厚試験	・
・金属素地上の焼付け塗装の品質試験	・

15章　左官工事

① 防火材料

防火材料　※屋内の壁及び天井の仕上塗材は，建築基準法に基づき指定又は認定を受けた防火材料とする。

② モルタル塗り

既製目地材　※使用する　形　状　・図示　・　(15.2.2(h))
適用箇所　⊙エントランスホール、風除室　他
床の目地　・設置する　目地工法　※押し目地　・　(15.2.5(b)(3))
施工箇所　・
外壁タイル張り下地等の下地モルタル接着力試験　・行う　・行わない　(15.2.5(c)(2))

③ セルフレベリング材塗り

材料　・せっこう系　※セメント系　(15.4.2(a))(表15.4.1)
塗り厚　※10㎜　・
施工箇所　⊙タイル使用箇所等

④ 仕上塗材仕上げ

仕上塗材の種類、仕上げ形状及び工法　(15.5.2(a)(3))(表15.5.1)(15.5.6)

種　類	呼び名	仕上の形状	工法	施工箇所
・薄付け仕上塗材 JIS A 6909	・外装薄塗材E	・砂壁状・着色骨材砂壁状	吹付け	
	⊙内装薄塗材E	※⊙壁調	こて塗り	ホワイエ,レストラン
	・可とう形外装薄塗材E	※⊙壁状	吹付け	
		・ゆず肌状・さざ波状	ローラー	
	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状・さざ波状	ローラー	
		※凹凸状	吹付け	
	・外装薄塗材S	※⊙壁状	吹付け	
	・内装薄塗材W	※※壁状じゅらく	吹付け	
・厚付け仕上塗材 JIS A 6909	・外装厚塗材C	・吹放し　・凸部処理	吹付け	
		・ひき起し・凸部処理	こて塗り	
	・内装厚塗材C	・吹放し　・凸部処理	吹付け	
		・ひき起し・凸部処理	こて塗り	
	・外装厚塗材E	・吹放し　・凸部処理	吹付け	
・複層仕上塗材 JIS A 6909	・複層塗材CE	※⊙ゆず肌状	ローラー	
		・凸部処理　・凹凸模様	吹付け	
	・可とう形複層塗材	※⊙ゆず肌状	ローラー	
		・凸部処理　・凹凸模様	吹付け	
	・複層塗材SI ・複層塗材E ・複層塗材RE	※⊙ゆず肌状	ローラー	
		・凸部処理　・凹凸模様	吹付け	
	・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E	※⊙ゆず肌状	ローラー	
	・防水形複層塗材RS	・凸部処理　・凹凸模様	吹付け	
・軽量骨材仕上塗材 JIS A 6909	・吹付用軽量塗材	※⊙壁状	吹付け	
	・こて塗用軽量塗材	※※たん状	こて塗り	

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　(15.5.2(a)(1))
内装薄塗材，内装厚塗材の吸放湿性　・有（　）・無　(15.5.2(a)(4))
複層仕上塗材の耐候性　※耐候形3種　・耐候形2種　・耐候形1種　(15.5.2(a)(7))
複層仕上塗材の上塗材　(15.5.2(a)(8))
溶媒　※水系　・溶剤系　・弱溶剤系　(表15.5.2)
樹脂　※アクリル系・アクリルシリコン系（低汚染型）・ふっ素系（低汚染型）
・シリカ系　・ポリウレタン系
外観　※つやあり　・つやなし　・メタリック
防水形の増塗材　※行う　(15.5.2(表15.5.1))

下地処理　ALCパネルの内壁目地の形状　※V形　・　(15.5.4(d)(1))
装飾仕上塗材　※下表による　・図示による

仕上塗材の名称	施工箇所	使用材料（商品名）
・		同等品とする
・		同等品とする
・		同等品とする

5. マスチック塗材塗り

種別　・A種　・B種　(15.6.2(a))(表15.6.1)
仕上材塗り種別　・つや有合成樹脂エマルションペイント・　(15.6.2(b))

6. ロックウール吹付け（半乾式及び乾式工法）

仕上げ吹付け厚さ　(15.8.3(b))

施工箇所	吹付け厚さ	備　考
・	・　㎜	
・	・　㎜	
・	・　㎜	

ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆・　(15.8.2(a)(d))

7. 薄塗り工法

工法の種別　(補15.8.2)(補表15.8.1)

種別	A　種	B　種	C　種
施工箇所	・	・	・
	・	・	・
	・	・	・

C種の種類　・1種　・2種　・3種　(補15.8.3(b)(1))(補表15.8.2)

8. 特殊仕上げ

・耐摩耗床　材料　工法　厚さ　㎜
・耐薬品床　材料　工法　厚さ　㎜

16章　建具工事

建具工事特記仕様書・建具表（1）参照

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士	
第199758号		第359522号				第2092号	
永廣　正邦		松浦　暢				押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建築工事特記仕様書（5）	縮尺 1/A1:-/A3:-	日付 2019・02・28
		No

A — 005

１７章　カーテンウォール工事

１．見本の製作

実物大見本　・製作する　（範囲　※図示　・　）（補17.1.5(a)）
・製作しない
模型　・製作する　（範囲　※図示　・　）（補17.1.5(a)）
（縮尺　※図示　・　）
（材料　※図示　・　）
・製作しない
各部材の組立て試験　・行う　・行わない（補17.1.5(c)）

②　実大試験

・行う　（範囲・規模　※図示　・　）（補17.1.6）
⊙行わない

③　性能

耐風圧性能（17.1.3)(補17.1.3(a)）
性能値　※建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力　※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。

主要部材のたわみ（補17.1.3 (a)）

支点間距離 h	たわみ量	状　態
※4m以下	※±(1/150)×h かつ絶対量20 mm以下	※各部の破損、残留変形、有害な変形が起こらないこと
※4mを超える	※1/200以下	

耐震性能（層間変位追従性能）（17.1.3)(補17.1.3(b)）
設計震度　水平方向(Kw)　※1.0　・
鉛直方向(Kv)　※0.5　・
（補17.1.3(b)）
層間変位追従性能　H:階高

⊙（ⅰ）	いっさいの補修なしに継続使用できる限界 ±H/300
⊙（ⅱ）	カーテンウォール部材に破損、脱落、及び残留変形の何れも起こらず、シーリング材の補修のみで継続使用できる限界 ±H/200
⊙（ⅲ）	カーテンウォール部材に破損及び脱落が起こらない限界 ±H/150 かつ ±25mm以上

水密性能　はめ殺し部分　・1500 Pa　・0.5Pa かつ1500 Pa ⊙図示（17.1.3)(補17.1.3(c)）
・0.75Pa かつ2250 Pa　P：耐風圧性能に用いた最大の正圧値
可動部分　・Pa以上　⊙図示

気密性能　はめ殺し部分　・　m³/m²h　・　m³/m²h（17.1.3)(補17.1.3(d)）
可動部分　・8　m³/m²h　・2　m³/m²h　・0.5 m³/m²h　・　m³/m²h
・　m³/m²h

耐火性能　合成耐火構造　※図示　・（17.1.3)(補17.1.3(e)）
防火区画　※図示　・

耐温度差性能（熱安定性能）（17.1.3)(補17.1.3(f)）
許容温度差　直射日光の当たる暗色の金属材　※80℃　・
直射日光の当たる明色の金属材　※70℃　・
その他の部材　※60℃　・

遮音性能　平均透過損失　⊙T-2等級線　・T-3等級線　・T-4等級線（17.1.3)(補17.1.3(g)）

断熱性能　熱貫流抵抗　⊙H-3等級　・H-4等級　・H-5等級（17.1.3)(補17.1.3(h)）

振音対策　※予測される風圧力、躯体の変形、外気温の変化に起因して発生する振音や摩擦音は最小限に抑えるようにする。（補17.4.7(e)）

４．性能試験

実大試験の項目（17.1.3)(補1.8.1(c)(8))(補17.1.7)
・カーテンウォールユニットの耐風圧性能試験
・カーテンウォールユニットの層間変位追従性能試験
・カーテンウォールユニットの水密性能試験
・カーテンウォールユニットの等圧性能確認試験
・カーテンウォールユニットの排水経路確認試験

⑤　メタルカーテンウォール

金属材料の種類（17.2.2(a))(補17.2.2)
⊙アルミニウム及びアルミニウム合金材（補17.2.2(a)）
押出形材の厚さ　※溶接部4.0mm以上、非溶接部2.5mm以上（補17.2.2(a)(1)）
・
板材の厚さ　※2.5mm以上　・（補17.2.2(a)(2)）
表面処理（16.2.4(d))(表14.2.1)(補17.2.2(a)(3)）
・陽極酸化皮膜　JISH8601

表面処理	種　別	皮膜厚μm	色　合	施工箇所
無着色陽極	・A-1種	※15	※標準	
酸化皮膜	・C-1種	※ 6	・標準　・標準外	
着色陽極	・A-2種	※15	※標準	
酸化皮膜	・C-2種	※ 6	・標準　・標準外	

⊙陽極酸化塗装複合皮膜　JISH8602

色　合	※標準（・無着色：B－1種　・着色：B－2種）　・標準外（・ホワイト）
塗装の艶	・あり　※なし
表面仕上（ダイライン）	※標準（ダイラインあり）　⊙標準外（ダイラインなし：梨地処理）

JISH8602 改正規格の種類（性能規格）

種類	複合耐食性		耐候性	
	紫外線蛍光ランプ耐候性試験	キャス試験	キセノンランプ式促進耐候性試験	サンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験
	試験時間 h			
・A1	240	120	4000	3000
・A2	240	120	2000	1500
※B	240	72	1000	750
・C	－	－	350	250
備考	紫外線蛍光ランプ耐候性試験を行った後、キャス試験を実施する。		キセノンランプ式促進耐候性試験又はサンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験のいづれかを実施する。	

A１　過酷な環境で、かつ、紫外線露光量の多い地域の屋外
A２　過酷な環境の屋外
※B　一般的な環境の屋外
C　屋内
・過酷な環境とは、腐食・劣化の激しい地域で海浜及び沿岸
・一般的な環境とは、工業地域、都市地域及び田園地域
・海浜とは、海岸線から300m以内の地域
・沿岸とは、海岸線から300mを超えて2km以内の地域
・紫外線露光量の多い地域とは、亜熱帯海洋性気候に類似した地域（南西諸島等）

⊙着色塗装皮膜

表面処理	種　別	塗装厚	仕上がり	施工箇所
着色塗装皮膜	・B-FE(P)	・　μm	・ソリッド・メタリック	
	⊙B-FE(F)	・　40 μm	・ソリッド⊙メタリック	
	・	・		

注）B-FE(P)：高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り B-FE(F)：中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り

・鋼材（17.2.2(a))(補17.2.2(b)）
材料の厚さ　※1.6mm以上　・（補17.2.2(b)(2)）
表面処理　※表14.2.2の溶融亜鉛めっきの　種　・（補17.2.2(b)(3)）
仕上げ　※図示　・（17.2.3(b))(補17.2.3(b)）
・ステンレス鋼材（17.2.2(a))(補17.2.2(c)）
種類　※SUS304　・（補17.2.2(c)(1)）
材料の厚さ　※鏡面仕上げ2.0mm以上、その他1.5mm以上（補17.2.2(c)(2)）
表面処理　※図示　・（補17.2.2(c)(3)）
仕上げ　※図示　・（17.2.3(b))(補17.2.2(c)(3)）
・耐候性鋼材（17.2.2(a))(補17.2.2(d)）
表面処理　※図示　・（補17.2.2(d)）
仕上げ　※図示　・（17.2.3(b))(補17.2.2(d)）

シーリング材の種類（17.2.2(b))(補17.2.2(g)）
⊙不定形シーリング材　種類　※特記仕様書9.11シーリング材による（補17.2.2(g)(1)）
・定形シーリング材　種類　・（補17.2.2(g)(2)）

ガラス取付け材料（17.2.2(d))(補17.2.2(f)(2)）
⊙シーリング材　種類　※特記仕様書9.11シーリング材による（17.2.2(d)(1)）
・構造用ガスケット　形状　※図示　・（17.2.2(d)(2))(補17.2.2(f)(2)）
寸法　※図示　・
断熱材料　種類　※図示　・　厚さ　※図示　・　mm（17.2.2(e)）
製品の寸法許容差（17.2.3(a))(表17.2.1)

⊙メタルカーテンウォール（アルミニウム合金鋳物によるものを除く）製品の寸法

許容差（17.2.3(a))(表17.2.1)

区分		項　目	寸法許容差 mm
単形材	長さ	⊙1.5m以下	※±1.0　・
		⊙1.5mを超え4m以下	※±1.5　・
		⊙4m　を超えるもの	※±2.0　・
	曲がり		※JIS H4100（ｱﾙﾐﾆｳﾑ及びｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の押出形材）による
	ねじれ		
単パネル材	辺長	・1.5m以下	※±1.5　・
		・1.5mを超え4m以下	※±2.0　・
		・4m　を超えるもの	※±2.0、-3.0　・
	見込み深さ		※±1.0　・
	対角線長の差		※　3.0　・
	平面度		※　2/1000　・
組立ユニット	外法寸法	・1.5m以下	※±2.0　・
		・1.5mを超え4m以下	※+2.0、-3.0　・
		・4m　を超えるもの	※+2.0、-4.0　・
	対角線長の差		※　3.0　・

・アルミニウム合金鋳物カーテンウォール製品の寸法許容差（補17.2.3)(補表17.2.1)

項　目	寸法許容差 mm	項　目	寸法許容差 mm
辺長	※+2～-4　・	ねじれ、反り	※　4　・
対角線長の差	※　5　・	曲がり	※　3　・
板厚	※-2　・	見込み深さ	※±2　・
開口部内法寸法	±3　・	ボルトピッチ	※±3　・

注）製品の大きさは、長辺≦4000mm、短辺≦2000mmの範囲内とする。

ガラス溝の寸法、形状　※カーテンウォール製作所の仕様による。（17.2.3(d)）

躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差（17.2.5(a))(表17.2.2)

方　向	寸法許容差 mm
鉛直方向	※±10　・
水平方向	※±25　・

接合部工法　・二重シールによるクローズドジョイント（補17.4.6）
・等圧オープンジョイント

カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差（ ）mm（17.2.5(b))(表17.2.3)(補17.2.5(b))(補表17.2.2)

項　目	メタルカーテンウォール	アルミニウム合金鋳物カーテンウォール
目地の幅	※±3　・	※±5　・
目地心の通り	※　2　・	※　3　・
目地両側の段差	※　2　・	※　4　・
各階の基準墨から各部材までの距離	※±3　・	※±5　・

構造用ガスケットを用いるガラスの取付け　※図示　・（17.2.6）

コンクリート
種類　※軽量コンクリート（表6.10.1の1種）　・（17.3.2(a)(1)）
品質（17.3.2(a)）

設計基準強度	スランプ	気乾比重	単位水量	配　筋
※30 N/mm²	※12cm以下	※1.9t/m³以下	※180kg/m³	※図示（計算書を提出）
・	・	・	・	・

繊維補強セメント・コンクリート複合材（補17.3.2(a)(2)）
材料　※図示　・CFRC　・GRC（補8.6.3)(補表8.6.1）
かさ比重　・
設計基準強度　圧縮強度　・　N/mm²
曲げ強度　・　N/mm²
脱型強度　・　N/mm²
鉄筋の種類　※SD295A　・（17.3.2(b)）

補強鉄線の寸法　※径3.2　以上　・（17.3.2(c)）

シーリング材の種類（17.3.2(d)）
・不定形シーリング材　種類　※特記仕様書9.11シーリング材による
・定形シーリング材　種類　・

断熱材　種類　※図示　・　厚さ　※図示　・　mm（17.3.2(f)）

耐火目地材　※図示　・（17.3.2(g)）

建具枠ゴンドラ用ガイドレール　※図示　・（17.3.2k)(2)）
PCカーテンウォール製品の寸法許容差（17.3.3(a))(表17.3.1)

項　目	寸法許容差 mm	項　目	寸法許容差 mm
辺長	※±3　・	ねじれ、反り	※　5　・
対角線長の差	※　5　・	曲がり	※　3　・
板厚	※±2　・	面の凹凸	※　3　・
開口部内法寸法	※±2　・	先付け金物の位置	※　5　・

６．PCカーテンウォール

PCカーテンウォールの仕上げ　※図示　・（17.3.3(b))(補17.3.3(b)）

構造用ガスケット　アンカー溝の寸法　※図示　・（17.3.3(d)）
寸法許容差　・
配筋　※図示　・（17.3.4(b)(1)）

躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差（17.3.5(a))(表17.2.2)

方　向	寸法許容差 mm
鉛直方向	※±10　・
水平方向	※±25　・

接合部工法　・二重シールによるクローズドジョイント（補17.4.6）
・等圧オープンジョイント

カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差（17.3.5(b))(表17.3.2)

項　目	寸法許容差 mm
目地の幅	※±5　・
目地心の通り	※　3　・
目地両側の段差	※　4　・
各階の基準墨から各部材までの距離	※±5　・

構造用ガスケットを用いるガラスの取付け　※図示　・（17.3.6）

７．大型ガラスの支持方式

工法　・SSG工法　・DPG工法　・MPG工法
・ガラスリブ工法（・ガラス吊下げ工法　・ガラス方立工法　・併用工法）
・テンションマリオン工法

飛散防止フィルム貼り　※特記仕様書16.14による。

１８章　塗　装　工　事

①　材料

※屋内の壁及び天井の仕上げ材で塗料を使用する場合のホルムアルデヒド放散量はJIS 等で規定されている場合Ｆ☆☆☆とする。（18.1.3(a)）
※屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材で、防火材料の指定がある場合は建築基準法に基づく指定または認定を受けたものとする。（18.1.3(b)）
※ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆

２．塗装業者

※日本塗装工業会の会員　・監理者の承認する業者

③　素地ごしらえ

種別（表18.2.1)～(表18.2.7)(補18.10.2)(補18.11.2）

素地面種別	素地ごしらえ種別	仕上塗料種別
※木部	表18.2.1	・A種　※不透明塗料塗り
		・B種　※透明塗料塗り（・CL　・UC　・WP　・LE　）
鉄鋼面	表18.2.2	・A種　※製作工場塗装
		・B種　※製作工場塗装　・2-FUE・2-ASE・DP
		※C種　・SOP
亜鉛めっき鋼面	表18.2.3	・A種　※製作工場塗装 ・2-ASE・2-FUE・DP　・
		・B種　※鋼製建具面　（・SOP　・　・　）
		・C種　A種B種以外　（・SOP　・FE　・EP-T）
モルタル及びプラスター面	表18.2.4	・A種　・
		※B種　・EP-G　・EP　・EP-T　・NAD
コンクリート面	表18.2.5	・A種　・DP
		※B種　・EP-G　・EP　・EP-T　・NAD
	表18.2.6	・A種　・DP　・　・
		・B種　・FUC　・ASC
押出成形セメント板	表18.2.6	・A種　・DP　・　・
		・B種　・EP-G　・EP　・EP-T　・NAD
ALCパネル	表18.2.5	・A種　・
		※B種　・NAD
せっこうボード その他ボード面	表18.2.7	・A種　※継目処理工法　（・EP-G　・EP　・EP-T）
		・B種　※その他の目地処理　（・EP-G　・EP　・EP-T）

④　錆止め塗料塗り

塗料種別　鉄鋼面　※A種・B種（18.3.2(a))(表18.3.1）
亜鉛めっき鋼面　※A種・B種・C種（18.3.2(b))(表18.3.2）
錆止め塗料塗りの種別（18.3.3)(表18.3.3)(表18.3.4）

素地面種別	種　別		仕上塗料種別
鉄鋼面	表18.3.3	A種	※見掛り部分　・SOP　・FE　・EP-G
			※他の部分　・EP-T
		B種	※見隠れ部分　・SOP　・EP-G
亜鉛めっき鋼面	表18.3.4	A種	※鋼製建具面　・SOP　・FE　・EP-T　・EP-G
		B種	・現場塗装　・SOP　・FE　・EP-T　・EP-G

鉄骨工事における鉄鋼面錆止め塗料塗りは、建築工事特記仕様書(11)＜構造関係(2)＞の7章 鉄骨工事による。

⑤　合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）

塗料種類　※1種（18.4.2）
木部合成樹脂調合ペイント塗り　屋外※A種　・B種（18.4.3)(表18.4.1）
屋内・A種　※B種
鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗り　・A種　※B種（18.4.4)(表18.4.2）

⑥　クリヤラッカー塗り（CL）

種別　・A種　※B種（18.5.2)(表18.5.1）

７．アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）

種別　・A種　※B種（18.6.2)(表18.6.1）

⑧　耐侯性塗料塗り（DP）

下地　⊙亜鉛めっき鋼面　⊙鋼鉄面　⊙コンクリート面及び押出成形セメント板面（18.7.2)(18.7.3)(18.7.4）
上塗り塗料　⊙1級　・2級　・3級（18.7.2)(18.7.3)(18.7.4)(表18.7.1)(表18.7.2)(表18.7.3）
常温フッ素塗装
塗料種別　・一般形　・低汚染形（補18.10.5）
シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格　※補18.10.5(b)
※上塗り塗料製造所の指定品　・（補表18.10.6）

９．アクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）

⑩．常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り（2-FUE）

塗料種別　・一般形　※低汚染形（補18.11.4）
種別　金属系素地　※補18.11.4(b)

⑪．つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G）

種別　コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面
屋内木部、鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面（18.8.2)(表18.8.1）
・A種　※B種　（屋内木部、鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面を除く）

⑫．合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）

種別　コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面
・A種　※B種（18.9.2)(表18.9.1）

１３．合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP-T）

種別　屋内のコンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面
・A種　※B種（18.10.2(a))(表18.10.1）

⑭．ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）

種別　一般床　・A種　※B種
体育館弾性床　・補19.12.4(e)による（18.11.2)(表18.11.1）

１５．ラッカーエナメル塗り（LE）

種別　木部　・A種　※B種（18.12.2)(表18.12.1）

１６．木材保護塗料塗り（WP）

種別　・A種　※B種（18.14.2)(表18.14.1）

１７．アクリルシリコン樹脂クリヤ塗り（ASC）

塗料種別　・一般形　・低汚染形（補18.10.6）
シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格（補18.10.6(b))(補表18.10.7）
※上塗り塗料製造所の指定品　・

⑱．常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗り（FUC）

塗料種別　・一般形　・低汚染形（補18.11.5）
シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格（補18.11.5(b)）
※上塗り塗料製造所の指定品　・

⑲．防塵用塗料塗り

材料　水性アクリル系樹脂系塗料（※標準色　）・
仕上種別　コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量　主剤２回塗りとし、総塗布量は0.25kg/㎡以上とする。

２０．性能試験

・塗り厚試験　試験を行う塗料　・（補1.8.1(c)(9)）
試験を行う箇所　・

１９章　内　装　工　事

①　防火材料

屋内の壁及び天井の仕上げ材は、特記により防火材料の指定がある場合は建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。
・

②　健康障害への対策

※低ホルムアルデヒド等の材料及び工法
内装工事に使用する下地材及び仕上材は、その材料の製造工程及び施工工程において、品質・性能上等で支障なき場合、当該特記仕様書に特記された事項以外でも、ホルムアルデヒド等の揮発性有機化合物（VOC）を放散しないもの、又は極力低濃度の材料及び工法とすること。又、接着剤の使用に際しては、固有の使用規定に基づいてオープンタイム（乾燥期間）を確保できる工程管理を実施する。
壁紙、ビニル床シート、ビニル床タイル及びそれらの貼り付けに使用する接着剤等の製品中の可塑剤は、分子量300g/mol以上の難揮発性可塑剤とする。
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量Ｆ☆☆☆☆
使用する建材が含有する成分量の確認のため、施工に先立ちメーカーの規格証明書、試験結果等を監理者に提出する。
※施工中の室内換気
内装仕上げを行った室内は、常に換気に注意し、仕上げ材等から初期に放散されるホルムアルデヒド、その他の揮発性物質を、室内に滞留させないようにする。
※揮発性有機化合物の室内濃度の測定（1.5.9(a)）
図示した室の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告すること。
測定法
パッシブ型採取機器を用い、下記の要領で測定する。
１．対象室の全ての窓を開放し、３０分間換気する。作り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を開放。
２．対象室の全ての窓を５時間閉鎖。作り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放のまま。
５時間後にパッシブ型採取機器を設置。
３．測定時間は２４時間。（工程等の都合で２４時間測定が行えない時は８時間）
８時間測定の場合は午後２時から３時が測定時間の中央となるよう、１０時３０分から１時３０分までの時間帯で測定。
測定終了後、パッシブ型採取機器を回収。
４．測定回数は１回。
※１．の３０分換気開始から測定終了の間は、換気設備機、空気調和施設を稼動させたままとする。
５．測定対象化合物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。
６．測定結果が厚生労働省の基準を超えていた場合は、発散源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度上記測定要領により測定を行う。
測定箇所数
測定箇所数は、次による。また、全ての測定箇所において、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度測定を行う。（1.5.9(b)）

室の面積(㎡)	A≦50	50＜A≦200	200＜A≦500	500＜A
測定個所数	1	2	3	4
測定箇室	44　箇室	16 箇室	3　箇室	箇室

計63箇室
報告書の様式等については、監理者の指示による。

③　ビニル床シート張り

材料（19.2.2)(19.2.3)(補19.2.1(a)）

種　類	記　号	色　柄	厚さmm	熱溶接工法	備考（製品名等）
⊙発泡層なし	※FS	※無地 ⊙柄物	※2.0	⊙有・無	ｻﾝﾌﾟﾜ ｴｽﾘｭｰﾑｽﾄ
・発泡層有り	・	・無地 ・柄物	・	・有・無	

※ビニル床シートの施工用接着剤（19章3～7 項に共通 ホルムアルデヒドの放散量Ｆ☆☆☆☆）
品質、性能上等で支障なき場合、有機溶剤含有量の少ない製品（酢酸ビニル樹脂系エマルション形接着剤、一液型ウレタン樹脂系接着剤等）とする。（19.2.2(f))(表19.2.1-2）

４．ビニル床タイル張り

材料（19.2.2)(19.2.3)(補19.2.1(b)）

種　類	記　号	厚さmm	備考（製品名等）
・コンポジションビニル床タイル(半硬質)	CT	※2	
・コンポジションビニル床タイル(軟質)	CTS	・	
・ホモジニアスビニル床タイル	HT	・	

ホモジニアスビニル床タイルの目地棒工法　・あり　・なし

⑤ 特殊機能床材

・帯電防止床シート、床タイル　種　類・　性　能・　厚さ mm・　(19.2.2(c)(1))

⊙視覚障害者用床タイル　種　類・図示に依る　形　状・図示に依る　(19.2.2(c)(2))

・耐動荷重性床シート　種　類・　厚さ mm・　(19.2.2(c)(3))

・防滑性床シート、床タイル　種　類・　性　能・　厚さ mm・　(19.2.2(c)(4))

⊙その他の床材　調理室用床材

⑥ ビニル幅木

材料　(19.2.2(d))

種　類	高さ mm	厚さ mm	備考（製品名等）
⊙軟質ビニル	※60 ・75 ・	※1.5 ・2 ・	ｻﾝﾀﾞﾂ　ｶﾗｰ巾木
・硬質ビニル	・60 ・75 ・	・1.5 ・2 ・	

7. ゴム床タイル

材料　(19.2.2(e))

種　類	種　類	厚さmm	備考（製造所・製品名等）
・天然ゴム			
・合成ゴム			

⑧ カーペット敷き

・織じゅうたん（JIS L 4404)　(19.3.3(a))(19.3.4)(表19.3.1)(表19.3.2)

織り方の種別	パイル形状	品質種別・パイル長mm	色　柄	備　考
・ウィルトンカーペット	・カット ・ループ	・A種 ・B種 ・C種	・標準品 ・特注品	
・アキストミンスター	・カット ・ループ	・A種 ・B種 ・C種	・標準品 ・特注品	
・緞通	・カット ・ループ	・A種 ・B種 ・C種	・標準品 ・特注品	
・				
・				

・タフテッドカーペット（JIS L 4405)　(19.3.3(b))(19.3.4)(表19.3.2)

パイル形状	パイル長mm	色　柄	工　法	備　考
・カット ・ループ ・	・	・標準品 ・特注品	・グリッパー工法 ・全面接着工法	
・				
・				

・ニードルパンチカーペット　(19.3.3(c))(表19.3.2)

パイル形状	厚さmm	備　考
・		

⊙タイルカーペット(JIS L 4406)　(19.3.3(d))(19.3.4)(表19.3.2)

パイル形状	品質種別	寸法mm	総　厚	色　柄	電気抵抗値Ω	敷き方	備　考
※ループ ⊙カット ・	※一種 ・二種	※500角	※6.5 ・	⊙標準品 ・特注品	※適用しない ⊙10^9Ω以下	・市松(※平場・) ⊙模様流し(※階段・)	東リ GA-8700
・							
・							

・その他のカーペット

織り方の種別	パイル形状	パイル長mm	色　柄	工　法	備　考
・					
・					

・帯電性　(19.3.3(a)(4))

カーペットの種別	帯電性（人体帯電圧）	備　考
・ウィルトンカーペット	※3kv以下 ・	
・タフテッドカーペット	※3kv以下 ・	
・ニードルパンチカーペット	※3kv以下 ・	
・タイルカーペット	・2kv以下 ・1kv以下 ・0.5kv以下	
・		

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆

・下敷き材　※反毛フェルト第2種2号 厚さ8mm　(19.3.3(e))

・黄麻フェルト厚さ8mm

・取付け用付属品　見切、押え金物　材質・　種類・　形状・　(19.3.3(f))

⑨ 合成樹脂塗床

材料及び工法　(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1)～(表19.4.8)

種　類	仕上げの種類	備考（施工箇所）
⊙アクリル樹脂系塗床材	※平滑仕上げ	防災倉庫、受水槽他
	・防滑仕上げ	
	・つや消し仕上げ	
⊙エポキシ樹脂系塗床材	・薄膜流し展べ仕上げ(※平滑 ・防滑)	
	⊙厚膜流し展べ仕上げ(※平滑 ・防滑)	ピロティ、他
	・樹脂モルタル仕上げ(※平滑 ・防滑)	
	・防滑仕上げ	

アクリル樹脂系塗床材及びエポキシ樹脂系塗床材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量(JIS K 5970)

※F ☆☆☆☆

⑩ フローリング張り

材料及び工法　⊙下表　・図示　(19.5.2)～(19.5.6)(表19.5.1)～(表19.5.6)

工法	・単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	樹種	備考
⊙根太張り工法（釘留め工法）	※表19.5.1（ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ根太張用）	・A種 ・B種 ※C種(・一般 ・防湿)	※なら ・	
⊙直張り工法（釘留め工法）	※表19.5.3（ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ直張用）	・A種 ・B種 ※C種	※なら ・	
・接着工法	・表19.5.3 ・表19.5.6 ・モザイクパーケット	※表19.5.5	※なら ・	

フローリングのホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆ ・　(19.5.2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆

・モザイクパーケット　樹種・　厚さ・　大きさ・　(19.5.5(1)(ⅱ))

・接着工法の裏面緩衝材　※合成樹脂発砲シート ・　(19.5.5(1)(ⅳ))

・現場塗装仕上げ　※ウレタン樹脂ワニス塗り　(19.5.7(2))

・オイルステイン塗り

・生地のままワックス塗り

裏面緩衝材付きフローリングの遮音性能

軽量衝撃音 ・L-45 ・L-50 ・L-55

⑪. 畳敷き

種別　(19.6.1)(19.6.2)(表12.5.1)(表19.6.1)(補19.10.1)(補19.11又は19.12)

適用箇所	種別
・表12.5.1による床組又は住宅用乾式遮音二重床下地	・A種 ※B種 ・C種 ・D種
⊙ポリスチレンフォーム床下地	※C種 ・D種

D種における畳床 ・KT-Ⅰ ・KT-Ⅱ ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N

畳床（稲わら畳床、稲わらサンドイッチ畳床）の防虫処理

※燐電助熱処理（防虫処理後の畳床の含水率は15%以下とする。）

・防虫加工紙の適用（※ピレスロイド系薬剤使用のもの）

建材畳床

※普通合板（※F ☆☆☆☆　　）・

⑫. せっこうボード その他ボード及び合板張り

材料　(19.7.2)(表19.7.1)

種　類		記号	厚さmm、規格等
木質系セメント板	・木毛セメント板	—	・15 ・20 ・25 ・ ・NW ・NW
	・木片セメント板	—	・15 ・20 ・25 ・ ・NF ・NF
⊙けい酸カルシウム板（繊維強化セメント板）		・0.8FK ・1.0FK	タイプ2（無石綿）・6 ・8 ・10 ・
⊙ロックウール化粧吸音板		DR	※フラットタイプ（※9 ・12 ・ ）(不燃) ⊙凹凸タイプ（※12 ・15 ・19 ・ ）(不燃)
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）		—	※フラットタイプ9（不燃） ・凹凸タイプ（※12 ・15 ）（不燃）
⊙せっこうボード		GB-R	⊙9.5（準不燃）⊙12.5（不燃） ・
⊙シージングせっこうボード		GB-S	⊙9.5（準不燃）⊙12.5（準不燃）・
⊙強化せっこうボード		GB-F	・12.5（不燃） ⊙15.0（不燃） ・
・せっこうラスボード		GB-L	・9.5 （不燃）
⊙化粧せっこうボード		GB-D	⊙9.5 （※準不燃 ⊙不燃）
・化粧せっこうボード（木目）			12.5（不燃）幅440程度 模様（※正目 ・板目）専用下地材付
⊙メラミン樹脂化粧板		—	JIS K 6903による 厚さ1.2
⊙普通合板（難燃処理）			
・化粧パーティクルボード			JIS A 5908による
・天然木化粧版(難燃処理)			
・特殊加工化粧合板			
・火山性ガラス質複層版			JIS A 5440

Ⓖパーティクルボード、ＭＤＦ、ハードボード、インシュレーションボードのホルムアルデヒドの放散量　パーティクルボード及びＭＤＦ　※F ☆☆☆☆

合板　※F ☆☆☆☆

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆

⑬. 吸音材・遮音材

吸音材料　(19.7.2)(表19.7.1)

種　類		密度	厚さmm	施工箇所
・ロックウール吸音材 JIS A 6301	・ボード (RW-B)	・1号	・	
	・フェルト(RW-F)	・ —	・	
	・ブランケット(RW-BL)	・1号	・	
⊙グラスウール吸音材 JIS A 6301	⊙ボード (GW-B)	⊙2号32K	⊙50	⊙図示
	・フェルト(GW-F)	・2号16K	・	
・				

ガラスクロス包みの適用　⊙あり ・なし

遮音材料

種　類			厚さmm	施工箇所
・鉛遮音板	・遮音用鉛板		・	
	・鉛複合板	・鉛板＋せっこうボード	・ ＋	
		・鉛板＋合板	・ ＋	
・				

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材　※アクリル系シーリング材　(19.7.2(h))

・ジョイントコンパウンド

⑭. 合板

天井及び壁に使用する合板のホルムアルデヒド放散量※19.7.2(c) ・　(19.7.2(c))

天井及び壁に使用する合板　(19.7.3(e))(表19.7.3)

区分	厚さmm	接着の程度	防虫処理	難燃処理	防炎処理
⊙普通合板	⊙12	⊙1類(水掛り) ⊙2類	・	・	・
・天然木化粧合板	・	・1類(水掛り) ・2類	・	・	・
・特殊加工化粧合板	・	・1類(水掛り) ・2類	・	・	・

⊙普通合板の表板の樹種　⊙ラワン程度 ・しな程度(不透明仕上)　(19.7.2(c))

・普通合板の板面の品質　・　(19.7.2(c))

・天然木化粧合板の化粧板の樹種　・　(19.7.2(c))

・特殊加工化粧合板の化粧加工　・オーバーレイ・プリント・塗装　(19.7.2(c))

・特殊加工化粧合板の表面性能　・　(19.7.2(c))

⑮. ボード類の工法

下地　※19.7.3(a)(1)～(2)による ・　(19.7.3(a))

合板類の張付け工法　(19.7.3(e)(3))(表19.7.3)

張付け種類	合板類の種類	適用箇所
・A種		
※B種		

せっこうボードの目地処理工法　(19.7.3(g))(表19.7.5)

目地処理の種類	せっこうボードのエッジの種類	適用箇所
⊙縁目処理工法	テーパーエッジ	
・突付け工法	ベベルエッジ,スクェアエッジ	
・目透かし工法		

⑯. 壁紙張り

材料 ・下表 ・図示　(19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類 紙	織物	ビニル	化学繊維	無機質	防火性能の認定区分	品質等
ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ、図書室他	・	・	⊙	・	・	⊙不燃 ・準不燃 ・難燃	ｻﾝｹﾞﾂSG5556
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	

※壁紙は、ISM（日本壁装材料協会の規格でInterior Safety Material(の略）の品質保証のある製品（当該規定類が適用される範囲の製品）とする。

素地ごしらえ　モルタル、プラスター面 ・A種 ※B種　(19.8.3(a))(表18.2.5)

せっこうボード面、その他ボード面 ・A種 ※B種　(19.8.3(b))(表18.2.7)

壁紙及び施工用接着剤　ホルムアルデヒドの放散量　※F ☆☆☆☆　(19.8.2(a))

⑰. 断熱材・防露材

材料　(19.9.2)(19.9.3)

種　類		厚さmm	品　質　等	施工箇所
⊙押出法ポリスチレンフォーム保温板 JIS A 9511 JIS A 9521	※2種b	※25 ・	特定フロンを使用しないもの ※A種1	⊙一般部 ・
	※3種b（ｽｷﾝ層付）	※25 ・		・土屋接地スラブ下面 ・
⊙吹付硬質ウレタンフォーム断熱材（現場発泡断熱材） JIS A 9526 A種1	⊙30 ・		ノンフロン ※難燃性を有するもの ・	※断熱材補修部分 ⊙一般部 ・
			製造所：監理者の承認する製造所	
⊙木繊セメント板（ストロングボード） ・ゼオライト混入木繊セメント板	⊙50 ・		・熱伝導率0.058W/(m･k) ・	・体育館上部スラブ
			製造所：日本モクセン板協会加入の製造所	
吹込み用繊維質断熱材 JIS A 9523			熱抵抗	・
・ロックウール（RW） ・グラスウール（GW-2）	・ ・		・25K ・35K ・1.5㎡・K/W ・2.2㎡・K/W	
・フェノールフォーム JIS A 9511	・		・	

ホルムアルデヒドの放散量　※F ☆☆☆☆

18. 浴室天井材

種別（市販品）

材　質	表面仕上げ	性　能	幅 mm	備　考
・アルミニウム製	・焼付け塗装品 ・アルマイト処理品	準不燃品	・200 ・100	回り縁は樋付とし、製造所の標準品とする。
・硬質塩ビ製	・塗装品 ・木目調		・300 ・100	

19. ポリスチレンフォーム床下地材　(補19.10.3)

種　別	厚さ mm	施工箇所
・畳下パネル	※40 ・65 ・80	
・フローリング類下パネル（桟付）	※80 ・95	

⑳. 住宅用乾式遮音二重床下地材

種別　(補19.11.2)

種　別	床高 mm	ベースパネルの厚さmm	捨板合板の有無	施工箇所
⊙A種	330，100 mm	※25 ・20	⊙有 ・無	体育館、事務室等
⊙B種(水廻り)	100 mm	※25 ・20	⊙有 ・無	トイレ、シャワー室等

ベースパネルのパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量　(補19.11.3)

・Mタイプ（※F ☆☆☆☆）・Pタイプ（※F ☆☆☆☆）

捨板合板のホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆　(補19.11.3)

㉑. 弾性床

・塗り床　(補19.12.2)

種　類	厚さ mm	施工箇所
・ゴムチップ弾力層＋ネオプレン保護層塗り床	・13 ・15 ・18	
・ゴムチップ弾力層＋ウレタン仕上層塗り床	・15 ・18	
・ウレタン厚塗り床	・5 ・8 ・10	

工法 ・コンクリート直塗り

・鋼製床下地合板二重張り床

合板 厚さ mm（ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F ☆☆☆☆）

・張り床　(補19.12.3)

種　類	厚さ mm	施工箇所
・ビニル床シート（・発泡 ・非発泡）	・5.5 ・6.2 ・9.2	
・合成ゴム系シート	・5 ・	
・	・	

工法 ・コンクリート直塗り

・鋼製床下地合板二重張り床

合板 厚さ mm（ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F ☆☆☆☆）

⊙木造床　(補19.12.4)

種　類		厚さ mm	施工箇所
⊙フローリングボード		・15 ⊙18	体育館
・複合フローリングボード	・ボード形式	・15 ・18	
	・大型積層形式	・18 ・27 ・30	
・集成フローリング		・18 ・21 ・24 ・30	
・		・	

複合フローリングボードのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F ☆☆☆☆

樹種 フローリングボード又は複合フローリングボード ※カバ ・アサダ ・イタヤ ・ブナ ・ナラ

集成フローリング ・さくら ・なら ・ひのき ・すぎ ・

工法 ※接着剤併用隠し釘打ち脳天ビス留め （・二重張り ・直張り）

・接着剤併用隠し釘打ち （・二重張り ・直張り）

二重張り工法の下張り材

合板 厚さ mm（ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F ☆☆☆☆）

塗装 ※ポリウレタン樹脂（・２液反応型 ・湿気硬化型 ・油変性型）

・酸硬化アミノアルキッド樹脂 ・水性ウレタン樹脂

⊙鋼製床下地（JIS A 6519)　(補19.12.5)

構成区分 ⊙組床式（F） ・置床式（S）

使用区分 ⊙一般体育館用（G） ・柔道場用（R）

・剣道場用（K） ・柔剣道場用（R-K）

床上換気口 材種 ・アルミニウム製 ・SUS製 ・鋼製

形状 ・パンチングタイプ ・開閉式パンチングタイプ

寸法 ・グレーチングタイプ

・図示

㉒. 遮音性能

⊙室間音圧レベル差、内外音圧レベル差

遮音等級	適用箇所	遮音等級	適用箇所
D-35	図示	D-50	図示
D-45	図示	D-	

⊙床衝撃音レベル

遮音等級	適用箇所
軽量衝撃音 L-50 重量衝撃音 L-50	
軽量衝撃音 L- 重量衝撃音 L-	
軽量衝撃音 L- 重量衝撃音 L-	

・室内騒音レベル

騒音等級	適用箇所	騒音等級	適用箇所
N-		N-	
N-		N-	

㉓. 性能試験　(補1.8.1(c)(10))

試験項目	試験箇所
・外周壁遮音測定	
・室間遮音測定	
⊙床衝撃音測定	体育室、屋上広場
室内 ⊙騒音レベル	ホール
音響 ⊙残響測定	ホール
測定 ⊙明瞭度測定	ホール
・給排水音測定	ホール

※別途：音響関連工事特記仕様書参照

２０章　ユニット及びその他の工事

① ユニット工事に使用する材料等

ユニット工事に使用する集成材又は単板積層材は(12.2.2)に準拠する。

ユニット工事に使用する材料等の健康障害への対策については本特記仕様書19章2及び補足仕様書19章13節に準拠する。

② フリーアクセスフロア

材料及び工法　(20.2.2)(補20.2.2)

性能項目		⊙フリーアクセスフロア	・ＯＡフロア
床パネル	主材料	・アルミニウム合金ダイカスト ⊙鋼製（無機質材充填） ・	・
	規格寸法（縦ｘ横ｘ厚mm）	・	・
	表面仕上げ材料	・帯電防止ビニルタイル(厚 mm) ⊙タイルカーペット(厚6.5mm) ・メラミン化粧板 ・	・
	帯電防止性能	⊙U≧0.6（一般事務室等） ・U≧1.2（電子計算機室等）	・
	漏えい抵抗	※抵抗値 ≧1.0×10^6Ω	・
	備　考		
支持脚	床パネル支持型式	⊙支持脚分離型 ・	・支持脚一体型（置敷型） ・支持脚分離型 ・配線、床機能分離型
	床高（mm）	⊙100	
	耐震性能 耐震強度	※500Kg/m2 補20.2.2(b)(5)（地震時水平力1.0G） ・	
	耐震性能 耐震工法	・パネル押え ・大型支持脚 ・支持脚構つなぎ ・斜材補強	
	備　考		

・耐荷重性能　※20.2.2(b)(2)(Ⅰ)　・積載荷重300kg　(20.2.2(b)(2))

・耐衝撃性能　※20.2.2(b)(2)(Ⅱ)　・

・ローリングロード性能　※20.2.2(b)(2)(Ⅲ)　・

・耐燃焼性能　※20.2.2(b)(2)(Ⅳ)　・

・寸法精度　※20.2.2(b)(5)　・　(20.2.2(b)(5))

・ウイスカ対策　・ウイスカ対策品　・

スロープ及びボーダー　※製造所の標準仕様　・図示

コンセント等の取付け対応　※製造所の標準仕様（コンセント本体は別途設備工事）

コンセントの箇所数　※図示　・　箇所/㎡

配線用取出し用開口　※対応品又は工場加工品（施工箇所は図示）　・図示

空調用吹出しパネル　※なし

・あり（※図定式 ・可変式 ：施工箇所は図示）

製造所　・　(製品名：　)

下地面の防塵処理　・行う（材料　）　(補20.2.2(c)(3))

・行わない

③ 可動間仕切

形式　※パネル式 ・スタッド式 ・スタンド式

品質・性能　(20.2.3)

性能による区分	厚さmm	表面材	表面仕上げ	施工箇所
・遮音タイプ（遮音性能・ ）		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り ・	
・吸音タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り ・	
⊙不燃タイプ		※鋼板 ・	⊙焼付け塗装 ⊙クロス張り ・	⊠示

表面仕上げの壁紙張りの品質　・

製造所　・　(製品名：　)

パネルの材料のホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆

パネル内に取り付ける建具　寸法 ・　形状 ・

改訂：2016.09.01

④ 移動間仕切

開閉形式　⊙引き戸式（スライディング）・折れ戸式（フォールディング）
・伸縮式（アコーディオン）

品質・性能　(20.2.4)

性能による区分	厚さ	表面材	表面仕上げ	施工箇所
・一般タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り ・	
⊙遮音タイプ（遮音性能・　）		※鋼板 ・	⊙焼付け塗装 ・壁紙張り ・	会議室２、会議室５ 談話室３

表面仕上げの壁紙張りの品質
ハンガーレール取付け下地補強　※ランナーに加わる重量の５倍以上の荷重に耐えられるもの　・　(20.2.4(c)(3))
ハンガーレール取付け下地の防振・防音　※行う　方法　※⊠示　・防振ゴム
・行わない
あと施工アンカー　材質　※⊠示
寸法　※⊠示
製 造 所 ・コマニー　(製品名：　DP-60S同等品　)
パネル圧接装置の操作方法 ・

⑤ トイレブース

表面仕上げ材 ⊙メラミン樹脂系化粧板（標準色アルミ製コーナーエッジ付）(20.2.5)
・ポリエステル樹脂系化粧板（標準色アルミ製コーナーエッジ付）
ブースパネル形状　※⊠示
足形状　※幅木型　・足金物型
工法　※製造所仕様
製 造 所 ・　(製品名：　)
パネルの材料のホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆

⑥ 洗面カウンター

表面仕上げ材 ⊙メラミン樹脂板ポストフォーム　・人造大理石（品質 ※⊠示 ）
形状・寸法　※⊠示 ・
製 造 所 ・　(製品名：　)

⑦ 滑り止め コーナービード その他

⊙階段滑り止め　材種　※SUS304　・硬質アルミニウム　・磁器製　(20.2.6(a))
形状　※ビニルタイヤ入り　・⊠示
両端フラットエンド　・なし・あり（※ビニル製・SUS304）
幅　※35　mm　・　mm
工法　※接着工法　・埋込工法　(20.2.6(b))

⊙床目地棒　材種　※SUS304　・塩化ビニル　・　(20.2.7)
寸法　※6×12　・

⊙コーナービート　材種　※SUS304　・塩化ビニル
高さ　※天井まで　・床から　まで　・

⊙コーナーガード　壁（柱）⊙駐車場
床　・

⊙天井回り縁　材　種　・アルミニウム　⊙塩ビ　・
形状寸法　※⊠示　・

⊙ピクチャーレール　材　種　⊙アルミニウム　・SUS304
形状寸法　※⊠示　・

・黒板　材種　※焼付け　・研ぎ出し　(20.2.8(a))
形状　・平面　・曲面　・上げ下げ　・内部映写スクリーン内蔵型
枠等　※アルミニウム製枠（チョーク溝、チョーク入れ、チョーク拭入れ付）
色　※緑色　・黒色　・

⊙ホワイトボード　枠等　※アルミニウム製枠（マーキングペン受け付）　(20.2.8(b))

⊙掲示板　材種　⊙⊠示　形状　・
枠　・　色彩　・

⊙鏡　縁　※なし（防湿性）・あり　(20.2.9)
形状寸法　※⊠示　・
厚　さ　※5　mm　・　mm

⑧ 表示

⊙衝突防止表示　形状、寸法、材質　※⊠示　(20.2.10(a))
・市販品（※SUS304　径約30）
⊙非常用進入口表示　形状等　※消防法適合の市販品　・　(20.2.10(b))
取付箇所　※⊠示　・　ヶ所
⊙室名札、ピクトグラフ、案内板等　(20.2.10(c))
種別　⊙⊠示　・下表

名称	材種及び仕上げ	長さx幅x厚さ	設置箇所	数量	備考
⊙室名札	⊙アクリル樹脂板 文字シルク印刷 ・	⊙⊠示	⊙⊠示	⊙⊠示	・受金物（SUS） ・差込み式（片持出） ・正面付
⊙室名 文字	・ペイント書				
	⊙アクリル板	⊙⊠示	⊙⊠示	⊙⊠示	・貼付け
	・ステンレス切板 文字鏡面仕上				・貼付け
	⊙	⊙⊠示	⊙⊠示	⊙⊠示	
⊙階数表示		⊙⊠示	・各階踊場 ・	⊙⊠示	
・銘板	・ステンレス板 腐蝕仕上文字鏡面仕上 ・				
⊙定礎板	⊙花こう岩（水磨き程度） ・		⊙⊠示		・定礎箱銅板0.8 内箱は桐製 銘板入り
⊙案内板	⊙⊠示	⊙⊠示	⊙⊠示	⊙⊠示	
⊙看板					
⊙屋外案内板					
⊙屋外掲示板					
・ ・					

注）上記に使用される文字は何れも指定書体とする。
・免震建築物であることの表示「平成12年建設省告示第2009号第4の五」
形状、寸法、材質　※⊠示　・
・免震エキスパンションジョイント注意喚起表示
形状、寸法、材質　※⊠示　・

9. 煙突ライニング

・煙突用成形ライニング材　形状、寸法　※⊠示　・　(20.2.11(a)(1))
材質　・ゾノライト系けい酸カルシウムライニング材
・心材付き繊維積層ライニング材
適用安全使用温度　・
製 造 所 ・　(製品名：　)

・キャスタブル耐火材　(20.2.11(a)(2))
製 造 所 ・　(製品名：　)

10. ブラインド

・ブラインド　(20.2.12)

形式	材料（スラット）	開閉方式	スラット幅	適用箇所
・横形	・アルミニウム合金 ・硬質塩化ビニル	・ギヤ式　・操作棒式 ・コード式　・電動式	・15　※25 ・35　・	
・縦形	・アルミ（焼付塗装） ・ガラス繊維 ・クロス（化繊、麻）	・２本操作コード式 ・操作棒式 ・電動式	・100・80 ・	
⊙ロールブラインド	・ガラス繊維 ⊙クロス（化繊、麻）	⊙手動式 ・電動式		3階多目的交流ホール 4階子供の家4階吹抜
・特殊タイプ				

⊙ヘッドボックス　材　種　※鋼製　・アルミニウム（押出し型材）・
内法寸法　深さ　・　mm　幅　・　mm
仕 上 げ　・
・ボトムレール　材　種　※鋼製　・アルミニウム（押出し型材）・
・ヘッドレール　材　種　※アルミニウム合金製

11. ロールスクリーン

・ロールスクリーン　(20.2.13)

形式	材種・品質	開閉方式	幅及び高さ	適用箇所
・ロールスクリーン	・ガラス繊維 ・クロス（化繊、麻）	・手動式 ・電動式	・幅　mm 高さ　mm	

巻き取りパイプ、操作コードその他材料　※⊠示　・
製 造 所 ・　(製品名：　)

12. カーテン及びカーテンレール

・カーテン　(20.2.14)(表20.2.1)

施工箇所	形式 片引	形式 引分	装置 電動	装置 ひも	装置 手引	きれ地の品質、柄、色合、組織	ひだの種類
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		

製 造 所 ・　(製品名：　)

⊙カーテンレール　強さによる区分　※10-90　(20.2.14(b)(2))
材種　※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材（アルマイト）
・SUS304
形状　※角型　・C型　・D型
種別　⊙シングル掛け　・ダブル掛け
・レール交差掛け（・シングル・ダブル）
取付け方法　・直付け　⊙中空吊り下げ
引分け装置　⊙手動　・電動

・暗幕用カーテン　両端及び召合わせの重ねかけ　(20.2.14(c)(1))
※300以上　・
⊙カーテンボックス　材　種　・鋼板　・アルミニウム（押出し形材）
⊙木製
内法寸法　深さ　・　mm　幅　・　mm
仕 上 げ　・

13. 情報障害対応誘導用材料・装置

誘導用床材・注意喚起床材

材料		寸法	適用箇所	製造所
⊙ビニル床タイル	⊙既製品　・特注品	300×300	階段等	
⊙コンクリート平板	⊙既製品　・特注品	300×300	外構	日本興業 ベイブロック程度
・金属鋲	・既製品　・特注品			
・				

点字表示

適用箇所	寸法	内容
⊙案内板	W1090×H350程度	⊙フロア案内、室名表示
⊙手すり	W120×H150程度	⊙階数表示　⊙上り下り
・室名		
⊙押しボタン	W100×H100程度	⊙EV乗場ボタン

その他の誘導装置
誘導鈴　設置場所 ・　(製造所：　)
音声ガイド　設置場所 ・　(製造所：　)
音声触知案内板　設置場所 ・　(製造所：　)

14. 流し台ユニット

種別　⊙⊠示　⊙下表

種　類	寸法L=	材　質	規格・品質等	適用内容
⊙流し台	⊙1200 ⊙1800	※SUS ・	※優良住宅部品（BL型） ・	※ドラムトラップ付
・コンロ台	・600	※SUS ・		※バックガード付
⊙吊り戸棚	⊙1200 ⊙1800	※SUS ・		※耐震取っ手付き
⊙水切り棚	⊙1200 ・			耐火性 ※有り　・無

製 造 所 ・LIXIL　(製品名：TIO,shiera17)

15. 浴槽

材　種　・SUS304　・ほうろう　・ガラス繊維強化ポリエステル　・
形　態　・単槽　・ユニット　・ハーフユニット　・
寸　法　・

16. ユニットバス

形状、寸法　※⊠示　・
附属設備　※⊠示　・
製 造 所 ・　(製品名：　)

17. ユニットシャワー

形状、寸法　※⊠示　・
附属設備　※⊠示　・
製 造 所 ・TOTO　⊙INAX　(製品名：SPB-0812SBEL+LR,SPB-0808SBEL+L　)

18. ユニットトイレ

形状、寸法　※⊠示　・
附属設備　※⊠示　・
製 造 所 ・　(製品名：　)

19. 配管化粧カバー（配管用ライニング）

天板材種　⊙メラミン樹脂化粧板ポストフォーム　・人造大理石　・ステンレス板　・
立上り仕上⊙メラミン樹脂化粧合板　・耐水合板塗装仕上　・化粧フィルム板　・

20. 防災器具等

種別

名称	形式・寸法・仕上げ等	設置箇所
・非常用救命袋	・傾斜式　・鉛直式	
⊙緩降器	⊙オリロー（スローダン125）	4階多目的室3.5階屋望テラス
・バルコニー用避難器具	※マンホール組込伸縮式金属避難吊り下げハシゴ ・	
⊙埋込み消火器ボックス	材種　⊙鋼板　・SUS304	
⊙置き式消火器	材種　⊙鋼板　・SUS304	

注）上記防災器具類は、消防法規定合格品とする。

21. 郵便受け

材　種　※SUS304　⊙⊠示
形状、寸法　・前取出し薄型タイプ W390xH300xD200　個数　・２段６列（計１２個）
製 造 所　・ハッピー金属工業株式会社　（製品名：COMPOS集合ポスト CP-105 ）

22. 靴拭きマット

材種　マット本体　⊙SUS304　・硬質アルミ　・ゴム　・合成樹脂　・
受枠　⊙SUS304　・硬質アルミ　・
寸法　・
排水　・設ける　⊙設けない

23. 止水板

材　種　・塩化ビニル製　・膨張性シール　⊙アスファルト系　寸法　・　mm
適用箇所　⊙地下躯体打継部

24. 換気孔

材種　・⊠示　・下表

材　種	寸法	適用箇所
・鋼鉄製　錆止め塗装　防虫網付（SUS304）		
・硬質塩化ビニル管　防虫網付		

25. 家具書架・実験台書架その他什器等

合板、木質系建材等及び塗材を使用して作られたものは、
ホルムアルデヒドの放散量を発散しないか、極めて少ないものとする。

26. 屋内溝ふた

種別　・⊠示　⊙下表

種　類		寸法	形式・品質・仕様	設置箇所
・縞鋼板				
・SUS304				
⊙グレーチング	・鋼板			
	⊙SUS製	W250×994	T-20	駐車場等
・				

27. 鋳鉄製マンホール（屋内）

マンホールふた種別　・⊠示　・下表

種　類	寸法	安全荷重kN	設置箇所
⊙密閉形　完全防水、防臭形		⊙2 ⊙6 ⊙20	⊠示
・簡易密閉形（パッキン式）簡易防水、防臭形		・15　・	
・断熱形　完全防水、防臭形		・15　・	
・			

化粧ふた（充填用）種別　・⊠示　・下表

種　類	目　地	寸法	安全荷重kN	設置箇所
⊙一般形	・SUS目地　・L型SUS目地		⊙15　・	⊠示
・二重ふた形	・SUS目地　・L型SUS目地	※600x600	・15　・20	⊠示

28. 点検口

種別

区分	材　種	形式・仕様	寸法	数　量
天井用	※アルミニウム ・	※額縁タイプ枠　⊙目地タイプ枠	※600x600 ・	・　ヶ所 ⊙⊠示
床　用	※アルミニウム ⊙SUS304	・充填用　・貼物用　・裏面断熱 ⊙鍵付　⊙防水型　⊙防臭型	※600x600 ・	・　ヶ所 ⊙⊠示
二重壁用	※GRC ・		※400x400 ・	・　ヶ所 ・⊠示
壁　用	※⊠示（建具表）			

29. 丸環

材種　※SUS304　吊下げ強度　⊙荷重　500kg

30. 簡易ゴンドラ

固定用受金物　材　種　※SUS304　形状、寸法　※⊠示
箇所数　・⊠示　・　ヶ所
吊下げ用金物　材　種　※SUS304
吊下げ用金物及びゴンドラ（１人用）　形状、寸法　※⊠示
設置台数　・　セット
製 造 所 ・　(製品名：　)

31. 旗竿

⊙旗竿　材種　※アルミニウム合金製　・鋼製（仕上げ：　）
形式　※テーパー型　・同一断面型
滑車　・内装形　⊙外装形
高さ　⊙　6m　数量　⊙　3 本
・竿受け金物　材種　※SUS304　・　数量　・　箇所
形式　※着脱式　・固定式

32. 特殊内外装材

材料

材　種	形式、寸法	仕様・品質	適用箇所
・結晶化ガラス			
・大型陶板			
・			
・			
・			

33. トップライト

形状、仕様　※⊠示　・
製 造 所 ・株式会社　大仙　(製品名：片流れトップライト　)

34. プレキャストコンクリート（小規模）

適用部位　・手すり　・段板　・ルーバ　・　(20.3.1)
調合　脱型圧縮強度　※12N/ mm² 以上　・　(20.3.3(a))
28日圧縮強度　※30N/ mm² 以上　・
強度上のホセメント比 ※55 %　以下　・
単位セメント量　※300 kg/m³ 以上　・
補強鉄線　・JIS G 3532（補強鉄線）　・JIS G 3551（溶接金網）　(20.3.2(c))
※径3.2 mm以上
型枠　※鋼製　・木製（　）
取付け方法　※⊠示　(20.3.4(c))
・
原寸試作品　・作成する　・作成しない
配筋　※計算書を提出

35. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

間知石　材種　・　面の寸法　・300x300　mm　(20.4.2(a))
コンクリート間知ブロック　面の寸法　・300x300　mm　(20.4.2(c))
重　量　・300～350 kg/m³　・350 kg/m³ 以上
工法　積み方　※谷積み　・布積み　(20.4.3(c)(1))
目塗り　・行う　・行わない　(20.4.3(c)(9))
伸縮調整目地　材種　・　厚さ　・　mm　(20.4.3(c)(10))

36. 敷地境界石標

石標の種別　・A種（花こう岩類）※B種（コンクリートブロック製）
・真鍮製　・鋲打ち　・

37. 外構フェンス

高さ　⊙　1.8 m
金網　⊙ビニル被覆10#56　mm 目　・
控柱　・H=1500以上は控柱付、控柱間隔は柱1本おき　・
種別　⊙軸部鋼板加工、合成樹脂塗料焼付既製品

38. 性能試験

・後付けアンカー引抜き試験　(補1.8.1(c)(11))
試験箇所　・

21章　排水工事

1. 材料

排水管用材料　(21.2.1)(表21.2.1)

材　種	管の種類	管形状（接合方法）
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※1種　・　）	B形（ゴム接合）
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	※VP　・VU	
・ﾘｻｲｸﾙ硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	※RS-VU　・RS-VP	

形状、寸法　※⊠示

側塊、排水桝及びふた　形状、寸法　※⊠示　(21.2.1)

鋳鉄製マンホールふた　(21.2.1(e))

種　類	種　類 T-2用	T-6用	T-14用	T-20用	形状寸法（）	施工箇所
・水封形	・	・	・	・		
⊙密閉形（ﾈｼﾞﾊﾞｯｸﾊﾞﾙﾄ式）	⊙	⊙	・	⊙	600φ	⊠示
・簡易密閉形（ﾊﾞﾙﾄ式）	・	・	・	・		
・中ふた付密閉形	・	・	・	・		
・断熱型	・	・	・	・		

グレーチングふた　(21.2.1(f))

材　質	形　式	種　類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
⊙鋼製	※受枠付き ・	・溝ふた用	⊙歩行用	※細目	※凹凸形
⊙SUS製	ボルト固定 ※無し ・⊠示	⊙桝ふた用 ・かさ上げ用 ⊙U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ⊙T-20用	※普通目 ・細目	※平形 ・凹凸形

※外部、側溝蓋は亜鉛メッキ処理、耐重型T-20ボルト固定とする

床化粧マンホールふた

種　類	安全荷重 kN
・簡易密閉形（パッキン式）・密閉形（ボルト・パッキン式）	・50　・15

インターロッキング用化粧マンホールふた

種　類	安全荷重 kN
・簡易密閉形（パッキン式）	・50

地業の材料　※21.2.1(g)による　・　(21.2.1(g))
コンクリート　※6章14節による（設計基準強度18N/ mm²）　(21.2.1(h))
凍上抑制層　※砂　(21.2.1(j))(21.2.1(k))(表21.2.2)
埋戻し土　表3.2.1・A種　※B種　・C種　・D種　・建設汚泥から再生した処理土G　(21.2.1(m))

2. 工法

管路敷設の工法　(21.2.2)
※21章2節21.2.2施工による
・上記以外の地盤　※⊠示
遠心力鉄筋コンクリート管基床　厚さ・　mm　種類・　(21.2.2(g))
硬質ポリ塩化ビニル管基床　厚さ・　mm　種類・　(21.2.2(h))
※マンホールなどのコンクリート構造物に接続する場合は構造物から1m以内にゴム輪接合部を設ける　(21.2.2(h)(4))

3. 街きょ、縁石及び側溝

縁石の形状　※⊠示・材料　・寸法　・形状　(21.3.1(a))(表21.3.1)
側溝の形状　※⊠示・材料　・寸法　・形状　(21.3.1(a))(表21.3.1)
側溝の蓋

種別	形状・寸法	強度	設置箇所
・鋳鋼板			
・PC板			
⊙グレーチング	⊠示		
・鋳鉄製			

コンクリート　※6章14節による（設計基準強度18N/ mm²）　(21.3.1(b))
地業の材料　※4.6.2(a)による　・　(21.3.1(c))(4.6.2(a))
砂利地業の厚さ　※100　・　(21.3.2(a))

改訂：2016.09.01

２２章　舗　装　工　事

① 路床

⊙盛り土用材料　⊙Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土Ⓖ　(22.2.3(a))(表3.2.1)
・凍上抑制層 材料 ・砂　・火山灰　・火山礫　・切込み砂利　(22.2.2(a)(1))(22.2.3(b))
厚さ ・図示・　mm
・透水性舗装に用いるフィルター層　(22.2.2(a)(2))
材料 ・砂　・火山灰　・火山礫　・切込み砂利　(22.2.3(b))(21.2.1(j))
厚さ ・図示・　mm　(21.2.1(k))
・路床安定処理　(22.2.3(c))(表22.2.1)
方法　※添加材料による安定処理　(22.2.2(a)(3))
材料　・普通ポルトランドセメント・フライアッシュセメントＢ種・高炉セメントＢ種
・生石灰（・特号 ・１号）・消石灰（・特号 ・１号）
添加量　・　kg/m³
厚さ　300mm（目標CBR 5以上）　・　(22.2.2(a)(3))
・ジオテキスタイル　品質・　(22.2.3(c)(2))

② 路盤

路盤　厚さ ※図示　・　(22.3.2(a))
材料 ・クラッシャラン　(22.3.3(a))(表22.3.1)
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
⊙再生クラッシャラン Ⓖ
・

③ アスファルト舗装
カラー舗装

舗装の構成、厚さ、仕上がり　(22.4.2(a))(22.6.2(a))(表22.6.1)

舗装の種類		厚さ	
⊙アスファルト舗装		※図示	
・カラー舗装		※図示	
・加熱系	・アスファルト混合物		
	・石油樹脂系混合物		
・常温系	・樹脂系混合物	※表22.6.1	
	・ニート工法	・	
	・ゴムチップ混合物（弾性）		
	・スラリー混合物		
	・塗布工法		
	・		

カラー舗装用材料　顔料　※無機系　・有機系　(22.6.3)
着色骨材 ・有色骨材（焼成）　・着色骨材（樹脂皮覆）
カラー舗装厚さの許容差　※22.4.2(c)・　(22.6.2(c))
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度　(22.4.2(d))
アスファルト　※再生アスファルト　・ストレートアスファルト　(22.4.3)

再生加熱アスファルト混合物及び加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)(表22.4.4)

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（13） ・細粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13F）

骨材　※ＪＩＳ Ａ5001によるもの　(22.4.3(c)(1))
・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材Ⓢ
・再生クラッシャランⓈ
・道路用鉄鋼スラグⒼ

シールコート　※行わない　・行う（施工範囲　）　(22.4.5(e))
カラー舗装の配合　加熱系混合物の結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料の添加量　・
常温系工法の配合その他　※図示・　(22.6.4(b))

④ コンクリート舗装

コンクリート舗装の構成及び厚さ　車道部　※150mm　・　(22.5.2(a))
歩道部　※ 70mm　・
寒冷地の縁部立下がり寸法　・　(22.5.2(a))
コンクリート舗装に使用するコンクリート　※６章14節による　(22.5.3(a))(表22.5.1)
転圧コンクリート舗装に使用するコンクリート　(22.5.3(a))
・設計基準強度　N/mm²　・所要スランプ　cm
冬期施工での早強セメントの使用　※使用しない　・使用する　(22.5.3(b))
注入目地材料　※加熱施工式低弾性タイプ　(22.5.3(d))(表22.5.3)
・加熱施工式高弾性タイプ
コンクリート目地　種類・　間隔※表22.5.3　・　(22.5.4(e))
構造※図22.5.1　・
コンクリート版の厚さ試験（コア採取）　※行わない　・行う　(22.5.6(a))

5. 透水性
アスファルト舗装

舗装の厚さ　※図示　・30mm　(22.7.2(a))
舗装の平たん性　※著しい不陸がないこと　(22.7.2(b)(2))

⑥ ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装　(22.8.3(a))(22.8.2(a)(1))

種　類	寸法　mm	厚さ　mm	目地材
※普通平板(N)　・カラー平板(C) ・流出平板(W)　・擬石平板(S)	※300角	※60	※砂 ・モルタル

⊙インターロッキングブロック舗装　(22.8.3(b))

種　類	厚さ　mm		色彩及び表面加工等
※普通ブロック　(N-　)	車道部	※80　・	※標準品
⊙透水性ブロック　(P-　)	歩道部	※60　・	・
・植生用ブロック　(G-　)		※80　・100	
⊙視覚障害者誘導用ブロック			

製造所・　(製品名：　)

・舗石舗装　(22.8.3(c))

種類	厚さ　mm	施工方法	規格品
※小舗石（花こう岩） ・	※80～100　・ ・	※うろこ張り ・	※2等品

ブロック系舗装の仕上がり面の平たん性　(22.8.2(b))
※歩行に支障となる段差がないこと。舗装材間の段差3mm以内とする。
ジオテキスタイルの適用　・適用する（品質　）　(22.8.3(f))
・適用しない

7. 砂利敷き

砂利敷き使用材料、種別　(22.9.2)(表22.9.1)
通路　※Ａ種　・材料
建物周囲その他　※Ｂ種　・材料

⑧ 区画線

材料　・路面表示用塗料（トラフィックペイント、JIS K 5665）

種別	・１種（常温）	⊙２種（加熱）	※３種（溶融）
規格	※１号　・２号	※１号　・２号	※１号　・２号

色彩　※白色　・黄色
ライン引きの幅　※150mm　・図示
塗布厚さ　※1.0mm　・

⑨ 車止め

材料　※図示　・
形状　※図示　・
寸法　※図示　・
数量　※図示　・

10. 性能試験

(22.2.5(a)(b)(c)(d))(22.3.5)(22.4.6(c))(22.7.6(c))(表22.4.6)

試験の方法・摘要		試験箇所
路床土の支持力比（CBR）試験 ・行う（※乱した土　・乱さない土）　・行わない		⊙２か所程度
路床締固め度の試験	※行う　・行わない	
路盤締固め度の試験	※行う	
アスファルト混合物の抽出試験 ・アスファルト舗装　・行う　※行わない ・透水性舗装　・行う　※行わない		

２３章　植　栽　工　事

① 植栽基盤整備

※行う　・行わない　(23.2.2)(23.2.3)(23.2.4)(表23.2.1)(表23.2.2)

樹高	有効土層の厚さ cm	工法	整備範囲
・12m以上	※100　・120　・150	※Ａ種	※植込み部分
⊙7～12m	※80　・100	・Ｂ種	・葉張りの範囲
⊙3～7m	※60　・80	⊙Ｃ種	（植高7m以上）
⊙3m以下	※50　・60	・Ｄ種	・図示
⊙芝、地被類	※20	※Ｂ種・Ｃ種・Ｄ種	※植栽範囲

注）工法Ｄ種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

雨水排水の工法　※図示　・暗きょ　・開きょ　・排水層　(23.2.2(c))
・縦穴排水

② 材料

植込み用土　※現場発生土の良質土　(23.2.3(a))
⊙客土　種類　※畑土　・黒土
範囲　※植込み部分　・図示
土壌改良材　適　用　・する　・しない　(23.2.2(e))(23.2.3(b))
種　別　・バーク堆肥Ⓖ　・
・発酵下水汚泥コンポストⒼ
施工範囲　※植込み部分　・図示
特殊基盤整備・

③ 植樹

支柱の形状　※図示　・添え柱形　・鳥居形　・八ッ掛け形　(23.3.3(d))
・布掛け形　・ワイヤ掛け形　⊙地下埋設形
材料　※杉焼丸太(間伐材) Ⓖ　・竹 ⊙金属　・ワイヤー（防錆処理品）(23.3.2(c))
・加圧式防腐処理丸太
支柱の耐風強度※風速30ｍ/ｓ程度に充分耐える強度とする。
幹巻き用材料　※幹巻き用テープ　・わら及びこも　・金属　(23.3.2(d))
新植樹木の枯補償の期間　(23.3.4)
※引渡しの日から1年間　・
移植樹木の枯補償の枯損処理の期間　(23.3.6)
※引渡しの日から1年間　・

④ 芝張り、吹付け
は種及び地被類

⊙芝の種類　※コウライシバ　・ノシバ　⊙耐寒性セントオーガスチングラス シェード2程度　(23.4.2(a))
芝張り工法　平地　※目地張り　・　(23.4.3(a))
法面　※べた張り　・
・
客土　※行わない　・行う（※畑土　・黒土）
・吹付けは種　種子の量　※25 g/m²　・　(23.4.2(c))
種子の種類　※洋芝類　・
被覆養生　・行う　・行わない
⊙地被類　樹種　・　芽立数・　コンテナ径・　(23.4.2(d))
コンテナ数　・　/m²

⑤ 屋上緑化Ⓒ

屋上等の植栽　(23.5.1)
植栽基盤　・屋上緑化システム　(23.5.2(a))
土壌層の厚さ　cm　・図示
※防水保護層
⊙屋上緑化軽量システム　省管理型(アクアソイル工法程度)
排水層　・軽量骨材（厚さ・　mm）⊙板状成形品　(23.5.3(a)(3))
植栽工法　※耐風圧性能　(23.5.4)
性能値　※建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
耐風圧対策　・
見切り材　※図示　・　(23.5.3(e))
舗装材　※図示　・
排水孔　※図示　・
マルチング材 ※図示　・　(23.5.3(e))
支柱　※図示　・　(23.5.4(e))
自動灌水　・行う（※図示）　・行わない　(23.5.4(f))

6. 性能試験

土壌の水素イオン濃度指数(pH)及び電気伝導度(EC)の試験　・行う　・行わない(23.1.3(a))

7. 既存樹林調査

・行う（樹勢、根回り）　・行わない

２４章　ゴンドラ設備工事

1. 設置目的

※外壁清掃用，点検及び補修等
・その他の目的（　）

2. 種別

形式　・電動式台車型アーム俯仰型　・電動式台車型アーム固定型
・
走行方式　・軌道式　・片軌道式　・無軌道式

3. 仕様

ゲージ積載荷重　・　N/台
サクションファン　・あり　・なし

4. 安全性能

耐風圧性能
作業時風速　※水平方向16m/s　垂直方向8m/s
・
格納時風速・風圧力　※建築工事特記仕様書（1）の気象条件による。

耐震性能　※水平加速度1.0G（作業時、格納時共）
・
風速計　※設置する

5. 材料、仕上げ

ゴンドラ本体　・鋼板焼付塗装　・
ゲージ　・鋼板焼付塗装　・
レール　※溶接部亜鉛めっきＡ種　・塗装（　）
※走行部の処理は適切に行う　・下階への騒音対策（　）

6. 避雷設備

避雷設備　・あり　・なし

7. 規格基準

※ｺﾞﾝﾄﾞﾗの構造及び安全装置は以下の法令等に適合すること
「労働安全衛生法・同施工及び規則」
「ｺﾞﾝﾄﾞﾗ安全規則（厚生労働省令を含む）」
「ｺﾞﾝﾄﾞﾗ構造規格（厚生労働省告示）」
「その他の関係法令等」

8. 製造の許可及び検査、届出

※製造所は設計図書に示されたｺﾞﾝﾄﾞﾗの製造及び労働安全法に関し、所轄の都道府県労働安全局長の製造許可・製造検査を受け、検査済証の交付を受ける。
また、労働安全法による設置届けを監理者の指示により行う

9. 承認

※工事着手前に施工計画書・施行図・製作図を作成し、監理者の承認を得る

10. 調整試験・検査報告

※据付完了後の試験運転調整及び工事完了時の試験及び検査の計画書を作成し、その試験報告書を監理者に提出する

Ⅴ．建　築　工　事　指　定　業　者　及　び　メ　ー　カ　ー　リ　ス　ト

工事区分	材料・施工部門	製　造　所　名　及　び　施　工　業　者　名
コンクリート工事	特殊型枠(リブ型枠)	
	床型枠用デッキプレート	
鉄骨工事	耐火吹付け材	
	耐火板	
コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事	ＡＬＣパネル	
	押出成形セメント板	
	ＧＲＣパネル	
防水工事	アスファルト防水	
	合成高分子ルーフィング防水	
	塗膜防水	
	複合防水	
	金属シート防水	
	シーリング（　）	
	（　）	
石　工　事	花こう岩類・大理石	
	テラゾーブロック	
	タイル状花こう岩類・大理石	
タイル工事	外部用タイル	
	内部用タイル	
	特殊タイル	
	はく落防止工法	
木　工　事		
屋根及びとい工事	長尺金属板葺き	
	折板葺き	
金属工事	軽量鉄骨天井・壁下地	
	金属成形板	
	アルミニウム製笠木	
左官工事	仕上塗材	
	吹付け材	
	耐磨耗床	
建具工事	アルミニウム製建具	
	鋼製建具	
	鋼製軽量建具	
	ステンレス製建具	
	自動ドア開閉装置	
	シャッター	
	建具用金物（錠　）	
	（自閉装置）	
	（押板引手）	
	（ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ）	
	（　）	
	ガラス	
カーテンウォール工事	メタルカーテンウォール	
	ＰＣカーテンウォール	
	大型ガラススクリーン	
塗装工事	一般塗料	
	高耐候性塗料（　）	
内装工事	ビニル床シート	
	ビニル床タイル	
	合成樹脂塗り床材	
	フローリング	
	壁紙・布類	
	カーペット類	
	弾性床（　）	
	弾性床鋼製床下地	
	特殊造作（　）	
ユニット及びその他の工事	階段滑り止め	
	黒板・掲示板	
	カーテン	
	ブラインド	
	流し台ユニット	
	サイン・看板	
	移動間仕切	
	可動間仕切	
	フリーアクセスフロアー	
	トイレブース	
排水工事		
舗装工事	透水性舗装	
	インターロッキングブロック	
植栽工事		
搬送設備		

改訂：2016.09.01

音響関連工事特記仕様書（１）

1 一般事項

.1目的

本仕様は所期の音響性能を実現するための施工上の指針であり，設計目標値，材料や機器の選定，および性能確認の手順などについて示すものである。

.2対象工事

以下に示す通りとする。

- 建築工事（舞台機構設備工事、昇降機械設備工事を含む）
- 電気設備工事（舞台音響設備工事、舞台照明設備工事を含む）
- 空調設備工事（衛生給排水設備工事、ガス設備工事を含む）
- その他関連工事

.3適用範囲

2.1にて許容騒音の目標値を設定する居室，設備機械室，その他監督員の指示する室に関係する全ての工事を含む。

.4施工資料の提出

(1) 工事に先立ち，施工図を作成し監督員の承諾を受ける。施工図には本工事の他，関連工事との取合い部を詳細に記載する。また，主要な部分は施工要領書を作成し，監督員に提出する。施工要領書には工程，施工管理体制，工法，作業手順，使用材料，施工精度，検査方法，手直しなどについて詳細に記載する。対象となる事例を以下に示す。

対象工事	施工資料
建築工事	防音建具製作図，客席椅子製作図，内装施工図，浮き構造鉄骨図
	遮音・防振施工要領書，音響内装施工要領書，浮き構造防振計算書
機械設備工事	ダクト・配管施工図
	遮音・防振・貫通処理施工要領，防振計算書，ダクト消音計算書
電気設備工事	配管・配線施工図
	遮音・防振・貫通処理施工要領書

(2) 音響材料は、原則として所定の音響性能データがあるものを採用すること。既存のデータがなく，特に必要と認められるものについては音響性能試験の実施，試験結果の提出を求めることがある。試験対象については，音響特性が明らかでないものについて監督員が指示する。対象となる事例を以下に示す。

- 緩衝材として用いる防振ゴムやグラスウール（バネ定数、許容荷重）
- 室内音響に影響する仕上げ材料，客席椅子（残響室法吸音率）
- 空調換気ダクトに用いる消音器（音響透過損失、風雑音）
- 室内騒音に影響する設備機械（音響パワーレベル）

対象材料	施工資料	
遮音材	遮音構造を構成する板材など	（音響透過損失）
防音建具	扉・シャッター・可動間仕切り・ガラス	（音響透過損失）
防振材	防振ゴム・グラスウール緩衝材	（バネ定数・許容荷重）
制振材	音響反射板・換気ダクト	（比重・音響透過損失）
内装材料	室内音響に影響する仕上材，客席椅子	（残響室法吸音率）
消音器	換気ダクトに用いる消音器	（音響透過損失・風雑音）
制気口・ダンパー	換気ダクトに用いる制気口・ダンパー	（風雑音）
設備機械	室内騒音に影響する空調機・送風機	（音響パワーレベル）

(3) 材料の選定は見本により決定する。

(4) 主要な工事には監督員の立会・検査を受けること。また，必要に応じて，各工事終了後に報告および記録写真を提出し確認を受けること。

(5) 各工事請負者は他工事との綿密な連絡・調整をとり、工事工程、納まりなどに関する打合せを行うこと。

(6) 外気に通ずる開口部ができわめて少ない居室は，内装に用いる材料の換気に対する養生を十分に行うこと。また，内装工事に先立って，仮設換気装置，除湿器などを用いて内装施工箇所の乾燥について注意する。本工事ならびに関連設備工事の従業員の安全・衛生には特に注意する。

2 要求性能

.1室内騒音の低減

(1) 各室内における空調などの定常的な設備運転音が以下に示す基準値を満たすこと。

基準値*1	室名
NC-25～30	
NC-30～35	ホール客席・舞台・調整室・控室
NC-35～40	楽屋・前室1～3・ピアノ庫
NC-40～45	エントランスホール・ホワイエ・廊下2

*1：NC曲線（ベラネク・Noise Contro; 3：1957）

(2) 大道具などにおける衝撃性の固体伝搬音により、基準値を瞬時に超えることは許容する。

(3) ホール内におけるトランス音のような、運用上停止することができない機器より発生する特定周波数の卓越した騒音については、上記基準値より3dB減じた値を目標とすること。

(4) その他の諸室、廊下についても使用上支障のない状態にすること。

.2居室間の遮音

各室間の遮音性能は、以下に示す基準値を満たすこと。

基準値*2	室名	
60dB以上	ホール舞台	⇔ 駐車場・エントランスホール
		生涯学習活動推進室・談話室2
50dB以上	ホール客席	⇔ ホワイエ・楽屋
40dB以上	ホール客席	⇔ 親子室
30dB以上	ホール客席	⇔ 調整室

*2 500～4000Hzにおける特定場所間音圧レベル差 [dB] Dp値（JIS-A1419-1:2000）

.3建具の遮音

(1) 鋼製防音扉などの遮音性能は，以下に示す基準値を満たすこと。

基準値*2	遮音等級*3	備考
40dB以上	T-4	親子室窓
35dB以上	T-3	
30dB以上	T-2	調整室窓
25dB以上	T-1	ホール客席扉・親子室扉・調整室扉・楽屋扉

*2 500～4000Hzにおける特定場所間音圧レベル差 [dB] Dp値（JIS-A1419-1:2000）

*3 遮音性試験による音響透過損失（JIS-A1416:2000および旧JIS-A4706:2000）

(2) 形状、構造および各部寸法は設計図による。表示なき寸法については製造者がこれを決定する。なお，有効高さ2100mmまでの扉を普通扉とし、それを超えるものを大扉と区別する。大扉の締り金物は原則として3点締まりとする。

(3) 使用箇所・取付方法は設計図による。

.5置きの長さ

各室の残響時間は，以下に示す基準値を目標とする。

室名	基準値*5	備考	基準値*5	備考
ホール客席（幕類収納時）	1.2～1.3秒	空席時	1.0～1.1秒	満席時
ホール客席（幕類使用時）	1.0～1.1秒	空席時	0.9～1.0秒	満席時

*5 500Hzにおける残響時間（JIS-A1409:1998）

3 音響関連建築工事

.1材料の選定

遮音防振構造に用いる材料およびその厚さ，密度などは原則として指定のものを使用すること。また，監督員の指示により見本の提出を行い，承諾を得ること。

.2隙間の防止

(1) コンクリート躯体などの遮音層において，その厚さが十分に確保できない場合，隙間の防止と気密性の確保のため，必ず背面に遮音層を追加すること。また，コンクリート躯体以外のPC版，ALC版，コンクリートブロック，各種ボード材などによる壁面については，それら構成材料のもつ遮音性能が十分に得られるようにコンクリート躯体との取り合い部，鉄骨構造との隙間の処理を，モルタル充填，ロックウール充填，石膏ボード増し貼り，遮音シート貼り，シーリングなど，監督員と協議の上決定された方法により入念に行うこと。

(2) コンクリート工事
コンクリート打設部分に生じた豆板部は，音質欠損の原因となるため，内側・外側ともに全て豆板部を取り除きモルタルにて十分圧入押さえを行う。また，駄目穴その他施工上の欠損により隙間などを生じた箇所は，十分なモルタルの充填，補填などを行う。

(3) コンクリートブロック工事
遮音上重要な箇所にコンクリートブロック壁C種を用いる場合は，目地モルタルを十分充填し，特に両端，上下の突き付け部では隙間を生じないようモルタルを確実に充填する。

(4) 左官工事
遮音上重要な箇所に用いるブロック壁は，ラス網張りの上25mm厚のモルタルを塗る。亀裂，剥離等が生じないように入念に施工し，仕上げ面は金鏝で平滑に仕上げる。

(5) パネル工事
遮音上重要な箇所に用いるPC版，ALC版，押し出し中空セメント板は，室内側に2次シールをとる。

(6) 遮音用石膏ボード工事
できる限り切断は行わず定尺あるいは半裁を使用し，2重乱張りとする。継目は突付とし，各層の継目が重ならないよう，かつ継目が野縁または間柱中心になるよう施工する。ボードの切断は丁寧に行い，突付け部分の隙間が生じないように注意する。小ネジは亜鉛メッキとし，150mm間隔内外に留め付ける。出隅，入隅枠まわり及び壁とスラブの取り合いは2層目において十分コーキング材を充填する。

(7) 漏音防止
遮音区画の両側で隣接する各室との間の配線ダクトは漏音の原因となりやすいので各部を点検の上，関連工事(電気設備工事など)完了後両端よりグラスウール及び粘土を充填し漏音を防止する。

.3防音建具

(1) 防音建具の取り付けは，躯体との間に隙間が生じないように，モルタル充填もしくはロックウール充填を行うこと。防音扉については，周辺の戸当たりや召し合せ部のエアタイトゴムの調整を念入りに行い，気密性を保つようにすること。

(2) 取付一般
建具製造者の責任施工とし，取付に際しては外力による変形，損傷などがないように補強剤を用い施工すること。

(3) 扉捨枠の取付
浮構造付け躯体付けのいずれの場合も，捨枠を水平・垂直及び取付位置など十分検討の木部にはボルト，コンクリートにはアンカーを鉄部に溶接して堅固に取付ける。

(4) 枠額縁の取付
内装工事の進捗状況により枠を損傷および汚染する恐れの少なくなった時期に，前記捨枠を基準として正確な位置に扉枠額縁を取付ける。扉枠取付けの水平，垂直の許容誤差は1/2000以下とする。扉枠，捨枠及び額縁の四周は，モルタルまたは豆砂利コンクリートあるいはグラスウールまたはロックウールを十分密実に充填する。さらにコーキングを施し漏音のしないように施工する。施工後は監督員の検査を受ける。また，この検査前に内装工事を進めてはいけない。

(5) 窓枠の取付け
躯体取付け側の窓枠は内装工事以前に取付け，躯体取付け側の窓枠アンカーを鉄部に溶接し，堅固に固定する。浮構造取付け側の窓枠は仮支脚で支持しておく。枠四周はモルタルまたは豆砂利コンクリートを充填し，さらにコーキングを行い，漏音がないように施工する。施工後は，監督員の検査を受ける。また，この検査前に工事を進めてはならない。内装遮音層と窓枠との取り合い部分はコーキング材，グラスウールなどを十分に充填し，漏音がないように施工する。施工後は監督員の検査を受ける。

(6) 扉の取付け
内装工事の完了時に扉を吊り込み，気密材を一様かつ確実に扉面に圧着し扉枠と扉本体との寸法許容誤差は-0.5～+2.5mmとする。この際，周辺から漏音がないように，特に入念に施工する。あおり止め付戸当り，ドアチェックなどを直ちに取付け，組み立て調整を行う。あおり止め付き戸当りは扉面が上下の戸当たりに同時に接着するように入念に取付ける。

(7) 塗装
スチール部分および木部については建具取付け後、塗装を行う。塗装に当たっては気密材に塗料が付着しないように入念に養生し、また金物その他の不要箇所に付着した塗料は除去する。

(8) ガラスのはめ込み
ガラスのはめ込み枠及びガラスは十分に清掃し，取付けゴムにはめ込む。取り付けゴムの向きは設計図により，伸長させないで施工する。

(9) 清掃と養生
取付工事終了後，建具および金物などを十分清掃し，工事による破損，汚染を防止するためにラミネートポリエチレンシートなどで養生する。

・3.4浮き構造

(1) 浮き構造の施工は，経験豊富な音響工事専門業者の責任施工とすること。施工に当たって施工要領書，施工詳細図，および防振支持系の選定のための計算書を提出すること。防振支持系の固有振動数は原則として10Hz以下とすること。防振ゴムには均等に正規の荷重がかかるように調整すること。防振遮音層と躯体との間には，音響ブリッジがないようにすること。浮き構造をダクト配管などが貫通する場合には，ブリッジが生じない構造となるように，対象設備請負業者と十分調整を行うこと。防振ゴムは設計図による所定の防振ゴムを設置し，使用箇所を誤らぬよう十分留意する。

(2) 床下及び土台下防振ゴム
あらかじめ所定の位置に所定の高さの束石のモルタルを設置し，防振ゴムを埋め込む。埋め込みに当たっては，防振ゴムの上端が水平になるよう施工する。防振ゴムが十分安定した後，土台大引きを組み上げ，土台大引き上端が不陸なく水平面になるよう施工する。土台大引き下端と防振ゴム上端面との間に隙間が生ずるときは，パッキンなどを用いて調整する。土台及び大引きの位置が決定した後，防振ゴムに固定する。防振ゴムにひずみが加わるほどナットを締め付けてはならない。防振ゴムの止めネジ部が著しく突出するときは金鋸で切断し，ガスまたは電気による溶断は行わない。防振ゴムは最終荷重時に約2mm～3mm圧縮されるため，床高決定の際には十分に留意する。仮設資材は全て撤去する。

(3) 天井吊り防振ゴム
防振ゴムの特性を加味し吊りボルトの長さを調整し，天井材が水平になるよう施工する。吊りボルトは梁または電気その他の配管に接触しない位置とし，垂直になるよう留意する

(4) 浮き床用グラスウール緩衝材
浮き構造に用いる緩衝材には，JIS-A6322:1979に適合する浮き床用グラスウール緩衝材(密度96kg/㎥，厚さ25mm)と同等の製品を用い，二層重ね千鳥張り施工を行う。

(5) 絶縁
浮き構造内装においては建具枠廻りの壁・天井および床のうち図示する箇所に防振絶縁を行う。これらの箇所には原則としてネオプレン皮膜付き軟質スポンジゴムパッキンを挿入する。パッキング材は監督員の承認を受けたものを用い完全気密になるよう1mm以上パッキンが圧縮される状態に施工する。

.5内装仕上げのビリツキ防止

(1) 金属工事
金属パネルや内装下地は，音によってビリツキが生じないよう，パネルのダンピング，下地材の溶接，コーキングなど入念に施工する。仕上げに用いる石材，金属パネル，ボードは振動によるビリツキやジョイント目地割れを起こさないように，パネルのダンピング，下地の溶接などによる補強，モルタルの充填，ビスの増し打ち，接着剤併用および適切な目地処理を行う。部材寸法・間隔などは設計図による。

(2) 天井下地組
ホール天井仕上げを軽鉄下地軸組とする場合は、ビス止めクリップ方式とし緩みなく堅固に組む。野縁は50×25×0.7@300，野縁受けは50×16×1.4@450，吊り材は直径W3/8間隔450×900程度と対応風圧用を採用する。吊り材の長さが1000超える場合には，原則としてC-100×50×20×2.3@900およびM12@1500程度の2次下地組をする。吊りボルトの振れ止めは平面斜付@1800×断面斜付@1500程度とする。

(3) 軽鉄下地のダンピング処理
ホール天井と壁の仕上げ材は幅45～90×厚さ15程度の板野縁（胴縁）を介して軽鉄下地に緊結する。軽鉄間柱の振れ止めまたはランナーと接している箇所にはコーキングを充填する。また，軽鉄間柱内にはグラスウールを充填する。

(4) カーテンレール
カーテンレール(ランナーとも)は重量カーテン用とする。

.6吸音材料

(1) 材料およびその厚さ，密度などは原則として指定のものとすること。また，監督員の指示により見本の提出を行い承認を得ること。グラスウール，ロックウールなどの吸音材は，必ずJIS-A6301:2007の吸音材料に規定された製品を使用すること。有孔板やリブなどの吸音材の表面仕上げをする場合には有孔板の孔径・配置間隔，リブ寸法・間隔など指定された通りとすること。

(2) 表面ボード貼り
有孔板を用いる場合には，JIS-A5430:2008繊維強化セメント板によるけい酸カルシウム板タイプ２やJIS-A5440:2009による火山性ガラス質複合板など，開口率の大きな有孔加工品でも割れなどが生じにくい材料を採用する。原則として工場加工による455m×605mmを標準とし，現場での成形・穴あけは行わない。なお，有孔板の孔径及び孔間隔は設計図による。ボードは両面シーラー1回塗りの上，有孔板において指定色AEP塗りとし，亜鉛メッキ丸頭小ネジを用い150mm間隔程度で施工する。

(3) グラスウール吸音工事
材料にはグラスウール吸音ボードの規格（JIS-A6301:2007）に適合するものとし、密度、厚さは設計図による。材料の大きさは、輪組み寸法に合わせて寸法形状を正しく切断し、輪組み内に挿入する。輪組みには設計図に従って押縁・木枠・転倒防止ピンなどを使用して、材料が所定位置を確保できるように考慮する。ガラスクロス貼りグラスウール成型板（96kg/m³-t=25）を用いる際は、出隅部に仕上げと同じガラスクロスを巻いた塩ビ製コーナー材を配置すること。

(4) ポリエチレンフィルム張り工事
布貼りなどによる吸音仕上げでは，原則として0.02mmの軟質ポリエチレンフィルムを，軽鉄下地または板野縁あるいは有孔板と仕上げとの間に配置する。吸音グラスウール表面に用いる場合はフィルムの上端を平頭ビスで留め，自然に垂れ下がらせた状態で胴縁及び間柱に釘止めとし，有孔板表面に用いる場合は，板の表面に接着剤を塗布した上，自然状態にして貼り付ける。フィルムは伸張させて張らないように留意する。

(5) 布貼り工事
布貼り工事に使用する壁布あるいはガラスクロスは，紙などの裏打ちがない不燃材料から選定し，監督員の承諾を受ける。挿し込み目地あるいは押し縁止めなどの工法により，不陸だるみなどがないように留意する。

(6) 金網工事
設計図などで指定する径および網目寸法の金網を，布張り表面に仕上げる場合には，目通りよく，不陸たるみなく施工し，端部はスチール板押縁を用いて体裁よく張り上げる。金網はスチール製とし，粉体焼き付け塗装とする。

4 音響関連設備工事

.1一般事項

(1) 騒音・振動源となる設備機器類は騒音，振動の少ない機器を選定すること。

(2) 変圧器，送風機，ポンプ，冷凍機，吹出し口，吸込み口，昇降機など主要な設備機器などは，騒音・振動データを提出し，監督員の承諾を得ること。

(3) 騒音・振動源となりうる機器，ダクト・配管、変圧器，昇降設備は，原則として防振対策を行う。各機器の防振構造は詳細図とともに計算書を提出すること。

(4) 居室内およびその周辺に設置する照明器具，換気口といった設備機器についてもビリツキが生じないように，固定方法などに配慮して施工すること。

(5) 音響用回線，特にマイクロホン回線は弱電の中でもレベルが低く，他の回線から電磁波からノイズを受けやすいので，強電系の系統，調光系の系統，インバータ系統，スピーカ系統などから，ノイズが混入しないように注意すること。強力なノイズを発生する機器については，電源側にノイズカットトランスの設置などの対策を施すこと。

.2設備機器騒音の許容値

(1) 送風機
遠心式および軸流式送風機についてはその騒音の全パワーレベルを吹出側，吸込側ともに原則として以下を許容値とする。

（全パワーレベル［dB］）＝ 91＋10×log（駆動モータ定格出力［kW］）

リミットロード式送風機についてはその騒音の全パワーレベルを吹出側，吸込側ともに原則として以下を許容値とする。

（全パワーレベル［dB］）＝ 94＋10×log（駆動モータ定格出力［kW］）

また，送風機騒音の周波数成分は原則として，全パワーレベルを基準に下表による。

周波数［Hz］	63	125	250	500	1k	2k	4k	8k
遠心式（2kW以上）	-1	-6	-11	-16	-21	-26	-31	-36
遠心式（2kW以下）	-5	-6	-7	-8	-10	-13	-18	-26
軸流式	-8	-7	-7	-7	-8	-10	-12	-17
リミットロード	-10	-9	-3	-9	-12	-16	-21	-28

なお，これらの値をオーバーする場合には監督員の指示による。

(2) 現場組立形空気調和器
送風機の発生騒音については（1）項の指定を適用する。

(3) エアハンドリングユニット
送風機の発生騒音については（1）項の指定を適用する。また、ケーシング側面から1mはなれた場所の騒音レベルは60dB(A)以下とする。

(4) ファンコイルユニット
送風機の発生騒音については（1）項の指定を適用する。また、ケーシング側面から1mはなれた場所の騒音レベルは35dB(A)以下とする。

(5) 冷却塔
送風機の発生騒音には（1）項の指定を適用する。

(6) 冷凍機
1mの距離における騒音レベルが平均80dB(A)を超えず異常音を発せず，また振動の少ないものとする。

.3設備機器騒音の測定

(1) 測定機器
騒音計はJIS-C1509-1～2:2005に定める普通騒音計又は精密騒音計を使用し，分析器はその周波数帯域がISO規格のものを使用する。送風機の測定に際してはマイクロホンに防風スクリーンを使用すること。

(2) 測定環境
機器を運転しない場合の暗騒音は機器騒音より8dB以上小さいこと。また，機器を運転したとき，機器に最も近い壁のそばにおける騒音は機器騒音より8dB以上小さいこと。

(3) 送風機の騒音測定
送風機の使用状態またはそれに近い状態において，吸込口および吸込口からの吸込口直径の1.5倍で最小1m離れた点における騒音を測定する。測定は規定回転数，規定風量で行う。

(4) 測定成績書の提出
測定後すみやかに報告し，監督員の承認を受けること。

.4設備機器の防振

(1) 防振対象機器
電動機，ポンプ，冷凍機および送風機，ならびにこれを防振しないで取り付けてある装置とする。

(2) 防振材料
JIS-K6385:2001および6386:1999が適用される防振ゴム，適切な制動装置を有する金属性防振スプリング，あるいは有溝防振ゴムパッドを用いた構造とし圧縮荷重がかかる構造で使用する。

(3) 防振材料の選定
防振ゴムまたは防振スプリングの硬度，大きさ，個数は防振支持系の固有振動の周波数が原則として下表の値以下となるように防振支持系の重量から算出する。なお，機器重量が不足の場合は基礎あるいは添加加重の方法で支持系重量を増加する。また，ゴムの材質は原則としてクロロプレンとする。

機器の種別		固有振動数	防振材料
回転数1200rpm以上		10	ゴム
回転数850～1200rpm		rpm × 1/120	ゴム
回転数	機能室の隣接室に配置	rpm × 1/120	スプリング
400～850rpm	上記以外	6	ゴム
回転数	機能室の隣接室に配置	rpm × 1/120	スプリング
400rpm以下	上記以外で動力2.2kW以上	rpm × 1/90	スプリング
	上記以外で動力2.2kW未満	10	ゴム

- 固有振動数の単位はHz。
- 往復型機器の場合はrpmのかわりに振動周波数cpmとする。
- ファンコイルユニットは最高運転時だけを対象にとる。
- 防振支持位置はすべての点にほぼ均等な荷重がかかるように決定する。
- 上表における機能室については，2.1（1）による。

(4) 防振設計書の提出
防振設計書および支持位置図を監督員に提出し，その承認を受けなければならない。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 010
音響関連特記仕様書（１）	縮尺 1/A1:- A3:-	日付 2019・02・28	No

音響関連工事特記仕様書（2）

章	項目	特記事項
4 音響関連設備工事		(5) 床据付 ・防振ゴムまたは，スプリングは台座形の製品とし，基礎コンクリート・ベッドと浮基礎台または機器床盤との間に設置する。 ・据付は，取り付ねじ部を直接モルタル埋め込みとするか，あるいは，取り付用金具またはアンカーボルトの埋め込みなどの方法で基礎コンクリートベッドに固定する。治具を利用して所定の位置に正確にかつ垂直度正しく設置し，防振ゴムまたはスプリングを十分強固に固定した後，基礎台または機器床盤をこれに設置する。 ・冷凍機およびポンプは自重と同程度以上の重量のコンクリート製浮き基礎台の上に設置し，これを防振する。 ・遠心式送風機と電動機とは共通架台の上に設置しこれを防振する。電気あるいは給排水の配管等で防振支持系と非防振部分とが接続ないし接触しないように注意して施工する ・据付に際して用いる仮設支脚の類はすべて確実に撤去する。 (6) 天井吊下げ ・機器の吊ボルトの途中に吊形防振ゴムおよびターンバックル形ハンガーを用いること。 ・天井の所定位置に埋め込んだアンカーボルトにハンガーを強固にとり付けること。天井面とハンガー上端面との距離は原則として80mm程度とすること。 ・吊ボルトは防振ゴムを介してハンガーにとりつけ，機器を吊下げること。防振ゴムは確実にハンガーの所定位置に収まり，防振ゴムに垂直に荷重がかかるようハンガーの傾斜を調整すること。 ・吊ボルト，あるいは吊下げた機器などが天井，吸音チャンバーなどに接触しないように施工すること。 (7) 壁面取り付け ・圧力扇および換気扇は防振用ゴム・ブッシングを用いて防振すること。 ・扇枠の取付穴は，必要ならば穴径を拡大し，両側からブッシングを介して取付枠に固定すること。 ・扇枠と取付枠との間隙は軟質ゴム膜あるいはビニール膜で覆い，気密を保つ構造とすること。 ・取付用のボルト・ナットの類が扇枠に直接接触しないように注意して施工すること。 ・扇枠または扇本体が躯体その他の非防振部分に接触しないように注意して施工すること。 (8) 配管類との絶縁 ポンプと水配管，送風機とダクト，またはハンドリングユニットとダクトおよび冷温水管あるいは冷却塔と冷却水配管などは，フレキシブル接手を用いて振動を絶縁する。電気配管についてもフレキシブルパイプあるいはゴムホースを使用して振動の伝達を防止する。 (9) 防振の省略 回転機器が適切な方法で防振して据付られている機器についてはさらに防振据付を行う必要はない。またエキスパンションで主体建築物から絶縁した床に設置される機器についても防振据付の必要はない。ただし，これらの機器に接続される各種配管類は原則として (8) 項により絶縁する。
	⊖.5蒸気配管などの防振	(1) 防振対象配管 ・ポンプに接続されない排水系統を除くすべての系統について，直径32mm以上の配管は防振吊または防振支持とする。ただし，機能室および機能室隣接室と設備機械室まわりの天井，床および壁に支持する場合は，原則としてすべて防振する。防振した配管が躯体を貫通する箇所はすべて防振貫通とする。 ・回転機器に接続される配管および建物のエキスパンションを通過する配管は，この部分に、フレキシブル接手を用いる。 ・浮き構造まわりの躯体壁を貫通する配管は，この部分の浮き構造側に、フレキシブル接手を用いる。 (2) 防振材料 JIS-K6385または6386が適用される防振ゴム，または適切な制動装置を有する金属性防振スプリングで吊形または台座形のものを圧縮荷重がかかる構造で用いる。フレキシブル接手はいわゆるゴム製フレキシブル接手あるいはゴム製エキスパンション接手とする。 (3) 防振材料の選定 ゴムの硬度，大きさは防振支持系の固有振動数が10Hz（600c.p.m）以下になるように支持重量（内部の水の重量も含む）から算出し製造者の標準製品から選定する。支持間隔は配管設備工事の施工仕様による。ゴムの種別は原則としてクロロプレンとする。 (4) 防振設計書の提出 防振設計書を監督員に提出し、その承認を受けなければならない。 (5) 横走り管の天井吊 ・横走り管には原則としてターンバックル形ハンガーと吊形防振ゴムを用いる。単独配管はその吊ボルトの途中に，2本以上の並列配管はその共通受金具の吊ボルトの途中に，4.4(6)項によって施工する。 ・防振支持配管と非防振支持配管を共通架台で支持してはならない。また，防振支持部分が躯体その他非防振部材と接触しないように施工する。また同一受金具に用いた防振ゴムではすべて均等な荷重をうけるように施工する。 (6) 縦管の支持 ・縦管には原則として台座形防振ゴムを用いる。 ・単独配管あるいは並列する配管のいずれの場合にも，配管を固定した受金具と躯体壁または躯体床などに固定した支脚との間に，防振ゴムを設置する。 ・防振ゴムが傾斜したり，防振ゴムに斜めに荷重がかからないように施工する。 (7) 配管の躯体貫通 ・あらかじめスリーブを入れコンクリート打設後これを取去り，管に密着して保温筒を巻きその上をツバ付鉄板にて巻き上げた上，両面よりモルタルを十分につめて閉塞する。 ・管の荷重が貫通部にかからないようにモルタルづめに先だって管位置を十分調整し，必要ならば貫通部の前後を支持する。 (8) 機器類との絶縁など ・フレキシブル接手は原則として縦位置で使用する。 ・フレキシブル接手の長さは次表による。

管径［mm］	長さ［mm］
20，25	200以上
32～80	300以上
100，130	400以上
160，180	500以上

・エキスパンション接手は管径に応じて適当な山数のものを使用する。
・温水配管には，温水温度に応じ耐熱性のものを使用する。

章	項目	特記事項
	⊖.6ダクトの防振	(1) 防振対象ダクト 長辺または直径が500mm以上のダクトについては，すべて防振吊または防振支持とする。 (2) 防振対象範囲 ・2.1（1）で定めるNC-35以下の機能室とその隣接室，および設備機械室を通過するダクトは，原則として防振支持する。 ・防振したダクトが躯体を貫通する箇所はすべて防振貫通とする。 ・ダクトと送風機または還風機および空気調和機（ファン・ルーム、ファン・ケーシングを含む）との接合部には防振接手を設ける。 ・空調機械室の躯体貫通部の隣室側，および浮き構造の躯体貫通部の室内側には防振接手を設ける。 (3) 防振材料 ・原則としてJIS-K6385および6386が適用される防振ゴム，または適切な制動装置を有する金属性防振スプリングで吊形または台座形の防振ゴムを用いる。ただし，特に軽量なダクトには保温材の単状品を利用すること。 ・防振接手は軟質ゴム膜製フレキシブル接手あるいはダブルキャンバス接手とする。 (4) 防振材料の選定 防振ゴムの硬度，大きさの選定は4.5（3）項による。支持間隔はダクト設備工事の施工仕様による。また，ゴム種別は原則としてクロロプレンとする。 (5) 防振設計書の提出 防振設計書を監督員に提出し，その承認を受けなければならない。ただし保温材の単状品を利用する場合を除く。 (6) 横走りダクトの天井吊 4.5(5)項による。 (7) 縦ダクトの支持 4.5(6)項による。 (8) 躯体貫通ダクトの製作 ・ダクト工事の施工仕様により貫通部の厚さ（躯体および仕上げの厚さ）に応じて適当な長さの短管を製作し，その中央部分を（貫通部の厚さ（仕上げ内装部を含む）＋400mm）の長さにわたって断熱材を所定厚さの2倍（ロックウール断熱の場合）または3倍（グラスウール保温材の場合）の厚さに外装する。その外面を25mmつば付亜鉛鉄板0.4mm厚で断熱材の厚さが所定厚さになるように締め上げ防振，遮音外装する。 ・短管はできる限り短いものとし，また防振，遮音外装の両端面と見えがくれ部分は無処理とし，見え掛り部分は監督員の指示により適宜養生する。なお防振遮音部の断熱材は鉄板外装後この両端面に合わせて切断する。 (9) 躯体貫通ダクトの掘え付け まず防振遮音ダクトを所定の位置に仮設し，これに両端からダクトを接続してダクト全系統が所定の位置になるよう防振遮音ダクト位置を調整する。つぎに，貫通部の両側から十分にモルタルを充填して，ダクトを固定するとともに遮音を確保する。防振遮音ダクトの位置の調整に当っては，防振遮音外装部分が貫通部分（仕上内装部を含む）から離脱しないように十分に注意する。 (10) 機器類の絶縁など ・防振接手の長さはダクト寸法に応じ100mm～300mmとし，保温の必要ある箇所は外部に保温材をまきつける。なお，遮音を必要とする風道の場合でも防振接手部分はモルタルその他の外装を設けてはならない。 ・保温材の帯を用いるときは材料を帯状に切断して用いるが，ダクトを支持した場合の厚さが10mm以上になるようにその厚さを調整する。保温材帯で防振する箇所は監督員との打合せで決定する。
	⊖.7ダクト・配管の遮音	(1) 遮音対象ダクト 空調機械室、送・排風機室内のダクトおよび2.1（1）で定めるNC-30以下の機能室の天井裏を通過する他系統のダクトは遮音外装する。 (2) 遮音ダクトの施工 原則として，鋼枠下地にグラスウールボード32k厚さ25mmを充填して，石こうボード9.5mm厚×1枚貼りのうえ，カラーボード6mm厚×1枚貼りおよびアルミコーナジョイナーによって仕上げるものとする。 (3) 遮音対象配管 特に遮音を必要とする配管は設計図による。 (4) 遮音配管の施工 配管保温材のおよび防水紙（21m²当り17kg）巻きのうえ，ラスモルタル25mm厚仕上げとする。
	⊖.8ダクトの吸音内貼り	(1) 内貼り対象箇所 送風機および換気扇を収納する吸音チャンバあるいはケーシング，吸音エルボあるいは吸音直管ダクトとする。 (2) 吸音材料 JIS-A6301:2007に規定するグラスウール吸音ボード32Ｋ厚さ50mm，または64K厚さ25mmを原則とする。 (3) 吸音直管ダクト 垂鉛鉄板製とし板内面に200角に1ヶの割合で銅鋲をハンダ付けし，所定厚さの吸音材料をグラスクロスでおさえ直径25mm程度の座金を介してゆるみなく取付ける。鋲先端が浮き上らないようかつ吸音材が所定の厚さ以下に圧縮されないよう入念に施工する (4) 吸音エルボ 垂鉛鉄板製とし，外側は直角，内側は円弧状にして吸音材を充填した2重整流ベーン付とし，エルボ両側の長さは中心線上で，角ダクトの場合はその対角線長の2倍以上，丸ダクトの場合はその直径の2倍以上にとるものとする。ただし，同等以上の性能を有する工場製作品はその限りではない。（3）にならい施工する。

章	項目	特記事項
		(5) 吸音チャンバ 垂鉛鉄板で指示の寸法に製作し（3）にならい施工する。寸法指定のない場合，断面寸法はダクト断面寸法の2倍以上、また直径の2倍以上として、長さはダクト対角線または直径の1.5倍以上とする。 (6) 機器収納チャンバ （5）に準ずる。 (7) 上記（3）～（5）の公称サイズはすべて内貼り材料内法寸法とする。 (8) 消音器の配置 消音器は吸音エルボ・吸音ボックス・吸音チャンバーを原則とする。各ダクトに配置する消音器の個数は，プレナムチャンバおよび制気口ボックスを除き下表程度とする。

目標値	給気側			還気側		
	機械室	該当室	合計	機械室	該当室	合計
NC-15	3個	3個	6個	3個	2個	5個
NC-20	3個	3個	5個	2個	2個	4個
NC-25	3個	1個	4個	2個	1個	3個
NC-30	2個	1個	3個	2個	0個	2個
NC-35	2個	0個	2個	1個	0個	1個

・還気ファンを設置した場合上表における還気側の個数は給気側と同数とする。
・許容騒音がNC-30以下である居室の制気口ボックスは消音ボックスとする。
・上表において機械室内に必要な消音器が3個の場合，そのうち1つをダクトスペースに割り当ててよい。
・機械室内に３個以上の消音器を配置する場合，空調機から３つ目の消音器以降の機械室内ダクトは遮音外装を行う。

(9) ダクト内風速
ダクトの風速は気流による自己発生音（渦流音）が消音器の騒音低減効果を損なわないようにに，下表にしたがって送風機から制気口に向かって順次低減させる。

部位	面風速
機械室内のダクト	8m/s以下
ダクトスペース内のダクト	7m/s以下
ホール遮音区画貫通部のダクト	6m/s以下
ホール遮音区画貫通後の主幹ダクト	5m/s以下
制気口に接続される枝ダクト	4m/s以下

章	項目	特記事項
	⊖.9舞台機構設備工事および舞台照明工事	(1) 舞台機構，舞台照明に関連する機器は騒音・振動の少ない機種を選定すること。 (2) 工事着手前に実施設計図書に基づき施工図を作成し，監督員の承諾を得ること。 (3) 吊り物の動作時に異常な騒音が発生しないことを確認すること。 (4) 照明、調光器の使用時に異常な騒音が発生しないことを確認すること。 (5) 電気音響設備への電磁雑音の混入を防止すること。
	⊖.10舞台音響設備	(1) 各機器の据付けのうち，特に調整室内各機器間，操作盤及び端子盤の接続については，使用材料・施工方法・施工詳細図を提出し，監督員の承諾を得ること。 (2) スピーカの取付けにあたっては、下記の点に注意すること。 ・スピーカ本体と吊り装置は，スピーカからの振動伝搬を遮断するために，建物躯体と内装（仕上と下地軸組を含む）等に直接接触させないこと。 ・内装開口部との取合いについては、十分打合せを行ない施工すること。 ・スピーカの建物への取付けは，原則として防振支持とする。その範囲は監督員の指示による。 ・ワンボックススピーカ，ホーンスピーカ等は、取付け後も角度の調整が容易に行えるように、余裕を十分にとって取付けること。 (3) 製作機器のうち監督員が必要と認めたものについては，所定の性能に調整した後工場出荷時に監督員立会いの上，検査・調整を行うこと。各機器の調整後の検査・調整報告書は，立会い検査時に提出すること。 (4) その他の既製機器は、工場出荷時に各メーカーで実施した性能成績書を提出すること。
5 音響測定	⊖.1客席椅子の吸音力	建築工事請負者は，客席椅子の製作に先立ち，試作品を作成して吸音力特性試験を実施すること。実施に先立ち試験要領書を作成し，監督員の承諾を得ること。実施後は速やかに測定結果報告書を作成し，監督員の承諾を得ること。 【測定対象】 ホールに設置予定の椅子（複数の仕様があれば仕様ごとに実施） 【測定条件】 空席時および着席時（成人） 【測定方法】 ・JIS-A1409:1998「残響室法吸音率の測定方法」に準拠 ・配列はそれぞれ4脚連結椅子×5列とし，予定の間隔で配置
	⊖.2中間測定	(1) 防音建具の遮音性能 【測定対象】建具表で遮音等級を指定された全ての防音建具 【測定条件】遮音間仕切壁を含む遮音構造が施工完了していること。 【測定方法】5.2.(1)項による 【調整工事】所定の性能が確保されていない場合は，調整工事のうえ，再測定を実施すること。 (2) 空調換気設備運転音（空調換気設備工事施工者が実施） 【測定対象】2.1(1)で指定された居室。 【測定方法】・JIS-Z8731:1999「環境騒音の表示・測定方法」に準ずる。 ・測定周波数は31.5～8000Hzの1/1オクターブ帯域ごと。 【調整工事】各制気口の風量バランス、隣接居室との気圧バランス，居室内の各所におけるドラフトなどを調整のうえ，所定の性能が満足している ことを確認すること。
	⊖.3竣工測定	(1) 測定の目的 建物が完成し，ホールを含む主要な居室が使用可能になった時点で，竣工検査の一環として実施する。測定結果により主要な施設の音響性能を確認し，運用上の資料とする。 (2) 測定実施時期 原則として全ての工事完了後とするが，工程上やむを得ない場合は監督員と協議の上，音響効果が完成時と同等を思われる段階で実施する。その際には次の点に留意する。

章	項目	特記事項
		・全ての養生シート，養生合板などが取り除かれていること。 ・空調機械設備の風量調整および騒音対策が済んでいること。 ・電気音響設備の調整が完了していること。 ・遮音間仕切壁を含む遮音構造が施工完了していること。 ・防音建具の金物や気密材の調整が完了していること。 ・測定中に測定に影響をおよぼす騒音・振動の発生する作業を行わないこと。 (3) 測定実施機関 監督員，または監督員の承諾した音響専門機関が，監理検査の一環として実施する。音響測定実施者は，事前に測定計画書を作成し，監督員に提出してその承諾を得てから測定を実施するものとする。各工事請負者は，測定　の立会い，測定対象物の運転・操作・調整など、測定業務に対して協力すること。空調機械設備をはじめとする各設備工事請負者や防音建具工事請　負者は竣工測定における測定時に所定の性能が得られるよう随時調整・測定を行うこと。 (4) 測定項目 ①残響時間周波数特性 【測定対象】・ホール　空室時/音源1箇所/受音6箇所程度/暢類有無の2条件 【測定方法】・JIS-A1409:1998「残響室法吸音率の測定方法」に準ずる。 ・測定周波数は63～8000Hzの1/3オクターブ帯域ごと ②インパルス応答 【測定対象】・ホール　空室時/音源1箇所/受音6箇所程度/暢類有無の2条件 【測定方法】・ISO3382-1:2009 「Mesurement of room acoustic parameters」に準ずる。 ・音源は全指向性音源とする。 ・インパルス応答はサンプリング周波数48kHz，データ長32bit程度の非圧縮フォーマットで保存すること。 ・250Hz，500Hz，1000Hz，2000Hzのエコータイムパターンおよび C/80，EDT，IACC/E を算出する。 ③定常音音圧レベル分布 【測定対象】・ホール　空室時/音源1箇所/受音＊箇所程度/暢類有無の2条件 【測定方法】・測定周波数は500Hzおよび2000Hzの1/1オクターブ帯域ごと ④遮音性能 【測定対象】・2.2項による。 【測定方法】・JIS-A1417:2000「建築物の空気音遮断性能の測定方法」 附属書2による特定場所間音圧レベル差の測定方法に準じる。 ・測定周波数は63～8000Hzの1/1オクターブ帯域ごと。 ⑤床衝撃音遮断性能 【測定対象】ホール屋根～ホール客席 【測定方法】・JIS-A1418-1～2:2000「建築物の床衝撃音遮断性能」－第1部「標準軽量衝撃源による方法」および第2部「標準重量衝撃源 による方法」による。 ・測定周波数は31.5～4000Hzの1/1オクターブ帯域ごと。 ⑤室内騒音性能 【測定対象】ホール 【稼働設備】・ 給排水衛生設備運転音（給排水衛生設備工事関連） ⊙昇降機械設備運転音（昇降機械設備工事関連） ・舞台照明設備運転音（舞台照明設備工事関連） ⊙舞台機構設備運転音（舞台機構設備工事関連） 【測定方法】⊙JIS-Z8731:1999「環境騒音の表示・測定方法」に準ずる。 ・測定周波数は31.5～8000Hzの1/1オクターブ帯域ごと。

梓設計　建築工事補足仕様書　（平成２８年版）

建築工事補足仕様書(以下「補仕」という。)は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成２８年版（以下「標準仕様書」という）に対して構成されている。

特記補足仕様書

１章　一般共通事項

補５節　施　　工

補1.5.1　総　合　図　等

（ａ）総合図は、施工者が建築、設備、その他関連する工事の概要を把握し、施工図の作成の適正化と効率化のために、一つの図面に建築、電気設備、機械設備その他関連する器具、機械類、アウトレット類を網羅し記入することにより、工事の全体概要と相互関係を把握し、各工事相互の調整、整合を図り、工事の円滑な進行に資することを目的とし作成する。作成する図面の種類と範囲及び縮尺は特記による。

（ｂ）総合図は、建物用途や機能等により、更に詳細な内容や詳細な寸法が必要な場合は、総合施工図として作成する。

（ｃ）総合施工図(以下総合施工図は総合図を含め総合図等という。)の作成は総合図の作成に準拠し、作成の適用及び作成する図面の種類と範囲ならびに縮尺等は特記による。

（ｄ）総合図等の作成は、次による他、総合図等の作成例ならびに記入する機器類等の詳細は、「梓設計工事監理要領」による。

（１）総合図等作成の主体
総合図等は、建築工事施工者が総合図等作成の元図を作成し、各関連工事施工者がこれに記入して作成する。

（２）総合図等の指示と調整
総合図等の作成は、監理者の指示により、各施工者間で調整する。設計図書の不整合、設計変更が発生した場合は、監理者が調整を行う。

（３）総合図等作成の手順と方法
（ｉ）作成手順
工事の工程における総合図等の作成は、工事別施工図の作成開始前に完成する。
（ⅱ）作成要領
基本的に総合図等は、全体的把握が目的であるので、表現は必要最小限としわかり易いことを旨とする。

（４）総合図等に記入する機器類等
総合図等には、各工事に含まれる機器、器具類、アウトレット類を原則として全て、元図となる平面図、展開図、天井伏図等に記入する。別途発注になる家具、機器類も記入する。

（５）総合図の確認と承認
（２）による調整の完了した総合図等に対する監理者による承認の必要性の有無は、特記による。特記がなければ、監理者の調整完了の確認により、各工事別施工図の作成に活用する。確認の場合の手順等に関しては、監理者と協議の上、決定する。

補７節　完成図等

補1.7.1　工事完成図等
ＣＡＤ図面データに関する規定は、下記による他、事前に監理者と打合せを行い、その内容を確認する。

（１）完成図の作成に際して、梓設計作成のＣＡＤ設計図データを使用する場合には梓設計所定の「ＣＡＤデータ使用契約書」により両社において契約を締結する。

（２）ＣＡＤデータを提出する場合、梓設計が受領したＣＡＤデータの使用権は、梓　設計が有するものとする。

（３）ＣＡＤソフトはＡutoＣＡＤを標準とし、データ形式は、ＡutoＣＡＤの標準フォーマットであるＤＷＧ形式とする。(尚、ＡutoＣＡＤは米国オートディスク社の登録商標です。)ＤＷＧ形式への対応ができない場合に限り、ＤＸＦ形式を認める。

（４）ファイル名、レイヤ名、線種、文字スタイル、ペン種別等に関しては、監理者との打ち合わせによる。

（５）ＣＡＤデータの受渡しに際しては、「梓設計工事監理要領」で規定する媒体の　種類、仕様により作成する。

補1.7.2　竣工データファイル
ディスク(記録媒体)による竣工データファイルの作成に関しては、次による他、事前に監理者と打合わせを行い、その内容を確認する。ﾒﾃﾞｨｱ(記録媒体)：DVD-R(Winndows7ﾌｫｰﾏｯﾄ4.7GB以上)

（１）竣工引渡し書類中のディスク化対象書類
（ｉ）建築概要・設計要旨
（ⅱ）完成図
設計図及び各種計算書の引渡し時の状態を表現したものとする。
※具体的な対象図面・書類名称については、「特記仕様書７．完成時の提出書類」による。
（ⅲ）施工図
構造躯体図、カーテンウォール製作図の他、総合図を含む建物維持管理に必要な施工図
（ⅳ）竣工引渡し書類
① 維持管理上必要な図書
② 工事契約上の書類
③ 官公署関連の許可・認可等の書類
※ ①～③の具体的な書類名称については、「梓設計工事監理要領」による。
（ⅴ）竣工写真
竣工写真アルバムと同じカットを収録する。

（２）ディスク作成仕様
ディスク化を行う対象の資料は、スキャナーから読込みデジタル化を行う。
（ｉ）(１)・(ｉ)～(ⅳ)のデジタル化仕様（下記Ｄ、②を収録する）
①ＴＩＦＦファイル形式
データ形式：ＴＩＦＦ(インテルアーキテクチャを標準とする)Ｖ5.0以上、１ファイル１画像
解像度：400dpi(Ａ3を超えるものは200dpi)
色彩：モノクロ　　※カラーの場合はフルカラー
サイズ：原稿原寸
データ圧縮形式：ＬＺＷ
②ＰＤＦファイル形式
上記①の仕様にてスキャナーから読み込んだＴＩＦＦファイルを一つのＰＤＦファイルに変換し同ＣＤ－ＲＯＭに格納する。ＴＩＦＦ形式データにおけるフォルダ、ファイルの階層構造を同様に設定しＰＤＦファイルの“しおり”に置き換える。建物規模が大きく図面の数が多い場合は、監理者と打ち合わせの上、建築・電気・給排水・空調・その他工事のようにカテゴリー毎にそれぞれ一つのＰＤＦファイルとして格納する。（詳細な仕様に関しては「梓設計工事監理要領」による。）
（ⅱ）竣工写真のデジタル化仕様
データ形式：TIFF（インテルアーキテクチャーを標準とする）Ｖ5.0以上、１ファイル１画像
色　彩　　：フルカラー
サイズ　　：原稿原寸
データー圧縮形式：G4MMR
（ⅲ）ディスクには各種ビュワーソフトの格納は行わない。
（ⅳ）その他詳細な仕様については「梓設計工事監理要領」による。

補1.7.3　竣　工　写　真
（ｉ）撮影者、撮影箇所、撮影日時などについては監理者と詳細に協議する。
（ⅱ）設備工事などが分離発注されている場合も、監理者と協議のうえ、各工事協調して撮影からアルバム製作に至る作業を１本化する。
（ⅲ）提出部数、装丁などは下記を標準とする。

	発注者提出用	梓設計受領用⑤～⑨
部数	特記仕様書による部数	
装丁	監理者の指示による	監理者の指示による写真サイズ
写真サイズ	特記仕様書による	特記仕様書による
その他	① 第1頁に建物概要を挿入する。 ② 各写真に標題（撮影箇所の説明）を付ける。 ③ 各写真にネガ照合番号を付ける。 ④ 最終頁に撮影者（名称・住所・電話番号） ネガの所在・版権の所在などを表示する。 ⑤ アルバムには市販のA4版30穴クリアファイル・ホルダーを使用して下さい。 （カラーは黒を使用のこと） ※ 写真枚数に合わせて最適な厚さと、耐久性のあるものを選定して下さい。 ⑥ 写真用ポケットは下記製品、または同様の他社製品を使用して下さい。 建築概要、写真リスト等、キャビネ以上のサイズの写真を入れる場合は通常のA4クリアファイル、または下記製品のA4ﾉ1ポケットを使用して下さい。 ※サンプルが必要な場合は情報システム部へ請求して下さい。 （TEL　03-6710-0364） ※ 透明ポケット２ファイル(A4-L-30穴)　品番S-842 メーカー名：コレクト(株) 東京都台東区元浅草3-19-2 TEL:03-3844-7151 ⑦ 写真サイズは原則としてキャビネ版とし、写真の脱落防止のため中厚の台紙を入れ、１ポケット裏・表に１枚ずつ、計４枚の写真をセットして下さい。 ※ ポケットNo・カット名・ネガNoを台紙左上に、テプラ等による表示して下さい。 （その際はベースの薄いものを使用のこと） ⑧ ページ構成は次の順でセットして下さい。 1）建物概要　2）設計主旨　　3）図面　　4）竣工写真 5）写真リスト　　※ﾎﾟｹｯﾄNo、ｶｯﾄNo、ﾈｶﾞNo ※案内、配置、各階平面、立面、断面図 撮影者名、ｶﾒﾗﾏﾝ名、住所、TEL・FAX ⑨ 竣工写真タイトルは背表紙に縦書きで建物名を、コードNoを横書きで下記の位置に表示して下さい。 建物名または工事名 コード番号 ○○○○ ※背表紙はホルダーの内側にセットして下さい ⑩ 注意：このアルバムは梓設計に提出する１冊のみの体裁です。 それ以外は、要望がない限り現状のアルバムを使用してください。	

注）「その他」の③④項は、後日（場合によっては10年～数10年後）梓設計または発注者から焼増注文を行う際のために必要な事項なので、必ず記載する。

（Ⅳ）アルバムの表紙および背の表示内容は監理者の指示による。
（Ⅴ）建物概要作成仕様は監理者の指示による。
（Ⅵ）竣工写真（カラー）のデジタル化は「補足仕様書1.7.2」による。

補1.7.4　保全に関する資料
保全に関する資料の作成は「共仕」による他、次による。

（１）「建築物等の保守に関する資料」に記載事項
（ｉ）建物の主要な構造部及び外構についての説明
（ⅱ）建物を使用する上での注意事項
（ⅲ）建物に設置されている家具、機器類の概要説明
（ⅳ）建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点
（ⅴ）建物等の清掃の要点
（ⅵ）建物に使用されている主要材料の製造者名、所在地及び連絡先ならびに非常時の連絡体制等に関する一覧表
注）　作成に当たっては、別契約の関連設備工事にかかわる説明書等との内容の調整を十分に行い、建物全体及び各部の機能が耐用年数の間、十分に発揮できるようなものとる。

（２）数量調書
数量調書は、建物完成後の維持管理の保全並びに更新段階に必要となる、建物各部の数量をまとめたもので、工事期間中の設計変更、追加工事等の内容を反映し、建物完成時の状態を表現するものとする。
作成する項目、範囲に関しては特記仕様書　1.7[完成時の提出図書]による他、監理者の指示による。

補1.7.5　施工者による自主的な品質管理
（ａ）請負者は、施工品質の自主的管理を実施するために自主施工管理者を選任した施工管理体制を組織し、自主施工管理者による指導及び監理を実施し、品質管理を徹底する。
（ｂ）自主施工管理者が、その者の責任において実施する指導及び監理者の重点管理項目は、次に掲げる時期及び事項を標準とする。
（１）品質管理の時期
（ｉ）品質保証活動の方針決定段階
施工者は、工事着手時に設計監理者が設計説明会において、建築主の基本的要求品質や設計者の設計意図及び工事監理者による工事監理方針等、設計で意図した要求品質を確保するための方針を受けて、工事目的物を要求性能通りに完成させるために、工事運営計画書を作成する。工事運営計画書は、施工運営方針、基本施工計画、基本施工管理計画により、施工者側の心構え、施工のやり方、品質管理のルールの原則を明確にする。
（ⅱ）合意品質のつくり込みの段階
自主施工監理者と施工者は、設計品質を具体的に品質の目標を定めた合意品質としてつくり込むために、総合的な各工事間の調整を行い、施工図、施工計画書、施工品質管理計画書に反映させる。
施工品質管理計画書に反映させる品質管理の内容は、次の事項を標準とする。
① 品質管理の方針
② 施工中の品質管理
管理項目、管理水準(規準)、管理分担、管理方法、管理限界を外れた場合の処置
③ 施工完了時の検査
検査項目、検査方法、検査体制
（ⅲ）品質保証活動の確認の段階
施工者は、「合意品質のつくり込み」で具体的に計画した活動を実施し、その結果が目標レベルでの許容範囲内に入っているかどうか確認するため工事中間時及び工事完成時に性能、機能検査を含めた品質検査を行い、記録、報告する。

（２）品質管理の対象事項
（ｉ）品質管理を実施する事項は、「共仕」の基本要求 品質に関する事項及び建築工事監理指針(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修平成25年版)による各章の基本要求品質及び、施工計画書記載事項のうち、品質計画に関する事項とする。各章の項目に表示されている項目は補表1.7.1による。

補表1.7.1　建築工事監理指針による基本要求品質及び施工計画書に記載する品質計画

章	工事項目	基本要求品質	施工計画書に記載する品質計画
3	土工事	3.1.2	3.1.1(ｃ)
4	地業工事	4.1.2	4.1.1(ｃ)既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業 4.4.1(ｃ)鋼杭地業 4.5.1(ｃ)場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業
5	鉄筋工事	5.1.2	5.1.1(ｃ)
6	ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	6.1.2	6.1.1(ｃ) 6.5.1～6.5.5普通ｺﾝｸﾘｰﾄの品質管理 6.9.1～6.9.2型枠 6.11.3～6.11.5軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.12.3　寒中ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.13.3～4ﾏｽｺﾝｸﾘｰﾄ 6.14.3無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.15.2～6.15.5高強度ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.16.3高炉ｾﾒﾝﾄB種を用いる普通ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.17.5流動化ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.17.5流動化ｺﾝｸﾘｰﾄ
7	鉄骨工事	7.1.2	7.1.5(ａ)～(ｅ)
8	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ ALCﾊﾟﾈﾙ・押出 成形ｾﾒﾝﾄ板工事	8.1.2	8.2.1(ｃ)補強ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造 8.3.1(ｃ)ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ帳壁及び塀 8.4.1(ｄ)ALCﾊﾟﾈﾙ
9	防水工事	9.1.2	9.2.1(ｃ)(３)アスファルト防水 9.3.1(ｃ)(２)改質アスファルトシート防水 9.4.1(ｃ)合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水 9.5.1(ｃ)塗膜防水 9.6.1(ｃ)ｼｰﾘﾝｸﾞ
10	石工事	10.1.2	10.1.1(ｄ)
11	タイル工事	11.1.2	11.3.1(ｂ)陶磁器質ﾀｲﾙ張り 11.4.1(ｂ)陶磁器質ﾀｲﾙ型枠先付け
12	木工事	12.1.2	12.1.1(ｃ)
13	屋根及びとい工事	13.1.2	13.2.1(ｃ)長尺金属板葺 13.3.1(ｃ)折板葺 13.4.1(ｃ)粘土瓦葺 13.5.1(ｂ)とい
14	金属工事	14.1.2	14.4.1(ｃ)軽量鉄骨天井下地 14.5.1(ｃ)軽量鉄骨壁下地 14.6.1(ｃ)金属成形板張り 14.7.1(ｃ)ｱﾙﾐﾆｳﾑ製笠木 14.8.1(ｃ)手すり及びﾊﾞﾗｽﾀｰ
15	左官工事	15.1.2	15.2.1(ｃ)ﾓﾙﾀﾙ塗り 15.4.1(ｃ)ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り 15.5.1(ｃ)仕上塗材仕上げ 15.6.1(ｃ)せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ塗り
16	建具工事	16.1.2	17.1.3(ａ)～(ｄ)
17	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	17.1.2	18.1.1(ｃ)
18	塗装工事	18.1.2	18.1.1(ｃ)
19	内装工事	19.1.2	19.2.1(ｃ)ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ、ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ及びｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ張り 19.3.1(ｃ)ｶｰﾍﾟｯﾄ敷き 19.4.1(ｃ)合成樹脂塗り床 19.5.1(ｃ)ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り 19.6.1(ｃ)畳敷き 19.7.1(ｃ)せっこうﾎﾞｰﾄﾞ、その他ﾎﾞｰﾄﾞ及び合板張り 19.8.1(ｃ)壁紙張り 19.9.2(ｃ)断熱・防露
20	ﾕﾆｯﾄ及びその他の工事	20.1.2	20.3.1(ｄ)ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ工事
21	排水工事	21.1.2	21.1.1(ｆ)
22	舗装工事	22.1.2	22.1.1(ｄ)
23	植栽工事	23.1.2	23.1.1(ｃ)

注）基本要求品質欄の番号は、平成25年版「共仕」の項目番号を示し、施工計画書に記載する品質計画欄の番号は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築工事監理指針平成25年版」の項目番号を示す。

（ｃ）自主施工管理者の実施する重点管理項目は、(ｂ)による事項について、施工者は監理者との協議により、当該工事の品質管理上必要な事項を重点管理項目に選定して、運用する。

補８節　性能試験

補1.8.1 性能試験
（ａ）材料や施工の品質及び性能の確認のために実施する性能試験を要する工事の内「共仕」に記載されたものを除いた試験は次により、その適用は、特記による。
（ｂ）試験の項目

（１）防水工事	漏水試験(防水一般) 塗膜厚試験(塗膜防水) 漏水試験(金属シート防水) 真空試験(金属シート防水)
（２）石工事	圧縮強さ試験
（３）タイル工事	接着力試験 吸水率及びひび割れ試験
（４）木工事	含水率試験
（５）屋根及びとい工事	とい漏水試験
（６）金属工事	金属素地上の焼付け塗装の塗膜厚試験 金属素地上の焼付け塗装の品質試験
（７）建具工事	耐風圧性能試験 気密性能試験 水密性能試験 遮音性能試験 断熱性能試験 耐震性能試験
（８）カーテンウォール工事	ユニットの耐風圧性能試験 ユニットの層間変位追従性能試験 ユニットの水密性能試験
（９）塗装工事	塗り厚試験
（10）内装工事	床遮音性能試験
（11）ユニット及びその他の工事	音環境測定試験 後付けアンカー引抜き試験

（ｃ）試験の工程
（１）　防水工事
（ｉ）屋外（屋根等）漏水試験は、原則として3日間水張り試験とし、水張り深さは水上で10cm以上とする。但し、荷重条件等により水張り試験が困難な場合には、監理者と協議の上、放水試験に替えることができる。
（ⅱ）屋内(浴室、厨房等)漏水試験は、原則として24時間水張り試験とする。
（ⅲ）外壁防水層の厚さの試験は、製造所監理者の報告による。
（ⅳ）金属シート防水の試験の種別は次による。
① 真空試験：各継手交点を行う。
② 漏水試験：防水工事に倣う。

（２）石工事
試験は、JIS A5003(石材)の規定により、種別は次による。
① 吸水率試験
② 圧縮強さ試験

（３）タイル工事
吸水率及びひび割れ試験：寸法及び形状がJIS A5209(陶磁器質タイル)の規格にないものは、吸水率及びひび割れ試験(オートクレーブ試験器)を行う。吸水率は3%以下、ひび割れ試験圧力は1Ｎ/mm２を標準とする。

（４）木工事
含水率試験：工事現場に搬入時とし、測定方法は全乾重量法又は高周波水分計法とする。

（５）屋根及びとい工事
とい　屋根の排水管は満水試験を行う。

（６）金属工事
（ｉ）金属素地上の合成樹脂塗料の焼付け塗装の試験は、JIS K 5980（金属素地上の合成樹脂塗料の焼付け塗膜）の規定により、種別は次による。
① 外観試験
② 塗膜厚の測定
（ⅱ）金属素地上の合成樹脂塗料の焼付け塗装の仕上がり塗膜の品質試験は補14.9.7[検査]の補表14.9.14「仕上がり塗膜の性能」の試験項目及び試験条件による。

（７）建具工事
（ｉ）性能及び区分は下表とし、JIS A 4706(サッシ)の規定による。
（ⅱ）試験方法は、JISの規定により、種別は次による。但し、カーテンウォール製品は、カーテンウォール性能基準(JCMA基準)を適用する。
① 耐風圧性能試験JIS A 1515(建具の耐風圧性試験方法)
② 気密性能試験　JIS A 1516(建具の気密性試験方法)
③ 水密性能試験　JIS A 1517(建具の水密性試験方法)
④ 遮音性能試験　JIS A 1416(実験室における音響透過損失測定方法)
⑤ 断熱性能試験　JIS A 4710(建具の断熱性試験方法)
⑥ 耐震性能試験　JIS A 1521(片開きドアセットの面内変形追随性試験方法)
⑦ 耐風圧性能試験JIS A 4705（重量シャッター構成部材)
⑧ 耐風圧性能試験JIS A 4704（軽量シャッター構成部材)
⑨ 耐風圧性能試験JIS A 4715（オーバーヘッドドア構成部材)

補表1.8.1　耐風圧性能(Pa)

耐風圧性能の等級	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6	S-7	S-8
JISによる対応値	800	1200	1600	2000	2400	2800	3600	U

補表1.8.2　気密性能(等級線)

気密性能の等級	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
JISによる対応値	12	30	8	2	U

補表1.8.3　水密性能(Pa)

水密性能の等級	W-1	W-2	W-3	W-4	W-5	W-6
JISによる対応値	100	150	250	350	500	U

補表1.8.4　遮音性能(等級線)

遮音性能の等級	T-1	T-2	T-3	T-4	T-5
JISによる対応値	25	30	35	40	U

補表1.8.5　断熱性能(㎡･K/W)

断熱性能の等級	H-1	H-2	H-3	H-4	H-5	H-6
JISによる対応値	0.215	0.246	0.287	0.344	0.430	U

補表1.8.6　面内変位追随性能(rad)

面内変位追随性能の等級	D-1	D-2	D-3	D-4
JISによる対応値	1/300	1/150	1/120	U

補表1.8.7　耐風圧性能（Pa）
重量シャッター耐風圧性能等級は削除、(社)日本ｼｬｯﾀｰﾄﾞｱ協会「ｼｬｯﾀｰ･ﾄﾞｱ耐風圧強度計算基準」による。

補表1.8.8　耐風圧性能（Pa）
軽量シャッター耐風圧性能等級は削除、(社)日本ｼｬｯﾀｰﾄﾞｱ協会「ｼｬｯﾀｰ･ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ耐風圧強度計算基準」による。

補表1.8.9　耐風圧性能（Pa）
オーバーヘッドドア耐風圧性能等級は削除、(社)日本ｼｬｯﾀｰﾄﾞｱ協会「ｼｬｯﾀｰ･ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ耐風圧強度区分」による。
注）Ｕ：JIS規格を超えるもの。数値を指定する場合は特記とする。

（８）カーテンウォール工事
性能及び区分は補表1.8.10～補表1.8.12とし、社団法人日本カーテンウォール工業会のカーテンウォールの性能基準(ＪＣＭＡ基準)の規定による。試験方法はJIS A 1414(建築用構成材(パネル)及びその構造部分の性能試験方法)及びＪＣＭＡ基準を適用する。
① ユニットの耐風圧性能試験
② ユニットの層間変位追従性能試験
③ ユニットの水密性能試験

補表1.8.10　耐風圧性能グレード

荷重(Pa)	2400		2800		3600		5000	
性能グレード	1	2	3		4		5	

補表1.8.11　層間変位追従性能グレード

層間変位角(rad.)	条件1			1/400		1/300
	条件2	1/300	1/200	1/150	1/100	
性能グレード	1	2	3	4	5	

注）条件１：健全で再使用できる程度
条件２：主要部が破損しない程度

補表1.8.11　層間変位追従性能グレード

圧力差(Pa)	可動部	350	500	650	1000
	はめ殺し部	650	1000	1500	2000
性能グレード		1	2	3	4	5

（９）塗装工事
塗料一般の試験は、JIS K 5400(塗料一般試験方法)の規定により、塗り厚試験の項目は、次による。
① 外観試験
② 塗装厚の測定
③ 試験を行う塗料の種類及び適用箇所は、特記による。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者
一級建築士 第199758号 永廣　正邦
一級建築士 第359522号 松浦　暢

法適合確認欄
一級建築士 設備設計一級建築士 第2092号 押久保　正則

検証者 xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号 A — 012
建築工事補足仕様書（１）	縮尺 1/Ai:- /A3:- ／日付 2019・02・28	No

（10）内装工事
（ｉ）フローリング張り床、弾性床及び遮音床の遮音性能試験測定方法及び、評価方法は、次のJIS
の規定及び日本建築学会推奨測定基準による。又、測定対象は、軽量衝撃音及び重量衝撃音とし、適用は特記による。
① JIS A 1418(建築物の現場における床衝撃音レベルの測定方法)
② JIS A 1419(建築物の遮音等級)
（ⅱ）音環境測定試験
① 測定方法及び、評価方法は、次のJISの規定及び日本建築推奨測定基準による。
（イ）JIS A 1409（残響室法吸音率の測定方法）
（ロ）JIS A 1417（建築物の現場における音圧レベル差の測定方法）
（ハ）JIS A 1418（建築物の現場における床衝撃音レベルの測定方法）
（ニ）JIS A 1419（建築物の遮音試験等級）
（ホ）JIS A 1520（建具の遮音試験方法）
（ヘ）JIS Z 8731（騒音レベル測定方法）
② 測定項目は、次により、項目の適用及び測定対象室等の適用箇所は、特記による。
（イ）外周壁遮音測定
（ロ）室間遮音測定
（ハ）床衝撃音測定
（ニ）室内音響測定　室内騒音レベル測定、室内残響測定、室内明瞭度測定
（ホ）給排水音測定

（11）ユニット及びその他の工事
後付けアンカー引抜き試験
① 非破壊試験は、設計用引張強度の1.3倍の荷重を検査荷重とした引張加力試験を行う。
② 試験本数は、全本数の3%かつ3本以上とし、不合格が発生した場合には全本数の20%を試する。
その中で不合格が生じた場合は全数試験をする。
③ 不合格となったものは、切断の上新たに施工し直すことを原則とする。

2章　仮設工事

補5節　工事用看板

補2.5.1　工事用看板
（ａ）工事現場の適切な場所に、下記仕様の枠設計工事用看板「社名看板」、「外部足場上部用看板」、「監理事務局（監理事務所）用看板」「モニタリング業者用看板」を設ける。
（ｂ）「社名看板」
（１）工事現場に掲示する看板は、工事現場の歩道側に設け、看板中心の高さは目の高さ(1,500mm)とする。
（２）掲示する箇所数は、敷地に面する前面道路(幅員 5,500mm以上)に対して、最低1個所掲示する。敷地に面する道路（幅員5,500mm以上）が２以上ある場合は、接道距離がそれぞれ10m以上ある場合に限り、それぞれ1個所掲示する。
（３）看板の大きさは、Ｂ－１版(800mm×1,100mm)とする。
（ｃ）「外部足場上部用看板」
（１）設置について、設置場所・時期などは監理者の指示による。
（２）看板の大きさは、(780mm×780mm×５枚)とする。
（ｄ）「監理事務局（監理事務所）用看板」
（１）設置について、採否・設置場所などは監理者の指示による。
（２）看板の大きさは、(450mm×320mm)とする。
選択については監理者の指示による。
（ｅ）上記看板の色彩は各々2種類が指定されています、設置場所・背景等を考慮して何れかを選択する。
注記）「設計・監理」の文字は設計・監理業務の形態により「設計」のみの業務又は「監理のみの業務に応じて表記文字を変更し、寸法を合わせる。
（ｆ）工事用看板の製作者は、特記による。
（ｇ）各仕様は「枠設計工事監理要領」による。

8章　ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾟﾛｯｸ・ALCﾊﾟﾈﾙ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事

補4節　ＡＬＣパネル

補8.4.1　ＡＬＣパネル
この節は、建築基準法により認定されたＡＣＬパネルを間仕切壁、屋根(非歩行用)、床及び外壁に用いる工事に適用する。ここに規定のないものは、'共仕,8章4節［ＡＬＣパネル］による。

補8.4.2　材　　料
（ａ）外壁パネルのパネル形状、表面形状等は次により、適用は特記による。
（１）パネル形状
（ⅰ）一般パネル（平パネル）、（ⅱ）コーナーパネル
（２）表面形状等
（ⅰ）フラットパネル、（ⅱ）デザインパネル、（ⅲ）プレコートパネル、（ⅳ）掃水パネル
（ｂ）間仕切壁パネルのパネル形状、表面形状等は次により、適用は特記による。
（１）パネル形状
（ⅰ）一般パネル（平パネル）、（ⅱ）コーナーパネル
（２）表面形状等
（ⅰ）フラットパネル、（ⅱ）デザインパネル、（ⅲ）掃水パネル

補8.4.3　屋根及び床パネル構法
屋根及び床パネル構法は'共仕,8.4.5[屋根及び床パネル構法]に指定された構法を、敷設筋構法と称す。

補8.4.4　耐火性能
（ａ）パネルの耐火性能は、特記による。
（ｂ）耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（ｃ）取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

補5節　押出成形セメント板(ECP)

補8.5.1　押出成形セメント板(ECP)
この節は、外壁及び間仕切壁に用いる押出成形セメント板(以下、ECPパネルという)の工場製品に適用する。
ここに規定のないものは、'共仕,8章5節[押出成形セメント板]による。

補8.5.2　材　　料
ECPパネルのうち壁用パネルの種類、表面形状等は、次により、適用は特記による。
（１）種　　類
（Ⅰ）常備品、（Ⅱ）受注生産品、（Ⅲ）特注品
（２）表面形状
（ⅰ）フラットパネル、（ⅱ）標準リブパネル、（ⅲ）特注規模パネル、（ⅳ）タイルパネル、（ⅴ）タイル下地パネル、（ⅵ）塗装化粧パネル、（ⅶ）コーナーパネル

補8.5.3　パネルの取扱い
（ａ）種類、長さなどの異なるパネルは、原則として混合して積上げてはならない。

補8.5.4　外壁パネル工法
外壁パネル工法は'共仕,8.5.4［外壁パネル工法］の表8.5.1［外壁パネルの取付け工法種別］にＤ種を追加する。
Ｄ種の工法は補表8.5.1による。

補表8.5.1　外壁パネルの取付け工法種別

種　別	取　付　け　工　法
Ｄ　種	（大型パネル工法） （１）工場組立とする。 （２）性能は、建築基準法施行令又は建設省告示第1458号(平成12年5月31日)に定められた風圧に対して安全なものとし、層間変位追従性等の性能について満足するものとする。 （１）性能などを証明する計算書等の資料を提出すること。 （２）所定の取付け順序及び方法によって建込み、仮止め後取付け位置を調整し、本締めを行う。 現場溶接を行った場合には、'共仕,表18.3.1[鉄鋼面積止め塗料の種別]のＢ種の錆止め塗装を行う

補8.5.5　溝掘り及び開口部の補強
（ａ）切断加工(欠込み及び孔あけ)は原則として工場加工とし、パネル製造所の基準に基づいて行う。切断部は必要に応じて補修材にて充填を行う。
（ｂ）開口部の補強は、特記による。特記がなく、地上高さが16m以下の部分で軽微な場合は次による。
（１）外壁パネル縦張り工法

補表8.5.2　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1000	Ｌ－50×50×6	Ｌ－50×50×6
1000＜Ｗ≦1800	Ｌ－65×65×6	Ｌ－65×65×6
1800＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×6	Ｌ－75×75×6

（２）外壁パネル横張り工法

補表8.5.3　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1500	Ｌ－75×75×6	Ｌ－50×50×6
1500＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×9	Ｌ－65×65×6

（３）間仕切壁パネル工法

補表8.5.4　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1000	Ｌ－50×50×6	Ｌ－50×50×6
1000＜Ｗ≦1800	Ｌ－65×65×6	Ｌ－65×65×6
1800＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×6	Ｌ－75×75×6

補8.5.6　耐火性能
（ａ）耐火性能は、特記による。
（ｂ）ECPパネルの中空充填材（外壁は除く）はロックウールとし、適用は特記による。
（ｃ）本実継ぎ以外の目的は耐火目地材を充填する。耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（ｄ）ECP取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

補8.5.7　施　工　図
（ａ）ECPパネルの割付図を作成する。
（ｂ）ECPパネル幅の最小限度は、原則として補表8.5.5による。

補表8.5.5　ECPパネル幅の最小限度

パネル長さ　Ｌ　mm	Ｌ≦2000	2000＜Ｌ≦3000	3000＜Ｌ≦5000
最小幅　mm	200	250	300

補6節　繊維補強セメント・コンクリート複合材

補8.6.1　適 用 範 囲
この節は、各種繊維により補強されたセメント・コンクリートの工場製品に適用する。

補8.6.2　種　　別
（ａ）繊維補強セメント・コンクリート複合材の種別は次による。
（１）炭素繊維補強セメント複合材　ＣＦＲＣ(Carbon Fiber Reinforced Concrete)
（２）ガラス繊維補強セメント複合材　ＧＲＣ(Glass Fiber Reinforced Concrete)
（３）鋼繊維補強セメント複合材　ＳＦＲＣ(Steel Fiber Reinforced Concrete)
（４）合成繊維補強セメント複合材 ＰＦＲＣ(Plastic Fiber Reinforced Concrete)
（５）ビニロン繊維補強コンクリート板ＶＦＲＣ (Vinilon Fiber Reinforced Concrete)
（ｂ）繊維補強セメント・コンクリート複合材の標準的な適用は次により、その適用は特記による。
（１）一般的な建築内外壁材は、ＣＦＲＣ又は、ＧＲＣを適用する。
（２）外溝及び土木用の部材は、ＳＦＲＣを適用する。
（３）強度及び耐火性能等をそれほど必要としない備品的な成形品は、ＰＦＲＣを適用する。

補8.6.3　材　　料
繊維補強セメント・コンクリート複合材を構成する材料は、セメント、骨材(砂、人工軽量骨材)、繊維により構成され、使用するセメントによるパネルの物性その他特徴は、補表8.6.1により、その適用は、特記による。

補表8.6.1　使用するセメントによるパネルの物性その他

物性その他	普通ポルトランドセメント	低アルカリセメント
アルカリ性	PH－12～12.5	PH－10.5～11
インサート類	電気亜鉛めっき程度	ステンレス
吸水率	6～9%	12～18%
塗装性	密実なので塗装ののりが良い	ポーラスであるので、塗装には下地 処理が必要
乾燥収縮率	$600\sim800\times10^{-6}$	$300\sim400\times10^{-6}$
模様	角欠けしにくく模様の再現性が良い	脱型時にやわらかいため模様の再現性は劣る
表面仕上げ材	打放し品に適する塗装	塗装・タイル・石打込み、長大・細長品に適する
耐久性	タイル・石型枠先付けの場合、版の「そり」が発生しやすい	乾燥収縮率が小さいので耐久性が高い
コスト	-	セメント、取付け金物とも高価

補8.6.4　工　　法
繊維補強セメント・コンクリート複合材パネルの製造法は次により、その適用は特記による。
（１）ダイレクトスプレー法（ＧＲＣに限る）
薄板上で、複雑なパターンの模様、形状等を持つパネル製品の成形に適している。レリーフ、くり形等の表現の際内部を空洞化し、軽量化できる。セメントモルタルをスプレーガンで吹付け加工しながら同時に繊維をチョッパーガンで一定の長さに切断しながら吹付けていく方法。ＦＲＰ製品の製法に近く、高強度で軽量なパネルが得られる。
（２）プレミックス法
セメントと、あらかじめ適当な長さに切断された繊維をミキサー内で混合し、形枠に流込む工法。混合時のガラス繊維の損傷で成形が困難である等の難点があったが、流込み技術の改善により採用が増えている。ＰＣ板の製法に近く、ダイレクトスプレー法に比べ厚肉で重量も大となる。補強筋(線)により強度を付加する場合が多い。

補8.6.5　耐 火 性 能
（ａ）パネルの耐火性能は、特記による。
（ｂ）耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（ｃ）取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

補7節　穴あきＰＣ板

補8.7.1　適 用 範 囲
この節は、建築基準法により認定された、空洞プレストレストコンクリートパネル(以下穴あきＰＣ板と称す)を外壁及び間仕切壁のうちの非耐力壁と屋根及び床に用いる工事に適用する。

補8.7.2　材　　料
（ａ）穴あきＰＣ板は、JIS A 6511(空洞プレストレストコンクリートパネル)の規格品とし、種類、寸法、配筋による種別、表面形状、表面仕上げ材、常備品及び特注品等の区分は、特記による。
（ｂ）鋼材の種類
（１）JIS G 3536(ＰＣ鋼線及びＰＣ鋼より線)に規定するＰＣ鋼より線並びにこれに準ずるもの
（２）JIS G 3109(ＰＣ鋼棒)に規定するＰＣ棒鋼
（３）鉄筋の種別は'共仕,表5.2.1[鉄筋]により、径は板厚に適応したものを使用する。
（４）JIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)に規定する平鋼
（５）JIS G 3532(鉄線)に規定する普通鉄線
（６）JIS G 3551(溶接金鋼)に規定する溶接金鋼
（ｃ）取付け金物
（１）ボルト、ナット及び座金の形状寸法等は、JIS B 1180(六角ボルト)、JIS B 1181(六角ナット)及びJIS B1256(平座金)による。
（２）取付け金物及び開口部補強鋼材はJIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)のSS400とする。
（３）その他の金物は、穴あきＰＣ板製造所の指定する製品とする。
（ｄ）金物の表面処理
ボルト、ナット、座金及びその他の取付け金物、開口部補強鋼材及び溶接部には'共仕,表18.3.1[鉄鋼面錆止め塗料の種別]のＢ種の錆止め塗装を行う。
（ｅ）コンクリート
（１）コンクリートの強度は材齢28日で40Ｎ/mm2以上とする。
（２）ＰＣ鋼材のコンクリートかぶり厚は20mm以上とする。

補8.7.3　その他の材料
（ａ）モルタル用材料は、'共仕,15.2.2[材料]により、調合は穴あきＰＣ板製造所の指定する調合比とする。
（ｂ）モルタルに使用する混和剤は、穴あきＰＣ板製造所の指定する製品とする。
（ｃ）穴あきＰＣ板の補修に用いる材料は、穴あきＰＣ板製造所の指定する製品とする。
（ｄ）穴あきＰＣ板相互の接合部に用いるシーリング材は、特記仕様書9.12[シーリング]による。

補8.7.4　穴あきＰＣ板の取扱い
穴あきＰＣ板の積上げには、捩れ、反り、及び曲がり等が生じない様に、所定の位置に正確に飼いものを飼い、積上げ高さは板の長さが5m未満の場合は10枚、5m以上の場合は7枚以下とする。

補8.7.5　施　工　図
（ａ）パネルの割付図及び施工図を作成する。
（ｂ）穴あきＰＣ板の板幅の最小限は原則として壁用500mmとする。

補8.7.6　工　　法
（ａ）外壁縦張り工法
（１）取付け工法は、層間変位対応工法とし、層間変位量は、特記による。
（２）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（３）位置を決定したパネルを、上端2ヶ所以上下端2ヶ所以上の埋込み金物に、取付けピース(ファスナー)金物を当てがい、躯体に現場溶接で取付ける。
（４）ファスナーは、製造所の指定するものを使用する。
（ｂ）外壁横張り工法
（１）取付け工法は、層間変位対応工法とし、層間変位量は、特記による。
（２）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（３）位置を決定したパネルを、上端2ヶ所以上下端2ヶ所以上の埋込み金物に、取付けピース(ファスナー)金物を当てがい、躯体に現場溶接で取付ける。
（４）ファスナーは、製造所の指定するものを使用する。
（ｃ）間仕切壁縦張り工法
（１）取付け工法の種類は、層間変位対応工法又は固定取付け工法とし、種別は、特記による。
（２）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（３）層間変位対応工法の上部は、片側の通しアングルに1枚当たり2ヶ所のアングルピースでパネルをはさみ込み、現場溶接で取付ける。又、パネル上部にロックウールを充填し、充填高さは、特記により、特記がなければ50mm以上とする。
（４）固定取付け工法は、位置を決定したパネルを片側の通しアングルに上端2ヶ所、下端2ヶ所でアングルピースを当てて躯体に現場溶接で取付ける。
（ｄ）間仕切り壁構張り工法
（１）取付け工法の種類は、層間変位対応工法又は固定取付け工法とし、種別は、特記による。
（２）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（３）層間変位対応工法は、パネルの上端2ヶ所下端2ヶ所の埋込み金物に取付け金物(ルーズホール付)を当てがい、躯体に現場溶接で取付ける。又、取付け金物及び固定工法は、製造所の仕様による。
（ｅ）普通床工法
（１）取付け工法の種類は、現場溶接工法及び置きスラブ工法とし、種別は、特記による。特記がなければ現場溶接工法とする。
（２）パネルを所定位置に敷込む。
（３）現場溶接工法では、位置を決定したパネルを左右4ヶ所のアンカーに溶接する。
（４）置きスラブ工法では、位置を決定したパネルの周辺をモルタルで充填する。
（ｆ）水平力負担床工法
（１）鉛直荷重及び水平荷重を負担する床工法に適用する。
（２）パネルを所定位置に敷込む。
（３）位置を決定したパネルを、シャチ目地及びシャチ金物で補強して、左右4ヶ所のアンカーに溶接する。
（ｇ）合成床板工法
（１）鉛直荷重及び水平荷重を負担する床工法に適用する。
（２）パネルを所定位置に敷込む。
（３）パネルには、現場打ちコンクリートと一体となるよう製造所の仕様による
（４）スラブ鉄筋コンクリートには、'共仕,6章[コンクリート工事]による。

補8.7.7　穴あけ及び開口補強
（ａ）切断加工(切込み及び穴あけ)は、原則として図示し、工場加工とする。
（ｂ）壁及び床の開口部の補強は図示による。
（ｃ）切断加工によりＰＣ鋼より線のプレストレスが解除されることが予測される場合には、製造所の保証する工法で補強を行う。

補8.7.8　耐 火 性 能
（ａ）パネルの耐火性能は、特記による。
（ｂ）耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（ｃ）取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

9章　防水工事

補8節　複合防水

補9.7.1　適 用 範 囲
この節は、異なる2種類以上の屋根用防水材を複合させ、それぞれの性能を生かし、防水層を構成した複合防水に適用する。

補9.7.2　材　　料
（ａ）ウレタン系塗膜防水材(塗膜防水)
塗膜を形成する材料は、JIS A 6021(屋根用塗膜防水材)により、種類はウレタンゴム系1類、ウレタンゴム系2類とし、使用部位による区分は、平場は一般用、立上がり部は立上がり用とする。超速硬化ウレタンの場合は、平場・立上がり部は共用とする。
（ｂ）ＦＲＰ系塗膜防水材(ＦＲＰ防水)
塗膜を形成する材料は合成樹脂(ポリエステル樹脂等)と補強材(無機のガラス繊維あるいは不織布)で、製造所の指定する製品とする。
（ｃ）改質アスファルトシート材(改質アスファルト防水)
不織布付き改質アスファルトシートは、通気性及び下地亀裂抵抗性を有し、製造所の指定する製品とする。
（ｄ）合成高分子系ルーフィングシート防水材(シート防水)
使用する合成高分子系ルーフィングシートは、合成ゴム系とし、接着または機械的固定を行う。
（ｅ）その他材料
プライマー、補強布、接着剤、この節でいうシーリング材、仕上塗料等は、主材料製造所の指定する製品とする。

補9.7.3　種別及び工法
種別及び工法は、補表9.7.1により、適用は特記による。又、工法及び仕様は、製造所の仕様による。

補表9.7.1　複合防水の種別

種　別	工　法	用　途
[改質アス]＋[ＦＲＰ]系	不織布付き改質アスファルトシートを下地に粘着させ、ポリエステル樹脂を 塗重ねる。	歩行可能床
[改質アス]＋[塗膜]系	改質アスファルトシートを接着、粘着で下地に貼付け、上面にウレタン系塗 膜防水を塗布する。	露出屋根 湿潤下地
[塗膜]＋[ＦＲＰ]系	ウレタンゴム系塗膜防水を 2mm程度下地に塗布し、その上にポリエステル樹脂を1～2層塗りつける。	駐車場 屋上庭園 屋上遊興施設床
[塗膜]＋[改質アス] 積層系	改質アスファルトシートを常温液状ゴム化アスファルトで張付け、用途により積層することもできる。	耐久性を要する人工地盤等
[シート]＋[塗膜]系	合成ゴムシートを接着、又は機械的固定して、その上にウレタン系塗膜防水材を塗布、または超速硬化型ウレタン系塗膜防水材を吹き付ける。	露出屋根 湿潤屋根
[シート]＋[ＦＲＰ]系	合成ゴムシートを接着、又は機械固定し、その上にポリエステル樹脂を1～2 層塗付ける。	歩行可能床 湿潤下地

補9.7.4　施　　工
（ａ）防水層の下地
（１）防水層の下地は、'共仕,9.2.4(ａ)による。ただし、入隅は直角に、出隅は丸面に仕上げる。
（２）ルーフドレイン、便器、配管等と防水下地材との取合いは、シーリング材で処理する。
（ｂ）プライマー塗りは、'共仕,9.3.4(ｂ)による。
（ｃ）下地の補強
（１）コンクリートの打継ぎ箇所及び著しいひび割れ箇所は、Ｕ形にはつり、シーリング材を充填した上、幅100mm以上の補強布を用い、補強塗りを行う。
（２）ルーフドレイン、配管等の取合い、出隅及び入隅は、それぞれ100mm以上を、補強布を用い補強塗りを行う。
（ｄ）防水材塗り
（１)防水材は、製造所の仕様により、可使時間に見合った量及び方法で塗混ぜる。
（２）防水材塗りは、材料に見合った方法で均一に塗付ける。

改訂：2016.09.01

補９節　金属シート防水

補9.8.1　適 用 範 囲
　この節は、建築の屋根、ベランダ、床及び水槽類などに施工する金属シート防水に適用する。

補9.8.2　材　　料
（ａ）ステンレスシートは、JIS G 4305(冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯)のSUS 304又はSUS 316とし、その他の金属シートを含めて、使用材料は、特記による。ステンレスシート板厚は、特記がなければ0.4mmとする。
（ｂ）つり子の材料は、SUS 304又はSUS 316とし、監理者の承認を得る。固定金物は、SUS 304とし、タッピングビス及びセルフドリリングビス類などの切削粉じん込み式固定金物は、SUS 410とする。
（ｃ）落し口は、ドレインに屋根材の平板を一体成形した溶接工法専用の部材とし、材質は防水層と同一とする。
（ｄ）水切り取合い等シーリング材を用いる場合には、特記使用書9.12[シーリング]による。
（ｅ）金属シートの仕上げは、特記による。
（ｆ）下地と金属シートの間に、断熱材あるいは整形のための下葺き材を用いる場合は、特記による。特記がなければ軟質発泡ポリスチレンシート4mm厚とする。
（ｇ）勾配屋根で屋根面がよく見えるもの及び雨音について特に留意する屋根では、軟質発泡ポリスチレンシート4mm厚を全面に敷込みさらに同シート10mm厚をシーム間の空隙に充填する。
（ｈ）下地材は、自走式シーム溶接機が走行可能な強さを有し、作業員が歩行する場合は、その荷重に耐えるものとする。又、母屋及び垂木等の構造材に必要な強度が得られるよう固定する。

補9.8.3　工　　法
（ａ）施工法については、防水施工者の責任施工とし、施工者は工事に先立って工事概要、材料、仕様、剖付け図、納まり詳細等の施工図、施工法、養生方法、安全管理体制及び工程表等を記載した施工計画書を作成し、監理者の承認を得る。
（ｂ）降雨時及び降雪時には溶接作業をしてはならない。又、強風により防水層のばたつき、折れ、及び飛散等が予想される場合には作業をしてはならない。
（ｃ）金属シート面は、常に清掃し、錆の原因となる砂、金属片及び釘等を除去すること。

補１０節　外壁防水

補9.9.1　適 用 範 囲
　この節は、外壁用アクリルゴム防水材をＲＣ壁、ＰＣ壁及びＡＬＣパネル壁を下地とする壁に塗布する工法に適用する。
補9.9.2　工　　程
　工程は補表9.9.1による。
　補表9.9.1　外壁防水の工程

工程	材　　料	塗布量kg/㎡	備　　考
1	プライマー塗り	0.2～0.4	PC版0.2、ALC版0.4
2	外壁用アクリルゴム防水材塗り	1.7	
3	模様吹付け	0.5	
4	化粧材塗り	0.3	ｼﾝﾅｰを含まず、2回塗り

注）① ＡＬＣパネルはＡＬＣ用ﾌｨﾗｰで目どめを行う。
　　② 成膜後の防水層の厚さは平均1.0mm程度必要とする。

補9.9.3　材　　料
（ａ）塗膜を形成する材料は、JIS A 6021(屋根用塗膜防水材)の規格品とし、固形分が70～75%(重量)のものとする。
（ｂ）プライマー及び化粧材は主材料製造所の指定する製品とする。

補9.9.4　工　　法
（ａ）工法は、主材料製造所の仕様による。
（ｂ）仕上げの種類は、特記による。
（ｃ）工法は吹付けかローラーとし、適用は、特記による。

補9.9.5　保　　証
　外壁防水の施工は、責任施工とし、その保証期間は、特記による。特記がなければ10年間とする。

１０章　石 工 事

補２節　材　　料

補10.2.1　適 用 範 囲
　この節は、「共仕」10.2.1[石材]の石材の表面仕上げに、新たな種類を追加する。ここの規定のないものは、「共仕」表10.2.1[石材の租面仕上げの種類]による。

補10.2.2　材　　料
　追加した仕上げの種類とその工法は、補表10.2.1により、その適用は、特記による。尚、ジェットポリッシュ仕上げは大理石には適用しない。
　補表10.2.1　追加した仕上げの種類と工法

仕上げの種類	仕　上　げ　の　程　度
つつき	荒削りした表面を、一様につつき工具で突いて凹凸を付け、仕上げた状態
こぶだし	石表面にこぶ状の租い凹凸面を作る仕上げの状態で、原石に最初に施すもの。こぶの大きさで大中小の3種類がある。
げんのうこづき	原石の切り出し面にげんのうで一様に凹凸をつけて仕上げた状態
ｼﾞｪｯﾄﾎﾟﾘｯｼｭ	ジェットバーナー仕上げを終えた石に、化学繊維ポリッシャー又はバフをかけて研磨し、色彩と肌触りを良くして仕上げた状態

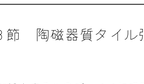
補５節　乾式工法

補10.5.1　適 用 範 囲
（ａ）この節に規定のないものは、「共仕」10章１節「一般事項」、2節「材料」、5節「乾式工法」、及び7節「特殊部位の石張り」による。
（ｂ）この節で規定する乾式工法の適用下地は、地震時等の変形量が小さいＲＣ造及びＳＲＣ造のコンクリート壁とし、それ以外の鉄骨下地等に石材を取付ける場合は、特記による。
（ｃ）乾式工法に使用する乾式工法用金物、アンカー及び石材等は、地震力、風圧力及び熱伸縮や躯体の変形等に安全に対応できる機構にするため、各部材等の強度計算を行い、計算書を監理者に提出する。
（ｄ）(ｃ)による耐震性能及び耐風圧性能は、特記による。

補10.5.2　施　　工
（ａ）下地ごしらえ
　（１）ファスナー取付け用アンカーをコンクリートに打込む場合を除いて、あと施工アンカーの埋込み代を確保するためコンクリートの増打ちをする。増打ちの量は、特記による。特記がなければ20mmとする。
　（２）ファスナー取付け用アンカーで、あと施工アンカーをコンクリートに打込む場合は、あと施工アンカー周囲の止水のため合成樹脂を同時に打込む。
　（３）コンクリート面へのあと施工アンカー打込みに際しては、正確に墨出しして、コンクリートの面外方向への傾きがないようグラインダーで平滑に仕上げ、あと施工アンカーの位置を壁面に対して角度が直角に精度良く保てるよう治具を用いる。
　（４）コンクリート面には、打継ぎ目地の他、縦横共約3m以内毎に伸縮調整目地を設け、目地部分にはシーリング材を充填する。シーリング材は特記仕様書9.11[シーリング]による。
（５）下地面の精度
　石材を取付ける下地面の寸法精度の標準値は、補表10.5.1による。
　補表10.5.1　部位及び工法ごとの下地面の寸法精度　（単位:mm）

部位＼工法		湿　式	乾　式	空　積	床張り
外　壁		±15	±10	—	—
内　壁		—	±10	±15	—
床		—	—	—	±10
特殊部位	ｱｰﾁ・上げ裏	—	±10	±15	—
	笠石・甲板	±15	±10	±15	±15
	浴室・水廻り	±15	±10	±15	—

（ｂ）取付け金物
　（１）取付け金物は、特記による。
　　金物は全てステンレス(SUS304)とし、取付け金物は、ルーズホールを持ったステンレスアングル、スレスプレートとステンレスだぼピンからなり、面内外方向の調整が出来るような金物とし、ボルトにて締めつけ後は固定の為に溶接を行う。溶接を行う時は石を養生する。
　（２）取付け金物は、1枚の石に対して原則として4個の金物で取付け、内2個の金物は石の荷重を受ける形とする。
（ｃ）石の大きさ、加工
　（１）石材の1枚の大きさは図示による。
　　図示がなければ1㎡以下とする。
　（２）石のだぼ穴及びだぼピン径は、特記による。
　　特記がなければ、だぼ穴径は8mm、だぼピン径は6mmとする。
　（３）だぼ穴は治具を用いて、位置、径及び垂直度等を精度良く工場で加工する。位置ずれ等で不要な穴が生じた石材は使用してはならない。
　（４）固定だぼとルーズだぼの位置は下図を標準とする。



　（５）固定だぼはエポキシ樹脂で固定する。
　　ルーズだぼは、だぼの周囲にネオプレーンゴムチューブ(厚さ1.5mm)を差込む。
　（６）石裏周囲には石材の破損による落下防止を目的として、ＦＲＰを張ったなどの処理を講ずる。
（ｄ）石裏の結露対策として、壁面の頂部と下部に30φ程度の穴を3m内外に設ける。頂部の通気孔は雨仕舞いに注意し、下部の通気孔には排水処理を施す。
（ｅ）目地
　（１）石張りの目地幅は、特記による。特記がなければ8mmとしシーリング材を充填する。空目地の場合は、特記による。
（ｆ）その他の工法は、湿式工法に準ずる。

補８節　石先付けプレキャストコンクリート工法

補10.8.1　適 用 範 囲
　石材を仕上げ材として先付けされたプレキャストコンクリートで施工する工事に適用する。

補10.8.2　部 材 性 能
　石先付けプレキャストコンクリート部材の性能は、特記仕様書17章[カーテンウォール]及び補17.1.3[性能]、補17.3[ＰＣカーテンウォール]に定められた要求性能を満足するものとする。

補10.8.3　材　　料
（ａ）石材
　（１）種類
　　石材の種類・表面仕上げは、JASS9.2.1[石材]及び[共仕]表10.2.1、表10.2.2によりその適用は、特記による。特記のない場合の外装用の石材は花こう岩とする。
　（２）寸法・形状
　　（ｉ）石材の厚さは25mm以下とする。
　　（ⅱ）石材の形状は、矩形を標準とし、寸法は石材1枚の面積を0.8㎡以下とする。
（ｂ）定着用金物
　石先付けプレキャストコンクリート工法に用いる金物の材質は、すべてステンレス(SUS304)とする。
（ｃ）その他の材料
　「共仕」10.2.3[その他の材料]による。但し、シーリングに関しては、特記仕様書9.12[シーリング]による。
補10.8.4　製　　作
（ａ）定着金物
　（１）必要数量の算出
　　荷重としては負の風圧力の3倍以上の値をとり、定着金物の短期の許容応力が試験で得られた最大耐力の2/3以下の値をとる。
　（２）定着金物の配置
　　石材を固定する定着金物のうち、石材周囲の小口に挿入するかすがい(3.2～4φ)、裏面の各所に配置するシャーコネクター(3.2～4φ)及び裏面の中央部などに重点的に配置するあと施工アンカー(6φ)等は、石材の自重及び外力等を考慮して、十分に安全な数量を適正に配置する。この際、石材とコンクリートの付着強度は期待しないものとする。
（ｂ）裏面処理
　石材とコンクリートの界面が剥離して、水が浸入し、濡れ現象を呈するおそれがある石材には、適切な裏面処理を石材の敷込み前に行う。
（ｃ）石材の敷込み
　石材の敷込みは、石剖付図に基づいて石材を損傷させないように敷込む。
（ｄ）ＰＣ版
　ＰＣ版は、「共仕」17章3節[ＰＣカーテンウォール]及び「補仕」17章補3節[ＰＣカーテンウォール]による。

１１章　タイル工事

補３節　陶磁器質タイル張り

補11.3.1　施　　工
（ａ）この項は、床タイル張りの工法を追加補充するもので、ここに規定する以外は「共仕」11.2.7(ｂ)[床タイル張り]による。
（ｂ）床タイル張り工法は、圧着張り、敷モルタル張り及び下地モルタル張りとし、車両等の重量物の通行する場所は圧着張り、大形床タイル及び張付け面積の小さいその他のタイルの場合は敷モルタル張りとする。
　一般床タイル及びユニットタイルを大面積に張る場合は、下地モルタル張りを基準とし、その適用は、特記による。

補４節　長期性能保証制度

補11.4.1　長期性能保証制度
（ａ）この項は、壁面・床面タイル張りにおける長期性能保障制度を追加するもので、適用は「特記仕様書11章タイル工事」による。
（ｂ）保証約款は建築連長期性能保証制度保証約款（社団法人全国タイル業協会用）による。
（ｃ）保証期間は補表11.4.1に、タイル張り工法は補表11.4.2による。
　補表11.4.1　保証期間

保証対象部位	保証期間	保証性能基準
壁　面	10年	タイル・石・擬石等の剥離または剥落が発生してはいけない。
床　面	10年	タイル・石・擬石等の剥離が発生してはいけない。

　補表11.4.2　タイル張り工法

区分	剥　離　防　止　工　法									
工法	外装タイル有機系接着剤張り						ベースネット工法	インターネット工法	ルーブボンドアンカーボンド工法	ネットクロスユニット工法
躯体処理	躯体表面のレイタンス、剥離材付着物の除去	超高圧水洗浄	高圧水洗浄	サンダー掛け後水洗い	MCR工法		各工法の指定の処理方法			
適用下地	コンクリート(直張り)	左官モルタル			ＡＬＣパネル	押出成形セメント板(フラットﾊﾟﾈﾙ)	コンクリート（直張り）ＡＬＣパネル		コンクリート（直張り）ＡＬＣパネル・押出成形セメント板	
下地精度	3mm/1m									
不陸調整	下地精度の基準を満たさない場合に行う	(社)全国タイル業協会およびその会員である施工業者の指定する材料・工法・仕様による施工				下地精度の基準を満たさない場合に行う				
不陸調整材料	ＪＩＳＡ6916建築用下地調整塗材適合品					ＪＩＳＡ6916建築用下地調整塗材適合品				
吸水調整										
材　料	タイル・接着剤 ： Ｑ－ＣＡＴ認定品官モルタル									
施工方法	(社)全国タイル業協会の指定する接着剤張り仕様による施工									
保証対象部位	壁　　面									
保証性能基準	・タイルの剥離（1箇所0.25㎡以上）が、発生してはならない。 ・タイルの剥落が発生してはならない。									
区分	在　来　工　法								パネル工法	
工法	直張り					左官下地面へのタイル張り			パネルへの施工	
躯体処理	超高圧水洗浄	高圧水洗浄	サンダー掛け後水洗い	MCR工法		超高圧水洗浄	高圧水洗浄	サンダー掛け後水洗い	MCR工法	
適用下地	コンクリート（直張り）					左官モルタル				ＡＬＣパネル・押出成形セメント板(ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ含む)
下地精度	6mm/2m									
不陸調整	下地精度の基準を満たさない場合に行う					(社)全国タイル業協会およびその会員である施工業者の指定する材料・工法・仕様による施工				下地精度の基準を満たさない場合に行う
不陸調整材料	ＪＩＳＡ6916建築用下地調整塗材適合品									ＪＩＳＡ6916建築用下地調整塗材適合品
吸水調整	不陸調整箇所は、吸水調整剤を塗布（製造業者の指定方法）					モルタル下地面は吸水調整剤を塗布（製造業者の指定方法）				吸水調整剤を塗布（製造業者の指定方法）
材　料	ＪＩＳＡ6916（建築用下地調整塗材）に規定する試験用タイル張付け用モルタル					(社)全国タイル業協会の指定する接着剤張り仕様による施工 公共建築工事標準仕様書第１１章タイル工事に定める仕様による施工 (社)日本建築学会建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ１９陶磁器質タイル工事に定める仕様による施工				ＪＩＳＡ6916（建築用下地調整塗材）に規定する試験用タイル張付け用モルタル
施工方法	(社)日本建築学会建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ19陶磁器質タイル工事に定める仕様による施工									(社)日本建築学会建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ19陶磁器質タイル工事に定める仕様による施工
保証対象部位	壁　　面									
保証性能基準	・タイルの剥離（1箇所0.25㎡以上）が、発生してはならない。 ・タイルの剥落が発生してはならない。									

１４章　金 属 工 事

補２節　表面処理

補14.2.1　ステンレスの表面仕上げ
　この項は「共仕」14.2.1[ステンレスの表面仕上げ]として、JIS G 4305(冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯)によることになっているが、更にＡＩＳＩ(アメリカ鉄鋼協会規格)No.6,7,8の仕上げを追加する。

補９節　焼付け塗装

補14.9.1　適　用　範　囲
　この項は、金属工事のうち、各種金属の表面に工場で行われる焼付け塗装に適用する。但し、塗装鋼板[JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)、JIS G 3320(塗装ステンレス鋼板)]及びJIS H 4001(アルミニウム及びアルミニウム合金の塗装板及び条)は適用範囲外とする。

補14.9.2　素地ごしらえ
（ａ）亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえは「共仕」18.2.4の表18.2.3[亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ]のＡ種による。
（ｂ）ステンレス面の素地ごしらえは、補18.10.6(ｃ)の補表18.10.1[ステンレス面の素地ごしらえ]による。
（ｃ）アルミニウム面の素地ごしらえは、補18.10.6(ｄ)の補表18.10.2[アルミニウム面の素地ごしらえ]による。

補14.9.3　焼付形アクリル樹脂エナメル塗り（B-AE）
（ａ）この項は、金属系素地面における、耐候性及び美装性を目的とする箇所に用いる焼付形アクリル樹脂エナメル塗りに適用する。
（ｂ）焼付形アクリル樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は補表14.9.1及び、補表14.9.2により、素地種別の適用は、特記による。
　補表14.9.1　亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の焼付形アクリル樹脂 エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm	
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面：「共仕」表18.2.3のＡ種による。 ｽﾃﾝﾚｽ面：補表18.10.1による。	—	—
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15
2	焼付け	170℃　15分	—	—
3	上塗り	焼付形アクリル樹脂エナメル	25～35	25～35
4	焼付け	170℃　15分	—	—
合計膜厚			40以上	35以上

　補表14.9.2　アルミニウム面の焼付形アクリル樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		補表18.10.2による。	—
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20
2	上塗り	焼付形アクリル樹脂エナメル	25～35
3	焼付け	170℃　15分	—
合計膜厚			30以上

（ｃ）焼付形アクリル樹脂エナメル塗り（メタリックカラー）は補表14.9.3により、素地種別の適用は、特記による。
　補表14.9.3　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面及びアルミニウム面の焼付形アクリル樹脂 エナメル塗り（ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm		
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面	アルミニウム面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面：「共仕」表18.2.3のＡ種による。 ｽﾃﾝﾚｽ面：補表18.10.1による ｱﾙﾐﾆｳﾑ面：補表18.10.2による	—	—	—
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15	10～15
2	中塗り	焼付形アクリル樹脂エナメル	20～25	20～25	20～25
3	焼付け	170℃　15分	—	—	—
4	上塗り	焼付形ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	25～35	25～35	25～35
5	焼付け	170℃　15分	—	—	—
合計膜厚			55以上	50以上	45以上

（ｄ）工法その他は、次による。
　（１）裏面コートは原則として下塗りプライマーと同種塗料とし、1コート、1ベーク10μm以上とする。
　（２）亜鉛鋼板の溶接部分はサンダーなどの研磨後、燐酸亜鉛系化成処理の上、ジンクリッチペイント20μm以上（強制乾燥の場合60～80℃20分間）を施す。
　（３）焼付け温度は被塗装物の温度とし、又焼付け時間はキープ時間とする。

補14.9.4　焼付形1液ウレタン樹脂エナメル塗り（B-UE）
（ａ）この項は金属系素地面における、耐候性及び美装性を目的とする箇所に用いる焼付形１液ウレタン樹脂エナメル塗りに適用する。
（ｂ）焼付形１液ウレタン樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は、補表14.9.4により、素地種別の適用は、特記による。
　補表14.9.4　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面、アルミニウム面の焼付形1液ウレタン樹脂 エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm		
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面	アルミニウム面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面：「共仕」表18.2.3のＡ種による ｽﾃﾝﾚｽ面：補表18.10.1による ｱﾙﾐﾆｳﾑ面：補表18.10.2による	—	—	—
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15	5～10
2	上塗り1回目	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	15～20	15～20	15～20
3	焼付け	170℃　15分	—	—	—
4	上塗り2回目	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～25	20～25	20～25
5	焼付け	170℃　15分	—	—	—
合計膜厚			50以上	45以上	40以上

（ｃ）焼付形1液ウレタン樹脂エナメル塗り（メタリックカラー）は、補表14.9.5により素地種別の適用は、特記による。
　補表14.9.5　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面及びアルミニウム面の焼付形1液ウレタン樹脂

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm		
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面	アルミニウム面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面：「共仕」表18.2.3のＡ種による ｽﾃﾝﾚｽ面：補表18.10.1による ｱﾙﾐﾆｳﾑ面：補表18.10.2による	—	—	—
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15	5～10
2	中塗り	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～25	20～25	20～25
3	焼付け	170℃　15分	—	—	—
4	上塗り	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～30	20～30	20～30
5	焼付け	170℃　15分	—	—	—
合計膜厚			55以上	50以上	45以上

（ｄ）工法その他は、補14.9.3(ｄ)による。

補14.9.5　中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（B-FE（F））
（ａ）この項は、特に長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いる中温焼付け形ふっ素樹脂エナメル塗り[フルオロオレフィン・ビニルエーテル共重合体(ＦＥＶＥ)]に適用する。
（ｂ）中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は補表14.9.6、補表14.9.7及び補表14.9.8により、素地種別の適用は、特記による。
　補表14.9.6　亜鉛めっき鋼面の中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面：「共仕」表18.2.3のＡ種による	—
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	15～20
2	焼付け	170℃　15分	—
3	上塗り1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾜﾆｯｼｭｶﾗｰ	15～20
4	焼付け	170℃　15分	—
5	上塗り2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾜﾆｯｼｭｶﾗｰ	20～25
6	焼付け	170℃　15分	—
合計膜厚			50以上

　補表14.9.7　ステンレス面の中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		ステンレス面：補表18.10.1による	—
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	10～15
2	上塗り1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾜﾆｯｼｭｶﾗｰ	15～20
3	焼付け	170℃　15分	—
4	上塗り2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾜﾆｯｼｭｶﾗｰ	20～25
5	焼付け	170℃　15分	—
合計膜厚			45以上

　補表14.9.8　アルミニウム面の中温焼付形ふっ素 樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		補表18.10.2による	—
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	5～10
2	上塗り1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾜﾆｯｼｭｶﾗｰ	15～20
3	焼付け	170℃　15分	—
4	上塗り2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾜﾆｯｼｭｶﾗｰ	20～25
5	焼付け	170℃　15分	—
合計膜厚			40以上

（ｃ）中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は補表14.9.6により、素地種別の適用は特記による。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢					押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建築工事補足仕様書（３）	縮尺 1/A1:- A3:-	日付 2019・02・28	No	A — 014

改訂：2016.09.01

補表14.9.9　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面及びアルミニウム面の中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm		
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面	アルミニウム面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表17.2.3のA種による ｽﾃﾝﾚｽ面:補表17.10.1による ｱﾙﾐﾆｳﾑ面:補表17.10.2による	—	—	—
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	15～20	10～15	5～10
2	中塗り	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～25	20～25	20～25
3	焼付け	170℃　15分	—	—	—
4	上塗り 1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	20～25	20～25	20～25
5	焼付け	170℃　15分	—	—	—
6	上塗り 2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂 ｸﾘｰﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	20～25	20～25	20～25
7	焼付け	170℃　15分	—	—	—
合計膜厚			75以上	70以上	65以上

（ｄ）中塗り及び上塗りに用いるふっ素樹脂塗料は、フルオロオレフィン、ビニルエーテル共重合体樹脂(ＦＥＶＥ)の熱溶融形塗料とし、三ふっ化モノマー配合とする。中塗り及び上塗り塗料樹脂分中のフルオロオレフィン、ビニルエーテル共重合体樹脂は、100％配合されていること。

（ｅ）工法その他は、次による。

（１）塗料の調合は、次による。

（Ⅰ）熟成時間や可使時間は製造所の指定による。

（Ⅱ）シンナーは塗料製造所の指定する製品による。

（２）塗料の方法は原則としてスプレー式により、塗装ライン前処理と連続レクリーンボックスを有すること。

（３）裏面コートは原則として下塗りプライマーと同種塗料とし、１コート、１ベーク10μm以上とする。

（４）ふっ素樹脂焼付塗装工場は、塗装製造所の承認する工場とする。

（５）被塗装物である亜鉛鋼板は亜鉛付着量Ｚ－27(19μm)相当以上のノンスパングルとし、クロメート処理品は不可とする。

（６）亜鉛鋼板の溶接部分はショットブラストの上、亜鉛メタリコン70μm以上とし、燐酸亜鉛系化成処理または、エポキシ系ジンクリッチプライマー70μm(強制乾燥の場合60～80℃20分間)とする。

（７）焼付け温度は被塗装物の温度とし、又焼付け時間はキープ時間とする。

補14.9.6　高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（B-FE（P））

（ａ）この項は、特に長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いる高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り[ポリフッ化ビニリデン系(ＰＶｄ)]に適用する。

（ｂ）高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は補表14.9.10及び補表14.9.11により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.10　亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm	
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による。 ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による。	—	—
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15
2	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
3	上塗り	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	25～35	25～35
4	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
合計膜厚			40以上	35以上

補表14.9.11　アルミニウム面の高温焼付形ふっ素樹脂 エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		補表18.10.2による	—
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	5～10
2	上塗り	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	25～35
3	焼付け	232～242℃　5～10分	—
合計膜厚			30以上

（ｃ）高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は補表14.9.12及び補表14.9.13により、素地種別の適用は特記による。

補表14.9.12　亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm	
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3の　A種による ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による。	—	—
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15
2	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
3	上塗り 1回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ	25～35	25～35
4	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
5	上塗り 2回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｸﾘｰﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	10～15	10～15
6	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
合計膜厚			50以上	45以上

補表14.9.13　アルミニウム面の高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.2による	—
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	5～10
2	上塗り 1回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ	25～35
3	焼付け	232～242℃　5～10分	—
4	上塗り 2回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｸﾘｰﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	10～15
5	焼付け	232～242℃　5～10分	—
合計膜厚			40以上

（ｄ）上塗りに用いるふっ素樹脂塗料は、ポリフッ化ビニリデン樹脂(ＰＦＶｄ)の熱溶融形塗料とし、カイナー500配合とする。上塗り塗料樹脂分中のポリフッ化ビニリデン樹脂は、100％配合されていること。

（ｅ）工法その他は、次による。

（１）塗料の調合は、次による。

（Ⅰ）熟成時間や可使時間は製造所の指定による。

（Ⅱ）シンナーは塗料製造所の指定する製品による。

（２）塗装の方法は原則としてスプレー式により、塗装ラインは前処理と連続レクリーンボックスを有すること。

（３）裏面コートは原則として下塗りプライマーと同種塗料とし、1コート、１ベーク10μm以上とする。

（４）ふっ素樹脂焼付塗装工場は、塗装製造所の承認する工場とする。

（５）被塗装物である亜鉛鋼板は亜鉛付着量Ｚ－27(19μm)相当以上のノンスパングルとし、クロメート処理品は不可とする。

（６）亜鉛鋼板の溶接部分はショットブラストの上、亜鉛メタリコン70μm以上とし、燐酸亜鉛系化成処理または、エポキシ系ジンクリッチプライマー70μm(強制乾燥の場合60～80℃20分間)とする。

（７）焼付け温度は被塗装物の温度とし、又焼付け時間はキープ時間とする。

（８）現場タッチアップは、Ｂ-ＦＥ(Ｐ)のホットエアーガン焼付又はＦＵＥないし、ふっ素系ＡＤＳ樹脂塗料とする。

補14.9.7　検　　査

（ａ）仕上り塗装の性能は、補表14.9.14による。

補表14.9.14　仕上り塗膜の性能

試験項目	焼付形 ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙ	焼付形 1液ｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	ふっ素樹脂エナメル 高温焼付形	 中温焼付形	試験項目
光沢(ｸﾞﾛｽ)	80～30	90～30	25～35	80～30	60度鏡面 反射率
鉛筆硬度	H～2H	H～2H	H～2H	H～2H	三菱ﾕ JIS K 5400
ｺﾞﾊﾞﾝ目 ﾃｰﾌﾟﾃｽﾄ	100/100	100/100	100/100	100/100	1㎜間隔 JIS K 5400
耐衝撃性	異常なし (0.5kg ×50cm)	異常なし (0.5kg ×50cm)	異常なし (1.0kg ×50cm)	異常なし (0.5kg ×50cm)	デュポン 式1/2φ
耐摩耗性	—	—	40mg以下	40mg以下	ﾃｰﾊﾞｰ CS-17 1000回転の損失量
耐ソルト ｽﾌﾟﾚｰ性	1mm以内 (2,000H)	1mm以内 (2,000H)	1.5mm 以下 (3,000H)	1.5mm 以下 (3,000H)	JIS Z 2371
耐湿性	—	—	異常なし	異常なし	38℃×98％PH 3,000H
耐酸性	異常なし (5％× 500H)	異常なし (5％× 500H)	異常なし (10％× 1ヶ月)	異常なし (5％× 1ヶ月)	硫酸20℃
耐ｱﾙｶﾘ性	異常なし (5％× 120H)	異常なし (5％× 120H)	異常なし (10％× 1ヶ月)	異常なし (5％× 1ヶ月)	苛性ｿｰﾀﾞ20℃
耐ﾓﾙﾀﾙ性	—	—	異常なし	異常なし	耐湿試験 24H後 ﾓﾙﾀﾙ 塗布
耐洗剤性	—	—	異常なし	異常なし	ﾏｰﾌﾙ1％ 水溶液 に72H浸漬 20℃
促進耐候性	70％以上 (750H)	90％以上 (1,000H)	90％以上 (4,000H)	90％以上 (4,000H)	ｻﾝｼｬｲﾝ ｳｪｻﾞｰﾒｰﾀ
天然暴露性 ﾁｮｰｷﾝｸﾞ	—	—	ASTM 8以上	—	ﾌﾛﾘﾀﾞ南面 45度 暴露5年
天然暴露性 色差	—	—	5以下	—	

注）(　)内Ｈは時間を表す

（ｂ）仕上り塗装の性能試験及び検査は次により、試験を行う場合は特記による。特記なき場合は塗料製造所による品質を証明する資料を提出し、監理者の承認を受ける。

（１）検査機関は公的試験所とする。但し監理者が認めた場合は、監理者の承認した試験所とすることが出来る。

（２）塗装の種別は、アルミニウム素地面の補14.9.3、補14.9.4、補14.9.5、及び補14.9.6の各塗装とし、各塗料の塗装系は、標準仕様による。

（３）検査項目は補表14.9.14の試験項目による。

（４）検査結果は報告書にまとめて監理者に提出する

補１０節　ステンレス鋼板の曲げ加工

補14.10.1　ステンレス鋼板の曲げ加工

（ａ）ステンレス鋼板の曲げ加工の適用は特記による。

特記がなければ普通曲げとし、角出し曲げは補表14.10.1による。

補表14.10.1　ステンレス鋼板の角出し曲げ加工の種類

区　分	残板厚　(mm)	備　　考
Ａ　角	0.3　～　0.5	変形の恐れが少ない化粧材
Ｂ　角	0.7	板厚　1.5mm　以上
Ｃ　角	1.0	板厚　1.5mm　以上

（ｂ）補強板等は、「共仕」表16.3.3(ａ)(１)の表面処理亜鉛めっき鋼板又は亜鉛めっきを行ったものとし、補強板厚はＡ角はステンレス鋼板厚と同等以上とし、Ｂ角及びＣ角は1.6mm以上とする。

（ｃ）補強板等は、「共仕」表18.2.3[亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ]の処理を行った上に、ＪＩＳ Ｋ 5629(鉛酸カルシウム錆止めペイント)を2回塗布する。

補１１節　エキスパンションジョイント(EXP.J)

補14.11.1　安全模構の設置

ａ）壁、天井、屋根：脱落防止ワイヤー等を設け、EXP.Jカバー金物に損傷が生じた場合に脱落、飛散の防止策を施し、人的被害を生じないように配慮する。(製造所のオプション)

ｂ）床：跳ね上がり、挟み込み、欠損による落下等の人的被害を生じないように配慮する。(製造所オプション)

補14.11.2　構造クリアランスと可動量の確認

ａ）床、壁、天井、屋根のEXP.Jカバーの製作図は、Ｘ・Ｙ方向共に（可動量±0・－最大・＋最大）作成し、構造クリアランスと可動量を確認の上、監理者の承認を得ること。

１５章　左官工事

補８節　薄塗り工法

補15.8.1　適　用　範　囲

この節は、セメント及び無機質系微細骨材を主原料とし、主として内外装仕上げ工事の下地調整に使用する、セメント系下地調整塗材及び合成樹脂エマルションプラスターを、塗り厚10mm以下に塗付ける工事(以下薄塗り工法という)に適用する。但し、合成樹脂エマルションプラスターは内部に使用する。

補表15.8.1　薄塗り工法の種別

種　別	摘　　要	塗　り　厚
Ａ　種	プレミックスセメントペースト	3mm以下
Ｂ　種	プレミックスセメントモルタル	3～10mm
Ｃ　種	合成樹脂エマルションプラスター	3～5mm

補15.8.2　工 法 の 種 別

薄塗り工法の種別は補表15.8.1により、適用は特記による。

補15.8.3　材　　料

（ａ）セメント系下地調整塗材(ﾌﾟﾚﾐｯｸｽｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ及びﾌﾟﾚﾐｯｸｽｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ)

（１）セメントはＪＩＳ Ｒ 5210(ポルトランドセメント)に準ずる。

（２）骨材は、ＪＩＳ Ａ 1102(骨材のふるい分け試験方法)に規定する網ふるい0.6mmをほぼ通過する程度の、硅砂又は寒水砂などとする。

（３）混和液はセメント混和用ポリマーディスパージョンを主成分とし、セメント混和用ポリマーディスパージョンはＪＩＳ Ａ 6203(セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂)に適合するものとし、スチレンブタジエン系、アクリル系及びエチレン酢酸ビニル系共重合体とする。

（４）調合割合及び混練り方法は、製造所の仕様による。

（５）品質はＪＩＳ Ａ 6916(仕上塗材用下地調整塗材)に規定する品質に適合するものとする。

（ｂ）合成樹脂エマルションプラスター

（１）種類は補表15.8.2により、適用は特記による。

補表15.8.2　合成樹脂エマルションプラスターの種類

種　類	摘　　要
１　種	アクリルエマルション系
２　種	エチレン酢酸ビニル系
３　種	酢酸ビニルエマルション系

（２）材料、調 合は製造所の仕様による。

補15.8.4　工　　法

（ａ）プレミックスセメントペースト

補表15.8.3　プレミックスセメントペースト塗り

工　程	塗　り　厚	塗り回数
1　シーラー塗り	0.1 ～ 0.2kg/㎡	1 ～ 2
2　ペースト塗り	1 ～ 3mm	1 ～ 2
注)製造所の仕様により、シーラー塗りを省略する場合には温度、湿度の条件を検討の上、 付着強度を確認すること。		

（ｂ）プレミックスセメントモルタル

補表15.8.4　プレミックスセメントモルタル塗り

工　程	塗　り　厚	塗り回数
1　シーラー塗り	0.1 ～ 0.2kg/㎡	1 ～ 2
2　ペースト塗り	3 ～ 10mm	1 ～ 2
注)製造所の仕様により、シーラー塗りを省略する場合には温度、湿度の条件を検討の上、付着強度を確認すること 。		

（ｃ）合成樹脂エマルションプラスター

（１）コンクリート下地等

補表15.8.5　コンクリート下地等の合成樹脂エマルションプラスター塗り

工　程	材　料	所要量(kg/㎡)	塗り回数
1　シーラー塗り	シーラー	0.1 ～ 0.25	1 ～ 2
2　下塗り	厚付け用	0.5 ～ 5	1 ～ 2
3　研磨紙ずり	#180～240	—	—
4　上塗り	薄付け用	1 ～ 2	1 ～ 2
注)下地となる場合は、厚付け用で仕上げてもよい。			

（２）ＡＬＣパネル下地

補表15.8.6　ＡＬＣパネル下地の合成樹脂エマルションプラスター塗り

工　程	材　料	所要量(kg/㎡)	塗り回数
1　シーラー塗り	シーラー	0.1 ～ 0.25	1 ～ 2
2　目地塗り	厚付け用	—	1
3　下塗り	厚付け用	1.0 ～ 1.2	—
4　研磨紙ずり	#180～240	—	1 ～ 2
5　中塗り	#180～240	1.0 ～ 1.2	1
6　上塗り	薄付け用	0.5 ～ 1.0	1

補15.8.5　仕上がり精度

仕上りの精度は補表15.8.7による。

補表15.8.7　仕上り精度

コンクリートの部位	平 た ん さ
外壁(仕上塗材仕上げ等)	3ｍにつき10mm以下
外壁(塗装仕上げ等)	3ｍにつき7mm以下
内壁	3ｍにつき7mm以下

１６章　建　具　工　事

補７節　建具用金物

補16.7.1　鍵

鍵は3本一組とし、室名または建具位置を示す札を付け、目録書及び縮小版平面図による鍵のキープランを添え、一括して鍵箱に収納して引き渡す。必要により設備関係、操作ボックス関係の鍵類も併せて収納する。鍵箱は鍵の個数に相応した鋼製の既製品とする。

補１３節　防災建具

補16.13.1　適　用　範　囲

この節は、防災建具のうち、可動式防煙たれ壁に適用する。

補16.13.2　方　　式

可動式防煙たれ壁の方式は、鉛直降下式、回転式及びロール式とし、その適用は、特記による。

補16.13.3　材　　料

（ａ）防煙たれ壁本体は、鋼板、ガラスクロス塩化ビニル皮膜(不燃認定品)及びアルミニウム板の何れかとし、適用は、特記による。

（ｂ）ガイドレール、座板及びまぐさの材料は、ステンレス、アルミニウム及び鋼板の何れかとし、適用は、特記による。

補16.13.4　機　　構

（ａ）降下

急激に落下しないよう、ステイダンパー、ガバナー及びバランスウェイト等の緩衝装置を設け、降下後は圧力差2kgf/㎡において鉛直に保持すること。又、レールは固定とするが、可動の場合は、特記による。

（ｂ）開閉

（１）煙感知器の信号を受けて自動的に降下する。

（２）手動操作ボックスを設け、手動降下可能な機構とし、復旧は手動によるものとするが、電動の場合は、特記による。尚、何れの場合も取扱い方法を明示する。

１７章　カーテンウォール工事

補１節　一般事項

補17.1.1　適　用　範　囲

本章は、金属、ＰＣコンクリート(繊維補強セメント・コンクリート複合材を含む)及びガラスを主体としたカーテンウォール工事に適用する。本章に記載又は、特記ある事項以外は、「共仕」17章[カーテンウォール工事]による。但し、「図示」、「共仕」、「補仕」及び特記仕様書に記載のない事項については次に準拠する。

（１）建築基準法、その他関係法令

（２）消防関連法令

（３）日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説」各章

（４）日本建築学会諸計算規準

（５）日本建築学会「非構造部材の耐震設計指針」

補17.1.3　性　　能

（ａ）耐風圧性能

（１）設計風圧力は、特記による。特記がなければ、建築基準法施行令82条の5、建設省告示第1458号により算定した数値以上とする。

（２）たわみ量は、支点間距離が4.0m以下の場合は次による。

（ⅰ）メタルカーテンウォールでは、1/150以下かつ20mm以下とする。

（ⅱ）ＰＣカーテンウォールでは、1/600以下とする。

（３）支点間距離が4.0mを超える場合のたわみ量は、特記による。

（ｂ）層間変位追従性能及び耐震性能

（１）層間変位追従性能は、特記による。特記がなければ次による。

（ⅰ）いっさいの補修なしに継続使用出来る限界は±Ｈ/300(Ｈ:階高)

（ⅱ）カーテンウォール部材に破損、脱落、及び残留変形の何れも起こらず、シーリング材の補修のみで継続使用出来る限界は±Ｈ/200

（ⅲ）カーテンウォールの部材に破損及び脱落が起こらない限界は±Ｈ/100

（２）耐震性能について、設計震度(Ｋ)は、水平方向はＫＨ=1.0及び鉛直方向はＫｖ=0.5とする。この震度に対する損傷の度合いはカーテンウォールの部材に破損、脱落及び残留変形が起こらず、シーリング材の補修のみで継続使用できるものとする。

（ｃ）水密性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ　　P:耐風圧性能に用いた最大正圧値(Pa)

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1(低層)	2(低層)	3(31m市街地)	4(31～60m沿岸)	5(60m超)
FIX部 (圧力差Pa)	975未満	975	1500	Ｐ×0.5かつ 最低値1500	Ｐ×0.75かつ 最低値2250
可動部 (圧力差Pa)	525未満	525	750	1000	1500

＊可動部/FIX部

（ｄ）気密性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1(通常空調)	2(市街地・高層)	3(強風・超高層)	4
等級 (等級線) 通気量：圧力差10Pa	JIS等級A-3 (A－3等級線) 8(㎥/h・㎡)	JIS等級A-4 (A－4等級線) 2(㎥/h・㎡)	0.5等級 (0.5等級線) 0.5(㎥/h・㎡)	左記以外 特記 ・(㎥/h・㎡)

※FIX部のみで構成の場合は気密性能は特記する。

（ｅ）耐火性能

（１）耐火性能は、建築基準法施行令第107条に基づく所定の耐火時間で、延焼の恐れのある部分では1時間とし、それ以外の部分では30分とする

（２）合成耐火構造と防火区画は、特記による。

（ｆ）耐温度差性能(熱安定性能)

（１）耐温度差性能は、ジョイント部や表面仕上げを含むカーテンウォール各部分及び構造体側の取付け部に破損及び有害な変形が発生しない限界の部材温度差で表示する。

（２）部材温度差は特記がなければ次による。

（ⅰ）直射日光の当たる暗色の金属材の場合は80℃とする。

（ⅱ）直射日光の当たる明色の金属材の場合は70℃とする。

（ⅲ）その他の部材の場合は60℃とする。

（ｇ）遮音性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1 (一般的)	2(市街地)	3(性能重視)	4(特殊構造)
等級	JIS等級T-1	JIS等級T-2	JIS等級T-3	JIS等級T-4
(等級線)	(T-1等級線)	(T-2等級線)	(T-3等級線)	(T-4等級線)
500Hz (db)	25	30	35	40

（ｈ）断熱性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1	2	3(暖冷房重視)	4(暖冷房重視)	5(寒冷地)
等級	JIS等級H-1	JIS等級H-2	JIS等級H-3	JIS等級H-4	JIS等級H-5
(熱還流抵抗 ㎡・K/W)	(0.215以上)	(0.246以上)	(0.287以上)	(0.344以上)	(0.430以上)

（ｉ）耐久性能等その他の性能

（１）カーテンウォールは、通常の清掃及び保守を行うことにより、所要の性能を保持する耐久性能を有するものとする。

（２）異種金属等接触による腐食が生じ、美観その他の性能に欠陥を生じることのないものとする。

補17.1.4　技 術 検 討 会

カーテンウォールの詳細設計、性能試験、製作及び施工の技術的検討を行なうために、設計監理者及び施工者(受注者及びカーテンウォール関連の施工者《ガラス取付け施工者、シーリング施工者等を含む》)の技術者から成る技術検討会を設置する。

補17.1.5　見　　本

（ａ）実物大見本及び模型の製作は、特記による。

（ｂ）各種材料は、見本品を提出し監理者の承認を受け、必要に応じ品質証明書を提出する。

（ｃ）各部材の組立て試験を行う場合は、特記による。試験体は、監理者の承認を受けて、本工事に使用することが出来る。

補17.1.6　実　大　試　験

（ａ）実大試験を行う場合は、特記による。

（ｂ）実大試験を行う範囲及び規模は、特記による。

（ｃ）ガラスは、実際に使用するガラスと同種の強化ガラスとする。

補17.1.7　性　能　試　験

性能試験を行う項目は、特記による。

（ａ）試験荷重条件

試験に用いる数値は設計図書に基づくものとし、試験の方法等についてはＪＣＭＡ(日本カーテンウォール工業会)制定のカーテンウォール性能試験要領その他関係ＪＩＳの基準に準ずるものとする。

（ｂ）試験計画書

試験に先立ち、試験計画書を作成し、監理者の承認を受ける。

（ｃ）試験結果報告

（１）供試体の製作、取付け及び試験工程の中間で試験の進捗状況の検査記録書を作成し監理者の検査を受ける。

（２）試験終了後、速やかに試験結果報告書を監理者に提出する。

（３）試験結果に欠陥があった場合には、原因を究明するとともに対策を監理者と協議して定める。

補２節　メタルカーテンウォール

補17.2.1　適　用　範　囲

この節は、主要構成部材に金属系材料を用いたメタルカーテンウォールの各部に適用する。この節に記載又は、特記がある事項以外は、「共仕」2節[メタルカーテンウォール]による。

補17.2.2　材　　料

（ａ）アルミニウム及びアルミニウム合金材

（１）アルミニウム押出形材

（ⅰ）材料は、ＪＩＳ Ｈ 4100(アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材)のA 6063Sとする。

（ⅱ）形材の厚さは、特記による。特記がなければ2.5mm以上とする。

（２）アルミニウム板材

（ⅰ）材料は、ＪＩＳ Ｈ 4000(アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条)による。

（ⅱ）板の厚さは、特記による。特記がなければすべて2.5mm以上とする。

（３）表面処理は、特記による。特記がなければ、「共仕,表14.2.1[表面処理の種別]のＡ-2種とする。
（４）補強材、力骨及びアンカー等は、鋼製、ステンレス製又はアルミニウム合金製とする。
（ｂ）鋼材
（１）鋼材は、ＪＩＳの規格品とする。
（２）材料の厚さは、特記による。特記がなければ1.6mm以上とする。
（３）表面処理及び仕上げは、特記による。
（ｃ）ステンレス鋼材
（１）ステンレス鋼材は、ＪＩＳの規格品とし、種類は特記による。特記がなければ、SUS 304とする。
（２）材料の厚さは、特記による。特記がなければ鏡面仕上げの場合は2.0mm以上、その他は1.5mm以上とする。
（３）表面処理及び仕上げは、特記による。
（ｄ）耐候性鋼材は、ＪＩＳの規格品とする。厚さは1.6mm以上とし、表面処理及び仕上げは、特記による。
（ｅ）カーテンウォールを耐火構造にするための材料は、建設省告示第1399号[耐火構造の指定]、又は特記仕様書7.1[耐火被覆・耐火構造]に適合するものとする。
（ｆ）ガラス
（１）材料は、「共仕,16.13.2「材料」」による。
（２）ガラス取り付け用材料
（ⅰ）ガラスとめ材は、特記による。
（ⅱ）構造ガスケットを使用する場合は、シーリング機能のほかにガラスを保持する機能を有し,かつ十分な耐久性のあるものとする。
（ｇ）シーリング材
（１）不定形シーリングの種類は、特記仕様書9.12[シーリング]により、その適用は、特記による。
（２）定形シーリングの種類は、特記による。
（３）定形及び不定形シーリング材は、層間変位、風圧及び部材の熱変形による目地の変形に追従可能で、十分な弾性と耐久性をもつものを用いる。
（ｈ）その他、カーテンウォールに先付けする部材もしくは材料は、カーテンウォールの性能に支障のない品質、形状、寸法精度及び剛性を有し、かつ適切な養生を施したものを用いる。

補17.2.3　形状及び仕上げ
（ａ）製品の寸法許容差は、特記による。特記がなければ、その標準値は「共仕」表17.2.1及び補表17.2.1による。

補表17.2.1　アルミニウム合金鋳物カーテンウォール製品の寸法許容差(単位：mm)

項　　目	寸法許容差	項　　目	寸法許容差
辺　　長	＋２～－４	ねじれ、反り	4
対角線長の差	5	曲　　が　　り	3
板　　厚	－２	見込み深さ	±2
開口部内法寸法	±３	ボルトピッチ	±３
注）製品の大きさは長辺≦4000mm、短辺≦2000mmの範囲内のものとする。			

（ｂ）製品の仕上り面は、仕上げが均一で、著しく外観を損なう傷、色むら及び光沢むら、又は構造上及び防水上支障となるような、割れや損失等があってはならない。

補17.2.4　メタルカーテンウォールの製作
（ａ）製作図書等
（１）受注者は、製作に先立ち製作計画書及び製作図を作成し、監理者に提出して承認を受ける。
（２）製作計画書には、次の事項を記載する。
（ⅰ）製作に当たる部署の組織表及び役割分担表
（ⅱ）製作日程
（ⅲ）使用材料(材料加工の方法、接合方法、防食処理、仕上塗料の材料及び工法)
（ⅳ）製作フローチャート及び組立て要領
（ⅴ）検査事項、精度及び検査方法
（ⅵ）養生、運搬、揚重及び保管計画
（ⅶ）清掃方法
（ⅷ）その他監理者の指示する事項
（３）製作図には次の事項を記載する。
（ⅰ）層間変位追従方式(構造体への取付部及びユニット間の接合部)
（ⅱ）パネル割付図及び取付け金物配置図
（ⅲ）耐火被覆(層間区画部分)
（ⅳ）結露水及び侵入水の排水処理ルート
（ⅴ）パラペット笠木との取合い
（ｂ）材料及び部品
製作に用いる材料及び部品は、本仕様書及び特記に定められたものとし、これらに該当しない材料、部品については、ＪＩＳに規定する試験方法による試験に合格したものとする。
（ｃ）取付け金物
（１）取付け金物は、仕上がりに影響を与えたり、強度低下をもたらす可能性のある変形やサ法誤差のないものを使用する。
（２）補17.1.3(ａ)[耐風圧性能]及び補17.1.3(ｂ)[層間変位追従性能及び耐震性能]に規定する外力に対し十分な強度を有し、有害な変形を生じてはならない。
（ｄ）製作
（１）製作は、製作図、製作計画書及び施工者の社内規格に基づき、十分な技術管理と作業管理の下に正確かつ丁寧に行う。
（２）メタルカーテンウォール(アルミニウム合金鋳物カーテンウォールを除く。)
（Ⅰ）機械加工は正確に行い、加工による傷及び切削油による腐食等を生じないように十分に注意する。
（Ⅱ）主要部材の接合は、原則として工場溶接とする。見掛り面の溶接ビードは研磨仕上げとする。
（Ⅲ）工場及び現場での組立ては、次の諸事項に注意して行う。
① 接合部は、指示寸法に正確に合わせ、堅牢に接合する。
② シーリング材は正確に充填する。
③ ウェザーストリップは、切れ目なく完全にはめ合わす。
④ 補強材及び補助材の接合には、接触腐食防止の対策を施す。
⑤ 溶接部は、はねや酸化物を清掃や磨きによって取除いた後、防錆処理を施す。又、溶接によって仕上げ面が著しい変色やゆがみを起してはならない。
（ⅳ）結露により内部腐食や裏打材の剥落等が起こらないようにする。
（ⅴ）製品は、製作所による社内検査を行い、合格したものとし、検査成績書を監理者に提出し、承認を受ける。
（３）アルミニウム合金鋳物カーテンウォール
（ⅰ）アルミニウム合金は、溶解したものを適温に保って精練した溶湯を用い、鋳造に際しては、計器測温により溶湯温度を適正に管理する。
（Ⅱ）鋳型から分離した製品は、湯口やばり等を除去後、冷却収縮によって生じたひずみを矯正する。
（Ⅲ）製品は、製作所による社内検査を行い、合格したものとし検査成績書を監理者に提出し承認を受ける。
（ｅ）製品検査
（１）製品検査は、補17.2.4(ａ)製作計画書に従って行う。検査の判定基準はJASS14.7.2.1、表7.1[製作過程におけるメタルカーテンウォールの検査]による。ただし、製品寸法については、補17.2.3[形状及び仕上げ]の(ａ)による。
（２）製品検査結果は、個体単位の検査成績表を作成し、監理者に提出して、承認を受ける。

補17.2.5　メタルカーテンウォールの取付け
（ａ）アルミニウム合金鋳物カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差は、特記による。特記がなければ、その標準値は補表17.2.2による。

補表17.2.2 アルミニウム合金鋳物カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差

項　　目	寸法許容差 mm	
目地の幅	±5	
目地心の通り	3	
目地両側の段差	4	
各階の基準墨から各部材までの距離	±5	

（ｂ）変位の吸収を要求されている取付け金物は、変位を吸収できるように、部材間の摩擦低減材の挿入やボルトの締付けトルクの適性管理等を行う。

補３節　ＰＣカーテンウォール

補17.3.1　適　用　範　囲
この節はプレキャストコンクリート(繊維補強セメント・コンクリート複合材を含む)を用いたカーテンウォール工事に適用する。この節に記載又は、特記がある事項以外は、「共仕,17章3節[ＰＣカーテンウォール]による。

補17.3.2　材　　料
（ａ）コンクリート
（１）軽量コンクリート
（ⅰ）調合
「共仕,17.3.2(ａ)(２)による他、下記に示す事項を考慮して所要の品質が得られるようにする。
① 設計基準強度
② 脱型時及び出荷時強度
③ コンクリート製造条件及び強度の標準偏差
④ 加熱養生条件
一般にＰＣカーテンウォール製作所では、基準とする標準調合を定めている。強度等の条件が満たされる場合は、ＰＣカーテンウォール製作所の標準調合を適用する。
（２）繊維補強セメント・コンクリート複合材
（ⅰ）繊維補強セメント・コンクリート複合材を用いたカーテンウォールは、特記による。種別、材料、製法等については、補8.6[繊維補強セメント・コンクリート複合材]による。
（Ⅱ）カーテンウォールパネルに適用される材種は次により、その適用は、特記による。
① 炭素繊維
② ガラス繊維補強セメント・コンクリート複合材(ＧＲＣ)
（ｂ）ガラス
（１）ガラス取付け用材料
（ⅰ）ガラスとめ材は、特記による。
（Ⅱ）ＰＣ板開口部にＹ形ガスケットを使用する場合の取付け部分は、次を標準とする。
① 溝の寸法精度は、JASS17[ガラス工事]による。
② コンクリートパネル面から溝の中心までの寸法は60mm以上とする。
③ 溝の前後におけるコンクリート面の勾配は、5°(8/100)以内とする。溝幅、位置等の精度は、ガラスのはめ込みやガスケットのガラス保持性及び水密性に影響するので十分な精度管理を行う。
（ｃ）シーリング材
（１）不定形シーリングの種類は、特記仕様書9.12[シーリング]により、その適用は、特記による。
（２）定形シーリングの種類は、特記による。
（３）定形及び不定形シーリング材は、層間変位、風圧及び部材の熱変形による目地の変形に追従可能で、十分な弾性と耐久性をもつものを用いる。
（ｄ）先付けサッシの材料
（１）アルミニウム及びアルミニウム合金材
（ⅰ）アルミニウム押出形材
補17.2.2[材料](ａ)による。
（Ⅱ）アルミニウム板材
補17.2.2[材料](ａ)による。
（Ⅲ）表面処理
「共仕,表14.2.1[表面処理の種別]のＢ－2種とする。
（ⅳ）補強材、力骨、アンカー類は、鋼製、ステンレス製又はアルミニウム合金製とする。
（２）鋼材
補17.2.2[材料](ｂ)による。
（３）ステンレス鋼材
補17.2.2[材料](ｃ)による。
（ｅ）カーテンウォールに先付けする仕上げ材、金物
（１）石材を先付けする場合においては、石材と裏打ちコンクリートとの挙動の差異を考慮して、この両者の接着は期待せず、定着金物のみで石材を固定する。
（２）その他のカーテンウォールに先付けする部材もしくは材料は、カーテンウォールの性能に支障のない品質、形状、寸法精度及び剛性を有し、かつ適切な養生を施したものを用いる。

補17.3.3　形状及び仕上げ
（ａ）標準(４ｍ×2.5ｍ程度)を大きく上回る板、リブ付き形状板、パラペット部を含む長大板ならびにＬ形コーナー板等では、ＰＣ板の形状、大きさ、建物の条件等を考慮し、製品の寸法許容差は、カーテンウォールの諸性能に影響しない数値とする。
（ｂ）製品の仕上り面は、仕上げ均一で、著しく外観を損なう傷、色むら、光沢むら、構造上及び防水上支障となるような割れや破損等があってはならない。ＰＣ板に先付けする表面仕上げ材は、美観だけでなく、耐久性にも影響を与えるので、その選択には十分注意する。仕上げ材の種類や材料によっては、ＰＣ板製作に先立ち、試験体を製作して付着力、アンカー耐力等の確認を行う。

補17.3.4　ＰＣカーテンウォールの製作
（ａ）製作図書等
（１）受注者は、製作に先立ち製作計画書及び製作図を作成し、監理者に提出し、承認を受ける。
（２）製作計画書には、次の事項を記載する。
（ⅰ）製作に当たる部署の組織表及び役割分担表
（Ⅱ）製作日程
（Ⅲ）使用材料(型枠加工の方法、材料加工の方法、先付け部材の製作方法及び打込み方法、金物類の防食処理、仕上げ塗材・塗料の工法、先付け仕上げ材の工法)
（ⅳ）製作フローチャート及び組立て要領
（ⅴ）検査事項、精度及び検査方法
（ⅵ）養生、運搬、揚重及び保管計画
（ⅶ）清掃方法
（ⅷ）その他監理者の指示する方法
（３）製作図には次の事項を記載する。
（ⅰ）層間変位追従方式(構造体への取付部及びユニット間の接合部)
（Ⅱ）パネル割付及び取付け金物配置図
（Ⅲ）取付け金物の摩擦低減材の材質及び取付け寸法
（ⅳ）ＰＣ板の配筋及び埋込み金物
（ⅴ）版相互のジョイント部の詳細及び耐火目地材の納まり
（ⅵ）構造ガスケットを使用する場合のＰＣ部との納まり
（ⅶ）結露水及び侵入水の排水処理ルート
（ⅷ）パラペット笠木及び他部材との取合い
（ｂ）材料及び部材
製作に用いる材料及び部品は、本仕様書及び特記に定められたものとし、これらに該当しない材料・部品についてはＪＩＳに規定する試験方法による試験に合格したものとする。
（ｃ）取付け金物
（１）取付け金物は、仕上がりに影響を与えたり、強度低下をもたらす可能性のある変形やサ寸法誤差のないものを使用する。
（２）補17.1.3(ａ)[耐風圧性能]及び補17.1.3(ｂ)[層間変位追従性能及び耐震性能]に規定する外力に対し十分な強度を有し、有害な変形を生じてはならない。
（ｄ）製作
（１）製作は、製作図、施工計画書及び施工者の社内規格に基づき、十分な技術管理と作業管理の下に正確かつ丁寧に行う。
（２）せき板は、金属製の場合、厚さ4.5mm以上の鋼板、木製の場合は、「コンクリート型枠用合板日本農林規格」による1種合板とし、厚さ18mm以上で表面加工品とする。
（３）吊下げ用インサート・ナット等は、取付け仕様フォームポリスチレン材を充填した後シーリング材等で封鎖し、水密を確保する。
（ｅ）製品検査
（１）製品検査は、製作計画書に従って行う。検査の判定基準はJASS14.7.2、表7.2[製作過程におけるプレキャストコンクリートカーテンウォールの検査]による。ただし、製品寸法については、「共仕」17.3.3[形状及び仕上げ]の(ａ)による。製品検査結果は、個体単位の検査成績表を作成し、監理者に提出し承認を受ける。

補17.3.5　ＰＣカーテンウォールの取付け
（ａ）変位の吸収を要求されている取付け金物は、変位を吸収できるように、部材間の摩擦低減材の挿入やボルトの締付けトルクの適性管理等を行う。

補４節　設計条件の確認

補17.4.1　適　用　範　囲
この節は、メタルカーテンウォール及びＰＣカーテンウォールの各部の設計条件の確認に適用する。

補17.4.2　荷重、外力及び層間変位
（ａ）自重の算定に当たっては、吸湿及び吸水の恐れのある材料を使用する部分には、それによる自重の増加を考慮する。
（ｂ）構造計算の対象とする風圧力は、補17.1.3(ａ)[耐風圧性能]による。
（ｃ）構造計算の対象とする地震力は、補17.1.3(ｂ)[層間変位追従性能及び耐震性能]による。
（ｄ）温度応力は通常予想される部材の年間最高温度と最低温度との差を用いて算定する。
（ｅ）カーテンウォール部材の設計に当っては、カーテンウォールの脱型、反転、場内運搬、ストック、場外運搬及び取付け等における荷重及び外力を考慮する。吊上げに用いる金物類は、自重の他に衝撃荷重も考慮する。

補17.4.3　構造上の設計
（ａ）カーテンウォール各部は、通常予測される各応力の繰返し作用に安全でなければならない。
（ｂ）応力の組合わせ及び層間変位追従性
（１）各部に生ずる応力は、補17.4.2[荷重、外力及び層間変位]による各応力の組合わせのうち、最も大きなものをとる。
（２）層間変位追従性は、風圧力及び地震力によって生ずる層間変位のうち、最も大きい方に追従出来るようにする。
（３）ガラスは、熱応力計算値が許容応力を超えないよう熱割れ防止設計を行う。
（ｄ）ガラスの取付け部の溝
（１）ガラスのはめ込みにおけるクリアランス及びかかり代などは、「共仕,表16.13.1[ガラス溝の大きさ]による。面クリアランスとかかり代については、補17.4.3(ｃ)(２)に準じて熱割れ防止のための検討を行う。
（２）ガラスの取付けに不定形シーリングを用いる場合の、エッジクリアランスは、サッシの上下枠の相対水平変位の許容値を確認し、許容値が層間変位によるサッシの変形の大きさ以上になるように決定する。
（３）構造ガスケットを使用する場合で、施工中にガスケットを傷つけないようにガラスエッジの面取りを行う場合は、耐風圧及び熱割れ防止に必要なガラスエッジ強度を確保する。

補17.4.4　取付け金物の設計
（ａ）取付け用金物は、構造体の許容される範囲内の施工誤差及びカーテンウォールの製作誤差を吸収できるものとする。
（ｂ）カーテンウォールに先付けする部材付け金物は、所定の耐力が十分に確保出来る様な位置に設置する。
（ｃ）ＰＣカーテンウォールに先付けする金物は、所定の耐力を確保するのに十分なコンクリート端面からの寸法及び定着長をとり、必要に応じて補強を行う。また、周囲に打込まれるコンクリートが容易に充填できるような形状、寸法及び配置にする。

補17.4.5　耐　　火
カーテンウォールは補17.1.3(ｅ)[耐火性能]を満足すると共に、内部延焼を防止し、火災による脱落が生じないようにする。

補17.4.6　接　合　部　工　法
（ａ）接合部は、2重シールによるクローズドジョイント又は等圧オープンジョイントによるものとし、その適用は、特記による。
（ｂ）接合部には、外部に排出するための有効な排水機構を設ける。
（ｃ）接合部の目地部の部材端面の最小寸法は、1次シール材、耐火目地材(部材が耐火被覆材を兼ねる場合)、減圧空間及び2次シール材が無理なく設置出来る値とする。

補17.4.7　その他の設計上の配慮
（ａ）カーテンウォールの室内側及び壁体内に有害な結露を生じないように設計し、結露が生ずる恐れのあるときは適切な処理機能を取込む。結露水による錆や凍結などにより、性能の低下や機構上の欠陥が生じないようにする。
（ｂ）竣工後、補修の必要が予想される部分及び清掃する必要のある部分は、作業が安全かつ容易に行われるようにする。清掃用機械器具を使用する場合は、カーテンウォールの構造耐力や機構が使用に支障のないようにする。
（ｃ）異種金属の接触腐食により、美観その他の性能に欠陥を生ずる恐れのある時は、その部分における漏水や結露水などの発生もしくは異種金属の接触がないように、腐食の発生の恐れのある部分は絶縁処理もしくは防錆処理を行う。
（ｄ）部材間にクリアランスをとることにより、各性能が低下する恐れのある場合は、その程度に応じた性能低下防止の処理をする。
（ｅ）予測される風圧力、地震力及び熱応力による変形に起因して発生する擦音や摩擦音は最小限に抑えるようにする。
（１）ファスナー部
金属衝動部にテフロン、りん青銅グラファイト、平滑なステンレス板等を挟む。
（２）方位接合部
方位とジョイントスリーブの接触部分には、テフロンを挟んだり液状剤等を塗布する。
（３）方位・無目とスパンドレル
方位とスパンドレル、無目とスパンドレルの接合部にはゴム等のクッション材を挟む。
（４）パネル自体
パネルのべこつきを防ぐために板厚を大きくしたり、補強材を付ける。又はタール系の材料等を厚めに塗布する。補強材とパネルは、間にクッション材を挟むか、完全に一体に製作する。
（５）密閉閉部、排煙口等の召合わせ部やドライシールで納めた構成部材間の隙間を空気が流通することによる風切り音に対しては、召合わせの隙間を小さくし、通気量を抑える。その方法は、次による。
（ⅰ）吊り金物、締金具等の数を増やす。
（Ⅱ）障子、枠断面の寸法、板厚を大きくする。
（６）カーテンウォールに組込まれた換気口からの通気による風切り音空気流に対し、抵抗性のないディテールを考慮する。
（ｆ）乾燥収縮ひび割れの制御
（１）部材周囲の拘束が強過ぎないように、部材は出来るだけ平板状とし、やぐらを得ずリブ状部材とする場合は、リブで囲まれる平板部の面積を1.5㎡以下とする。
（２）変形した断面部は、応力集中を防ぐため出来るだけ鋭角状としない。
（３）平板部はダブル配筋とし、鉄筋もしくは溶接金網の間隔は部材の厚さの1.5倍以下とする。
（ｇ）構造ガスケット取付部分の設計
（１）開口部に中形定形シーリングを使用する場合の取付け部分については、JASS17[ガラス工事]を適用する。
（２）ＰＣカーテンウォール等の開口部にＹ形定形シーリングを使用する場合の取付け部分は次を標準とする。
（ⅰ）溝の寸法精度は、JASS17[ガラス工事]による。
（Ⅱ）コンクリート端面から溝の中心までの寸法は60mm以上とする。
（Ⅲ）溝の前後におけるコンクリート面の勾配は、5°(8/100)以内とする。
（ｈ）付帯工事部材取付け用先付け金物は、その用途に適した材質を用い、所定の強度ならびに耐久性を有するものとする。

補５節　施　　工

補17.5.1　適　用　範　囲
この節は、メタルカーテンウォール及びＰＣカーテンウォールの施工に適用する。

補17.5.2　施　工　図　書　等
（ａ）受注者は、施工に先立ち施工計画書及び施工図を監理者に提出し承認を受ける。
（ｂ）施工計画書には、次の事項を記載する。
（１）施工関係者の組織表及び役割分担
（２）工程計画
（３）運搬単位による部材一覧表
（４）運搬、揚重及び保管計画
（５）取付け方法及び取付け順位
（６）養生及び清掃計画
（７）検査事項、精度及び検査方法
（８）安全対策
（９）その他監理者の指示する事項
（ｃ）施工図には次の事項を記載する。
（１）構造体側金物配置図
（２）取付け方法、ジョイント、雨仕舞及びシーリング
（３）耐火被覆、層間ふさぎ及び防火煙区画の処理方法
（４）排水処理及び結露対策
（５）設備工事及び内装等その他工事との取合い

補17.5.3　清掃及び養生
（ａ）清　掃
（１）清掃は表面仕上げに異常を生じさせない方法で行う。
（２）清掃の時期及び範囲は、監理者と協議の上決定する。

補17.5.4　施　工　検　査
（ａ）施工検査は、補17.5.2(ｂ)[施工計画書]に従って行い、検査の項目、方法及び判定基準はJASS14.7.3、表7.3[施工過程の検査]による、取付け位置の寸法許容差は補17.2.5[メタルカーテンウォールの取付け]及び補17.3.5[ＰＣカーテンウォールの取付け]による。
（ｂ）施工検査結果は、検査報告書を作成し、監理者に提出し承認を受ける。
（ｃ）検査の結果、補修又は取替えを必要とする場合は、速やかに対処し、結果を監理者に報告する。

18章　塗装工事

補１０節　アクリルシリコン樹脂塗装

補18.10.1　適　用　範　囲
この節は、主として比較的長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いるアクリルシリコン樹脂塗装に適用する。

補18.10.2　素地ごしらえ
（ａ）ステンレス面の素地ごしらえは、補表18.10.1による。
補表18.10.1　ステンレス面の素地ごしらえ

工　　程		面の処理	備　　考
1	汚れ、付着物除去	汚れ、付着物をスチールウール布等で除去した後に溶剤拭き	
2	素地除去	ヘアライン又はダル処理	
3	油膜除去	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後湯洗い、又は溶剤洗浄	
4	化成皮膜処理	クロム酸塩化成皮膜又は酸化皮膜処理後、水洗い乾燥	直ちに次の工程に移る

（ｂ）アルミニウム面の素地ごしらえは、補表18.10.2による。
補表18.10.2　アルミニウム面の素地ごしらえ

工　　程		面の処理	備　　考
1	汚れ、付着物除去	汚れ、付着物をスチールウール布等で除去した後に溶剤拭き	
2	油膜除去	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後湯洗い、又は溶剤洗浄	
3	化成皮膜処理	クロム酸塩化成皮膜又は酸化皮膜処理後、水洗い乾燥	直ちに次の工程に移る

補18.10.3　材　　料
上塗りに用いるアクリルシリコン樹脂エナメル、及びクリヤは、カネカゼウムラックを配合した非イソシアネート系塗料で、主剤にはアクリルシリコン樹脂（アルコキシシリン基含有ビニル共重合樹脂）及び硬化剤は、アルコキシシリル基に対する硬化触媒を主成分とする。

補18.10.4　金属系素地面のアクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）
（ａ）この項はステンレス面及びアルミニウム面の金属系素地面における、アクリルシルコン樹脂エナメル塗りに適応する。
（ｂ）ステンレス面及びアルミニウム面のアクリルシリコン樹脂エナメル塗りは、製造所の仕様による。

補18.10.5　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）
（ａ）この項は、コンクリート打放し面におけるシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗りに適用する。
（ｂ）コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗りは、補表18.10.6により、シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格は、特記による。
補表18.10.6　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗り

工　　程	塗料種別C種	塗料その他	塗布量 kg/㎡
素地ごしらえ	○	「共仕,表18.2.6によるＡ種	—
1　下塗り	○	シリコン系浸透性吸水防止材	0.15～0.20
2　上塗り 1回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂エナメル	0.10
3　上塗り 2回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂エナメル	0.10
(注）低汚染型の場合は、工程２及び工程３に低汚染型アクリルシリコン樹脂エナメルを使用する。			

（ｃ）工法その他は、製造所の仕様による。

補18.10.6　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗り（ASC）
（ａ）この項は、コンクリート打放し面におけるシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗り(カラークリヤを含む)に適用する。
（ｂ）コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗りは、補表18.10.7により、塗料種別及びシリコン系浸透性吸水防止材の材料規格は、特記による。

（ｃ）工法その他は、補表18.10.7による。

補表18.10.7　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗り

工　程		塗料種別Ｃ種	塗料その他	塗布量 kg/㎡
素地ごしらえ		○	'共仕,表18.2.6によるＢ種	—
1	下塗り	○	シリコン系浸透性吸水防止材	0.15～0.20
2	上塗り 1回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂クリヤ	0.10
3	上塗り 2回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂クリヤ	0.10

(注) 低汚染型の場合は、工程2及び工程3に低汚染型アクリルシリコン樹脂クリヤを使用する。

補１１節　常温乾燥形ふっ素樹脂塗装

補18.11.1　適　用　範　囲
この節は、主として比較的長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いる常温乾燥形ふっ素樹脂塗装に適用する。

補18.11.2　素地ごしらえ
ステンレス面、アルミニウム面の素地ごしらえは、補表18.10.1及び補表18.10.2による。

補18.11.3　材　　料
中塗り及び上塗りに用いるふっ素樹脂塗装は、フルオロオレフィンビニルエーテル共重合体樹脂（ＦＥＶＥ）の常温硬化型塗料とし、対汚染性を考慮して三フッ化モノマー配合とする。中塗り及び上塗りに用いるふっ素樹脂分中のフルオロオレフィンビニルエーテル共重合体樹脂が100％配合されていること。促進耐軟性試験で4,000時間（ＧＲ90％以上）に耐えるものとする。（補表14.9.14）

補18.11.4　金属系素地面の常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗装（2-FUE）
（ａ）この項はステンレス面及びアルミニウム面の金属系素地面における、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りに適応する。
（ｂ）ステンレス面及びアルミニウム面の常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りは、製造所の仕様による。

補18.11.5　コンクリート打放し面の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗り（FUC）
（ａ）この項は、コンクリート打放し面の濡れ肌防止用塗料の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗りに適用する。
（ｂ）コンクリート打放し面の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗りは、補表18.11.4により、塗料種別及びシリコン系浸透性吸水防止材の材料規格は特記による。

補表18.11.4　コンクリート打放し面の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗り

工　程		塗料種別 A種	塗料種別 B種	塗料その他	標準膜厚 μm	塗布量 kg/㎡
素地ごしらえ		○	○	'共仕,表18.2.6によるＢ種	—	—
1	下塗り	○	○	浸透性吸水防止材	—	0.10～0.12
2	中塗り	○	—	コンクリート用(低汚染型)常温乾燥形ふっ素樹脂中塗り濡れ肌防止材	30～40	1.15～0.17
3	上塗り 1回目	○	○	コンクリート用(低汚染型)常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ(着色)	15～25	0.14～0.30
4	上塗り 2回目	○	○	コンクリート用(低汚染型)常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ(着色)	15～25	0.10～0.13

(注)低汚染型の場合は、工程2.3及び工程4に低汚染型常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤを使用する。

１９章　内　装　工　事

補２節　ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

補19.2.1　材　　料
（ａ）ビニル床シート張り
（１）この項は、ビニル床シートの材料について追加補充するもので、ここに規定する以外は、'共仕，19章２節[ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り]による。
（２）ビニル床シートの材料はJIS Ａ 5705(ビニル系床材)による他、その他の床シートを含めた床シートの種類は、補表19.2.1により、材料、厚さは特記による。

補表19.2.1　ビニル床シート等の種類

種　類	名　称	記号	粘結材	構　成
ビニル床シート	発泡層のないビニル床シート 単層シート	NM	塩化ビニル樹脂及び塩ビ酢酸ビ共重合樹脂	単体のもの
	長尺塩ビシート	NC		織布を積層したもの
	インレイドシート	NF		不織布を積層したもの
	ソフトインレイドシート	NO		織布、不織布以外の材料を積層したもの
	発泡層のあるビニル床シート 複合塩ビシート(タイプⅠ)	DC		織布を積層したもの
		DF		不織布を積層したもの
		DO		織布、不織布以外の材料を積層したもの
	クッションフロアー(タイプⅡ)	PF		不織布を積層し、印刷柄を有するもの
		PO		織布、不織布以外の材料を積層したもので印刷柄をもつもの
ゴム床シート	ゴムシート		合成ゴム	織布
油脂系床シート	リノリウム		亜麻仁油	織布(麻布)、不織布以外のもの(紙)

N:None Foamタイプ　M:Mono(単体)　C:Cotton Wooven で代表される織布　F:Flet(不織布)
O:Other で M,F,C 以外のもの　D:Durable use(重歩行用)　P:Print(印刷柄)

（ｂ）ビニル床タイル及びゴム床タイル張り
（１）この項は、ビニル床タイル及びゴム床タイルの材料について追加補充するもので、ここに規定する以外は、'共仕，19章2節[ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り]による。
（２）ビニル床タイルの材料はJIS Ａ 5705(ビニル系床材)による他、その他の床、タイル等を含めた床タイルの種類は、補表19.2.2により材料厚さは特記による。

補表19.2.2　ビニル床タイル等の種類

種　類	名　称		粘結材	構　成
ビニル床タイル	ホモジニアスビニル床タイル	プレス	塩化ビニル樹脂及び塩ビ酢酸ビ共重合樹脂	単層のもの(チップ、ペレット、板状)
		無地		積層したもの(板状)
		マーブル		
	ビニルタイル			
	ビュアビニルタイル			単層のもの(チップ、板状)
	コンポジション ビニル 床タイル	半硬質(CT) 軟質(CTS) 無地		半硬質 へこみ量 20℃ 0.15mm以上
		マーブル		
		スルーチップ		軟質 へこみ量 20℃ 0.25mm以上
	エンボスタイル			
	帯電防止、耐酸、耐油ビニルタイル			
ゴム床シート	硬質ゴムタイル		天然、合成ゴム	積層(シート、ペレット状)
	軟質ゴムタイル		合成ゴム	単層(シート、コイン状)
ビニル幅木	硬質ビニル幅木 軟質ビニル幅木			

（ｃ）種類、色柄、寸法、厚さ及び寸法は、特記による。

補５節　フローリング張り

補19.5.1　材　　料
（ａ）この項は、フローリングの材料について追加補充するもので、ここに規定する以外は、'共仕,19章5節[フローリング張り]による。
（ｂ）フローリングの種類は補表19.5.1により、その適用は、特記による。

補表19.5.1　フローリングの種類　(単位:mm)

種　類		樹　種	裏うち	厚さ	大きさ	幅	長さ	工　法	塗　装
単層フローリング	特殊集成材	ナラ プナ カバ アサダ イタヤカエデ マトアマツ ス		15～30	303×1818 455×1818	—	900 909	接着 釘どめ	なし
複合フローリング	特殊加工木化粧複合フローリング	ギ ヒノキ 国産広葉樹	接着のみあり	6 ～30	—	50～450	600～2000	モルタル 釘どめ 接着	あり WPC
	天然木化粧複合プロック	国産 針葉樹	あり	6 ～30	240×240～303×303	—	—	接着	あり (なし)
	特殊加工木化粧複合プロック	外国産広葉樹	あり	8 ～30	240×240～303×303	—	—	接着	あり WPC
	大型積層材複合フローリング	外国産針葉樹		12 ～30	フリーサイズ	—	1818	接着 釘どめ	あり (なし)

ＷＰＣ：合成樹脂含浸木材
工法：　モルタル＝モルタル埋込み工法　　釘どめ＝釘どめ工法　接着＝接着工法

補１０節　ポリスチレンフォーム系床下地材

補19.10.1　適 用 範 囲
この節はコンクリート面に施工するポリスチレンフォーム系床下地材に適用する。

補19.10.2　種　　類
種類は畳下パネル及びフローリング類下パネル(桟付)とし、その適用は特記による。

補19.10.3　材　　料
（ａ）ポリスチレンフォーム床下地材はJIS Ａ 9511(発泡プラスチック保温材)に規定するＢ-2により、その寸法は幅600mm、長さ900mmとし、厚さは特記による。特記がなければ40mmとする。
（ｂ）コンクリート面に施工する場合に使用するモルタル及び接着剤、空練りモルタルは、パネル製造所の仕様による。

補19.10.4　工　　法
（ａ）パネルの敷並べ時に、パネル上面に配管等の位置表示を行うこと。割付により、パネルを切り欠く場合は、床仕上げ材へ支障のないようにする。
（ｂ）フローリング類下パネル(桟付)に木質系床材を釘打ちする場合は、接着剤併用とし、接着剤及び塗布方法はパネル製造所の仕様による。

補１１節　住宅用乾式遮音二重床下地材

補19.11.1　適 用 範 囲
この節は調整可能な支持脚により構成された遮音効果のある住宅用乾式遮音二重床について適用する。

補19.11.2　種　　類
種類は補表19.11.1により、適用箇所は、特記による。

補表19.11.1　住宅用乾式遮音二重床下地材の種類

種　類	Ａ　種	Ｂ　種
適 用 箇 所	洋室、厨房、廊下等	洗面所、脱衣室等

補19.11.3　材　　料
（ａ）ベースパネル
パーティクルボードはJIS Ａ 5908に規定する18Ｍタイプ又は18Ｐタイプで、日本硬質繊維板工業会の下地用パーティクルボード規格表示のものとし、寸法は、特記による。特記がなければ25mm×1820mm×600mmとする。
又、ホルムアルデヒドの放散量は、Ｆ☆☆☆☆とし、その適用は、特記による。水廻りに使用する場合は、表・裏面及び小口面にパラフィン50g/㎡以上を含浸させたものとし、適用は特記による。
（ｂ）捨板合板
木質系複合床板仕上の場合はなしとし、ビニル床シート、カーペット等の場合は普通合板１類でホルムアルデヒド放散量がＦ☆☆☆☆のＪＡＳ規格品厚5.5mmとし適用は特記による。
（ｃ）支持脚等
１．合板ブロック　　JAS T1
２．インサートナット　　JIS G 3507　クロームメッキ処理
３．支持ボルト　　JIS G 3507　クロームメッキ処理
４．防振ゴム　　JIS K 6386　A種　　硬度60±５

補19.11.4　工法・その他
（ａ）支持ボルトのゆるみ防止対策
合板樹脂系接着剤を支持ボルト両端に塗布
（ｂ）家具等のゆれ防止対策
壁面から45.0mm以内に支持脚を設置する。開口部等の壁際は612mm以内とする。
（ｃ）施工仕様
（１）支持脚をベースパネルの固定はスクリューネイラーどめとする。
（２）木質系複合床板貼りはベースパネル上にスクリュー釘どめとし、接着剤は原則として使用しない。
（３）仕上材がカーペット、ビニル床シートの場合は捨張合板厚5.5mmとする。
施工はベースパネル上にスクリュー釘どめとし接着剤は原則として使用しない。
（ｄ）上記以外の項目については製造所仕様による
（ｅ）施工図
上記に基づき施工に先立ち仕上材の貼り方、方向、設備配管等との整合を図り、床きしみ等が生じないよう配慮した施工計画書及びタイプ別割付図を作成する。

補１２節　弾性床

補19.12.1 適 用 範 囲
この節は体育館等(一般体育館、柔道場、剣道場、柔剣道場、スポーツ競技場等)スポーツフロアーとしての強度、弾性、平滑性等を必要とする床工法に適用する。

補19.12.2 塗 り 床
（ａ）弾性塗り床の種別は、補表19.12.1.により、材料及び厚さは特記による。各層の材質及び塗工法は専門業者の仕様による。

補表19.12.1　弾性塗り床の種別

種　別	床下地の構造 コンクリート又はモルタル	床下地の構造 鋼製床下地	寸法 厚さ(mm)
ｺﾞﾑﾁｯﾌﾟ弾力層＋ネオプレン保護層	○	○	15～18
ｺﾞﾑﾁｯﾌﾟ弾力層＋ウレタン仕上層	○	○	13～16
ウレタン厚塗り	○	○	4～10

（ｂ）下地のコンクリート面の仕上がりの平たんさは、3mにつき5mm以下を標準とし、他の仕様は'共仕,15.5.2による。
（ｃ）塗り床の表面仕上げは、耐摩耗性防滑つや消し仕上げとする。
この他の工法仕様は'共仕,19.4.3[工法]による。

補19.12.3 張 り 床
（ａ）張り床の種別は補表19.12.2により、材料及び厚さは特記による。

補表19.12.2　張り床の種別

種　別	床下地の構造 コンクリート又はモルタル	床下地の構造 鋼製床下地	寸法 厚さ(mm)	寸法 幅・長さ(mm)
ビニル床シート(発泡性・非発泡性)	○	○	2～5.5	1820・9000
タイルカーペット	○	○	5～12	915～1525 ・15000
合成ゴム系シート	○	—	7～11	500・500
パンチカーペット	○	—	4	1820～2730 ・10000
人工 芝(織物タイプ・砂入タイプ)	○	—	7～30	910～1800 5000～20000

（ｂ）下地は、コンクリート又は鋼製下地合板二重床とし、適用は特記による。下地のコンクリートの仕上がりの平たんさは、3mにつき5mm以下を標準とし、他の仕様は'共仕,15.3.2による。その他については、'共仕,19.2.3[施工]、19.2.4[寒冷地の施工]による。

補19.12.4 木　造　床
（ａ）材料は「フローリングの日本農林規格」合格品とし、樹種及び厚さは、特記による。
（ｂ）下張り板
下張り板は下記とし、適用は、特記による。
（１）合板
普通合板１類でホルムアルデヒド放散量がＦ☆☆☆☆の、コンクリート型枠用合板及び構造用合板の日本農林規格の規格品で防水性能を有し、厚さ12mm以上とする。但し、組床の柔道場、剣道場及び柔剣道場にあっては、15mm以上とし、その適用は特記による。
（２）パーティクルボード
JIS Ａ 5908に規格する18Ｍタイプ又は18Ｐタイプで日本硬質繊維板工業会の下地用パーティクルボード規格表示のもので、厚さは20mm以上とし、適用は特記による。又、ホルムアルデヒドの放散量はＦ☆☆☆☆とし、その適用は、特記による。
（ｃ）フローリングの張付け工法
下地材に、接着剤併用で、隠し釘打ち又は隠し釘打ちと脳天ビスでとめるものとし、適用は、特記による。
（ｄ）研磨
研磨紙は、#30～#100以上を標準として用い、荒掛け、中掛け及び仕上げの3回掛けとする。研磨にて落ちない段差、キズ及び汚れ等は板の張替え及び薬品などで拭取りを行う。
（ｅ）塗装
塗装はポリウレタン樹脂塗装(油変性型、湿気硬化型、2液反応型)、酸硬化アミノアルキッド樹脂塗装又は、水性ウレタン樹脂塗装とし、適用は特記による。塗装工程は補表19.12.3による。

補表19.12.3　木造弾性床の塗装工程

工　程	作　業	G	乾燥養生期間(時間以上) 油性	湿硬	2液	AKP	水性ウレタン
素地ごしらえ	研磨された面をよく清掃し付着物を取除き油類は溶剤拭きする。	—	—	—	—	—	—
下塗り	塗料は塗料タイプに応じた量のうすめ液にて希釈し、刷毛又は羊毛刷毛にて塗布する。	60以上	10	8	8	8	8
研磨	研磨紙#100～120にて研磨し気泡をよくとる。	—	—	—	—	—	—
中塗り	下塗りに同じ	60	10	8	8	8	8
研磨	研磨紙#100～120にて研磨し気泡をよくとる。	—	—	—	—	—	—
ライン引		—	—	—	—	—	—
上塗り	下塗りに同じ	60	10	8	8	8	8

G:㎡当り塗布量g　　ＡＫＰ:酸硬化アミノアルキッド樹脂塗装

（ｆ）完成した床の水平精度は床全体の公差±5mm以内とする。但し、局部的な辺部(出入口など)からくる制約による誤差、又、柔道場の畳部分は除くものとする。

補19.12.5　鋼製床下地
（ａ）鋼製床下地は、JIS Ａ 6519(体育館用鋼製床下地構成材)の規格による。
（ｂ）構成区分及び使用目的による区分は補表19.12.4及び、補表19.12.5により、その適用は特記による。

補表19.12.4　構成による区分

区　分	記号	備　考
組床式	F	支持脚・大引・根太などを組合わせて構成されるもの。
置き床式	S	支持脚及び床パネルなどを組合わせて構成されるもの。

補表19.12.5　使用目的による区分

区　分	記号	備　考
一般体育館用	G	通常の体育館の構成材として使用するもの。
柔道場用	R	柔道場の構成材として使用するもの。
剣道場用	K	剣道場の構成材として使用するもの。
柔剣道場用	R・K	柔道場及び剣道場に兼用される構成材として使用するもの。

（ｃ）構成材の性能は、JIS Ａ 6519の表3(性能)に適合しなければならない。
（ｄ）構成材に使用する材料は、JIS Ａ 6519の表6(材料)により、床パネル及び支持板の種別は、特記による。

※天井下地における耐震性を考慮した補強は以下とする。（標準仕様書14.4.4(j)）（改修標準仕様書 6.6.4(j)）

1．一般事項
①設計地震力：建築工事特記仕様書（1）又は建築改修工事特記仕様書（1）のⅠ．設計概要による建築非構造部材水平震度及び垂直震度を適用する。

2．耐震補強を行う天井
1）内部天井：内部仕上表に記載する諸室（天井下地耐震補強欄に以下、A・B・Cの区分を示す）
A：500㎡を越える大規模天井。吹抜け他、室用途により高天井とする天井。
①耐震ブレースを設ける。
②ビスハンガー（開き止め）、ビスクリップ(外れ止め)を使用する。
③壁際にクリアランスを設ける。天井の段差部、柱型際も同様とする。
B：500㎡以下、特に耐震性を考慮する室の天井
①耐震ブレースを設ける。
②ビスハンガー（開き止め）、ビスクリップ(外れ止め)を使用する。
③壁際にクリアランスを設ける（B 1）か、周囲が設計地震力を満たす剛性のある壁で囲われている場合は、天井下地壁際を固定する（B 2）。
C：上記A，B以外の天井
①耐震ブレースを設ける。
②天井下地壁際を固定する。
2）外部天井：屋外の軒天井，ピロティ天井等
①耐震ブレースを設ける。
②天井下地壁際を固定する。

3．耐震性を考慮した補強仕様
①耐震ブレース
イ）一対の耐震ブレース負担面積の目安
a）在来天井　：ブレース負担面積の目安は「耐震ブレースの設置目安表」による。
b）システム天井：天井材が岩綿吸音板の場合は、XY方向に各1組／18㎡（水平震度1.0、垂直震度0.5の場合）
※システム天井の耐震補強は、［「システム天井　新耐震基準」（2015年版）2015年3月制定ロックウール工業会　吸音部会　工法分科会］を適用する。但し、天井ふところ寸法2000mm以下に適用する。
また、システム天井下に間仕切りを設置する場合、間仕切り補強用ブレースを設置する。設置要領は［「システム天井の間仕切りブレース補強ガイドライン」2015年版ロックウール工業会］を適用する。
ロ）ブレース設置角度　・θ＝30.0°～45.0°～60.0°（45.0°が望ましい）
ハ）ブレース先端は専用取り付け金物、下端は野縁受にビス2本で固定する。
ビス径は計算により求める。
ニ）在来天井のブレース適用材の目安は「耐震ブレースの設置目安表」による。
②軽量鉄骨天井下地と耐震ブレースの吊り元は、スラブや鉄骨小梁等、剛性の高い部材から吊ること。
③水平補強：天井ふところが1.5mを超える場合は水平補強材(野縁受同材以上)をタテ・ヨコ@1.8mごとに設け、吊ボルトとの固定は揺れ止め取り付け金具を使用する。
④天井下地材の組み立ては全てビス止め（4φ×16以上）とし、原則として溶接はめは使用してはならない。
⑤壁際にクリアランスを設ける場合：壁と天井構成部材とは以下のクリアランスを確保し、必要に応じてスライド可能な仕切り縁を設ける。
※RC，SRC造の時：クリアランスδ＝xH／200×2＋10～15mm程度の余裕
※S造の時　　：クリアランスδ＝xH／100×2＋10～15mm程度の余裕
xH＝天井ふところ高さ：上階スラブ下から野縁下端までの距離とする。
⑥壁際を固定する場合、その他：「壁際固定 基本要領図」「廊下等壁補強 基本要領図」「天井下間仕切壁上部補強 基本要領図」による。

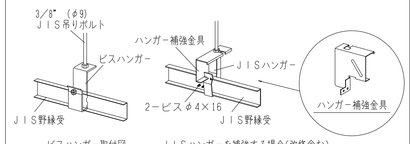
4．天井の落下防止処置
①在来天井　　※特殊な落下防止は図示による（別図）。
②システム天井　※ボード落下防止クリップとワイヤーを設ける(樹脂製クリップは線径1.9mm以上とする)。
Tバーのジョイントは切り欠き差し込み式とし、クリップで固定する。

耐震補強使用標準部材参考図

①野縁受ジョイント補強

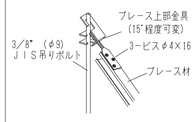


②ビスハンガー、ハンガー補強



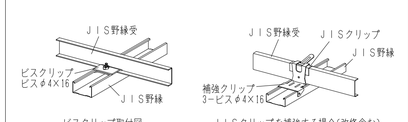
ビスハンガー取付図　　JISハンガーを補強する場合(改修含む)

③耐震ブレース



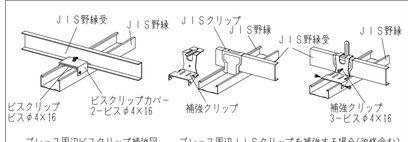
ブレース上端取付図

④ビスクリップ、補強クリップ

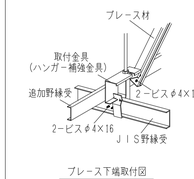


ビスクリップ取付図　　JISクリップを補強する場合(改修含む)

⑤耐震ブレース周辺補強クリップ

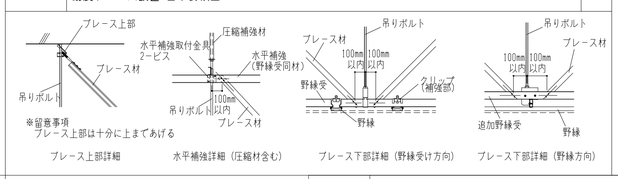


ブレース周辺ビスクリップ補強図　　ブレース周辺JISクリップを補強する場合(改修含む)



ブレース下端取付図

耐震ブレース設置 基本要領図



ブレース上部詳細　　水平補強詳細（圧縮材含む）　　ブレース下部詳細（野縁受け方向）　　ブレース下部詳細（野縁方向）

耐震ブレースの設置表

※耐震ブレースの設置面積とブレース適用材は以下とする。

ブレース負担面積（設置面積）の目安

天井重量（天井仕上の想定）	ブレース負担面積		
	水平震度1.0の場合	水平震度0.6の場合	水平震度0.4の場合
天井重量300N／㎡（石膏ボード9枚＋下地材又は金属パネル＋下地材程度）	8.6㎡	14.3㎡	21.5㎡
天井重量200N／㎡（捨貼り石膏ボード＋岩面吸音板＋下地材程度）	13.0㎡	21.6㎡	(30.0㎡)※
天井重量100N／㎡（化粧石膏ボード＋下地材又は軽金属パネル＋下地材程度）	26.0㎡	(30.0㎡)※	(30.0㎡)※

※仕上材料重量と水平震度によりブレース負担面積を算出、検証し提出すること。
※ブレースは出来るだけ多く（バランス良く配置することが望ましいため約30㎡をブレース最大負担面積とする。

ブレース適用材の目安（許容圧縮耐力　2000N／一対の耐震ブレース）

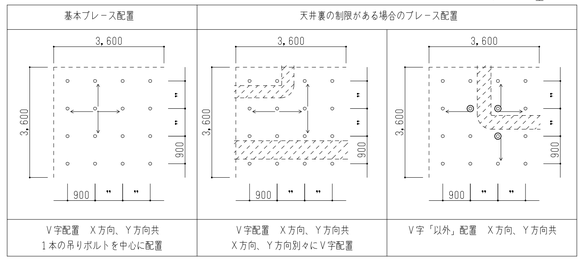
V字45°の場合の天井ふところ寸法	ブレース適用材	圧縮補強材	備考
530mm以下	C－38×12×1.2	□－19×19×1.2	全て細長比250以下
1060mm以下	L－30×30×3		
1370mm以下	L－40×40×3		
1900mm以下	C－60×30×10×1.6	□－25×25×1.2	

参考資料［「実務者のための既存体育館等の耐震改修の手引きと事例」平成16年(2004年) 8月 日本建築防災協会］

耐震ブレース設置 基本要領図（平面配置）

※ブレース配置例「3.6m×3.6m（約13㎡）の配置例」

凡例　○：吊りボルト　◯：圧縮補強材　下→上：ブレース

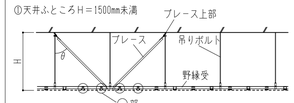


※ブレース配置留意事項
・ブレース相互の離れは、5.4m程度以内とする。[参考資料「体育館の天井の耐震設計ガイドライン」平成17年(2005年)5月（財)日本建築センター)]

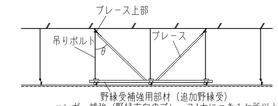
耐震ブレース設置 基本要領図（断面図）(注)補強クリップ,ハンガー補強は耐震補強区分Cの場合を示す

V字配置　θ＝30°～60°

①天井ふところH＝1500mm未満

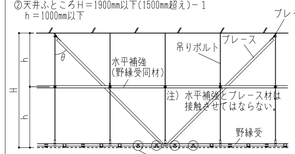


ブレース取付詳細１（野縁受方向）

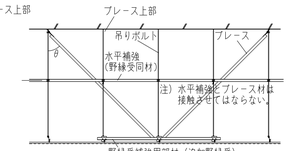


ブレース取付詳細１（野縁方向）

②天井ふところH＝1900mm以下(1500mm超え)－1
h＝1000mm以下

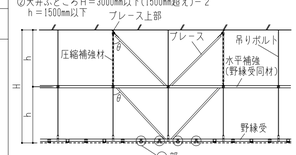


ブレース取付詳細２（野縁受方向）

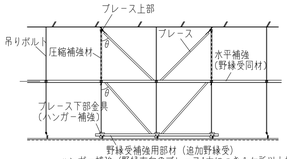


ブレース取付詳細２（野縁方向）

②天井ふところH＝3000mm以下(1500mm超え)－2
h＝1500mm以下

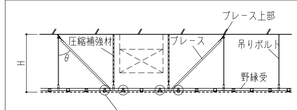


ブレース取付詳細３（野縁受け方向）

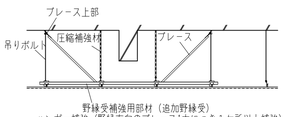


ブレース取付詳細３（野縁方向）

V字以外の配置　θ＝30°～60°



ブレース取付詳細４（野縁受け方向）
V字「以外」配置　※圧縮補強有り



ブレース取付詳細４（野縁方向）
V字「以外」配置　※圧縮補強有り

※屋外の軒天井，ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強は以下とする。（標準仕様書14.4.3(a)(b),14.4.4(k)）（改修標準仕様書6.6.3(b),6.6.4(k)）

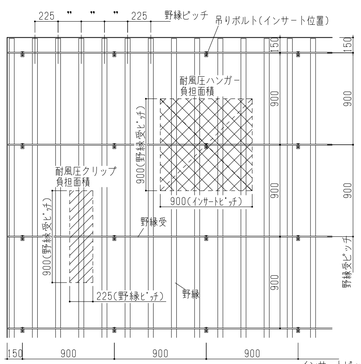
1．一般事項
設計風圧力：外部仕上表の指示による。
2．屋外下地の形式及び寸法と耐風圧補強
※天井の下地適用部材は以下とする。

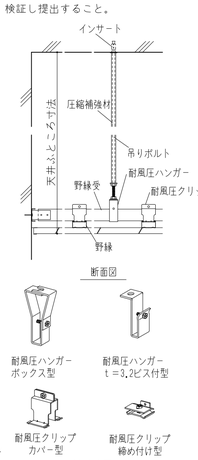
屋外天井下地適用部材表

設計風圧力		・2000N／㎡以下	・2500N／㎡以下	・3000N／㎡以下	・4000N／㎡以下
インサートピッチ		900	900	750	600
野縁受	部材	C－38×12×1.6	C－38×12×1.6	C－38×12×1.6	C－38×12×1.6
	ピッチ(単位mm)	900	600	750	600
野縁	部材	CW－25	CW－25	25形ダブル	25形ダブル
	ピッチ(単位mm)	225	300	300	300
ハンガー		耐風圧ハンガー	耐風圧ハンガー	耐風圧ハンガー	耐風圧ハンガー
クリップ		耐風圧クリップ（C38用）	耐風圧クリップ（C38用）	耐風圧クリップ（C38用）	耐風圧クリップ（C38用）
天井ふところ寸法（単位mm） 吊ボルト	9φ	400以下	450以下	400以下	430以下
	12φ	700以下	800以下	710以下	770以下
	9φ＋□-19×19×1.2	1900以下	2100以下	1900以下	2000以下

注）ケイ酸カルシウム板　t＝6mmの場合の部材選定目安（ケイ酸カルシウム板＋下地材：単位重量 100N／㎡）

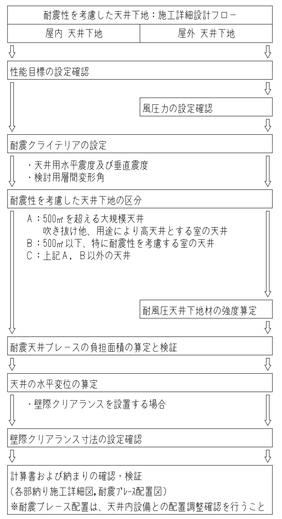
※仕上材料重量により、天井下地、天井取付けビスの強度計算書を作成、検証し提出すること。
「風圧力　2000N／㎡以下の場合の部材構成参考図」
・野縁受：［－38×12×1.6　@900mm
・野縁：CW－25　W－50×25×0.5　@225mm





※施工時詳細検討要領

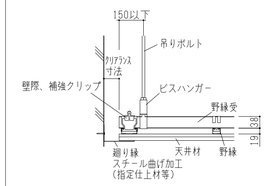
※以下のフローに基き、施工要領書，耐震，耐風圧計算書を作成、検証し提出すること。



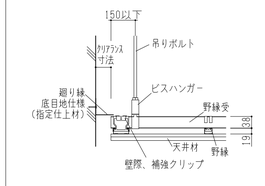
※耐震ブレースの設置は本図の各基本要領図によるが、耐震ブレースの設置が天井下地組立上困難な場合は、同等の効果のある部材補強等で代替効果を行って良いものとする。

壁際クリアランス設置 基本要領図

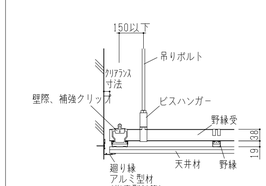
壁際クリアランス－1



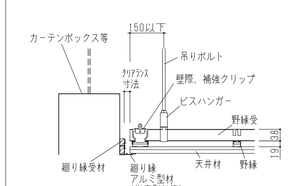
壁際クリアランス－2



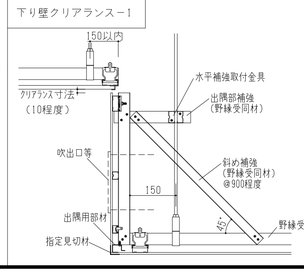
壁際クリアランス－3



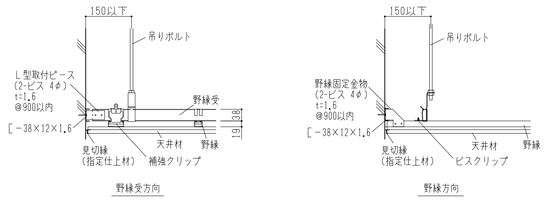
壁際クリアランス－4



下り壁クリアランス－1

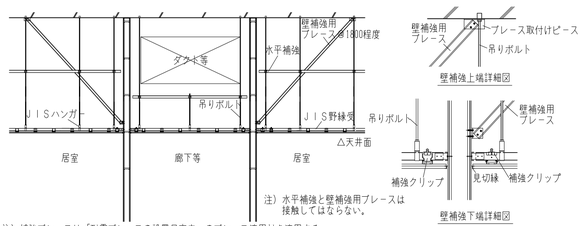


壁際固定 基本要領図



注）ロッキングする壁面へは固定してはならない。

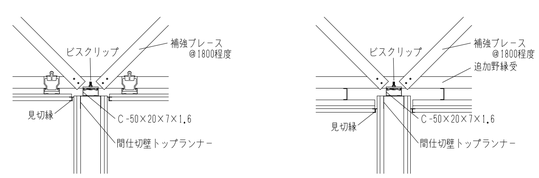
廊下等壁補強　基本要領図（廊下等で耐震ブレースの設置が難しい場合）



注）水平補強と壁補強用ブレースは接触してはならない。

注）補強ブレースは「耐震ブレースの設置目安表」のブレース適用材を適用する。

天井下間仕切壁上部補強 基本要領図



注）補強ブレースは「耐震ブレースの設置目安表」のブレース適用材を適用する。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
耐震･耐風圧 天井補強 特記･要領図	縮尺 1／A1:- A3:- / 日付 2019・02・28	A — 018 / No

制定：2012.07.20（2015.11.02改訂）



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

案内図

設計番号

図面番号 A — 019

縮尺 1／A1:2500 A3:5000

日付 2019・02・28

No

■凡例

+5.40	現況地盤レベル
	※設計GLからの高さを記載
+4.50	計画地盤レベル
	※設計GLからの高さを記載
24.95	建物高さ（パラペット・手摺の高さ込）
	※設計GLからの高さを記載

※設計GL=KBM-1.600m=T.P.+16.39mとする

※T.P.は東京湾平均海面を示す

近隣商業地域　第1種住居地域

前面道路(12m)×2以内かつ35m以内の区域

(開発行為による擁壁) U型擁壁 H＝3,020～4,350m

(開発行為による擁壁) 逆L型擁壁（藤沢市型） H＝1,800～2,800m

(開発行為による擁壁) 間知ブロック積擁壁（川崎市型） H＝2,800～4,400m

(開発行為による擁壁) L型擁壁 H＝4,350～5,280

隣地境界線

屋外階段 2

工作物 Ex0.

建築物

領域Ⅱ

領域Ⅳ

領域Ⅲ

領域Ⅰ

メンテナンス通路(RC造) 平均幅1,474m≦2m

10m を超える区域

屋上広場 13.50

屋上緑化 1

屋上テラス 14.10

屋上緑化 2

屋外通路 3

駐輪場 3 (12600x2000)

庇 7

屋根 1

屋根 4

アルミ目隠しルーバー

防音壁

庇 2

公用車駐車場

バイク置き場 (2000x5600)

屋根 3

消防活動用固定はしご

屋根 2

屋根 6

避雷針

防災無線

屋上機械置場

屋根 5

大陽光発電蓄電池無

庇 5

展望テラス

庇 6

ドライエリア 4へ

屋上緑化 3

屋根 7

屋根 8

屋根 9

屋根 10

屋根 11

屋根 12

屋根 13

屋根 14

屋根 15

屋根 16

屋根 17

屋根 18

屋根 19

屋根 20

屋根 21

屋根 22

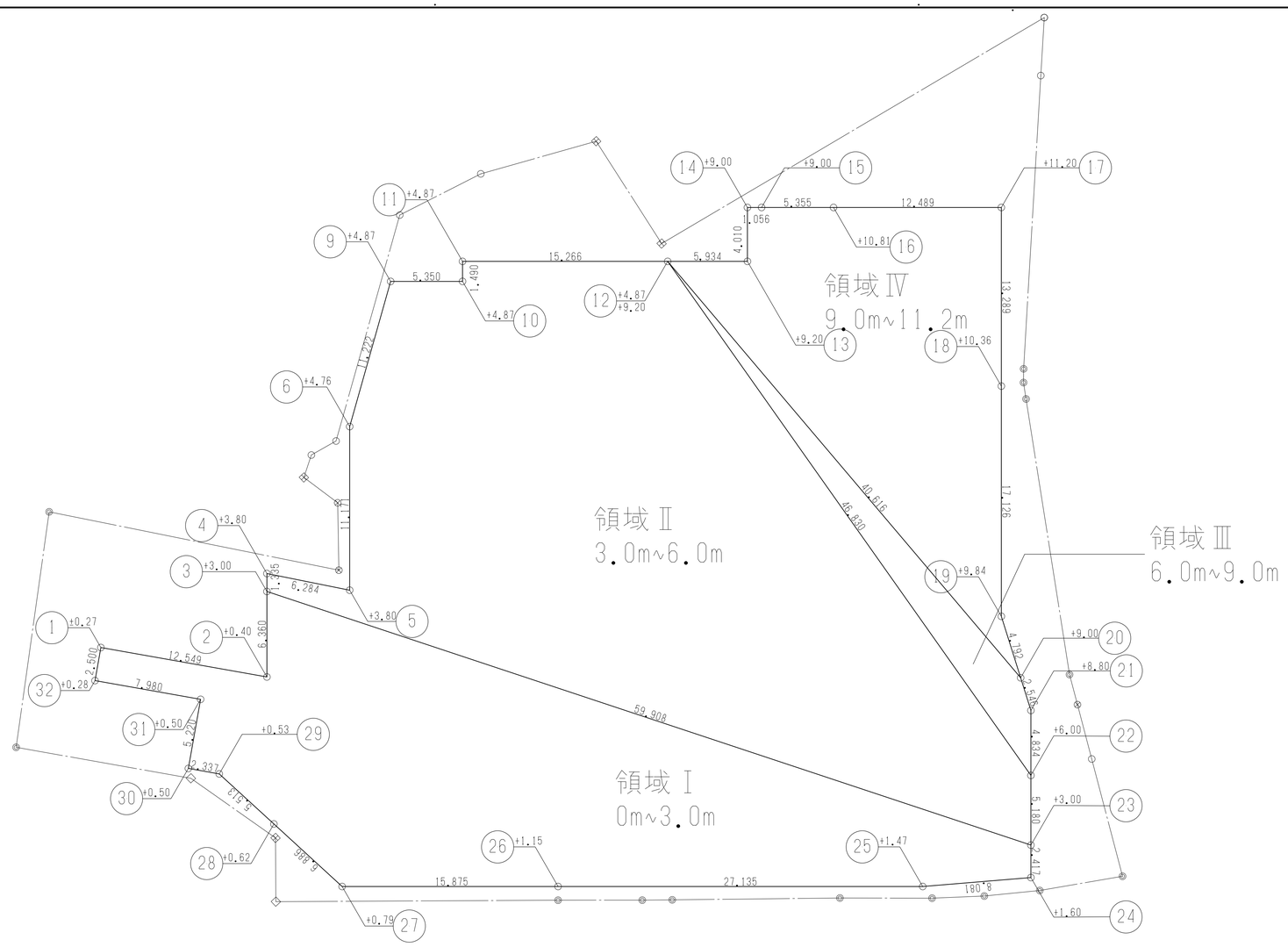
屋根 23

屋根 24

屋根 25

屋根 26

屋根



※設計GL=T.P.+16.39m=KBM-1.600mとする

領域 Ⅰ
0.0m-3.0m

番号			設計GLからの高さ(A)m	設計GLからの高さ(B)m	水平距離(C)m	建物接地面積=(A+B)/2×C
1	-	2	0.27	0.40	12.549	4.203915
2	-	3	0.40	3.00	6.360	10.812000
3	-	23	3.00	3.00	59.908	179.724000
23	-	24	3.00	1.60	2.417	5.559100
24	-	25	1.60	1.47	8.081	12.404335
25	-	26	1.47	1.15	27.135	35.546850
26	-	27	1.15	0.79	15.875	15.398750
27	-	28	0.79	0.62	6.886	4.854630
28	-	29	0.62	0.53	5.513	3.169975
29	-	30	0.53	0.50	2.337	1.203555
30	-	31	0.50	0.50	5.220	2.610000
31	-	32	0.50	0.28	7.980	3.112200
32	-	1	0.28	0.27	2.500	0.687500
水平距離合計					162.761 m	
建物接地面積合計					279.286810 m2	
建物接地面積合計÷水平距離合計					1.715932011m	
平均地盤面			=	設計ＧＬ+	1.72 m	

領域 Ⅱ
3.0m-6.0m

番号			設計GLからの高さ(A)m	設計GLからの高さ(B)m	水平距離(C)m	建物接地面積=(A+B)/2×C
3	-	4	3.00	3.80	1.335	4.539000
4	-	5	3.80	3.80	6.284	23.879200
5	-	6	3.80	4.76	11.171	47.811880
6	-	9	4.76	4.87	11.222	54.033930
9	-	10	4.87	4.87	5.350	26.054500
10	-	11	4.87	4.87	1.490	7.256300
11	-	12	4.87	4.87	15.266	74.345420
12	-	22	4.87	6.00	46.830	254.521050
22	-	23	6.00	3.00	5.180	23.310000
23	-	3	3.00	3.00	59.908	179.724000
水平距離合計					164.036 m	
建物接地面積合計					695.475280 m2	
建物接地面積合計÷水平距離合計					4.23977220 m	
平均地盤面			=	設計ＧＬ+	4.24 m	

領域 Ⅲ
6m-9m

番号			設計GLからの高さ(A)m	設計GLからの高さ(B)m	水平距離(C)m	建物接地面積=(A+B)/2×C
12	-	20	9.00	9.00	40.616	365.544000
20	-	21	9.00	8.80	2.546	22.659400
21	-	22	8.80	6.00	4.834	35.771600
22	-	12	6.00	9.00	46.830	351.225000
水平距離合計					94.826 m	
建物接地面積合計					775.200000 m2	
建物接地面積合計÷水平距離合計					8.174973109m	
平均地盤面			=	設計ＧＬ+	8.17 m	

領域 Ⅳ
9m-11.2m

番号			設計GLからの高さ(A)m	設計GLからの高さ(B)m	水平距離(C)m	建物接地面積=(A+B)/2×C
12	-	13	9.20	9.20	5.934	54.592800
13	-	14	9.20	9.00	4.010	36.491000
14	-	15	9.00	9.00	1.056	9.504000
15	-	16	9.00	10.81	5.355	53.041275
16	-	17	10.81	11.20	12.489	137.441445
17	-	18	11.20	10.36	13.289	143.255420
18	-	19	10.36	9.84	17.126	172.972600
19	-	20	9.84	9.00	4.792	45.140640
20	-	12	9.00	9.20	40.616	369.605600
水平距離合計					93.667 m	
建物接地面積合計					921.456980 m2	
建物接地面積合計÷水平距離合計					9.837583994m	
平均地盤面			=	設計ＧＬ+	9.84 m	

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

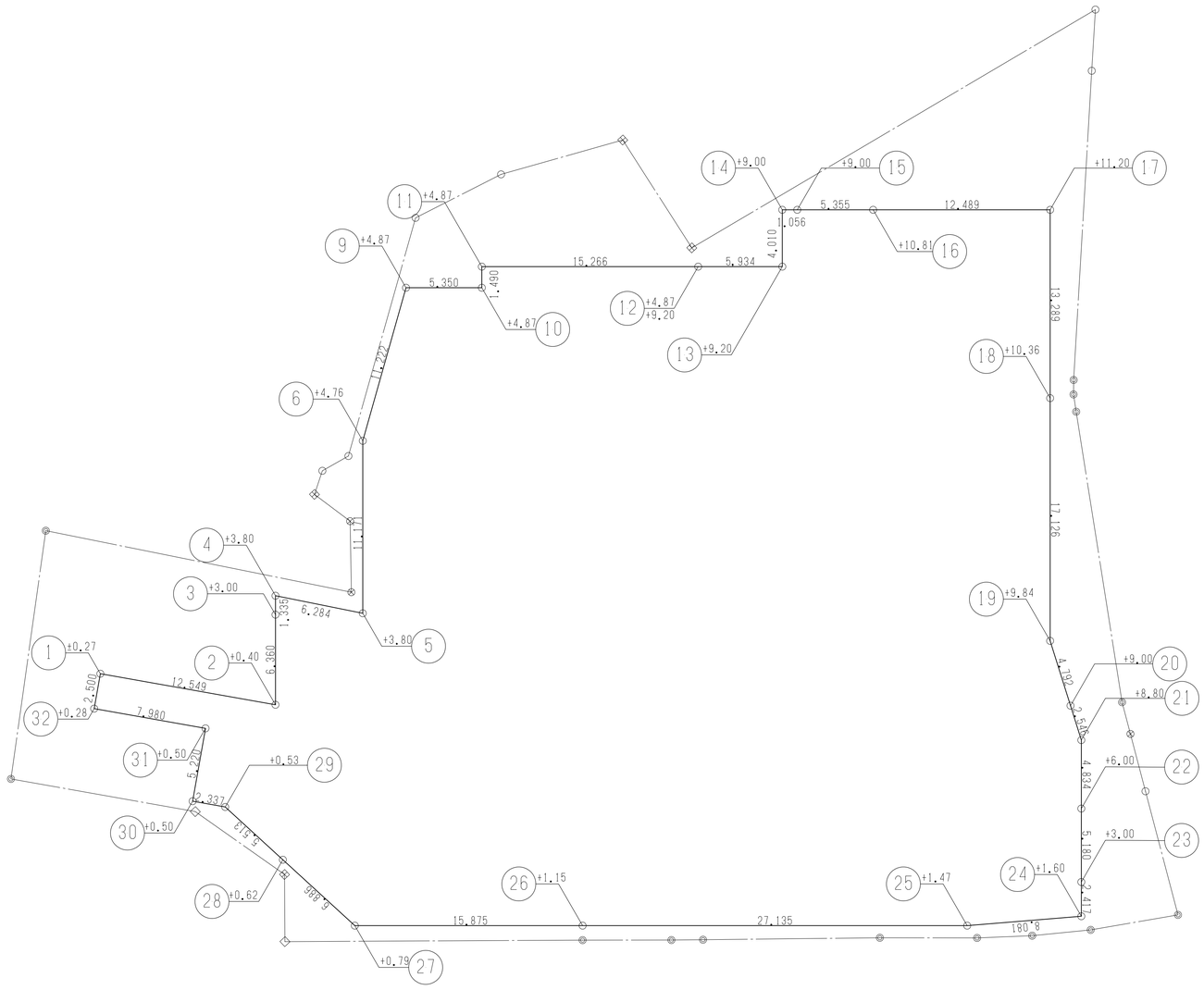
地盤面算定図

設計番号 A — 021

縮尺 1/200 A3:400

日付 2019・02・28

No



※設計GL=T.P.+16.39m=KBM-1.600mとする

番号			設計GLからの高さ(A)m	設計GLからの高さ(B)m	水平距離(C)m	建物接地面積=(A+B)/2×C
1	-	2	0.27	0.40	12.549	4.203915
2	-	3	0.40	3.00	6.360	10.812000
3	-	4	3.00	3.80	1.335	4.593000
4	-	5	3.80	3.80	6.284	23.879200
5	-	6	3.80	4.76	11.171	47.811880
6	-	9	4.76	4.87	11.222	54.033930
9	-	10	4.87	4.87	5.350	26.054500
10	-	11	4.87	4.87	1.490	7.256300
11	-	12	4.87	4.87	15.266	74.345420
12	-	13	9.20	9.20	5.934	54.592800
13	-	14	9.20	9.00	4.010	36.491000
14	-	15	9.00	9.00	1.056	9.504000
15	-	16	9.00	10.81	5.355	53.041275
16	-	17	10.81	11.20	12.489	137.441445
17	-	18	11.20	10.36	13.289	143.255420
18	-	19	10.36	9.84	17.126	172.972600
19	-	20	9.84	9.00	4.792	45.140640
20	-	21	9.00	8.80	2.546	22.659400
21	-	22	8.80	6.00	4.834	35.771600
22	-	23	6.00	3.00	5.180	23.310000
23	-	24	3.00	1.60	2.417	5.559100
24	-	25	1.60	1.47	8.081	12.404335
25	-	26	1.47	1.15	27.135	35.546850
26	-	27	1.15	0.79	15.875	15.398750
27	-	28	0.79	0.62	6.886	4.854630
28	-	29	0.62	0.53	5.513	3.169975
29	-	30	0.53	0.50	2.337	1.203555
30	-	31	0.50	0.50	5.220	2.610000
31	-	32	0.50	0.28	7.980	3.112200
32	-	1	0.28	0.27	2.500	0.687500
						0.000000

水平距離合計			231.582 m
建物接地面積合計			1,071.663220 m2
建物接地面積合計÷水平距離合計			4.627575631 m
平均地盤面	=	設計ＧＬ+	4.63 m

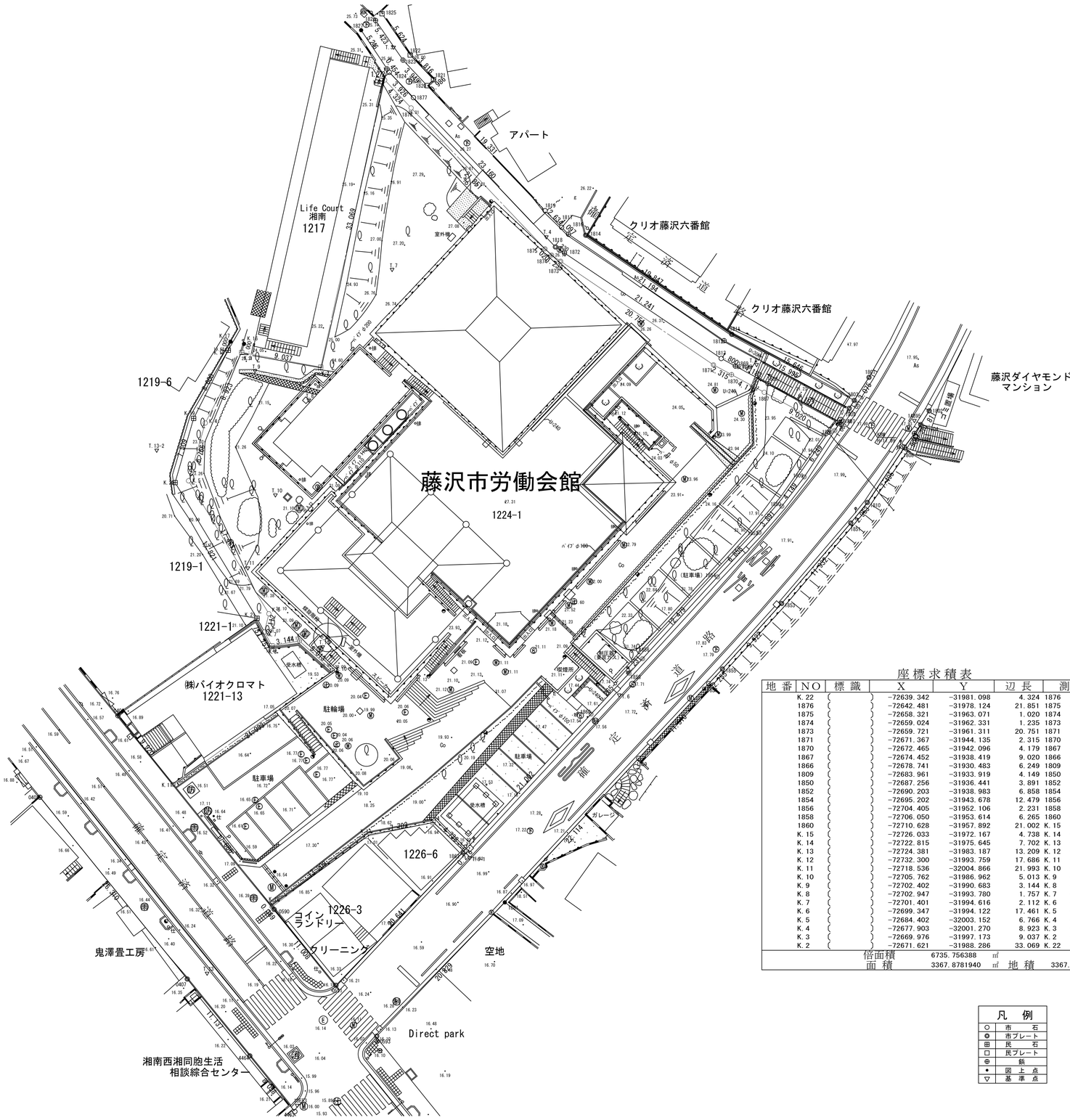
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢		設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号 A — 022
日影平均地盤面算定図	縮尺 1/200 A3:400 / 日付 2019・02・28	No

座標リスト		
点　名	X	Y
K.1	−72638.100	−31980.822
K.2	−72671.621	−31988.286
K.3	−72669.976	−31997.173
K.4	−72677.903	−32001.270
K.5	−72684.402	−32003.152
K.6	−72699.347	−31994.122
K.7	−72701.401	−31994.616
K.8	−72702.947	−31993.780
K.9	−72702.402	−31990.683
K.10	−72705.762	−31986.962
K.11	−72718.536	−32004.866
K.12	−72732.300	−31993.759
K.13	−72724.381	−31983.187
K.14	−72722.815	−31975.645
K.15	−72726.033	−31972.167
K.16	−72669.009	−31996.916
K.17	−72668.751	−31998.430
K.18	−72669.718	−31998.687
K.19	−72677.388	−32002.578
K.20	−72684.601	−32004.667
K.21	−72699.855	−31995.451
K.22	−72639.342	−31981.098
0406	−72710.816	−32011.096
0407	−72740.416	−32003.295
0408	−72719.976	−32019.862
0590	−72732.588	−31993.527
0591	−72741.120	−31986.570
0593	−72746.843	−31981.992
T.3	−72635.654	−31980.093
T.4	−72656.979	−31962.923
T.5	−72671.336	−31939.280
T.6	−72708.483	−31954.722
T.7	−72660.645	−31980.263
T.8	−72675.328	−31989.621
T.9	−72672.023	−31995.680
T.10	−72685.990	−31993.385
T.11	−72694.207	−31996.484
T.12	−72703.067	−31988.074
T.13	−72739.765	−32001.065
T.6−1	−72726.787	−31971.549
T.13−1	−72687.126	−32031.800
T.13−2	−72680.964	−32006.731
1801	−72672.772	−31926.640
1802	−72676.542	−31919.870
1803	−72675.364	−31928.296
1804	−72678.079	−31920.828
1805	−72676.250	−31928.862
1806	−72679.072	−31921.538
1807	−72677.855	−31929.900
1808	−72680.618	−31922.643
1809	−72683.961	−31933.919
1810	−72686.836	−31926.829
1811	−72667.935	−31942.066
1812	−72668.646	−31942.934
1813	−72670.647	−31943.256
1814	−72656.792	−31958.490
1816	−72656.682	−31960.429
1817	−72655.903	−31961.202
1818	−72658.106	−31961.903
1819	−72654.032	−31963.056
1820	−72639.974	−31976.326
1821	−72639.303	−31975.603
1822	−72636.533	−31978.228
1823	−72637.102	−31979.037
1824	−72638.477	−31980.569
1825	−72631.885	−31981.395
1826	−72632.643	−31982.125
1827	−72633.743	−31983.745
1828	−72631.642	−31981.650
1829	−72632.369	−31982.418
1850	−72687.256	−31936.441
1851	−72689.145	−31928.687
1852	−72690.203	−31938.983
1853	−72698.195	−31936.464
1854	−72695.202	−31943.678
1855	−72705.557	−31943.117
1856	−72704.405	−31952.106
1857	−72707.200	−31944.662
1858	−72706.050	−31953.614
1859	−72715.599	−31952.532
1860	−72710.628	−31957.892
1861	−72731.796	−31967.589
1862	−72726.192	−31972.314
1866	−72678.741	−31930.483
1867	−72674.452	−31938.419
1868	−72673.489	−31937.989
1869	−72671.502	−31941.671
1870	−72672.465	−31942.096
1871	−72671.367	−31944.135
1872	−72658.793	−31960.882
1873	−72659.721	−31961.311
1874	−72659.024	−31962.331
1875	−72658.321	−31963.071
1876	−72642.481	−31978.124
1877	−72641.322	−31977.863
4463	−72755.317	−31991.193
4464	−72749.053	−31996.263
10E53	−72754.617	−31990.938
1A895	−72677.627	−31921.538



凡　例	
○	多角点
○	電柱
●	電話柱
○	支柱
◒	街灯
○	信号機
○標	標識
○CM	カーブミラー
○下	下水マンホール
○汚	汚水マンホール
○制	制水弁
○仕	仕切弁
G Ⓖ	ガス栓
空	空気弁
F Ⓕ	消火栓
○NTT	電話マンホール
	ブロック塀
	フェンス
	有刺鉄線
	生垣
	ガードレール
	鉄柵
	竹柵
	間知石積
	玉石積
	コンクリート被覆
	法面
	崩土
	壁岩
	タタキ
	階段
	家屋
	無壁舎
15.00	独立標高点
	側溝
	流水方向
	植生界
As	アスファルト舗装
Co	コンクリート舗装
g	未舗装
〃	田
∨	畑
Y	桑畑
∴	茶畑
○	果樹園
•••	芝地
○	広葉樹林
∧	針葉樹林
⟡	竹林
⊥	墓地
ıl	荒地
∪	庭樹

座標求積表					
地番	NO	標識	X	Y	辺長	測線
	K.22	( )	−72639.342	−31981.098	4.324	1876 −K.22
	1876	( )	−72642.481	−31978.124	21.851	1875 −1876
	1875	( )	−72658.321	−31963.071	1.020	1874 −1875
	1874	( )	−72659.024	−31962.331	1.235	1873 −1874
	1873	( )	−72659.721	−31961.311	20.751	1871 −1873
	1871	( )	−72671.367	−31944.135	2.315	1870 −1871
	1870	( )	−72672.465	−31942.096	4.179	1867 −1870
	1867	( )	−72674.452	−31938.419	9.020	1866 −1867
	1866	( )	−72678.741	−31930.483	6.249	1809 −1866
	1809	( )	−72683.961	−31933.919	4.149	1850 −1809
	1850	( )	−72687.256	−31936.441	3.891	1852 −1850
	1852	( )	−72690.203	−31938.983	6.858	1854 −1852
	1854	( )	−72695.202	−31943.678	12.479	1856 −1854
	1856	( )	−72704.405	−31952.106	2.231	1858 −1856
	1858	( )	−72706.050	−31953.614	6.265	1860 −1858
	1860	( )	−72710.628	−31957.892	21.002	K.15 −1860
	K.15	( )	−72726.033	−31972.167	4.738	K.14 −K.15
	K.14	( )	−72722.815	−31975.645	7.702	K.13 −K.14
	K.13	( )	−72724.381	−31983.187	13.209	K.12 −K.13
	K.12	( )	−72732.300	−31993.759	17.686	K.11 −K.12
	K.11	( )	−72718.536	−32004.866	21.993	K.10 −K.11
	K.10	( )	−72705.762	−31986.962	5.013	K.9 −K.10
	K.9	( )	−72702.402	−31990.683	3.144	K.8 −K.9
	K.8	( )	−72702.947	−31993.780	1.757	K.7 −K.8
	K.7	( )	−72701.401	−31994.616	2.112	K.6 −K.7
	K.6	( )	−72699.347	−31994.122	17.461	K.5 −K.6
	K.5	( )	−72684.402	−32003.152	6.766	K.4 −K.5
	K.4	( )	−72677.903	−32001.270	8.923	K.3 −K.4
	K.3	( )	−72669.976	−31997.173	9.037	K.2 −K.3
	K.2	( )	−72671.621	−31988.286	33.069	K.22 −K.2
倍面積			6735.756388 ㎡			
面　積			3367.8781940 ㎡	地　積	3367.87 ㎡	

凡　例	
○	市石
⊙	市プレート
田	民石
□	民プレート
⊕	鋲
•	図上点
▽	基準点

参考図

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

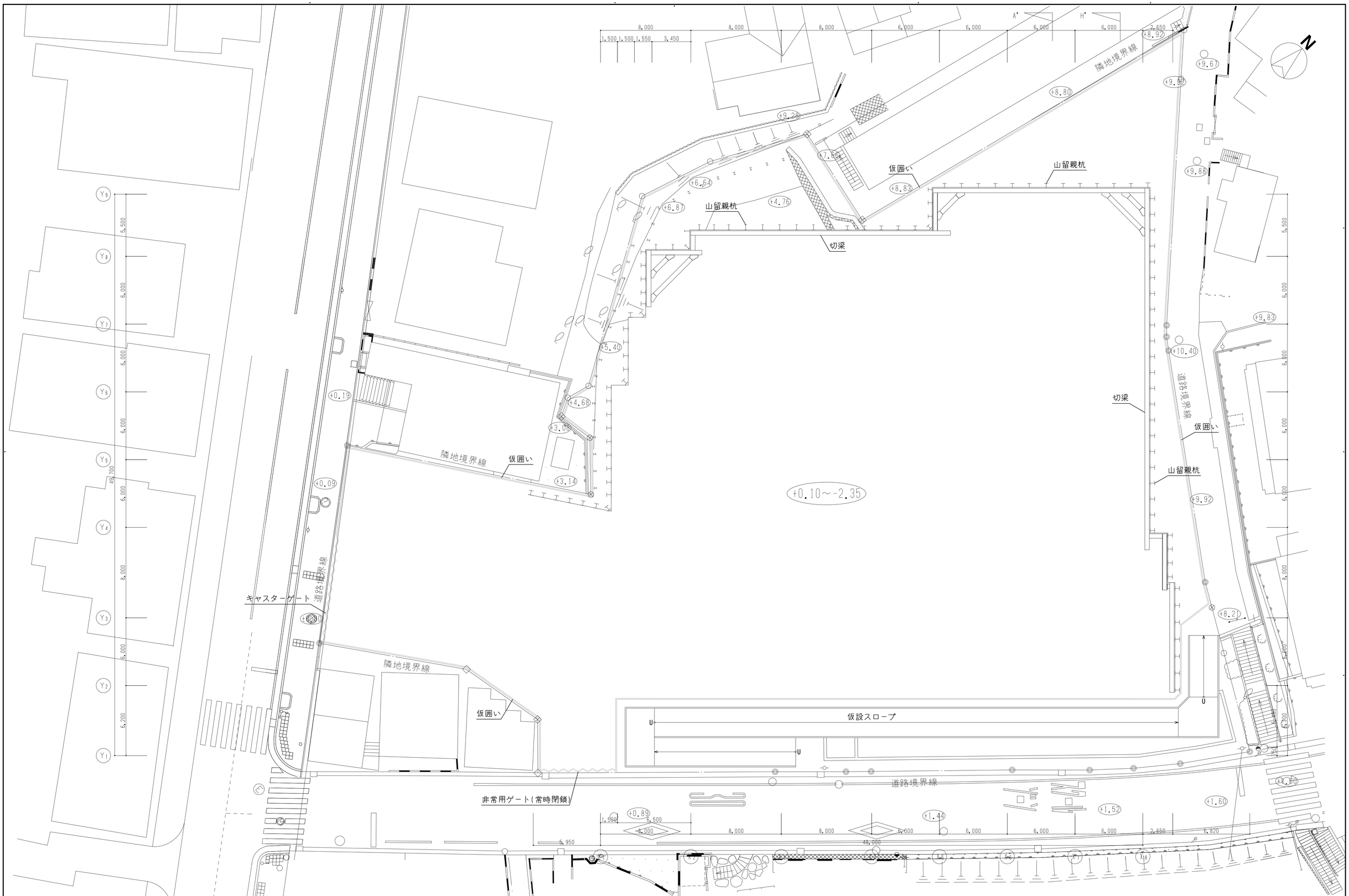
鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄		検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士		
第199758号		第359522号				第2092号		
永廣　正邦		松浦　暢				押久保　正則		xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

現況図

設計番号	図面番号
	A — 023
縮尺 1/A1:250 A3:500	日付 2019・02・28
	No



AZUSA SEKKEI
Architects, Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

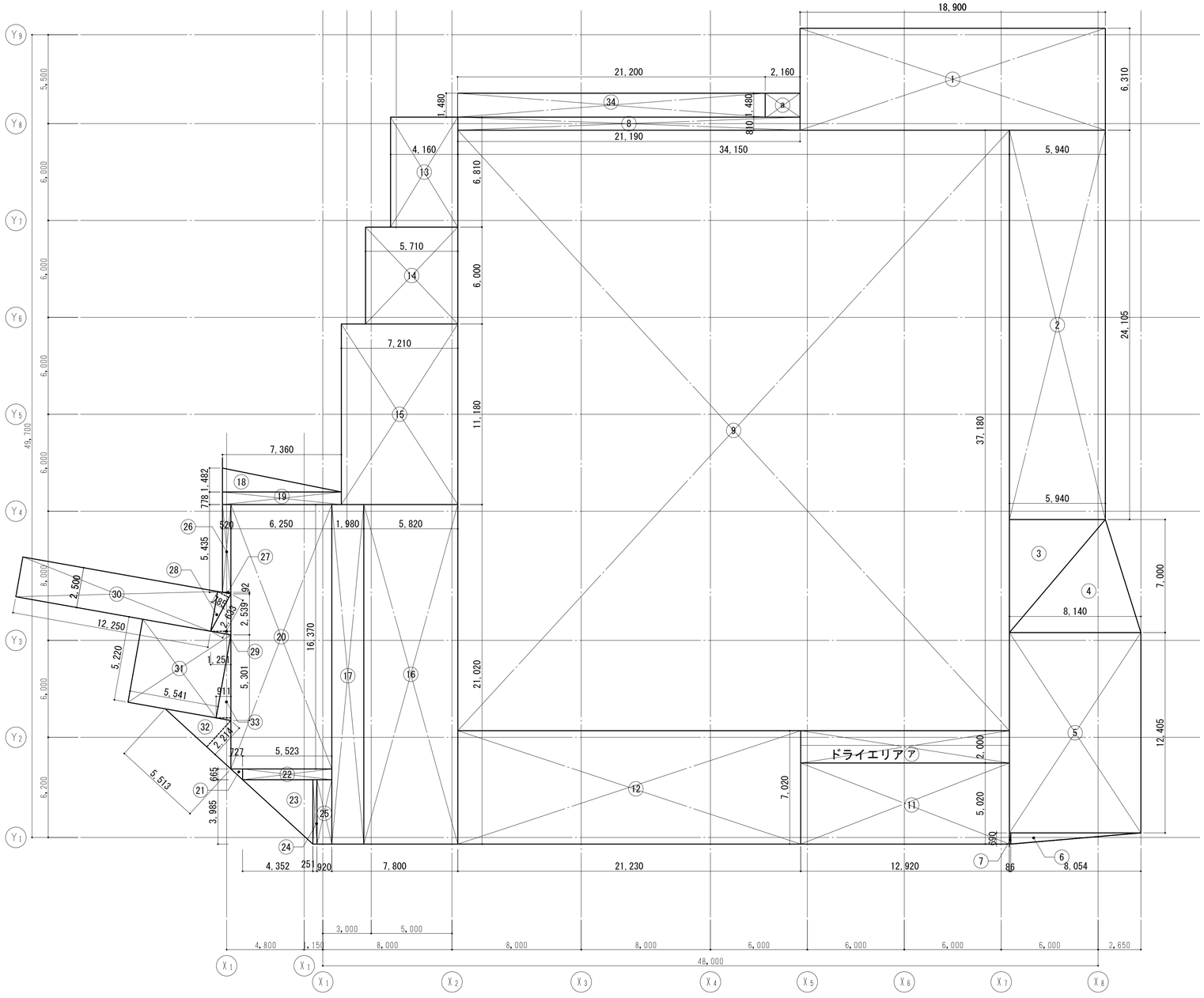
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 幡			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

着工前現況図

設計番号	図面番号
	A — 024

縮尺	日付	No
1/A1:150 A3:300	2019・02・28	



建築面積求積図

建築面積

建築面積							
記号	計算式						面積
1	18900	×	6310			=	119259000
2	5940	×	24105			=	143183700
3	5940	×	7000	／	2	=	20790000
4	8140	×	7000	／	2	=	28490000
5	8140	×	12405			=	100976700
6	8054	×	690	／	2	=	2778630
7	86	×	690			=	59340
8	21190	×	810			=	17163900
9	34150	×	37180			=	1269697000
11	12920	×	5020			=	64858400
12	21230	×	7020			=	149034600
13	4160	×	6810			=	28329600
14	5710	×	6000			=	34260000
15	7210	×	11180			=	80607800
16	5820	×	21020			=	122336400
17	1980	×	21020			=	41619600
18	7360	×	1482	／	2	=	5453760
19	7360	×	778			=	5726080
20	6250	×	16370			=	102312500
21	727	×	665	／	2	=	241728
22	5523	×	665			=	3672795
23	4352	×	3985	／	2	=	8671360
24	251	×	3985			=	1000235
25	920	×	3985			=	3666200
26	520	×	5435			=	2826200
27	520	×	92	／	2	=	23920
28	2633	×	785	／	2	=	1033453
29	2539	×	1251	／	2	=	1588145
30	12250	×	2500			=	30625000
31	5541	×	5220			=	28924020
32	5513	×	2214	／	2	=	6102891
33	5301	×	911	／	2	=	2414606
34	21200	×	1480			=	31376000
ア	12920	×	2000			=	25840000
a	2160	×	1480			=	3196800
建築面積						㎟	2488140361
						㎡	2488.14

敷地面積	㎡	3367.87

駐車場合計	㎡	1733.99
バイク置場合計	㎡	12.40
駐輪場合計	㎡	70.04
備蓄倉庫合計	㎡	93.68
EV合計	㎡	131.04
①延べ面積合計	㎡	7932.14

②駐車場・駐輪場・バイク置場面積　容積緩和　述べ面積×1/5	㎡	1586.43
③備蓄倉庫面積　容積緩和　述べ面積×1/50	㎡	93.68
④EV合計　（容積緩和）	㎡	131.04
⑤容積対象面積（＝①-②-③-④）	㎡	6120.99
容積率	%	181.75%

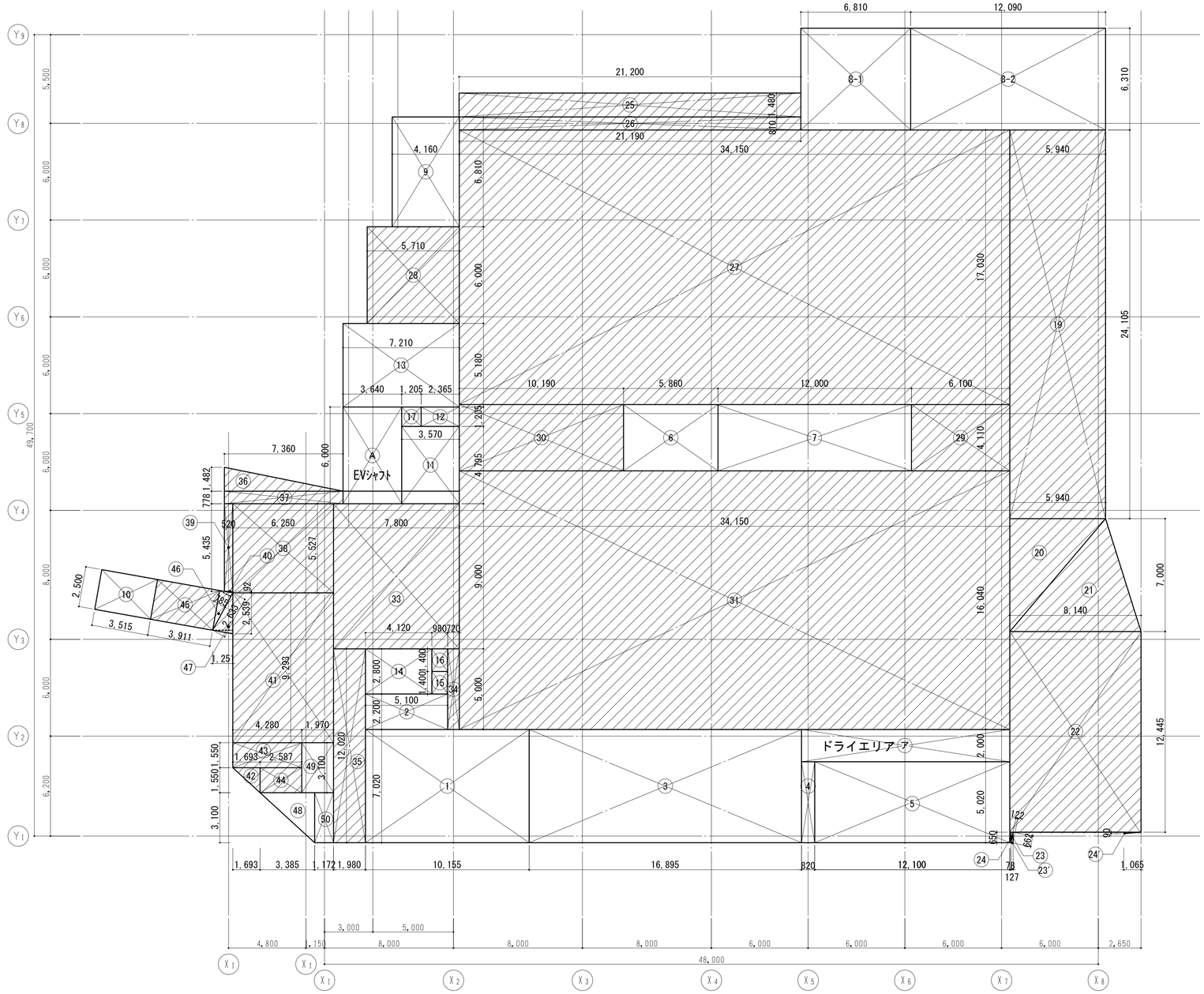
建築面積	㎡	2488.14
建蔽率	%	73.88%

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢					押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 025
建築面積求積図・求積表	縮尺 1／A1:150 A3:300	日付 2019・02・28	No



駐車場・駐輪場

地下１階求積図

地下１階求積図

室名	No.	計算式(m)	面積(㎡)	室面積(㎡)	区画面積(㎡)
藤沢西部地域包括	1	10.155 × 7.020	71.2881		
支援センター	2	5.100 × 2.200	11.2200	82.5081	82.51
地域生活支援センター おあしす	3	16.895 × 7.020	118.6029	118.6029	118.60
藤沢西部地区	4	0.820 × 5.020	4.1164		
ボランティアセンター	5	12.100 × 5.020	60.7420	64.8584	64.86
防災倉庫１-1	6	5.860 × 4.110	24.0846	24.0846	
防災倉庫１-2	7	12.000 × 4.110	49.3200	49.3200	73.40
受水槽1-1	8-1	6.810 × 6.310	42.9711	42.9711	
受水槽1-2	8-2	12.090 × 6.310	76.2879	76.2879	119.26
消火ポンプ室	9	4.160 × 6.810	28.3296	28.3296	28.33
燃料ポンプ室	10	3.515 × 2.500	8.7875	8.7875	8.79
EVホール B1	11	3.570 × 4.795	17.1182		
	12	2.365 × 1.205	2.8498	19.9680	19.97
階段１	13	7.210 × 5.180	37.3478	37.3478	37.35
ゴミ庫	14	4.120 × 2.800	11.5360	11.5360	
PS	15	0.980 × 1.400	1.3720	1.3720	
EPS	16	0.980 × 1.400	1.3720	1.3720	14.28
駐車場	19	5.940 × 24.105	143.1837		
	20	5.940 × 7.000 × 1/2	20.7900		
	21	8.140 × 7.000 × 1/2	28.4900		
	22	8.140 × 12.530	101.9942		
	23	0.650 × 0.127 × 1/2	0.0413		
	23'	0.662 × 0.122 × 1/2	0.0404		
	24	0.650 × 0.078	0.0507		
	24'	1.065 × 0.090 × 1/2	0.0479		
	25	21.200 × 1.480	31.3760		
	26	21.190 × 0.810	17.1639		
	27	34.150 × 17.030	581.5745		
	28	5.710 × 6.000	34.2600		
	29	6.100 × 4.110	25.0710		
	30	10.190 × 4.110	41.8809		
	31	34.150 × 16.040	547.7660		
	33	7.800 × 9.000	70.2000		
	34	0.720 × 5.000	3.6000		
	35	1.980 × 12.020	23.7996		
	36	7.360 × 1.482 × 1/2	5.4538		
	37	7.360 × 0.778	5.7261		
	38	6.250 × 5.527	34.5438		
	39	0.520 × 5.435	2.8262		
	40	0.520 × 0.092 × 1/2	0.0239		
	ア	12.920 × 1.090	14.0828	1733.9866	
バイク置場	45	3.911 × 2.500	9.7775		
	46	2.633 × 0.785 × 1/2	1.0335		
	47	2.539 × 1.251 × 1/2	1.5881	12.3991	1746.39
駐輪場	41	6.250 × 9.293	58.0813		
	42	1.693 × 1.550 × 1/2	1.3121		
	43	4.280 × 1.550 ×	6.6340		
	44	2.587 × 1.550	4.0099	70.0372	
専用ガバナ室	49	1.970 × 3.100	6.1070	6.1070	76.14
ガバナスペース	48	3.385 × 3.100 × 1/2	5.2468		
	50	1.172 × 3.100	3.6332	8.8800	8.88
EPS	17	1.205 × 1.205	1.4520	1.4520	
EVｼｬﾌﾄ	A	3.640 × 6.000	21.8400	21.8400	23.29

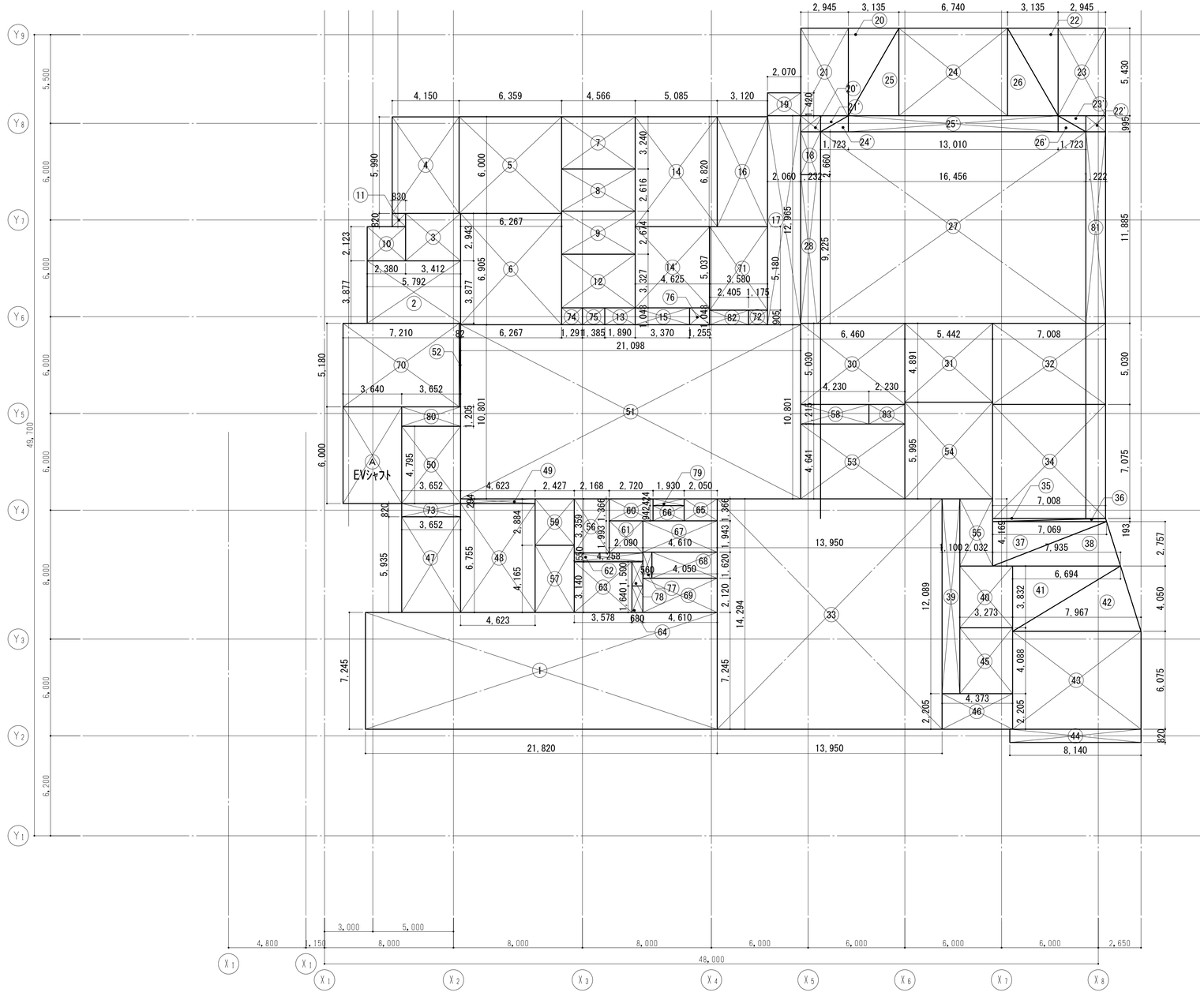
小計	㎡	2422.0477	2422.05
駐車場小計	㎡	1733.9866	1733.99
バイク置場小計	㎡	12.3991	12.40
駐輪場小計	㎡	70.0372	70.04
EV小計	㎡	21.8400	21.84
備蓄倉庫小計	㎡	73.4046	73.40
容積対象小計	㎡		510.38

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 026
床面積求積図・求積表 地下１階	縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28	No



1階求積図

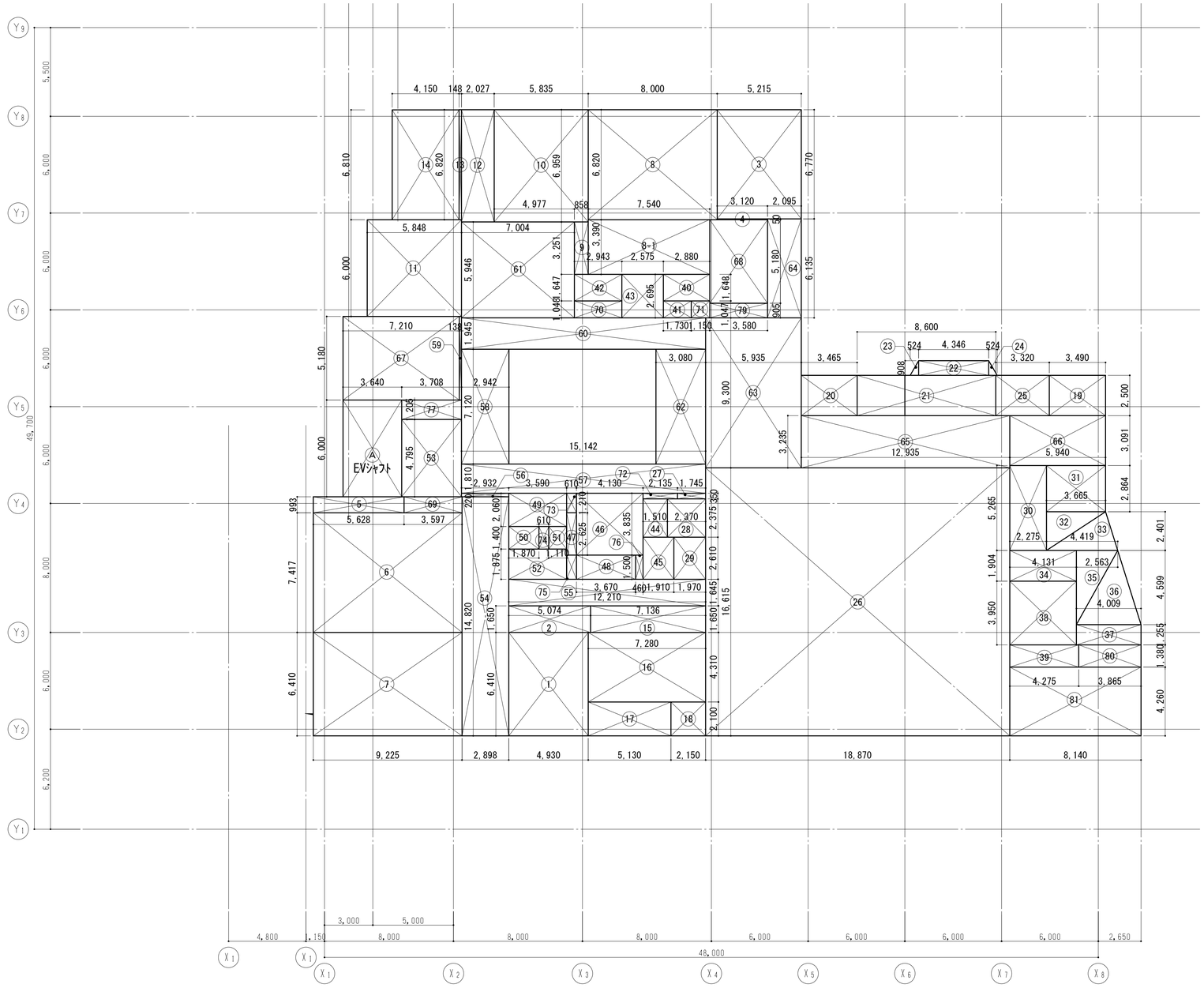
室名	No.	計算式(m)	面積(㎡)	室面積(㎡)	区画面積(㎡)
控室	20	3.135 × 5.430 × 1/2	8.5115		
	21	2.945 × 5.430	15.9914		
	20'	1.232 × 0.995	1.2258		
	21'	1.723 × 0.995 × 1/2	0.8572	26.5859	
ピアノ庫	22	3.135 × 5.430 × 1/2	8.5115		
	23	2.945 × 5.430	15.9914		
	22'	1.222 × 0.995	1.2159		
	23'	1.723 × 0.995 × 1/2	0.8572	26.5760	
ホール	24	6.740 × 5.430	36.5982		
	25	3.135 × 5.430 × 1/2	8.5115		
	26	3.135 × 5.430 × 1/2	8.5115		
	27	16.456 × 11.885	195.5796		
	29	16.456 × 3.650	60.0644		
	24'	1.723 × 0.995 × 1/2	0.8572		
	25'	13.010 × 0.995	12.9450		
	26'	1.723 × 0.995 × 1/2	0.8572	323.9245	377.09
藤沢市民図書室	1	21.820 × 7.245	158.0859	158.0859	
指定管理者事務室（仮）	2	5.792 × 3.877	22.4556	22.4556	
印刷室	3	3.412 × 2.943	10.0415	10.0415	
管理諸室等1-1	4	4.150 × 5.990	24.8585		
	5	6.359 × 6.000	38.1540		
	6	6.267 × 6.905	43.2736	106.2861	
職員休憩室	7	4.566 × 3.240	14.7938	14.7938	
職員更衣室１	8	4.566 × 2.616	11.9447	11.9447	
職員更衣室２	9	4.566 × 2.674	12.2095	12.2095	
職員更衣室３	10	2.380 × 2.123	5.0527		
	11	0.830 × 0.820	0.6806	5.7333	
雇用労働相談室	12	4.566 × 3.327	15.1911		
	13	1.890 × 1.048	1.9807	17.1718	
地域団体活動室	14	5.085 × 6.820	34.6797		
	14'	4.625 × 5.037	23.2961		
	15	3.370 × 1.048	3.5318	61.5076	
楽屋	16	3.120 × 6.820	21.2784	21.2784	
前室１	17	2.060 × 12.965	26.7079		
	18	1.232 × 2.660	3.2771		
	19	2.070 × 1.420	2.9394	32.9244	
生涯学習活動推進室	30	6.460 × 5.030	32.4938		
	31	5.442 × 4.891	26.6168		
	32	7.008 × 5.030	35.2502	94.3609	
多目的室１	33	13.950 × 14.294	199.4013	199.4013	
多目的室２	34	7.008 × 7.075	49.5816		
	35	7.008 × 0.193 × 1/2	0.6763		
	36	7.069 × 0.193 × 1/2	0.6822	50.9400	
清掃員控室	37	7.069 × 2.757 × 1/2	9.7446		
	38	7.935 × 2.757 × 1/2	10.9384	20.6830	
機械室４	39	1.100 × 12.089	13.2979	13.2979	
倉庫1-1	40	3.273 × 3.832	12.5421		
	41	6.694 × 4.050 × 1/2	13.5554		
	42	7.967 × 4.050 × 1/2	16.1332		
	43	7.967 × 6.075	48.3995		
	44	8.140 × 0.820	6.6748	97.3050	
倉庫1-2	45	3.273 × 4.088	13.3800		
	46	4.373 × 2.205	9.6425	23.0225	
風除室	47	3.652 × 5.935	21.6746	21.6746	
EVホール1・ホール1・廊下1	48	4.623 × 6.755	31.2284		
	49	4.623 × 0.294	1.3592		
	50	3.652 × 4.795	17.5113		
	51	21.098 × 10.801	227.8795		
	52	0.082 × 5.180	0.4248		
	53	6.460 × 4.641	29.9809		
	54	5.442 × 5.995	32.6248		
	55	2.032 × 4.169	8.4714		
	56	2.168 × 3.359	7.2823	356.7625	
ロッカーコーナー	57	2.427 × 4.165	10.1085	10.1085	
自販機コーナー	58	4.230 × 1.215	5.1395	5.1395	
HWC1	59	2.427 × 2.884	6.9995	6.9995	
WWC1	60	2.720 × 1.366	3.7155		
	61	2.090 × 1.993	4.1654		
	62	4.258 × 0.550	2.3419		
	63	3.578 × 3.140	11.2349		
	64	0.680 × 1.640	1.1152	22.5729	
MWC1	65	2.050 × 1.366	2.8003		
	66	1.930 × 0.942	1.8181		
	67	4.610 × 1.943	8.9572		
	68	4.050 × 1.620	6.5610		
	69	4.610 × 2.120	9.7732	29.9098	
PS	73	3.652 × 0.820	2.9946	2.9946	
PS	74	1.291 × 1.048	1.3530	1.3530	
PS	75	1.385 × 1.048	1.4515	1.4515	
PS	76	1.255 × 1.048	1.3152	1.3152	
PS	77	0.560 × 1.620	0.9072		
	78	0.680 × 1.500	1.0200	1.9272	
PS	79	1.930 × 0.424	0.8183	0.8183	
EPS	80	3.652 × 1.205	4.4007	4.4007	
EPS	82	2.405 × 0.905	2.1765	2.1765	
EPS	83	2.230 × 1.215	2.7095	2.7095	
DS	28	1.232 × 9.225	11.3652		
	28'	1.232 × 3.650	4.4968	15.8620	
DS	81	1.222 × 11.885	14.5235		
	81'	1.222 × 3.650	4.4603	18.9838	1,480.60
階段１	70	7.210 × 5.180	37.3478	37.3478	37.35
階段２	71	3.580 × 5.180	18.5444		
	72	1.175 × 0.905	1.0634	19.6078	19.61
EVｼｬﾌﾄ	A	3.640 × 6.000	21.8400	21.8400	21.84
小計			㎡	1936.4847	1,936.48
EV小計			㎡	21.8400	21.84
容積対象小計			㎡		1,914.64

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 027
床面積求積図・求積表 1階	縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28	No



２階求積図

室名	No.	計算式(m)	面積(㎡)	室面積(㎡)	区画面積(㎡)
談話室１	1	4.930 × 6.410	31.6013		
	2	5.074 × 1.650	8.3721	39.9734	
談話室２	3	5.215 × 6.770	35.3056		
	4	3.120 × 0.050	0.1560	35.4616	
談話室３	5	5.628 × 0.993	5.5886		
	6	9.225 × 7.417	68.4218	74.0104	
談話室４	7	9.225 × 6.410	59.1323	59.1323	
会議室１	8	8.000 × 6.820	54.5600		
	8-1	7.540 × 3.390	25.5606		
	9	0.858 × 3.251	2.7894	82.9100	
会議室２	10	5.835 × 6.959	40.6058	40.6058	
会議室４	11	5.848 × 6.000	35.0880	35.0880	
会議室５	12	2.027 × 6.959	14.1059		
	13	0.148 × 6.810	1.0079		
	14	4.150 × 6.820	28.3030	43.4168	
和室	15	7.136 × 1.650	11.7744		
	16	7.280 × 4.310	31.3768		
	17	5.130 × 2.100	10.7730		
	18	2.150 × 2.100	4.5150	58.4392	
前室２	19	3.490 × 2.500	8.7250	8.7250	
前室３	20	3.465 × 2.500	8.6625	8.6625	
調整室	21	8.600 × 2.500	21.5000		
	22	4.346 × 0.908	3.9462		
	23	0.524 × 0.908 × 1/2	0.2379		
	24	0.524 × 0.908 × 1/2	0.2379	25.9220	
親子室	25	3.320 × 2.500	8.3000	8.3000	
多目的交流ホール	26	18.870 × 16.615	313.5251	313.5251	
前室スペース１	27	1.745 × 0.350	0.6108		
	28	2.370 × 2.375	5.6288		
	29	1.970 × 2.610	5.1417	11.3812	
前室スペース２	30	2.275 × 5.265	11.9779	11.9779	
更衣室2-1	31	3.665 × 2.864	10.4966		
	32	3.665 × 2.401 × 1/2	4.3998		
	33	4.419 × 2.401 × 1/2	5.3050	20.2014	
更衣室2-2	34	4.131 × 1.904	7.8654		
	35	2.563 × 4.599 × 1/2	5.8936		
	36	4.009 × 4.599 × 1/2	9.2187		
	37	4.009 × 1.255	5.0313	28.0090	
倉庫2-1	38	4.131 × 3.950	16.3175		
	39	4.275 × 1.380	5.8995	22.2170	
倉庫2-2	40	2.880 × 1.648	4.7462		
	41	1.730 1.047	1.8113	6.5576	
給湯２	42	2.943 × 1.647	4.8471	4.8471	
HWC2	43	2.575 × 2.695	6.9396	6.9396	
WWC2	44	1.510 × 2.375	3.5863		
	45	1.910 × 2.610	4.9851		
	46	4.130 × 3.835	15.8386		
	47	0.610 × 2.625	1.6013		
	48	3.670 × 1.500	5.5050	31.5162	
MWC2	49	3.590 × 2.060	7.3954		
	50	1.870 × 1.400	2.6180		
	51	1.110 × 1.400	1.5540		
	52	3.590 × 1.875	6.7313	18.2987	
EVホール2・ホール2・廊下2・ホワイエ	53	3.708 × 4.795	17.7799		
	54	2.898 × 14.820	42.9484		
	55	12.210 × 1.645	20.0855		
	56	2.932 × 0.220	0.6450		
	57	15.142 × 1.810	27.4070		
	58	2.942 × 7.120	20.9470		
	59	0.138 × 5.180	0.7148		
	60	15.142 × 1.945	29.4512		
	61	7.004 × 5.946	41.6458		
	62	3.080 × 7.120	21.9296		
	63	5.935 × 9.300	55.1955		
	64	2.095 × 6.135	12.8528		
	65	12.935 × 3.235	41.8447		
	66	5.940 × 3.091	18.3605	351.8078	
PS	69	3.597 × 0.993	3.5718	3.5718	
PS	70	2.943 × 1.048	3.0843	3.0843	
PS	71	1.150 × 1.047	1.2041	1.2041	
PS	72	2.135 × 0.350	0.7473	0.7473	
PS	73	0.610 × 1.210	0.7381	0.7381	
PS	74	0.610 × 1.400	0.8540	0.8540	
PS	75	0.610 × 1.500	0.9150	0.9150	
PS	76	0.460 × 1.500	0.6900	0.6900	
EPS	77	3.708 × 1.205	4.4681	4.4681	
EPS	79	3.580 × 0.905	3.2399	3.2399	
DS	80	3.865 × 1.380	5.3337	5.3337	
DS	81	8.140 × 4.260	34.6764	34.6764	1407.45
階段１	67	7.210 × 5.180	37.3478	37.3478	37.35
階段２	68	3.580 × 5.180	18.5444	18.5444	18.54
EVｼｬﾌﾄ	A	3.640 × 6.000	21.8400	21.8400	21.84
小計			㎡	1485.1800	1485.18
EV小計			㎡	21.8400	21.84
容積対象小計			㎡		1463.34

２階求積図

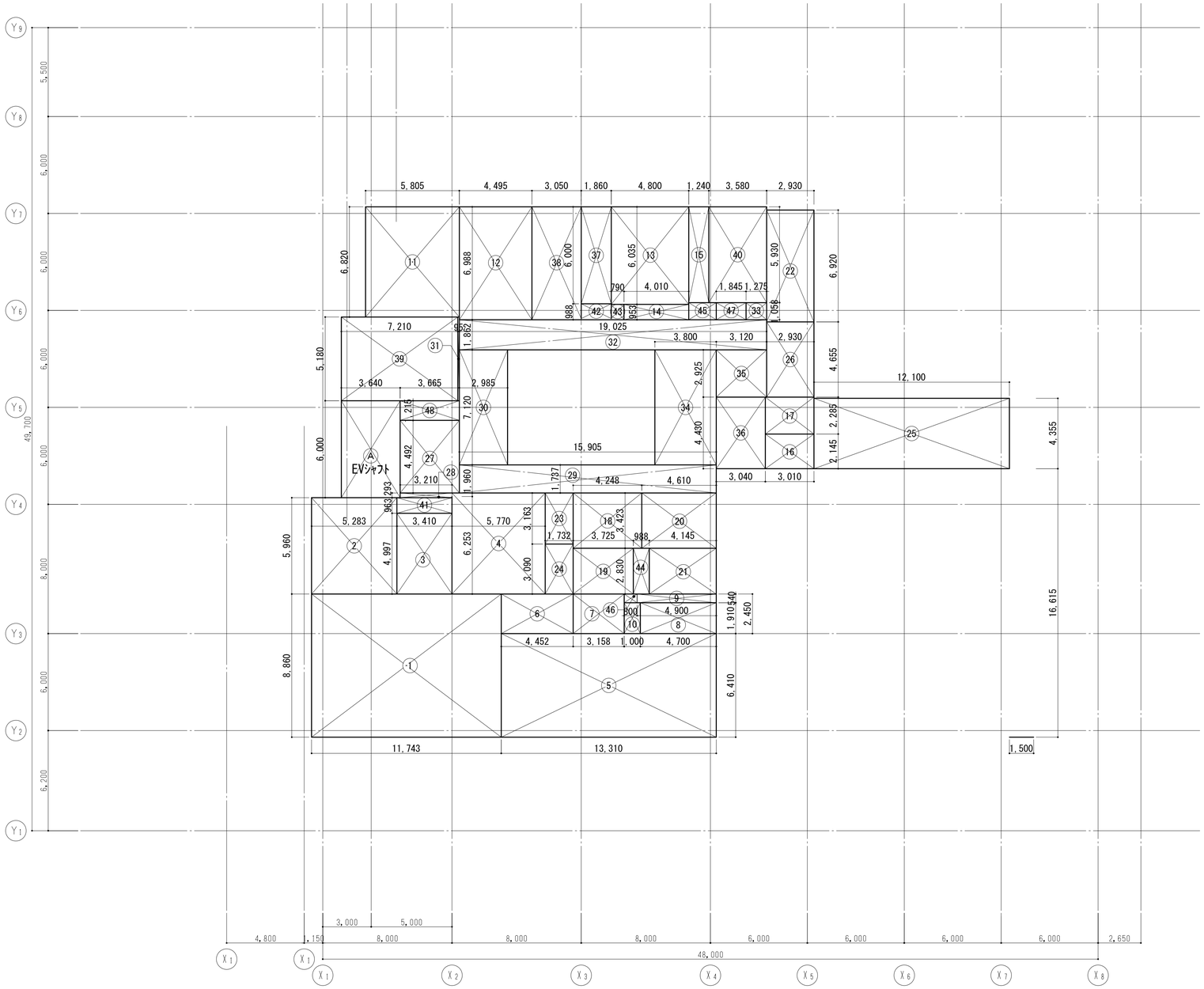
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号		第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢		押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

床面積求積図・求積表 ２階

設計番号	図面番号
	A — 028
縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28
	No



３階求積図

室名	No.	計算式(m)	面積(㎡)	室面積(㎡)	区画面積(㎡)
藤沢子供の家（ふじっこ砦）	1	11.743 × 8.860	104.0430		
	2	5.283 × 5.960	31.4867		
	3	3.410 × 4.997	17.0398	152.5694	
居場所スペース	4	5.770 × 6.253	36.0798	36.0798	
放課後児童クラブ	5	13.310 × 6.410	85.3171		
	6	4.452 × 2.450	10.9074		
	7	3.158 × 2.450	7.7371		
	8	4.700 × 1.910	8.9770		
	9	4.900 × 0.540	2.6460		
	10	1.000 × 1.910	1.9100	117.4946	
保育室	11	5.805 × 6.820	39.5901		
	12	4.495 × 6.988	31.4111	71.0012	
多世代間交流スペース１	13	4.800 × 6.035	28.9680		
	14	4.010 × 0.953	3.8215		
	15	1.240 × 5.930	7.3532	40.1427	
授乳室	16	3.010 × 2.145	6.4565	6.4565	
HWC3	17	3.010 × 2.285	6.8779	6.8779	
WWC3	18	4.248 × 3.423	14.5409		
	19	3.725 × 2.830	10.5418	25.0827	
MWC3	20	4.610 × 3.423	15.7800		
	21	4.145 × 2.830	11.7304	27.5104	
防災倉庫２	22	2.930 × 6.920	20.2756	20.2756	
倉庫A	23	1.732 × 3.163	5.4783	5.4783	
倉庫B	24	1.732 × 3.090	5.3519	5.3519	
DS	25	12.100 × 4.355	52.6955	52.6955	
風除室２	26	2.930 × 4.655	13.6392	13.6392	
EVホール3・ホール3・廊下3・バギー置場	27	3.665 × 4.492	16.4632		
	28	3.210 × 0.293	0.9405		
	29	15.905 × 1.737	27.6270		
	30	2.985 × 7.120	21.2532		
	31	0.095 × 5.180	0.4921		
	32	19.025 × 1.862	35.4246		
	33	1.275 × 1.058	1.3490		
	34	3.800 × 7.120	27.0560		
	35	3.120 × 2.925	9.1260		
	36	3.040 × 4.430	13.4672	153.1987	
倉庫3-1	37	3.050 × 6.988	21.3134		
	38	1.860 × 6.000	11.1600	32.4734	
PS	41	3.410 × 0.963	3.2838	3.2838	
PS	42	1.860 × 0.988	1.8377		
	43	0.790 × 0.953	0.7529	2.5906	
PS	44	0.988 × 2.830	2.7960	2.7960	
PS	45	1.700 × 1.058	1.7986	1.7986	
PS	46	0.800 × 0.540	0.4320	0.4320	783.63
EPS	47	1.845 × 1.058	1.9520	1.9520	+4階ロフト
EPS	48	3.665 × 1.215	4.4530	4.4530	801.02
階段１	39	7.210 × 5.180	37.3478	37.3478	37.35
階段２	40	3.580 × 5.930	21.2294	21.2294	21.23
EVシャフト	A	3.640 × 6.000	21.8400	21.8400	21.84
小計			㎡	864.0508	864.05
EV小計			㎡	21.8400	21.84
備蓄倉庫小計			㎡	20.2756	20.28
容積対象小計			㎡		821.93

３階求積図

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

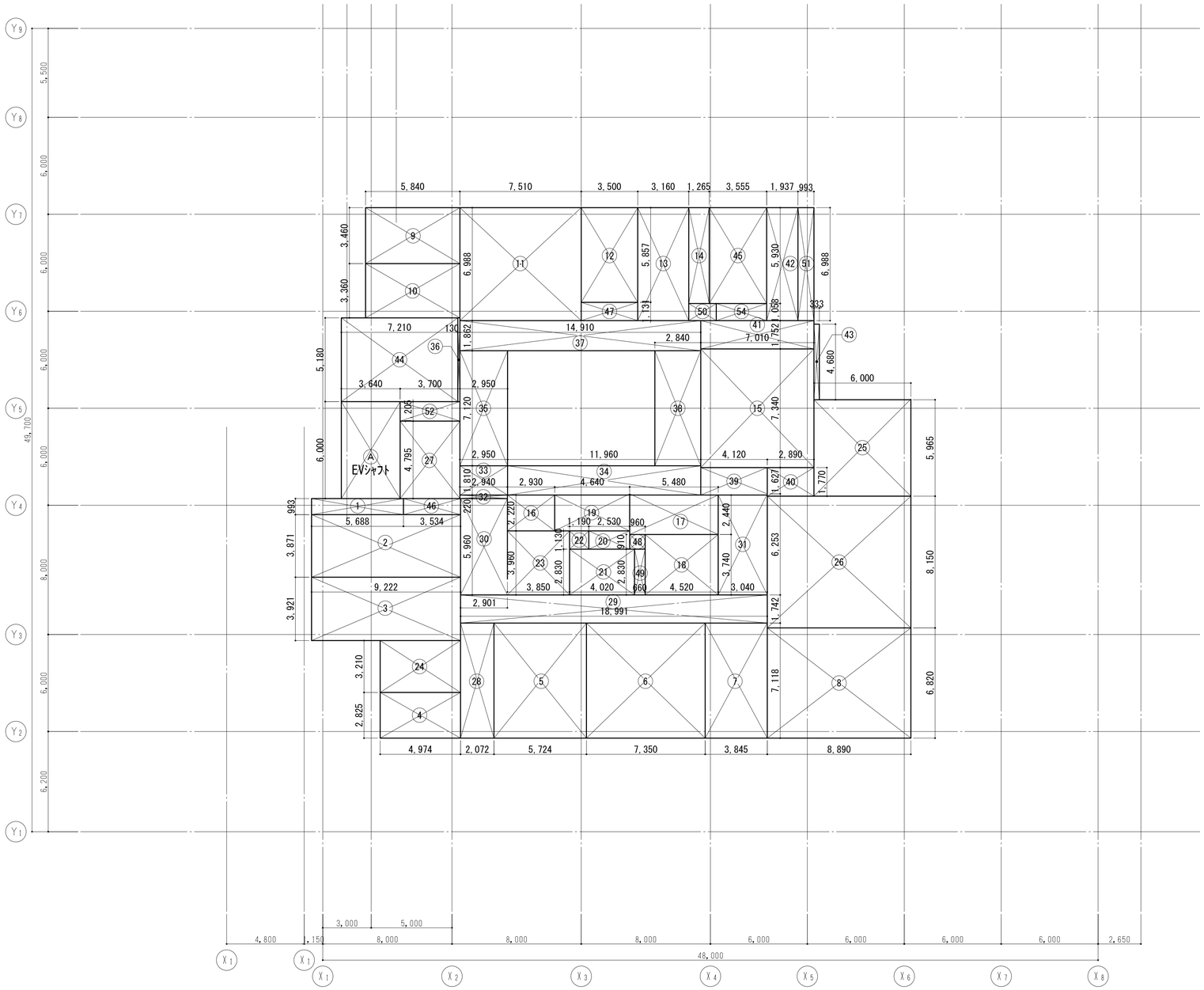
床面積求積図・求積表 ３階

設計番号 A — 029

縮尺 1/A1:150 A3:300

日付 2019・02・28

No



４階求積図

室名	No.	計算式(m)	面積(㎡)	室面積(㎡)	区画面積(㎡)
ロフト	4	4.974 × 2.825	14.0516	14.0516	14.05
団体活動室4-1	1	5.688 × 0.993	5.6482		
	2	9.222 × 3.871	35.6984	41.3465	
団体活動室4-2	3	9.222 × 3.921	36.1595	36.1595	
会議室３	5	5.724 × 7.118	40.7434	40.7434	
多目的室３	6	7.350 × 7.118	52.3173	52.3173	
調理室	7	3.845 × 7.118	27.3687		
	8	8.890 × 6.820	60.6298	87.9985	
若年者就労支援業務	9	5.840 × 3.460	20.2064		
	10	5.840 × 3.360	19.6224		
	11	7.510 × 6.988	52.4799		
	12	3.500 × 5.857	20.4995	112.8082	
管理諸室等4-1	13	3.160 × 6.988	22.0821		
	14	1.265 × 5.930	7.5015	29.5835	
多世代間交流スペース２	15	7.010 × 7.340	51.4534	51.4534	
HWC4	16	2.930 × 2.220	6.5046	6.5046	
MWC4	17	5.480 × 2.440	13.3712		
	18	4.520 × 3.740	16.9048	30.2760	
WWC4	19	4.650 × 2.220	10.3230		
	20	2.530 × 1.130	2.8589		
	21	4.020 × 2.830	11.3766	24.5585	
倉庫4-1	22	1.190 × 1.130	1.3447		
	23	3.850 × 3.960	15.2460	16.5907	
倉庫4-2	24	4.974 × 3.210	15.9665	15.9665	
機械室３	25	6.000 × 5.965	35.7900		
	26	8.890 × 8.150	72.4535	108.2435	
EVホール4・ホール4・廊下4	27	3.700 × 4.795	17.7415		
	28	2.072 × 7.118	14.7485		
	29	18.991 × 1.742	33.0823		
	30	2.901 × 5.960	17.2900		
	31	3.040 × 6.253	19.0091		
	32	2.940 × 0.220	0.6468		
	33	2.950 × 1.810	5.3395		
	34	11.960 × 1.810	21.6476		
	35	2.950 × 7.120	21.0040		
	36	0.130 × 5.180	0.6734		
	37	14.910 × 1.862	27.7624		
	38	2.840 × 7.120	20.2208		
	39	4.120 × 1.627	6.7032		
	40	2.890 × 1.770	5.1153		
	41	7.010 × 1.752	12.2815		
	42	1.937 × 6.988	13.5358		
	43	0.333 × 4.680	1.5584	238.3602	
PS	46	3.534 × 0.993	3.5093	3.5093	
PS	47	3.500 × 1.131	3.9585	3.9585	
PS	48	0.960 × 0.910	0.8736	0.8736	
PS	49	0.660 × 2.830	1.8678	1.8678	
PS	50	1.700 × 1.058	1.7986	1.7986	
PS	51	0.993 × 6.988	6.9391	6.9391	
EPS	52	3.700 × 1.205	4.4585	4.4585	
EPS	54	3.120 × 1.058	3.3010	3.3010	919.62
階段１	44	7.210 × 5.180	37.3478	37.3478	37.35
階段２	45	3.555 × 5.930	21.0812	21.0812	21.08
EVｼｬﾌﾄ	A	3.640 × 6.000	21.8400	21.8400	21.84
小計			㎡	1013.9372	1013.94
EV小計			㎡	21.8400	21.84
容積対象小計			㎡		992.10

４階求積図

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

床面積求積図・求積表 ４階

設計番号 A — 030

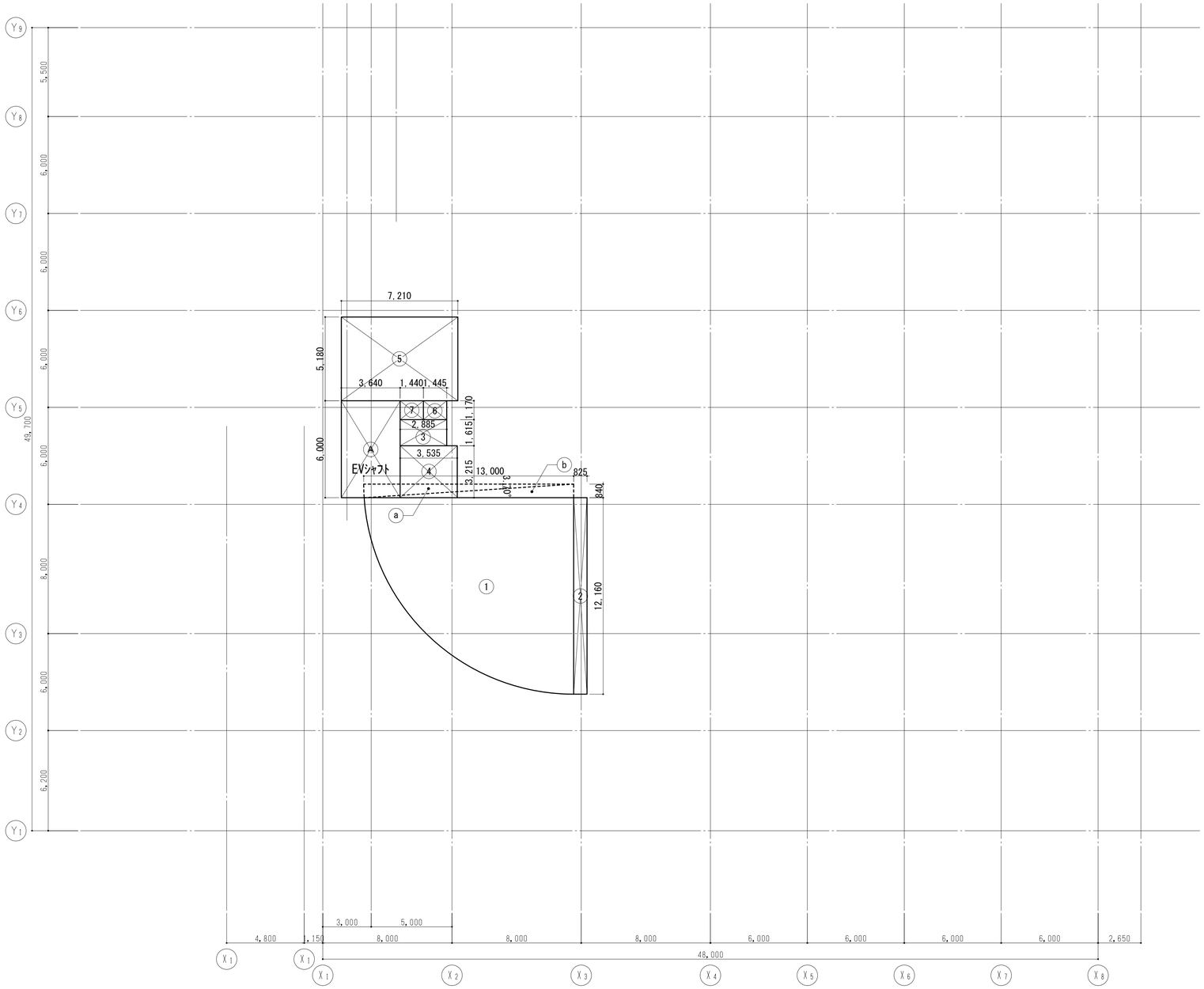
縮尺 1/A1:150 A3:300

日付 2019・02・28

No

５階求積図

室名	No.	計算式(m)	面積(㎡)	室面積(㎡)	区画面積(㎡)
レストラン	1	13.000 ²× π × 90.0 ／360	132.7322		
	2	0.825 × 12.160	10.0320		
	a	13.000 ²× π × 3.7 ／360	5.4568		
	b	13.000 × 0.840 × 1/2	5.4600		
		1 ＋ 2 － a － b	131.8474	131.8474	131.85
EVホール5	3	2.885 × 1.615	4.6593		
	4	3.535 × 3.215	11.3650	16.0243	
EPS2	7	1.440 × 1.170	1.6848	1.6848	17.71
階段１	5	7.210 × 5.180	37.3478		
	6	1.445 × 1.170	1.6907	39.0385	39.04
EVｼｬﾌﾄ	A	3.640 × 6.000	21.8400	21.8400	21.84
小計			㎡	210.4350	210.44
EV小計			㎡	21.8400	21.84
容積対象小計			㎡		188.60



５階求積図

| | | | | |

共 通 事 項

内装材料（不燃・準不燃材料）認定番号

	材 料 名	認定番号		材 料 名	認定番号
不燃材料	⊙せっこうボード(GB-R) ▽12.5、15	NM-8619	準不燃材料	⊙せっこうボード(GB-R) ▽9.5	QM-9828
	⊙普通強化せっこうボード(GB-RH) ▽9.5	NM-9645		⊙化粧せっこうボード(GB-D) ▽9.5	QM-9824
	⊙強化せっこうボード(GB-F) ▽12.5、15、21	NM-8615		⊙木毛セメント板 ▽50	QM-9701
	⊙不燃積層せっこうボード(GB-NC) ▽9.5	NM-0441			
	⊙繊維強化セメント板（けい酸カルシウム板（タイプ2））	NM-8576			
	⊙化粧繊維強化セメント板（化粧フレキシブル板）	NM-8577			
	⊙化粧繊維強化セメント板（化粧フレキシブル板）	NM-8577			
	⊙化粧繊維強化セメント板（化粧ケイカル板タイプ2）	NM-8577			
	⊙グラスウールガラスクロス張り ▽50	NM-8606			
	⊙発砲ウレタン	NM-0916			

内装制限記号

仕上げ材 記号	内装制限区分
a	不燃以上
b	準不燃以上
c	難燃以上
d	制限なし

下地材 記号	内装制限区分
イ	不燃以上
ロ	準不燃以上
ハ	制限なし

基材・工法・材料記号

	記号	材料名		記号	材料名
基材	C	コンクリート		GWB	グラスウールボードガラスクロス張り
	LC	軽量コンクリート			
	SB	鉄筋	工法	T	金ゴテ仕上げ
	RS	一般構造用圧延鋼材		F	刷毛引き仕上げ
	LGS	一般構造用軽量形鋼材			
	SF	建築用鋼製下地材（壁・天井下地材）	塗料	SOP	合成樹脂調合ペイント
	CB	コンクリートブロック		EP	合成樹脂エマルションペイント
	ALC	オートクレーブ軽量気泡コンクリート		EP-T	合成樹脂エマルション模様塗料
	ECP	押出成形セメント板		EP-G	つや有り合成樹脂エマルションペイント
	PC	プレキャストコンクリート		NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料
	M	モルタル		AE	アクリル樹脂エナメル
	ST	鋼板		FE	フタル酸樹脂エナメル
	AL	アルミニウム		2-UE	2液形ポリウレタンエナメル
	SUS	ステンレス		CL	クリヤーラッカー
	TB	テラゾーブロック		UC	ウレタン樹脂ワニス
内装材料	GB-R	せっこうボード		2-ASE	アクリルシリコン樹脂エナメル
	GB-RH	普通強化せっこうボード		2-FUE	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル
	GB-F	強化せっこうボード		OSC	オイルステインクリアラッカー
	GB-D	化粧せっこうボード		UC	ウレタンクリア
	GB-S	シージングせっこうボード		B-AE	焼付形アクリル樹脂エナメル
	GB-P	吸音用あなあきせっこうボード		B-UE	焼付形１液ウレタン樹脂エナメル
	GB-L	せっこうラスボード		B-FE(F)	中温焼付形ふっ素樹脂エナメル(FEVE系)
	GB-NC	不燃積層せっこうボード		B-FE(P)	高温焼付形ふっ素樹脂エナメル(PFVd系)
	F	繊維強化セメント板（フレキシブル板）		ASC	アクリルシリコーン樹脂クリア塗り
	FK	繊維強化セメント板（けい酸カルシウム板（タイプ2））		DP	耐候性塗料塗り
	DR	ロックウール化粧吸音板（立体成形模様）		WP	木材保護塗料塗り
	RW	ロックウールボードガラスクロス張り			

内 部 仕 上 材 料 表　　下記不燃材は大臣認定とする。

区分	記号	材料名（※同等品以上とする）	
床	ビニル床シート	複層ビニル床シート　t2.0	サンゲツ
	ビニル床シートA	※※	
	ビニル床シートB	※※	
	タイルカーペット	500×500　t 7.0	東リ　サンゲツ
	コルクタイル	300×300　t4.0	サンゲツ
	フローリングt18	隠し特殊張り、カバ材ひき板極厚単板	
	フローリングt15	カバ材ひき板極厚3mm単板	
	フローリングt15(直貼用)	カバ材ひき板極厚3mm単板	
	タイル	磁器質　施釉　t8.5	名古屋モザイク　ヒマラヤ
	合成高分子系塗装	※※	ABC商会
	ｺﾝｸﾘｰﾄ表面強化剤	浸透硬化型コンクリート表面硬化剤	SK化研　SKバリアコート
	防塵塗装	アクリル樹脂系防塵塗料	ABC商会　カラートップA
壁等天井	クロス、ハードクロス	不燃、抗菌、表面強化、汚れ防止	サンゲツ　SG5556
	マグネットクロス	不燃、掲示板用クロス	サンゲツ　K824
	腰壁シート	不燃、腰壁保護ビニルシート　t0.85	サンゲツ　KB-2581　※専用部材含む
	天然木練付合板	不燃、ナラ材　t9	
	珪藻土クロス	不燃	サンゲツ　SG5134
	塗装	不燃	
	化粧シート	不燃	ダイノックシート 3M
	杉縁甲板	不燃　t15	認定番号 NM-750
巾木	ビニル巾木60		東リ　ソフト巾木
	ビニル巾木350		東リ　防汚抗菌ワイド巾木
	フッ素樹脂塗装		菊水化学工業　２液弱溶剤系オールマイティー
			４フッ化４フッ素塗料
			K'Ｓスーパーパワーフッ素

内 部 仕 上 下 地 材 料 表

区分	記号	下地	区分	記号	下地
床	F1	C+T	壁	WA4	C打放し（B種）下地補修
	F2	C+T+直貼フローリング		WA5、6	C打放し（C種）素地
	F3	C+T+耐水合板		W1	C本実型枠打放し（A種）
	F4	C+T+OAフロア		W2	C塗装合板打放し（A種）
	F7	C+T+鋼製二重床（1）		W3	C打放し（B種）下地補修
	F9	C+T+ポリスチレンフォーム床下地		W4	C打放し（C種）補修
	F10	C+T+AS防水+シンダーコンクリート		W7	C+発泡ウレタンt30+SF+GB-R12,5+GB-RH9,5
	F11	C+T+木軸t合板		W8	C+SF+GB-R12,5+GB-RH9,5
	L-50	C+T+防塵塗装+鋼製床下地 (クッションゴム付)制振ダンパ共 +ベースパネルt20+合板t12　(推定L等級50以下)		W9	アリーナ：木下地+有孔シナ合板
				W11	二重壁:SF+ケイカル板+GB-R12,5+EP
天井	C1	C打放し		WS1	SF+GB-F12,5+GB-F12,5
	C2	C+木繊セメント板t50		WS2	SF+GB-R12,5+GB-R12,5　遮音性能
	C3	SF		WS3	SF+GB-F12,5+GB-F12,5　遮音性能
	C4	SF+GB-NC9,5		WS4	SF+GB-F12,5+GB-RH9,5　遮音性能
	C5	SF+GB-R12,5		WS5	SF+GB-F21+GB-RH9,5　遮音性能
	C6	GWB貼り		WP1	C+仕上材
壁	WA1	C リブ型枠打放し（A種）		WG1	SF+GB-F12,5+GB-RH9,5
	WA2	C杉板型枠打放し（A種）		WG2	SF+GB-R12,5+GB-NC9,5
	WA3	C塗装合板打放し（A種）		GWB1	GWB貼り

仕 上 表

外 部 仕 上 表

部 位	仕 様
屋根	
一般屋根	アスファルト防水+断熱材t25+押えコンクリートt80（保護断熱防水）
管理用ﾊﾛｰﾌﾟ等	アスファルト防水+断熱材t25+真空コンクリートt80（保護断熱防水）
屋上広場、屋外ﾃﾗｽ屋根等	アスファルト防水+断熱材t25+押えコンクリートt80（保護断熱防水）
笠木	コンクリート製笠木ウレタン系塗膜防水
外壁	リブ型枠コンクリート打放しの上弾性系塗料、コンクリート打放しの上DP塗装（ふっ素樹脂）
	杉板型枠コンクリート打放しの上ふっ素樹脂クリア（ｾﾗﾐｯｸﾘｰﾄﾊﾟｰﾄﾞ工法　SK化研　同等品）
	化粧型枠コンクリート打放しの上ふっ素樹脂クリア（ｾﾗﾐｯｸﾘｰﾄﾊﾟｰﾄﾞ工法　SK化研　同等品）
	吹付けタイル
建具	
アルミサッシ	電解二次着色、高性能断熱省エネ
	外部ガラリ：防水仕様　開口率35%以下　可動サッシ：ステンレスネット網戸付
	サッシ性能：耐風圧S-5｜気密A-3｜水密W-4｜遮音T-2
	方立：見付60mm
ｱﾙﾐｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ	電解二次着色高性能断熱省エネ
	方立：見付60mm
ガラス	複層ガラス（P6+A6+Low-eP6）
	延焼ライン上は耐火ガラス（AF5+A6+Low-eP6）
	掃出し窓部
	強化ガラス（T8）　衝突防止サイン
	※ガラス厚については耐風圧計算の判定により決定すること
鋼製建具	焼付フッ素樹脂エナメル、隠し丁番、枠：SUS製　スリットガラスP5、スリットガラリw25
金属露出部	溶融亜鉛メッキ処理
庇	庇1・3・4：アルミ製（ABC商会　CANシリーズ　同等品）
	庇2・5：コンクリート製
樋	外部：アルミ製角たて樋□100支持なしタイプ、内部：VP+防露巻t20
防音壁	ALCパネル+塗装（ALCパネル内側には軽量コンクリート系剛体多孔質吸音材t50貼り）
手摺	SUSガラス手すりH1500　強化合わせガラスt10mm+t10mm
	天端：SUS30mm×20mm
テラスデッキ	再生木デッキ敷　　三洋工業　超硬質木質デッキフロアシステム
	サニーデッキＮＡＷ（同等品）
屋上緑化	東邦レオ　同等品
ｴﾝﾄﾗﾝｽ広場	透水性インターロッキング
屋外階段1・2	磁器質タイル（外部）、真空コンクリート
ガバナスペース	メッシュフェンスH1800 W900 片開き戸付、真空コンクリート
駐輪場3・4	透水性インターロッキング
公用車駐車場	透水性インターロッキング
屋外通路3	真空コンクリート
屋外ｽﾛｰﾌﾟ1・2	透水性インターロッキング舗装

軒天井：設計風圧力

階	部位	設計風圧力(N/㎡)	階	部位	設計風圧力(N/㎡)
	軒天、庇	2,000 N/m2			

軽量鉄骨 天井下地 耐震補強 区分
耐震補強要領は「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。

・全ての内部天井は区分「C」に該当する。

内 部 仕 上 表　　赤字特記以外は、壁、天井は仕上げ・下地共に不燃材料とする。

区分	施設	室 名	内装制限	床高	床	幅 木	壁	天 井	回り縁	天井高	備 考
B1	藤沢西部いきいきサポートセンター	事務室	b	±0	タイルカーペット	ビニル巾木　60	クロス	DR12	塩ビ	2600	ホワイトボード 木製BB/UC
			ハ	-10,-100	F1,F4		W7,WS4,WG2	C4			
		玄関ホール	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	DR12	塩ビ	2600	木製BB/UC
			ハ	-10	F1		W7,WG2,WS4	C4			
		ミーティング室 ・相談室1・2	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木　60	クロス	DR12	塩ビ	2400	固定式ホワイトボードW1800 （ミーティング室）
			イ	-10,-100	F1,F4（ミーティング室）		W8,WS4	G5			
		WC	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	クロス	塩ビ	2100	化粧鏡 照明器具設置（採光無窓のみ）
			ハ	-10	F1		W7,WG2	C5			
		HWC	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　100	クロス	クロス	塩ビ	2400	跳ね上げ手摺、L型手摺 背もたれ、化粧鏡 荷物フック 照明器具設置（採光無窓のみ）
			ハ	-10	F1		W7,W8,WG2	C5			
		更衣室	a	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	クロス	塩ビ	2100	
			イ	-10	F1		W8,WS4,WG1	C5			
		給湯室	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	クロス	塩ビ	2100	流し
			ハ	-10	F1		W8,WG1,WG2,WS4	C5			
	藤沢市地域生活支援センターおあしす	ホール	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	DR12	塩ビ	2600	
			ハ	-10	F1		WS4,WG1,WG2	C4			
		玄関	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	DR12	塩ビ	2600	木製BB/UC
			ハ	-10	F1		WS4,WG1	C4			
		事務室	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス マグネットクロスあり(W3500×H2600)	DR12	塩ビ	2600	流し ハイカウンター 木製BB/UC
			ハ	-10	F1		W7,W8,WG2,WS4	C4			
		相談室	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	DR12	塩ビ	2400	
			ハ	-10	F1		W8,WS4	C4			
		脱衣室	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	クロス	塩ビ	2400	洗濯器パン
			ハ	-10	F1		WS4,WG1,WG2,W8	C5			
		シャワー室（SW）	b	±0	素地		素地	素地		直天	シャワーユニット
			ハ	-10	F1		WS2,WG2	C1			
		LD	b	±0	フローリングt15	W/UC　60	クロス	クロス	塩ビ	2600	下足入（17人分） 木製BB/UC
			ハ	-60	F2		W7,W8,WS2,WG2	C5			
		K	b	±0	フローリングt15	W/UC　60	クロス	クロス	塩ビ	2600	キッチン
			ハ	-60	F2		W7,WS2,WG2	C5			
		和室	b	±0	畳敷き、縁甲板	畳寄、雑巾摺	クロス	クロス	塩ビ	2400	押入
			ハ	-60	F1		W8,WS2,WG2	G5			
		HWC	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　100	クロス	クロス	塩ビ	2400	跳ね上げ手摺、L型手摺 背もたれ、化粧鏡 荷物フック 照明器具設置（採光無窓のみ）
			ハ	-10	F1		W7,WS2,WG1,WG2	C5			
		職員WC	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	クロス	塩ビ	2400	化粧鏡 照明器具設置（採光無窓のみ）
			ハ	-10	F1		W8,WG2	C5			
		WC	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	クロス	塩ビ	2400	化粧鏡 照明器具設置（採光無窓のみ）
			ハ	-10	F1		WS2,WG2	C5			
		倉庫	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木　60	クロス	クロス	塩ビ	2400	
			ハ	-10	F1		W7,WG1	C5			

特 記 事 項

断熱材
・土間に接する各室スラブ下には、断熱＋スラブ防湿を行う。
（砕石 t=60＋均しコンクリート t=50＋ポリエチレンフィルム t=0.15）
・外壁の内部（柱型、梁型含む）側は断熱材（現場発泡ウレタン）t 30吹付とする。
又、建具廻り、設備の外壁貫通廻りは入念に断熱材を施す。
・特記なき限り、断熱材の巻返しはL=600以上とする。

防水
・防水工事はアスファルト防水、塗膜防水の別を問わず全て責任施工とし、全て10年保証とする
・特記なき限り外部のウレタン塗膜防水は立上り100とする。

樋
・雨水排水管（図示なき外樋）:SGP管とし、特にデザインに配慮する部位についてはSUS製、
アルミ製(ウレタン焼付塗装)とする(井上商事　バンドレスタイプ　同等品)
・内樋は、特記なき限り耐火二層管とする

配管の塗装
・配管や取り付部材は、指定色塗装とする。

鉄骨部の塗装
・溶接箇所及び剥離部分は全てタッチアップを行うこと。
・外部に使用する2-FUE、B-FEは全て低汚染型とする。
・本実型枠コンクリートには外部フッ素樹脂塗装クリア、内部撥水剤塗布とする事。
・特記なき限り内部に使用する木部はOSCLとする。
・特記なき限り外部に使用する鉄部（2次部材含む）は溶融亜鉛メッキとし、外部からの見えがかり部位は
溶融亜鉛メッキの上フッ素樹脂塗装とする。
・床　鋼製床下はコンクリート金コテ仕上げとする。
・外・内ＲＣ壁部には、誘発目地を設置し、シーリング打ちとする。
（柱際及びスパン中央部：立面図参照）
・ＤＳ・ＰＳ・ＥＰＳのコンクリート打放しはＣ種とする。
・RC部出隅部でFLから2,100mmの範囲は、面取りR=20とする。
・化粧打放し部に取付けるコンセント、スイッチ、照明取付台　枠等は、埋め込みとする。
・RC化粧打放しは、RC打放し（A種）とする。
・コンクリートスラブは増打t10とする。
・DS、PS、EPSは、特記なき限り各階毎に床スラブ打放し金コテ押えとする。
・土に接する地下外壁・基礎部のコンクリート打継部には止水板
（早川ゴム、スパンシールW200 t6同等品）を打込むこと。
・床の嵩上げコンクリートは全て溶接金網100×100 3.2φ入りとする。

・押えコンクリート内は、溶接金網100×100 6.0φ入りとする。
・内部打放しの壁で打放し仕上げ以外の壁は、特記なき限り　@3000内外に伸縮目地を設け、
パテしごきの上仕上を行う。
・屋内の機械基礎表面仕上は、天端：コンクリート直均し仕上、立上り：打放しC種とする。
・本実型枠は浮造り杉板本実型枠(W=150)とし杉板の継目は2mmの面取を施す事。
特記なき限り、ピット内の床はｺﾝｸﾘｰﾄ金ゴテにて平滑仕上とし壁、天井はｺﾝｸﾘｰﾄ打放し（C種）素地とする。
・コンクリート壁の増打ちは、特記なき限り外部20mm内部10mmとする。
・コンクリート型枠のパネル、Pコン創は監理者の指示による。
・床 ＶＴ・ＶＳ貼りに使用する接着剤は、土間コンクリート部はエポキシ系とする。
・特記なき限り、壁 石こうボード部は、全て継目処理工法寒冷紗貼下地（２重貼り部は上貼りのみ）
とし、目地を設ける場合は、位置について承認を取ること。
・長尺シートを立ち上げる場合は、壁材との間にアルミB-AE見切材を入れる。
・壁面に使用するボード壁は、水平ジョイントは設けないこと。
・壁下地石膏ボード二重貼りには、上貼りにテーパー付石膏ボードを使用し、縦目工法とする。
・軽鉄壁は天井裏のスラブ・梁下まで立上げ、隙間は塞ぐこと。
・点検口の表面仕上げは、特記なき限り各床・壁・天井材と同材とする。
・床の仕上材の異なる部分には、特記なき限りステンレス目地棒W6.0を設ける。
・内装工事に関する材料は全て☆☆☆☆認定品とする。また、全てノンアスベスト品とする。
・壁石膏系ボード出隅部は全てコーナーテープかコーナービートを使用する。
・巾木高さは特記無き場合、H=60mmとする。
・ビニル床シートは、全て目地溶接とする。
・ビニル床シート、ビニルクロスは抗菌仕様とする。
・天井岩綿吸音板 t9 ＋ ＥＰの下張りGB（Ｒ）で、下地不燃が要求される部分は不燃石膏積層板t9.5とする。
・遮音及び防火区画以外のPS・EPS・DSの壁は、特記なき限り片面貼りとする。
・特記なき限り、地中に面する外壁は2重壁とする。屋内側壁はSUS軽量間仕切壁下地
+フレキシブルボードt=6.0+GB(R)t=12.5を下地とし、点検口を設ける。
・楽屋の軽量間仕切壁は遮音壁仕様とする。
・舞台床材と壁の取合いは、伸縮緩衝材（ネオプレンゴム）t=20を設けること。
・軽量鉄骨下地に設ける建具枠上部の両側の他、異なる壁下地の継目には細目透かしタイプの
塩ビ見切材を設けること。
・法28条の２1号及び2号に適合した衛生上の措置を行うこととする。
・法37条に定めるものは、JIS及びJASの適合しているものとする。

床下点検口
・一般部:ＳＵＳ枠　６００Ｗ×６００　一般用（仕上材貼用）
・下部ピット：ＳＵＳ枠　Φ６００　完全防水　防臭型（駐車場、車路部分）
・機械室　電気室　等：鋳鉄製マンホール　６００Φ　完全防水型　防臭型
・床下点検口は特記なき限りボルト固定式　防水・防臭型　ﾓﾙﾀﾙ充填ﾀｲﾌﾟ　T-2、鍵付とする。
床下点検口は下部汚水槽、雑排水槽は完全防水＋防臭＋耐腐食型とする。
・マンホールは特記なき限りﾃｰﾊﾟｰﾊﾟﾈﾙ式密閉型　T-2、鍵付とする。
・消火器は、特記なき限り全て壁埋め込みの消火器ボックスに収納する。
（壁面と同等の耐火性能を保持できるように手当てすること）
・ロッカー等の主要な什器備品には耐震補強を行うため、取り付く箇所の下地補強を行うものとする。
・ブラインドＢＯＸは、図示なき限りスチール t1.6加工SOP
・ライニング面台は　特記なき限り　メラミンポストフォーム加工とする。
・特記以外の柱、はり、下り壁の仕上げは、壁仕上げによる。
・ステンレスは特記なき限り全てSUS304、HL仕上げとする。
・エレベーター搬入用フック・搬送設備用フック等躯体内に打ち込んで強度を確保する場合は、
メーカーに確認、現場立会いを行う。
・消火器ボックス（床置型）は、ユニオンUFB-3F-2800・MBK 同等品とする。
・消火器ボックス（屋外型）は、ユニオンUFB-3S-2760 同等品とする。
・鍵箱はKC-100WG（杉田エース 同等品）とする。
・ピクチャーレールはアルミ隠べい型とし、各室2辺、共用部は各階30mとする
（位置は現場調整とする）
・壁仕上げが塗装の内壁部分は、仕上が躯体露出の場合は図示なき限り
うす塗りモルタル t=3～5金ゴテ押さえとし調整する。
・強化ガラス面は、人が触れる範囲全て飛散防止フィルム貼とする。
・内外共に見えがかりとなる木部のボルト部には、木栓処理を行うこと。
・土間コンクリートは3m以内ごとにＶカット目地を設ける。
・舞台機構設備機器類は原則として仕上げまで工場塗装とする。組立後に塗装困難となる部分は、
組立前に塗装するものとする。
・衛生設備等の取付に下地補強が必要な個所には構造用合板t9を設けること。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

＜特記事項＞
・内部仕上表床高さ欄の内、上段は床仕上げ面高さ（FL）を表し、
無記入はZ±0とする。又下段はスラブ下がり面を表す。
・地階及びピットの床仕上レベルは、平面図参照のこと
・全ての居室をVOC測定室とする。（同じ室が複数ある場合は１箇室とする）

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
外部仕上表・内部仕上表（１）	縮尺 1／A1:- A3:-	日付 2019・02・28
		No

A — 032

改訂：2012.07.20（2015.11.02改訂）

内部仕上表　　赤字特記以外は、壁、天井は仕上げ・下地共に不燃材料とする。

区分	施設	室名	内装制限	床高	床	幅木	壁	天井	回り縁	天井高	備考
	藤沢西部地区ボランティアセンター	玄関ホール	b	±0	ビニル床シートA	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	木製BB/UC
			ハ	-10	F1		WG2	C4			
		事務室・会議室	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	ホワイトボード キッチン 木製BB/UC（ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ兼用）
			ハ	-10	F1		W7,W8,WG2	C4			
		WC	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	クロス	塩ビ	2400	化粧鏡 照明器具設置（採光無窓の為）
			ハ	-10	F1		W7,W8,WG2	C5			
		防災倉庫1-1	d	±0	防塵塗装		素地	素地		直天	中量アングル棚 （防災倉庫1-1）
		防災倉庫1-2	ハ	-10	F1		W2	C1			
		受水槽 ・消火ポンプ室	d	±0	防塵塗装		素地	素地		直天	
		燃料ポンプ室	ハ	-10	F1		W2	C1			
		ごみ置場	d	±0	エポキシ樹脂系塗床		素地	素地		直天	地流し
			ハ	-10	F1		W2	C1			
		駐車場	b	±0	コンクリート表面強化剤		素地	不燃コート塗布 断熱材吹付 t20		直天	有料駐車場システム 車止め
			ハ	-10	F1		W2	一部SF+ケイカル板+EP			
		EVホールB1	b	±0	タイル	SUS 100	クロス マグネットクロスあり(W1800×H2600)	DR12	ｱﾙﾐ	2600	モニター
			ハ	-60	F1		W8,WG1	C4			
		ピロティ	b	±0	エポキシ樹脂系塗床		素地	FK6+EP		2335	
			ハ	-10	F1		W2	C3			
		屋外スロープB1	b	±0	エポキシ樹脂系塗床		素地	FK6+EP		3240	SUS手摺
			ハ	-10	F1		W2	C3			
		駐輪場	d	±0	コンクリート表面強化剤		素地	素地		直天	傾斜式ラック
			ハ	-10	F1		W2	C1			
		バイク置場	b	±0	エポキシ樹脂系塗床		素地	素地		直天	
			ハ	-10	F1		W2	C1			
		専用ガバナ室	d	±0	エポキシ樹脂系塗床		素地	素地		直天	
			ハ	-10	F1		W2	C1			
1F	藤沢市民図書室	図書スペース	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり(計W4640×H2600)	DR12	塩ビ	2600	カーテンレール マグネット石膏ボード（柱型・壁面） 本棚、パック棚、雑誌架 掲示板、木製BB/UC カーブミラー 返却ポスト
			ハ	-10,-100	F1,F4		W7,W8,WG2	C4			
		児童スペース	c	+50	コルクタイル	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり（W2960×H2600）	DR12	塩ビ	2600	児童本棚、木製BB/UC 紙芝居棚 マグネット石膏ボード(柱型)
			ハ	-10	F11		W7,W8,WS4	C4			
		図書受付	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	受付カウンター パック棚 ホワイトボード
			ハ	-100	F4		WS4,WG2,W8	C4			
		作業室	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	化粧鏡 収納棚、物入れ
			イ	-100	F4		W8,WS4	C5			
		生涯学習活動推進室	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	
			イ	-10,-100	F1,F4		W8,W11,WS4	C5			
	ホール	客席	C	±0	フローリングt15	W/UC 60	舞台正面：不燃化粧板 下地：GB-R t15×2+GB-R t9.5 舞台袖 ：不燃リブ材（サカイリブ同等品） 下地：耐水合板t15 客席部分：不燃珪藻土クロス 準不燃 下地：GB-R t15×2+GB-R t9.5 客席後方：不燃ガラスクロス+アルミルーバー 下地：WP1	不燃処理合板 OP ダイケン ダイライト t=6 下地：デッキ <キャットウォーク下部 拡散天井> 不燃珪藻土クロス 計55m2 サンゲツ(SG-5139) 下地：ＰＢ 準不燃			舞台機構 スタンダード席 ハイバック席、移動席 キャットウォーク
			ハ	-60	F3						
		舞台	C	±0	檜集成材 柾目 無節 t＝30W150 ウレタンクリアマット塗装	W/UC 60					
			ハ	-60	F3						
		控室	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス（FL+900マデ）GW（FL+900以上）	DR12		2600	タラップ
			ハ	-60	F1		W8,W11,WG4	C4			
		前室1	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	
			ハ	-10	F1		W7,W8,WG2	C4			
		ピアノ庫	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス（FL+900マデ）GW（FL+900以上）	DR12	塩ビ	2600	ストレッチャーガード コーナーガード
			ハ	-60	F1		W8,W11,WG4	C4			
		楽屋	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	化粧鏡、木製BB/UC 手洗いカウンター カーテンレール
			イ	-10	F1		W7,W8,WG2	G5			
		楽屋WC	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	クロス	塩ビ	2400	化粧鏡 手洗い 照明器具設置（採光無窓の為）
			ハ	-10	F1		W8,WG1,WG2	C5			
		風除室1	b	±0	タイル	SUS 60	外壁塗装 マグネットクロスあり（W3200×H3000）	DR12		3000	
			ハ	-60	F10		WA3,W8	C4			
		ベビーカー 車椅子置場	b	±0	タイル	SUS 60	クロス	DR12	ｱﾙﾐ	2600	
			ハ	-60	F1		WG2,WS4	C4			
		自販機コーナー	b	±0	タイル	SUS 60	クロス	DR12	ｱﾙﾐ	2600	水飲み場
			ハ	-60	F1		W8	C4			
		エントランスホール	b	±0	タイル	SUS 60	クロス マグネットクロスあり(W5400×H2600)	DR12	ｱﾙﾐ	2600	掲示板、モニター トップライト（マグネット石膏ボード、ＥＶホール
			ハ	-60	F1		W8,WG2,WS4	C4			
		廊下1-1	b	±0	タイル	SUS 60	クロス	クロス		2300	
			ハ	-60	F1		WG2	C5			

内部仕上表　　赤字特記以外は、壁、天井は仕上げ・下地共に不燃材料とする。

区分	施設	室名	内装制限	床高	床	幅木	壁	天井	回り縁	天井高	備考
	管理諸室等	指定管理者 事務室	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	木製BB/UC
			ハ	-100	F4		W7,W8,WS2	C4			
		印刷室	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	クロス	塩ビ	2600	
			イ	-10	F1		W8,WS2,WG2	C5			
		職員更衣室3	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	クロス	塩ビ	2600	木製BB/UC カーテンレール
			ハ	-10	F1		W7,WS2,WG2	C5			
		藤沢公民館	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	受付カウンター スイングドア 木製BB/UC
			イ	-100	F4		W7,W8,WS2,WS4	G5			
		雇用労働相談室	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	クロス	塩ビ	2600	
			イ	-10	F1		WS4	C5			
		職員休憩室	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	クロス	塩ビ	2600	キッチン 木製BB/UC
			イ	-10	F1		W7,WG2,WS4	C5			
		男子･女子職員更衣室	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	クロス	塩ビ	2400	化粧鏡 カーテンレール
			イ	-10	F1		WG2,WS4	C5			
		地域団体活動室	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	スクリーンボックス ホワイトボード 木製BB/UC
			ハ	-100	F4		W7,W8,WS4	C5			
		多目的室1	c	±0	フローリングt18（直貼用）	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	防音仕様 バレエ用鏡（ふた付き） ｽｸﾘｰﾝﾎﾞｯｸｽ、木製BB/UC
			ハ	-60	F2		W7,W8,WS2	C4			
		多目的室2	a	±0	フローリングt18（直貼用）	ビニル巾木 60	有孔ケイカル板t6.0 AEP	DR12	塩ビ	2600	防音仕様 バレエ用鏡（ふたなし）
			イ	-60	F2		W8,W11,WS4	C5			
		清掃員控室	a	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2300	洗濯パン
			イ	-10	F1		W8,W11,WG2	C5			
		倉庫1-1	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	素地			
			ハ	-10	F1		W7,W8,W11,WG2				
		倉庫1-2	d	±0	ビニル床シート	構造用合板 H=900	クロス	GB-D9.5 C3	塩ビ	2300	
			ハ	-10	F1		W7,W8,WG2				
2F		304会議室 収納1	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	ホワイトボード(固定式) スクリーンボックス 木製BB/UC
			ハ	-10	F1		W7,W8,WS4	C4			
		301･302･303会議室	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス（移動間仕切り共）	DR12	塩ビ	2600	移動間仕切り、ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ スクリーンボックス 木製BB/UC
			ハ	-10	F1		W7,W8,WG1	C4			
		305･306会議室	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	ホワイトボード スクリーンボックス 木製BB/UC
			ハ	-10	F1		W7,W8,WG1,WG2	C4			
		307･308会議室 ・収納2	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス（移動間仕切り共）	DR12	塩ビ	2600	スクリーン、ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ スクリーンボックス 移動間仕切り、木製BB/UC
			ハ	-10	F1		W7,W8,WS4	C4			
		廊下2	d	±0	タイル	SUS 60	クロス マグネットクロスあり(計W7000×H2600)	DR12	塩ビ	2600	モニター 掲示板 ピクチャーレール
			ハ	-60	F1		W2,W8,WG2,WS4	C4			
		和室	c	+55	畳敷き、縁甲板（ステージ部）	畳寄、雑巾摺	クロス	クロス	塩ビ	2545	押入 木製BB/UC
			ハ	-10	F1,F11		W7,W8,WG2,WS4	C5			
		和室前室	c	±0	タイル、縁甲板（スロープ）	W/UC 60	クロス	クロス	塩ビ	2600	木製BB/UC 下足棚
			ハ	-10	F1,F11		W8,WG2,WS4	C5			
	ホール	調整室	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	GW t50+ｶﾞﾗｽｸﾛｽ（黒）ﾋﾟﾝ止め	GWt50+ｶﾞﾗｽｸﾛｽ（黒）ﾋﾟﾝ止め		2300	
			イ	-100	F4		WA5	C5			
		親子席	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	イアルマグウォールｔ25(ブラック)	DR12	塩ビ	2400	ベンチソファ
			イ	-10	F1		W8	C5			
		前室2・3	b	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	イアルマグウォールｔ25(ブラック)	GWボードｔ50ﾋﾟﾝ止め(黒)		2400	
			ハ	-60	F1		W8	C4			
		ホワイエ	b	±0	タイル	SUS 60	ジョリパッド	DR12	ｱﾙﾐ	2600	R形状木枠 OSC
			ハ	-60	F1		W8,W11,WG2	C4			
		多目的交流ホール	c	±0	フローリングt18	W/UC 60	有孔シナ合板t=9 OSC 告示1439	不燃GWボードｔ50ﾋﾟﾝ止め		直天	バレエ用鏡（ふた付き） 可動ステージ、ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ ﾊﾟﾄﾞﾐﾝﾄﾝｺｰﾄﾄﾗｲﾔ（2面） ﾎﾞｰﾙ孔×2（ﾎﾞｰﾙ、ﾈｯﾄ含）
			ハ	-330	F7		W9	C1			
		前室スペース1・2	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	クロス		2600 2500	
			ハ	-10	F1		W8,WG2	C5			
		男子・女子更衣室	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	クロス		2500 2200	化粧鏡、手洗いカウンター ｼｬﾜｰﾕﾆｯﾄ、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ 8人用ﾛｯｶｰｺｲﾝﾘﾀｰﾝ式(各15)
			ハ	-10	F1		W8,W11,WG2	C4	(2-2)		
		倉庫2-1	d	±0	ビニル床シート	構造用合板H=1800	クロス	GB-D9.5		2600	
			ハ	-10	F1		W8,WG2	C3			
		DS	d	±0	防塵塗装	ビニル巾木 60	素地	素地		直天	
			ハ	-10	F1		W4	C1			
		給湯2	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	クロス		2400	流し
			ハ	-60	F1		WS4,WG2	C5			
		倉庫2-2	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	GB-D9.5	塩ビ	2600	中量アングル棚
			ハ	-10	F1		WS4,WG2	C3			

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

＜特記事項＞
・内部仕上表床高さ欄の内、上段は床仕上げ面高さ（FL）を表し、無記入はZ±0とする。又下段はスラブ下がり面を表す。
・地階及びピットの床仕上レベルは、平面図参照のこと
・全ての居室をVOC測定室とする。（同じ室が複数ある場合は１箇室とする）

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
内部仕上表（２）	縮尺 1/A1:- A3:-	日付 2019・02・28	No

A — 033

床　幅木　壁　天井　回り縁 天井高　備考

内 部 仕 上 表

区分	施設	室 名	内装制限	床高	床	幅 木	壁	天 井	回り縁	天井高	備 考
3F	藤沢子どもの家	ふじっこ砦	b	±0	フローリングt18	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	ネット遊具、掲示板 木製BB/UC、ｱﾙﾐ格子手摺 ポルタリング下地
			ハ	-330	F7		W7,WG2	C4			
		図書コーナー	b	±0	フローリングt18	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	本棚 ｱﾙﾐ格子手摺
			ハ	-330	F7		W7,W8,WG2	C4			
		玄関	b	±0	フローリングt18 一部ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	下足箱（50人分） 木床見切
			ハ	-330	F7		WS2,WG2	C4			
		見守る人コーナー	b	±0	フローリングt18	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	流し 受付カウンターL型 中量アングル棚
			ハ	-330	F7		WS2,WG2	C4			
		居場所スペース	b	±0	フローリングt18	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり（W5000×H2600）	DR12	塩ビ	2600	掲示板 下足箱（40人分） マグネット石膏ボード
			ハ	-330	F7		W8,WS2,WG2	C4			
	かがやき児童クラブ	玄関	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	下足箱（63人分） 木床見切
			ハ	-330	F7		WS2	C4			
		事務室	b	±0	フローリングt18	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	受付カウンター
			ハ	-330	F7		WS2,WG2	C4			
		生活スペース	b	±0	フローリングt18、一部ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり（W4000×H2600）	DR12	塩ビ	2600	ﾗﾝﾄﾞｾﾙ棚(60人分)、手洗いｼﾝｸ 収納棚,木床見切,ﾏｸﾞﾈｯﾄ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ
			ハ	-330	F7		W7,W8,WS2,WG2	C4			木製BB/UC、ｷｯﾁﾝ、洗濯ﾊﾟﾝ
		倉庫A	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	GB-D9.5 準不燃	塩ビ	2600	
			ハ	-5	F1		WG2	C3			
		倉庫B	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	GB-D9.5 準不燃	塩ビ	2600	中量アングル棚
			ハ	-5	F1		WG2,WS2	C3			
		更衣室兼静養室	b	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	
			ハ	-5	F1		WS2,WG2	C4			
		WC	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	クロス		2400	化粧鏡 幼児用手摺
			ハ	-5	F1		WG2	C5			照明器具設置（採光無窓のみ）
	保育室	保育室	c	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり（W5100×H2600）	DR12	塩ビ	2600	カーテンレール ホワイトボード 流し、収納、木製BB/UC
			ハ	-5	F1		W7,WS2,WG2	C4			
		玄関	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	下足箱（60人分）
			ハ	-5	F1		WS2,WG2	C4			
		多世代間 交流スペース1	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり（W2900×H2600）	DR12	塩ビ	2600	木製BB/UC マグネット石膏ボード
			ハ	-5	F1		W7,W8,WG2	C4			
		授乳室	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり（W2650×H2400）	クロス		2400	カーテンレール ホワイトボード マグネット石膏ボード
			ハ	-5	F1		W8,WG2	C5			
		防災倉庫2	d	±0	防塵塗装		素地	素地	-	直天	中量アングル棚
			ハ	-5	F1		W2	C1			
		倉庫3-1	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	GB-D9.5 準不燃	塩ビ	2600	中量アングル棚 木製BB/UC
			ハ	-5	F1		W7,W8,WG2,WS2	C3			
		廊下3	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり（W5100×H2600）	DR12	塩ビ	2600	掲示板、モニター マグネット石膏ボード
			ハ	-5	F1		W2,W8,WG2,WS2	C4			
		風除室2	b	±0	ビニル床シート	SUS 60	外壁塗装 マグネットクロスあり（計W4500×H2600）	アルミカットパネル		2600	傘立て（置き式）
			ハ	-160	F10		W2,WG2	C3			

内 部 仕 上 表

区分	施設	室 名	内装制限	床高	床	幅 木	壁	天 井	回り縁	天井高	備 考
4F	ユースサポートふじさわ（若年者しごと応援塾）	事務室	a	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	流し 木製BB/UC
			イ	-100	F4		W7,WG2,WS2	C5			可動式ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ(W1800)
		居場所スペース セミナーブース	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス（移動間仕切り共）	DR12	塩ビ	2600	木製BB/UC 移動間仕切り
			ハ	-5,-100	F1（居場所ｽﾍﾟｰｽ）、F4（ｾﾐﾅｰﾌﾞｰｽ）		W7,W8,WS2	C4			
		藤沢市技能職 団体連絡協議会	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	木製BB/UC 可動式ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ(W1800)
			ハ	-5	F1		W7,W8,WG2,WS2	C4			
		501会議室	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	木製BB/UC 可動式ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ(W1800)
			ハ	-5	F1		W7,W8,WS4	C4			
		多目的室3	c	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	固定式ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ(W1800) 木製BB/UC
			ハ	-5	F1		W7,W8,WS4	C4			
		調理室	c	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	ｽｸﾘｰﾝﾎﾞｯｸｽ,ｷｯﾁﾝ,木製BB/UC 鏡（天井斜付）、食器棚
			ハ	-5	F1		W7,W8,WS3,WS4	C4			可動式ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ(W1800)
		廊下4	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり(計W5250×H2600)	DR12	塩ビ	2600	掲示板、モニター マグネット石膏ボードW1800
			ハ	-5	F1		W7,W8,WG2,WS2,WS3,WS4	C4			SUS見切
		多世代間交流 スペース2	b	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	DR12	ｱﾙﾐ	2600	木製BB/UC SUS見切
			ハ	-5	F1		W7,W8,WS3	C4			
		機械室3	d	±0	防塵塗装	床同材 60	素地	素地		直天	
			ハ	-5	F1		GWB1	C6			
		倉庫4-1 倉庫4-2	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	GB-D9.5 準不燃	塩ビ	2600	中量アングル棚
			ハ	-5	F1		W8,WG2,WS1	C3			
		湘南地域連合 湘南地域労働福祉協議会 指定管理者事務室	c	±0	タイルカーペット	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2600	木製BB/UC
			ハ	-5	F1		W7,W8,WS2	C4			
		ロフト	b	±0	フローリングt15	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり（W4950×H2600）	DR12	塩ビ	2600	ネット遊具柵 マグネット石膏ボードW1800
			ハ	-60	L-50		W7,WS1	C4			
5F	レストラン	厨房	a	+200	合成高分子系塗料	床材立上 300	FK6+化粧ケイカル板t6,SUSパネル	FK6+NAD	塩ビ	2400	厨房機器一式 グリーストラップ
			イ	±0	F10		W7,WG2,WS2	C4			排水溝
		レストラン	b	+200	フローリングt15（直貼用）	W/UC 60	クロス,石目調塗料（ジョリパッド）	シナダイライトt6.0 OSC 準不燃	木製	2400	木製BB/UC 間接照明ボックス
			ハ	+140	F2		W7,W8,WS2	C4			
		厨房事務室 ・休憩スペース	a	+200	ビニル床シート	W/UC 60	クロス,石目調塗料（ジョリパッド） マグネットクロスあり（W3400×H2400）	クロス		2400	マグネット石膏ボード
			イ	+160	F1		W7,WG2,WS2	C5			
		WC5ホール	b	+200	ビニル床シート	ビニル巾木 60	クロス	DR12	塩ビ	2400	
			ハ	+140	F1		WG2,WS2	C4			
		EVホール5	b	+200	フローリングt15（直貼用）	ビニル巾木 60	クロス マグネットクロスあり（W2000×H2400）	DR12	ｱﾙﾐ	2400	
			ハ	+140	F2		W7,W8,WG2	C4			
共通		階段1	a	±0	タイル（B1F～2F） ビニル床シート（3F～5F）	SUS（B1F～2F）60 ﾋﾞﾆﾙ巾木(3F～5F)	超低VOC多機能健康健配慮形水性塗料 水性塗料	DR12(最上階)	塩ビ		段鼻ノンスリップ 点字表示、誘導表示
			イ	-60,-10	F1		W3,W7,W8,W11	C5(最上階)			両側手摺、段裏は壁と同仕上
		階段2	a	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	超低VOC多機能健康健配慮形水性塗料 水性塗料	DR12(最上階)	塩ビ		段鼻ノンスリップ 点字表示、誘導表示
			イ	-10	F1		W3,W8,WG1	C5(最上階)			両側手摺、段裏は壁と同仕上
		EV1・2			塗膜防水		素地	素地	-	直天	
					F1		W4	C1			
		HWC1～5	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	化粧ケイカル板t6	DR12	塩ビ	2400	跳ね上げ手摺、L型手摺 ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾙﾀﾞｰ、折もたれ、
			ハ	-10	F1		W65	C4			化粧鏡、荷物ﾌｯｸ、ﾍﾞﾋﾞｰｷｰﾌﾟ
		MWC1～5 ・WWC1～4	d	±0	ビニル床シート	ビニル巾木 60	化粧ケイカル板t6	DR12	塩ビ	2600	照明器具設置（採光無窓のみ） 汚垂石(ﾊｲﾄﾞﾛｾﾗﾌﾛｱ)、化粧鏡
			ハ	-10	F1		W65	C4			小便器手摺、洗面ｶｳﾝﾀｰ トイレブース、L型手摺
											ベビーキープ 洗面カウンター手摺
											荷物フック 照明器具設置（採光無窓のみ）
		PS・EPS	d	±0	防塵塗装		素地	素地		直天	
			ハ	-10	F1		W4	C1			

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

＜特記事項＞
・内部仕上表床高さ欄の内、上段は床仕上げ面高さ（FL）を表し、無記入はZ±0とする。又下段はスラブ下がり面を表す。
・地階及びピットの床仕上レベルは、平面図参照のこと
・全ての居室をVOC測定室とする。（同じ室が複数ある場合は１箇室とする）

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

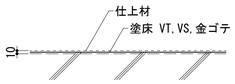
内部仕上表（３）

設計番号	図面番号
	A — 034
縮尺 1/ A1:- A3:-	日付 2019・02・28
	No

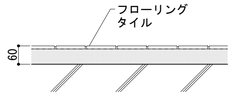
改訂：2012.07.20

床下地リスト

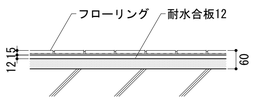
F1 C+T 1/10



F2 C+T+直貼ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、ﾀｲﾙ 1/10

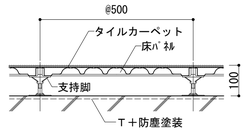


F3 C+T+耐水合板 1/10



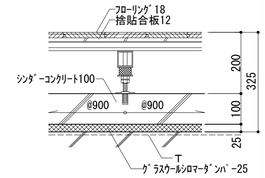
F4 C+T+OAフロア 1/10

ナカ工業株式会社
オフィス用二重床システム
IBフロア AZ3000-DP
積載荷重300kg

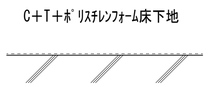


F7 C+T+鋼製ニ重床(1) 1/10

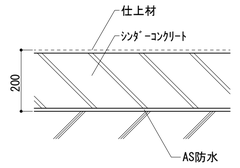
積載荷重1500kg
L-50



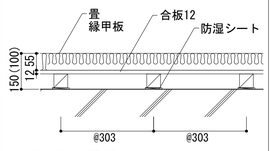
F9 C+T+ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ床下地 1/10



F10 C+T+AS防水+ｼﾝﾀﾞｰｺﾝｸﾘｰﾄ 1/10



F11 C+T+木軸+合板 1/10



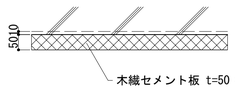
※合板は防腐処理をする

天井リスト

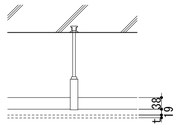
C1 C打放し 1/10



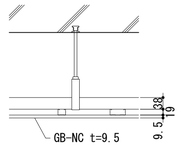
C2 C+木繊セメント板 t=50 1/10



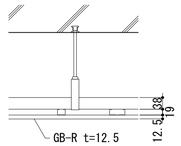
C3 SF 1/10



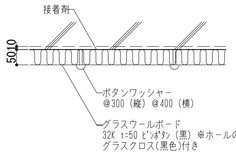
C4 SF+GB-NC t=9.5 1/10



C5 SF+GB-R t=12.5 1/10

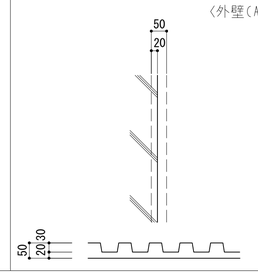


C6 GWB貼り 1/10

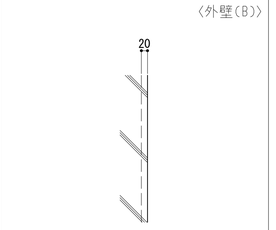


壁下地リスト

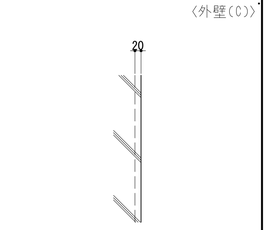
WA-1 ｺﾘﾌﾞ型枠打放し（A種） 1/10



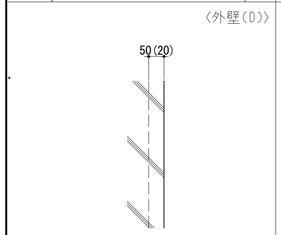
WA-2 C杉板型枠打放し（A種） 1/10



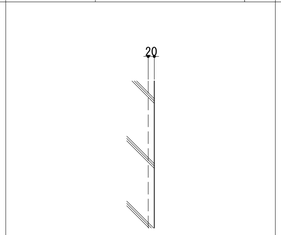
WA-3 C塗装合板打放し（A種） 1/10



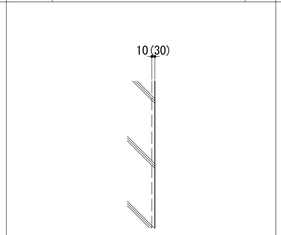
WA-4 C打放し（B種）下地補修 1/10



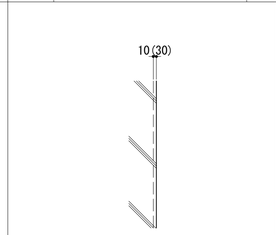
WA-5, -6 C打放し（C種）素地 1/10



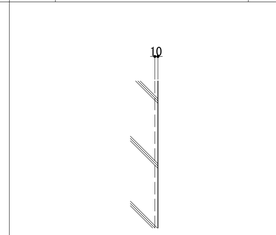
W-1 C本実型枠打放し（A種） 1/10



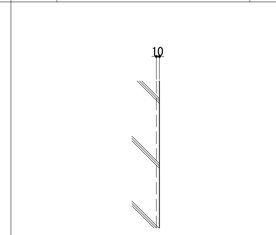
W-2 C塗装合板打放し（A種） 1/10



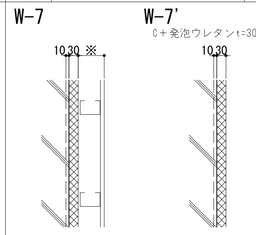
W-3 C打放し（B種）下地補修 1/10



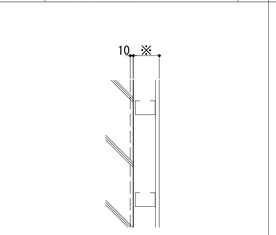
W-4 C打放し（C種）補修 1/10



W-7 C+発泡ウレタンt=30 +SF+GB-R t=12.5+GB-R t=12.5 1/10

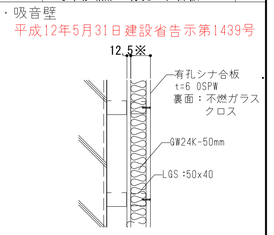


W-8 C+SF+GB-R t=12.5 +GB-R t=12.5 1/10



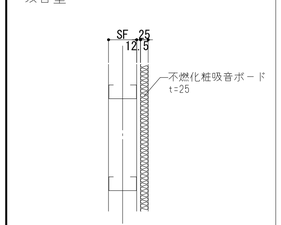
W-9 C+SF+GB-R t=12.5+GW24K-t=50 +寒冷紗(黒)+有孔シナ合板 t＝9 1/10

・吸音壁
平成12年5月31日建設省告示第1439号



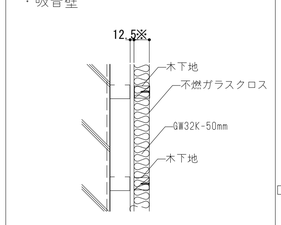
W-9A SF+GB-R t=12.5 +不燃化粧吸音ボード t＝25 1/10

・吸音壁



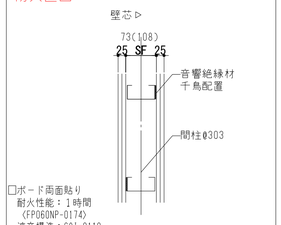
W-10 C+SF+GB-R t=12.5+GW24K-t=50 +不燃ガラスクロス+アルミルーバー 1/10

・吸音壁



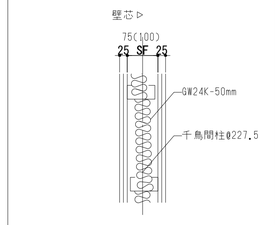
WS1 SF+GB-F t=12.5 +GB-F t=12.5 1/10

防火区画



□ボード両面貼り
耐火性能：1時間
(FP060NP-0174)
遮音構造：SOI-0110
遮音性能：TLD-44
吉野石膏 S12-P 耐火遮音壁同等仕様

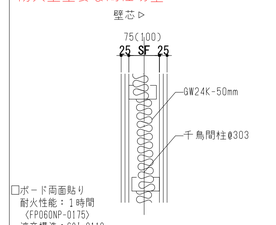
WS2 SF+GB-R t=12.5 +GB-R t=12.5 1/10



□ボード両面貼り
遮音性能：TLD-50

WS3 SF+GB-F t=12.5 +GB-F t=12.5 1/10

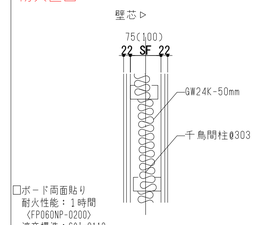
防火上主要な間仕切壁



□ボード両面貼り
耐火性能：1時間
(FP060NP-0175)
遮音構造：SOI-0110
遮音性能：TLD-50
吉野石膏 S12・W1 耐火遮音壁同等仕様

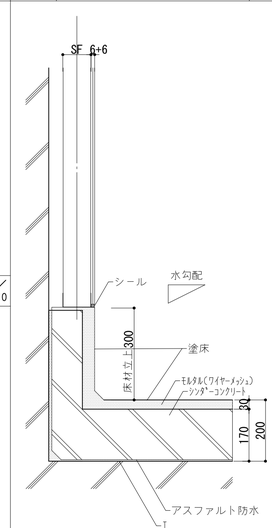
WS4 SF+GB-F t=12.5 +GB-RH t=9.5 1/10

防火区画

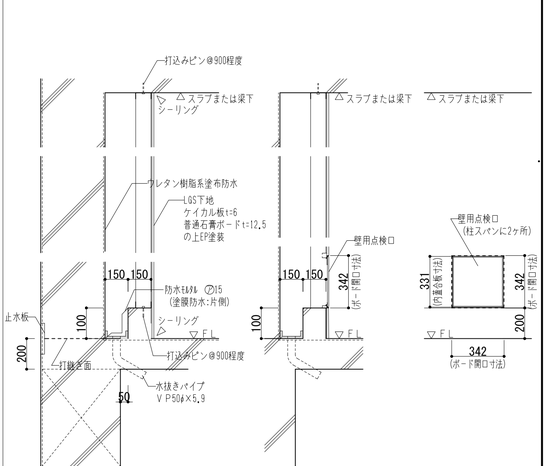


□ボード両面貼り
耐火性能：1時間
(FP060NP-0200)
遮音構造：SOI-0112
遮音性能：TLD-52

WP1 C＋仕上材（防水立上り：H=500） 1/10



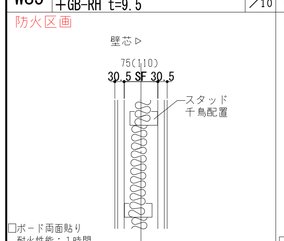
W-11 二重壁 1/20



※壁用点検口：フクビ化学工業株式会社
壁用枠レス点検口枠M12 同等品

WS5 SF+GB-F t=21 +GB-RH t=9.5 1/10

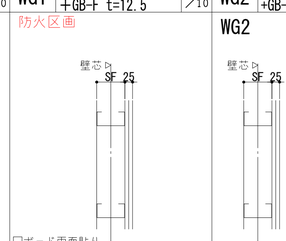
防火区画



□ボード両面貼り
耐火性能：1時間
(FP060NP-0198)
遮音構造：SOI-0112

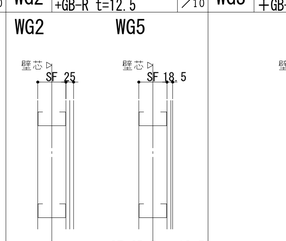
WG1 SF+GB-F t=12.5 +GB-F t=12.5 1/10

防火区画

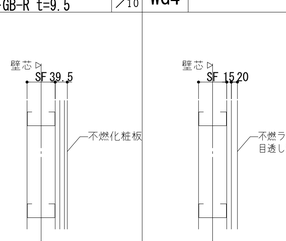


□ボード両面貼り
耐火性能：1時間
(FP060NP-0289)

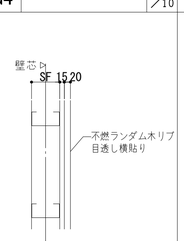
WG2 WG5 SF+GB-R t=12.5 +ｹｲｶﾙ板 t=6 1/10



WG3 SF+GB-R t=15×2 +GB-R t=9.5 1/10

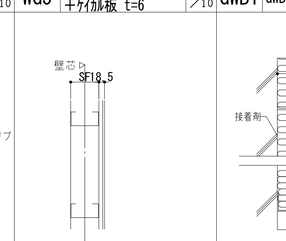


WG4 SF+構造用合板t=15 1/10

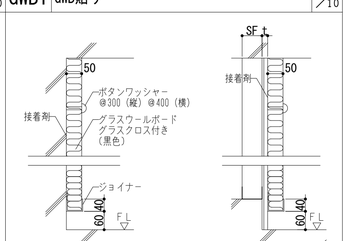


□不燃ランダム木リブ
サカイリブ同等品
ﾀﾞｲﾗｲﾄ下地 ｳｫｰﾙﾅｯﾄ練付

WG5 SF+GB-R t=12.5 +ｹｲｶﾙ板 t=6 1/10



GWB1 GWB貼り 1/10



□ジョイナー：塩化ビニル

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

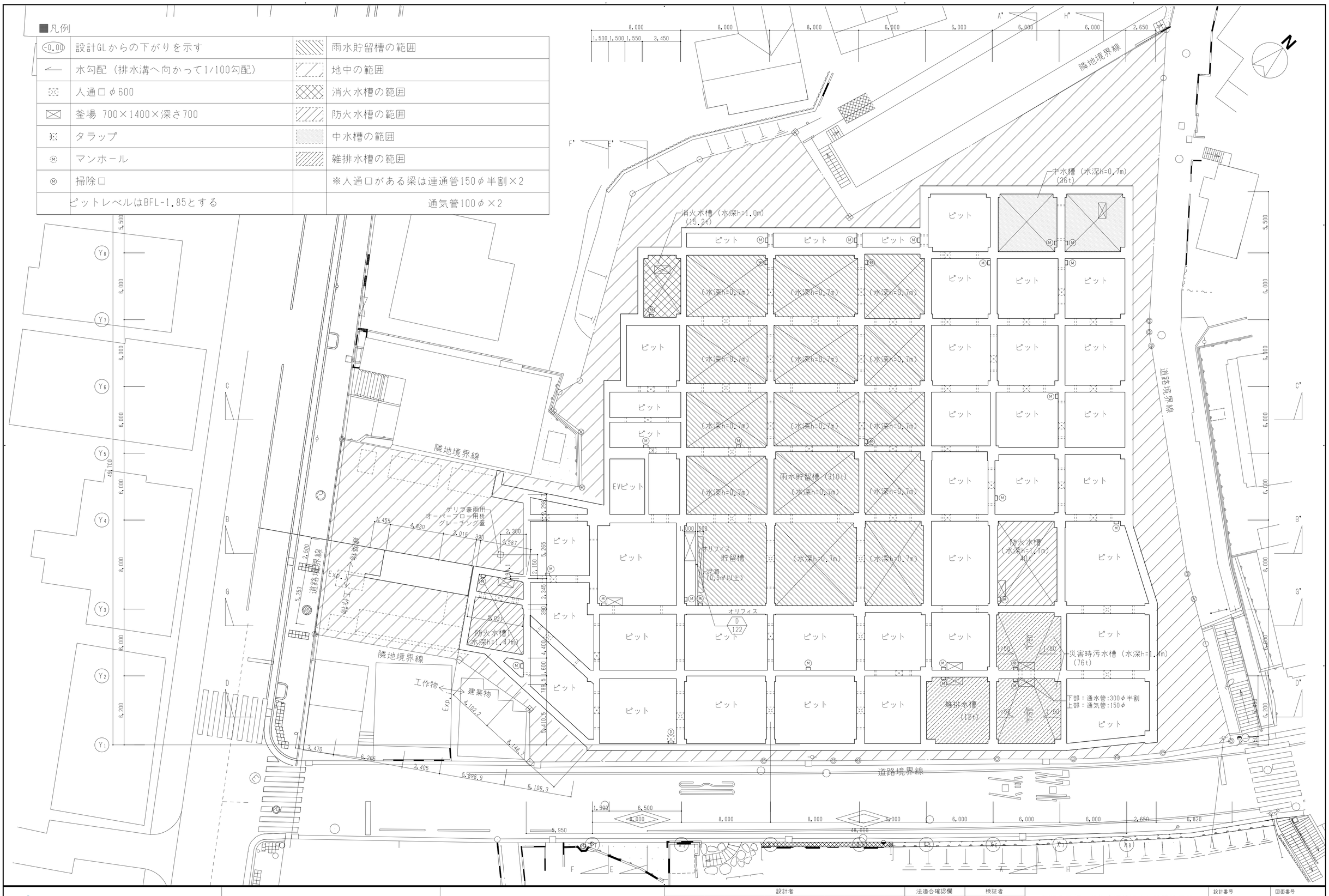
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

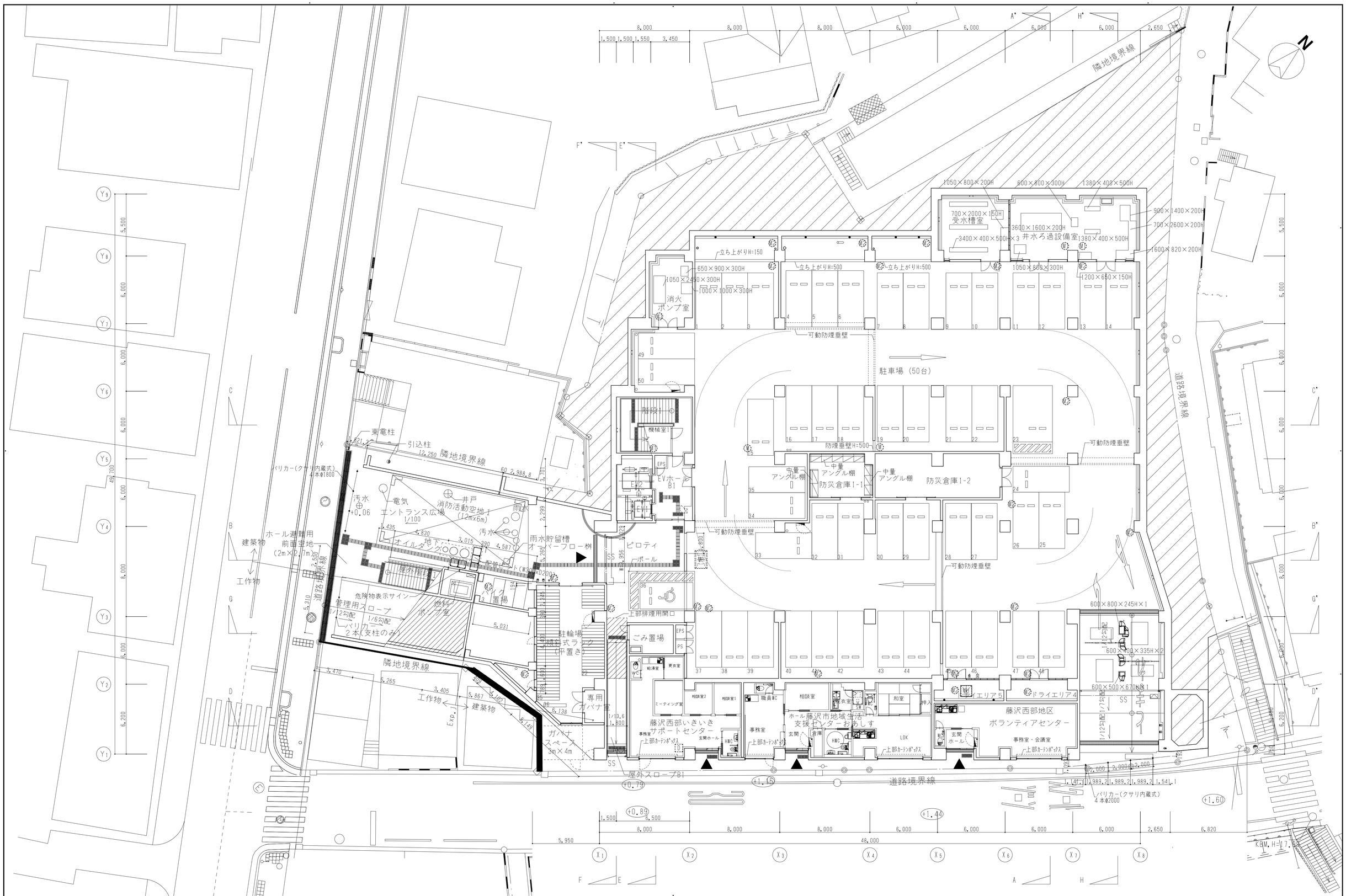
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号 A — 035
床・壁・天井下地リスト（1）	縮尺 1/A1:- A3:-	日付 2019・02・28
		No

■凡例

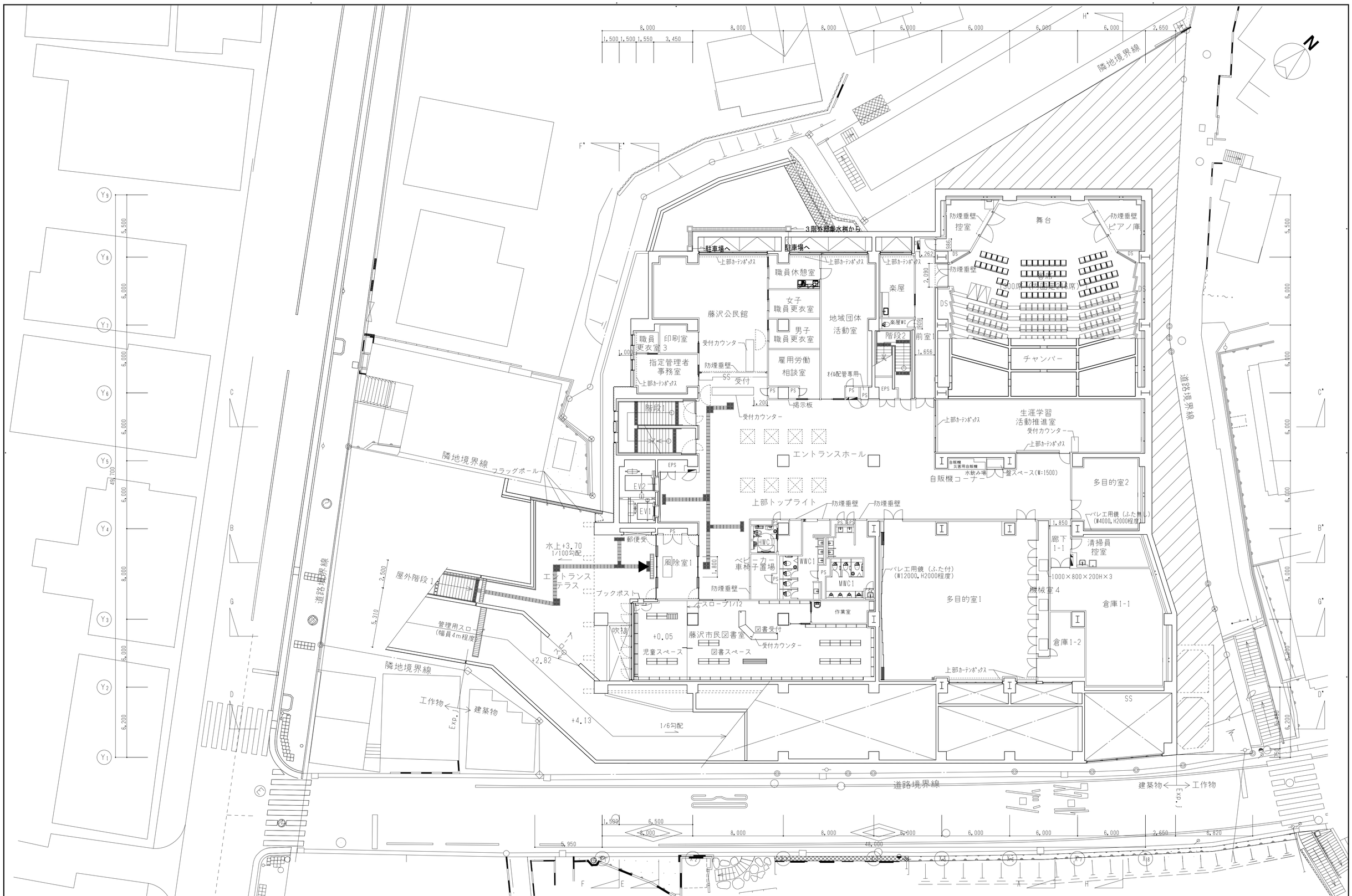
-0.00	設計GLからの下がりを示す		雨水貯留槽の範囲
	水勾配（排水溝へ向かって1/100勾配）		地中の範囲
	人通口φ600		消火水槽の範囲
	釜場 700×1400×深さ700		防火水槽の範囲
	タラップ		中水槽の範囲
Ⓜ	マンホール		雑排水槽の範囲
Ⓜ	掃除口		※人通口がある梁は連通管150φ半割×2
	ピットレベルはBFL-1.85とする		通気管100φ×2



| | | |


隣地境界線
道路境界線
駐車場（50台）
消火ポンプ室
受水槽室
井水ろ過設備室
ドライエリア5
ドライエリア4
藤沢西部地区ボランティアセンター
藤沢西部いきいきサポートセンター
ホール藤沢市地域生活支援センターおおしす
防災倉庫1-1
防災倉庫1-2
中量アングル棚
ピロティ
ゴミ置場
駐輪場
専用ガバナ室
ガバナスペース 3m×4m
機械室
階段1
EVホール B1
EV1
EV2
EPS
PS
東電柱
引込柱
電気エントランス広場
井戸
消防活動空地1（12m×6m）
雨水貯留槽
オーバーフロー桝
オイルタンク
汚水
雨水
ホール通路用前面空地（2m×27m）
工作物
建築物
危険物表示サイン
管理用スロープ
バリカー（クサリ内蔵式）2本（支柱のみ）
屋外スロープB1
上部排煙用開口
可動防煙垂壁
防煙垂壁H=500
立ち上がりH=150
立ち上がりH=500
1050×800×200H
600×800×300H
1380×400×500H
700×2000×150H
3600×1600×200H
3400×400×500H×3
900×1400×200H
700×2600×200H
1600×820×200H
650×900×300H
1050×2450×300H
1000×1000×300H
1050×600×300H
1200×650×150H
600×800×245H×1
600×600×335H×2
600×500×670H×1
バリカー（クサリ内蔵式）4本φ2000
KBM, H=17.
N

| | | |



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

1階平面図

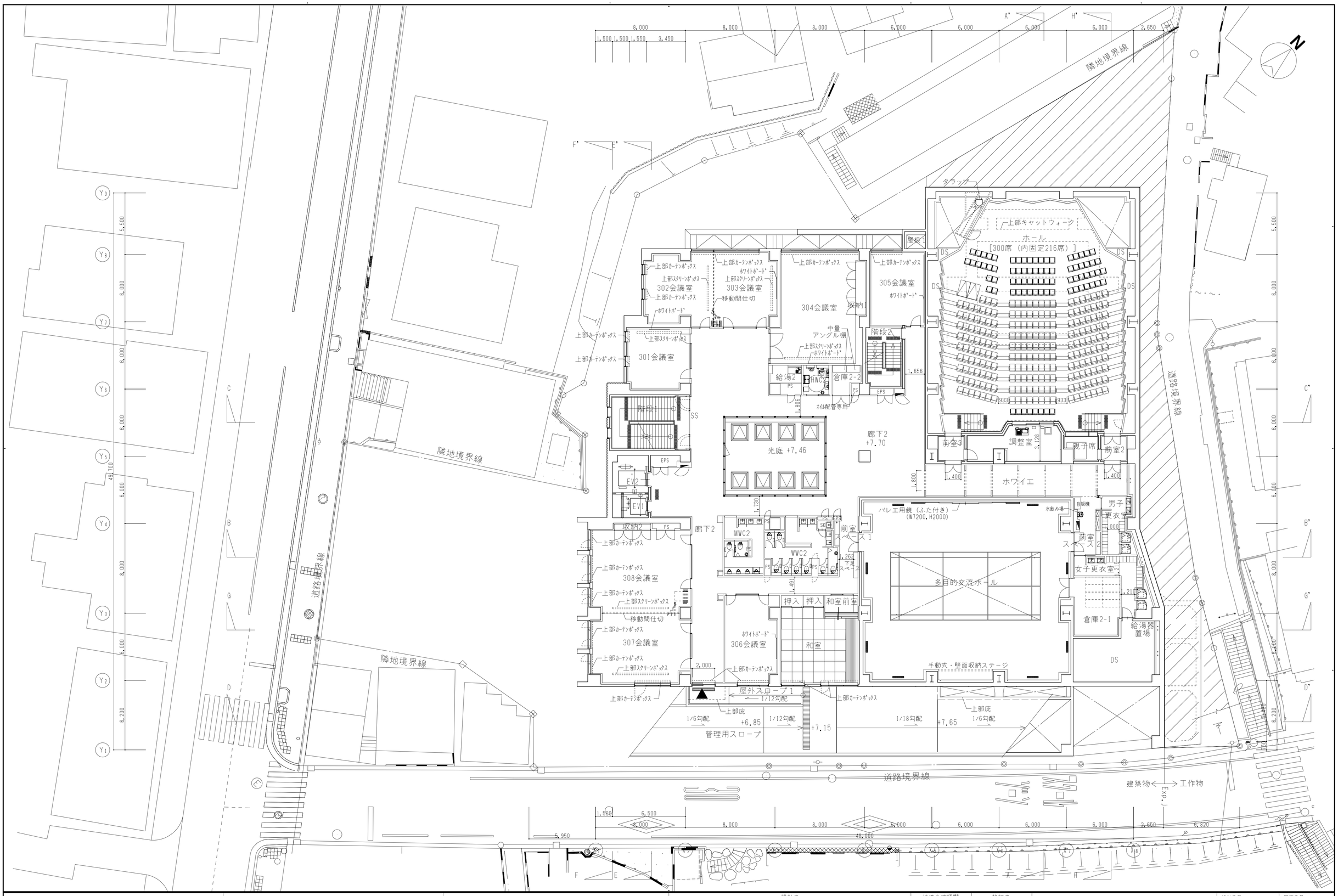
設計番号

図面番号 A — 038

縮尺 1/A1:150 A3:300

日付 2019・02・28

No



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

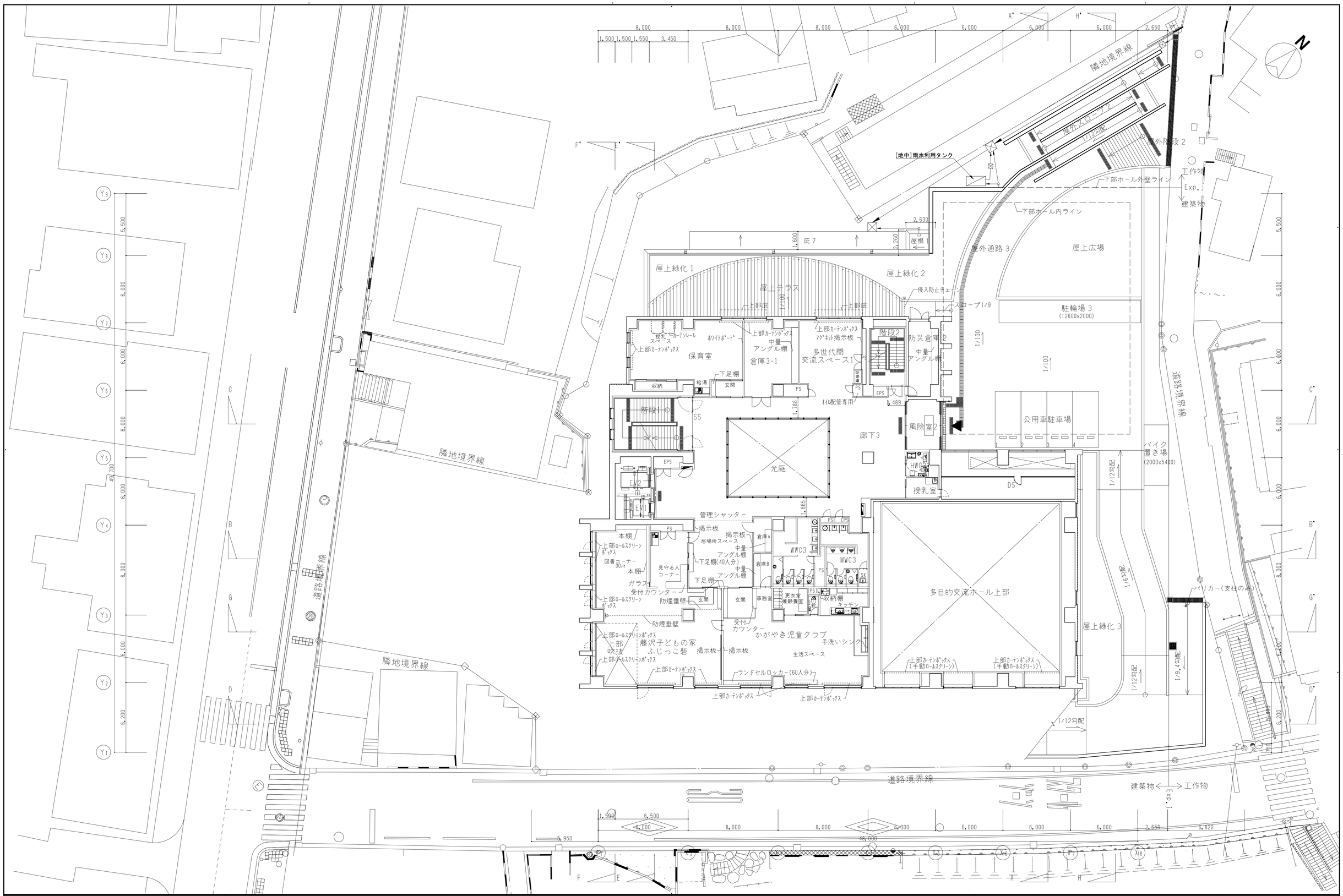
鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号		第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢		押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

2階平面図

設計番号	図面番号
	A — 039
縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28
No	



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

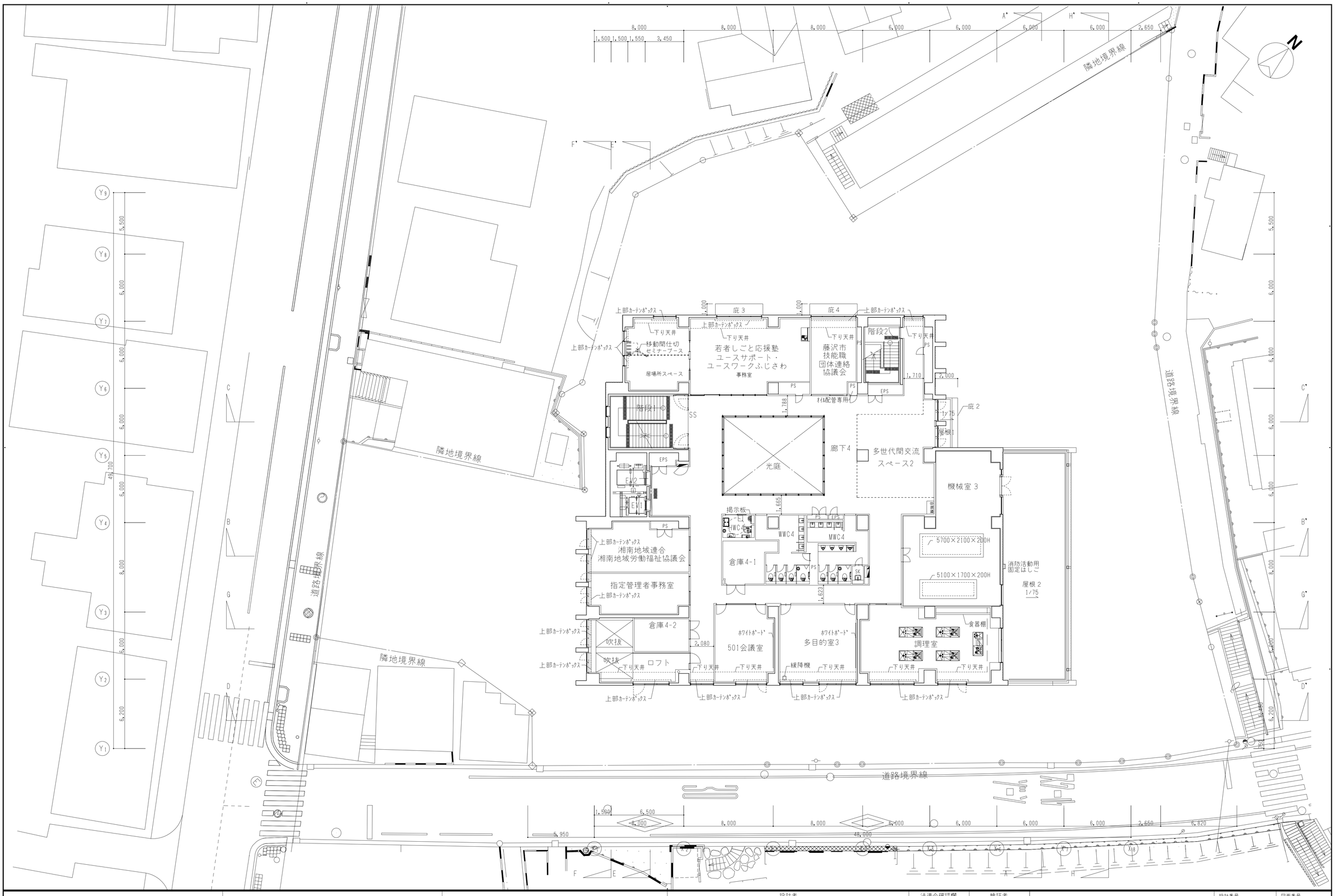
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

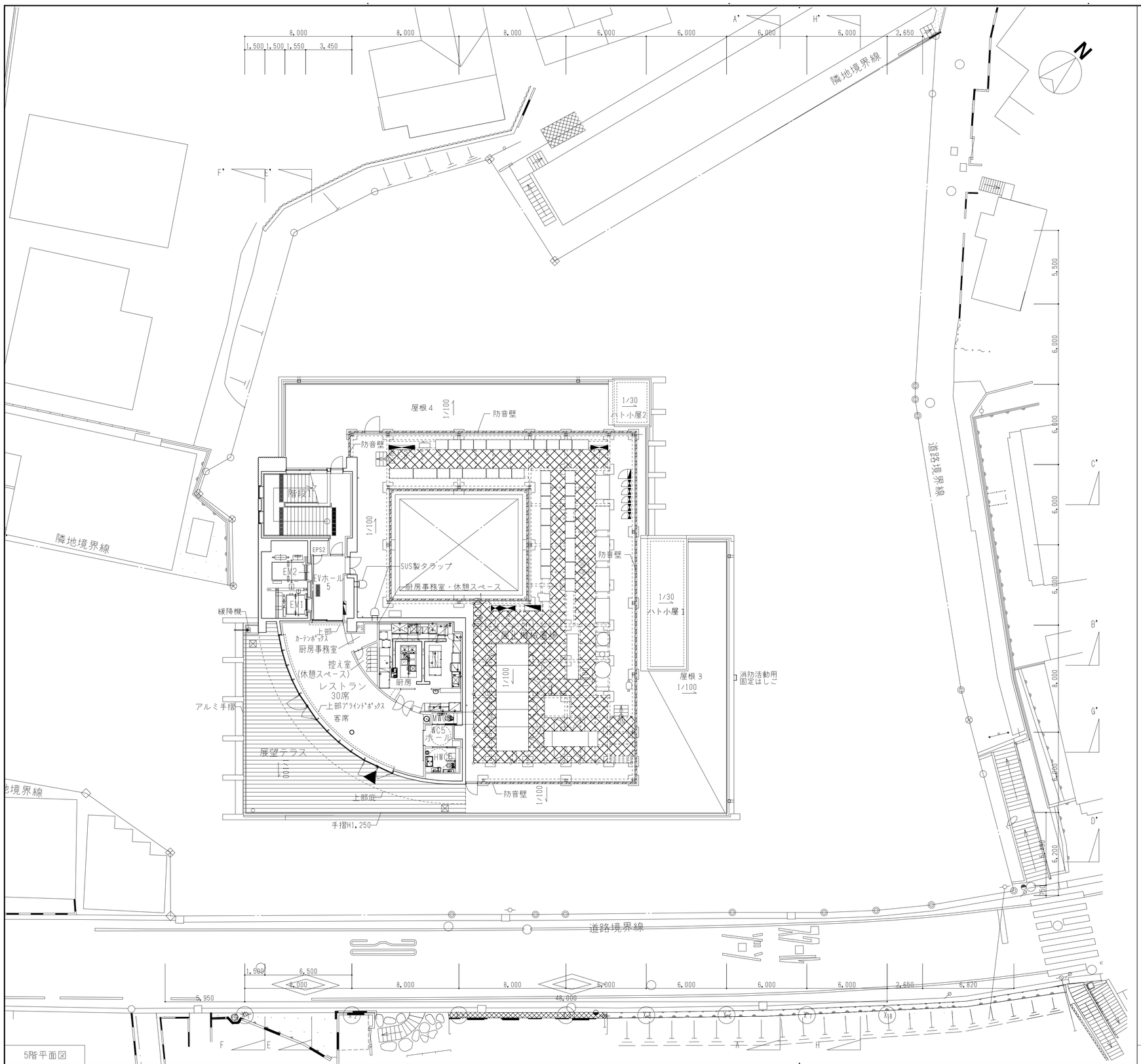
3階平面図

設計番号	図面番号
	A — 040

縮尺	日付	No
1/ A1:150 A3:300	2019・02・28	


隣地境界線
道路境界線
庇 3
庇 4
庇 2
若者しごと応援塾
ユースサポート・
ユースワークふじさわ
事務室
藤沢市
技能職
団体連絡
協議会
階段2
階段1
居場所スペース
移動間仕切
セミナーブース
光庭
廊下4
多世代間交流
スペース2
機械室 3
5700×2100×200H
5100×1700×200H
消防活動用
固定はしご
屋根 2
1/75
屋根1
湘南地域連合
湘南地域労働福祉協議会
指定管理者事務室
倉庫4-1
倉庫4-2
吹抜
ロフト
501会議室
多目的室3
調理室
食器棚
掲示板
WWC4
EV2
EV1
上部カーテンボックス
下り天井
PS
EPS
SS
オイル配管専用
緩降機
ホワイトボード
隣地境界線
道路境界線

| | | |



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

5階・屋上平面図

設計番号	図面番号
	A — 042

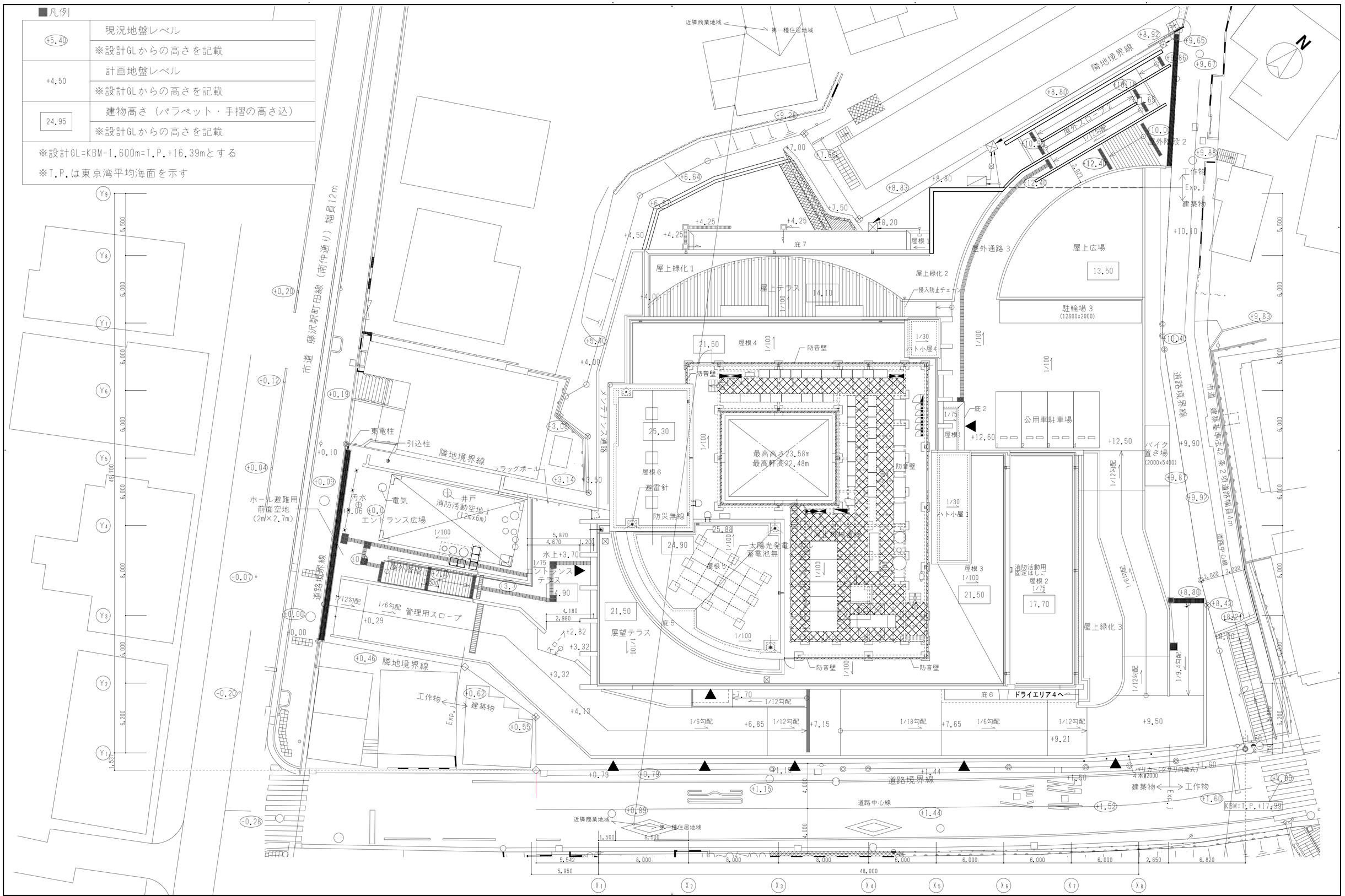
縮尺	日付	No
1/ A1:150 A3:300	2019・02・28	

■凡例

+5.40	現況地盤レベル
	※設計GLからの高さを記載
+4.50	計画地盤レベル
	※設計GLからの高さを記載
24.95	建物高さ（パラペット・手摺の高さ込）
	※設計GLからの高さを記載

※設計GL=KBM-1.600m=T.P.+16.39mとする

※T.P.は東京湾平均海面を示す



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

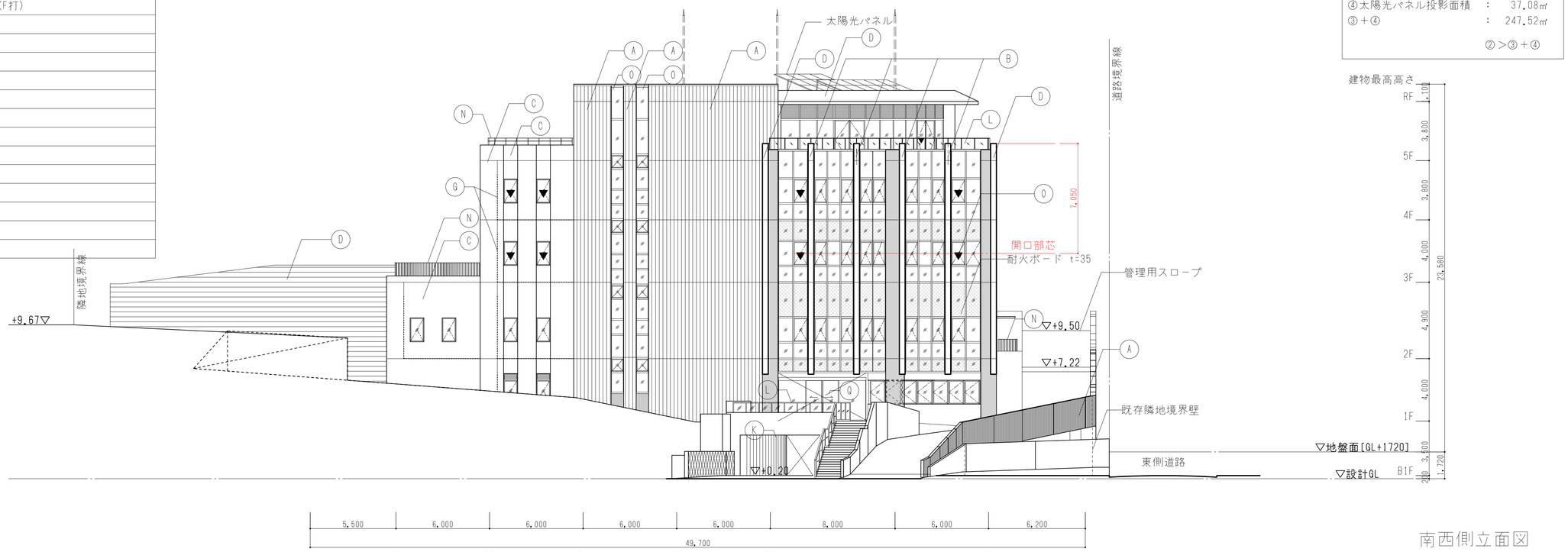
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号
			A — 043
屋根伏図	縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28	No

A	リブ型枠コンクリート打放シの上弾性吹付塗装
B	杉板型枠コンクリート打放シの上ふっ素樹脂クリア
C	コンクリート打放シの上弾性吹付塗装
D	化粧型枠コンクリート打放シの上ふっ素樹脂クリア
E	ALCパネル+塗装（ALCパネル内側には軽量コンクリート系剛体多孔質吸音材t50貼り）
F	誘発目地（F誘）　打継目地（F打）
G	耐震スリット
H	縦樋
I	アルミガラリ
J	自然換気用スイング窓
K	ヒノキ　OSCL
L	ガラス手摺
N	スチール溶融亜鉛メッキ手摺
O	アルミ断熱サッシ
P	スチールドア
Q	ステンレス自動ドア
R	タラップ
S	アルミパネル
▼	非常用進入口

階段室等＋太陽光パネルの面積が建築面積の1/8以下のため、最高高さは太陽光パネルを算入しない高さとする。

①建築面積	：	2,492.72㎡
②建築面積×1/8	：	311.59㎡
③階段室等	：	210.44㎡
④太陽光パネル投影面積	：	37.08㎡
③＋④	：	247.52㎡
		②＞③＋④



南西側立面図



南東側立面図

南西側立面図

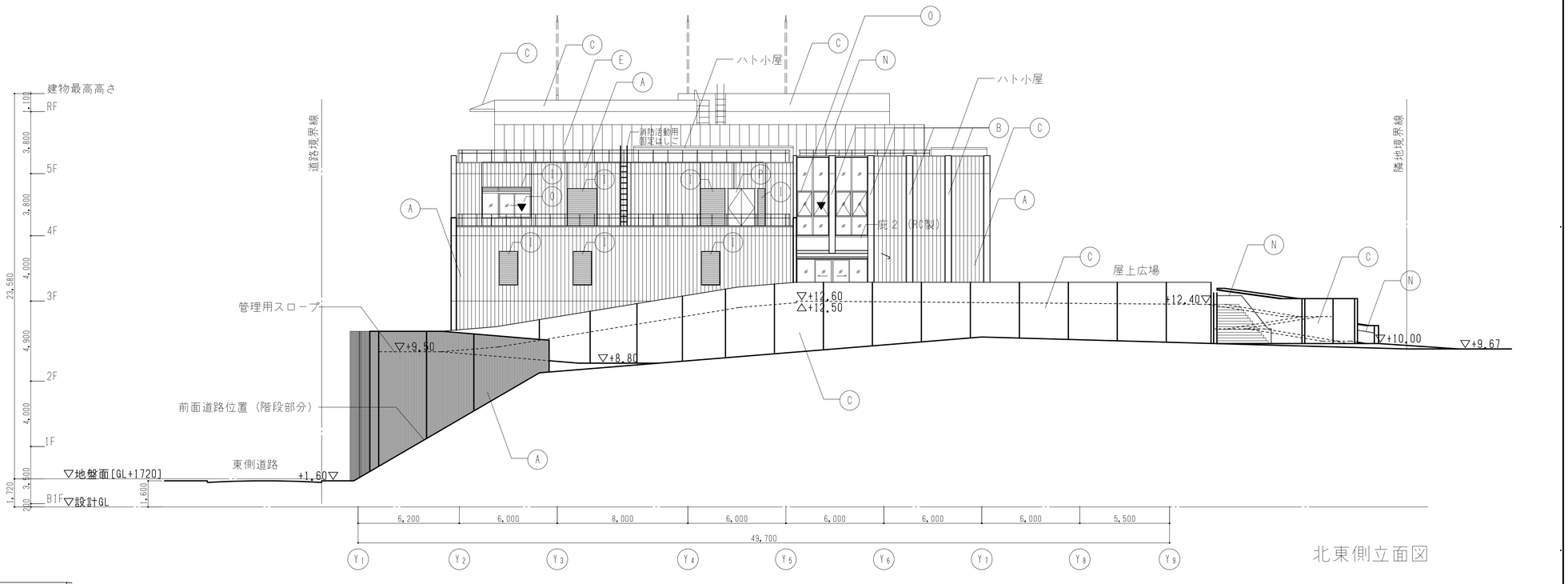
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

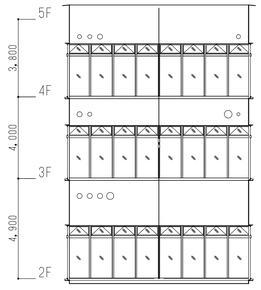
設計者		法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣　正邦	一級建築士 第359522号 松浦　暢	設備設計一級建築士 第2092号 押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 044
立面図（１）	縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28	No

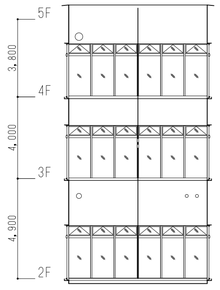
A	リブ型枠コンクリート打放シの上弾性吹付塗装
B	杉板型枠コンクリート打放シの上ふっ素樹脂クリア
C	コンクリート打放シの上弾性吹付塗装
D	化粧型枠コンクリート打放シの上ふっ素樹脂クリア
E	ALCパネル塗装（ALCパネル内側には軽量コンクリート系剛体多孔質吸音材t50貼り）
F	誘発目地（F誘）　打継目地（F打）
G	耐震スリット
H	縦樋
I	アルミガラリ
J	自然換気用スイング窓
K	ヒノキ　OSCL
L	ガラス手摺
N	スチール溶融亜鉛メッキ手摺
O	アルミ断熱サッシ
P	スチールドア
Q	ステンレス自動ドア
R	タラップ
S	アルミパネル
▼	非常用進入口



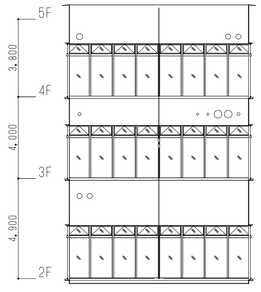
北東側立面図



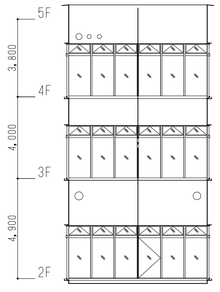
光庭北西側立面図



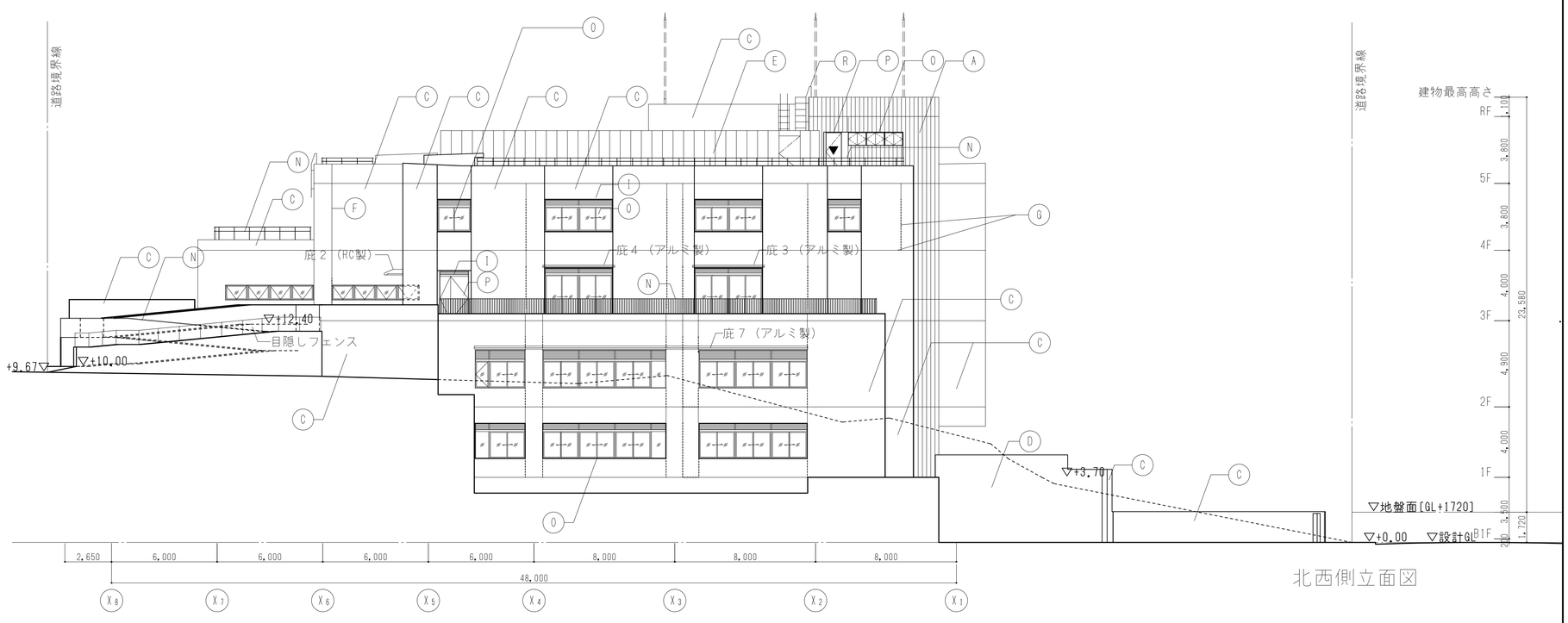
光庭北東側立面図



光庭南東側立面図



光庭南西側立面図



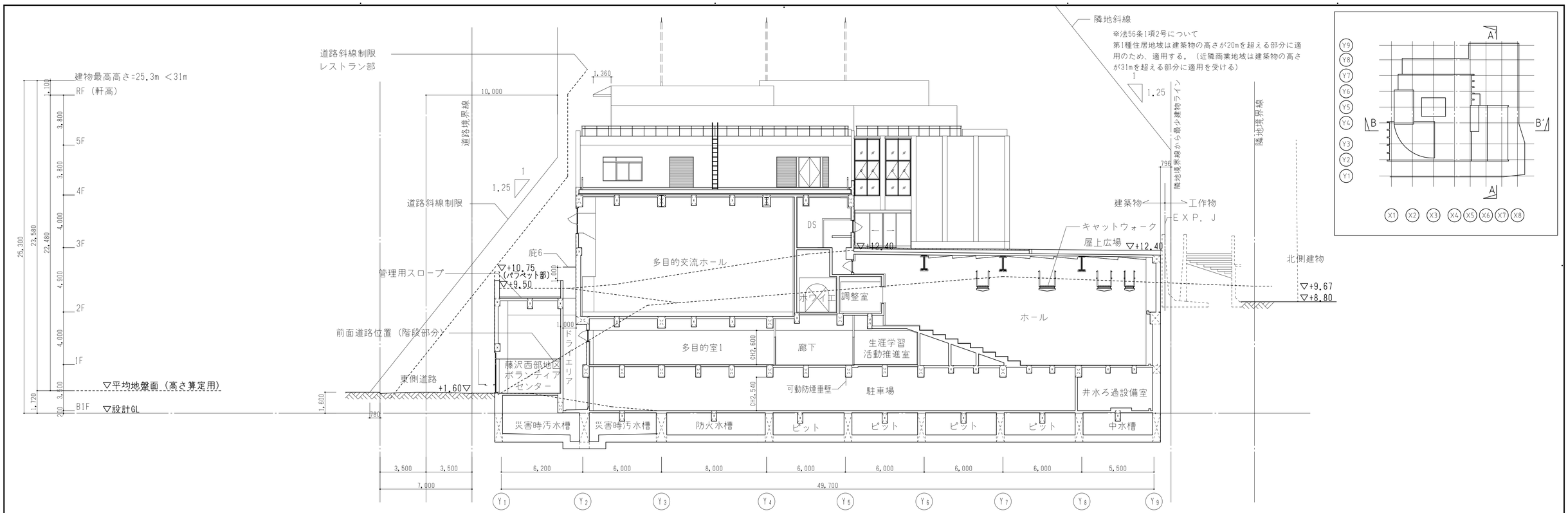
北西側立面図

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

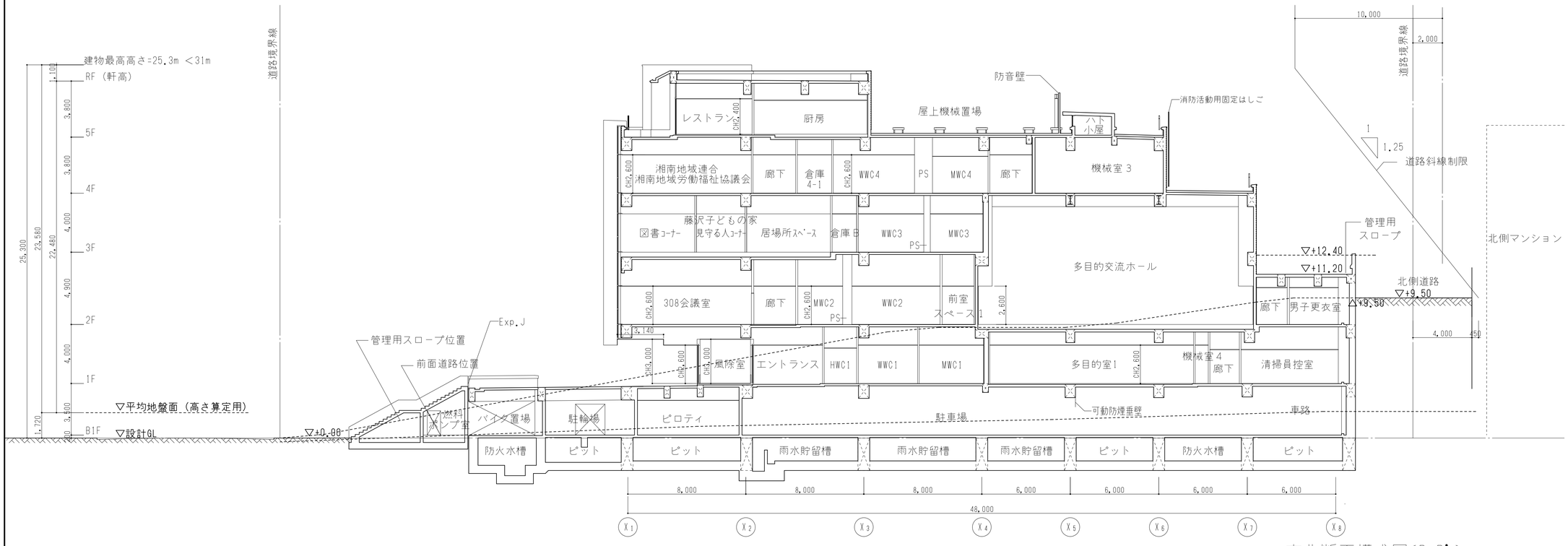
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号	A — 045
立面図（２）	縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28	No



東西断面構成図（A-A'）



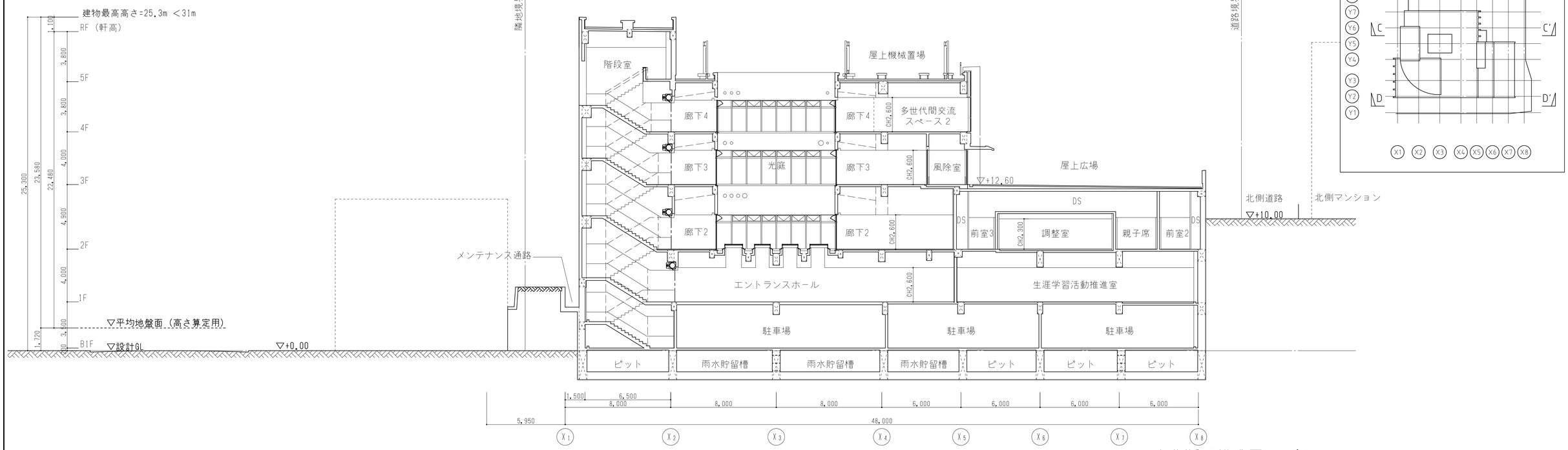
南北断面構成図（B-B'）

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

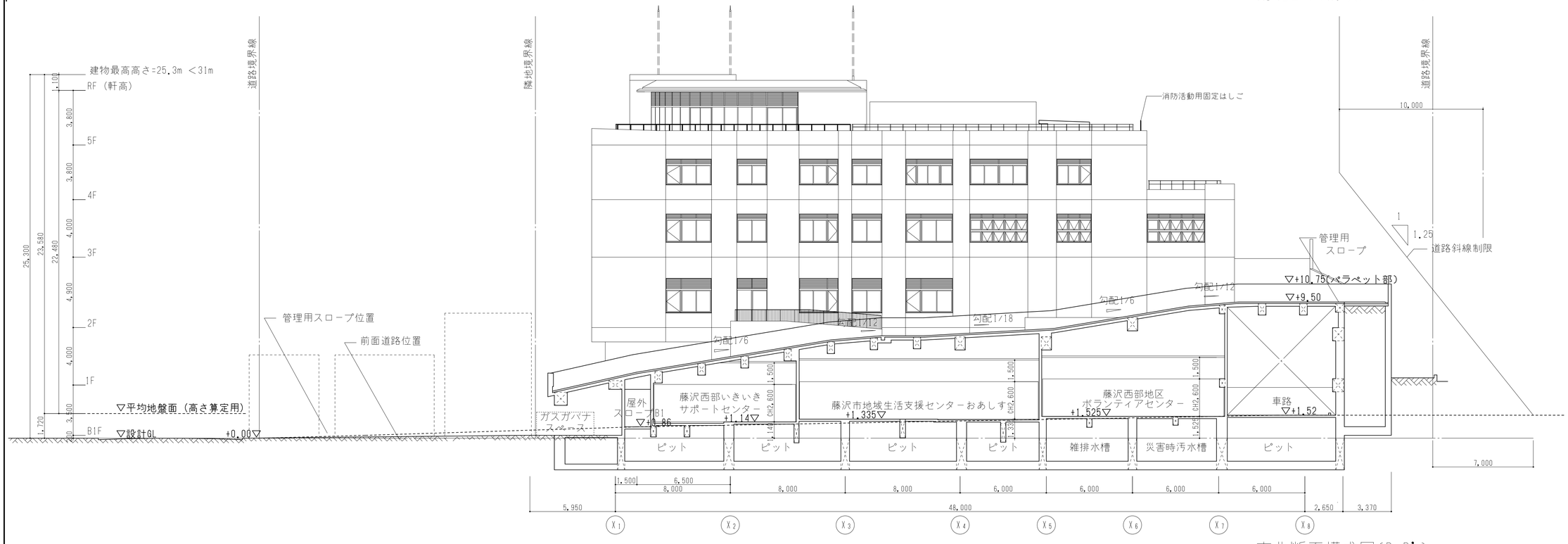
鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄		検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士		
第199758号		第359522号				第2092号		
永廣 正邦		松浦 暢				押久保 正則	xxxx	

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号	
		A — 046	
断面図（１）	縮尺 A1:1/150 A3:1/300	日付 2019・02・28	No

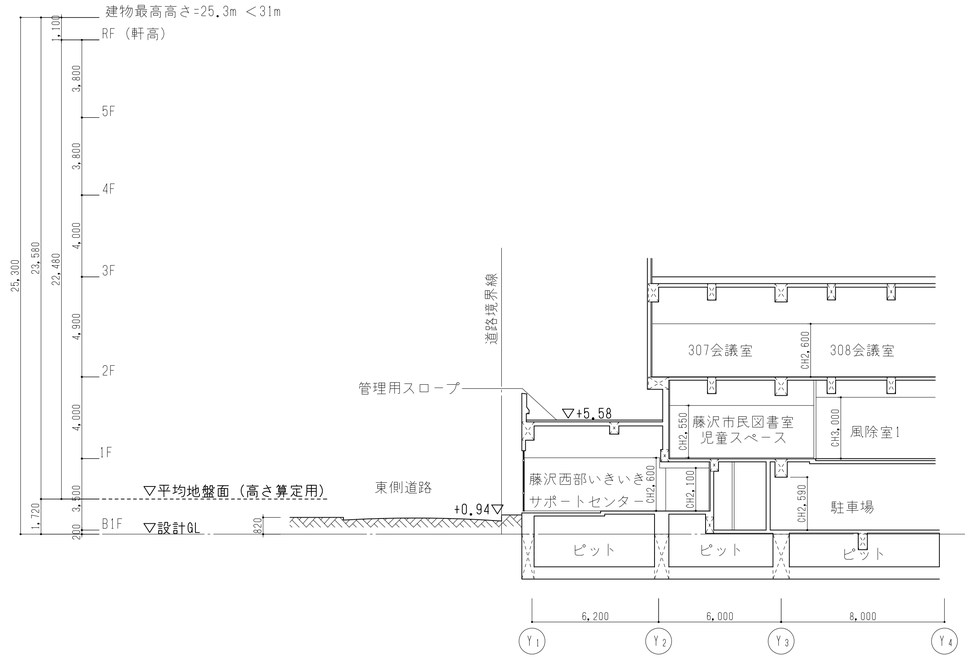


南北断面構成図(C-C')

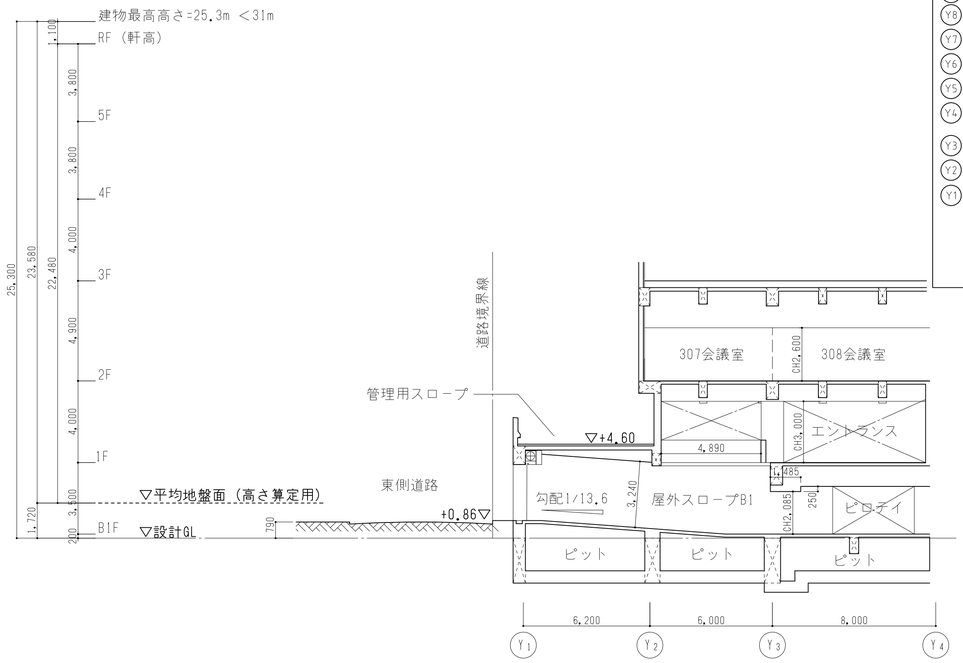


南北断面構成図(D-D')

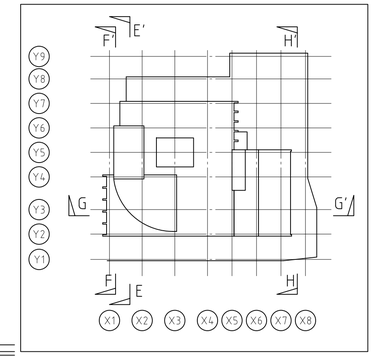
| | | |

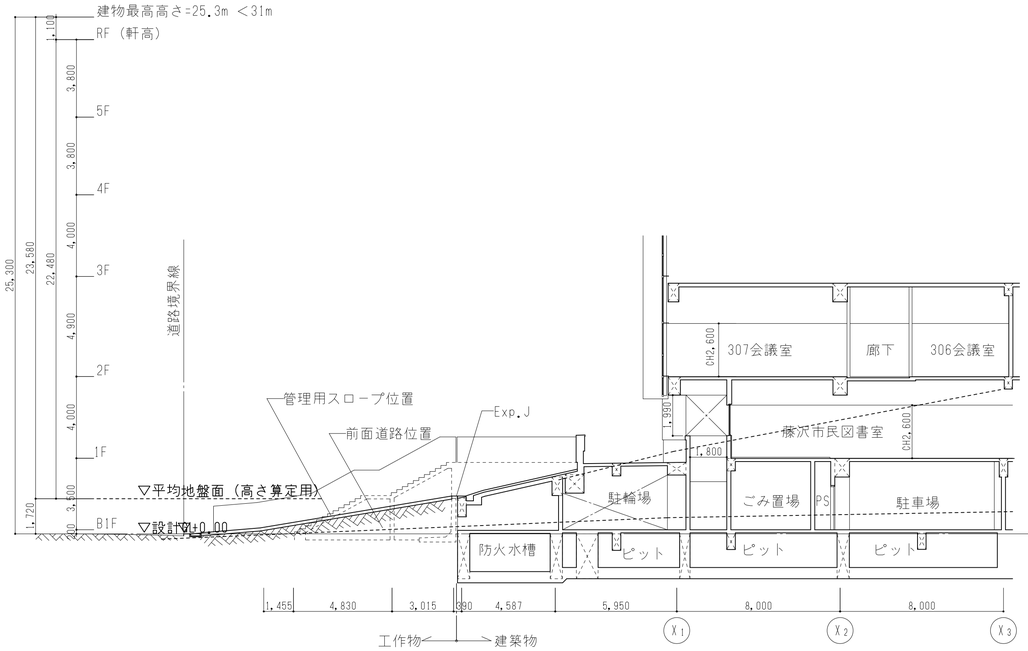


地域包括支援センター断面図(E-E')

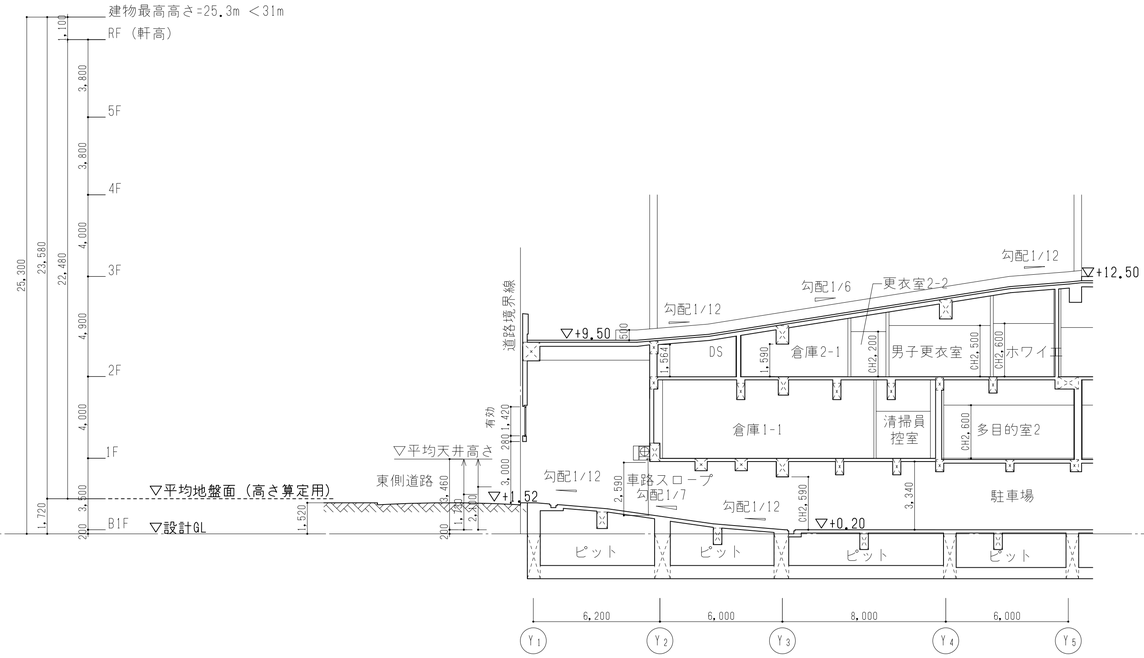


1階廊下断面図(F-F')





市民図書室断面図(G-G')



1階廊下断面図(H-H')

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

断面図(3)

設計番号	図面番号
	A — 048

縮尺	日付	No
1/A1:150 A3:300	2019・02・28	

▽5FL
▽4FL
▽3FL
▽2FL
▽1FL
▽B1L
△GL
▽ピットFL

3,800
4,000
4,900
4,000
3,500
200
2,200
21,500

屋根2
保護コンクリート t80
As防水
断熱材 t25
D 207
1,100

C6
梁型：
C 1 +フッ素樹脂クリア
GWB1
DS
SF+GB-F t=21+21
210
断熱材 t30
C6
109
3,790
21+21
67
109
600
1,510
2,100
W9+OSPW
遮音壁
コンクリート下地
不燃GW-B t50
D 208
1,200
830
620
920

インターロッキングブロック t80
から練りモルタル 1.2 t20
保護コンクリートt80
ワイヤーメッシュ 6Φ150×150
As防水
断熱材t25
水勾配
1/100
D 216
D 212

屋上広場
湿性多孔質人工土壌t150
透水フィルター
貯排水ボード t25
自着型防根シート
保護コンクリートt80
ワイヤーメッシュ 6Φ150×150
As防水

200
50以上
225
湿性多孔質人口土壌
水勾配
150
25
透水フィルター t0.8
貯排水ボード t25
（貯水2.2リットル/m2）
自着型耐根シート t1.0
ビバソイルシステム
（東邦レオ）同等品

A
Y9 Y8 Y7 Y6 Y5 Y4 Y3 Y2 Y1
X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X8

多目的交流ホール
2,300
2,600
断熱材t30
C6
アルミルーバー
1,030
1,045
5,280
1,200
700
940
160
400
2,600
C4
DR12
GWB1
ホワイエ
調整室
2,300
アルミルーバー焼付塗装
30x50+30x100ヘ@60
不燃化粧ファブリック
胴縁50x45（横@300）
GW32K t50
LGS
D 319
耐火被覆
ロックウール t45
コテ押エの上塗装
耐水合板t=15の上
GB(R)t=12.5+EP
木下地
構造用合板（準不燃）t15+OP
E X P. J
アスファルト防水立下げ
h300程度
120
▽+8.80
発砲ウレタン t30 吹付
RC立上げ100
止水板
8,038

フローリングt18
フロア換気口付き
F7
タイル
F1
タイルカーペット
F4
D 324
防振吊り
C4
DR12
C5
DR12
客席
フローリングt15
F11
不燃化粧板（杉柾目塗装品）
GB-R t9.5
GB-R t15×2
舞台
120

多目的室1
廊下
生涯学習活動
推進室
段床下スペース
（壁・天井）
：GW32K t25
GC額貼りﾋﾞﾝﾎﾞﾀﾝ留
フローリング t18
F2
タイル
F1
タイルカーペット
F1
245
桧集成材 柾目 無節t30 W150
ウレタンクリアマット塗装
F3
RC立上げ100
止水板

梁型：パネコート型枠
梁型：パネコート型枠
吹付ウレタンフォーム t25
不燃コート t10
梁型：パネコート型枠
梁型：パネコート型枠
湧水排水管
：SUSパイプ100φ
510
120
縦樋
：硬質塩化ビニル100φ

駐車場
駐車場
2,530
駐車場
駐車場
井水ろ過設備室
D 111
エポキシ樹脂系塗床材
F1
止水板

防火水槽
ピット
ピット
人通口600□
D 110
通水管150φ半割
ピット
ピット
中水槽
ポリマーセメント系塗膜防水 B-2工法
（消火水槽、災害時浄水槽、雨水貯留槽、中水槽、防水水槽共通）

6,000
6,000
6,000
6,000
5,500
400

Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9

A矩計図

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

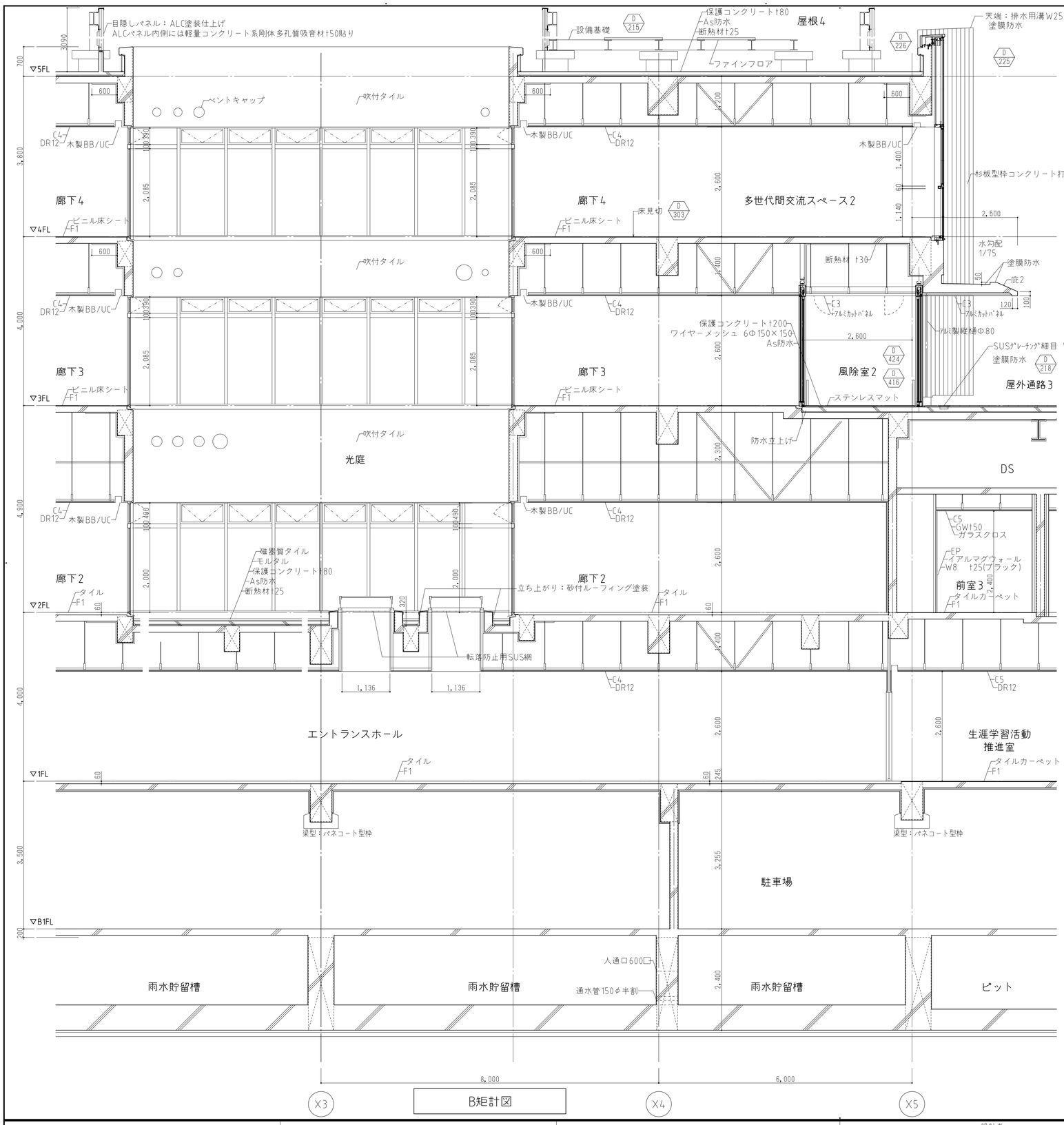
KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

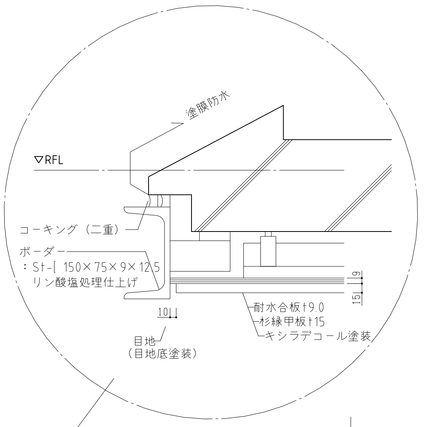
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

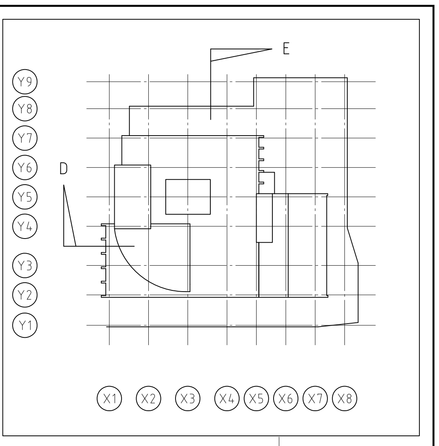
矩計図（１）

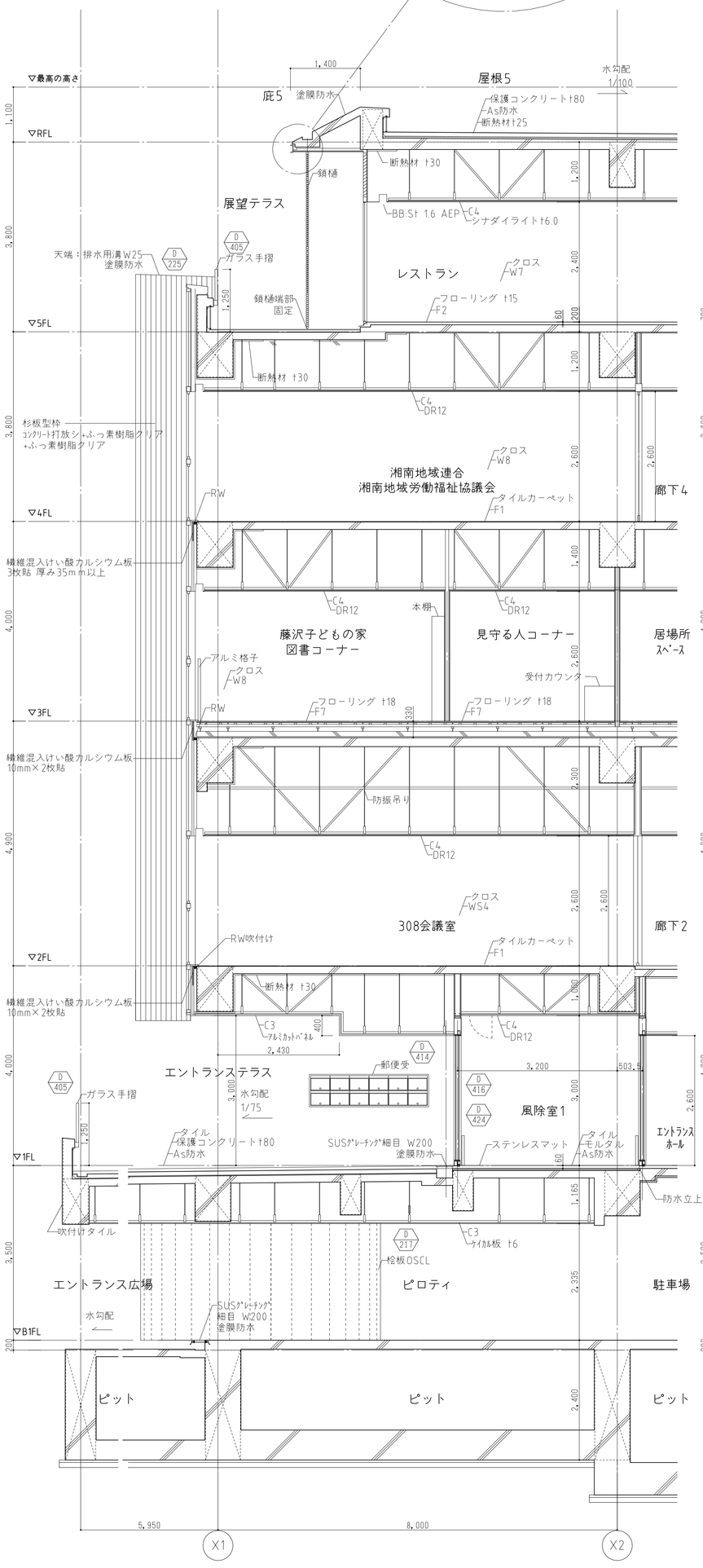
設計番号	図面番号
	A — 049
縮尺 1/50 A3:1/100	日付 2019・02・28
	No

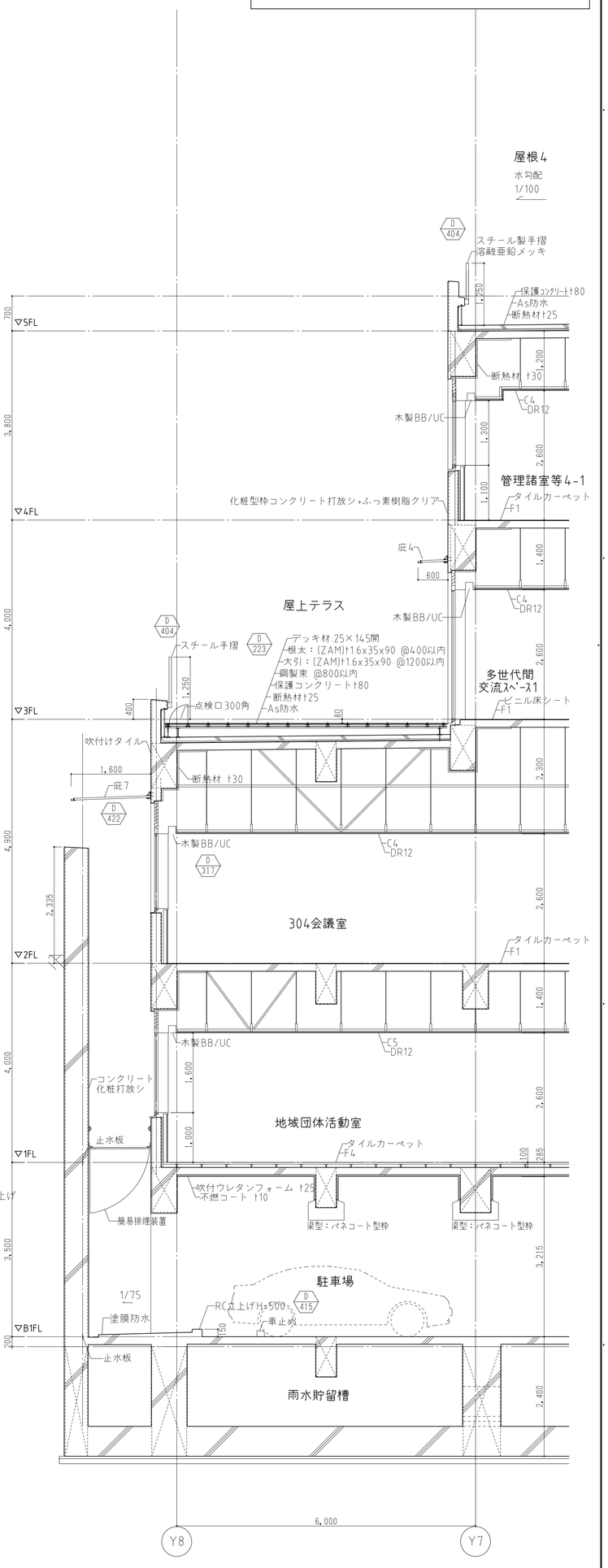

目隠しパネル：ALC塗装仕上げ
ALCパネル内側には軽量コンクリート系剛体多孔質吸音材t50貼り
ベントキャップ
吹付タイル
廊下4
廊下3
光庭
廊下2
エントランスホール
磁器質タイル
モルタル
保護コンクリートt80
As防水
断熱材t25
ビニル床シート
F1
タイル
F1
C4
DR12
木製BB/UC
▽5FL
▽4FL
▽3FL
▽2FL
▽1FL
▽B1FL
3090
700
3,800
4,000
4,900
3,500
200
600
2,085
2,000
100
390
490
60
320
1,136
8,000
6,000
X3
X4
X5
B矩計図
設備基礎
D 215
保護コンクリートt80
As防水
断熱材t25
ファインフロア
屋根4
D 226
天端：排水用溝W25
塗膜防水
D 225
多世代間交流スペース2
床見切
D 303
杉板型枠コンクリート打放シ+ふっ素樹脂クリア
2,500
水勾配
1/75
断熱材 t30
塗膜防水
庇2
C3
アルミカットパネル
保護コンクリートt200
ワイヤーメッシュ 6Φ150×150
As防水
2,600
1,400
60
1,140
50
120
100
アルミ製縦樋Φ80
SUSグレーチング細目 W150
塗膜防水
D 218
D 424
D 416
風除室2
屋外通路3
ステンレスマット
防水立上げ
DS
C5
GW t50
ガラスクロス
EP
イアルマグウォール
W8 t25(ブラック)
前室3
タイルカーペット
F1
立ち上がり：砂付ルーフィング塗装
転落防止用SUS網
C5
DR12
梁型：パネコート型枠
駐車場
人通口600□
通水管150φ半割
雨水貯留槽
ピット
2,400
2,300
3,255
245
屋根3
スチール製手摺溶融亜鉛メッキ
D 404
水勾配
1/100
保護コンクリートt80
As防水
断熱材t25
1,250
1,000
1,200
木製BB/UC
D 317
クロス
調理室
C6
梁型：C1+フッ素樹脂クリア
1,290
1,100
210
1,190
1,500
化粧型枠コンクリート打放シ+ふっ素樹脂クリア
W9+有孔シナ合板t=9 OSPW
8,690
2,230
D 422
庇6
1,200
1,000
真空コンクリートt100
刷毛引き仕上げ
ワイヤーメッシュ 6Φ150×150
As防水
D 225
管理用スロープ
丸環4箇所（ドライエリアメンテナンス用）
化粧型枠コンクリート打放シ+ふっ素樹脂クリア
D -
手動式壁面収納ステージ
W4800D2400H400
FS800/コトブキ
150
多目的交流ホール
2,670
2,400
フローリング t18
フロア換気口付
F7
330
1,400
防振吊り
C4
DR12
D 324
木製BB/UC
クロス
WS2
多目的室1
ドライエリア4
1,800
800
2,400
吊天下地：軽量鉄骨
1,175
化粧型枠
コンクリート打放シ
+ふっ素樹脂クリア
フローリング t18
F2
275
60
500
ボランティアセンター
事務室・会議室
2,100
断熱材 t30
吹付ウレタンフォーム t25
不燃コート t10
ビニル床シートA
F1
玄関ホール
SUSグレーチング
細目 W150
塗膜防水
3,225
ALC板タテ張り
D 415
車止め
塗膜防水
水勾配
200
スタイロパネルK打込
t=25+6
水抜きパイプ2箇所Φ100
3,725
ピット
雑排水槽
6,200
Y2
Y1
〔矩計図
Y9
Y8
Y7
Y6
Y5
Y4
Y3
Y2
Y1
X1
X2
X3
X4
X5
X6
X7
X8
B
C

| | | |









D矩計図

E矩計図

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

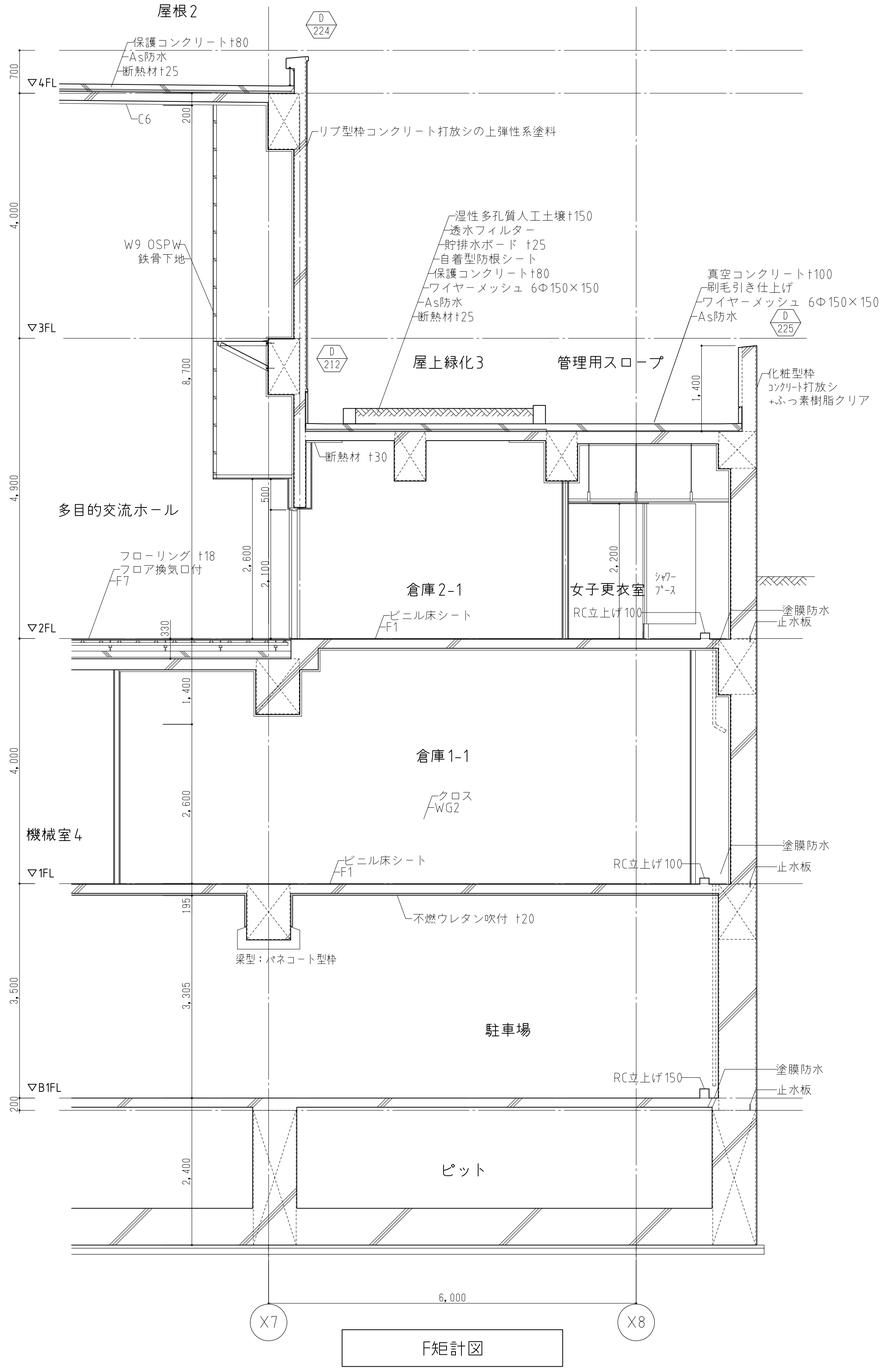
鹿島
KAJIMA DESIGN
横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

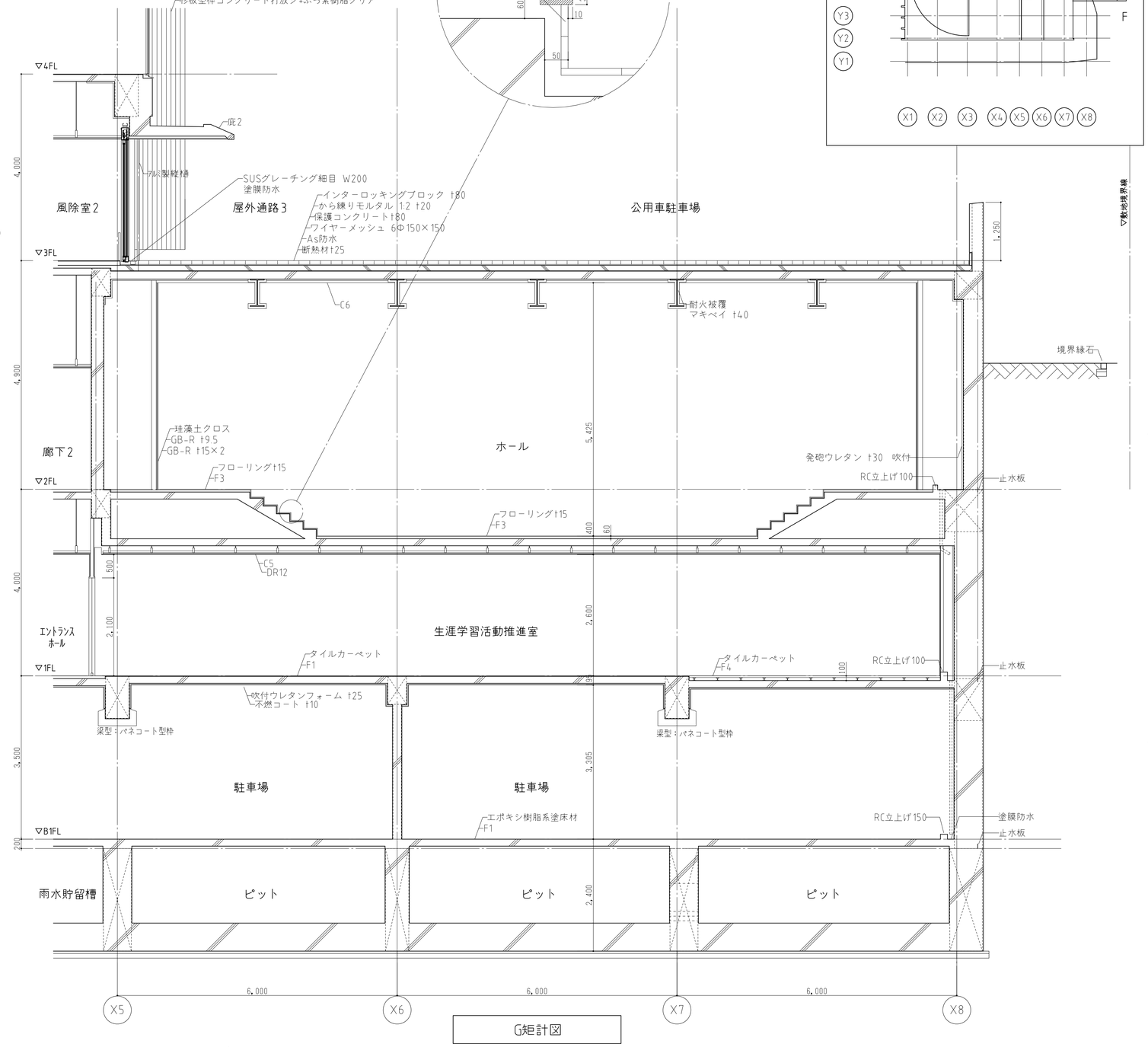
永瀬 正初 一級建築士 第199156号
松浦 暢 一級建築士 第356522号
設計者
押久保 正則 法適合確認建築士 設置設計一級建築士 第2092号
検証者

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

矩計図（3）

縮尺	1/50 A1:1/50
設計番号	
日付	2019・02・28
図面番号	A — 051
No	





AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

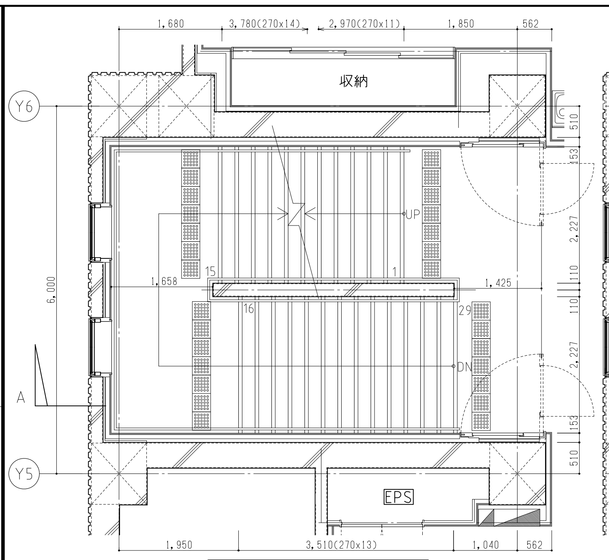
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

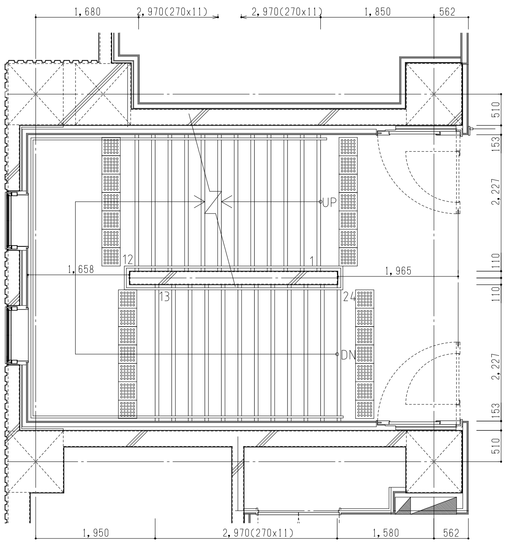
矩計図（４）

設計番号	図面番号
	A — 052

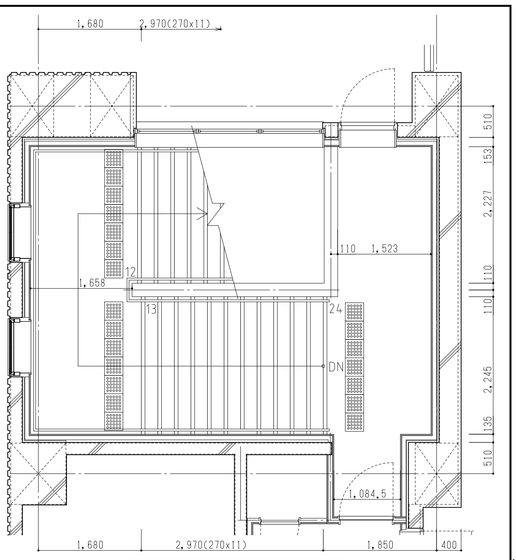
縮尺	日付	No
1/A1:50 A3:100	2019・02・28	



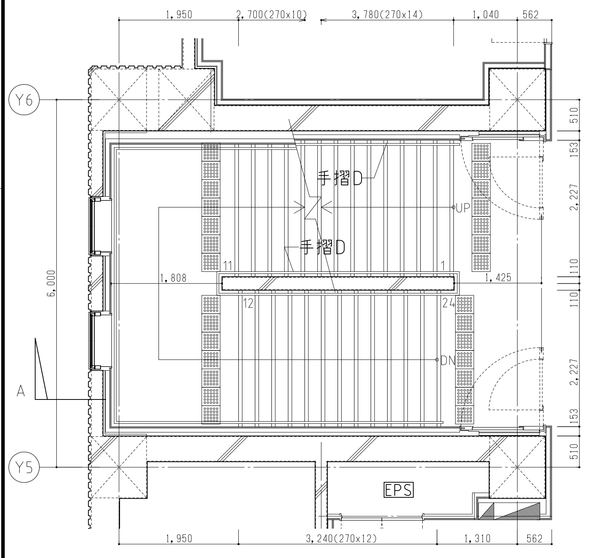
3階平面図　1/50



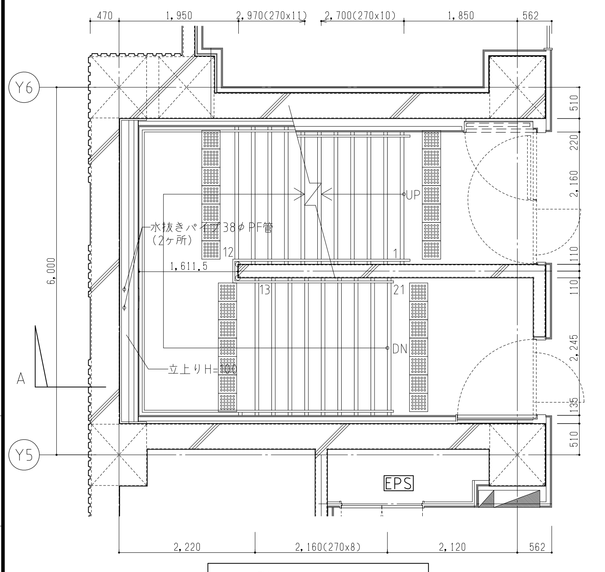
4階平面図　1/50



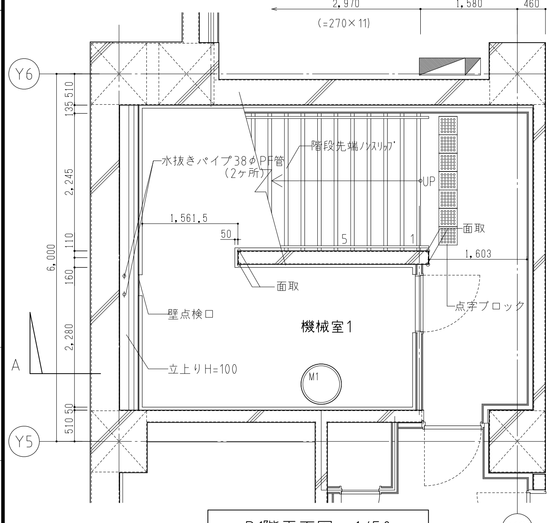
5階平面図　1/50



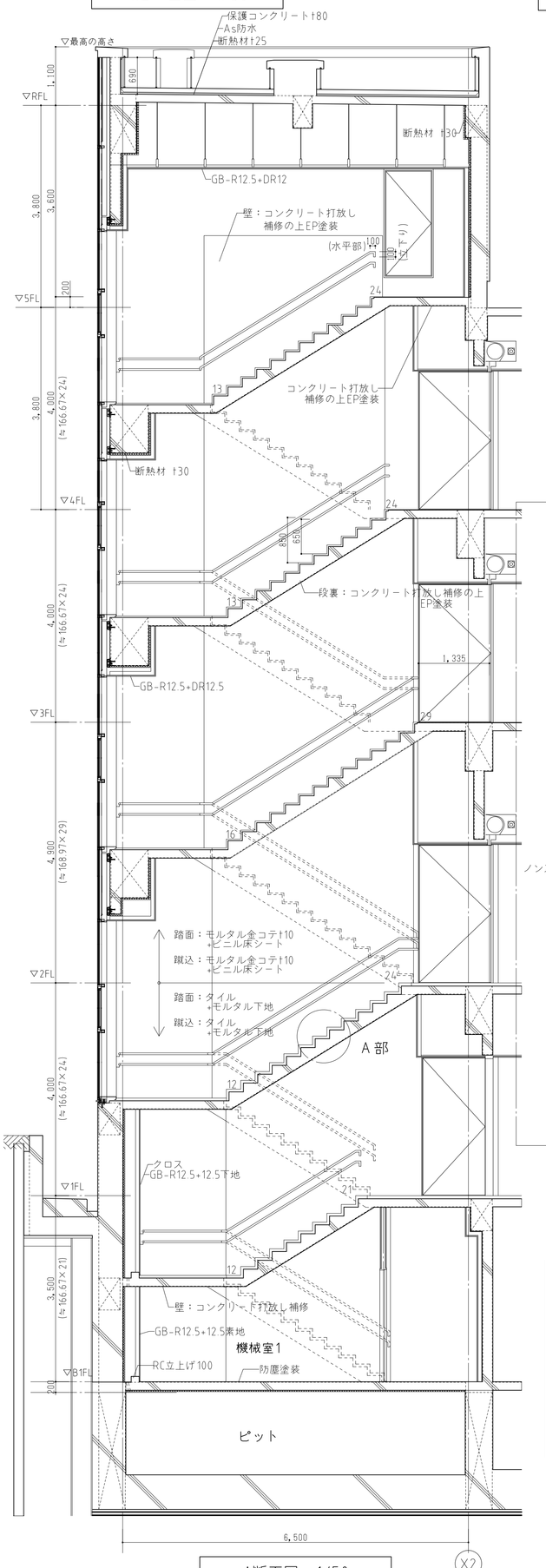
2階平面図　1/50



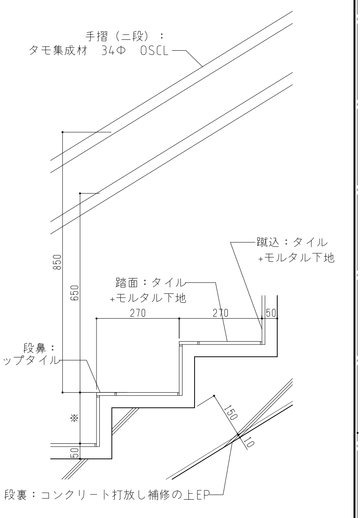
1階平面図　1/50



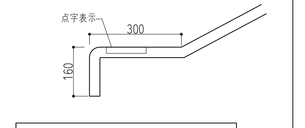
B1階平面図　1/50



A断面図　1/50



A部詳細図　1/10



手摺端部詳細図　1/10

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

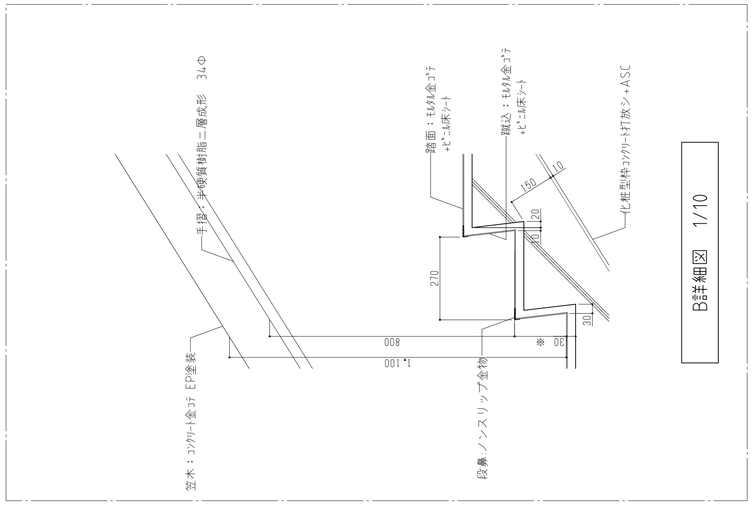
in 鹿島
KAJIMA DESIGN
横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者	一級建築士 第199756号	永廣 正邦	
	一級建築士 第395622号	松浦 暢	
法適合確認	構造計画一級建築士 第2092号	坪久保 正則	
検証者			

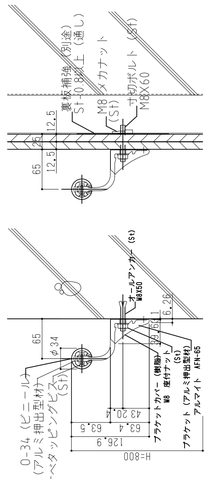
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

階段詳細図（１）

縮尺	1/50
設計番号	A:1/50 43100
日付	2019・02・28
図面番号	A — 053
No.	



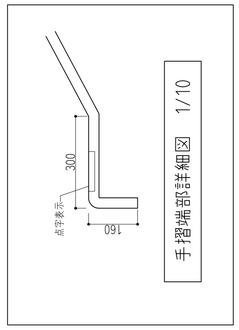
B詳細図 1/10



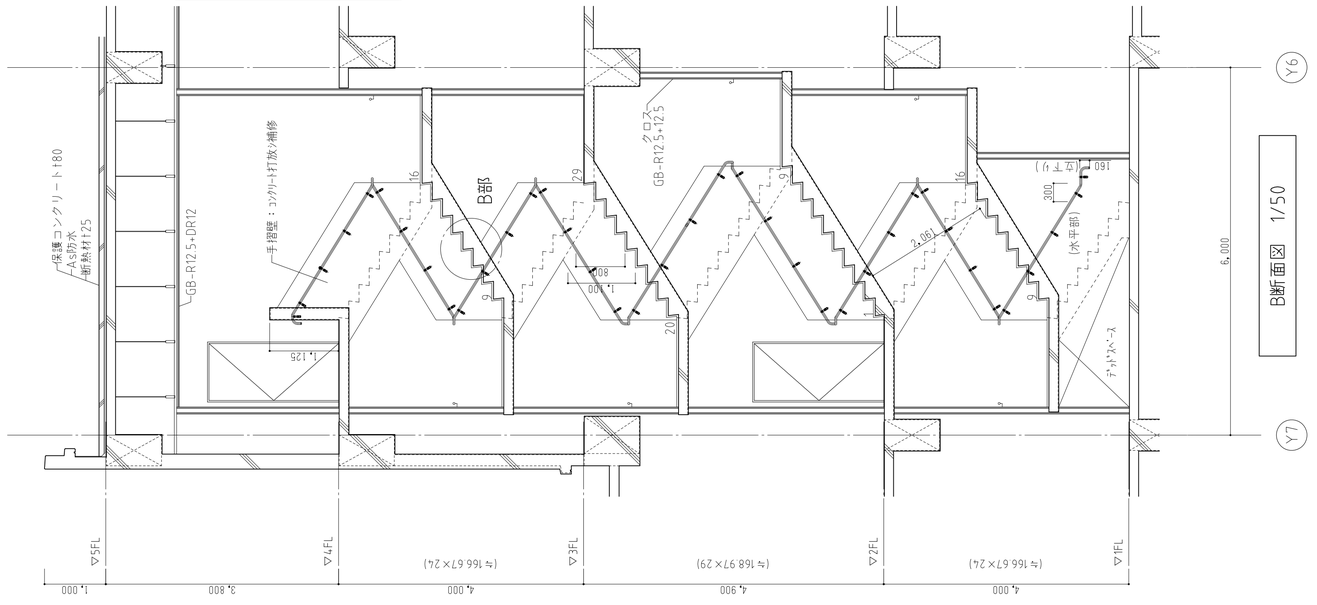
手摺C

手摺D

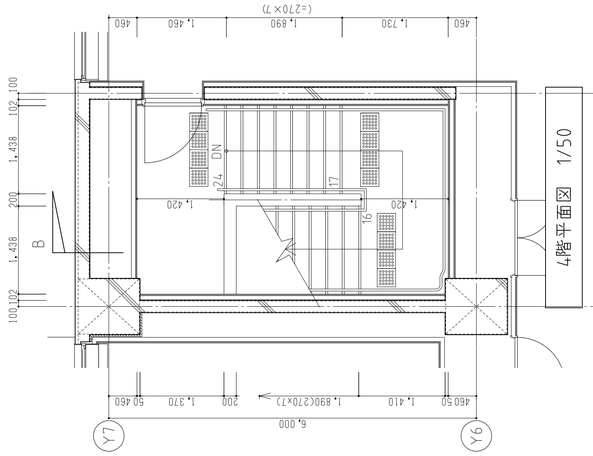
手摺詳細図 1/5



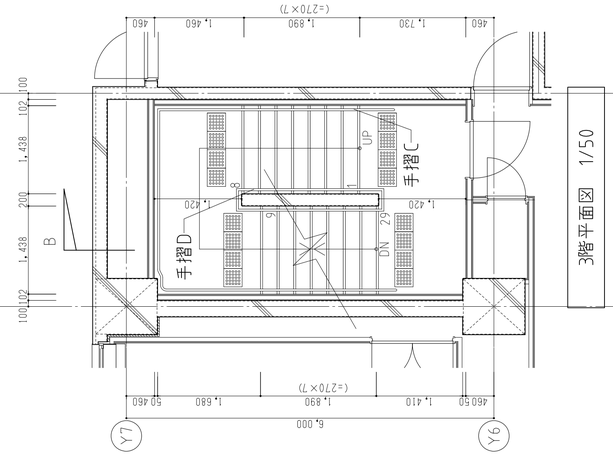
手摺端部詳細図 1/10



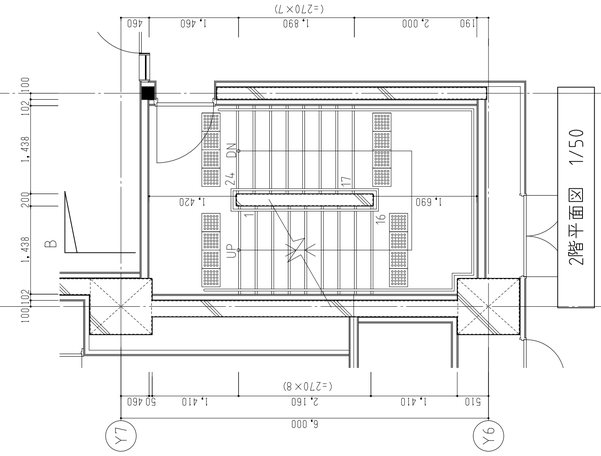
B断面図 1/50



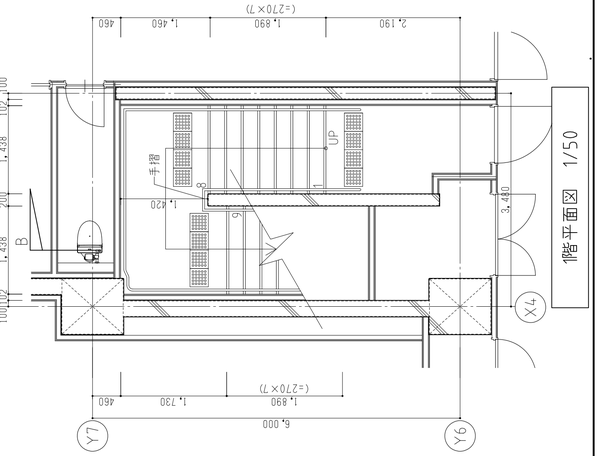
4階平面図 1/50



3階平面図 1/50



2階平面図 1/50



1階平面図 1/50

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

階段詳細図（２）

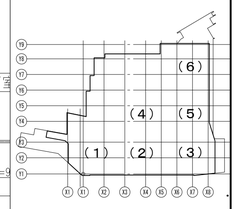
設計番号	図面番号
	A — 054
縮尺 1/ A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28
No	

エントランス広場
消防活動空地１
(6m×12m)
地下
オイルタンク
オイルピット
配管ピット(W300xD200)
エキスパンションジョイント詳細図参照
ゲリラ豪雨用
オーバーフロー用桝 貯留槽へ接続
グレーチング蓋
ポンプ室
屋外階段１
バイク置場
路面表示図
駐輪場
傾斜式ラック
(平置き)
ピロティ
ごみ置場
給湯室
更衣室
専用ガバナ室
ガバナ
スペース
3m×4m
事務室
ルーティング室
ホワイトボード
既製品
管理用スープ
1/12勾配
1/6勾配
1/100勾配
道路境界線
隣地境界線
工作物
建築物
既存擁壁
既存植栽
バリカー位置@2000
点字ブロック
タイル
(境界部分ハバ)
SUS手摺
ライン引き
マンホール
上部排煙用開口
上部ルーバーボックス
防護柵
壁面羽目板W75(木下地)
軽鉄基礎部H200立上
壁面羽目板W75(軽鉄下地)
上部ライン
断熱無し
グレーチング
床下点検口
下り天井
消火器
(置き式)
手摺
H=800
上部ルーバーボックス
W=3,956.5
W=2,500
W=3,150
4,727
3,470
5,265
3,405
1,537
起点
7,847
6,000
6,200
4,800
1,150
8,000

凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口□600□
	化粧床下点検口□600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（縞鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



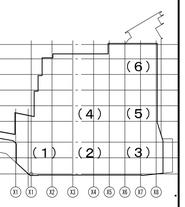


AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants 一級建築士事務所登録 東京第３８０号	鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店 一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号	設計者				法適合確認欄	検証者	藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
		一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 輔			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx	地下１階平面詳細図（１）	縮尺 1/A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28	No

凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（縞鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

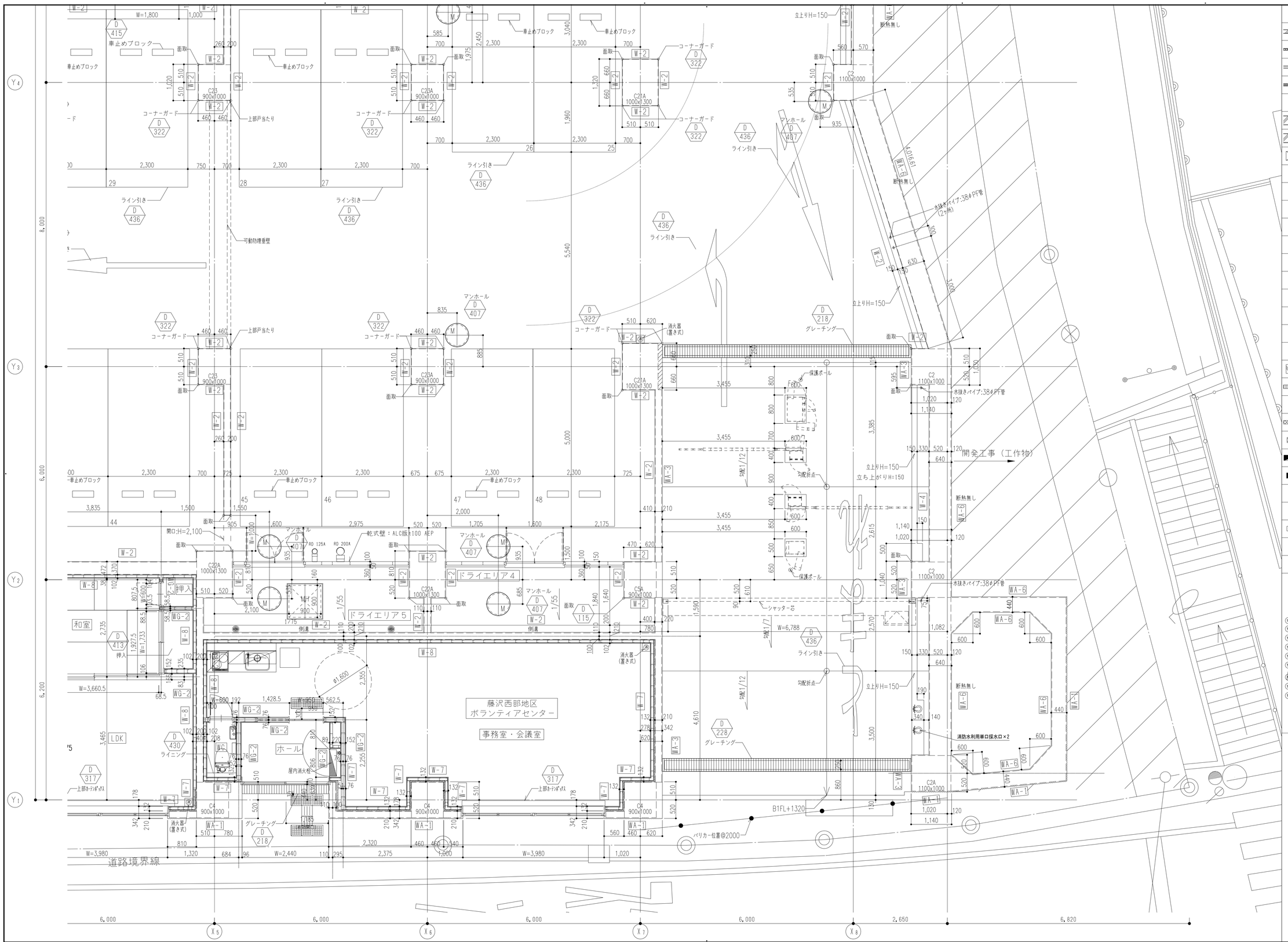
設計者		法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢	設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

地下１階平面詳細図（２）

設計番号	図面番号
	A — 056

縮尺 1/A1: 50 A3:100 | 日付 2019・02・28 | No



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

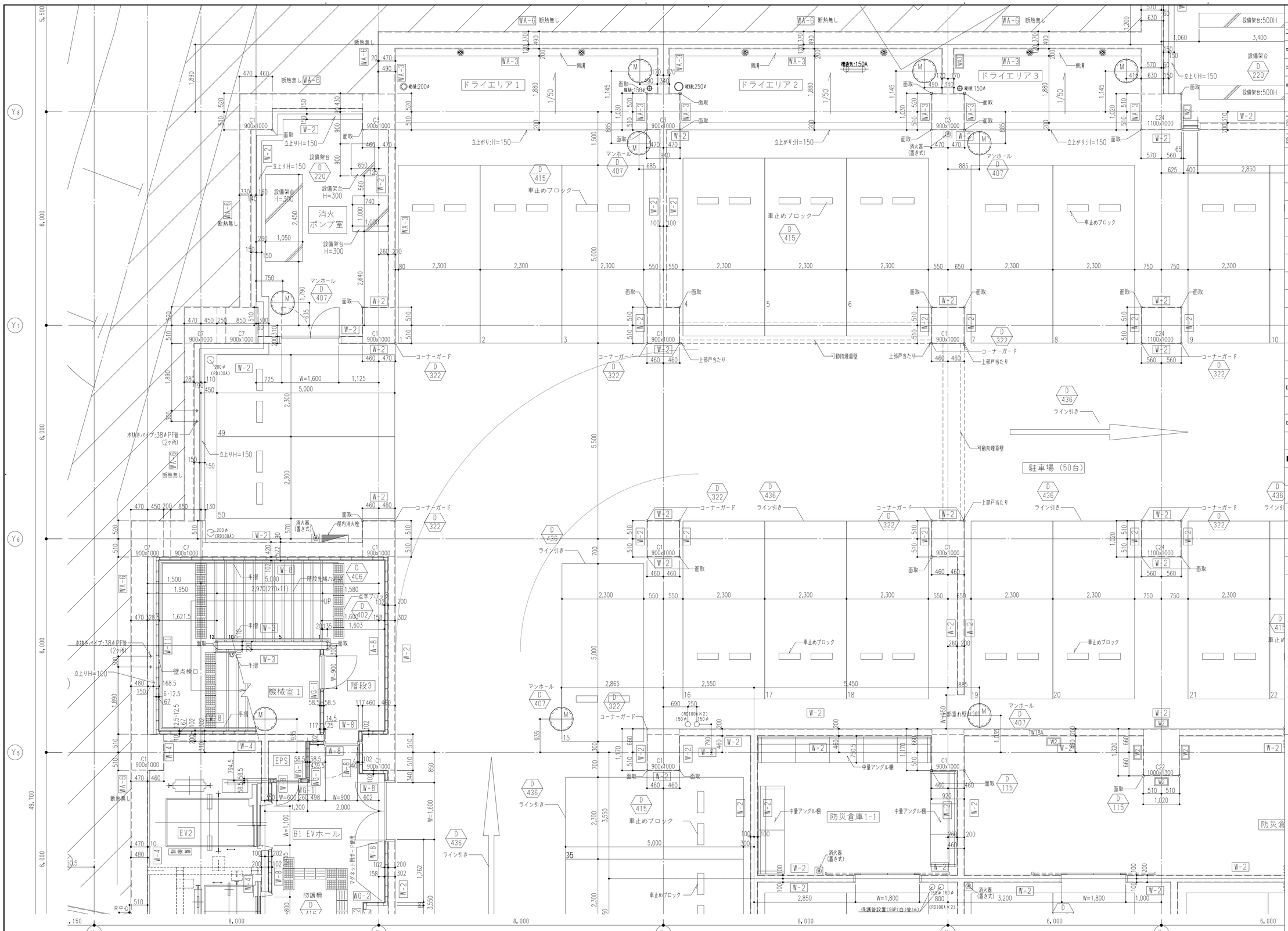
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

地下１階平面詳細図（３）

設計番号	図面番号
	A — 057

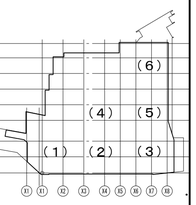
縮尺 1/ A1:50 A3:100
日付 2019・02・28
No



凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場（特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口□600□
	化粧床下点検口□600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
Φ0-1	竪樋（80φ）
Φ0-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（縞鋼板蓋）（特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

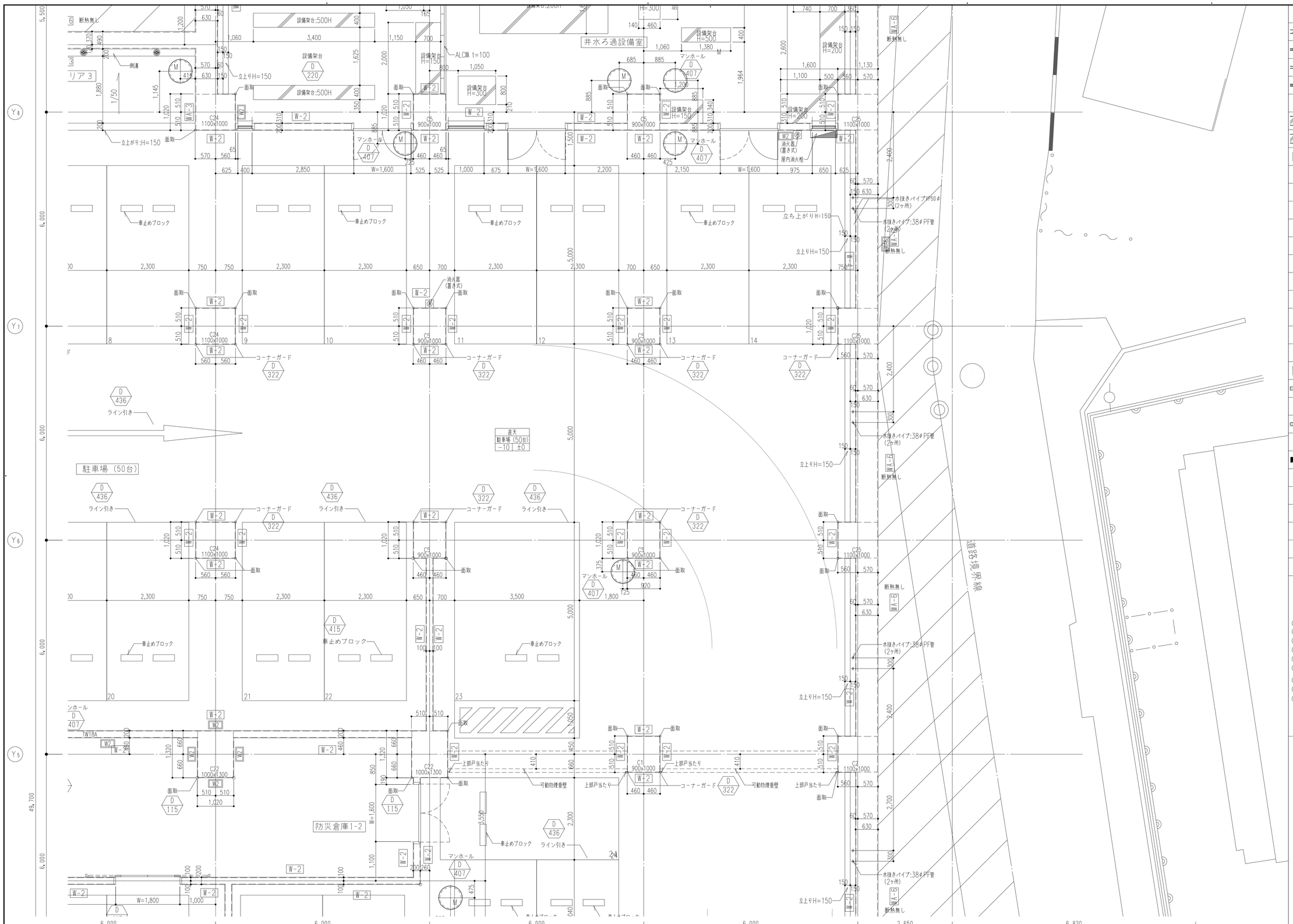
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者		法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢	設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

地下１階平面詳細図（４）

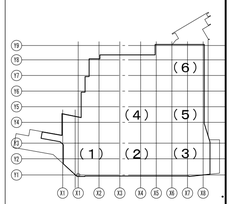
設計番号	図面番号
	A — 058
縮尺 1／A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28
	No



凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場（特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

地下１階平面詳細図（５）

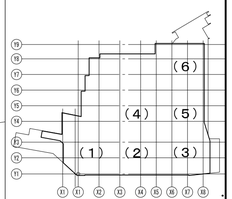
設計番号	図面番号
	A — 059

縮尺	日付	No
1/A1: 50 A3:100	2019・02・28	

凡　例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ　(D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲　(D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
▼	非常用進入口
[　]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

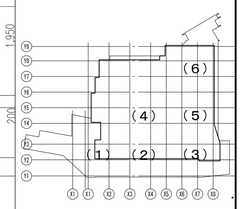
地下１階平面詳細図（６）

設計番号	図面番号
	A — 060
縮尺 1/A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28
	No

凡 例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検□600□
	化粧床下点検□600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

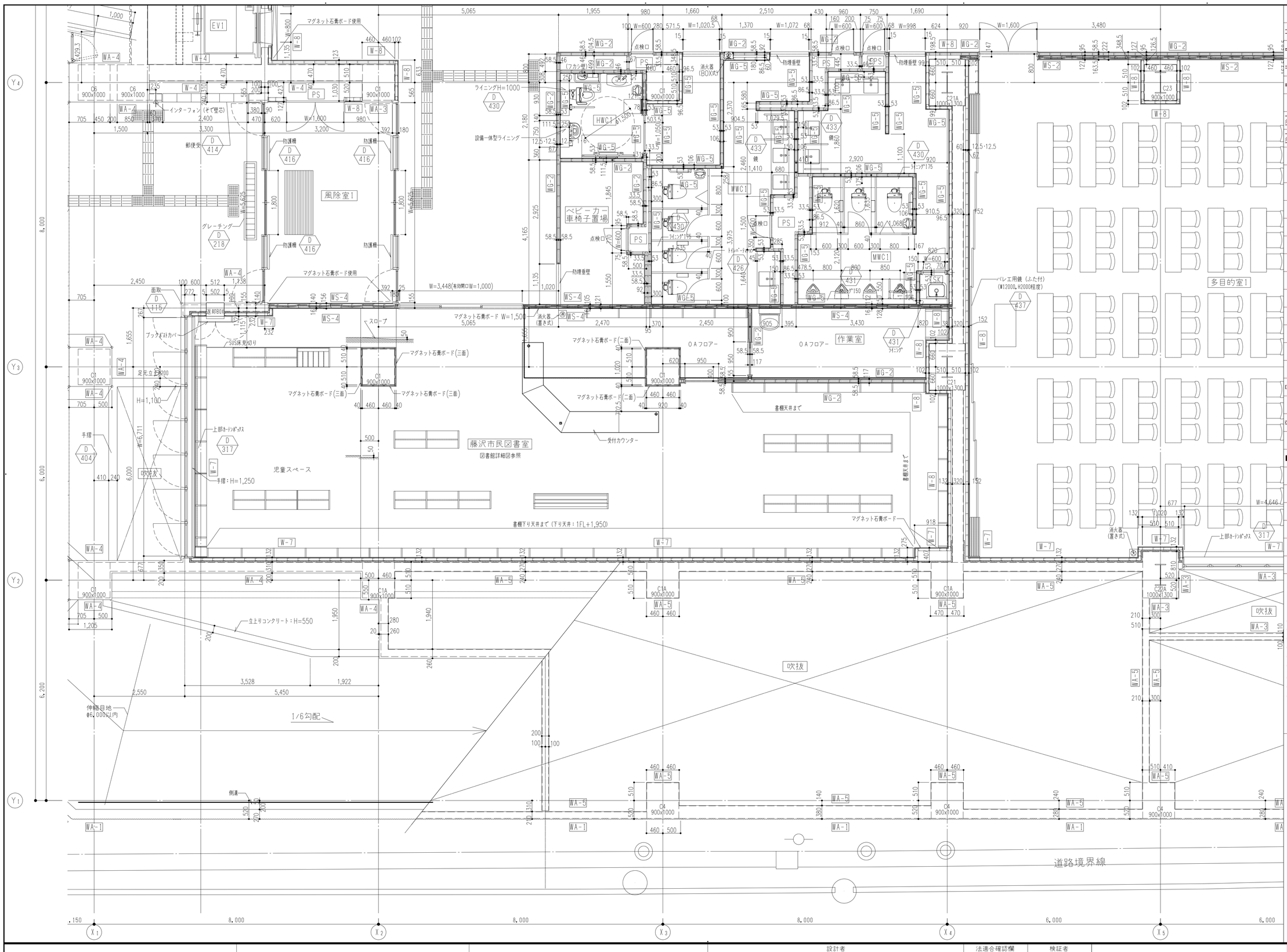
鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号		第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢		押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

1階平面詳細図（1）

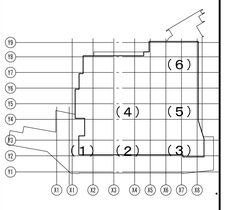
設計番号	図面番号
	A — 061
縮尺 1/A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28
No	



凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600)以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（縞鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（±埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN





AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

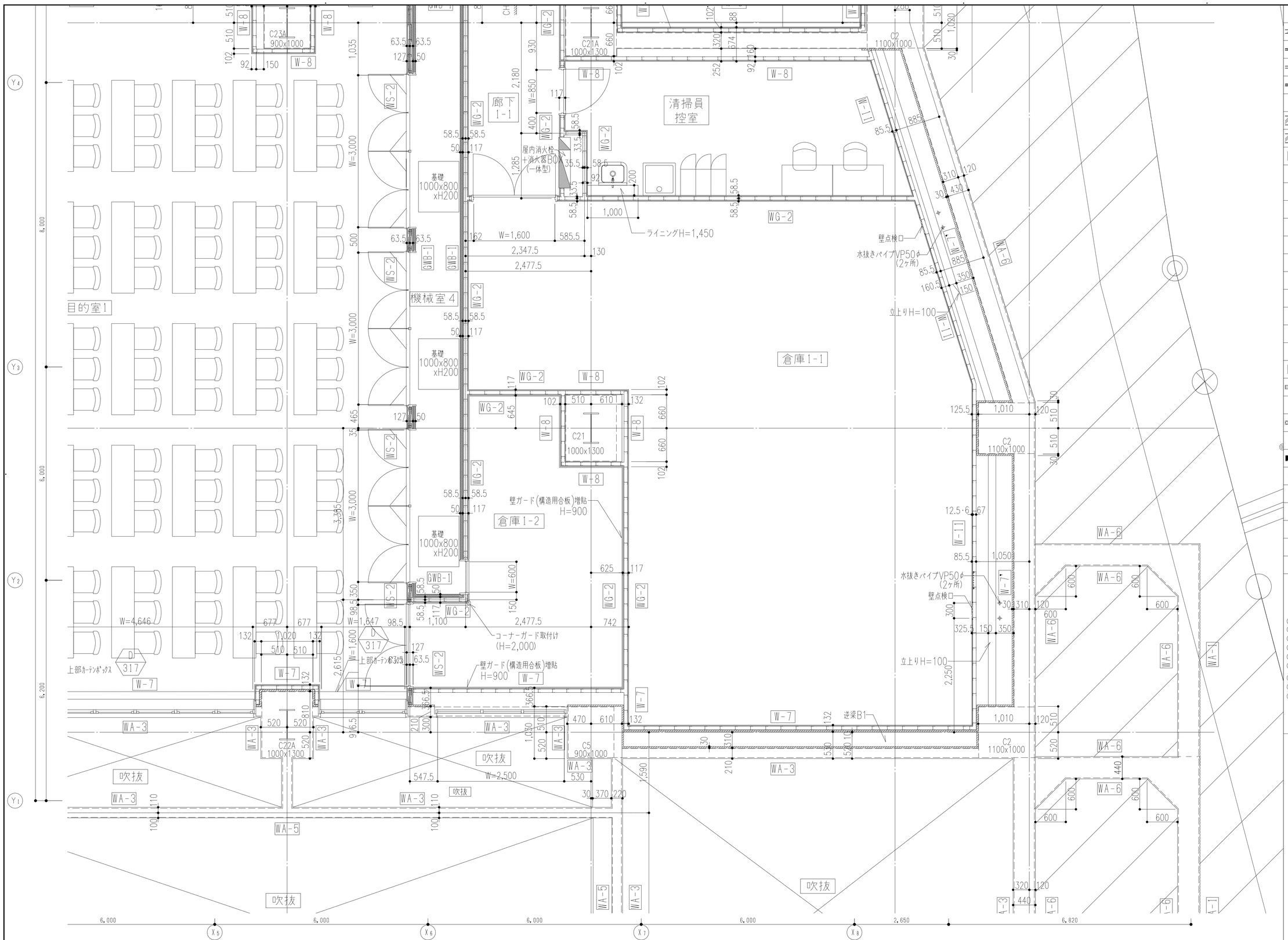
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

1階平面詳細図（2）

設計番号	図面番号
	A — 062

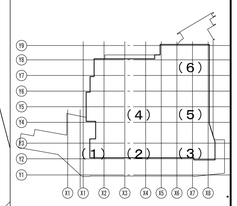
縮尺	日付	No
1/A1: 50 A3:100	2019・02・28	



凡例

- 鉄筋コンクリート
- 鉄筋コンクリート
- 軽量鉄骨下地間仕切壁
- 軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
- W-1 壁符号
- 人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
- 上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
- 釜場（特記なきはW600×D900×H600）
- M マンホール 600φ
- 床下点検口600□
- 化粧床下点検口600□
- タラップ (D-402参照)
- タラップ（背かご付）(D-403参照)
- φD-1 竪樋（80φ）
- φD-2 竪樋（100φ）
- ルーフドレイン
- OF オーバーフロー管 SUS50φ
- 雨水桝
- 樋受石
- 設備機械基礎（特記なきはH150）
- グレーチング（ノンスリップ）
- 排水目皿（蓋付）
- 配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
- 点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
- 屋内消火栓（消火器併設タイプ）
- 屋内消火栓
- 消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
- 非常用進入口
- [ ] FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

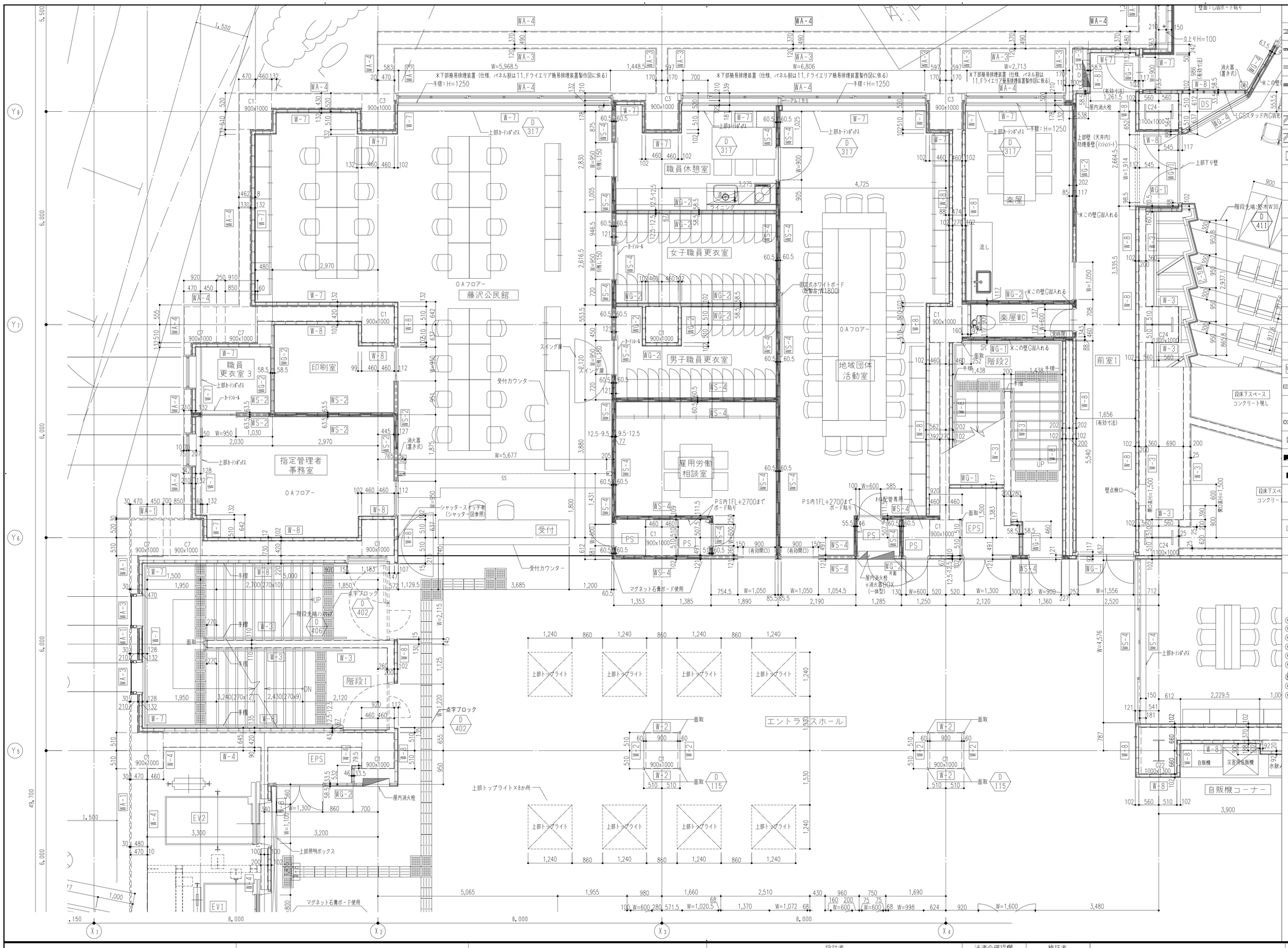
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢		設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

1階平面詳細図（３）

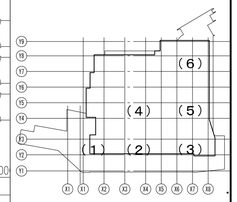
設計番号	図面番号
	A — 063
縮尺 1/A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28
	No



凡例

- 鉄筋コンクリート
- 鉄筋コンクリート
- 軽量鉄骨下地間仕切壁
- 軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
- W-1 壁符号
- 人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
- 上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
- 釜場（特記なきはW600×D900×H600）
- M マンホール 600φ
- 床下点検口600□
- 化粧床下点検口600□
- タラップ (D-402参照)
- タラップ（背かご付）(D-403参照)
- φD-1 竪樋（80φ）
- φD-2 竪樋（100φ）
- ルーフドレイン
- OF オーバーフロー管 SUS50φ
- 雨水桝
- 桶受石
- 設備機械基礎（特記なきはH150）
- グレーチング（ノンスリップ）
- 排水目皿（蓋付）
- 配線ピット（縞鋼板蓋）（特記なきはH=200）
- 点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
- 屋内消火栓（消火器併設タイプ）
- 屋内消火栓
- 消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
- 非常用進入口
- [ ] FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

1階平面詳細図（4）

設計番号	図面番号
	A — 064

縮尺	日付	No
1/A1: 50 A3:100	2019・02・28	

ホール
[300席（内固定216席）]
ホール詳細図参照

ピアノ庫

前室1

生涯学習
活動推進室

自販機コーナー

OAフロアー

多目的室2

段床下スペース
コンクリート現し

防音扉ではないが
枠・本体内張吸音材充填
戸当たりに機密材配置
（ビリツキ、ガタツキ、
共鳴防止）
※扉180近く開ける

※この壁GW入れる

LGSスタッド内GW充填

壁面：GWボード貼り

階段先端：竪木W30、溝加工塗装

上部：時計、サイン

受付カウンター

水抜きパイプVP50φ

壁点検口

立上りH=100

立上り H=150

発砲ウレタン t30 吹付

屋内消火栓

消火器（置き式）

上部ルーバーガス

上部壁（天井内）防煙垂壁（ケンウッドシート）

手摺：H=1250

手摺

UP

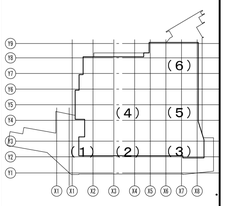
WC

道路境界線

凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

1階平面詳細図（5）

設計番号	図面番号
	A — 065
縮尺 1/A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28
	No

ホール
[300席（内固定216席）]
ホール詳細図参照

控室

ピアノ庫

前室1

生涯学習
活動推進室

O.Aフロアー

FL+900~FL+2600まで
壁面：GWボード貼り

防音扉ではないが
枠・本体内吸音材充填
戸当たりに機密材配置
（ビリツキ、ガタツキ、
共鳴防止）
水扉180近く開ける

この範囲の巾木H=100

※この壁GW入れる

LGSスタッド内GW充填

発砲ウレタン t30 吹付

水抜きパイプVP50φ

立上りH=100

立ち上がりH=150

壁点検口

屋内消火栓

上部下り壁

階段先端:竪木W30、溝加工塗装

段床下スペース
コンクリート現し

手摺：H=1250

手摺 H=1,438

上部：時計,サイン

上部ﾄﾗﾝﾊﾟｶﾞｽ

道路境界線

KEY PLAN

凡　例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ　(D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	桶受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲　(D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

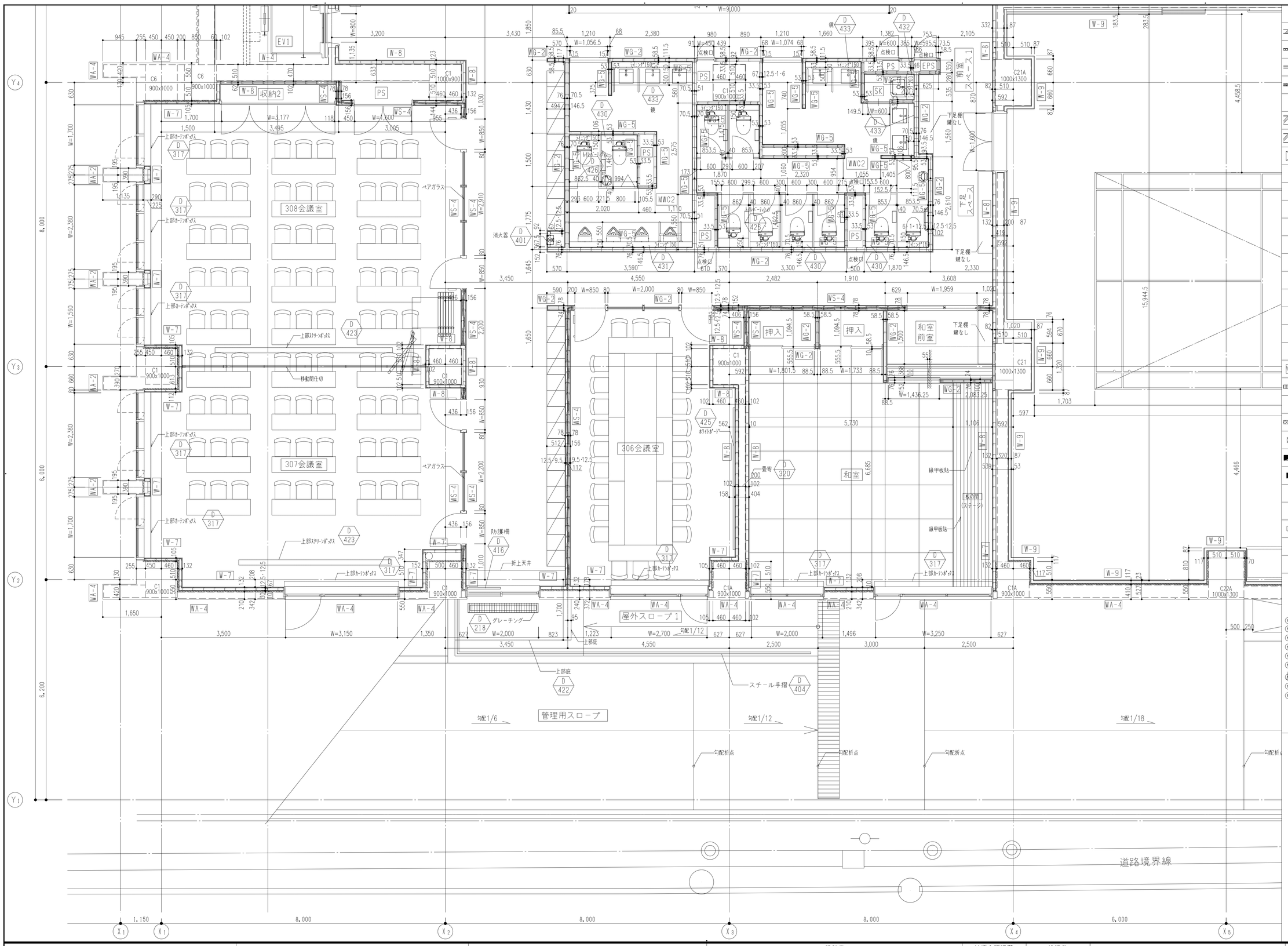
設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号		第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢		押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

1階平面詳細図（6）

設計番号	図面番号
	A — 066

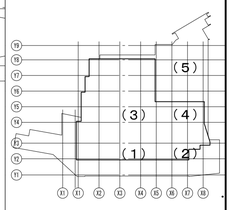
縮尺	日付	No
1/A1: 50 A3:100	2019・02・28	



凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	桶受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

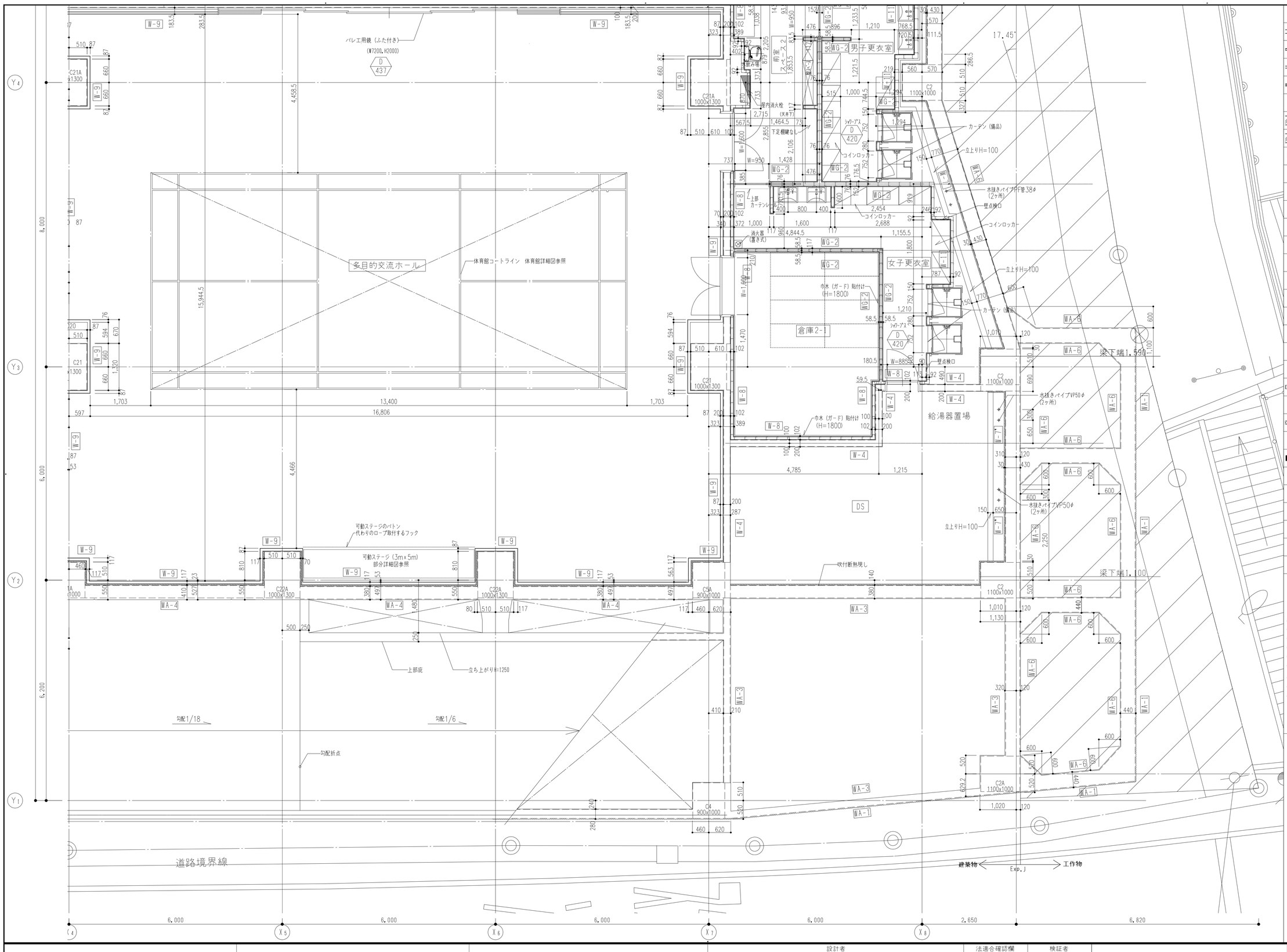
設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士	
第199758号		第359522号				第2092号	
永廣 正邦		松浦 暢				押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

2階平面詳細図（１）

設計番号	図面番号
	A — 067

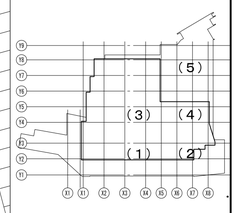
縮尺	日付	No
1/A1: 50 A3:100	2019・02・28	



凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場（特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口□600□
	化粧床下点検口□600□
	タラップ　(D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	桶受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲　(D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢					押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

2階平面詳細図（2）

設計番号	図面番号
	A — 068

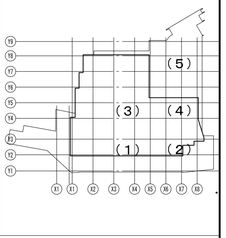
縮尺	日付	No
1/A1: 50 A3:100	2019・02・28	

302会議室
303会議室
304会議室
305会議室
306会議室
収納1
階段2
階段1
30会議室
光庭
倉庫2-2
廊下2
EV2
EPS
PS
給湯2
受付
屋根1
壁天端1FL+2,335(外部側)
壁天端1FL+2,310(内部側)
壁天端2FL+2,335(外部側)
壁天端2FL+2,310(内部側)
上部底 D422
W=5,954.5
W=6,806
W=2,713
W=4,666
移動間仕切
上部カーテンボックス
上部スクリーンボックス
ホワイトボード D425
マグネット用ボード使用
トップライトX8か所
中量アングル棚
オーバーフロー管
消火器 D401
屋内消火栓
消火器(BOX式)
ライニング D430
ガイド配管等用
面取
手摺
段鼻タイル
点字ブロック
側溝
W=9,000
1,448.5
1,666
1,438
1,890
1,690
1,305
1,375
1,200
1,120
1,100
1,005
1,660
1,340
2,045
2,010
2,240
2,200
2,480
3,520
3,800
3,470
6,800
8,800
49,700
8.000
6.000
5.000
1.500
1.150

凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場（特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	桶受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

2階平面詳細図（３）

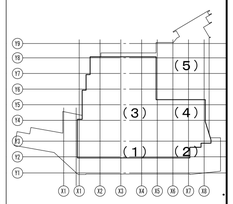
設計番号	図面番号
	A — 069

縮尺	日付	No
1/ A1:50 A3:100	2019・02・28	

凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	桶受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

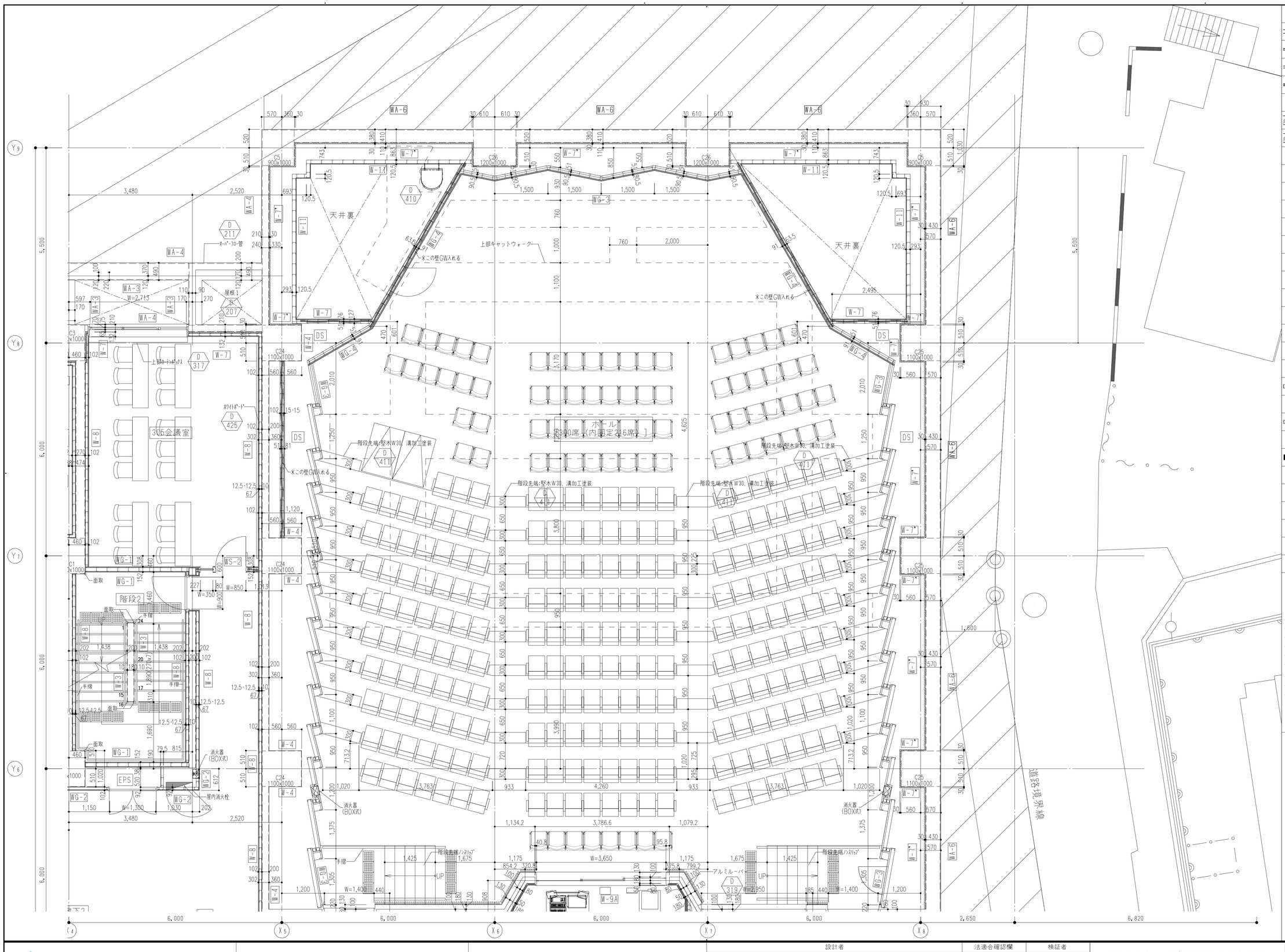
設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

2階平面詳細図（4）

設計番号	図面番号
	A — 070

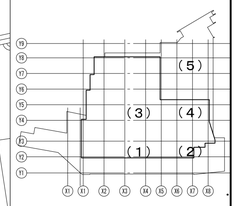
縮尺	日付	No
1/A1: 50 A3:100	2019・02・28	



凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

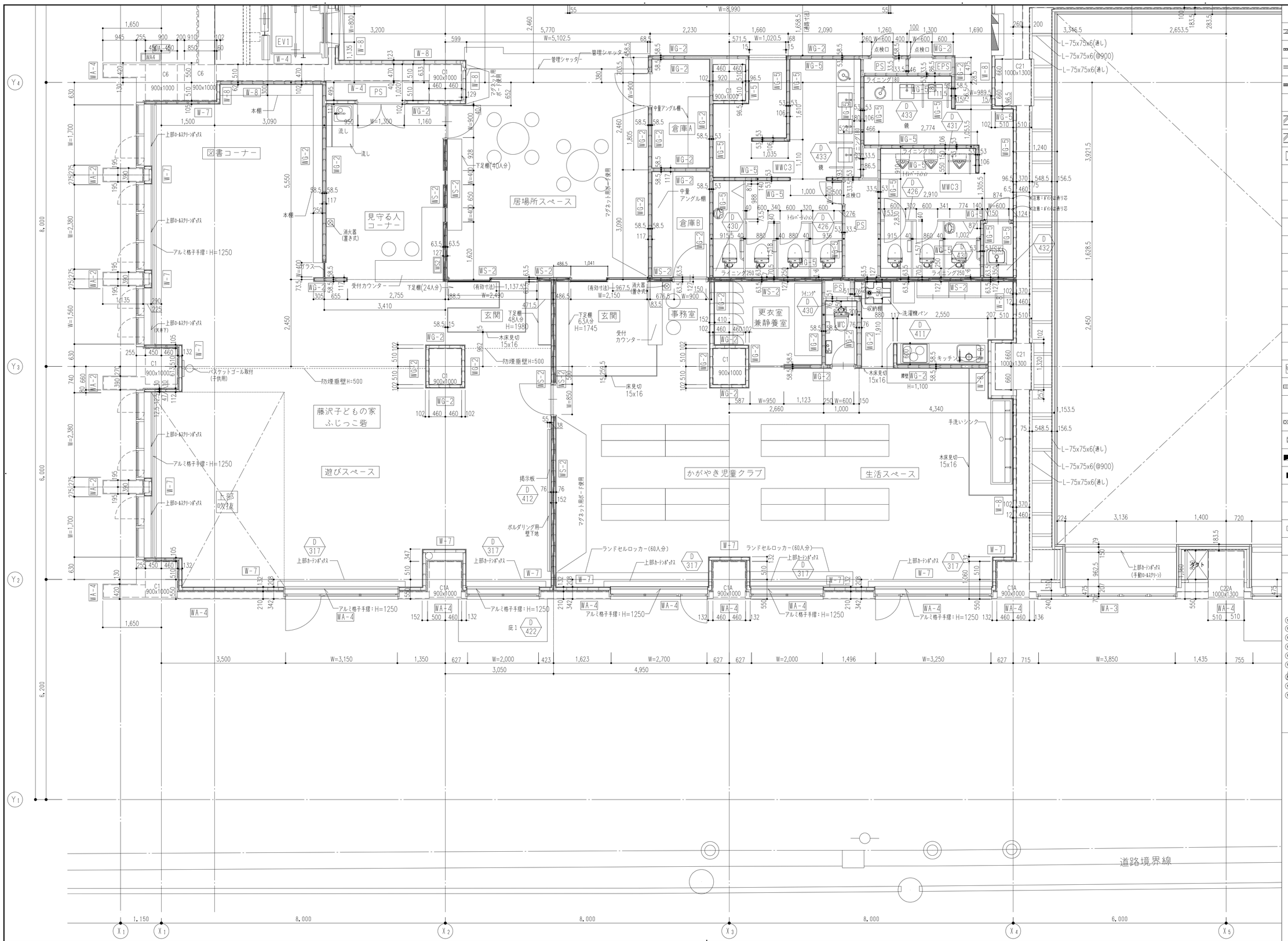
設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号		第2092号	
永廣 正邦	松浦 幡		押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

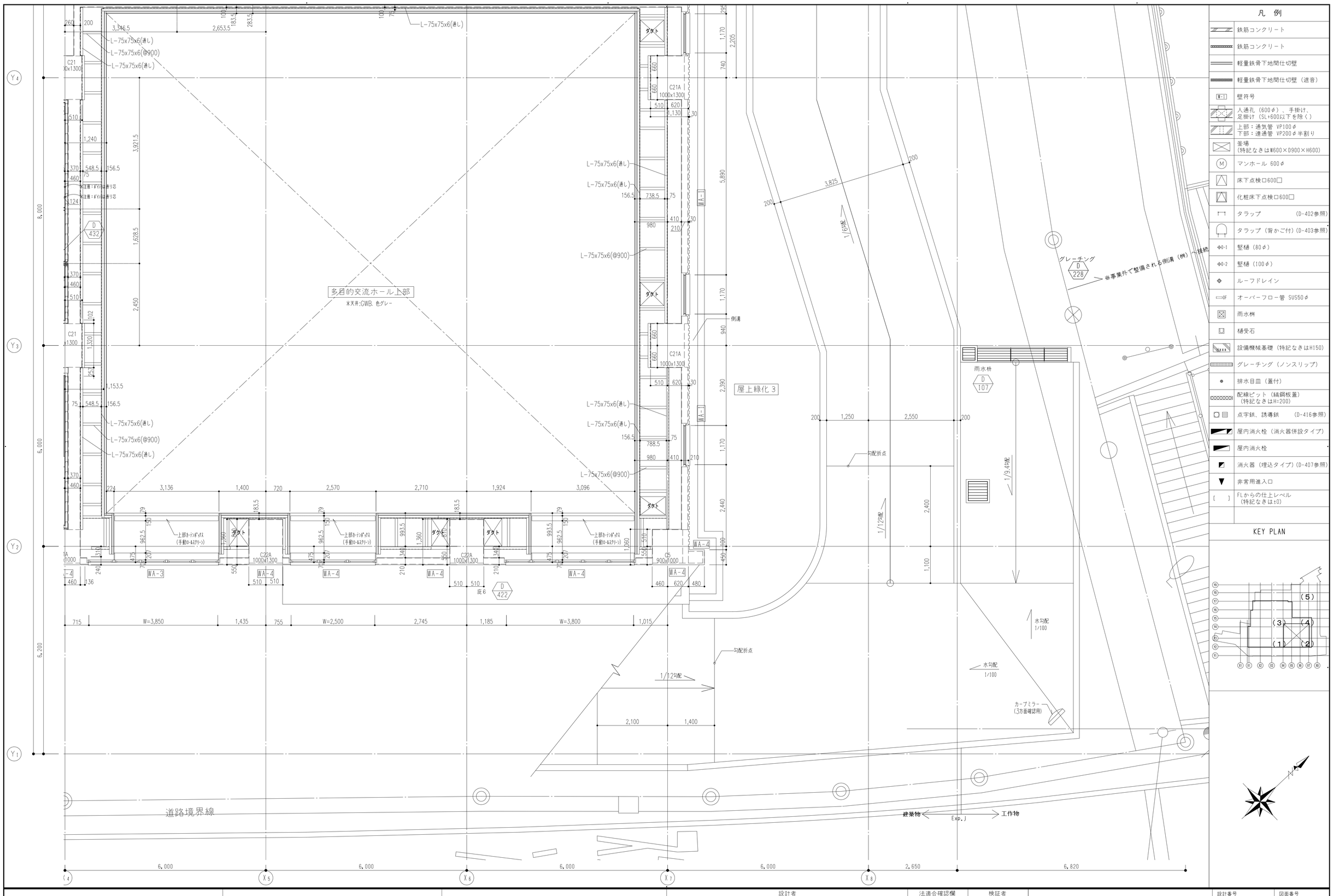
2階平面詳細図（5）

設計番号	図面番号
	A — 071

縮尺 1/A1: 50 A3:100 ／ 日付 2019・02・28 ／ No


図書コーナー
見守る人コーナー
居場所スペース
倉庫A
倉庫B
玄関
玄関
事務室
更衣室
兼静養室
藤沢子どもの家
ふじっこ砦
遊びスペース
かがやき児童クラブ
生活スペース
上部吹抜
道路境界線
凡例
鉄筋コンクリート
軽量鉄骨下地間仕切壁
軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
壁符号
人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
釜場（特記なきはW600×D900×H600）
マンホール 600φ
床下点検口600□
化粧床下点検口600□
タラップ (D-402参照)
タラップ（背かご付）(D-403参照)
竪樋（80φ）
竪樋（100φ）
ルーフドレイン
オーバーフロー管 SUS50φ
雨水桝
樋受石
設備機械基礎（特記なきはH150）
グレーチング（ノンスリップ）
排水目皿（蓋付）
配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
屋内消火栓（消火器併設タイプ）
屋内消火栓
消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
非常用進入口
FLからの仕上レベル（特記なきは±0）
KEY PLAN

| | | |



凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場（特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者		法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢	設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

3階平面詳細図（２）

設計番号	図面番号
	A — 073
縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・02・28
	No

屋上緑化１
屋上緑化２
屋上テラス
保育室
収納
給湯
流し
玄関
倉庫3-1
多世代間
交流スペース1
防災倉庫２
廊下3
風除室2
階段2
EPS
PS
EV2
光庭
授乳スペース
授乳室
ルーフドレン
天端:3FL+400
天端:3FL-145
スチール手摺
デッキ部分排水ドレン
点検用取り外し式
侵入防止チェーン
避難空地
雨水桝□500 A
※ドライエリアから貯留槽
屋根１
上部ホーデンボックス
造作金物オサエ
ホワイトボード
中量
アングル棚
マグネット用ボード使用
防護柵
ステンレスマット
自販機
消火器
上部照明ボックス
下足棚
面取
手摺
UP
DN
断熱
インター
グレーチング
KEY PLAN

凡例

- 鉄筋コンクリート
- 鉄筋コンクリート
- 軽量鉄骨下地間仕切壁
- 軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
- W-1 壁符号
- 人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
- 上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
- 釜場（特記なきはW600×D900×H600）
- M マンホール 600φ
- 床下点検□600□
- 化粧床下点検□600□
- タラップ (D-402参照)
- タラップ（背かご付）(D-403参照)
- φD-1 竪樋（80φ）
- φD-2 竪樋（100φ）
- ルーフドレイン
- OF オーバーフロー管 SUS50φ
- 雨水桝
- 桶受石
- 設備機械基礎（特記なきはH150）
- グレーチング（ノンスリップ）
- 排水目皿（蓋付）
- 配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
- 点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
- 屋内消火栓（消火器併設タイプ）
- 屋内消火栓
- 消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
- 非常用進入口
- [ ] FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号		第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢		押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

3階平面詳細図（３）

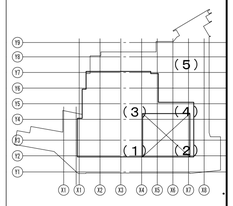
設計番号	図面番号
	A — 074
縮尺 1/A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28
	No

屋外通路 3
屋上広場
屋上緑化 2
駐輪場 3
防災倉庫 2
階段2
風除室2
授乳室
公用車駐車場
バイク置き場
透水性インターロッキング舗装-2b
道路境界線
雨水桝□500 A
屋根 1
ルーフドレン
侵入防止チェーン
避難空地
デッキ部分排水ドレン
点検用取り外し式
中量
アングル柵
ライン引き
インターフォン
防護柵
ステンレスマット
グレーチング
マグネット用ボード使用
上部ルーバー
車止めブロック
吹付断熱現し
勾配折点
1/12勾配
跳ね出しスラブ天端：3FL+1100
下部床開口
L-75x75x6(通し)
GB-F t21+21
DS
1/100

凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検□600□
	化粧床下点検□600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者		法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢	設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

3階平面詳細図（4）

設計番号	図面番号
	A — 075

縮尺 1/A1: 50 A3:100　日付 2019・02・28　No

隣地境界線

目隠フェンス

屋外スロープ２

屋外階段２

屋外通路３

屋上広場

屋上緑化２

雨水桝 D 106 雨水桝□300 A

雨水桝 D 107

雨水桝 D 107 雨水桝□500 A

雨水桝 D 106

雨水利用タンク

グレーチング D 228

手摺 D 417

ガラス手摺 D 403

下部手摺 D 417

点字ブロック D 402

1/12勾配

UP

タイル段鼻部分ノンスリップ

6,000

5,500

6,000

2,630

2,295

2,260

1,925

屋根１

D 204 ルーフドレン

D 212 D 213

3,700

下部ホール外壁ライン

下部ホール内ライン

工作物

Exp.j

建築物

350 200

2,650

6,820

侵入防止チェーン

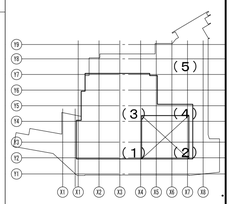
Y9 Y8

X4 X5 X6 X7 X8

凡　例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場（特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN



N

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣　正邦	一級建築士 第359522号 松浦　暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

3階平面詳細図（5）

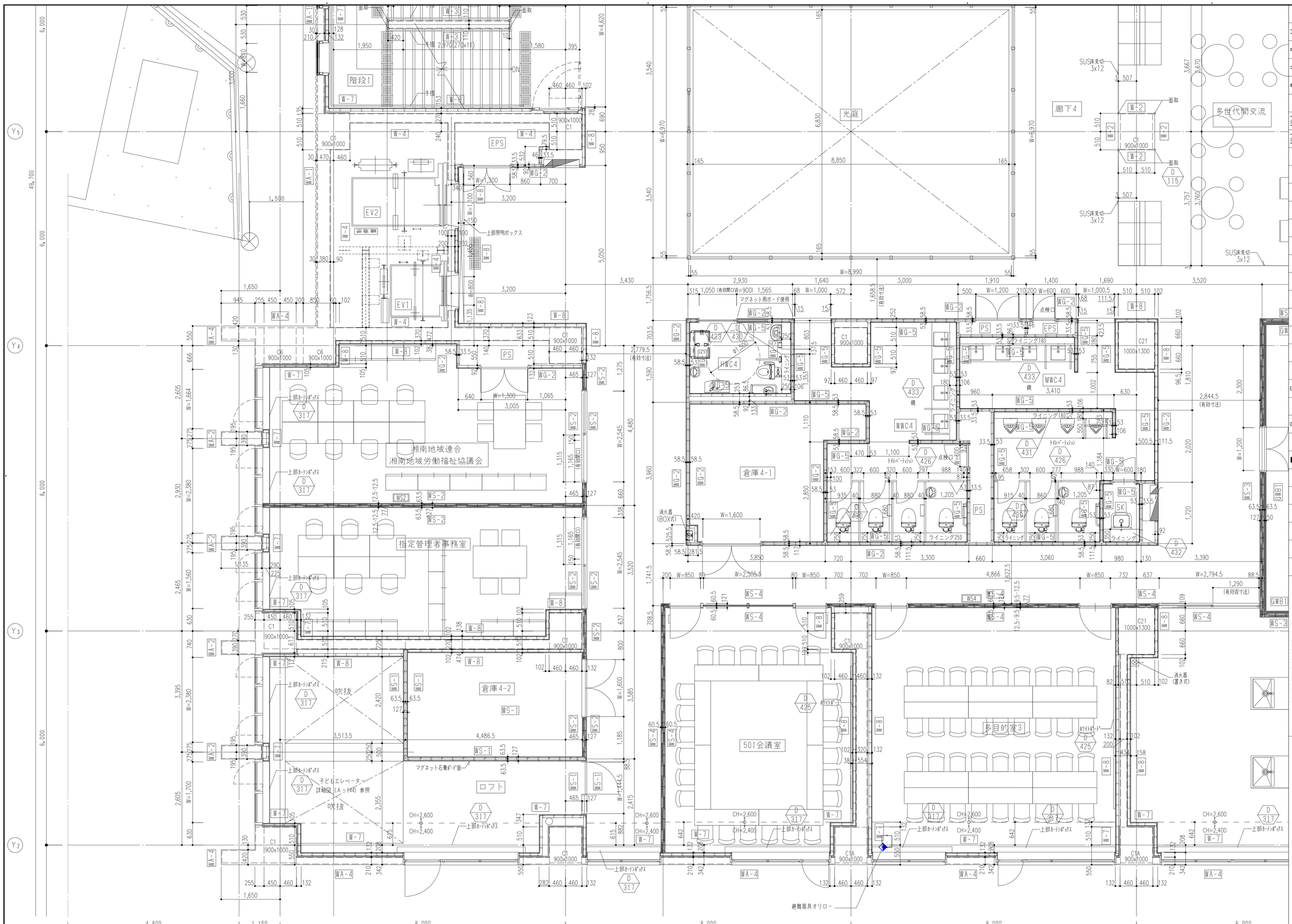
設計番号

図面番号 A — 076

縮尺 1/A1: 50 A3:100

日付 2019・02・28

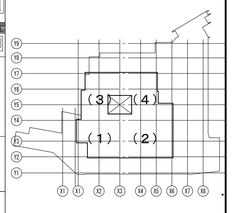
No



凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場（特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	植受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル（特記なきはt0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢		設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

4階平面詳細図（1）

設計番号	図面番号
	A — 077

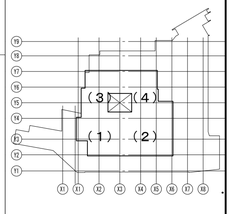
縮尺	日付	No
1/A1: 50 A3:100	2019・02・28	

光庭
廊下4
多世代間交流
機械室3
屋根2
倉庫4-1
501会議室
多目的室3
調理室
WWC4
自販機
消火器（置き式）
食器棚 ※詳細は25.家具製作図に依る
伸縮目地 ø3,000以内
消防活動用固定はしご
スチール手摺 4FL+1325
横引ドレイン 125ø
パラペット天端 4FL+1100
パラペット天端 4FL+700
ルーフドレン
オーバーフロー管
避難器具オリロー
SUS床見切 3x12
アクセスポール
上部カーテンボックス
ライニング
ライニング180
ライニング250
トイレパーティション
マグネット用ボード使用
点検口
W=8,990
W=6,970
49,700
8,000
6,000
6,000
8,000
6,000
6,000
6,000
6,000
Y5
Y4
Y3
Y2
X3
X4
X5
X6
X7

凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600ø）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100ø 下部：連通管 VP200ø半割り
	釜場（特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600ø
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80ø）
φD-2	竪樋（100ø）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50ø
	雨水桝
	桶受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

4階平面詳細図（2）

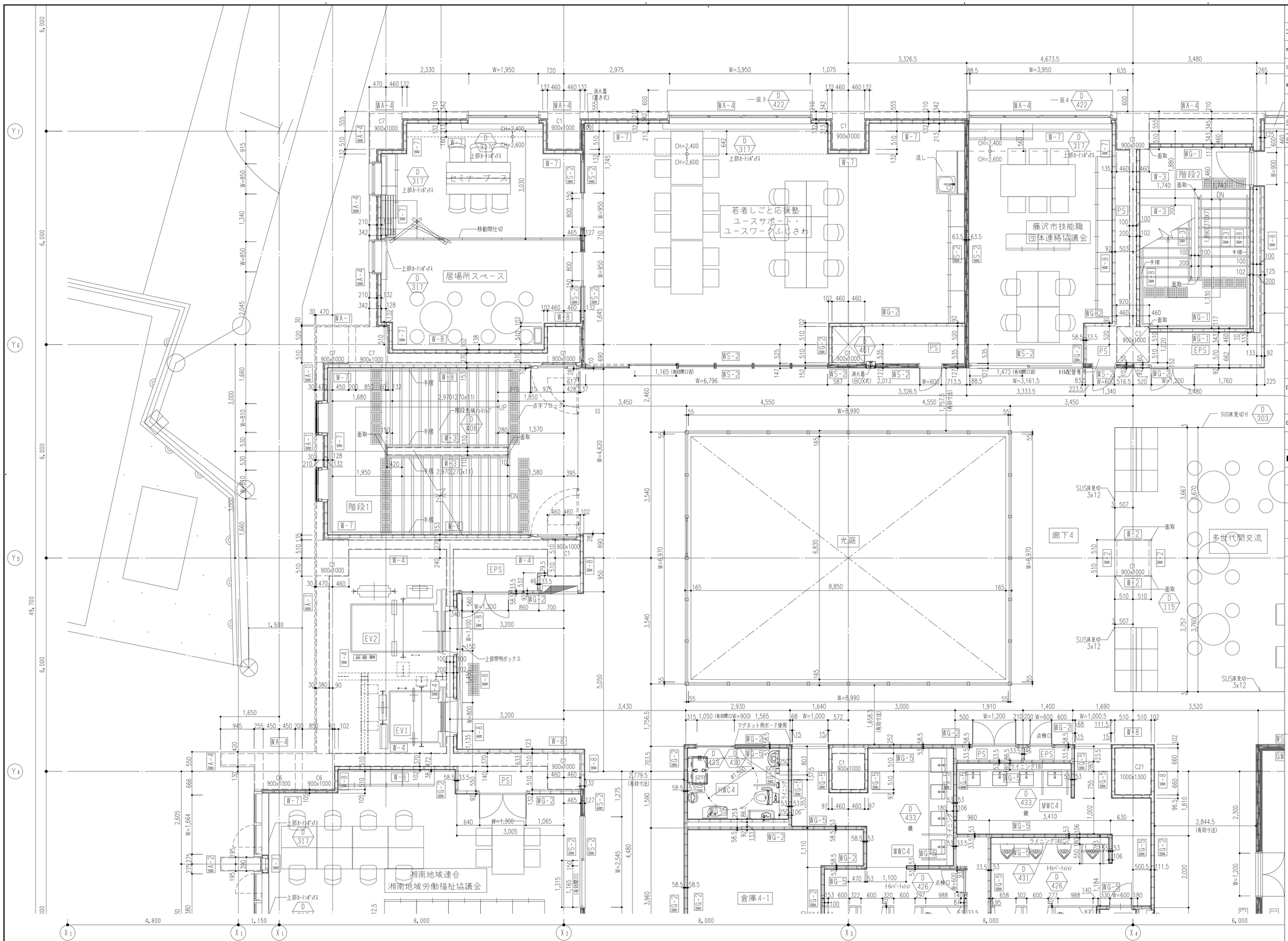
設計番号

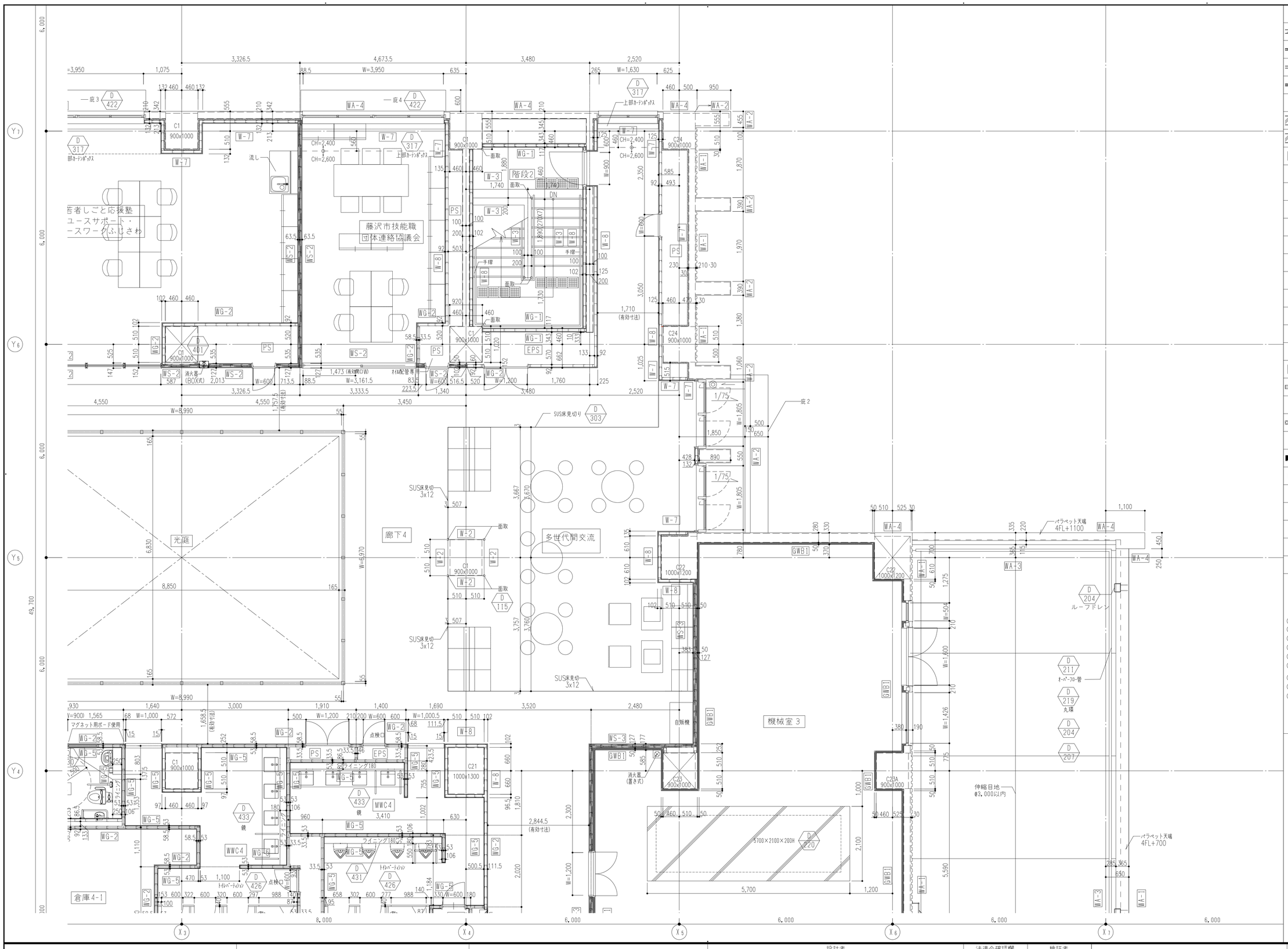
図面番号 A — 078

縮尺 1/A1: 50 A3:100

日付 2019・02・28

No

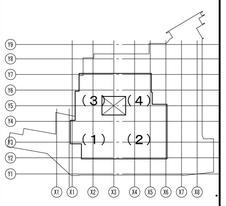

Y7
Y6
Y5
Y4
X1
X2
X3
X4
居場所スペース
ゼミナールス
若者しごと応援塾
ユースサポート・
ユースワークふじさわ
藤沢市技能職
団体連絡協議会
移動間仕切
階段1
階段2
EV1
EV2
EPS
PS
光庭
廊下4
多世代間交流
倉庫4-1
湘南地域連合
湘南地域労働福祉協議会
上部ガーデンボックス
上部照明ボックス
点字ブロック
SUS床見切り
SUS床見切
3x12
W=8,990
W=6,796
W=3,161.5
W=3,333.5
W=1,200
W=1,300
W=1,100
W=1,000
W=600
W=1,000.5
W=3,950
W=1,950
W=3,950
W=4,620
W=6,970
W=2,545
W=1,664
W=1,200
W=900
W=950
W=850
W=810
W=1,340
W=1,660
W=3,000
W=2,045
W=1,745
W=1,645
W=1,275
W=1,590
W=1,756.5
W=703.5
W=2,779.5
W=1,680
W=1,850
W=1,570
W=1,580
W=1,950
W=1,650
W=1,420
W=1,540
W=1,330
W=1,880
W=1,740
W=1,730
W=1,760
W=1,800
W=1,910
W=1,400
W=1,690
W=3,520
W=3,430
W=3,540
W=3,960
W=4,480
W=1,110
W=1,315
W=1,165
W=1,500
W=1,350
W=1,135
W=1,065
W=1,005
W=1,020
W=1,200
W=1,300
W=1,760
W=1,800
W=1,730
W=1,740
W=1,880
W=1,420
W=1,540
W=1,330
W=1,650



凡例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場（特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口□600□
	化粧床下点検口□600□
	タラップ (D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	桶受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋）（特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲 (D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
{ }	FLからの仕上レベル（特記なきは±0）

KEY PLAN

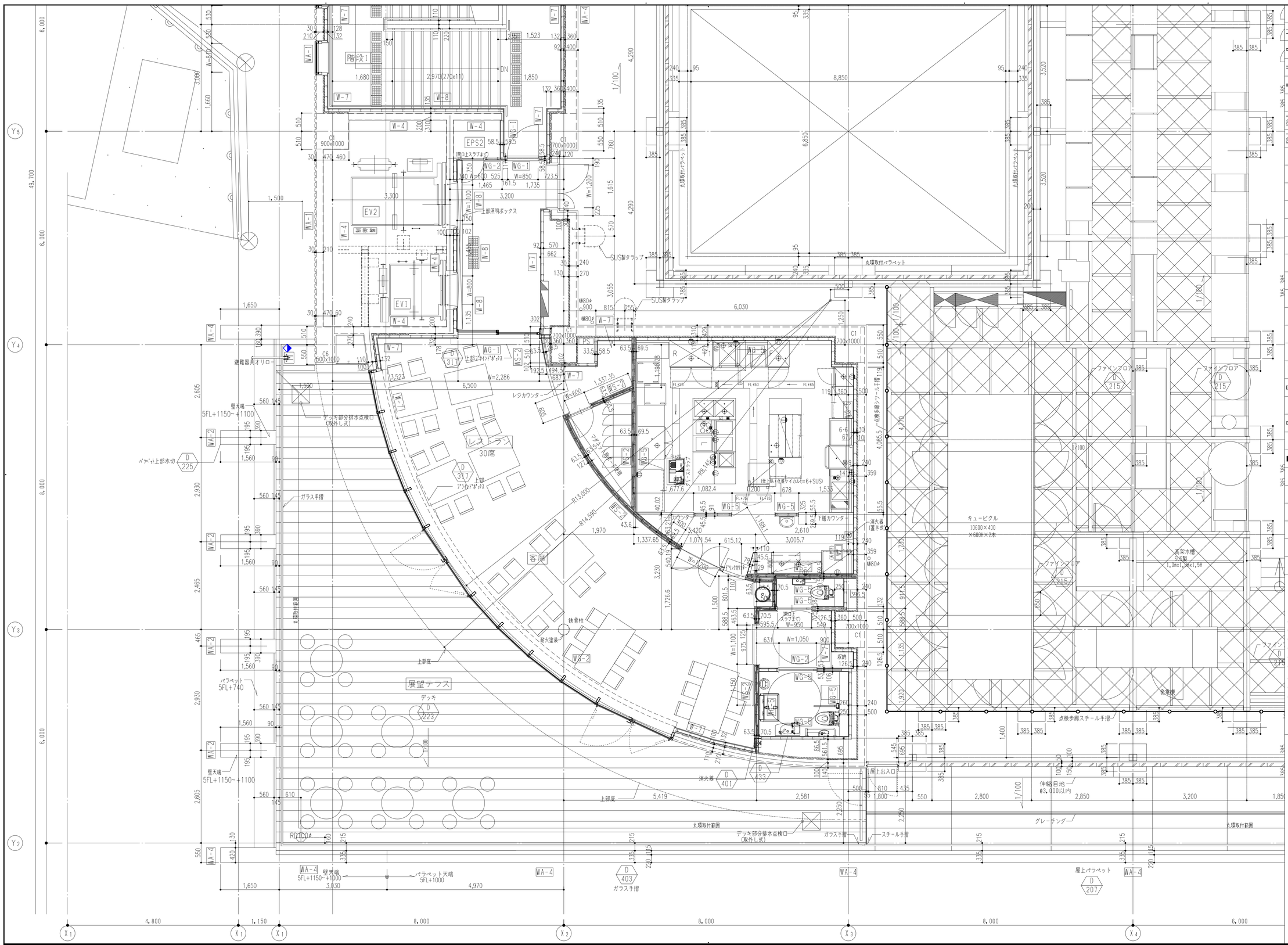


AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士	
第199758号		第359522号				第2092号	
永廣 正邦		松浦 暢				押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事		設計番号	図面番号 A — 080
4階平面詳細図（4）		縮尺 1/A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28
			No



凡　例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口□600□
	化粧床下点検口□600□
	タラップ　(D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（縞鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲　(D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

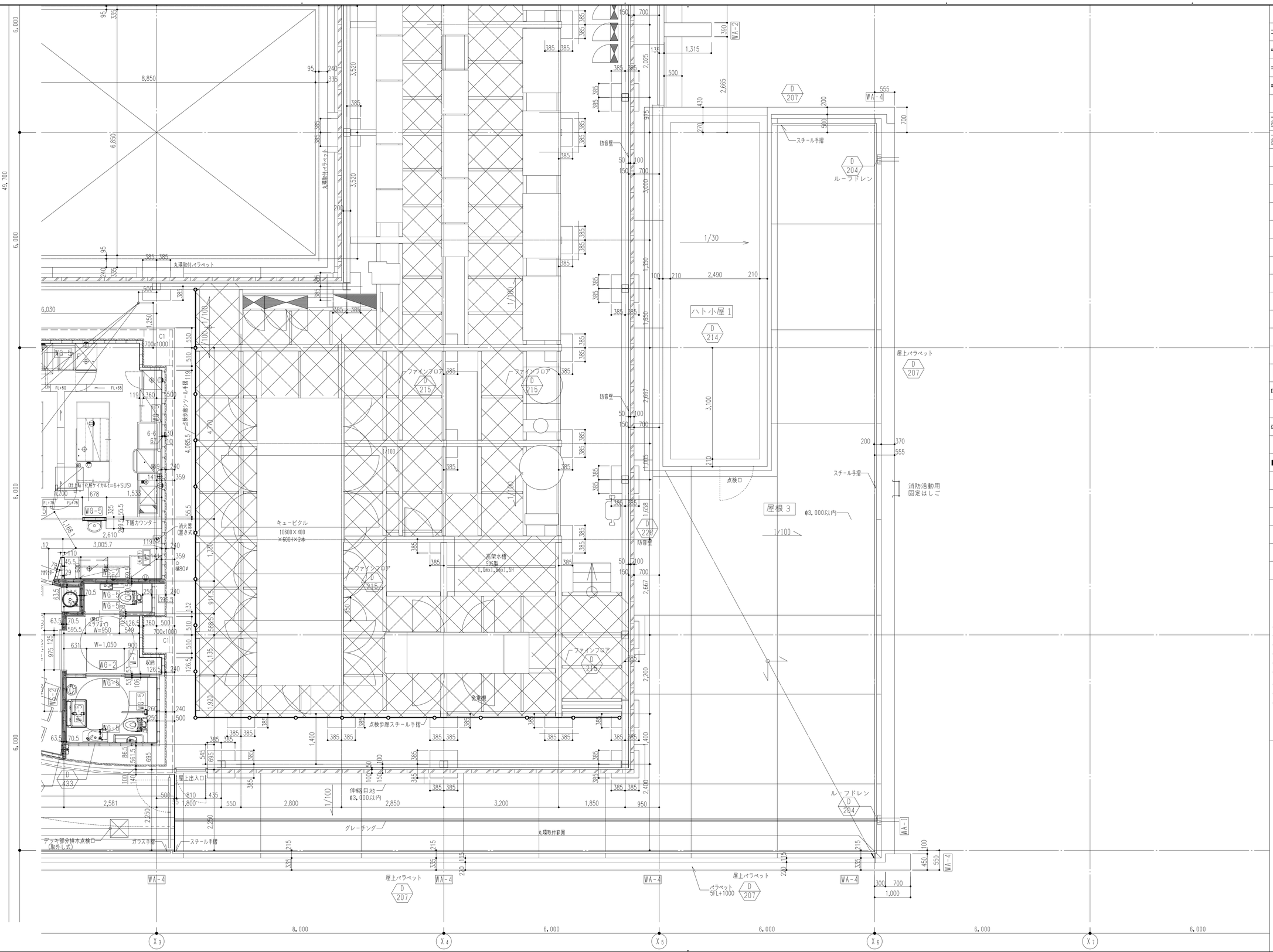
設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢					押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

5階平面詳細図（1）

設計番号	図面番号
	A — 081

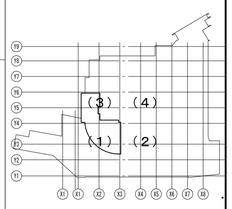
縮尺	日付	No
1/A1: 50 A3:100	2019・02・28	



凡　例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600Φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100Φ 下部：連通管 VP200Φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600Φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ　(D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
Φ0-1	竪樋（80Φ）
Φ0-2	竪樋（100Φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50Φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲　(D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢					押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

5階平面詳細図（2）

設計番号	図面番号
	A — 082
縮尺 1/A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28
	No

屋根4

屋上パラペット D 207

ルーフドレン D 204

伸縮目地 ∅3,000以内

スチール手摺

丸環取付パラペット

防音壁 D 226

点検口

1/100

EPS2

EV1

EV2

レストラン 30席

レジカウンター

SUS製タラップ

ファインフロア D 215

避難器具オリロー

ヤラキ部分排水点検口（取外し式）

パラペット上部水切 D 225

上部ブラインドボックス

上部照明ボックス

(壁の上スラブまで)

(仕上貼り化粧ケイカル t=6+SUS)

KEY PLAN

凡　例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600∅）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100∅ 下部：連通管 VP200∅半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600∅
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ　(D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
ΦD-1	竪樋（80∅）
ΦD-2	竪樋（100∅）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50∅
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲　(D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

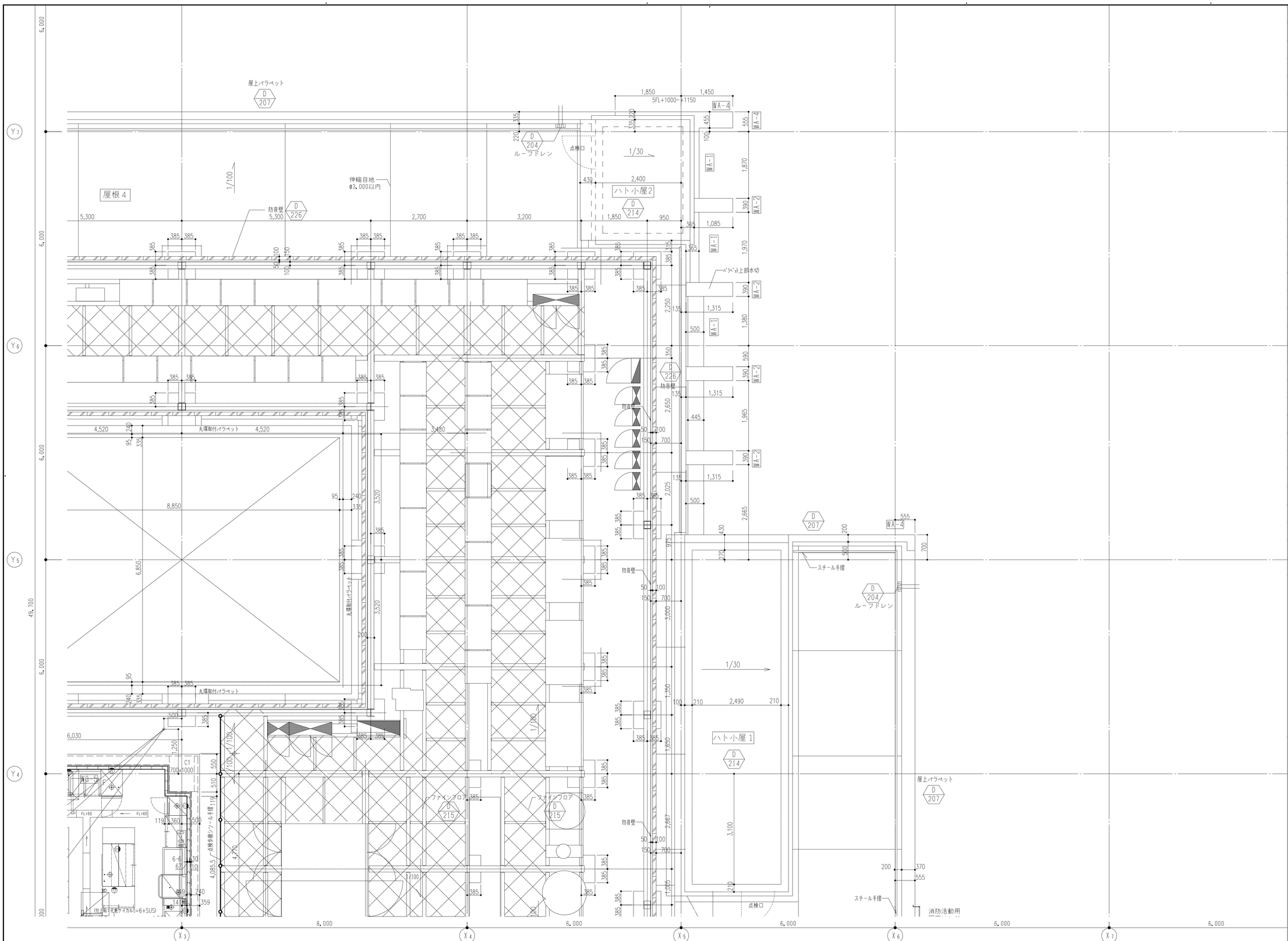
5階平面詳細図（3）

設計番号 A — 083

縮尺 1/A1: 50 A3:100

日付 2019・02・28

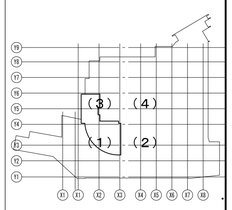
No



凡　例

	鉄筋コンクリート
	鉄筋コンクリート
	軽量鉄骨下地間仕切壁
	軽量鉄骨下地間仕切壁（遮音）
W-1	壁符号
	人通孔（600φ）、手掛け、足掛け（SL+600以下を除く）
	上部：通気管 VP100φ 下部：連通管 VP200φ半割り
	釜場 （特記なきはW600×D900×H600）
M	マンホール 600φ
	床下点検口600□
	化粧床下点検口600□
	タラップ　(D-402参照)
	タラップ（背かご付）(D-403参照)
φD-1	竪樋（80φ）
φD-2	竪樋（100φ）
	ルーフドレイン
OF	オーバーフロー管 SUS50φ
	雨水桝
	樋受石
	設備機械基礎（特記なきはH150）
	グレーチング（ノンスリップ）
	排水目皿（蓋付）
	配線ピット（鋳鋼板蓋） （特記なきはH=200）
	点字鋲、誘導鋲　(D-416参照)
	屋内消火栓（消火器併設タイプ）
	屋内消火栓
	消火器（埋込タイプ）(D-407参照)
	非常用進入口
[ ]	FLからの仕上レベル （特記なきは±0）

KEY PLAN



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号		第2092号	
永廣　正邦	松浦　輔		押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

5階平面詳細図（4）

設計番号	図面番号
	A — 084

縮尺	日付	No
1/ A1:50 A3:100	2019・02・28	

控室

ピアノ庫

壁：LGS100+GB(R)t=15x2+GB(R)t=9.5の上
不燃化粧板

上部キャットウォーク

ホール
［300席（内固定216席、車椅子2席）］

ホール側：LGS+構造用合板t=15の上
+サカイリブ横貼り
（ダイライト下地 タモ練付）

DS

可動イス

SF+GB(R)t15x2+GB(R)t9.5の上
けいそう土クロス

LGS
(GW32K t50)
+不燃化粧ファブリック
+アルミルーバー焼付塗装 30x50+30x100 t=0.6

消火器

調整室

(SL-100)

前室3

前室2

親子席

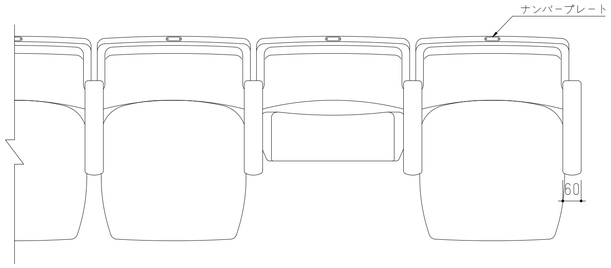
手摺

道路境界線

Y9 Y8 Y7 Y6 Y5

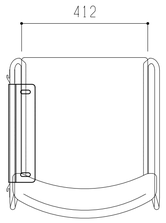
X5 X6 X7 X8

| | | |



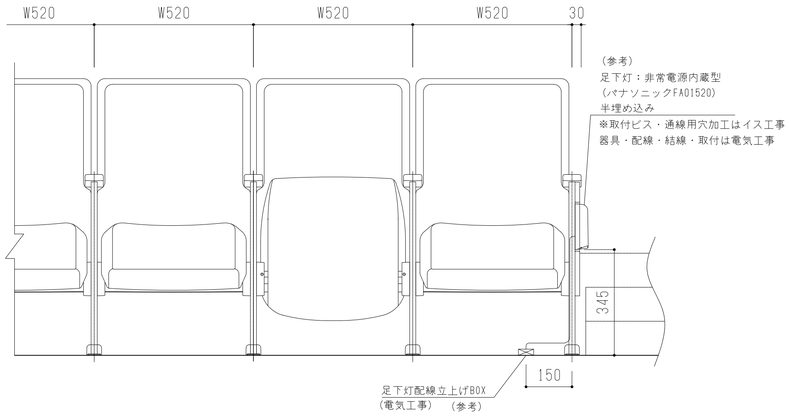
■ 固定席仕様表 ■

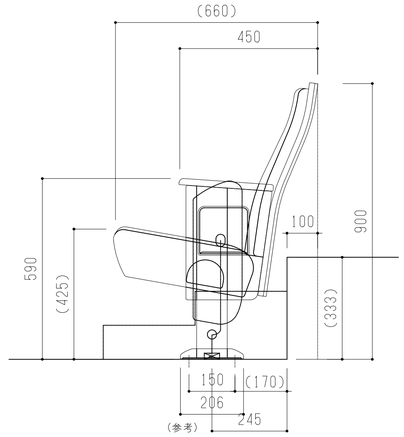
名称	仕様
座	座：鋼板プレス枠　波形スプリング　モールドウレタン入り張り包み（着脱可能）
	座自動緩起立機構付
	上張り KM-46（オールドローズ）
	座裏板：　張包み
背	背張り上り品：成形合板芯　成形ウレタンフォーム入り張り包み
	背裏：成形合板　ポリウレタン塗装　PM-35
	上張り KM-46（オールドローズ）
肘・脚	肘当て：木製　ポリウレタン塗装　PM-35
	脚：角鋼管　合成樹脂焼付塗装（黒色）　脚力バー：合成樹脂成形品（黒色）
	脚化粧（側用）：合板　ポリウレタン塗装　PM-35　　床に固定
	上張り KM-46（オールドローズ）
席番表示ﾌﾟﾚｰﾄ	ﾎﾟﾘｶｰﾎﾞﾈｰﾄ（t 0.5）ｼﾙｸｽｸﾘｰﾝ印刷　裏刷り

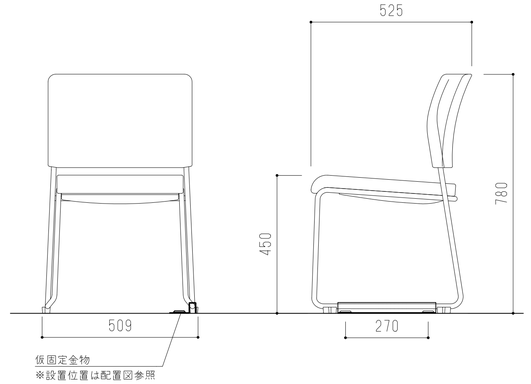


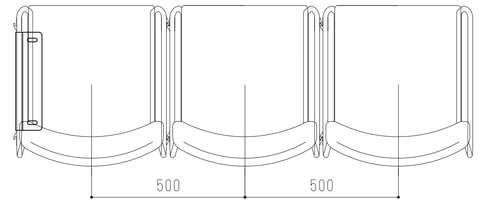
■ 可動席仕様表 ■

名称	仕様
座	合成樹脂成形品 ウレタンフォーム入り張り包み
	上張り KM-46（オールドローズ）
背	合成樹脂成形品 ウレタンフォーム入り張り包み
	上張り KM-46（オールドローズ）
肘・脚	脚 鋼管 合成樹脂焼付塗装　ブラック
	脚先　合成樹脂成形品
	スタッキング式　　ギャンギング式
	上張り KM-46（オールドローズ）
位置決め金物	t 2.3鋼板　合成樹脂焼付塗装　ブラック



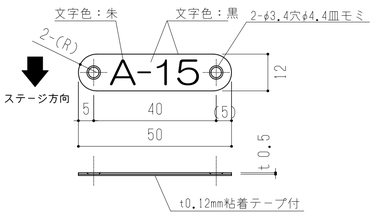






■ 席番プレート ■

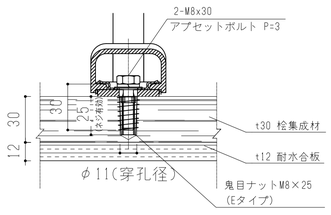
＊表記イメージ



ナンバープレート詳細図　S=1:1（参考）

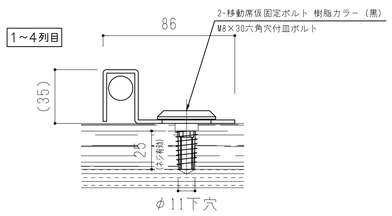
材質：t0.5 アルミ
地色：シルバー色　表面処理：艶消し仕上げ
文字：印刷表示、朱黒 2色刷り
書体：ＵＤ新丸ゴ（丸ゴシック体）
※2-丸皿タッピンφ2x10にて取付。

■ 固定席床固定詳細図 ■

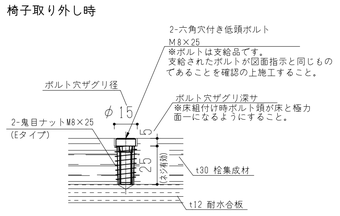


■ 可動席床固定詳細図 ■

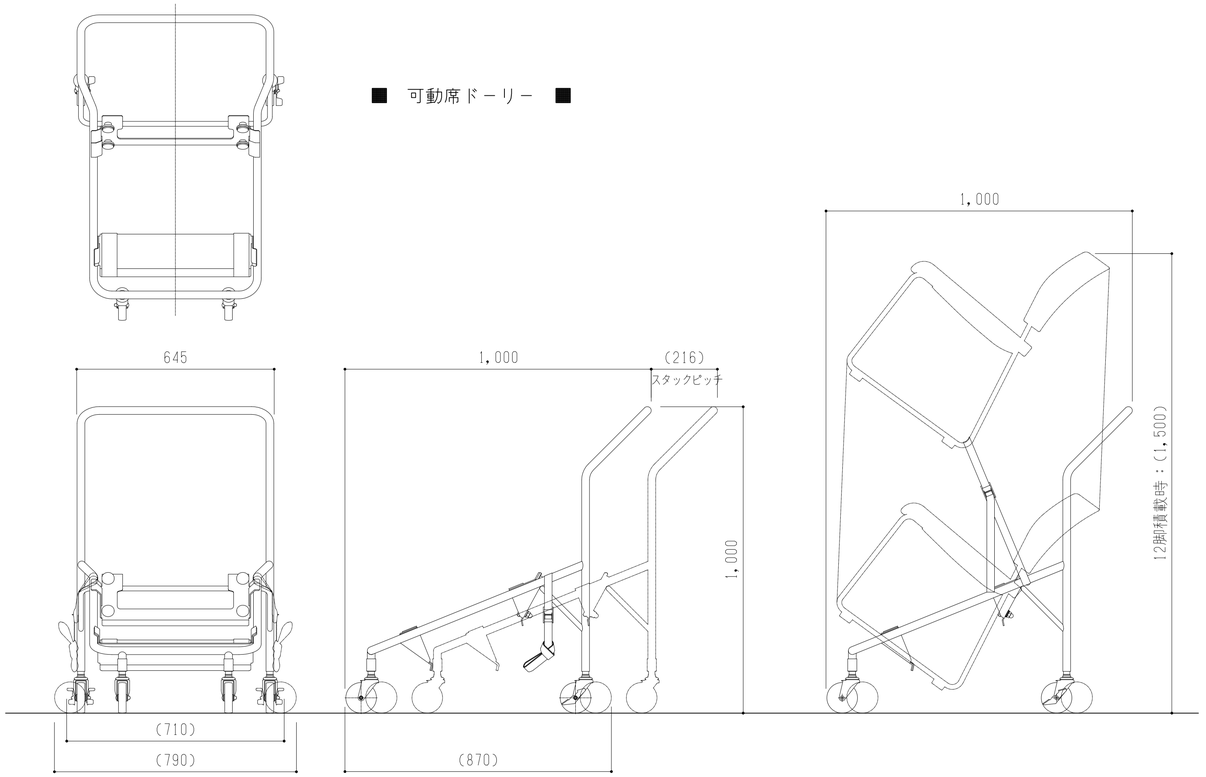
椅子取り付け時



椅子取り外し時



■ 可動席ドーリー ■



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	一級建築士事務所登録 東京第３８０号	鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店	一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢					押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
		A — 086
ホール詳細図（２）	縮尺 1/A1:30 A3:60	日付 2019・02・28
		No

特記仕様書

一般事項

適用規準類

本特記仕様を適用するにあたって、建築基準法、労働安全衛生法等の法令、規則による他、必要に応じて、以下に定める指針、規準、規格等を適用する。

懸垂物安全指針・同解説
建築設備耐震設計・施工指針
JAIET-M-6030-2　吊物機構安全指針・同解説
JAIET-M-5040-1　床機構安全指針・同解説
日本工業規格（ＪＩＳ）
電気設備技術基準
劇場等演出空間電気工事設備指針2014
電気学会電気規格調査会標準規格（JEC）
日本電機工業会規格（JEM）
内線規程（JEAC8001-2011）

設計用荷重

設計用荷重は下記によるものとし、各荷重に対し必要な強度を備えなければならない。
（1）自重
（2）積載荷重
（3）駆動装置の起動、停止（加減速）により作用する衝撃荷重（免俸荷重）
（4）駆動装置定常運転により作用する荷重（駆動荷重）
（5）地震荷重

基準強度

機器機材の強度は、建築基準法の規定及び各種基準による他、用途、使用頻度、荷重状況、信頼性等を考慮して、各メーカの示す、選定条件を満たす使用範囲内のものとする。

特許に関する件

材料・機構又は、工法が第三者の所有する特許権にふれるおそれのある場合は、あらかじめ、その権利の使用に対する諸手続きを行い、第三者の権利を侵害する様な行為をしてはならない。万一、第三者の特許権を侵害した場合は、請負者の責任において、解決する。

無償保守及び保証期間

本工事引渡し後保証期間内に生じた製作・施工の欠陥による故障・破損は、速やかに無償修理を行う。
又、本工事引渡し日から 3カ月の間に一回の保守点検調整を行う。
尚、機器の保証期間は、引渡し日から 12カ月間とする。

機器性能

電　動　機	機構の用途、荷重、昇降（移動）速度、起動停止制御、速度制御、周囲環境等に適した形式、容量のものを選定する。
減　速　機	荷重、減速比、使用時の回転数（変速式にあっては回転数範囲）、効率、逆転効率等の適したものを選定する。
ブレーキ	機構の荷重、速度、制動時の滑り等に適したものであり、電動機の起動、停止と連携して動作すること。ブレーキの保持はスプリングによるなど、動力を必要としない方式とし、制止トルクは停止状態を保持するために必要なトルクの1.5倍以上とする。
巻取ドラム	巻溝は使用するワイヤロープに適した形状とし、巻取ドラムの直径は使用するワイヤロープの公称径またはロープ径の３０倍以上とする。巻取ドラムの巻溝と巻取るワイヤロープとのなす角度は４度以下とする。
機　械　台	十分な強度の部材を組合せた上に、電動機・減速機・巻取ドラム等の駆動機器を精密に組立て、複数のボルト、又はアンカボルトにて固定する。
滑　車　類	用途、荷重に適したものを堅固に掲え付ける。滑車のワイヤ溝とワイヤロープとのなす角度（フリートアングル）は２度以下とする。ワイヤ溝は使用するワイヤロープに適した加工をし、その直径（ピッチ径）は使用するワイヤロープの公称径またはロープ径の２５倍以上とする。 ただし滑車の直径については、ワイヤ受け車等の荷重の支持を目的としないもの及び安全上支障のない用途ではこの限りではない。
バトン （吊物用パイプ）	用途、荷重に応じて適切なバトン形式、サイズを選定する。吊荷重に変動のあるバトンには許容積載荷重を表示する。
ワイヤロープ	ＪＩＳマーク表示品またはこれと同等の製品とする。ワイヤロープに加わる荷重は、定格積載の機構静止時においてＪＩＳ破断荷重の１／１０以下とする。 ワイヤロープとバトンその他の機構機器等との接続は適切な取付金物等を用い端部は一本ごとに緊結する。

リミットスイッチ	動力を用いた機構もしくは電気的な確認を必要とする機構において、使用条件に応じ、プランジャ型、ローラレバー型等のリミットスイッチを、カム、けり金具、又はフレーム本体等で動作させ、用途上必要な停止位置、動作範囲の限度、または確認位置で、自動的に電気回路の開閉が行えるものとする。 必要に応じ、動作範囲を規定するリミットスイッチの外側に、ファイナルスイッチを設け、強制停止する制御回路を設ける。
制　御　盤	各装置の使用目的に応じた配線用遮断器・電磁接触器・補助継電器・端子台等を取付板に組立てる。操作盤（操作部）の操作に対応して、舞台機構を適切に起動停止し、速度等を制御する。
操　作　盤	適切に操作できる場所に設置し、操作に必要な総ての押釦・表示灯等を組込む。配列・意匠・塗装色等は監督職員の承諾を受ける。
過負荷防止装置	荷重が設計荷重（許容荷重）以上になった時、駆動装置の作動を自動的に停止、又は警報を発する。（懸垂物安全指針・同解説の適用範囲のものに取付ける。）
幕　　地	仕様書及び、設計図書に基づき、各幕地の製作及び吊込みをする。各幕地は見本品を提出し、監理者の承諾を受けた後、仕立てを行う。製作に際し、消防法に基づき、防炎加工を施し、防炎マークを各幕裾（裏面）に貼り付ける。

塗装

塗　　装

工場において加工又は組立てを終了した部材は、検査終了後、発塗に先立ち錆止め塗装、仕上げ塗装を施す。但し、現場溶接部は、現場塗装をする。刷毛塗りは、刷毛目を揃え、塗り落し、たまり、流れあわ等の欠点の生じない様に一様に塗る。吹き付け塗装には、塗装用のスプレーガンを用い、ガンの種類、口径及び空気圧は、用いる塗料により適切なものを選び、吹きむらのないように塗装する。
鋼材を用いた主要な部材は、表－１による。制御盤、操作盤は表－２による。

表－１　合成樹脂調合ペイント塗装

	工　程	塗装回数	塗　装　種　別	重ね塗り乾燥時間	膜厚　μm
1	素地調整		不適当研磨剤、ワイヤーブラシ、スクレーパ等で赤錆及び浮きミルスケールは出来るだけ除去する。水分、油脂分、塵は清拭する。		
2	下　塗	1	JISK5621　2種　超速乾錆止ペイント	4時間以上	30以上
3	上　塗	1	JISK5516　1種（相当）合成樹脂調合ペイント	1時間以上	25以上

総合膜厚　55μm以上

表－２　メラミン樹脂焼付塗装

	工　程		塗　装　種　別	焼付温度 乾燥時間	膜厚　μm
1	素地こしらえ	素地調整	リン酸塩処理済鋼板 脱脂・表面研磨、素地面の不純物を除去		
		パテ処理	ポリエステルパテにて拾いパテ		
		パテ乾燥		常温4時間	
		パテ研ぎ	#150～#220ペーパー		
2	下　塗	下塗	アミノアルキド樹脂系下地塗料	130℃ 20～25分	20以上
		セッティング		10～15分	
3	中　塗	中塗	メラミンアルキド樹脂系塗料	130℃ 20～25分	20以上
		中研ぎ	#220～#320ペーパー		
4	上　塗	上塗	メラミンアルキド樹脂系塗料	130℃ 20～25分	20以上
		自然放冷			

総合膜厚　60μm以上

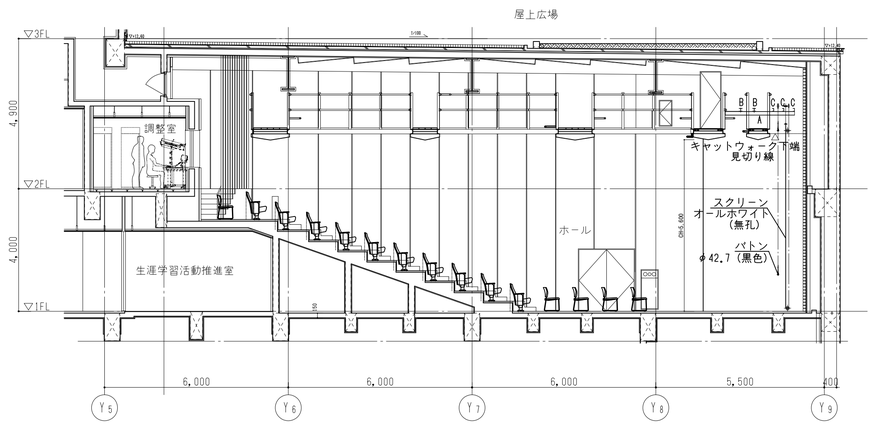
工事区分表

工　事　項　目	建築	電気	機構	照明	その他
すのこ工事一式 （主鉄骨、滑車駆動マシン受材、すのこ板並びに端部受材、アンカボルト、吊材、搬入用取外し式重並びに吊フック）	○				
すのこにおける舞台機構設備機器取付工事 （取付穴あけを含む）			○		
すのこにおける加工部の補強並びに錆止め塗装			○		
天井仕上げ及びスリット工事	○				
舞台機構制御盤までの一次側電源供給接続工事		○			
舞台機構制御盤からの二次側配管・配線工事			○		
控室・ピアノ庫の扉とバトンとのインターロック用スイッチ、及び吊物機構制御盤までの配管配線工事		○			
すのこ作業灯及びコンセント		○			
照明機器工事（ケーブル工事共）				○	
巻取スクリーンの製作・吊込工事			○		

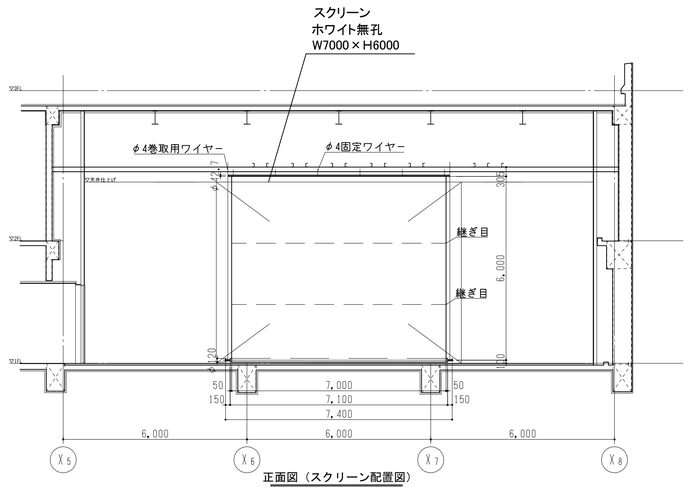
吊物機構仕様

No.	装　置　名　称	寸　法 (mm)	機　構 方　式	駆　動　方　式	固定質量 (kg)	積載質量 (kg)	速　度 (m/min)	ワイヤ径 (mm)	吊　数	動　力 (kW)	操作方式	制御方式	レベル 設定	過負荷 検知	備　考
1	バトン	8,000	巻取	電動昇降ワイヤ巻取式	40	200	10	4	4	0．4	釦スイッチ	直入始動	—	○	
2	スクリーン	7,000	昇降	電動下巻昇降式	140		7	4	2	0．2	釦スイッチ	直入始動	—	—	幕地：ホワイト（H5.9m）

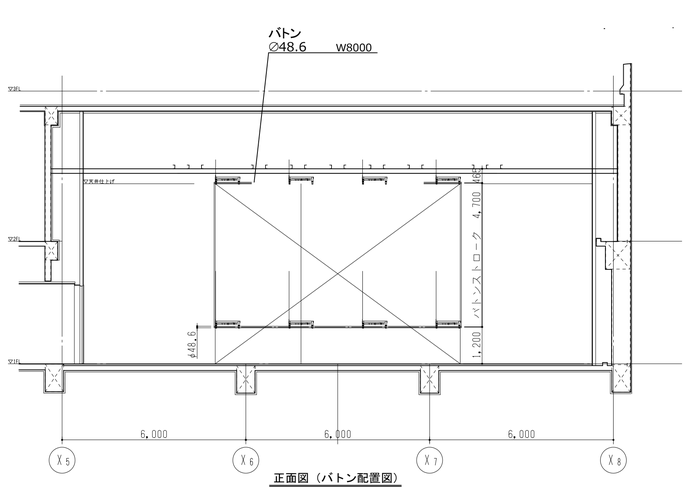
※インターロックスイッチ設置
　控え室、ピアノ庫の扉が施錠されている状態のみ昇降可能とする。
（インターロック用スイッチ（控室・ピアノ庫の扉）及び吊物機構制御盤までの配管配線工事は別途（電気）工事。）



断　面　図



正面図（スクリーン配置図）



正面図（バトン配置図）

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣　正邦		一級建築士 第359522号 松浦　暢		設備設計一級建築士 第2092号 押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 087
ホール舞台機構全体図（１）	縮尺 1/A1:100 A3:200	日付 2019・02・28	No

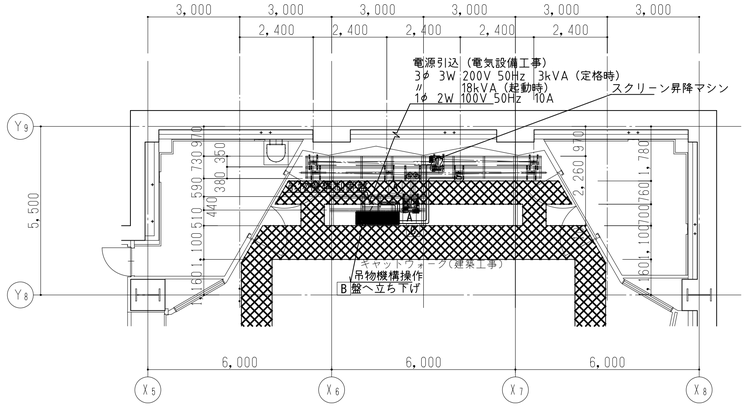
マシンリスト

記 号	名　　称	3φ 200V
M1	バトン	0.4KW
M2	スクリーン	0.2KW

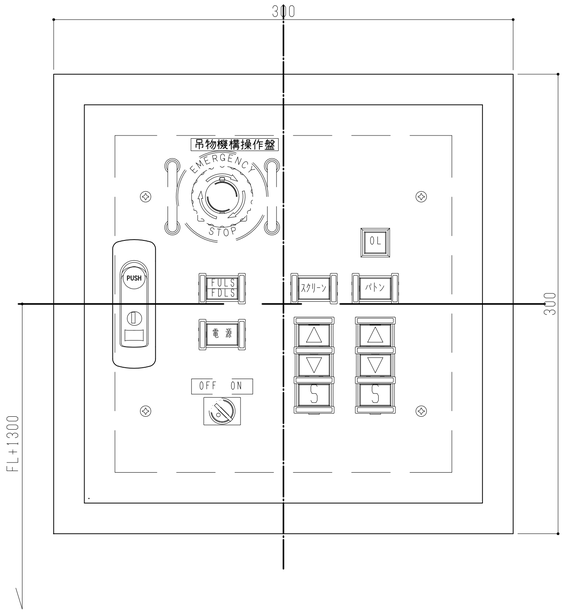
記号	配線サイズ
A	EM- CE-2sq-4C
	EM- CEE1.25sq-8C
B	EM-KPEE0.75sq-5Pr
	EM-KPEE0.75sq-10Pr
C	EM- CEE1.25sq-2C

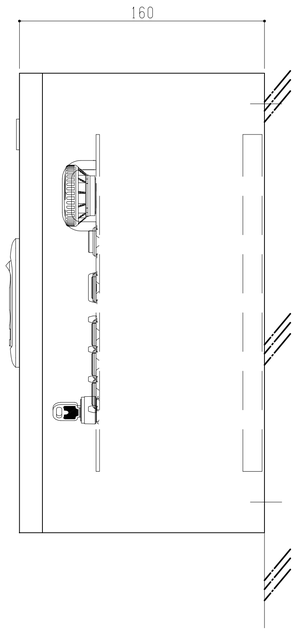
※　配管サイズは現場電気仕様による

※ ▱ はFLSを示す



スノコ機器配置図

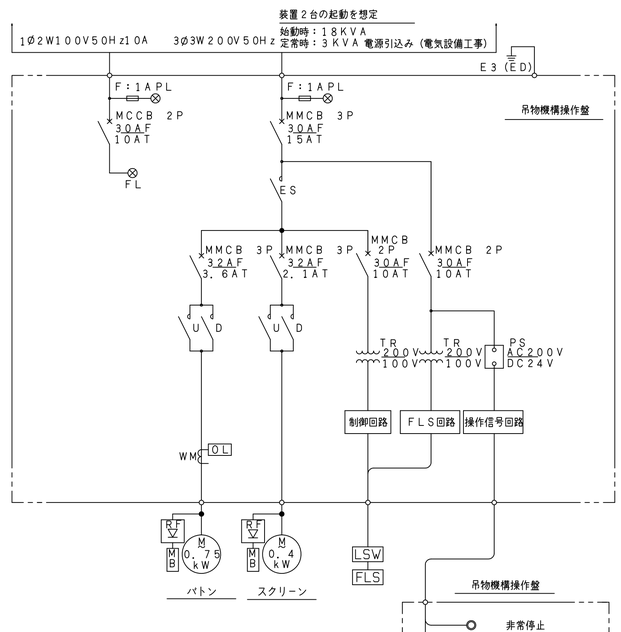




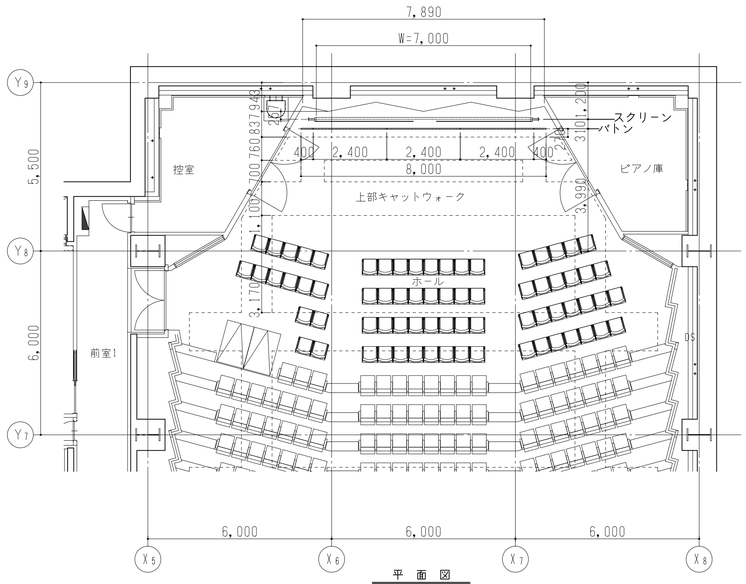
吊物操作盤外形図

A1：1/2

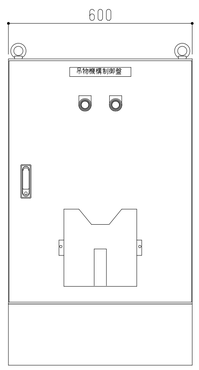
A3：1/4

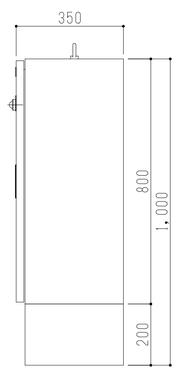


単線結線図



平　面　図





吊物制御盤外形図

A1：1/10

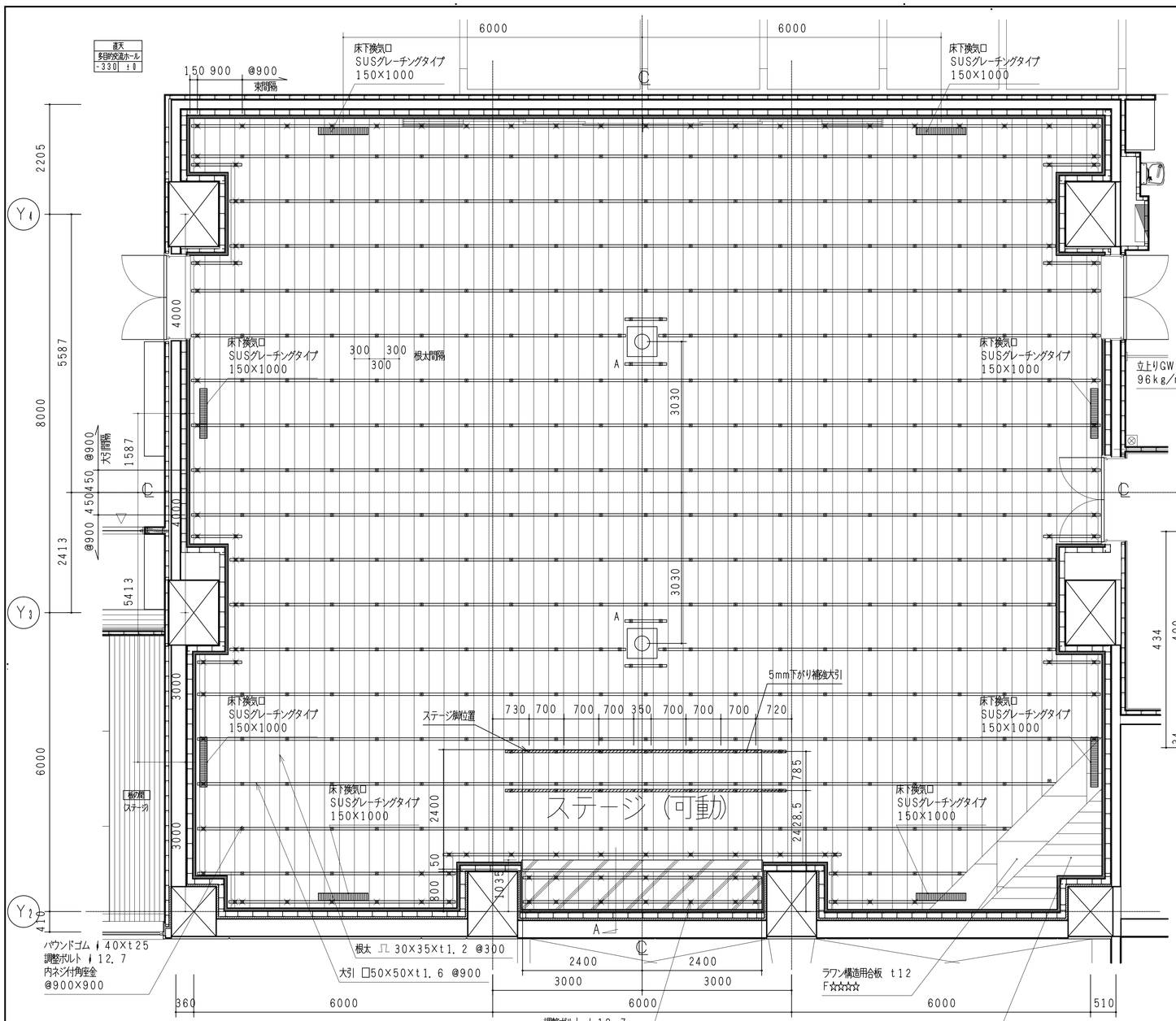
A3：1/20

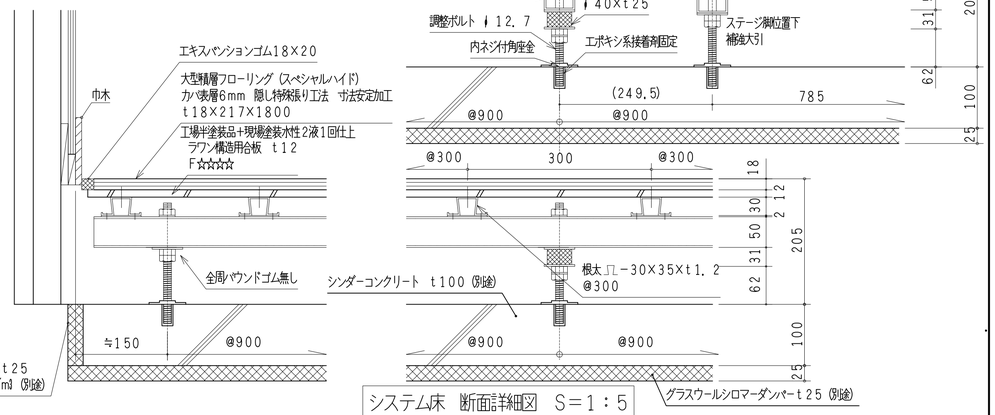
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

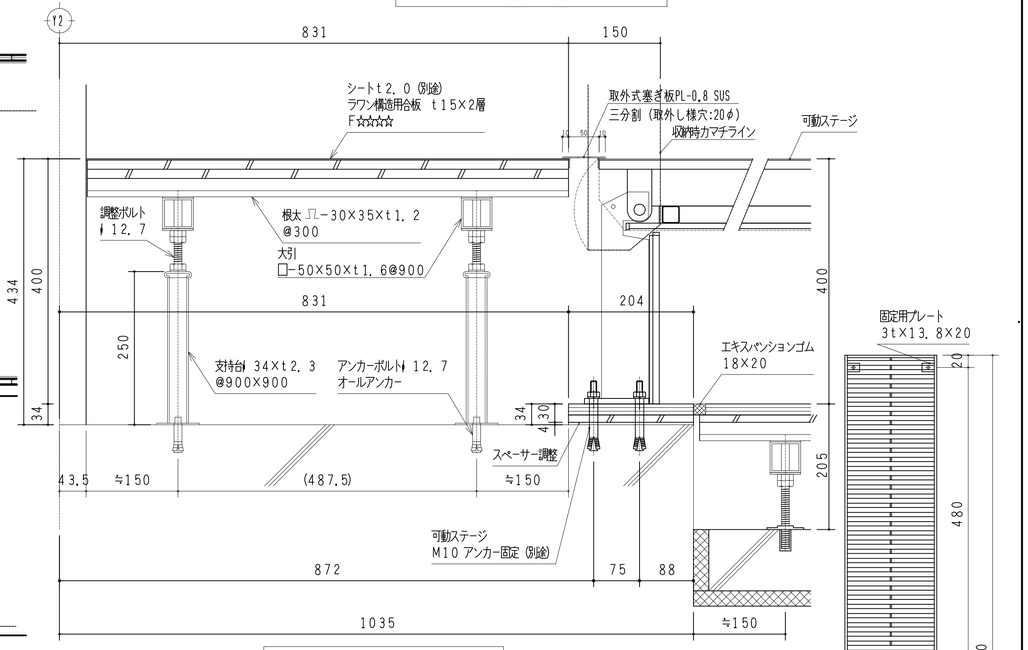
設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士	
第199758号		第359522号				第2092号	
永廣　正邦		松浦　暢				押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
ホール舞台機構全体図（２）	縮尺 1/ A1:- A3:- / 日付 2019・02・28	A — 088 / No





システム床 断面詳細図 S=1:5



A矢視 断面詳細図 S=1:5

床下換気口 断面詳細図 S=1:5

室名	床仕上材仕様
体育室	大型積層フローリング (スペシャルハイド) カバ表層6mm 隠し特殊張り工法 寸法安定加工 t18X217X1800 工場塗装品+現場塗装水性2液1回仕上 ラワン構造用合板 t12 F☆☆☆☆
ステージ後ろ床	シートt2 (別途) ラワン構造用合板 t15X2層 F☆☆☆☆

室名	鋼製床下地仕様
体育室 H=205 =434 900-1-50型	根太 ⎍-30X35Xt1.2 @300 大引 □50X50Xt1.6 @900 部 補強大引□50X50Xt1.6 バウンドゴム φ40Xt25 ⊗部 (全周 補強大引、H=434ステージ後) ゴム無し 調整ボルト φ12.7 @900X900 H=205部 内ネジ付座金 エポキシ系接着剤使用 H=434部 支持台 φ34.0Xt2.3 アンカーボルト φ12.7 オールアンカー 浮き上がり防止用

※全周:エキスパンションゴム18X20

室名	その他仕様
体育室	床下換気口 SUSグレーチングタイプ メッシュ付 150X1000 8ヶ所

床下基礎明細

記号	名称	数量
A	パドミントンポスト用	2 ヶ所

鋼製床下地性能表

使用上の安全性	鉛直載荷たわみ		繰返し衝撃性	弾力性			硬さ (G)
	最大たわみ量	最大残留たわみ量		弾力性値 (Y)	緩衝効果値 (U)	振動の減衰時間	
JIS A-6519 性能項目	14.7KN/m2 (1500kgf/m2) 積載時 (中央部) 各点の最大たわみ量は20mm以下	荷重除荷後15分間放置した後各点の残留たわみ量は1.5mm以下	JIS-A-1414に規定する質量30kgの砂袋をA点に高さ90cmから10回落下させた後 各部材及び接続部分の有害な破壊 緩み・外れなどがないこと	・最高値が1.378~0 ・最低値が1.378~-0.2	15~40	0.45秒以下	100以下
ジムエース 900-1-50型	A点 14.11 / B点 5.30	A点 0.49 / B点 0.21	目視で観察した結果 有害な 破壊 緩み 外れがないこと	A点 0.0109 / B点 0.046	A点 32.801 / B点 23.057	A点 0.136 / B点 0.080	84.64

[測定点] A点:載荷中央点 B点:対傾斜の近傍

[測定点] ジムエース 900-1-50型 (株)染野製作所 同等品以上の鉛直載荷試験は (1500kgf/m2) 以上の条件で行った
ジムエース 900-1-50型 (株)染野製作所 同等品以上の許容荷重は510kgf/m2

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第380号
鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第132号

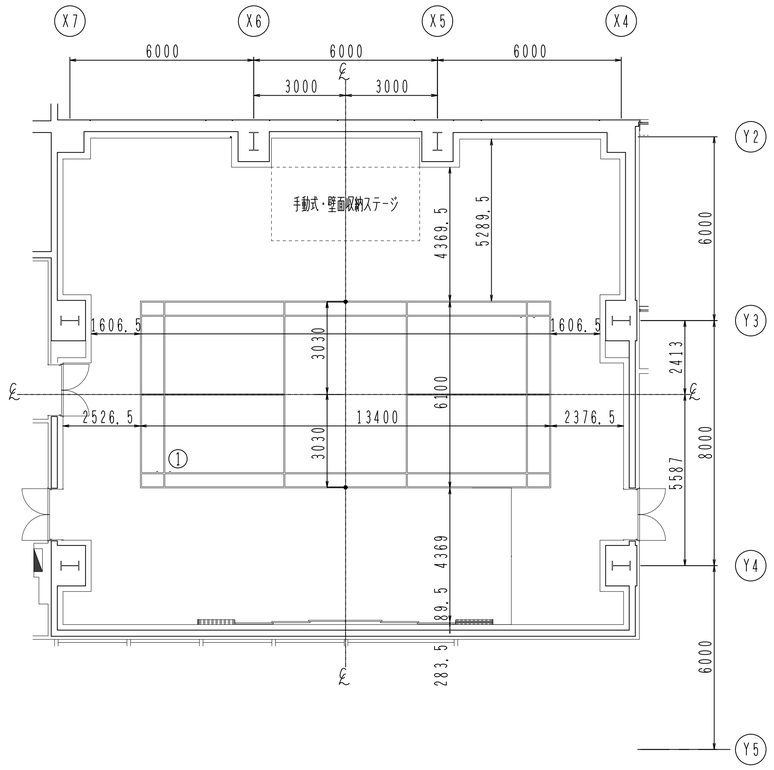
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

多目的交流ホール詳細図 (1)

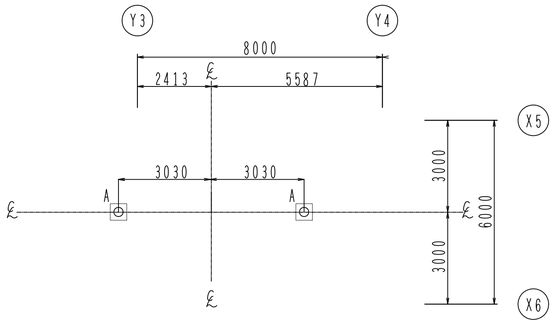
設計番号	図面番号
	A — 089

縮尺	日付	No
1/A1:50 A3:100	2019・02・28	



コート配置図S=1/100

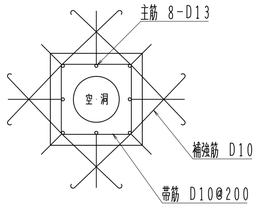
コートライン内訳表				
記号	種　別	寸　法	面数	備　考
①	バドミントンコート (正式：ダブルス)	13400× 6100	1面	全線緑色　　ライン幅40㎜

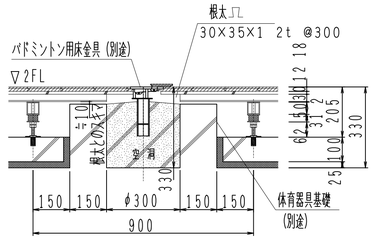


基礎配置図 S=1/100

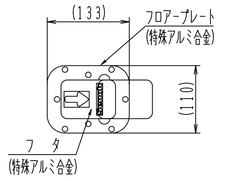
基礎内訳表		
A	バドミントン用基礎	2個
合　　計		2個

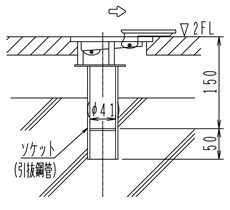
基礎詳細 A S=1/20
(バドミントン用)

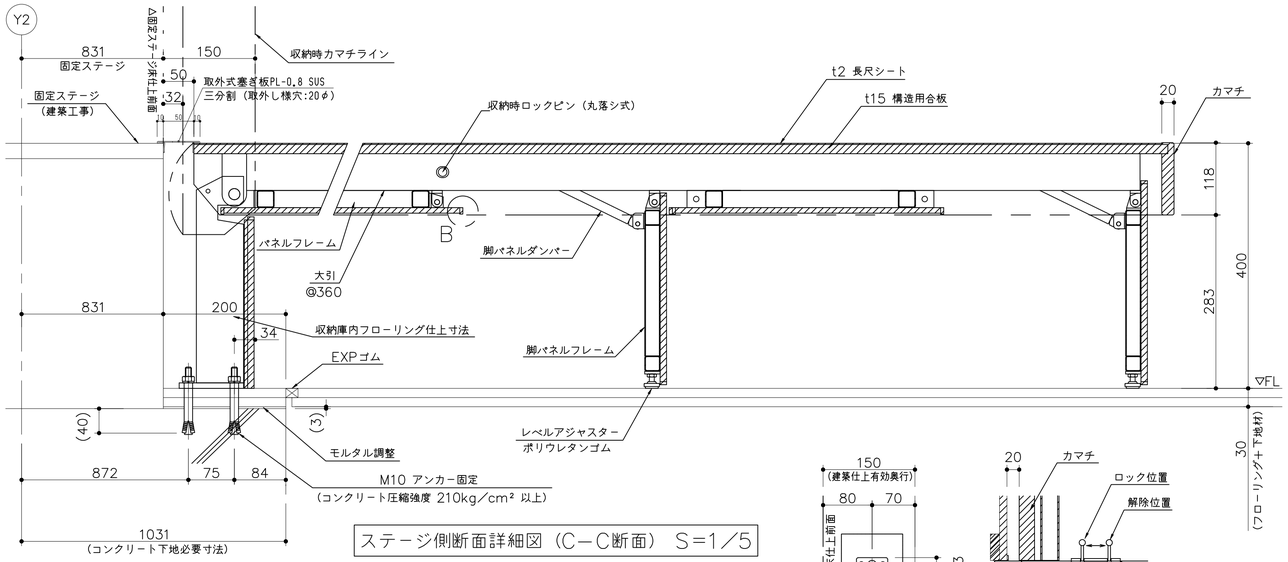




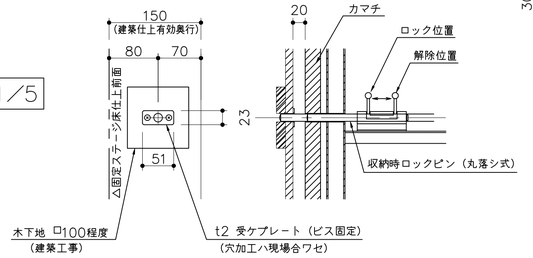
KD0540 床金具AS型φ40用
(バドミントン用)　S=1/5



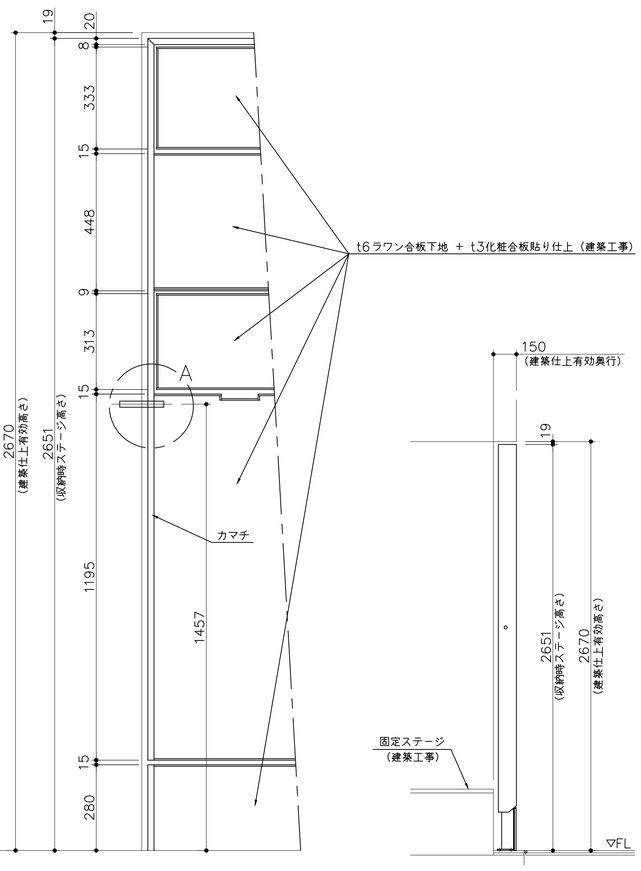




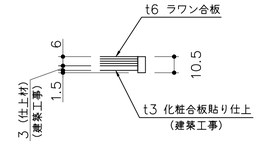
ステージ側断面詳細図（C－C断面） S=1／5



A部：収納時ロック部詳細図 S=1／5

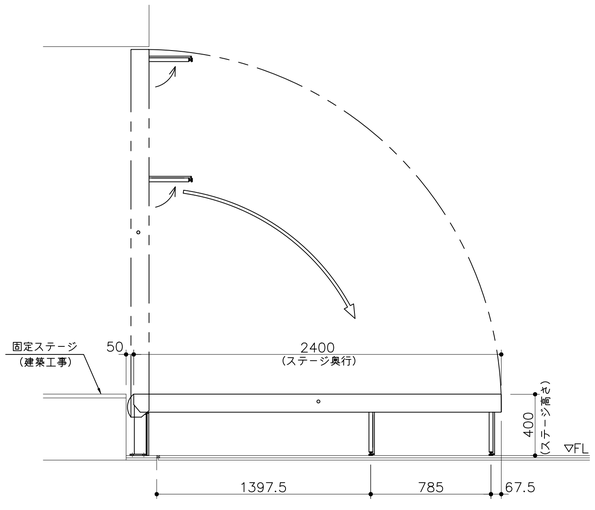


裏面取合図（収納時正面図） S=1／10



B部：パネル木口詳細図 S=1／2

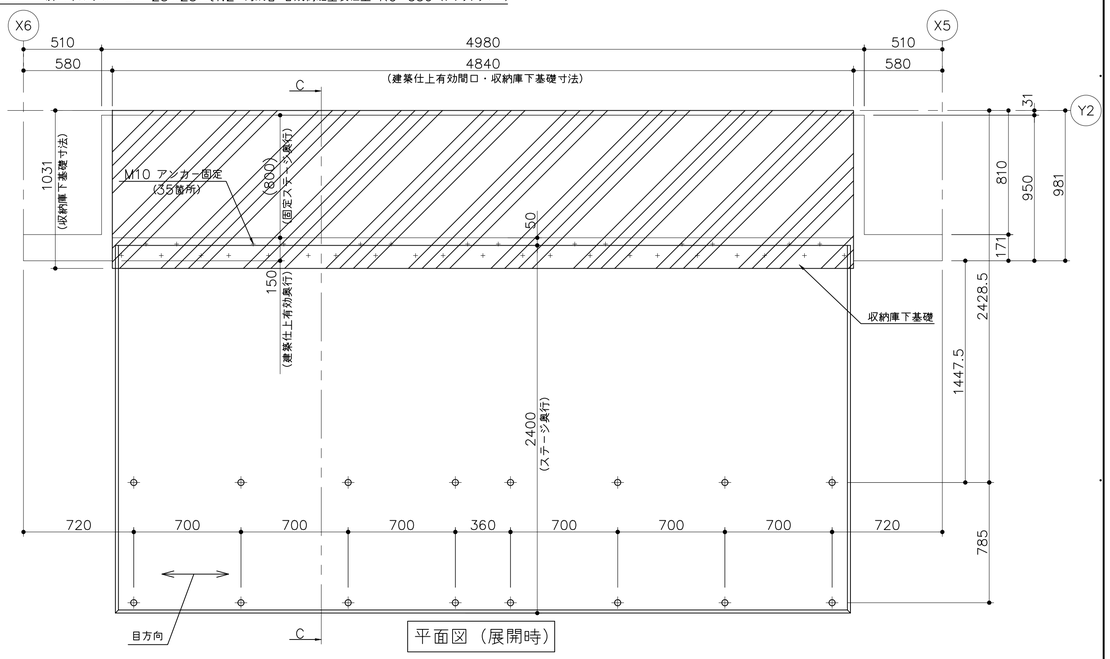
側面図（収納時）



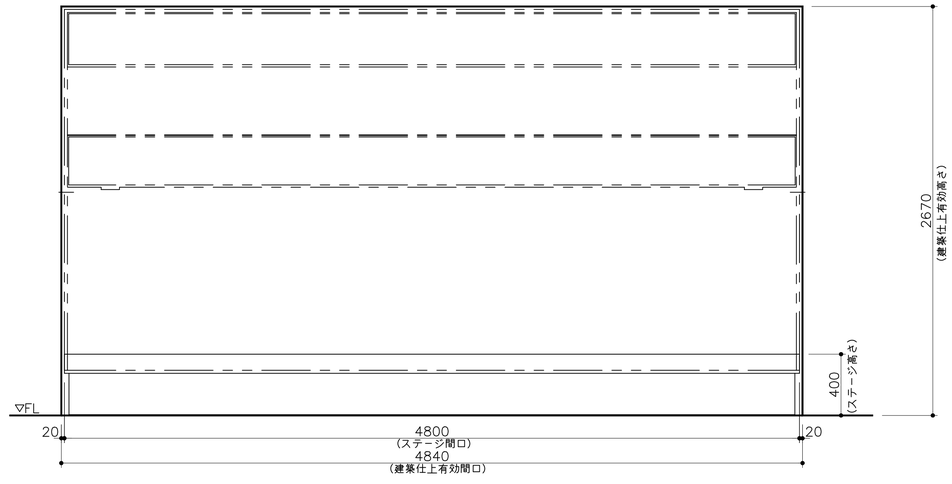
側面図（展開時）

フォールディングステージ　手動式・壁面収納ステージ　FS－800	
ステージサイズ	W：4800　D：2400　H：400　（mm）
台数	1 台
ステージ本体重量	540 kg
最大積載荷重	250 kg／m²
最小操作人員	2 名
本体主要部仕様	
ステージフロアー	t2長尺シート＋t15構造用合板
カマチ	ナラ集成材　ポリウレタンクリア塗装
ステージ裏面	t6ラワン合板下地 ＋ t3化粧合板貼り仕上（建築工事）
フレーム	
大引	60×30×t1.6　角鋼管　合成樹脂塗装仕上　KC－550（ブラックグレー）
パネルフレーム	28×28×t1.2　角鋼管　合成樹脂塗装仕上　KC－550（ブラックグレー）
脚パネルフレーム	25×25×t1.2　角鋼管　合成樹脂塗装仕上　KC－550（ブラックグレー）

その他	
カウンタースプリング機構（操作力軽減装置）内蔵	
収納時ロックピン（丸落シ式）	
脚パネルダンパー付	
脚先レベルアジャスター付	
建築工事	
ステージ裏面仕上 ： t3化粧合板貼り	
受ケプレート用木下地 ：□100程度（2ヶ所）	
建築床仕上	フローリング（収納部：コンクリート下地）
設置階	2 階



平面図（展開時）



正面図（展開時）

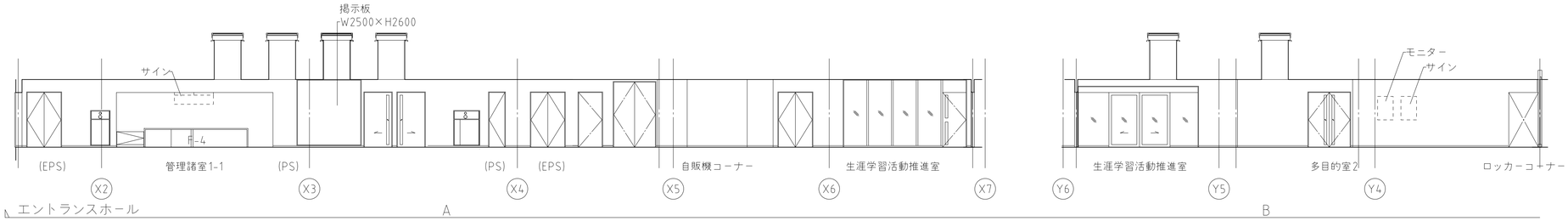
AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

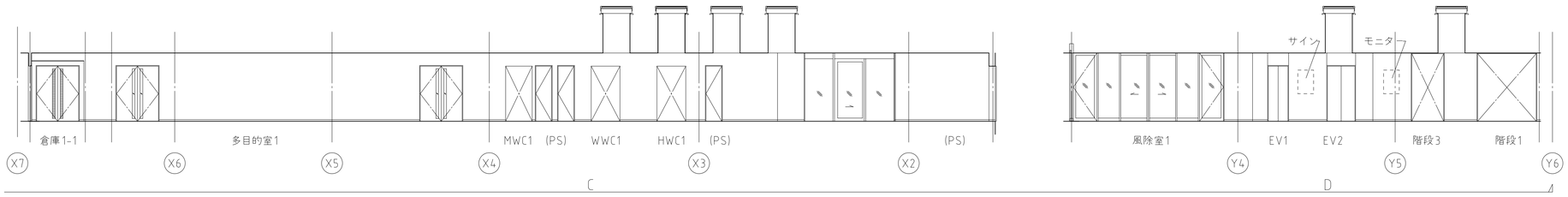
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

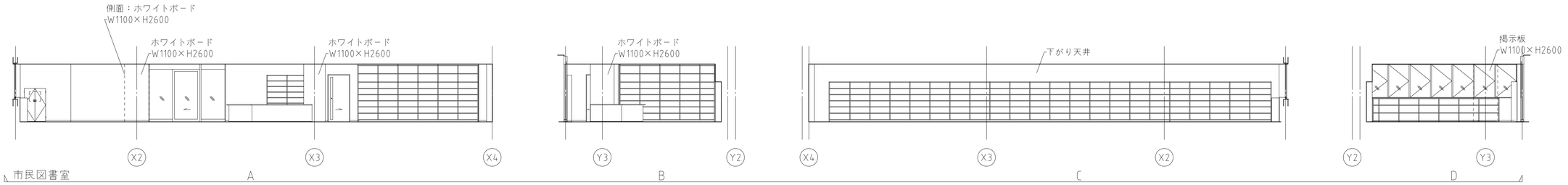
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

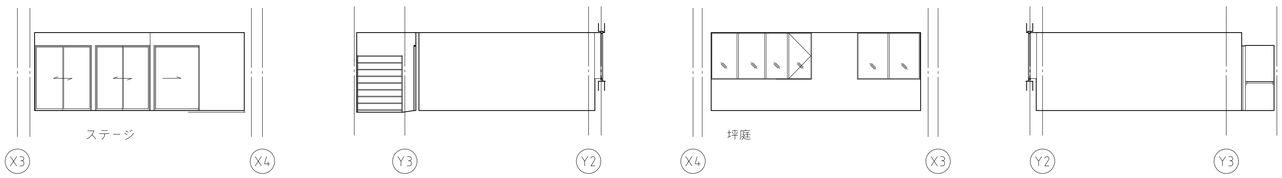
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
多目的交流ホール詳細図（3）	縮尺 1／A1:20 A3:40 ／ 日付 2019・02・28 ／ No	A — 091









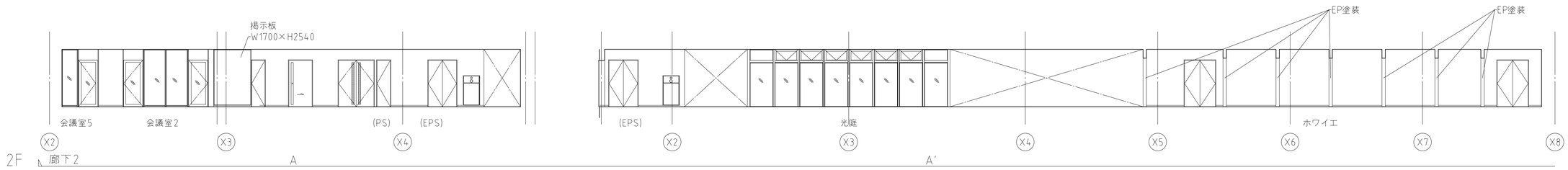


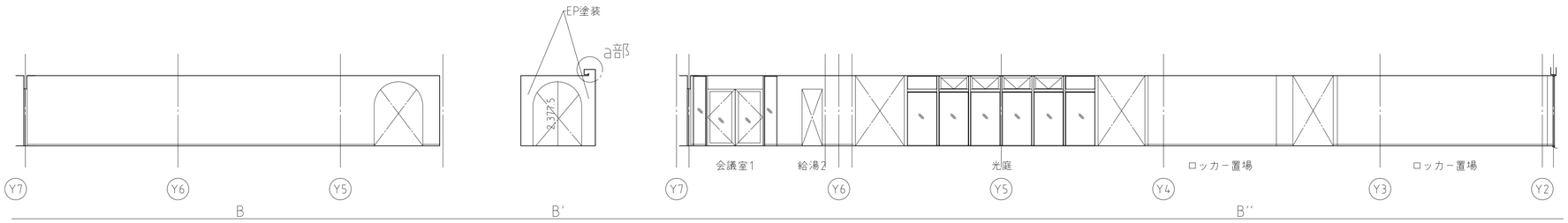
AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

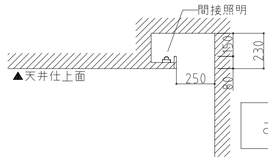
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢					押久保　正則	xxxx

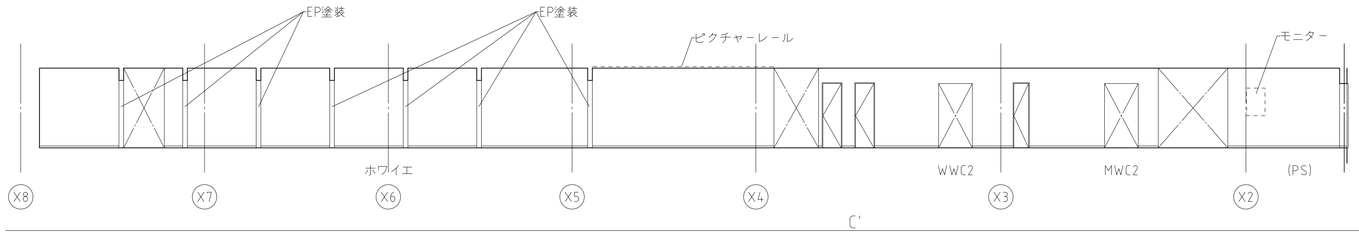
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 092
展開図（１）	縮尺 A1:- A3:-	日付 2019・02・28	No

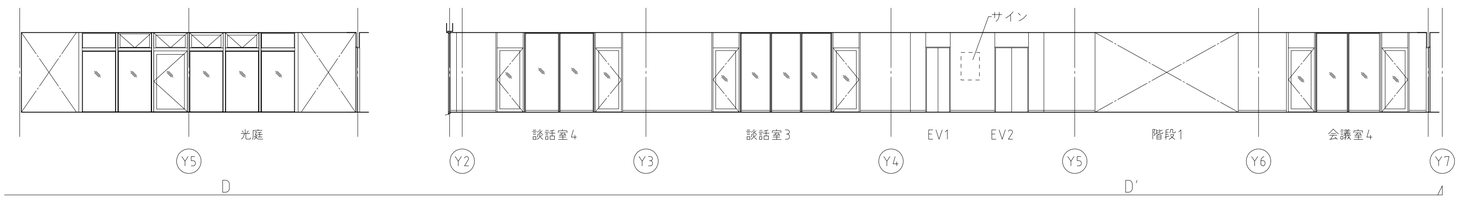






a部詳細図1/20





AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

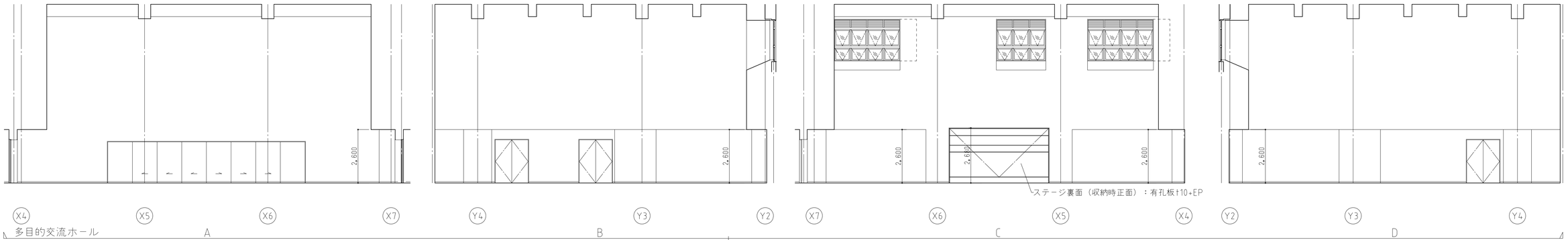
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

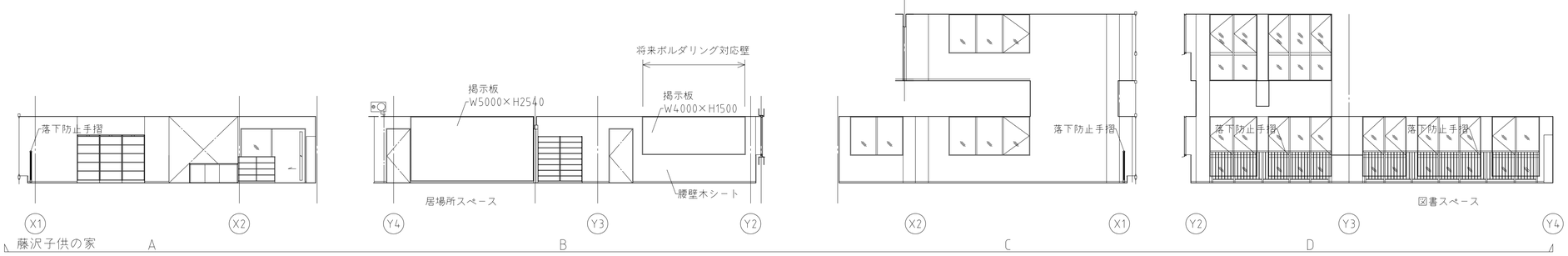
展開図（２）

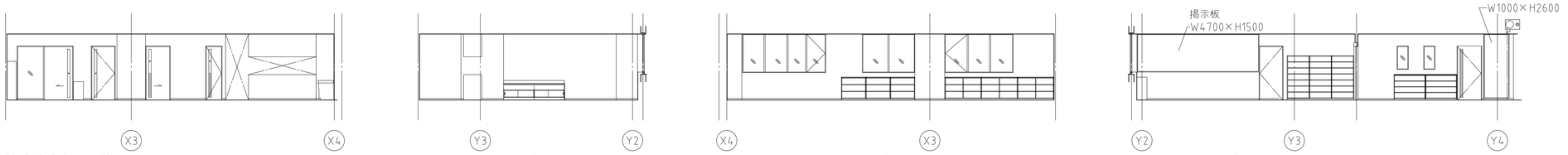
設計番号	図面番号
	A — 093

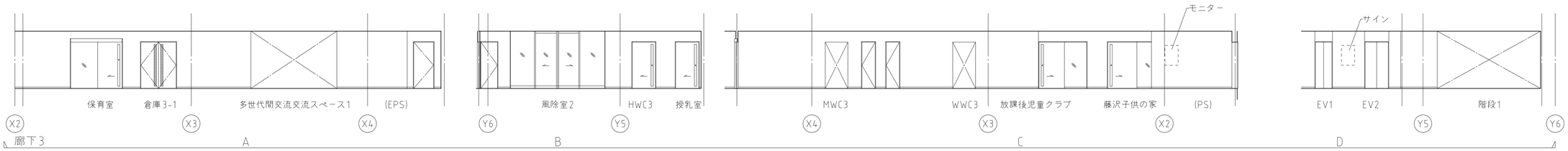
縮尺	日付	No
1/100(A1) 1/200(A3)	2019・02・28	











AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

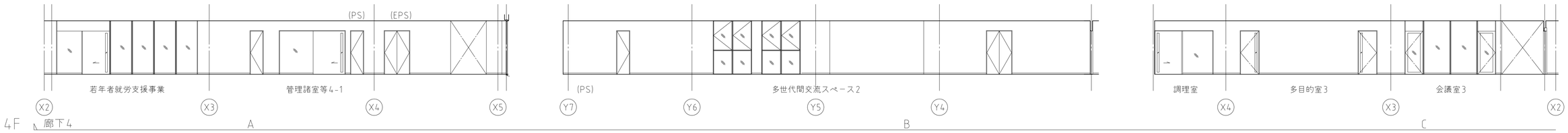
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

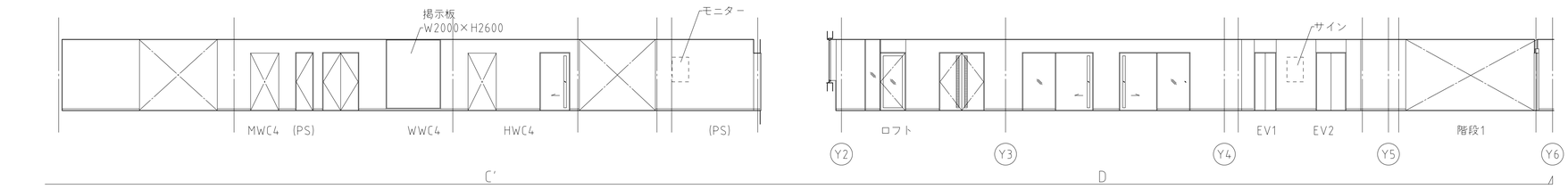
展開図（３）

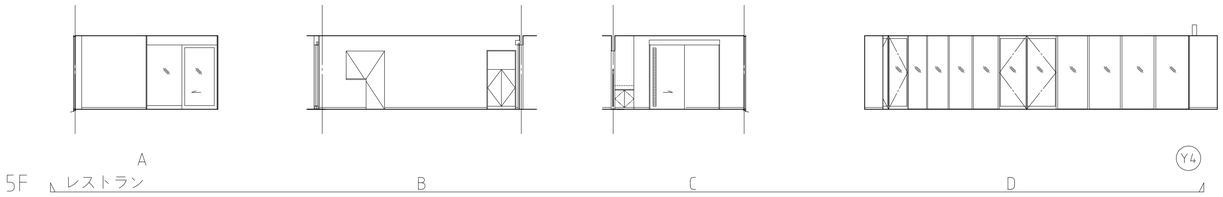
設計番号	図面番号
	A — 094

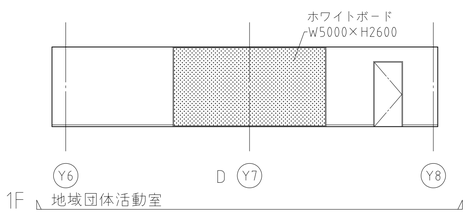
縮尺	日付	No
1／100(A1) 200(A3)	2019・02・28	

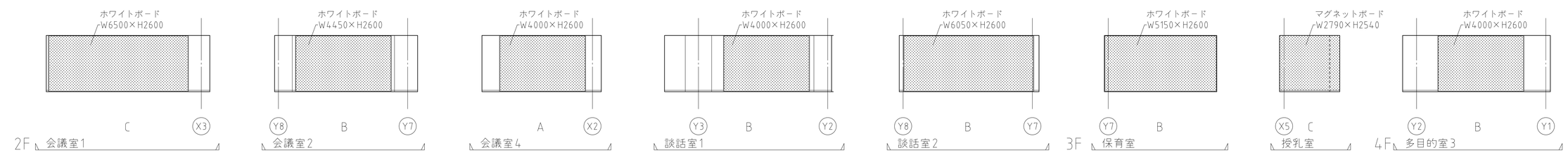












AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

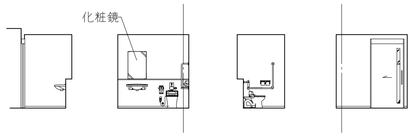
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

展開図（４）

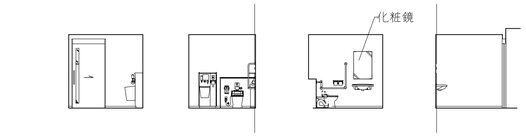
設計番号	図面番号
	A — 095

縮尺	日付	No
1/100(A1) 1/200(A3)	2019・02・28	

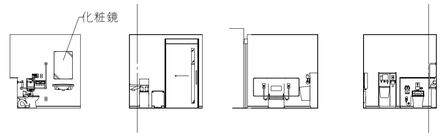




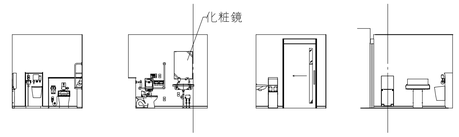
B1F 藤沢西部地域包括支援センターHWC



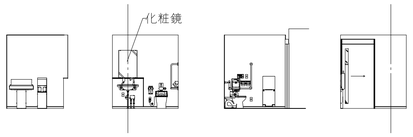
B1F 地域生活支援センターおあしすHWC



1F HWC1



2F HWC2



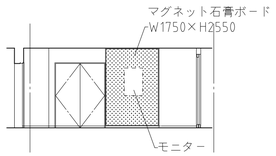
3F HWC3



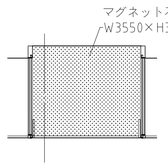
4F HWC4



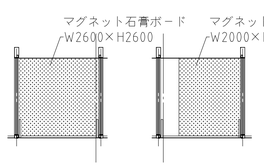
5F HWC5



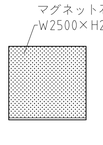
B1F EVホール



1F 風除室1

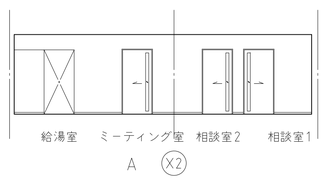


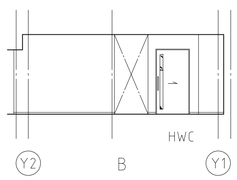
3F 風除室2

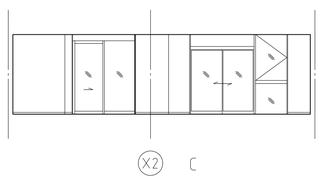


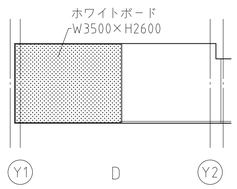
5F

厨房事務室・休憩スペース



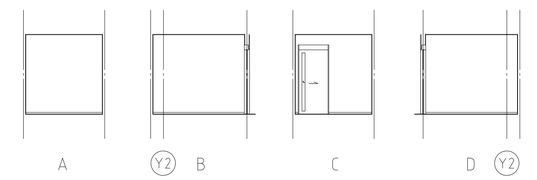




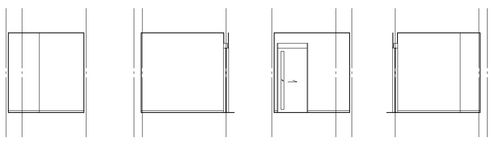


B1F 事務室

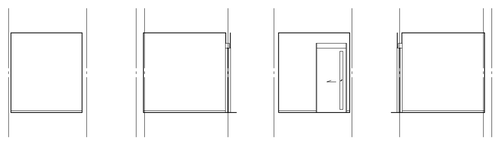
藤沢西部地域包括支援センター



ミーティング室

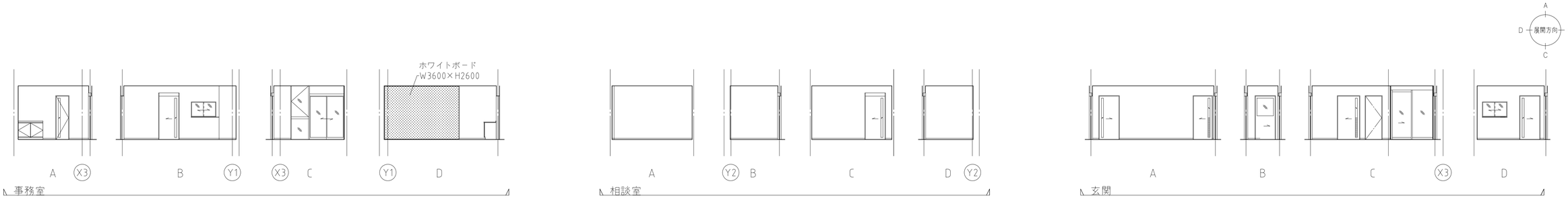


相談室2



相談室1

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants 一級建築士事務所登録 東京第３８０号	鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店 一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号	設計者						法適合確認欄	検証者	藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
		一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢					設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx	展開図（５）	縮尺 1／100(A1) 200(A3) 日付 2019・02・28	A — 096 No

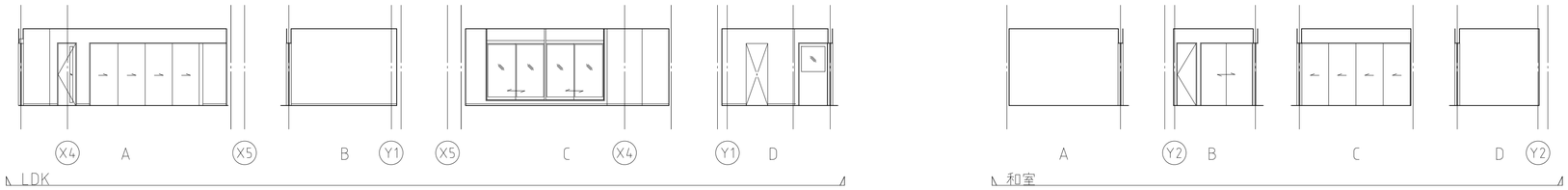


B1F 事務室

地域生活支援センターおあしす

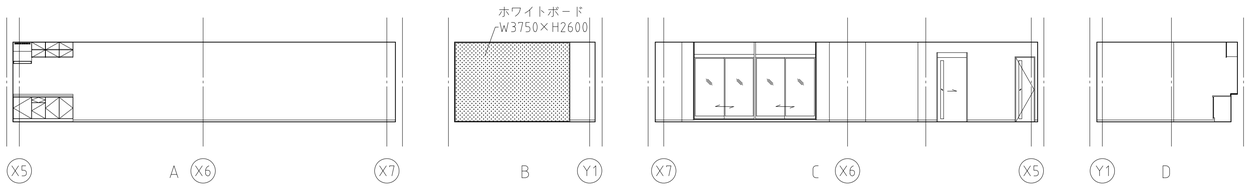
相談室

玄関



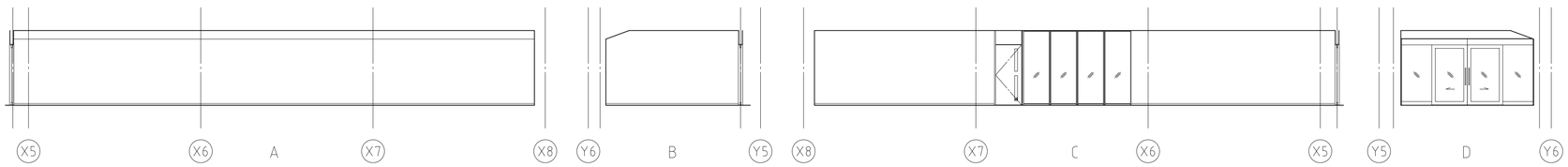
LDK

和室

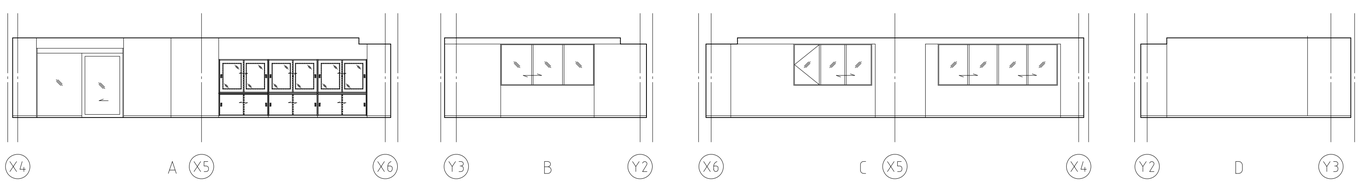


B1F 事務室・会議室

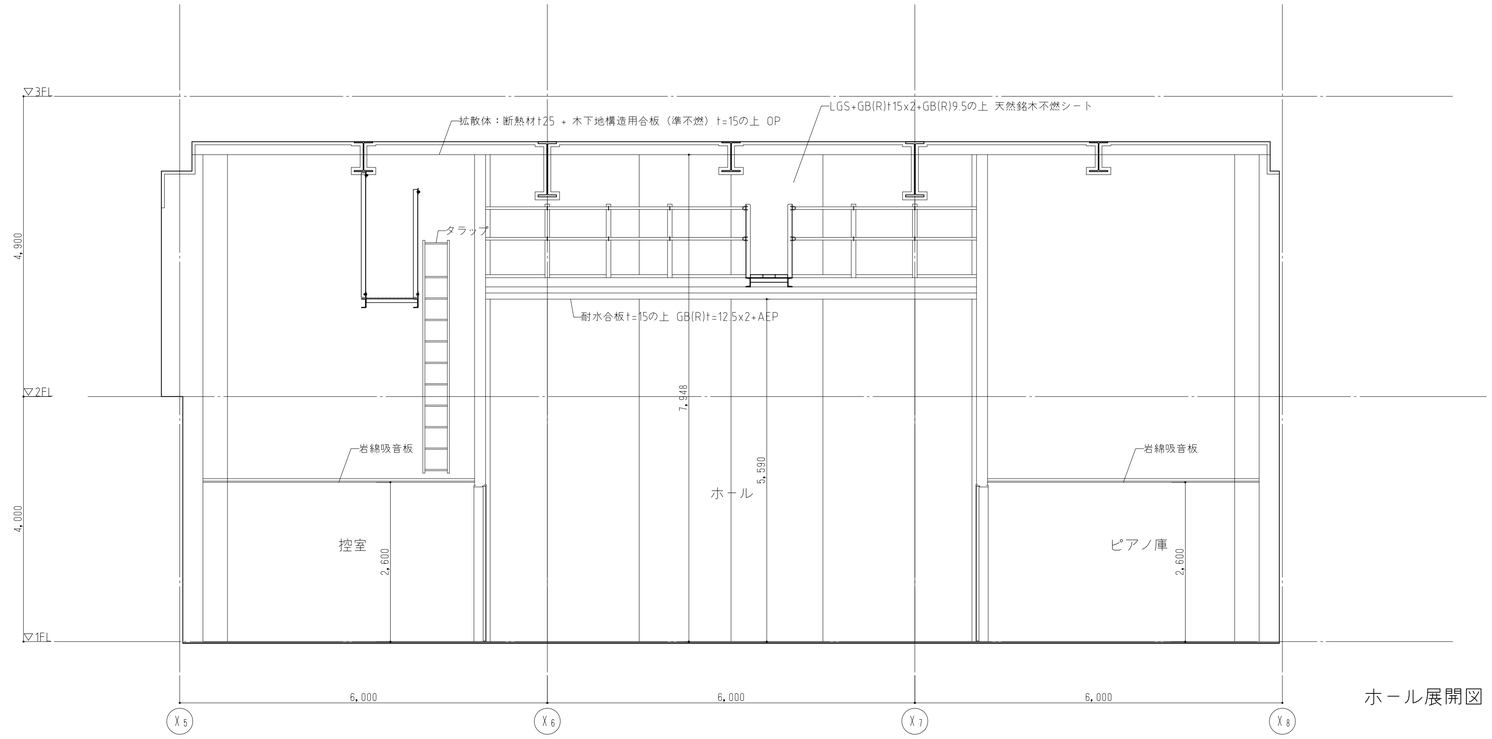
藤沢西部地区ボランティアセンター



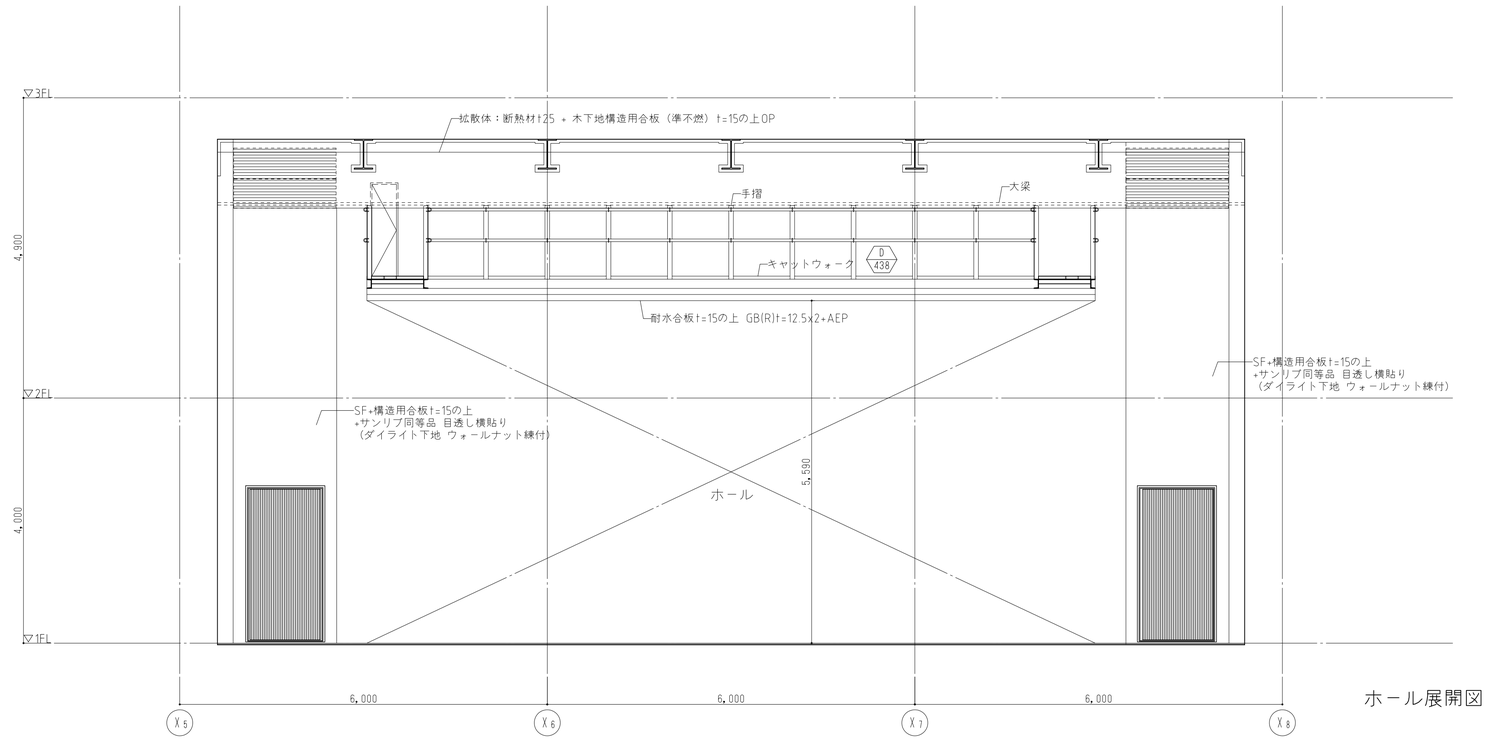
1F 生涯学習活動推進室



4F 調理室



ホール展開図（A）



ホール展開図（A'）

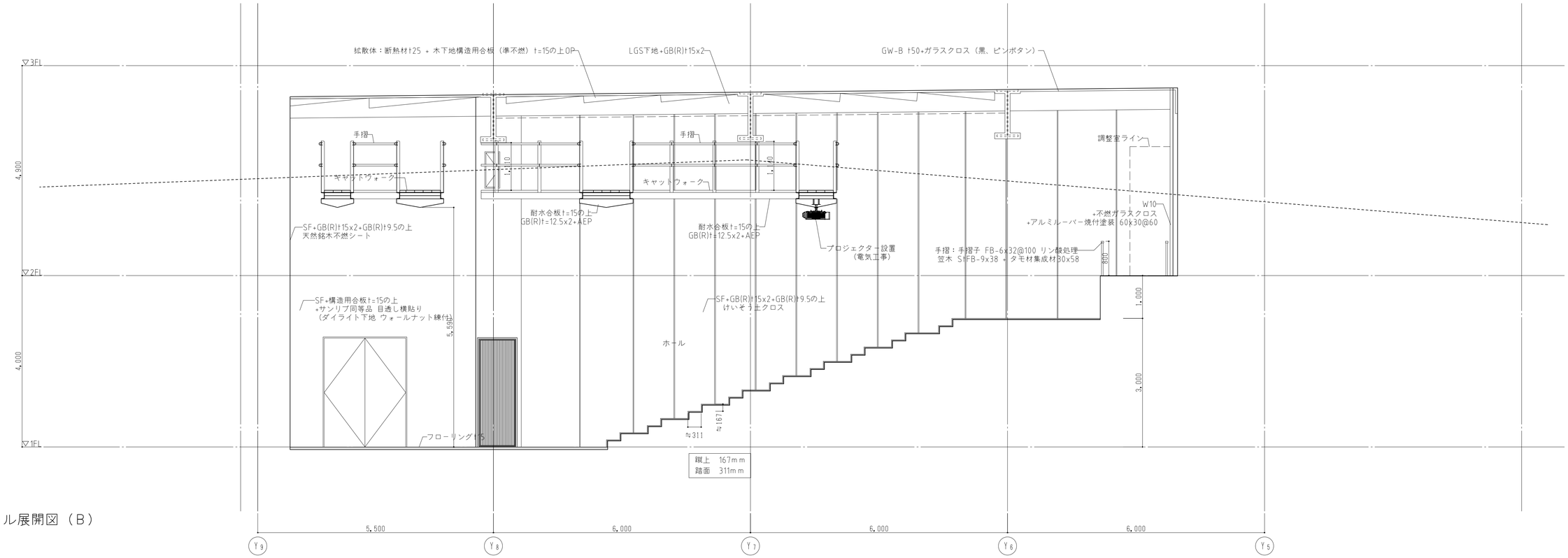


AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

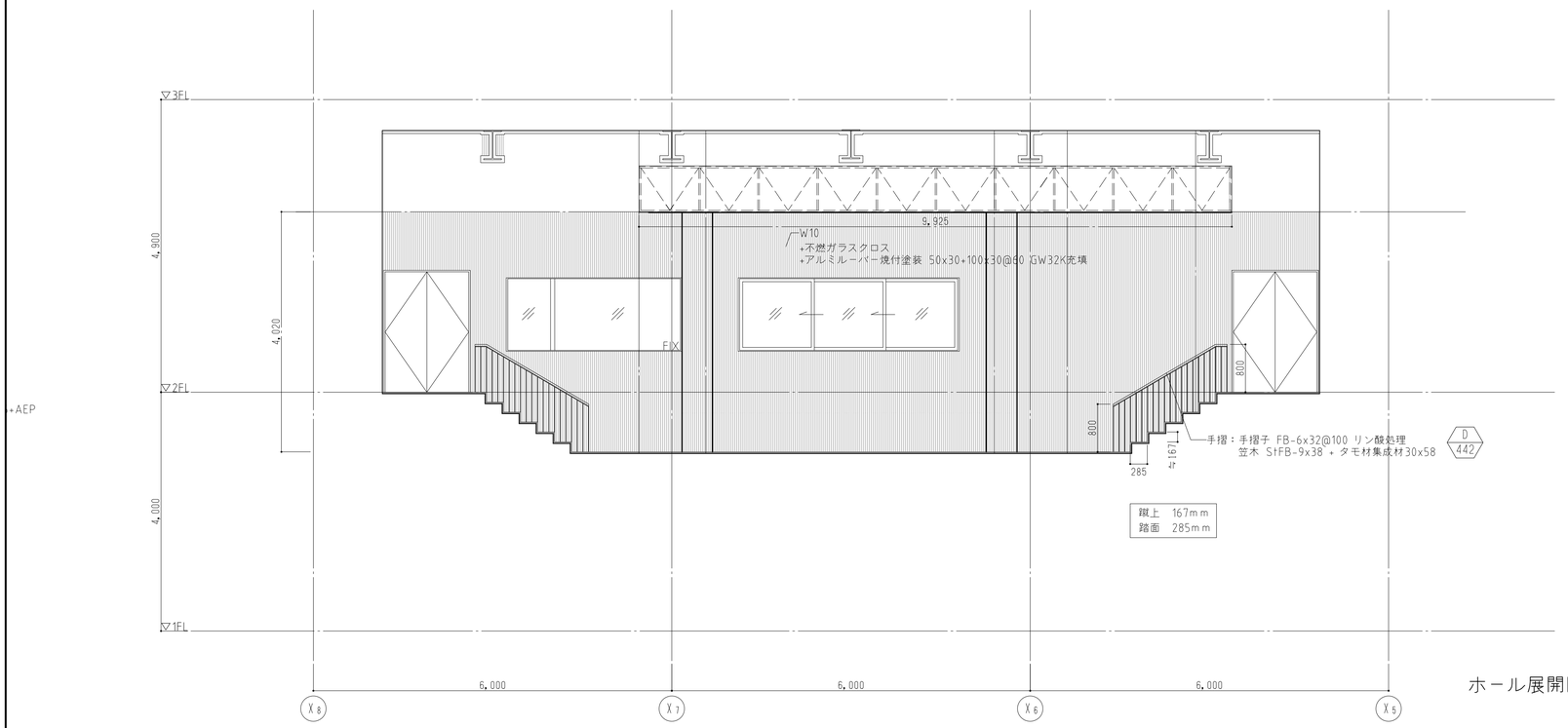
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士	
第199758号		第359522号				第2092号	
永廣 正邦		松浦 暢				押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
ホール展開図（1）	縮尺 1/ A1:50 A3:100	日付 2019・02・28
		No



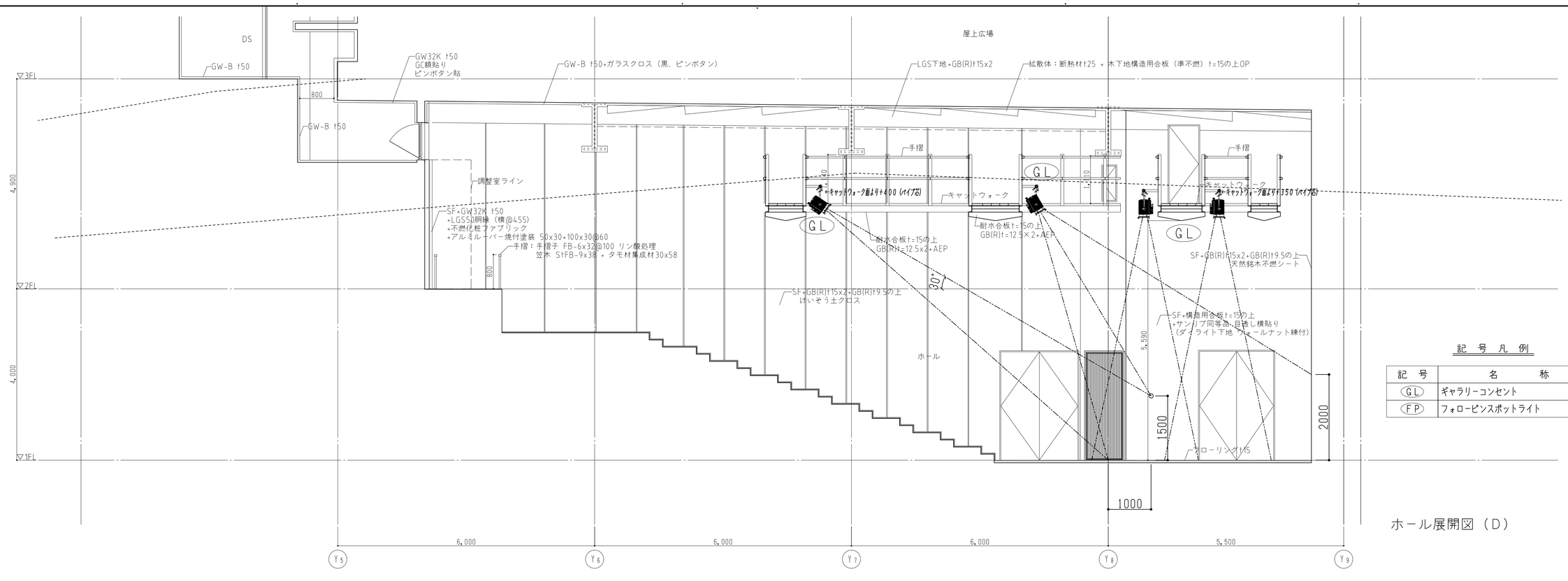
ホール展開図（B）



ホール展開図（C）



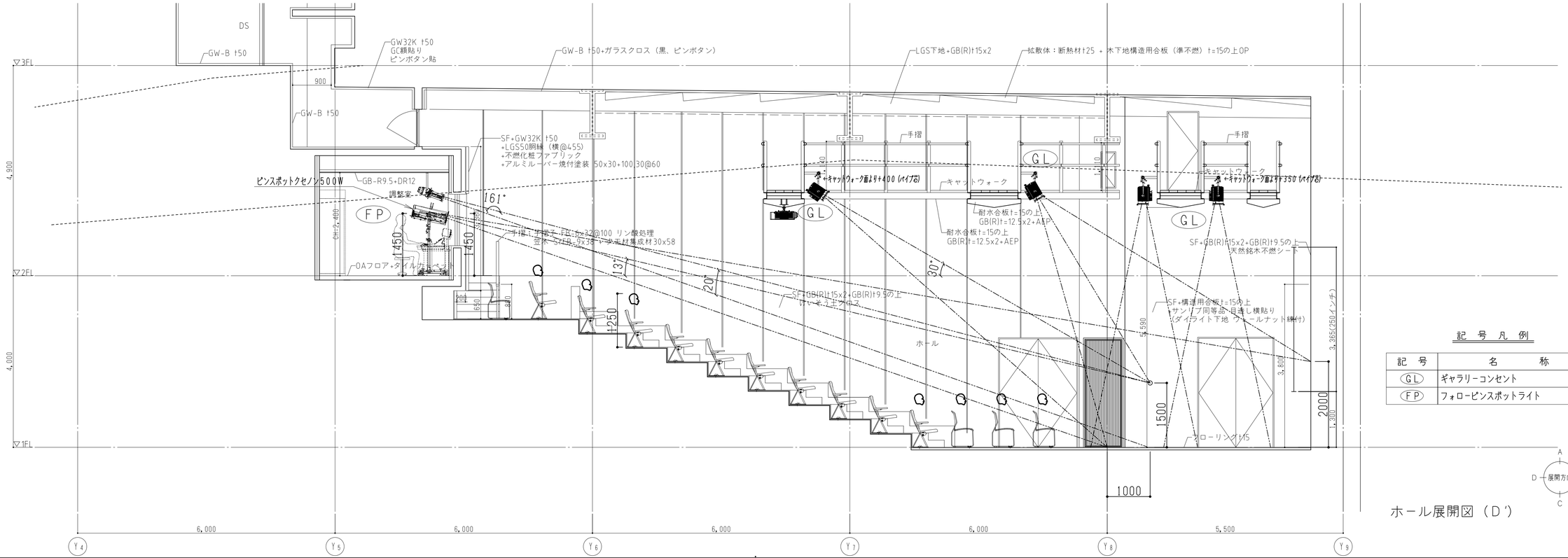
| | | |



記　号　凡　例

記　号	名　　称
GL	ギャラリーコンセント
FP	フォロービンスポットライト

ホール展開図（D）



記　号　凡　例

記　号	名　　称
GL	ギャラリーコンセント
FP	フォロービンスポットライト

A
D 展開方向 B
C

ホール展開図（D'）

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢					押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号	
		A — 100	
ホール展開図（3）	縮尺 A1: 50 A3:100	日付 2019・02・28	No



凡例

①	ロックウール化粧吸音板t12 (立体成型模様)
②	化粧石膏ボードt9.5
③	グラスウールボードガラスクロス貼りt50
④	素地
⑤	木繊セメント板t50+EP
⑥	コンクリート化粧打放 +ASC
⑦	アルミカットパネルt3 B-FE (P)
⑧	ケイ酸カルシウム板 t5+EP
⑨	ケイ酸カルシウム板 t6+NAD
⑩	アルミスパンドレル+B-FE(P)
⑪	不燃ウレタン t=20 (現場発泡)
⑫	GB(R)t12.5+EP
⑬	GB(R)t12.5+クロス
⑭	GB(R)t9.5木枠目
⑮	シナダイライトt=6.0 準不燃
⑯	カラマツ集成材 USUCL
⑰	FGﾎﾞｰﾄﾞt=8.0三重貼、パテしごき EP塗装 GW-B t=50+ｶﾞﾗｽｸﾛｽ
⑱	SF+ケイ酸カルシウム板 t6 EP塗装
⑲	ケイカル下地+ニチハ軒天12 無孔板
⑳	吹付硬質ウレタンフォーム t=30 (現場発泡 ノンフロン)
㉑	打放しコンクリート補修 EP塗装

記号	種別	ディテール番号
S	スクリーンボックス 3200×187.5×120	
B	ブラインドボックス 3200×187.5×120	
P	ピクチャーレール	
B	照明ボックス St-1.6t加工+SOP	
C	カーテンレール	
SL W	スライディングウォール	
	天井段差	
EXP	エキスパンションジョイント	
45	天井点検口 450□	
(A)	天井点検口 600□	
(M)	設備点検口	
(E)	電気点検口	

特記事項

風除室 — 部屋名
CH=2600 — 天井高
FL±0

1. 特記なき限り
PS、ES、EPSは 直天素地仕上げ とする。
2. 照明、設備機器、天井開口は電気図、設備図による。

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢		設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

地下１階天井伏図

設計番号 A — 101

図面番号

縮尺 1/A1:150 A3:300

日付 2019・02・28

No



凡例

①	ロックウール化粧吸音板t12 (立体成型模様)
②	化粧石膏ボードt9.5
③	グラスウールボードガラスクロス貼りt50
④	素地
⑤	木繊セメント板t50+EP
⑥	コンクリート化粧打放 +ASC
⑦	アルミカットパネルt3 B-FE (P)
⑧	ケイ酸カルシウム板 t5+EP
⑨	ケイ酸カルシウム板 t6+NAD
⑩	アルミスパンドレル+B-FE(P)
⑪	不燃ウレタン t=20 (現場発泡)
⑫	GB(R)t12.5+EP
⑬	GB(R)t12.5+クロス
⑭	GB(R)t9.5木枠目
⑮	シナダイライトt=6.0 準不燃
⑯	カラマツ集成材 USUCL
⑰	FGボードt=8.0三重貼、パテしごき EP塗装 GW-B t=50+ガラスクロス
⑱	SF+ケイ酸カルシウム板 t6 EP塗装
⑲	ケイカル下地+ニチハ軒天12 無孔板
⑳	吹付硬質ウレタンフォーム t=30 (現場発泡 ノンフロン)
㉑	打放しコンクリート補修 EP塗装

記号	種別	ディテール番号
S	スクリーンボックス 3200×187.5×120	
B	ブラインドボックス 3200×187.5×120	
P	ピクチャーレール	
H	照明ボックス St-1.6t加工+SOP	
C	カーテンレール	
SL W	スライディングウォール	
	天井段差	
EXP	エキスパンションジョイント	
45	天井点検口 450□	
(A)	天井点検口 600□	
(M)	設備点検口	
(E)	電気点検口	

特記事項

風除室
CH=2600
FL±0

部屋名
天井高

1. 特記なき限り
PS、ES、EPSは 直天素地仕上げ とする。
2. 照明、設備機器、天井開口は電気図、設備図による。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 輔					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

1階天井伏図

設計番号	図面番号
	A — 102
縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28
No	



凡例

①	ロックウール化粧吸音板t12 (立体成型模様)
②	化粧石膏ボードt9.5
③	グラスウールボードガラスクロス貼りt50
④	素地
⑤	木繊セメント板t50+EP
⑥	コンクリート化粧打放 +ASC
⑦	アルミカットパネルt3 B-FE (P)
⑧	ケイ酸カルシウム板 t5+EP
⑨	ケイ酸カルシウム板 t6+NAD
⑩	アルミスパンドレル+B-FE(P)
⑪	不燃ウレタン t=20 (現場発泡)
⑫	GB(R)t12.5+EP
⑬	GB(R)t12.5+クロス
⑭	GB(R)t9.5木枠目
⑮	シナダイライトt=6.0 準不燃
⑯	カラマツ集成材 USUCL
⑰	FGﾎﾞｰﾄﾞt=8.0三重貼、パテしごき EP塗装 GW-B t=50+ｶﾞﾗｽｸﾛｽ
⑱	SF+ケイ酸カルシウム板 t6 EP塗装
⑲	ケイカル下地+ニチハ軒天12 無孔板
⑳	吹付硬質ウレタンフォーム t=30 (現場発泡 ノンフロン)
㉑	打放しコンクリート補修 EP塗装

記号	種別	ﾃﾞｨﾃｰﾙ番号
S	スクリーンボックス 3200×187.5×120	
B	ブラインドボックス 3200×187.5×120	
P	ピクチャーレール	
B	照明ボックス St-1.6t加工+SOP	
C	ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ	
SLW	ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞｳｫｰﾙ	
	天井段差	
EXP	ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ	
45	天井点検口 450□	
(A)	天井点検口 600□	
(M)	設備点検口	
(E)	電気点検口	

特記事項

風除室
CH=2600
FL±0

部屋名
天井高

1. 特記なき限り
PS、ES、EPSは 直天素地仕上げ とする。
2. 照明、設備機器、天井開口は電気図、設備図による。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

2階天井伏図

設計番号	図面番号
	A — 103
縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28
	No



凡例

①	ロックウール化粧吸音板t12 (立体成型模様)
②	化粧石膏ボードt9.5
③	グラスウールボードガラスクロス貼りt50
④	素地
⑤	木繊セメント板t50+EP
⑥	コンクリート化粧打放 +ASC
⑦	アルミカットパネルt3 B-FE (P)
⑧	ケイ酸カルシウム板 t5+EP
⑨	ケイ酸カルシウム板 t6+NAD
⑩	アルミスパンドレル+B-FE(P)
⑪	不燃ウレタン t=20 (現場発泡)
⑫	GB(R)t12.5+EP
⑬	GB(R)t12.5+クロス
⑭	GB(R)t9.5木枠目
⑮	シナダイライトt=6.0 準不燃
⑯	カラマツ集成材 USUCL
⑰	FGﾎﾞｰﾄﾞt=8.0三重貼、パテしごき EP塗装 GW-B t=50+ｶﾞﾗｽｸﾛｽ
⑱	SF+ケイ酸カルシウム板 t6 EP塗装
⑲	ケイカル下地+ニチハ軒天12 無孔板
⑳	吹付硬質ウレタンフォーム t=30 (現場発泡 ノンフロン)
㉑	打放しコンクリート補修 EP塗装

記号	種別	ディテール番号
S	スクリーンボックス 3200×187.5×120	
B	ブラインドボックス 3200×187.5×120	
P	ピクチャーレール	
B	照明ボックス St-1.6t加工+SOP	
C	カーテンレール	
SL W	スライディングウォール	
	天井段差	
EXP	エキスパンションジョイント	
45	天井点検口 450□	
(A)	天井点検口 600□	
(M)	設備点検口	
(E)	電気点検口	

特記事項

風除室
CH=2600
FL±0

部屋名
天井高

1. 特記なき限り
PS、ES、EPSは 直天素地仕上げ とする。
2. 照明、設備機器、天井開口は電気図、設備図による。

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

3階天井伏図

設計番号	図面番号
	A — 104

縮尺	日付	No
1/A1:150 A3:300	2019・02・28	



凡例

①	ロックウール化粧吸音板t12 (立体成型模様)
②	化粧石膏ボードt9.5
③	グラスウールボードガラスクロス貼りt50
④	素地
⑤	木繊セメント板t50+EP
⑥	コンクリート化粧打放 +ASC
⑦	アルミカットパネルt3 B-FE (P)
⑧	ケイ酸カルシウム板 t5+EP
⑨	ケイ酸カルシウム板 t6+NAD
⑩	アルミスパンドレル+B-FE(P)
⑪	不燃ウレタン t=20 (現場発泡)
⑫	GB(R)t12.5+EP
⑬	GB(R)t12.5+クロス
⑭	GB(R)t9.5木枠目
⑮	シナダイライトt=6.0 準不燃
⑯	カラマツ集成材 USUCL
⑰	FGﾎﾞｰﾄﾞt=8.0三重貼、パテしごき EP塗装 GW-B t=50+ｶﾞﾗｽｸﾛｽ
⑱	SF+ケイ酸カルシウム板 t6 EP塗装
⑲	ケイカル下地+ニチハ軒天12 無孔板
⑳	吹付硬質ウレタンフォーム t=30 (現場発泡 ノンフロン)
㉑	打放しコンクリート補修 EP塗装

記号	種別	ﾃﾞｨﾃｰﾙ番号
S	スクリーンボックス 3200×187.5×120	
B	ブラインドボックス 3200×187.5×120	
P	ピクチャーレール	
B	照明ボックス St-1.6t加工+SOP	
C	ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ	
SLW	ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞｳｫｰﾙ	
	天井段差	
EXP	ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ	
45	天井点検口 450□	
(A)	天井点検口 600□	
(M)	設備点検口	
(E)	電気点検口	

特記事項

風除室
CH=2600
FL±0
（部屋名／天井高）

1. 特記なき限り
PS、ES、EPSは 直天素地仕上げ とする。
2. 照明、設備機器、天井開口は電気図、設備図による。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

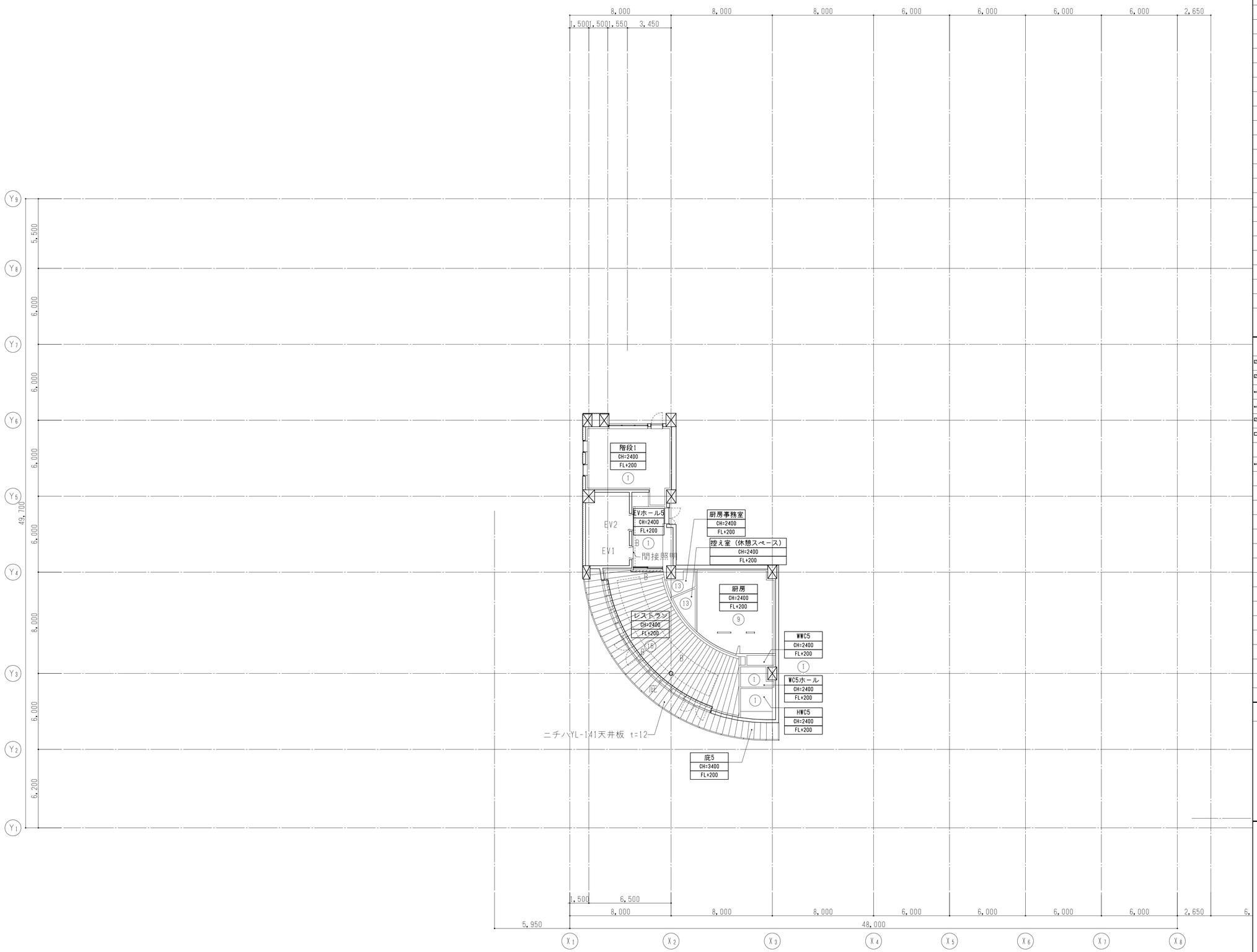
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

4階天井伏図

設計番号	図面番号
	A — 105

縮尺	日付	No
1/A1:150 A3:300	2019・02・28	



凡例

①	ロックウール化粧吸音板t12（立体成型模様）
②	化粧石膏ボードt9.5
③	グラスウールボードガラスクロス貼りt50
④	素地
⑤	木繊セメント板t50+EP
⑥	コンクリート化粧打放＋ASC
⑦	アルミカットパネルt3 B-FE（P）
⑧	ケイ酸カルシウム板 t5+EP
⑨	ケイ酸カルシウム板 t6+NAD
⑩	アルミスパンドレル＋B-FE(P)
⑪	不燃ウレタン t=20 （現場発泡）
⑫	GB(R)t12.5＋EP
⑬	GB(R)t12.5＋クロス
⑭	GB(R)t9.5木枠目
⑮	シナダイライトt=6.0 準不燃
⑯	カラマツ集成材 USUCL
⑰	FGﾎﾞｰﾄﾞt=8.0三重貼、パテしごきEP塗装 GW-B t=50+ｶﾞﾗｽｸﾛｽ
⑱	SF+ケイ酸カルシウム板 t6 EP塗装
⑲	ケイカル下地+ニチハ軒天12無孔板
⑳	吹付硬質ウレタンフォーム t=30（現場発泡 ノンフロン）
㉑	打放しコンクリート補修 EP塗装

記号	種別	ﾃｨﾃｰﾙ番号
S	スクリーンボックス 3200×187.5×120	
B	ブラインドボックス 3200×187.5×120	
P	ピクチャーレール	
L B	照明ボックス St-1.6t加工＋SOP	
C	ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ	
SL W	ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞｳｫｰﾙ	
	天井段差	
EXP	ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ	
45	天井点検口 450□	
(A)	天井点検口 600□	
(M)	設備点検口	
(E)	電気点検口	

特記事項

風除室 — 部屋名
CH=2600 — 天井高
FL±0

1. 特記なき限り
PS、ES、EPSは 直天素地仕上げ とする。
2. 照明、設備機器、天井開口は電気図、設備図による。

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢		設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

5階天井伏図

設計番号	図面番号
	A — 106
縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28
	No

ゼクション	No.	品　　名	MODEL	寸法(mm) 間口	寸法(mm) 奥行	寸法(mm) 高さ	台数	配管口径(A) 給水	配管口径(A) 給湯	配管口径(A) 排水	ガス 口径 (A)	ガス 消費熱量 (kW) (kcal/h)	蒸気 給気 (A)	蒸気 排気 (A)	蒸気 消費量 (Kg/h)	電気 1φ100V (kW)	電気 1φ200V (kW)	電気 3φ200V (kW)	冷却水( ) 入口径 (A)	冷却水( ) 出口径 (A)	冷却水( ) 消費量 (L/h)	フード	備　　考
調理室	1	師範台		2100	900	850	1	15	15	50													引出シ付
	2	ビルトインガスコンロ		596	359	269	5				15×5	10.1×5 (8690) ×5										○	
	3	ガスコンビネーションレンジ		598	545	625	5				15×5	3.55×5 (3050) ×5				1.35×5						○	
	4	実習台		2000	900	850	4	15×4	15×4	50×4													引出シ付
	5	鏡		1800	900	t=30	1																天井支柱（1本）取付

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

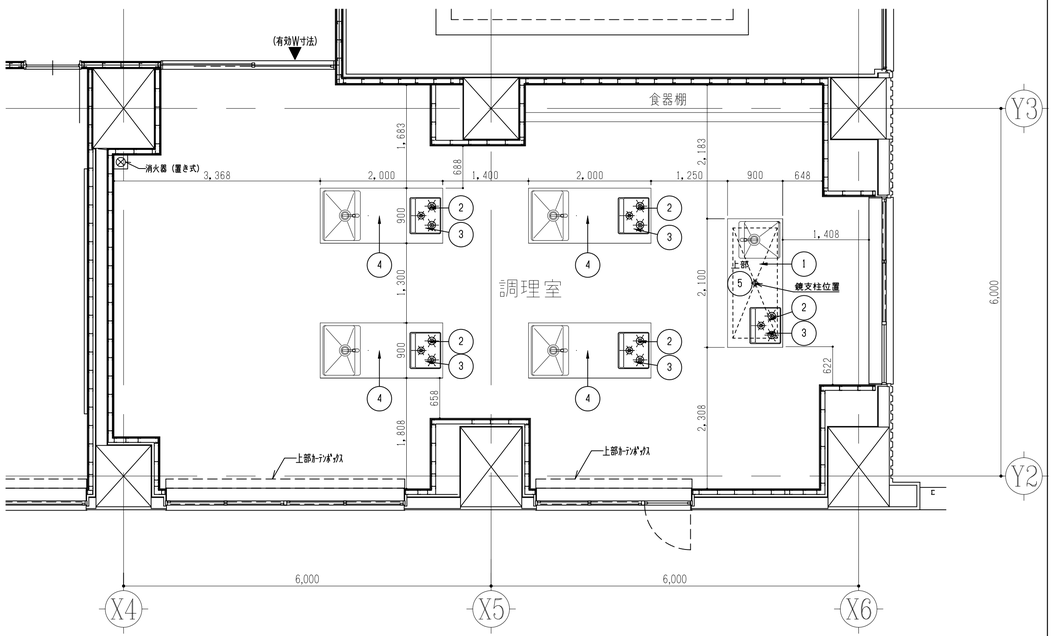
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣　正邦	一級建築士 第359522号 松浦　輔			設備設計一級建築士 第2092号 押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
調理室機器リスト	縮尺 1／A1:- A3:- / 日付 2019・02・28	A — 107 / No

調理室

1/50


(有効W寸法)
食器棚
消火器（置き式）
調理室
上部ホーテンボガス
鏡支柱位置
3,368
2,000
688
1,400
2,000
1,250
900
648
1,683
2,183
900
1,300
2,100
1,408
622
658
1,808
2,308
6,000
6,000
6,000
Y3
Y2
X4
X5
X6

| | | |

建 築 工 事 特 記 仕 様 書 （16章 建 具 工 事）

1．共通仕様 2．特記事項 3．適用基準等 4．設計図書の優先順位　これらの項目は、建築工事特記仕様書（2）による。

項　目	特 記 事 項

① 建具見本の製作等

建具見本の製作　⊙製作する（建具番号AW-1,1スパン程度）・製作しない　(16.1.4(a))
特殊な建具の仮組　・仮組する（建具番号　　）⊙仮組しない　(16.1.4(b))

② アルミニウム製建具

外部に面するアルミニウム製建具の性能　(16.2.2(b)(1)(16.2.4(b))(表16.2.1)

種別	耐風圧性（Pa）	気密性（等級線）	水密性（Pa）	枠見込　mm
・A種	S-4(2000)	A-3(A-3)	W-4(350)	※70
⊙B種	S-5(2400)			
・C種	S-6(2800)	A-4(A-4)	W-5(500)	※100
・	・	・	・	・

防音ドアセット、防音サッシの適用及び遮音性能　※☒示　・　(16.2.2(b)(2))
Ⓖ 断熱ドアセット、断熱サッシの適用及び断熱性能　※☒示　・　(16.2.2(b)(3))
耐震ドアセットの適用及び面内変形追随性能　※☒示　・　(16.2.2(b)(4))
表面処理
・陽極酸化皮膜　JISH8601　(16.2.4(d))(表14.2.1)(補17.2.2(a)(3))

表面処理	種　別	皮膜厚μm	色　合	施工箇所
無着色陽極酸化皮膜	・A-1種	※15	※標準	
	・C-1種	※ 6	・標準　・標準外	
着色陽極酸化皮膜	・A-2種	※15	※標準	
	・C-2種	※ 6	・標準　・標準外	

⊙陽極酸化塗装複合皮膜　JISH8602

色　合	※標準（・無着色：B-1種　⊙着色：B-2種）　・標準外（・ホワイト）
塗装の艶	・あり　※なし
表面仕上（ダイライン）	※標準（ダイラインあり）　・標準外（ダイラインなし：梨地処理）

JISH8602 改正規格の種類（性能規格）

種類	複合耐食性		耐候性	
	紫外線蛍光ランプ耐候性試験	キャス試験	キセノンランプ式促進耐候性試験	サンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験
	試験時間 h			
・A1	240	120	4000	3000
・A2	240	120	2000	1500
※B	240	72	1000	750
・C	－	－	350	250
備考	紫外線蛍光ランプ耐候性試験を行った後、キャス試験を実施する。		キセノンランプ式促進耐候性試験又はサンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験のいづれかを実施する。	

A1 過酷な環境で、かつ、紫外線露光量の多い地域の屋外
A2 過酷な環境の屋外
※B 一般的な環境の屋外
C 屋内
・過酷な環境とは、腐食・劣化の激しい地域で海浜及び沿岸
・一般的な環境とは、工業地域、都市地域及び田園地域
・海浜とは、海岸線から300m以内の地域
・沿岸とは、海岸線から300mを超えて2km以内の地域
・紫外線露光量の多い地域とは、亜熱帯海洋性気候に類似した地域（南西諸島等）

⊙着色塗装皮膜

表面処理	種　別	塗装厚	仕上がり	施工箇所
着色塗装皮膜	・B-FE（P）	・　μm	・ソリッド・メタリック	
	⊙B-FE（F）	・　μm	⊙ソリッド・メタリック	
	・	・		

注）B-FE(P)　：高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り　B-FE(F)　：中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り

網戸　⊙設ける　・設けない　(16.2.3(e))
網の材料　・SUS316　※合成樹脂　・ガラス繊維入り合成樹脂
形　式　※外部可動式　・固定式
結露水の処理方法　※☒示　・　(16.2.4(g))

③ 樹脂製建具

外部に面する樹脂製建具の性能　(16.3.2(b))

種別	耐風圧性(Pa)	気密性(等級線)	水密性(Pa)	枠見込(mm)
・A種	S-4(2000)	A-4（A-4）	W-4(350)	※☒示
・B種	S-5(2400)		W-5(500)	
・C種	S-6(2800)			

防音ドアセット、防音サッシの適用及び遮音性の等級　※☒示　・　(16.3.2(2))
上記サッシの外部に面する建具の遮音性能等級　・T-A種　・T-B種　(16.3.2(2))
断熱ドアセット、断熱サッシの適用及び断熱性の等級　※☒示　・　(16.3.2(3))
上記サッシの外部に面する建具の断熱性能等級　・H-A種　・H-B種　・H-C種　(16.3.2(3))
ガラス　※複層ガラス　・単層ガラス　・三重ガラス　(16.3.3(f)(i))
建具の表面色　※標準色　・特注色　(16.3.4(f))
建具の水切り板、ぜん板等　※☒示　・　(16.3.5(a)(4))

④ 鋼製建具

鋼製建具の仕様（鋼板厚さ・金物類他）　(16.4)
※標準仕様書16章4節鋼製建具　・☒示
簡易気密扉の簡易気密型ドアセットの気密性、水密性の性能値　(16.4.2(b))(表16.4.1)
※適用する（※A-3及び※-1　）　・適用しない
外部に面する鋼製建具の耐風圧性能　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。(16.4.2(b))(表16.2.1)
JIS G 3302による付着量　※Z12又はF12以上　・　(16.4.3(a)(1)(ⅰ))
JIS G 3317による付着量　※YO8　・　(16.4.3(a)(Ⅱ))
鋼板類の厚さ　※表16.4.2　(16.4.4(a))

⑤ 鋼製軽量建具

鋼製軽量建具の仕様（鋼板厚さ・金物類他）　(16.5)
※標準仕様書16章5節鋼製軽量建具　・☒示
簡易気密扉の簡易気密型ドアセットの気密性の性能値　(16.5.2(b)(1))
※適用する（※A-3　）　・適用しない
ビニル被覆鋼板　・適用する（箇所図示）・適用しない　(16.5.3(a)(2))
カラー鋼板　・適用する（箇所図示）・適用しない　(16.5.3(a)(3))
召合わせ、縦小口包み板の材種　※鋼板　・SUS304　・アルミニウム合金　(16.5.3(e))
鋼板類の厚さ　※表16.5.1　(16.5.4(a))

⑥ ステンレス製建具

ステンレス製建具の仕様（ステンレス鋼板厚さ・金物類他）　(16.6)
※標準仕様書16章6節ステンレス製建具　・☒示
表面仕上げ　※☒示　・　(16.6.4(d))(補14.2.1)
曲げ加工　※普通曲げ　(16.6.5(a)(1))
⊙角出し曲げ（⊙B角・C角）
外部に面するステンレス製建具の耐風圧性能　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(16.4.2(b))

⑦ 木製建具

建具材の加工、組立て時の含水率　・A種　※B種　・C種　(16.7.2(a))(表16.7.1)
フラッシュ戸
表面材の合板の種類、品質　※16.7.2(b)(1)による・　(16.7.2(b)(1))
合板のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆
表面板の厚さ　※表16.7.6による　・　(16.7.3(a)(2))(表16.7.6)
かまち戸の樹種　かまち　・　鏡板　・　(16.7.2(c)(1))
ふすま上張りの種類　・鳥の子　⊙新鳥の子程度又はビニル紙程度　(16.7.2(d))(表16.7.3)
縁　・カシュー　⊙生地　・　(16.7.4(c))(表16.7.9)

⑧ 建具用金物

金物の見掛かり部等の材質　※表16.8.1による・　(16.8.2(a))(表16.8.1)
金物の適用　※☒示　・　(16.8.2(a))(表16.8.1)
樹脂製建具に使用する丁番　※表16.8.3　(16.8.2(h))
鍵・マスターキー　※製作する（　個／組）・製作しない　(16.8.4(a))(補16.7.1)
⊙グランドマスターキー　⊙製作する（　3個／組）・製作しない
・
認定及び評価品　・BL　・防犯建物部品　・　・
鍵箱　※(補16.7.1)による

⑨ 自動ドア開閉装置

性能値　(16.9.2(c)表16.9.1)(表16.9.2)

開閉方法	自動ドア開閉装置の性能値
※スライディングドア用	※表16.9.1による　・☒示
・スイングドア用	※表16.9.2による　・☒示

機構　(16.9.3)(表16.9.3)

開閉方法	センサの種類
※スライディングドア・スイングドア	・マットスイッチ　・多機能トイレスイッチ　⊙光線スイッチ（無目下内蔵） ・音波スイッチ　・熱線スイッチ　・光電スイッチ ・タッチスイッチ　・ペダルスイッチ　・押ボタンスイッチ

寒冷地における凍結防止措置　※適用する　⊙適用しない　(16.9.3(f))

⑩ 自閉式上吊り引戸装置

性能値　※表16.10.1による　・　(16.10.3(b))

⑪ 重量シャッター

シャッターの種類　※☒示　・　(16.11.2(a))
耐風圧性能　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(16.11.2(b))
開閉機構　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式　(16.11.2(c))(表16.11.1)
保護装置　※設ける　(16.11.2(d))
防火、防煙以外のシャッターケース　※設ける　・設けない　(16.11.2(f))
スラット及びシャッターケース用鋼板　・JIS G 3302　⊙JIS G 3312　(16.11.3(a))

⑫ 軽量シャッター

耐風圧性能　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(16.12.2(b))
開閉機構　※手動式　・上部電動式（手動併用）　(16.12.2(a)(1))(表16.12.1)
スラット　材質　・JIS G 3312　・JIS G 3322　(16.12.3)
形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形　(16.12.4(b))
ガイドレール材料　※SUS304（厚さ1.5 mm　）　・溶融亜鉛めっき鋼板　(16.12.4)

⑬ その他のシャッター

種類、材質、開閉機構　※☒示　・

⑭ オーバーヘッドドア

セクション材料　※スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　・ファイバーグラスタイプ　(16.13.2(a))
耐風圧性能(JIS A4715)※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(16.13.2(b))
開閉方式　※バランス式　・チェーン式　・電動式　(16.13.2(c))
収納形式　・スタンダード形　・ローヘッド形　・ハイリフト形　・バーチカル形　(16.13.2(d))
ガイドレール材料　※溶融亜鉛めっき鋼板　・SUS304　(16.13.3(b))

⑮ ガラス

⊙合わせガラス　(16.14.2(a)(4))

品　種	形　状	構成種類
※フロート合わせガラス	※平面合わせ・曲面合わせ	⊙フロート板合わせガラス・熱線吸収、フロート板合わせガラス
※網入磨き合わせガラス	※平面合わせ・曲面合わせ	・網入磨き、フロート板合わせガラス・網入磨き、熱線吸収合わせガラス

⊙強化ガラス　(16.14.2(a)(5))

材料板ガラスによる種類	形　状	種　類
※フロート強化ガラス	※平面強化・曲面強化	⊙フロート板強化ガラス・熱線吸収強化ガラス
・型板強化ガラス	・	・型板強化ガラス

・熱線吸収板ガラス　(16.14.2(a)(6))

品　種	色　調
※熱線吸収フロート板ガラス	・ブルー　・グレー　・ブロンズ　・グリーン
・熱線吸収網入磨き板ガラス	・グレー　・ブロンズ

⊙複層ガラス　(16.14.2(a)(7))

品　種	板ガラスの組み合わせ
⊙断熱複層ガラス	⊙Low-E+フロートガラス
⊙日射熱遮へい複層ガラス	

・熱線反射ガラス　(16.14.2(a)(8))

材料板ガラスによる種類	種　類	反射皮膜面	色　調	映像調整
・熱線反射ガラス	・フロート板ガラス	※内面	・ブルー　・グレー	・行う
	・熱線吸収板ガラス	・外面	・ブロンズ　・シルバー	・行わない
・高性能熱線反射ガラス		※内面	・グリーン	

⊙倍強度ガラス　(16.14.2(a)(9))

材料板ガラスによる種類	色　調
⊙倍強度フロート板ガラス　・倍強度熱線吸収板ガラス	・ブルー　・グレー
・倍強度熱線反射ガラス　・倍強度高性能熱線反射ガラス	・ブロンズ

・ガラスブロック（※JIS A 5212による）　(16.14.5)

寸法　mm	色　調	パターン	防火認定
	・クリア・熱線反射 ・乳白　・カラー（　）		・防火設備 ・なし

その他上表以外の16.14.5による特記事項　・☒示
・その他のガラス　※☒示
ガラス留め材　(16.14.2(b))
※シーリング材：特記仕様書9.7による　（適用箇所：　）
・ガスケット　：　（適用箇所：　）
板ガラスをはめ込む溝の大きさ　※表16.14.1による　(16.14.3(a))(表16.14.1)
熱線反射ガラスの映像調整　・行う　・行わない　(16.14.4(b)(3))
網入りガラス等の小口処理　一般的建具　※16.14.4(a)(3)による　(16.14.4(a)(3))
トップライト　※全周研磨防錆塗装

⊙飛散防止フィルム貼り

厚さ　μ	貼付面	適用箇所
⊙	※内部用	⊙
・	・外部用	・

⑯ ガラスブロック積み

・材料　(16.14.5(a)(1))

表面形状（JIS　A5212）	モジュール及び寸法による区分（長さ×高さ）		厚さによる区分
正方形	・125×125	・160×160	・　80
	・200×200	・320×320	・　95
長方形	・200×125	・320×160	・125

・品質等　(16.14.5(a)(2))

ガラスの種別	柄	目地色	金属枠	耐火性能
・一般ガラス ・乳白ガラス ・カラーガラス ・熱線反射ガラス	・無 ・有	・白 ・グレー	・アルミニウム製（表面処理：　） ・ステンレス製（表面仕上：　）	・規定なし ・30分耐火 ・1時間耐火

・力骨　材料　※SUS304　・　(16.14.5(a)(6))
※径　5.5mm　はしご形状複筋および単筋
・化粧目地モルタル　材料　※ガラスブロック製造場の指定するもの(16.14.5(a)(10))
・色　・
・シーリング材　※☒示　(16.14.5(a)(11))
・金属製化粧カバー　材料　※☒示　・　(16.14.5(a)(12))
寸法　※☒示　・
形状　※☒示　・

・工法　(16.14.5 b (1) (2))

	目地幅	伸縮目地の設置	目地仕上げ
・平積み	※8mm以上15mm以下・☒示	※6mm以下毎に幅10～25mm・☒示	※ガラスブロック製造所の仕様による。・☒示
・曲面積み	※外側15mm以下、内側6mm以上		

⑰ 強化ガラスドア

指づめ防止スリット　・設ける　・設けない
衝突防止用目印　※設ける　・設けない
目印の材料　・シート両面貼付　・SUS304プレート　・☒示

⑱ 防災建具

排煙窓の開閉方式　※☒示　・煙感連動方式
⊙手動式オペレーター方式　・手動、自動併用方式
・固定式防煙たれ壁　材料　※☒示　・網入り磨き板ガラス　・線入り磨きガラス
寸法　※☒示
・可動式防煙たれ壁　方式　※☒示　・鉛直降下式　・回転式　・ロール式　(補16.13.2)
材料　本体　・鋼板　・アルミニウム板　(補16.13.3)
・ガラスクロス塩化ビニル皮膜（不燃認定品）
その他　・SUS304　・アルミニウム　・鋼製
機構　降下　・固定レール　・可動レール　(補16.13.4)
作動　※煙感連動　・
復旧　※手動　・電動

⑲ 性能試験

建具　(16.1.2)(補1.8.1(c)(7))

試験の方法	性能の区分	試験体の寸法	試験箇所
・耐風圧性能試験			
・気密性能試験			
・水密性能試験			
・遮音性能試験			
・断熱性能試験			
・耐震性能試験			

⑳ 基本性能

※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。

㉑ その他

※外壁同一面付き外部扉の上枠には水切りステンレス（SUS Ⓖ1.5 外壁面から40mm小口塞ぎ）を設ける

共通事項（下記事項は本工事に適用する。）

1．遮音扉	遮音性能を要求される扉の枠回りはモルタル充填とする。
2．外部扉	外部に面する扉の枠回りには、クロロプレンスポンジシールを設ける。
3．外部ガラリ	特記なき限り防鳥網（２０×２０目程度）を設ける。
4．窓開口部	特記なき限り結露受けを設ける。
5．両開き戸	特記なき限り順位調整器を設ける。
6．ドアクローザー	防火防煙区画上の扉はストップ無し、その他はストップ付とする。
7．排煙オペレーター	特記なき限り配管及びボックスは埋込み型とする。
8．ガラリ	ガラリの幅が　1.5m超える場合、　1.5m以内毎に方立を設ける。
9．防災建具	可動式防煙たれ壁は急激に落下しないように、ステイダンパー、ガバナー及びバランスウエイト等の緩衝装置を設け、降下後は圧力差２kg/㎡でも鉛直を保持すること。

凡例

種別　番号
□□－□□　　ただし、キープランは（□□ 一種別 / □□ 一番号）

建具の種別と符号

符号	種別	符号	種別	符号	種別
AD	アルミニウム製扉	OD	オーバーヘッドドア	AG	アルミニウム製ガラリ
SD	鋼製扉	AW	アルミニウム製窓	SG	鋼製ガラリ
LSD	鋼製軽量扉	SW	鋼製窓	SSG	ステンレス製ガラリ
HD	自閉式上吊り引戸	SSW	ステンレス製窓	WG	木製ガラリ
SSD	ステンレス製扉	WW	木製窓	SSF	ステンレス製枠
WDS	木製扉（枠のみ鋼製）	SS	重量シャッター	SF	鋼製枠
F	襖	LSS	軽量シャッター		
S	障子	RSS	リングシャッター		
TD	強化ガラス扉	SCS	スクリーンシャッター		

仕上げの種別と符号

符号	種別	符号	種別	符号	種別
A－1	アルミニウム　A－1種	SOP	合成樹脂調合ペイント	B－AE	焼付形アクリル樹脂エナメル
A－2	アルミニウム　A－2種	EP-G	つや有合成樹脂調合ペイント	B－UE	焼付形1 液ウレタン樹脂エナメル
B－1	アルミニウム　B－1種	CL	クリヤーラッカー	B-FE(F)	中温焼付形ふっ素樹脂エナメル(FEVE系)
B－2	アルミニウム　B－2種	UC	ウレタン樹脂ワニス	B-FE(P)	高温焼付形ふっ素樹脂エナメル(PFVd系)
C－1	アルミニウム　C－1種	OS	オイルスティン		
C－2	アルミニウム　C－2種	2-ASE	アクリルシリコン樹脂エナメル		
D	アルミニウム　D　種	2-FUE	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル		
K－1	ステンレス鏡面仕上げ(No.7)	DP	耐候性塗料		
K－2	ステンレス鏡面仕上げ(No.8)				
BA	鏡面に近い光沢仕上げ				
HL	ステンレスヘアライン仕上げ				

建具の耐風圧性能の区分　（Pa）

等級	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6	S-7	S-8
対応値	800	1200	1600	2000	2400	2800	3600	U・

建具の遮音性能の区分　（等級線）

等級	T-1	T-2	T-3	T-4	T-5
対応値	25	30	35	40	U・

建具の気密性能の区分　（等級線）

等級	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
対応値	120	30	8	2	U・

建具の断熱性能の区分　（㎡･K/W）

等級	H-1	H-2	H-3	H-4	H-5	H-6
対応値	0.215	0.246	0.287	0.344	0.430	U・

建具の水密性能の区分　（Pa）

等級	W-1	W-2	W-3	W-4	W-5	W-6
対応値	100	150	250	350	500	U・

建具の面内変形追随性能の区分　（rad）

等級	D1	D2	D3	D4
対応値	1/300	1/150	1/120	U・

重量シャッターの耐風圧性能（Pa）

軽量シャッターの耐風圧性能　（Pa）

オーバーヘッドドアーの耐風圧性能の区分（Pa）

等級	50	75	100	125	
対応値	500	750	1000	1250	U・

ＵはＪＩＳ規格を超えるものを示し、用いる場合は、数値を特記する。

扉の気密性能・遮音性能

符号	種別	通気量　（等級線）	透過損失　（dBA（※500HZ・　　）
PAT	完全エアタイト	V＜2（A-4等級線）	・35以上　・　・気密性のみ
・AT	エアタイト	（A-4等級線）2≦V＜8（A-3等級線）	※30以上　・　・気密性のみ
SAT	セミエアタイト	（A-3等級線）8≦V＜30（A-3等級線）	※25以上　・　・気密性のみ

ガラスの種別と符号

符号	種別	符号	種別	符号	種別
FL	フロート板ガラス	H	熱線吸収板ガラス	T	強化ガラス
F	型板ガラス	HW	熱線吸収網入り磨き板ガラス	L	合わせガラス
PW	網入り磨き板ガラス	HWL	熱線吸収線入り板ガラス	A	複層ガラス
PWL	線入り磨き板ガラス	R	熱線反射ガラス	HS	倍強度ガラス
FW	網入り型板ガラス	HR	高性能熱線反射ガラス	TP	耐熱強化ガラス
FWL	線入り型板ガラス	RH	熱線吸収反射板ガラス		

くつずりの形状と符号

符号	B1	B2	B3	B4	B5
形状	（　mm）	（　mm）		t=6以上 / t=6以上	

ガラリの形状と符号

符号	G1	G2	G3	G4	G5	G6
形状						

形態

※特記なきスリット巾、ガラリ巾は、W100とする。
※ドアハンドル引手下端の高さは全てFL+700程度とする。（円形のドアノブは用いない）　※ガラス面には全てに衝突防止・飛散防止フィルム貼付とする。

形式 D11（片開き戸）　D12（片開き戸,ガラス入り）　D13（片開き戸,ガラススリット付）　D14（片開き戸,ガラス,ガラリ）　D15（片開き戸,ガラリ）
形式 D21（親子開き戸）　D22（親子開き戸,ガラス入り）　D23（親子開き戸,ガラススリット付）　D24（親子開き戸,ガラス,ガラリ）　D25（親子開き戸,ガラリ）
形式 D31（両開き戸）　D32（両開き戸,ガラス入り）　D33（両開き戸,ガラススリット付）　D34（両開き戸,ガラス,ガラリ）　D35（両開き戸,ガラリ）
形式 D41（片引き戸）　D42（片引き戸,ガラス入り）　D43（片引き戸,ガラススリット付）　D44（片引き戸,ガラス,ガラリ）　D45（片引き戸,ガラス入り）

形式 D51（埋込み式片開き戸）　D52（埋込み式両開き戸）　D53（埋込み式2枚折戸）　D54（埋込み式4枚折戸）　D55（埋込み式3枚折戸）
形式 D61（引き違い戸）　D62（引き分け戸）　S11（シャッター）　S12（シャッター、くぐり戸付）　S13（パイプシャッター）
形式 W11（引き違い窓）　W12（片引き窓）　W13（はめ殺し窓）　W14（片開き窓）　W15（たて軸回転窓）
形式 W16（横軸回転窓）　W17（縦すべり出し窓）　W18（突出し窓）　W19（内倒し窓）　W20（外倒し窓）

金物の種類と符号

	符号	種類		符号	種類		符号	種類
支持金物	HH	丁番	操作金物	NB	握り玉（ステンレス製）	その他	DS	戸当り
	HH(　)	特殊丁番（　　丁番）		NB(　)	握り玉（　）製		DS(F)	戸当り　フック付
	FH	フロアヒンジ		LH	レバーハンドル		DS(　)	戸当り
	AH	オートヒンジ			アルミニウム合金製		OPL	排煙用オペレーター
	PH	ピボットヒンジ		LH(　)	レバーハンドル		M	マグネットセンサー
	NH(　)	軸吊りヒンジ			（　　）製		HP	ホース通過口
	NH	軸吊りヒンジ自閉装置付（スプリングヒンジ）		CH	ケースハンドル		LI	施解錠表示付
	HAH	ヒンジクローザー丁番形		PP(　)	押板、引き手			
	PAH	ヒンジクローザーピボット形（ピボットオートヒンジ）			（　　）製			
				XP(　)	堀込み引き手			
					（　　）製			
				SH(　)	特殊ハンドル			
					（　　ハンドル）			
錠	ML	シリンダーモノロック	開閉調整	DC	ドアクローザー			
	DML	本締付モノロック		DC(I)	ドアクローザー(隠蔽型)			
	DL	シリンダー本締錠		DC(S)	ドアクローザー(煙感知器連動)			
	CL(　)	シリンダー箱錠（ケースロック）		DC(F)	ドアクローザー(ヒューズ付)			
	CL	特殊シリンダー箱錠（　　錠）		MS	アームストッパー			
				FR	フランス落し			
	OM	空錠			（　　）製			
	PL	引き戸錠		Z	閉鎖順位調整器			
	GL	グレモン錠						
	HL	点検口錠(平面ハンドル錠)						
	EL	電気錠						
	BH	非常錠						

扉の金物の組み合わせと符号

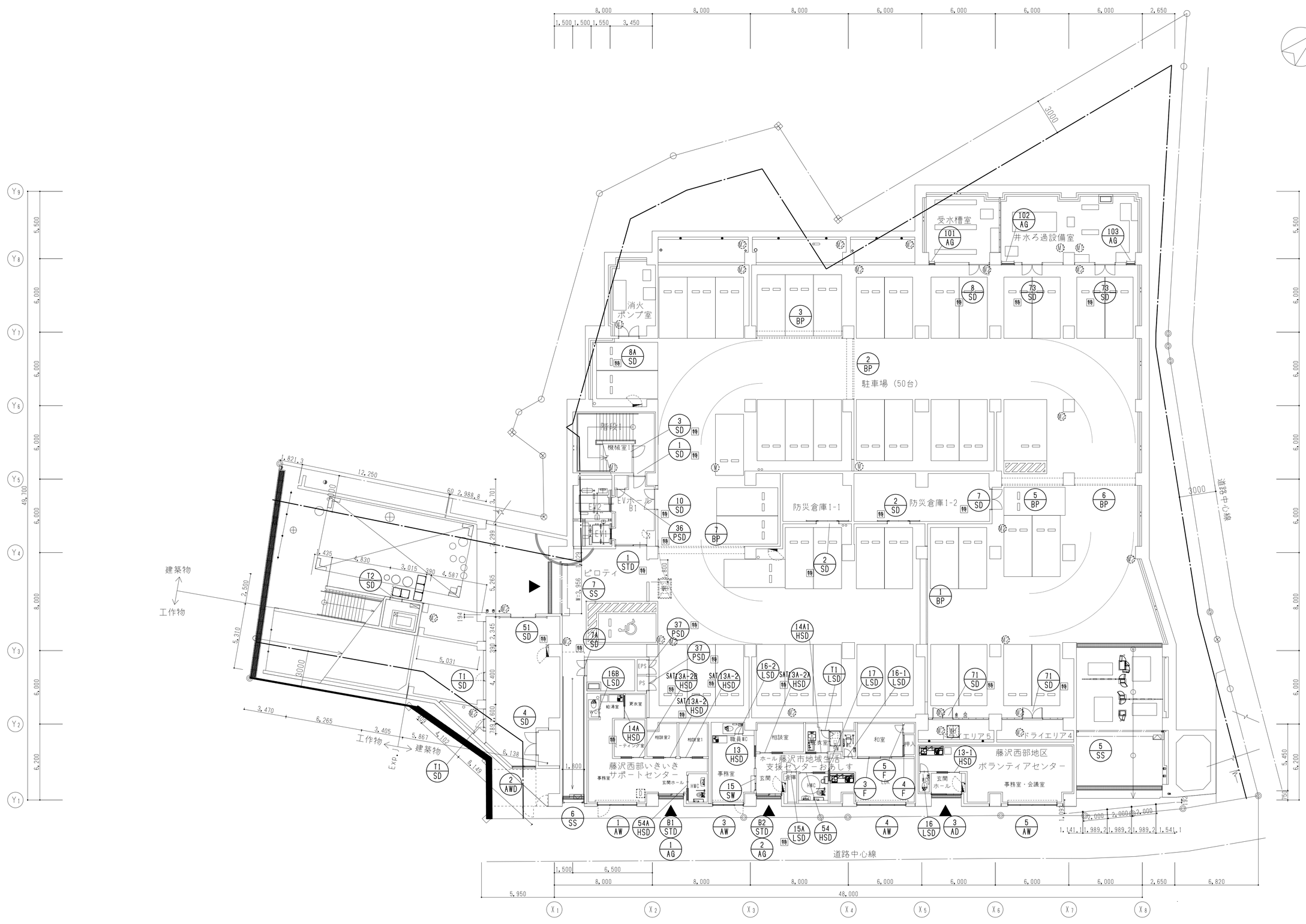
符号	扉の種類	支持金物	錠	操作金物	開閉調整	その他
K1	常時閉鎖式防火戸（片開き戸）	PAH	DL	LH	DC	DS
K2	常時閉鎖式防火戸（両開き戸）	PAH	DL	LH	Z-FR	DS
K3	随時閉鎖式防火戸（片開き戸）	AH		CH	DC	AS,HP
K4	随時閉鎖式防火戸（両開き戸）	AH		CH	Z	AS,HP
K5	防火戸以外の片開き戸（内部）	PAH	DL	PP,LH,CH(W)	DC	DS
K6	防火戸以外の両開き戸（内部）	PAH	DL	PP,LH,CH(W)	Z-FR	DS
K7	外部片開き戸	HH	DL	LH	DC	DS
K8	外部両開き戸	HH	DL	LH	DC,FR	DS
K9	自動扉		DL			AS
K10	防音扉	PH	GL	LH	DC	DS
K11	引戸	HD	DL	PP		
K12	点検扉	NH	DL	SH		
K13						
K14						
K15						

法規則（特定防火設備及び防火設備の種類と符号）　※平成17年国土交通省告示1392号

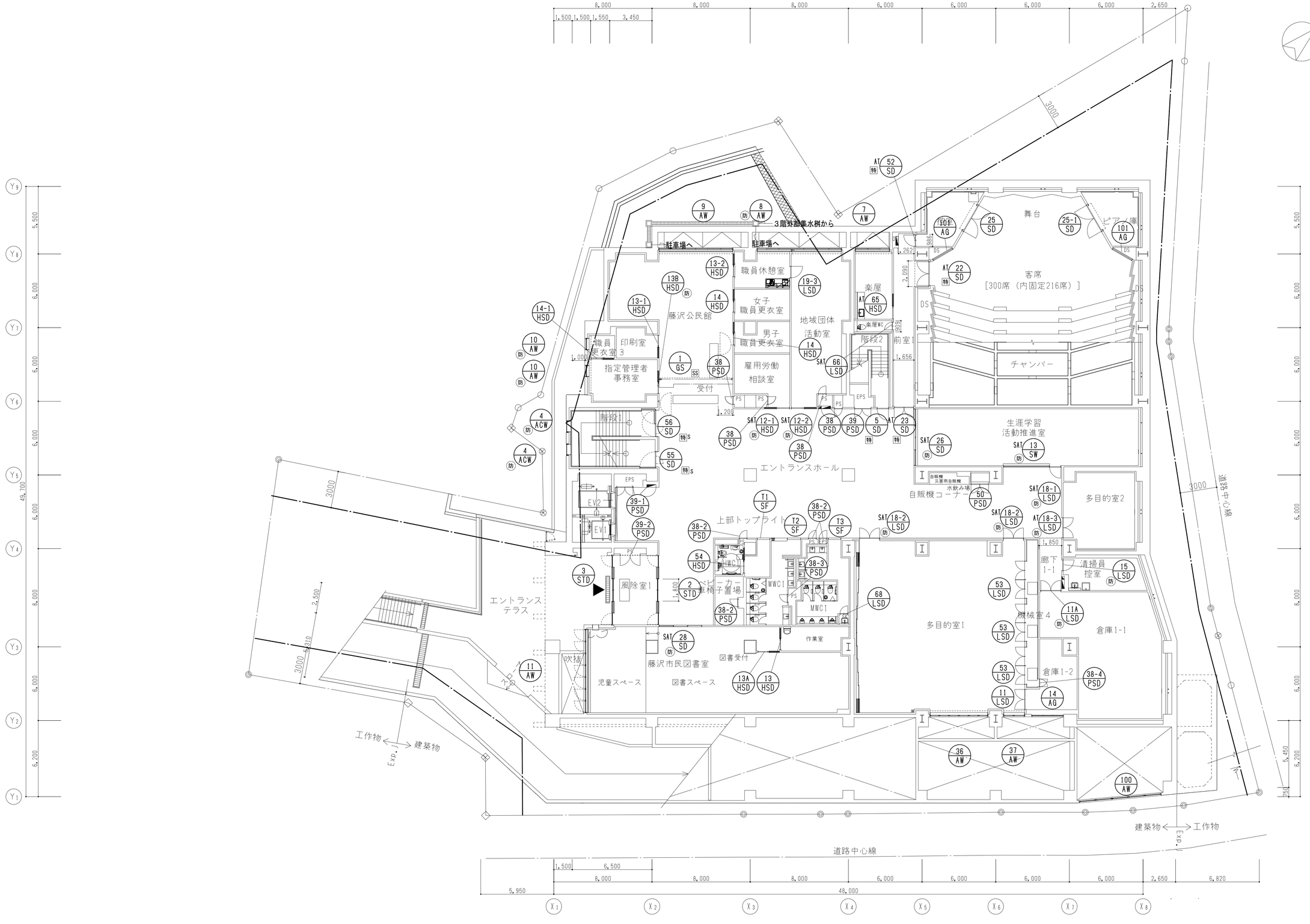
符号	種類	符号	種類
特1	特定防火設備（常時閉鎖扉,令112条第14項一号適合）	網	防火設備（網入ガラス）
特2	特定防火設備（常時閉鎖扉,令112条第14項第二号適合）	耐	防火設備（耐熱強化ガラス）
特1	特定防火設備（随時閉鎖式扉,煙又は熱感知器連動、令112条第14項一号適合）	不	自閉式不燃扉
特2	特定防火設備（随時閉鎖式扉,煙感知器連動、令112条第14項二号適合）		
防1	防火設備（常時閉鎖扉,令112条第14項一号適合）		
防2	防火設備（常時閉鎖扉,令112条第14項二号適合）		
防S	防火設備（随時閉鎖式扉,煙感知器連動,令112条第14項）		
防T	防火設備（随時閉鎖式扉,煙又は熱感知器連動、令112条第14項）		
SS	特定防火設備（随時閉鎖式ｼｬｯﾀｰ、煙又は熱感知器連動、令112条第14項一号適合）		
SS	特定防火設備（随時閉鎖式ｼｬｯﾀｰ、煙感知器連動、令112条第14項二号適合）		

建具表

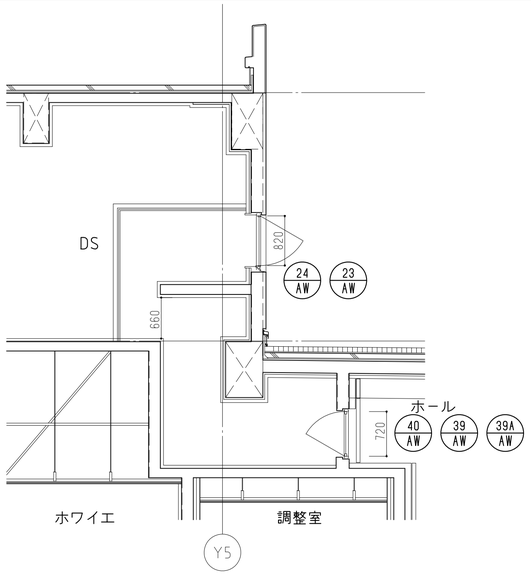
種別番号	取付け場所	形態	建具寸法 W×H×D1×D2	個数	仕上げ	性能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	額縁	額縁（つずり）	ガラリ 形状有効率	ガラリ H	ガラリ 仕上げ	金物	法	備考
—			× × ×													
—			× × ×													
—			× × ×													


N
3000
受水槽室
101 AG
102 AG
井水ろ過設備室
103 AG
消火ポンプ室
3 BP
8 SD
73 SD
8A SD
2 BP
駐車場（50台）
階段
機械室1
3 SD
1 SD
EV2
EV1
B1
10 SD
36 PSD
7 BP
防災倉庫1-1
防災倉庫1-2
2 SD
7 SD
5 BP
6 BP
1 STD
ピロティ
7 SS
1 BP
51 SD
7A SD
37 PSD
14A1 HSD
16B LSD
16-2 LSD
13A-2B HSD
13A-2 HSD
T1 LSD
17 LSD
16-1 LSD
71 SD
4 SD
14A HSD
T1 SD
給湯室
更衣室
相談室2
相談室1
ミーティング室
藤沢西部いきいき
サポートセンター
事務室
玄関ホール
職員WC
13 HSD
15 SW
相談室
和室
押入
ホール藤沢市地域福祉
支援センターおあしす
5 F
3 F
4 F
エリア5
ドライエリア4
13-1 HSD
藤沢西部地区
ボランティアセンター
事務室・会議室
5 SS
T2 SD
建築物
工作物
2 AWD
6 SS
1 AW
54A HSD
B1 STD
1 AG
3 AW
B2 STD
2 AG
15A LSD
54 HSD
4 AW
16 LSD
3 AD
5 AW
道路中心線
Exp.J
Y9
Y8
Y7
Y6
Y5
Y4
Y3
Y2
Y1
X1
X2
X3
X4
X5
X6
X7
X8
49,700
48,000
5,950
1,821.3
12,250
2,988.8
3,701
4,830
3,015
4,587
2,500
5,510
8,000
5,031
4,400
2,345
3,470
6,265
3,405
5,867
4,102
6,138
6,149
1,800
5,265
2,299
5,500
6,000
6,200
5,450
1,500
6,500
8,000
6,820
2,650
2,000
1,989.2
1,541.1

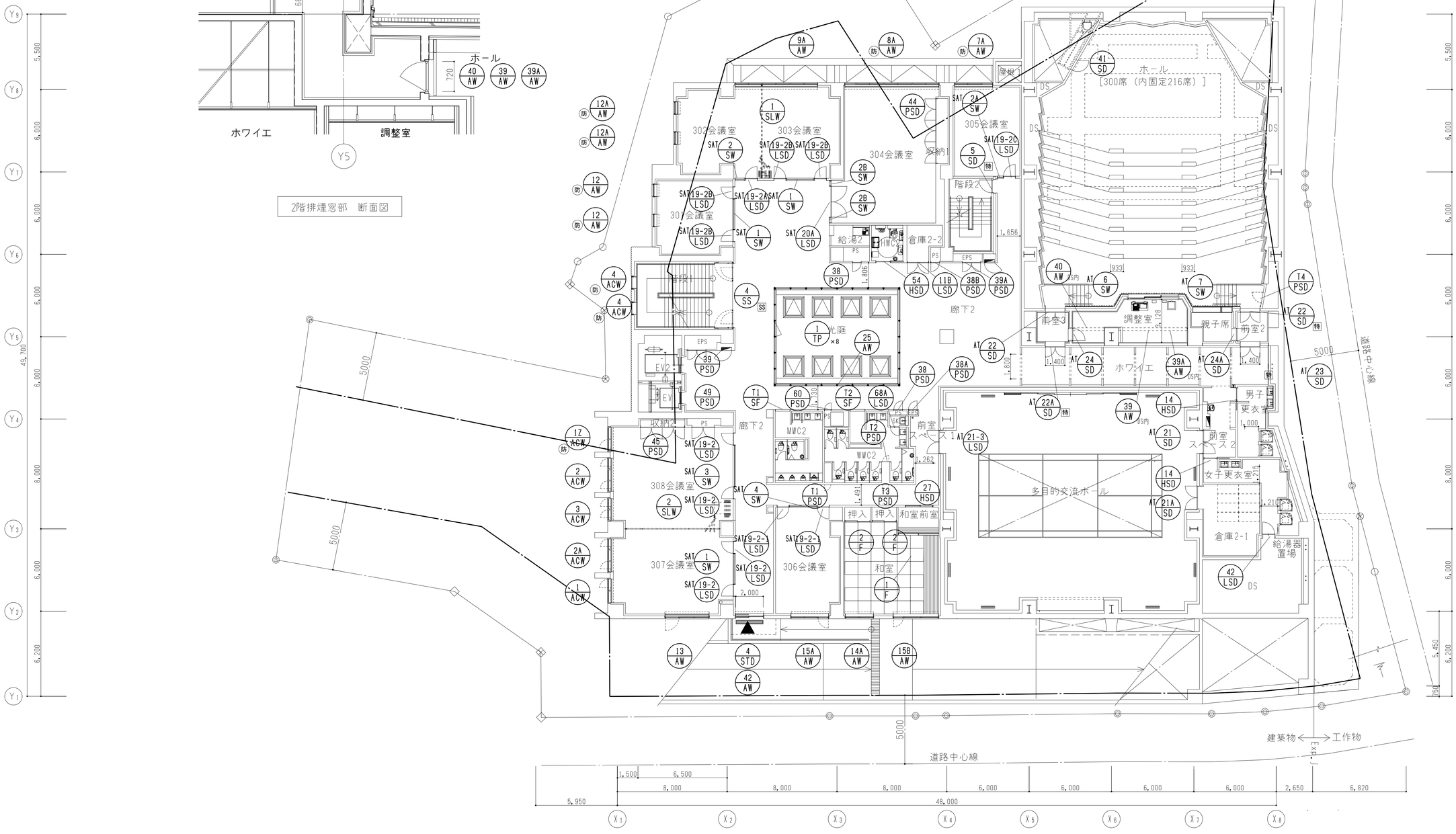
| | | |


N
8,000
8,000
8,000
6,000
6,000
6,000
6,000
2,650
1,500
1,500
1,550
3,450
3000
3階雨水排水桝から
駐車場へ
駐車場へ
舞台
ピアノ庫
客席
[300席（内固定216席）]
チャンバー
楽屋
楽屋WC
階段2
前室
職員休憩室
女子
職員更衣室
男子
職員更衣室
地域団体
活動室
藤沢公民館
職員
更衣室3
印刷室
指定管理者
事務室
受付
雇用労働
相談室
階段1
EV2
EV1
EPS
エントランスホール
上部トップライト
生涯学習
活動推進室
自販機コーナー
水飲み場
多目的室2
廊下
1-1
清掃員
控室
多目的室1
機械室4
倉庫1-1
倉庫1-2
作業室
風除室1
ピアノ・車椅子置場
WWC1
MWC1
エントランス
テラス
吹抜
藤沢市民図書室
図書受付
児童スペース
図書スペース
工作物
建築物
Exp.J
建築物
工作物
Exp.J
道路中心線
道路中心線
Y9
Y8
Y7
Y6
Y5
Y4
Y3
Y2
Y1
X1
X2
X3
X4
X5
X6
X7
X8
5,500
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,200
49,700
5,950
48,000
6,820
5,450
6,200

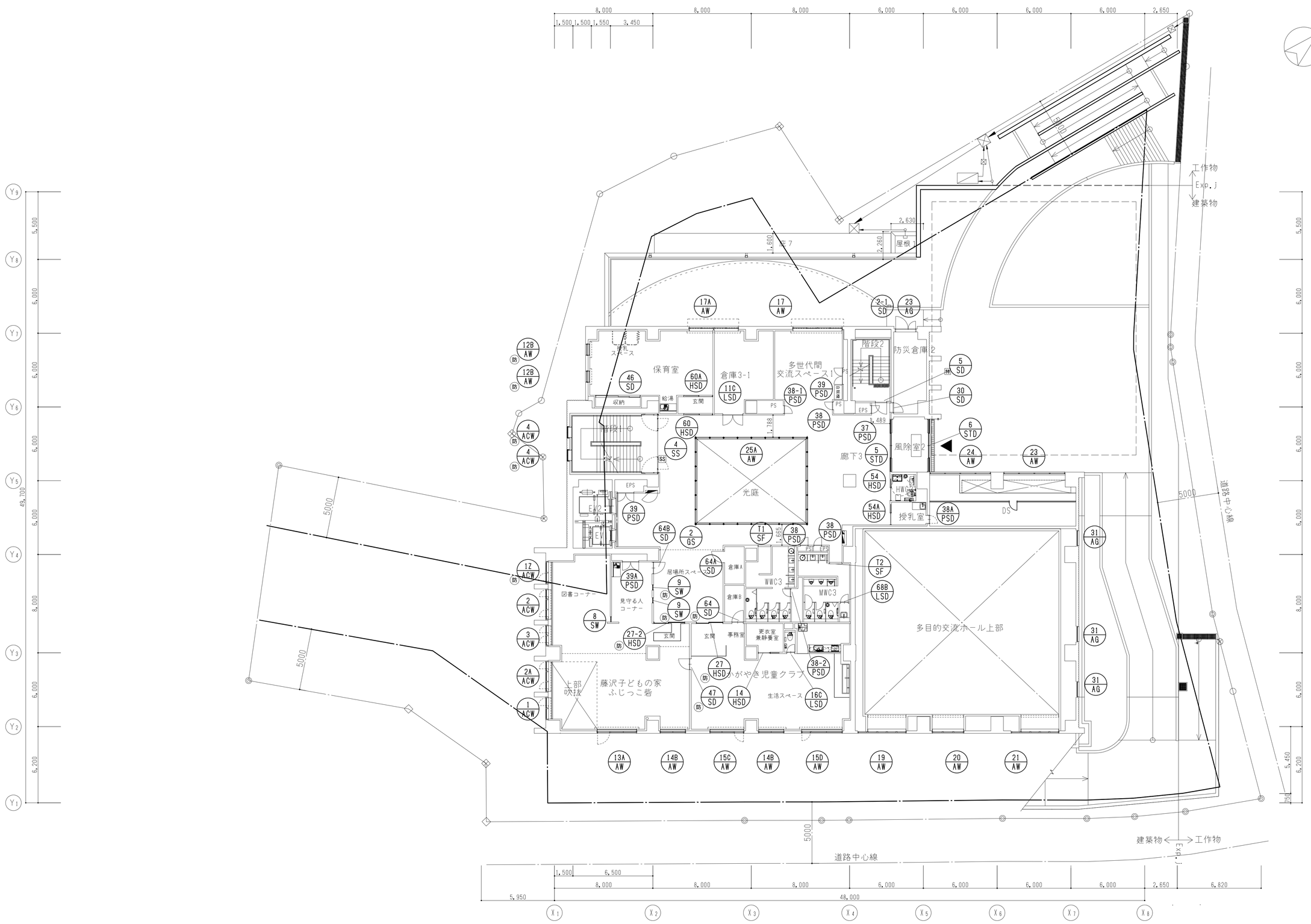
| | | |


DS
820
660
720
24 AW
23 AW
ホール
40 AW
39 AW
39A AW
ホワイエ
調整室
Y5

2階排煙窓部　断面図


8,000
8,000
8,000
6,000
6,000
6,000
6,000
2,650
1,500
1,500
1,550
3,450
5000
302会議室
303会議室
304会議室
305会議室
306会議室
307会議室
308会議室
階段1
階段2
倉庫2-2
給湯2
HWC
PS
EPS
光庭
廊下2
収納1
収納2
MWC2
前室スペース1
前室スペース2
ホール
[300席（内固定216席）]
調整室
親子席
前室3
前室2
ホワイエ
男子更衣室
女子更衣室
倉庫2-1
給湯器置場
多目的交流ホール
押入
和室前室
和室
DS
道路中心線
建築物
工作物
5000
5000
5000
5000
49,700
5,500
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,200
5,450
750
1,656
1,806
2,128
1,400
1,000
1,262
1,491
1,210
2,000
800
Y9
Y8
Y7
Y6
Y5
Y4
Y3
Y2
Y1
X1
X2
X3
X4
X5
X6
X7
X8
5,950
1,500
6,500
48,000
6,820

| | | |



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

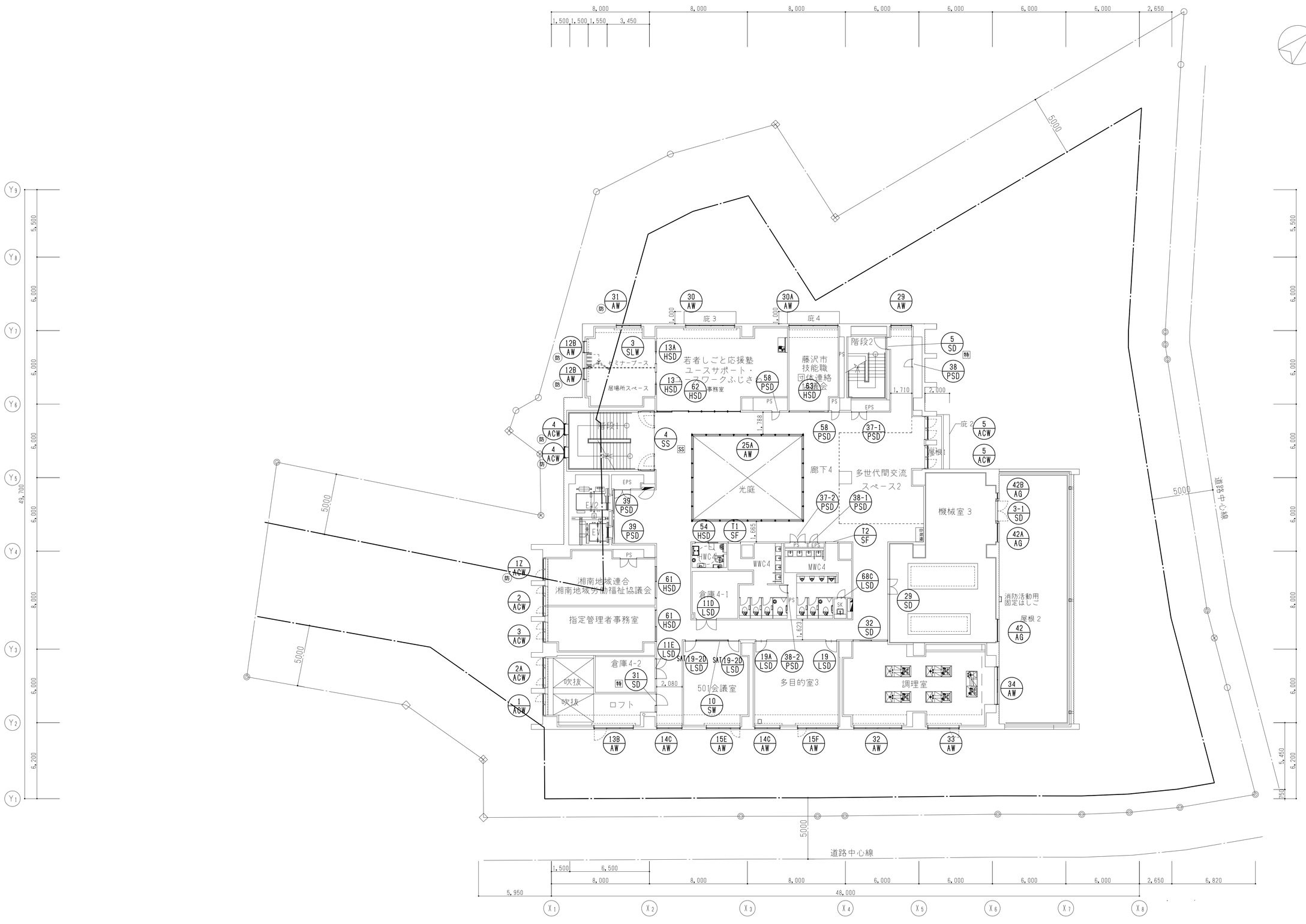
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

3階建具指示図

設計番号	図面番号
	A — 114
縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28
	No



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 115
4階建具指示図	縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28	No

N

8,000 8,000 8,000 6,000 6,000 6,000 6,000 2,650

1,500 1,500 1,550 3,450

Y9 Y8 Y7 Y6 Y5 Y4 Y3 Y2 Y1

5,500 6,000 6,000 6,000 6,000 6,000 6,000 6,200

49,700

X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X8

1,500 6,500 8,000 8,000 8,000 6,000 6,000 6,000 6,000 2,650 6,820

5,950 48,000

5000

道路中心線

屋根4

T1 SD

T3 SD

ﾄﾗﾝｽﾎﾟｰﾄ小屋2

1 AWD

70 SD

4 ACW

4 ACW

6 SD

38 PSD

72 SD

EPS2

EV2

EVホール 5

EV1

7 STD

PS

厨房事務室

控え室 (休憩スペース)

レストラン 30席

厨房

15B LSD

客席

T2A SF

35 SD

T1 SF

50 HSD

6 ACW

展望テラス

T2 SF

T2A SF

T6A LSD

T4 SD

屋根3

消防活動用固定はしご

54 HSD

T2 SD

ﾄﾗﾝｽﾎﾟｰﾄ小屋

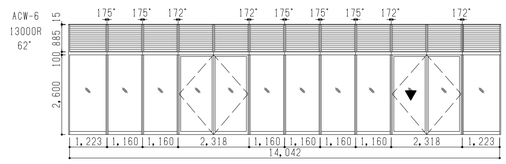
5,450

150

| | | |

建具表

種別番号	取付け場所	形態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	縦板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	H	仕上げ	金物	法	備考
ACW-1	2～4F 南西面	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ	1,800×14,000× -× 75	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FR5,FL8									(防) (一部)	外部 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ: ｹｲｶﾙ板t35+EP ﾌﾟﾘｰｽﾞ網戸
ACW-1-2	2～4F 南西面	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ	1,800×14,000× -× 75	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FR5,FL8										外部 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ: ｹｲｶﾙ板t35+EP ﾌﾟﾘｰｽﾞ網戸
ACW-2	2～4F 南西面	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ	2,450×14,000× -× 75	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6,FL8								外部ハンドル （非常用進入口）		外部 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ: ｹｲｶﾙ板t20+EP ﾌﾟﾘｰﾂ網戸
ACW-3	2～4F 南西面	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ	1,600×14,000× -× 75	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6,FL8										外部 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ: ｹｲｶﾙ板t20+EP ﾌﾟﾘｰﾂ網戸
ACW-4	2～5F 階段1	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ	750×19,500× -× 75	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FR5,FL8									(防)	外部 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ: ｹｲｶﾙ板t20+EP ﾌﾟﾘｰﾂ網戸
ACW-5	4F 多世代交流 ｽﾍﾟｰｽ2	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ	1,900× 4,450× -× 75	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ: ｹｲｶﾙ板t20+EP ﾌﾟﾘｰﾂ網戸
ACW-6	5F ﾚｽﾄﾗﾝ	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ ｶﾞﾗﾘ付	14,042× 3,600× -× 75	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE8+A6 +FR6,FL8					G2 35%	14000 × 900	電解 2次 着色		(防) (一部)	外部 ﾌﾟﾘｰｽﾞ網戸
	特記なきｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ	耐風圧:S-5,気密性:A-3,水密性:W-4,遮音性:T-2,断熱性能:H-1 見込等：ARM-S CW同等（枠見込75mm 方立見付60mm） 網戸:ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ（ｱｺｰﾃﾞｨｵﾝ網戸部、ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ）															
AD-1	B1F 玄関ﾎｰﾙ	欄間片袖FIX付 片引き戸 D45	2,000× 2,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6 ﾄﾞｱ部: FL6+FL6										ﾄﾞｱ部: 衝突防止ﾏｰｸ 外部
AD-2	B1F 玄関	欄間片袖FIX付 片引き戸 D45	2,000× 2,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6 ﾄﾞｱ部: FL6+FL6										ﾄﾞｱ部: 衝突防止ﾏｰｸ 外部
AD-3	B1F 玄関ﾎｰﾙ	欄間片袖FIX付 片引き戸 D45	2,500× 2,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6 ﾄﾞｱ部: FL6+FL6										ﾄﾞｱ部: 衝突防止ﾏｰｸ 外部
AW-42	2F 廊下2	2連排煙窓	2,115× 400× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										手動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ付 外部 固定網戸
AW-7-1	2F 談話室2	片開き窓付 引違い窓 W11,W14	2,850× 1,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FR5									(防)	外部 外部可動網戸
AW-41	1F 管理諸室等1-1	竪ﾆ出し連窓 W17	2,650× 1,500× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FR5									(防)	外部 ﾌﾟﾘｰﾂ網戸
AW-13-1	4F ロフト	片開き窓付 引違い窓 W11,W14	3,150× 1,300× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-14-1	4F廊下4 多目的室3	引違い窓 W11	2,000× 1,300× -× 70	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-15a-1	4F 会議室3	片開き窓付 引違い窓 W11,W14	2,700× 1,300× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-15c-1	4F 多目的室 3	片開き窓、FIX付 引違い窓 W11,W13,W14	3,250× 1,300× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸



※ＡＣＷ１-１-２-３：ガラス+繊維混入けい酸カルシウム板10mm×2枚貼(FP03ONE-9298)
※ＡＣＷ２：ガラス+繊維混入けい酸カルシウム板3枚貼 厚み35ｍｍ以上(H12建告1399号第1六号ロ)
※ガラス面には全てに衝突防止・飛散防止フィルム貼付とする。

建具表

種別番号	取付け場所	形態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	縦板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	H	仕上げ	金物	法	備考
AW-1	B1F 事務室 ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ室	FIX、片開き連窓付 掃出し窓 W11,W13,W14	3,150× 2,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowEPT8+A6 +PT8										外部 外部可動網戸
AW-3	B1F 事務室	FIX、片開き連窓付 掃出し窓 W11,W13,W14	2,700× 2,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowEPT8+A6 +PT8										外部 外部可動網戸
AW-4	B1F 地域生活支援 ｾﾝﾀｰおあしす	掃出し連窓 W11	3,950× 2,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowEPT8+A6 +PT8										外部 外部可動網戸
AW-5	B1F ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ	掃出し連窓 W11	3,950× 2,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowEPT8+A6 +PT8										外部 外部可動網戸
AW-7	1F 楽屋	FIX付 引違い窓 W11,W13	2,850× 1,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-8	1F 職員休憩室 地域団体活動室 2F 会議室1	引違い連窓 W11	7,000× 1,600× -× 70	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FR5									(防)	外部 外部可動網戸
AW-9	1F 管理諸室等1-1 2F 会議室2,5	引違い連窓 W11	5,900× 1,600× -× 70	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-10	1F 職員更衣室3 指定管理者 事務室	竪ﾆ出し窓 W17	850× 800× -× 70	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FR5									(防)	外部 ﾌﾟﾘｰﾂ網戸
AW-11	1F 市民図書館	片開き連窓 W14	2,450× 1,400× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 ﾌﾟﾘｰﾂ網戸
AW-12	2F 会議室4,5 3F 保育室 4F 若年者就労 支援事業	竪ﾆ出し窓 W17	850× 1,500× -× 70	8	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FR5									(防)	外部 ﾌﾟﾘｰﾂ網戸
AW-13	2F 談話室4 3F藤沢子供の家	片開き窓付 引違い窓 W11,W14	3,150× 1,500× -× 70	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-14	2F和室 3F藤沢子供の家 放課後児童ｸﾗﾌﾞ	引違い窓 W11	2,000× 1,500× -× 70	3	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-15a	2F 談話室1 3F 放課後児童ｸﾗﾌﾞ	片開き窓付 引違い窓 W11,W14	2,700× 1,500× -× 70	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-15b	2F 和室	片開き窓 W14	1,150× 1,500× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-15c	3F 放課後児童ｸﾗﾌﾞ 4F 多目的室 1	片開き窓、FIX付 引違い窓 W11,W13,W14	3,250× 1,500× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-41	B1F 駐車場	5連排煙窓 W20	4,950× 2000× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										排煙ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ付 外部 固定網戸 下部：スパンドレル
AW-17	3F 多世代間交流 ｽﾍﾟｰｽ1 倉庫3-1 保育室	片引き連窓 W12	3,950× 2,500× -× 70	2	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowEPT8+A6 +PT8										外部 外部可動網戸
AW-19	3F 多目的交流 ホール上部	排煙窓付 5連2段 W20	3,850× 1,500× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										手動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ付 外部 固定網戸 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ: ｹｲｶﾙ板t35+EP
AW-20	3F 多目的交流 ホール上部	排煙窓付 3連2段 W20	2,500× 1,500× -× 70	1	電解 2次着色	S-5,A-3 W-4,T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										手動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ付 外部 固定網戸

ACW,AWは製作図
3.鋼製建具製作図（アルミ建具）に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建具表（１）	縮尺 1/A1:- A3:-	日付 2019・02・28
		No

改訂：2013_09_02

建具表

種別番号	取付け場所	形態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	H	仕上げ	金物	法	備考
AW-21	3F 多目的交流 ホール上部	排煙窓付 5連2段　W20	3,800× 1,500× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										手動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ付 外部 固定網戸 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ: ｹｲｶﾙ板t35+EP
AW-23	3F 自然排煙DS	4連排煙窓 W20	4,950× 800× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										電動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ 外部 固定網戸
AW-24	3F 自然排煙DS	4連排煙窓 W20	4,900× 800× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										電動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ 外部 固定網戸
AW-25	2, 3F 光庭	欄間排煙窓付 FIX連窓 W13, W20	9,000× 2,600× -× 70	6	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										手動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ 外部 固定網戸
AW-26	2, 3F 光庭	欄間排煙窓付 FIX連窓 W13, W20	7,000× 2,600× -× 70	5	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										手動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ 外部 固定網戸
AW-29	4F 廊下4	引違い窓 W11	1,900× 1,300× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-30	4F 管理諸室等4-1 若年者就労 支援事業	引違い窓 W11	3,950× 1,300× -× 70	2	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-31	4F 若年者就労 支援事業	引違い窓 W11	1,950× 1,300× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FR5									防	外部 外部可動網戸
AW-32	4F 調理室	引違い連窓 W11	3,850× 1,300× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-33	4F 調理室	片開き窓付 引違い窓 W11, W14	2,500× 1,300× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-34	4F 調理室	FIX付片引き窓 W11, W13	3,000× 1,300× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										外部 外部可動網戸
AW-36	1F 多目的室1	排煙窓 W20	4,780× 800× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	FL6+A6 +LowE6										手動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ 外部 固定網戸
AW-37	1F 多目的室1	排煙窓 W20	1,580× 800× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	FL6+A6 +LowE6										手動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ 外部 固定網戸
AW-38	2F 和室前室	Fix窓 W13	1,850× 2,100× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	FL6+A6 +LowE6										外部
AW-39	2F 自然排煙DS	5連排煙窓 W20	5,000× 780× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										電動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ 内部 固定網戸
AW-40	2F 自然排煙DS	5連排煙窓 W20	5,000× 780× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										電動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ 内部 固定網戸
AW-26-1	2F 光庭	欄間排煙窓付 片開き、FIX連窓 W13, W14, W20	7,000× 2,600× -× 70	1	電解 2次着色	S-5, A-3 W-4, T-2 H-1	LowE6+A6 +FL6										手動ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ 外部 固定網戸
	特記なきｱﾙﾐｻｯｼ	耐風圧:S-5, 気密性:A-3, 水密性:W-4, 遮音性:T-2, 断熱性能:H-1 見込等:MTG-70同等(枠見込70mm+障子見付) 網戸:ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ ｸﾞﾗﾘﾝ:防水仕様 開口率35%以下 縦型ｶﾞﾗﾘ ｽﾃﾝﾚｽ防鳥網付															
STD-1	B1F EVﾎｰﾙ	片袖FIX付 片引自動ﾄﾞｱ 施錠：サムターンとし内側からの開錠が可能とする。	2,500× 2,600× -× 150	1	No.2B		FL6+FL6			SUS	SUS ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ				エンジン装着 AS	特	框扉(徐前付) 外部 建具詳細図(1) による
STD-2	1F 風除室1	片開き框戸付 引分自動ﾄﾞｱ 施錠：サムターンとし内側からの開錠が可能とする。	5,725× 2,600× -× 150	1	No.2B		FL6+FL6			SUS	SUS ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ				エンジン装着 AS		框扉(徐前付) 外部 建具詳細図(2) による
STD-3	1F 風除室1	片開き框戸付 引分自動ﾄﾞｱ 施錠：サムターンとし内側からの開錠が可能とする。	5,560× 2,600× -× 150	1	No.2B		FL6+FL6			SUS	SUS ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ				エンジン装着 AS		框扉(徐前付) 外部 建具詳細図(2) による

建具表

種別番号	取付け場所	形態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	H	仕上げ	金物	法	備考
STD-4	2F 廊下2	片袖FIX付 片引自動ﾄﾞｱ	4,000× 2,600× -× 150	1	No.2B	SAT	FL6+FL6			SUS	SUS ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ				エンジン装着 AS		框扉(徐前付) 外部 建具詳細図(1) による
STD-5	3F 風除室2	両袖FIX付 引分自動ﾄﾞｱ 施錠：サムターンとし内側からの開錠が可能とする。	4,265× 2,600× -× 150	1	No.2B		FL6+FL6			SUS	SUS ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ				エンジン装着 AS		框扉(徐前付) 外部 建具詳細図(3) による
STD-6	3F 風除室2	片袖FIX付 片引自動ﾄﾞｱ 施錠：サムターンとし内側からの開錠が可能とする。	4,265× 2,600× -× 150	1	No.2B		FL6+FL6			SUS	SUS ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ				エンジン装着 AS		框扉(徐前付) 外部 建具詳細図(3) による
PSD-40	4F EPS	両開き 片面パネル戸 D31	1,000× 2,600× -× -	1	SOP塗装						ST	SUS B1			K12 AS		内部
SSD-1	B1F 燃料ﾎﾞﾝﾌﾟ室	片開きﾌﾗｯｼｭ戸	850× 2,100× -× -	1	B-FE(F)						ST	SUS B3			K7		外部
SD-2-1	3F 防災倉庫2	ｶﾞﾗﾘ付 両開きﾌﾗｯｼｭ戸	1,600× 2,600× -× -	1	SOP塗装						ST	SUS B3	G2 35%	1550 × 350	K8 SOP		外部
SD-3-1	4F 機械室3	ｶﾞﾗﾘ付 両開きﾌﾗｯｼｭ戸	1,600× 2,000× -× -	1	SOP塗装						ST	SUS B3	G2 35%	100 × 1900	K8 SOP		外部
SD-70	5F 階段	片開きﾌﾗｯｼｭ戸	850× 1,900× -× -	1	FUE塗装						ST	SUS B3			K7		外部
SD-72	5F EVﾎｰﾙ5	親子ﾌﾗｯｼｭ戸	800× 2,600× -× - +400	1	FUE塗装						ST	SUS B3			K8		外部
PSD-50	1F 盤スペース	両開き 片面パネル戸 D31	1,525× 2,600× -× -	1	SOP塗装						ST	SUS B1			K12 AS		内部
SS-1	B1F 駐車場	管理用ｼｬｯﾀｰ	6,620× 2,590× -× -	2	HL	**電動式**									AS ﾚｰﾙ, ﾏｸﾞｻ：SUS HL 座板：SUS		煙感連動 内部 建具詳細図(9) による
SS-2	B1F 駐車場	管理用ｼｬｯﾀｰ	4,670× 2,590× -× -	2	HL	**電動式**									AS ﾚｰﾙ, ﾏｸﾞｻ：SUS HL 座板：SUS		煙感連動 内部 建具詳細図(9) による
BP-2	B1F 駐車場	スチール製防煙パネル	4,620× 500× -× -	1	焼付塗装	電動式									AS		煙感連動 内部 建具詳細図(9) による
BP-3	B1F 駐車場	スチール製防煙パネル	6,720× 500× -× -	1	焼付塗装	電動式									AS		煙感連動 内部 建具詳細図(9) による
SS-4	2～4F 階段	潜戸付 防火防煙ｼｬｯﾀｰ	4,693× 2,600× -× -	3	HL	電動式									AS ﾚｰﾙ, ﾏｸﾞｻ：SUS HL 座板：SUS	SS	煙感連動 内部 建具詳細図(9) による
SS-5	B1F 駐車場	管理用ｶﾞﾘﾙｼｬｯﾀｰ	6,650× 4,100× -× -	1	HL	電動式									AS ﾚｰﾙ, ﾏｸﾞｻ：SUS HL 座板：SUS		外部 建具詳細図(9) による
SS-6	B1F 屋外ｽﾛｰﾌﾟ1	管理用ｼｬｯﾀｰ 施錠：サムターンとし内側からの開錠が可能とする。	1,420× 2,700× -× -	1	HL	電動式									AS ﾚｰﾙ, ﾏｸﾞｻ：SUS HL 座板：SUS		外部 建具詳細図(9) による
SS-7	B1F ﾋﾟﾛﾃｨ	管理用ｶﾞﾘﾙｼｬｯﾀｰ 施錠：サムターンとし内側からの開錠が可能とする。	3,645× 2,850× -× -	1	HL	電動式									AS ﾚｰﾙ, ﾏｸﾞｻ：SUS HL 座板：SUS		外部 建具詳細図(9) による
GS-1	1F 管理諸室等1-1	潜戸付 防火防煙ｼｬｯﾀｰ	5,706× 2,600× -× -	1	焼付塗装	電動式									AS ﾚｰﾙ, ﾏｸﾞｻ：SUS HL 座板：SUS	SS	煙感連動 内部 建具詳細図(9) による
GS-2	3F 居場所スペース	管理用グリルシャッター	5,080× 2,600× -× -	1		電動式									AS ﾚｰﾙ, ﾏｸﾞｻ：SUS HL 座板：SUS		内部 建具詳細図(9) による
TP-1	2F 屋根面	ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ 有効開口1.51㎡/か所(□1240)	1,300× 1,300× -× -	8	ｱﾙﾐｱﾙﾏｲﾄｼﾙﾊﾞｰ		PW6.8										外部 建具詳細図(4) による
TP-2	2F 屋根面	ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ 有効開口3.47㎡/か所	1,540× 3,240× -× -	5	ｱﾙﾐｱﾙﾏｲﾄｼﾙﾊﾞｰ		PW6.8										外部 建具詳細図(4) による

※特記なきｼｬｯﾀｰ　ガイドレール・マグサ・座金は鋼製とする(SOP)
スラットは亜鉛メッキ鋼板とする

AWは製作図
3. 鋼製建具製作図（アルミ建具）に依る
STD, PSD, SSD, SDは製作図
4. 鋼製建具製作図（スチール建具）に依る
SS, BP, GSは製作図
5. 鋼製建具製作図（シャッター、可動防煙垂壁）に依る
TPは製作図
8. トップライト製作図に依る

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建具表（２）	縮尺 1/A1:- A3:-	日付 2019・02・28
		No

改訂：2013.09.02

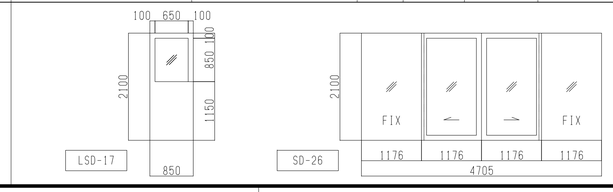
建具表

種別番号	取付け場所	形態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	ガラリ H	ガラリ 仕上げ	金物	法	備考
SD-1	B1F 階段1	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K1	特	内部
SD-2	B1F 防火倉庫1-1	引き分けﾌﾗｯｼｭ戸 D62	1,800× 2,400× -× -	2	SOP塗装					ST	SUS B1				K11	特	内部
SD-3	B1F 階段1	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K5	特	内部
SD-4	B1F 専用ｶﾊﾞﾅ	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	900× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K5		外部
SD-5	1～4F 階段2 B1F 駐車場	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	900× 2,100× -× -	6	SOP塗装					ST	SUS B1				K1	特	内部
SD-6	5F 階段1	戸袋付 片開き防火戸 D11	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K1	特	内部
SD-7	B1F 防火倉庫1-2 ごみ庫	両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D31	1,600× 2,400× -× -	2	SOP塗装					ST	SUS B1				K2	特	内部
SD-8	B1F 消火ﾎﾟﾝﾌﾟ室 受水槽	両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D31	1,600× 2,400× -× -	2	SOP塗装					ST	SUS B1				K2	特	内部
SD-10	B1F 駐車場	両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D31	1,600× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K2	特	内部
LSD-11	各階 倉庫1-2 2-2,3-1,4-1,4-2	ｶﾞﾗﾘ付 両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D35	1,600× 2,100× -× -	5	SOP塗装					ST	SUS B1	G2 35%	100 × 1900	SOP	K6		内部
HSD-12	1F 雇用労働相談室 地域団体活動室	額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	850× 2,100× -× -	3	SOP塗装	SAT	FR5 (100×1900) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1				K11	防	内部 D-防建4参照
HSD-13	各階 居室	額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	850× 2,100× -× -	8	SOP塗装		FL5 (100×1900) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1				K11		内部
HSD-13A-2	B1F 相談室等	額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	850× 2,100× -× -	4	SOP塗装	SAT	FR5 (100×1900) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1				K11	特	内部 D-防建4参照
HSD-14	各階 更衣室等	額ｶﾞﾗﾘ付 片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D44	850× 2,100× -× -	6	SOP塗装		FL5 (100×950) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1	G2 35%	100 × 950	SOP	K11		内部
HSD-14A	B1F 更衣室 脱衣室	額ｶﾞﾗﾘ付 片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D44	850× 2,100× -× -	2	SOP塗装		FL5 (100×950) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1	G2 35%	100 × 950	SOP	K11,FD		内部
LSD-15	1F 清掃員控室 5F 厨房事務室	額ｶﾞﾗﾘ付 片開ﾌﾗｯｼｭ戸 D14	850× 2,100× -× -	2	SOP塗装		FL5 (100×950) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1	G2 35%	100 × 950	SOP	K1,FD	防	内部
LSD-15A	B1F 倉庫	額ｶﾞﾗﾘ付 片開ﾌﾗｯｼｭ戸 D14	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装		FR5 (100×950) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1	G2 35%	100 × 950	SOP	K1,FD	特	内部
LSD-16	各階 MWC.WWC	額入片開ﾌﾗｯｼｭ戸 D13	600× 2,100× -× -	2	SOP塗装		FL5 (100×1900) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1				K5		内部
LSD-16A	5F MWC.WWC	額入片開ﾌﾗｯｼｭ戸 D13	600× 2,100× -× -	2	SOP塗装		FL5 (100×1900)			ST	SUS B1				K5		内部
LSD-16B	B1F WC	額入片開ﾌﾗｯｼｭ戸 D13	550× 2,100× -× -	3	SOP塗装		FL5 (100×1900)			ST	SUS B1				K5		内部
LSD-17	B1F LDK	額入片引框戸	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装		T5 (ﾌﾛｽﾄ加工) (650×850)			ST	SUS B1				K5		内部
LSD-18-1	1F 生涯学習 活動推進室	額ｶﾞﾗﾘ付 片開ﾌﾗｯｼｭ戸 D14	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装	SAT	FR5 (100×950) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1	G2 35%	100 × 950	SOP	K1,FD	防	内部 D-防建1参照

建具表

種別番号	取付け場所	形態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	ガラリ H	ガラリ 仕上げ	金物	法	備考
LSD-18-2	1F 多目的室1	額入両開きフラッシュ戸 D33	1,600× 2,100× -× -	2	SOP塗装	SAT	FR10 (100×1900)			ST	SUS B1				K2	防	内部 D-防建1参照
LSD-18-3	1F 多目的室2	額入両開きフラッシュ戸 D33	1,600× 2,100× -× -	1	SOP塗装	AT	FR10 (100×1900)			ST	ｵｰﾄﾏﾁｯｸﾀｲﾄ B2				K2 ZAT	防	内部 D-防建2参照
LSD-19	4F 多目的室3	額入片開きフラッシュ戸 D13	850× 2,100× -× -	2	SOP塗装		T10 (100×1900)			ST	SUS B1				K5		内部 1か所破壊錠 非常開装置付
LSD-19-2	2F 談話室.相談室	片開き框戸 D12	850× 2,100× -× -	16	SOP塗装	SAT	T5			ST	SUS B1				K5		内部 D-防建1参照
LSD-19-3	1F 地域団体活動室	片開ﾌﾗｯｼｭ戸 D11	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K5		内部
LSD-20	2F 会議室1	両袖FIX付 両開き框戸 D32	3,000× 2,100× -× -	1	SOP塗装	SAT	T5			ST	SUS B1				K6		内部 D-防建1参照
SD-21	2F 多目的交流ﾎｰﾙ	額ｶﾞﾗﾘ付 両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D34	1,600× 2,100× -× -	3	SOP塗装 木ﾙｰﾊﾞｰ	AT	FR5 (100×950)			ST	ｵｰﾄﾏﾁｯｸﾀｲﾄ B2	G2 35%	100 × 950	SOP	K2,FD ZAT		内部 D-防建5参照
SD-22	1.2F ﾎｰﾙ	両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D31	1,600× 2,100× -× -	3	ﾀﾞｲﾉｯｸ貼	AT				ST	ｵｰﾄﾏﾁｯｸﾀｲﾄ B2				K6 ZAT	特	内部 遮音性:30dB D-防建2参照
SD-23	1.2F ﾎｰﾙ前室	両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D31	1,600× 2,100× -× -	3	SOP塗装	AT				ST	SUS B1				K2	特	内部 四方ｴｱﾀｲﾄ
SD-24	2F 調整室.親子席	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	850× 2,100× -× -	2	SOP塗装	AT				ST	ｵｰﾄﾏﾁｯｸﾀｲﾄ B2				K5 ZAT		内部 D-防建2参照
SD-25	1F ﾋﾟｱﾉ庫.控室	両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D31	2,200× 2,500× -× -	2	ﾀﾞｲﾉｯｸ貼 木ﾙｰﾊﾞｰ					ST	SUS B1				K6		内部 D-建8参照
SD-26	1F 生涯学習活動 推進室	両袖FIX付 引分框戸	4,705× 2,100× -× -	1	SOP塗装	SAT	FR5			ST	SUS B1				K11	防	内部 D-防建4参照
HSD-27	2～4F 居場所ｽﾍﾟｰｽ	片袖FIX付 額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	2,490× 2,100× -× -	1	SOP塗装		FR5 (100×1900) 袖FIX共			ST	SUS B1				K11		内部
SD-28	1F 市民図書室	FIX窓付 片引框戸 D42	3,450× 2,600× -× -	1	SOP塗装	SAT	FR5			ST	SUS B1				K11	防	内部 D-防建4参照
SD-29	4F 機械室3	ｶﾞﾗﾘ付 両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D15	1,200× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1	G2 35%	100 × 1900	SOP	K10		内部 ロックウール 80kg/m³
SD-30	3F 防災倉庫	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	600× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K5		内部
SD-31	4F ﾛﾌﾄ	片袖FIX付片開き框戸 D12	2,785× 2,100× -× -	1	SOP塗装		耐強5 (ﾌｧｲﾔｰﾄﾞ)			ST	SUS B1				K1	特	内部
SD-32	4F 調理室	片袖FIX付 片引き框戸 D43	2,810× 2,100× -× -	1	SOP塗装		T5			ST	SUS B1				K11		内部
SD-35	5F ﾚｽﾄﾗﾝ	両開き自由扉 D31	900× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K6		内部
PSD-36	PS.EPS	片開き 片面パネル戸 D11	600× 2,600× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K1 AS	特	内部
PSD-37	PS.EPS	両開き 片面パネル戸 D31	1,200× 2,100× -× -	3	SOP塗装					ST	SUS B1				K2 AS	特	内部

鋼製建具姿図



※ガラス面には全てに衝突防止・飛散防止フィルム貼付とする。

SD, LSD, HSD, PSDは製作図
4.鋼製建具製作図（スチール建具）に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建具表（３）	縮尺 1/ A1:- A3:-	日付 2019・02・28
		No

A — 119

改訂：2013_09_02

建 具 表

種別番号	取付け場所	形 態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性 能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	H	仕上げ	金 物	法	備 考
PSD-38	PS,EPS 3F 授乳室	片開き 片面パネル戸 D11	600× 2,600× -× -	9	SOP塗装					ST	SUS B1				K12 AS		内部
PSD-39	PS,EPS	両開き 片面パネル戸 D31	1,300× 2,100× -× -	10	SOP塗装					ST	SUS B1				K12 AS		内部
SD-40	ホール ｷｬｯﾄｳｫｰｸ	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	600× 2,100× -× -	2	SOP塗装					ST	SUS B1				K5 AS		内部
SD-41	ホール ｷｬｯﾄｳｫｰｸ	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	800× 2,600× -× -	8	SOP塗装					ST	SUS B1				K5 AS		内部
LSD-42	2F 給湯器置場	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K5 AS		内部
SD-73	1F ﾎｰﾙ	両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D31	2,400× 2,500× -× -	1	ﾀﾞｲﾉｯｸ貼	AT				ST	SUS B4				K6	特	内部 遮音性:30dB D-防建2参照
PSD-44	2F 収納1	3連両開き 片面パネル戸 D31	5,400× 2,600× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K12 AS		内部
PSD-45	2F 収納2	2連両開き 片面パネル戸 D31	3,200× 2,600× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K12 AS		内部
SD-46	3F 保育室収納	2連引違い戸 D61	3,600× 2,600× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K11		内部
SD-48	5F ﾚｽﾄﾗﾝ	片袖FIX付 片引框ﾄﾞｱ D41	3,400× 2,600× -× 150	1	SOP塗装		FR5			ST	SUS B1				K5	特	内部
HSD-49	5F ﾚｽﾄﾗﾝ	額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D41	950× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K11		内部
HSD-50	5F ﾚｽﾄﾗﾝ	額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D41	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K11		内部
SD-51	B1F 駐輪場	片引戸 D41	1950× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K1	特	外部
SD-52	1F 控室（ホール）	片開きフラッシュ戸 D11	900× 2,100× -× -	1	SOP塗装	AT				ST	SUS B4				K2	特	内部 D-防建2参照
LSD-53	1F 多目的室	両開きフラッシュ戸 D31	1,600× 2,100× -× -	3	SOP塗装					ST	SUS B1				K6		内部
HSD-54	各階 HWC 3F 授乳室	額ｶﾞﾗﾘ付 片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D44	850× 2,400× -× -	7	SOP塗装		FL5 (100×950) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1	G2 35%	100 × 950	SOP	K11		内部
SD-55	1F 階段3	潜戸付 片開きフラッシュ戸 D51	1,215× 2,600× -× -	1	SOP塗装					ST					K3 AS	特 S	内部 戸袋付き
SD-56	1F 階段1	潜戸付 両開きフラッシュ戸 D52	2,340× 2,600× -× -	1	SOP塗装					ST					K4 AS	特 S	内部 戸袋付き
LSD-57	1F 管理諸室	片開き自由扉 D11	1,200× 700× -× -	2	SOP塗装										AS		内部
PSD-58	PS6	片開き 片面パネル戸 D11	800× 2,600× -× -	4	SOP塗装					ST	SUS B1				K12 AS		内部
PSD-59	3F 多世代交流 スペース1	両開き 片面パネル戸 D31	1,000× 2,600× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K12 AS		内部

建 具 表

種別番号	取付け場所	形 態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性 能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	H	仕上げ	金 物	法	備 考
HSD-60	3F 保育室	片袖FIX付 額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	2,330× 2,100× -× -	2	SOP塗装		FL5 (100×1900) 袖FIX共			ST	SUS B1				K11		内部
HSD-61	4F 団体活動室4	片袖FIX付 額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	2,655× 2,100× -× -	2	SOP塗装		FL5 (100×1900) 袖FIX共			ST	SUS B1				K11		内部
HSD-62	4F 若年者就労 支援事業	片袖FIX付 額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	6,925× 2,100× -× -	1	SOP塗装		FL5 (100×1900) 袖FIX共			ST	SUS B1				K11		内部
HSD-63	4F 管理諸室4	片袖FIX付 額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	3,000× 2,100× -× -	1	SOP塗装		FL5 (100×1900) 袖FIX共			ST	SUS B1				K11		内部
SD-64	3F 居場所スペース	ｶﾞﾗﾘ付 片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D15	900× 2,100× -× -	3	SOP塗装					ST	SUS B1	G2 35%	100 × 1900	SOP	K5	防	内部
HSD-65	1F 楽屋	額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	850× 2,100× -× -	1	SOP塗装	AT	FL5 (100×1900) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1				K11		内部 D-防建4参照
LSD-66	1F 楽屋	額入片開ﾌﾗｯｼｭ戸 D13	600× 2,100× -× -	1	SOP塗装	SAT	FL5 (100×1900) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1				K5		内部 D-防建1参照
SD-67	5F EVホール	親子開きﾌﾗｯｼｭ戸 D21	800× 2,100× -× - +400	1	SOP塗装					ST	SUS B3				K8		外部
LSD-68	各階 SK	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D15	600× 2,100× -× -	4	SOP塗装					ST	SUS B1	G2 35%	100 × 1900	SOP	K6		内部
SD-69	1.2F ﾎｰﾙ	片開きﾌﾗｯｼｭ戸 D11	850× 2,100× -× -	2	ﾀﾞｲﾉｯｸ貼					ST	SUS B4				K6 扉・枠内GW充填 (80kg/m3) ﾛｰﾄﾝｿﾛﾝｸﾞﾋﾝｼﾞｰ→PH		内部
HSD-27-2	3F 居場所ｽﾍﾟｰｽ	片袖FIX付 額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	2,490× 2,100× -× -	1	SOP塗装		FR5 (100×1900) 袖FIX共			ST	SUS B1				K11	防	内部 防火設備： 両面20分
SD-71	B1F ドライエリア4	両開きフラッシュ戸 D31	1,800× 2,100× -× -	2	FUE塗装					ST	SUS B3				K6	特	外部
AG-1	B1F 藤沢西部地域 包括支援ｾﾝﾀｰ	ガラリ	2,000× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	1950 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-2	B1F 地域生活支援 ｾﾝﾀｰおあしす	ガラリ	2,000× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	1950 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-3	B1F 藤沢西部地区 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ	ガラリ	2,500× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2450 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-4	B1F 受水槽	ガラリ	1,600× 500× -× -	2	電解 2次着色					ST		G2 35%	1550 × 450	電解 2次 着色	FD	特	外部 GW@50内貼
AG-5	B1F 藤沢西部地域 包括支援ｾﾝﾀｰ	ガラリ	3,150× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3100 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-6	B1F 地域生活支援 ｾﾝﾀｰおあしす	ガラリ	2,700× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2650 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-7	B1F 地域生活支援 ｾﾝﾀｰおあしす	ガラリ	3,950× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3900 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-8	B1F 藤沢西部地区 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ	ガラリ	3,950× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3900 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-9	1F 管理諸室等 1-1	ガラリ	5,900× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	5850 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-10	1F 地域団体活動室	ガラリ	7,000× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	6950 × 350	電解 2次 着色		防	外部 GW@50内貼

AGは製作図
3.鋼製建具製作図（アルミ建具）に依る
SD,PSD,HSD,SDL,PSDは製作図
4.鋼製建具製作図（スチール建具）に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants 一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店 一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

建具表（4）

設計番号

図面番号 A — 120

縮尺 1/ A1:- A3:-

日付 2019・02・28

No

改訂：2013_09_02

建 具 表

種別番号	取付け場所	形 態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性 能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	ガラリ H	ガラリ 仕上げ	金 物	法	備 考
AG-11	1F 楽屋	ガラリ	2,850× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2800 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-12	1F ｴﾝﾄﾗﾝｽﾃﾗｽ	ガラリ（軒天）	1,000× 1,000× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	1000 × 1000	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-13	1F 市民図書室	ガラリ	1550× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	1500 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-15	2F 会議室2,5	ガラリ	5,900× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	5850 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-16	2F 会議室1	ガラリ	7,000× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	6950 × 350	電解 2次 着色	FD	(防)	外部 GW@50内貼
AG-17	2F 談話室2	ガラリ	2,850× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2800 × 350	電解 2次 着色	FD	(防)	外部 GW@50内貼
AG-18	2F 談話室1	ガラリ	2,700× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2650 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-19	2F 和室	ガラリ	1,150× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	1100 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-20	2F 倉庫2-1	ガラリ	700× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	650 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-21	2F 給湯器置場	ガラリ	900× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	650 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-22	3F 倉庫3-1,保育室 多世代交流ｽﾍﾟｰｽ1	ガラリ	3,950× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3900 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
SG-23	3F 防災倉庫2	ガラリ	1,600× 350× -× -	1	SOP塗装 木ルーバー					ST		G2 35%	1550 × 300	SOP			外部 GW@50内貼
AG-24	3F 藤沢子供の家	ガラリ	3,150× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3100 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-25	3F 藤沢子供の家 放課後児童ｸﾗﾌﾞ	ガラリ	2,000× 350× -× -	2	電解 2次着色					ST		G2 35%	1950 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-26	3F 放課後児童ｸﾗﾌﾞ	ガラリ	2,700× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2650 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-27	3F 放課後児童ｸﾗﾌﾞ	ガラリ	3,250× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2200 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-28	3F 多目的交流 ホール上部	ガラリ	3,850× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3800 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-29	3F 多目的交流 ホール上部	ガラリ	2,500× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2450 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-30	3F 多目的交流 ホール上部	ガラリ	3,800× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3750 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-31	3F 多目的交流 ホール上部	ガラリ	6700× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	6650 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-32	3F 多目的交流 ホール上部	ガラリ	4850× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	4800 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼

建 具 表

種別番号	取付け場所	形 態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性 能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	ガラリ H	ガラリ 仕上げ	金 物	法	備 考
AG-33	4F 管理諸室等4-1 若年者就労 支援事業	ガラリ	3,950× 350× -× -	2	電解 2次着色					ST		G2 35%	3900 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-34	4F 廊下4	ガラリ	1,900× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	1850 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-35	4F ロフト	ガラリ	3,150× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3100 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-36	4F 廊下4 多目的室3	ガラリ	2,000× 350× -× -	2	電解 2次着色					ST		G2 35%	1950 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-37	4F 会議室3	ガラリ	2,700× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2650 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-38	4F 多目的室3	ガラリ	3,250× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2200 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-39	4F 調理室	ガラリ	3,850× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3800 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-40	4F 調理室	ガラリ	2,500× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2450 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-41	4F 若年者就労 支援事業	ガラリ	1,950× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	1900 × 300	電解 2次 着色	FD	(防)	外部 GW@50内貼
SG-42	4F 機械室	ガラリ	700× 2,000× -× -	2	SOP塗装 木ルーバー					ST		G2 35%	4800 × 600	SOP			外部 GW@50内貼
AG-43	4F 調理室	ガラリ	3000× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	2950 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-44	5F 厨房	ガラリ	3750× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3700 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-45	5F 厨房	ガラリ	3750× 350× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	3700 × 300	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
SD-73	B1F 井水ろ過設備室	額ｶﾞﾗﾘ付 両開ﾌﾗｯｼｭ戸 D31	1,600× 2,400× -× -	2	SOP塗装 木ルーバー					ST	SUS B1	G2 35%	1550 × 450	SOP	FD	(特)	内部 GW@50内貼
AG-14-1	1F 多目的室1	ガラリ	4780× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	4730 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-14-2	1F 多目的室1	ガラリ	1580× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	1530 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
AG-18-1	2F 和室	ガラリ	2000× 400× -× -	1	電解 2次着色					ST		G2 35%	1950 × 350	電解 2次 着色			外部 GW@50内貼
PSD-60	1F PS	片開き 片面パネル戸 D31	450× 2,600× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1				K12 AS		内部
LSD-11A	1F 倉庫1-1	ｶﾞﾗﾘ付 両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D35	1,600× 2,100× -× -	1	SOP塗装					ST	SUS B1	G2 35%	100 × 1900	SOP	K2,FD	(防)	内部
HSD-13B	1F 指定管理者 事務室	額入片引ﾊﾝｶﾞｰ戸 D43	950× 2,100× -× -	1	SOP塗装		FR5 (100×1900) +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST	SUS B1				K11	(防)	内部
LSD-21-3	2F 多目的ホール	額ｶﾞﾗﾘ付 両開きﾌﾗｯｼｭ戸 D34	1,600× 2,100× -× -	1	SOP塗装 木ﾙｰﾊﾞｰ	AT	FR5 (100×950)			ST	ｵｰﾄﾏﾁｯｸﾀｲﾄ B2	G2 35%	100 × 1900	SOP	K2,FD ZAT		内部

AGは製作図
3.鋼製建具製作図（アルミ建具）に依る
SD,LSD,HSDは製作図（SGはAGに変更）
4.鋼製建具製作図（スチール建具）に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants 一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店 一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士					設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号					第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢					押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建具表（５）	縮尺 1/ A1:- A3:-	日付 2019・02・28
		No

改訂：2013_09_02

建具表

種別番号	取付け場所	形態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	H	仕上げ	金物	法	備考
SW-1	2F 会議室2,4 談話室4	2連FIX窓	2,200× 2,600× -× -	1	SOP塗装	SAT	T5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST							内部 D-建7参照
SW-2	2F 会議室5 談話室2	FIX窓	400× 2,600× -× -	4	SOP塗装	SAT	T5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST							内部 D-建7参照
SW-3	2F 談話室3	4連FIX窓	4,000× 2,600× -× -	1	SOP塗装		T5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST							内部 D-建7参照
SW-4	2F 談話室1	5連FIX窓	5,400× 2,600× -× -	1	SOP塗装	SAT	T5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST							内部 D-建7参照
SW-6	2F 調整室	3枚引違窓	3,650× 1,200× -× -	1	SOP塗装	AT	外:FL6 +ﾌｨﾙﾑ貼り 内:防音合ｶﾞﾗｽ (FL3+FL3)			ST							2重窓 内部
SW-7	2F 親子席	FIX2重窓	3,190× 1,200× -× -	1	SOP塗装	AT	外:FL6 +ﾌｨﾙﾑ貼り 内:防音合ｶﾞﾗｽ (FL3+FL3)			ST							2重窓 内部 D-防6参照
SW-8	3F 図書ｺｰﾅｰ	FIX窓	400× 2,600× -× -	1	SOP塗装		T5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST							内部 D-建7参照
SW-9	2F 居場所ｽﾍﾟｰｽ	FIX窓	400× 1,600× -× -	3	SOP塗装		FR5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST						(防)	内部 D-建7参照 防火設備： 両面20分
SW-10	4F 会議室3	3連FIX窓	2,845× 2,600× -× -	1	SOP塗装		T5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST							内部 D-建7参照
																	内部 D-建7参照
SW-13	1F 生涯学習活動 推進室	4連FIX窓	3,780× 2,600× -× -	1	SOP塗装	SAT	FR5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST						(防)	内部 D-建7参照
SW-15	B1F 生活支援ｾﾝﾀｰ おあしす	引違い窓	1,150× 1,500× -× -	1	SOP塗装		T5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST							内部 D-建7参照
SWD-1	5F 階段1	自然換気窓	3,100× 750× -× -	1	SOP塗装		FR5 +ﾌｨﾙﾑ貼り			ST						(防)	外部

建具表

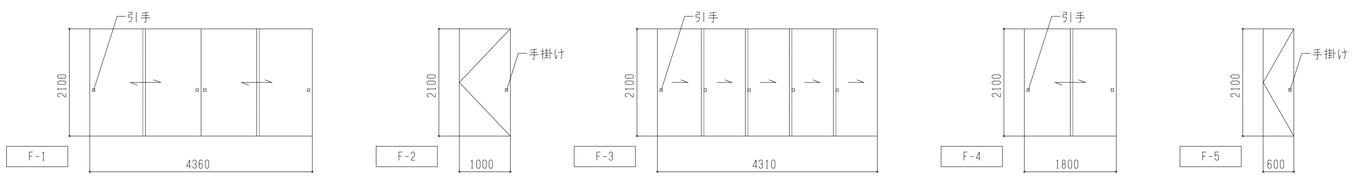
種別番号	取付け場所	形態	建具寸法 W × H × D1 × D2	個数	仕上げ	性能	ガラス	取合（形状・材種・仕上げ） 水切	膳板	額縁	くつずり	ガラリ 形状	H	仕上げ	金物	法	備考
F-1	2F 和室	引分け襖	4,360× 2,100× -× -	1	新鳥ノ子貼												内部
F-2	2F 押入	片開き襖	1,000× 2,100× -× -	2	新鳥ノ子貼 /雲紙貼												内部
F-3	B1F LDK～和室	5枚片引き戸襖	4,310× 2,100× -× -	1	ｸﾛｽﾉ 新鳥ノ子貼												内部
F-4	B1F 押入	引違い襖	1,800× 2,100× -× -	1	新鳥ノ子貼 /雲紙貼												内部
F-5	B1F 押入2	片開き襖	600× 2,100× -× -	1	新鳥ノ子貼 /雲紙貼												内部
SLW-1	2F 会議室2,5	スライディングウォール	6,820× 2,600× -× -	1	ｸﾛｽ貼												建具詳細図(12) 建具詳細図(13) による
SLW-2	2F 談話室3,4	スライディングウォール	7,005× 2,600× -× -	1	ｸﾛｽ貼												建具詳細図(12) 建具詳細図(13) による
SLW-3	4F セミナーブース 居場所スペース	スライディングウォール	5,590× 2,600× -× -	1	ｸﾛｽ貼												建具詳細図(12) 建具詳細図(13) による
BP-5	B1F 駐車場	スチール製防煙パネル	5,030× 500× -× -	1	焼付塗装	電動式									AS		煙感連動 内部 建具詳細図(9) による
BP-6	B1F 駐車場	スチール製防煙パネル	4,990× 500× -× -	1	焼付塗装	電動式									AS		煙感連動 内部 建具詳細図(9) による
BP-7	B1F 駐車場	スチール製防煙パネル	7,100× 500× -× -	1	焼付塗装	電動式									AS		煙感連動 内部 建具詳細図(9) による

鋼製Fix姿図



※枠、方立の寸法は
建具詳細図（10）
「建具一般」を参照

襖姿図



※ガラス面には全てに衝突防止・飛散防止フィルム貼付とする。

Fは製作図
2. 木工事製作図に依る
SW,SWDは製作図
4. 鋼製建具製作図（スチール建具）に依る
BPは製作図
5. 鋼製建具製作図（シャッター、可動防煙垂壁）に依る
SLWは製作図
22. スライディングウォール、トイレブース製作図に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

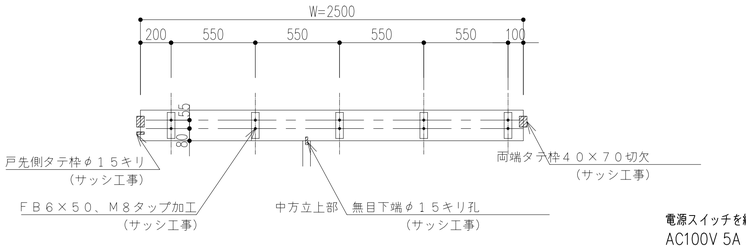
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

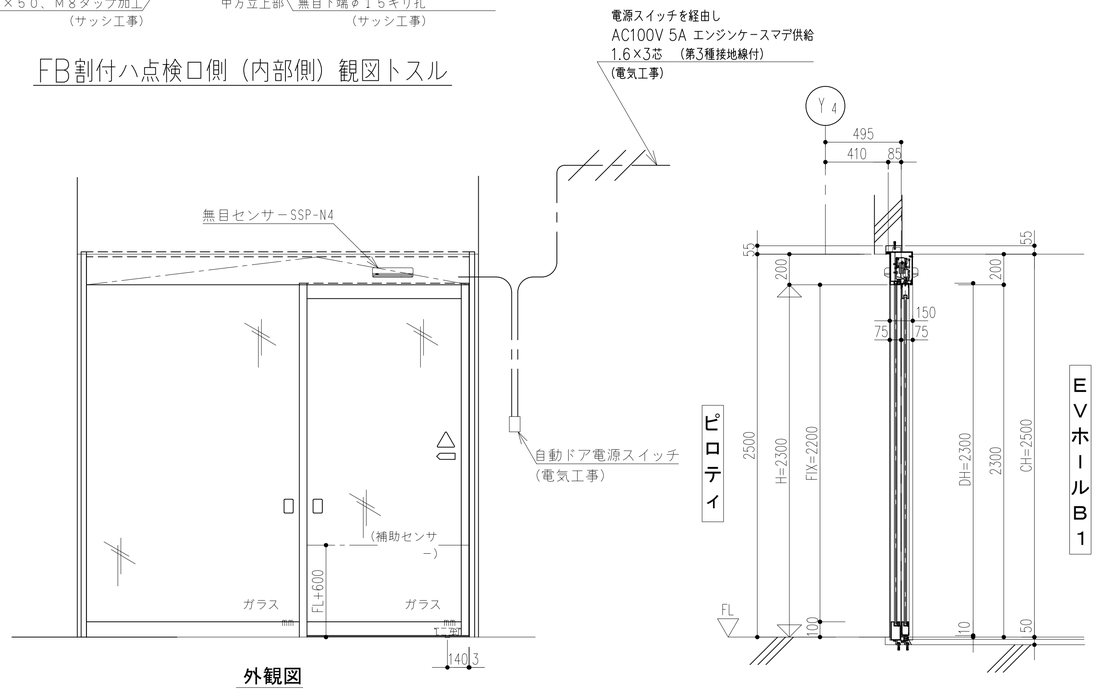
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建具表（６）	縮尺 1/ A1:- A3:-	日付 2019・02・28
		No

A — 122

改訂：2013.09.02

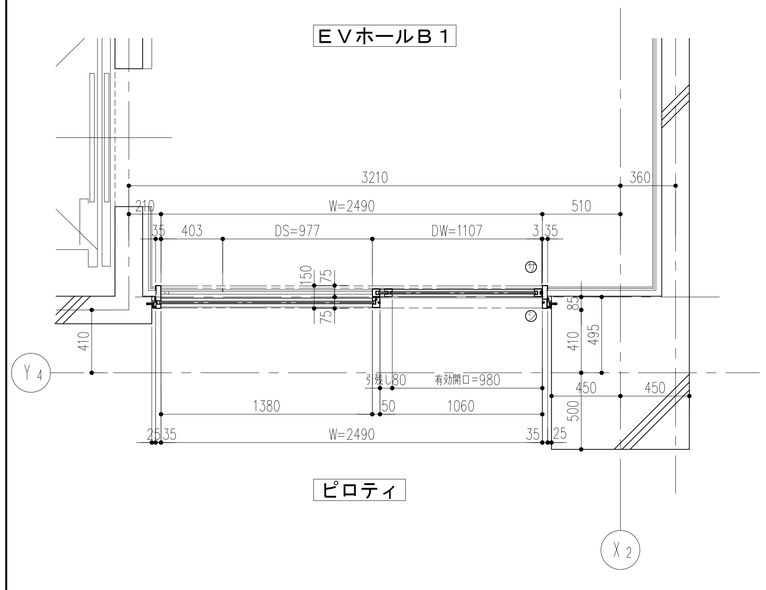
FB割付ハ点検口側（内部側）観図トスル



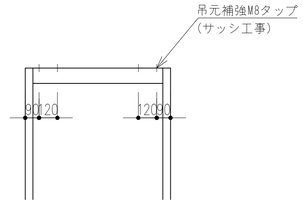


外観図

ＥＶホールＢ１



ピロティ

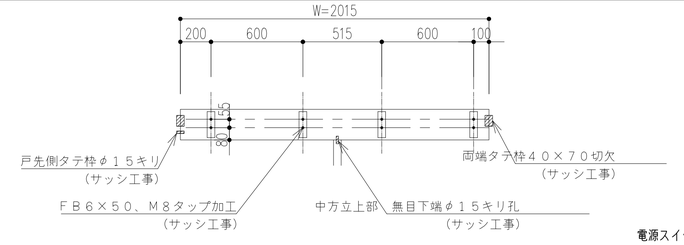


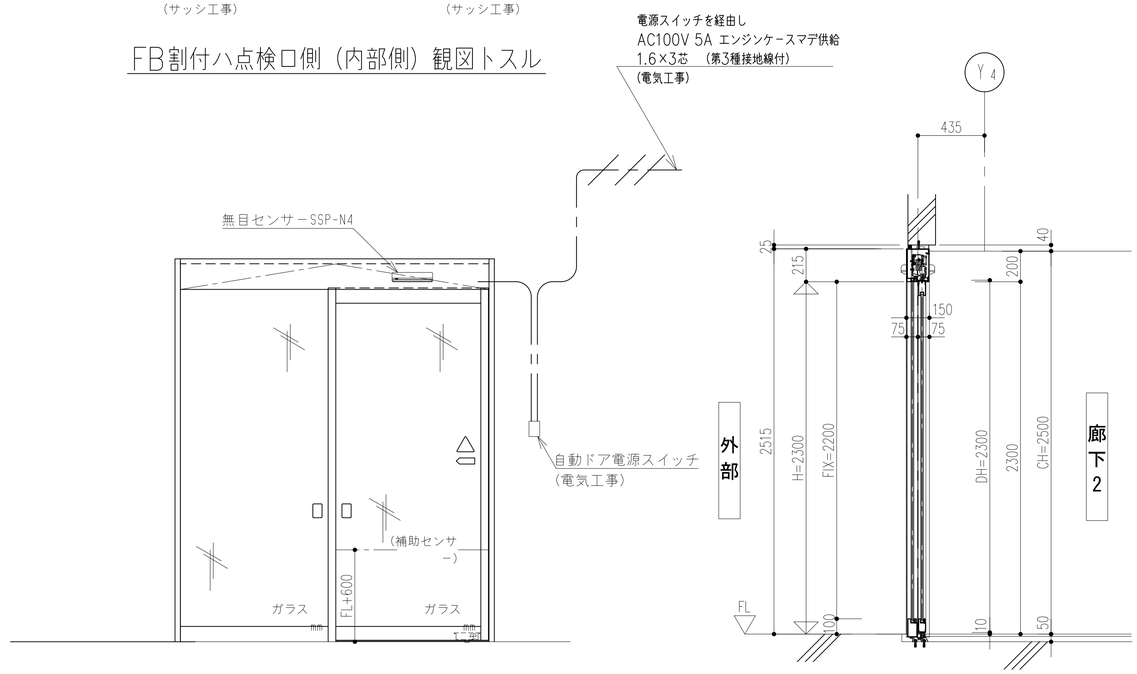
扉吊位置ヲホス

枠仕上	SUS304 HL仕上　B角			
扉仕上	SUS304 HL仕上　B角			
符号	数	取付場所		
STD 1	1	ピロティ　～　ＥＶホールB1		
商品名	メーカー	品番	数量	備考
エンジン	ナブコ	DSN型	1	
起動センサー	ナブコ	SSP-N4	2	無目付タイプ
補助光電センサー	ナブコ	NP-10	1	
錠前	美和	TRU-1	1	Bs100，Dt44
戸当りゴム	マツエイ	ME-502	※m	
同等品とする				

※パニックオープンとする。

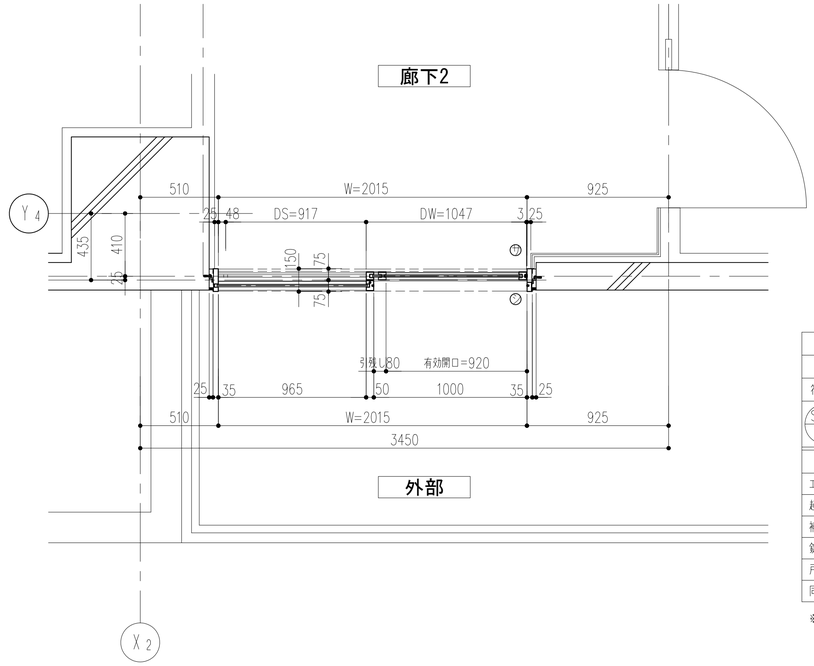
FB割付ハ点検口側（内部側）観図トスル



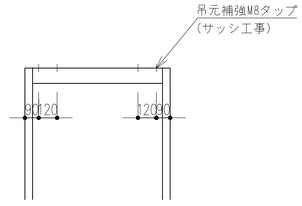


外観図

廊下2



外部



扉吊位置ヲホス

枠仕上	SUS304 HL仕上　B角			
扉仕上	SUS304 HL仕上　B角			
符号	数	取付場所		
STD 4	1	外部　～　廊下２		
商品名	メーカー	品番	数量	備考
エンジン	ナブコ	DSN型	1	
起動センサー	ナブコ	SSP-N4	2	無目付タイプ
補助光電センサー	ナブコ	NP-10	1	
錠前	美和	TRU-1	1	Bs100，Dt44
戸当りゴム	マツエイ	ME-502	※m	
同等品とする				

※パニックオープンとする。

6. 鋼製建具製作図（ステンレス建具）に依る

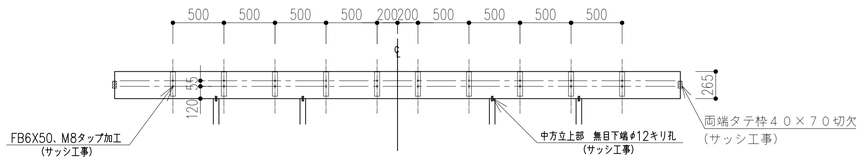
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

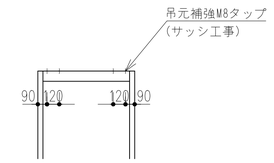
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建具詳細図（１）	縮尺 1/A1:20 A3:40	日付 2019・02・28
		A — 123
		No

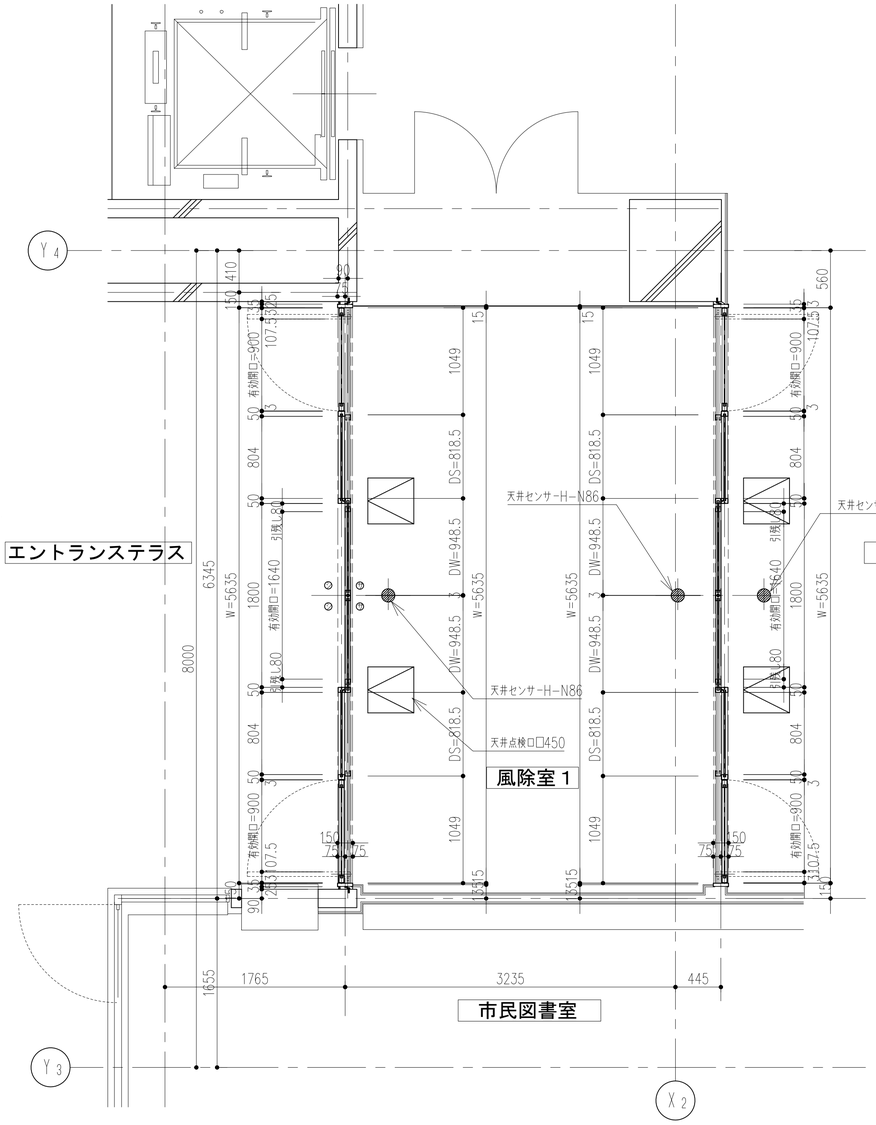
改訂：2013.09.02

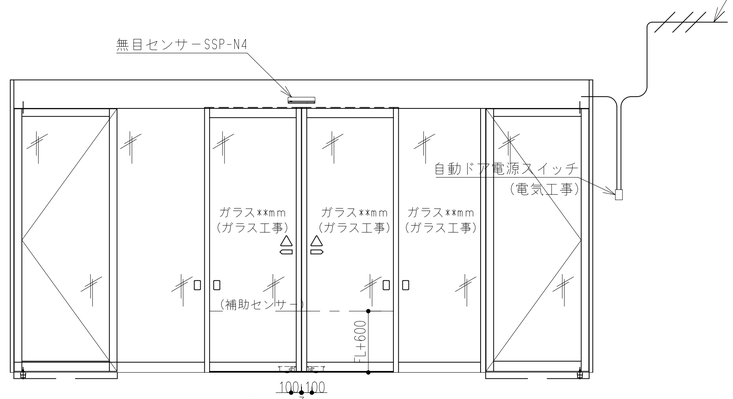


FB割付ハ点検口側（風除室）観図トスル

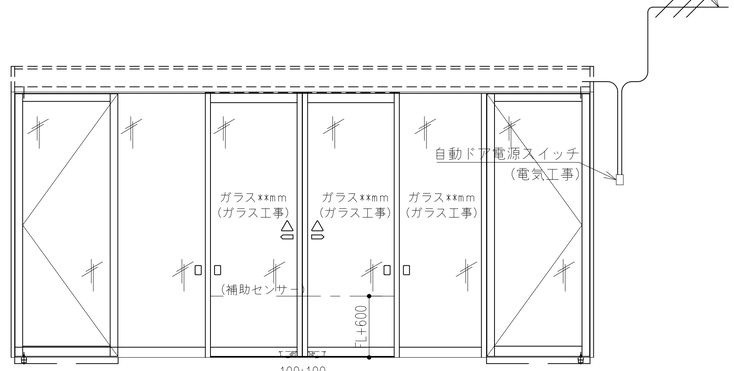


扉吊位置ヲ示ス

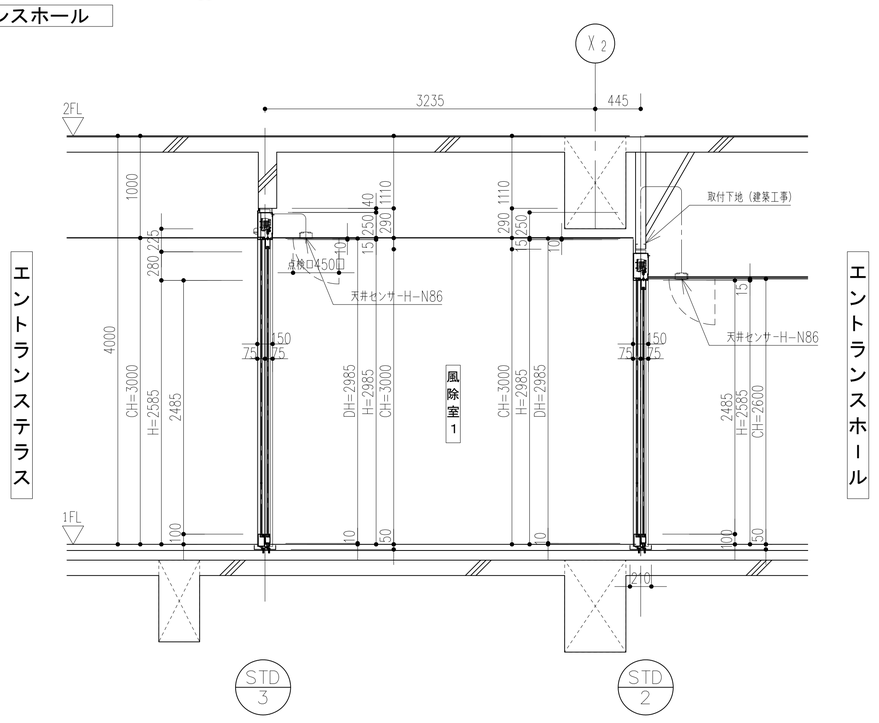




STD 3 外観図



STD 2 外観図



枠仕上	SUS304 HL仕上　B角			
扉仕上	SUS304 HL仕上　B角			
符号	数	取付場所		
STD 3	1	エントランステラス　～　風除室1		
商品名	メーカー	品番	数量	備考
エンジン	ナブコ	DSN型	1	
起動センサー	ナブコ	SSP-N4	2	無目付タイプ
補助光電センサー	ナブコ	NP-10	1	
錠前	美和	TRU-1	1	Bs100，Dt44
戸当りゴム	マツエイ	ME-502	※m	
同等品とする				

枠仕上	SUS304 HL仕上　B角			
扉仕上	SUS304 HL仕上　B角			
符号	数	取付場所		
STD 2	1	風除室1　～　エントランスホール		
商品名	メーカー	品番	数量	備考
エンジン	ナブコ	DSN型	1	
起動センサー	ナブコ	H-N86	2	天井埋込みタイプ
補助光電センサー	ナブコ	NP-10	1	
戸当りゴム	マツエイ	ME-502	※m	
同等品とする				

※パニックオープンとする。

6.鋼製建具製作図（ステンレス建具）に依る

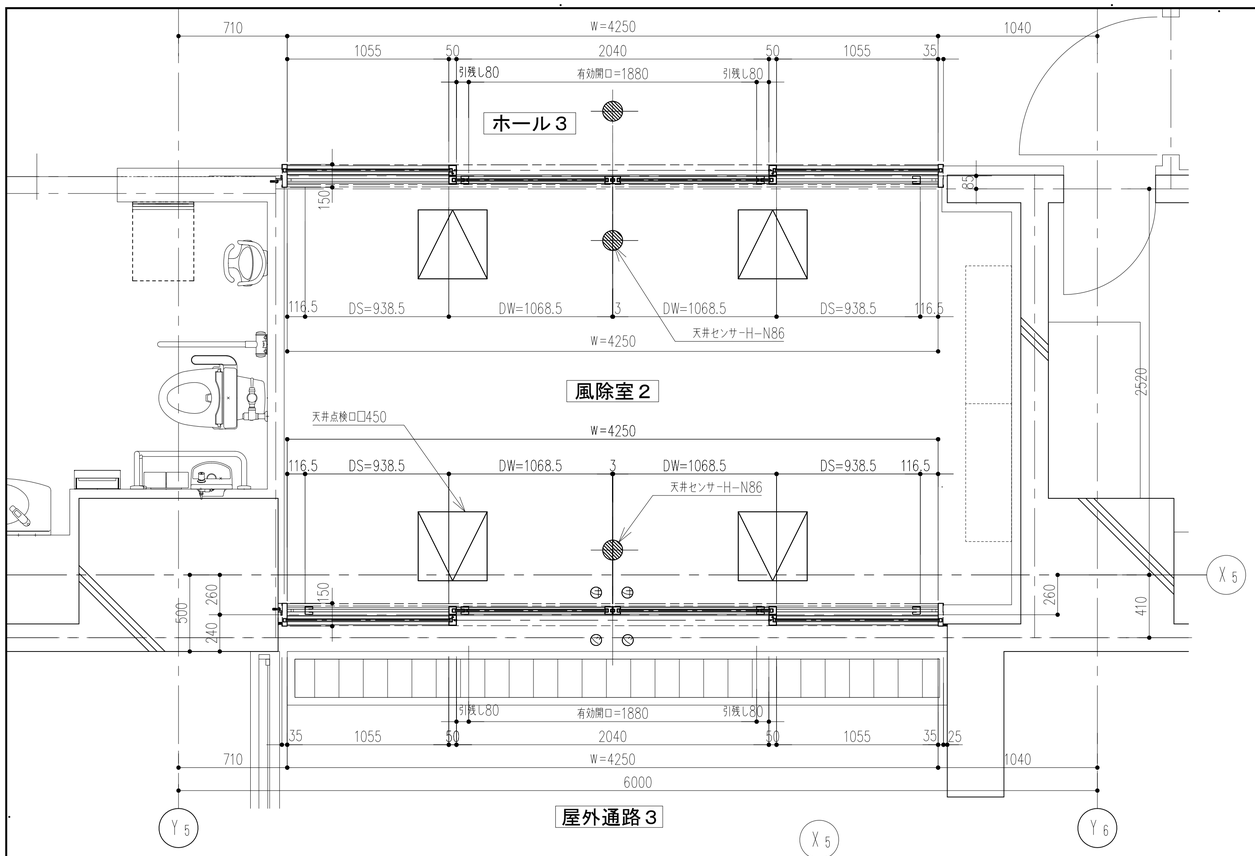
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

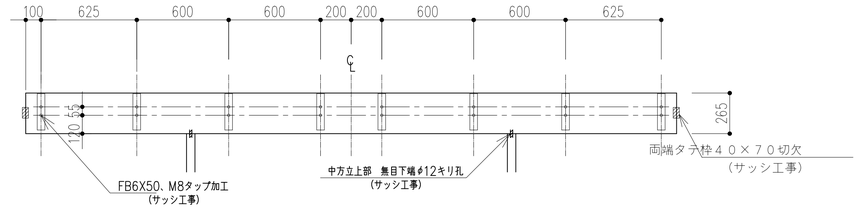
KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

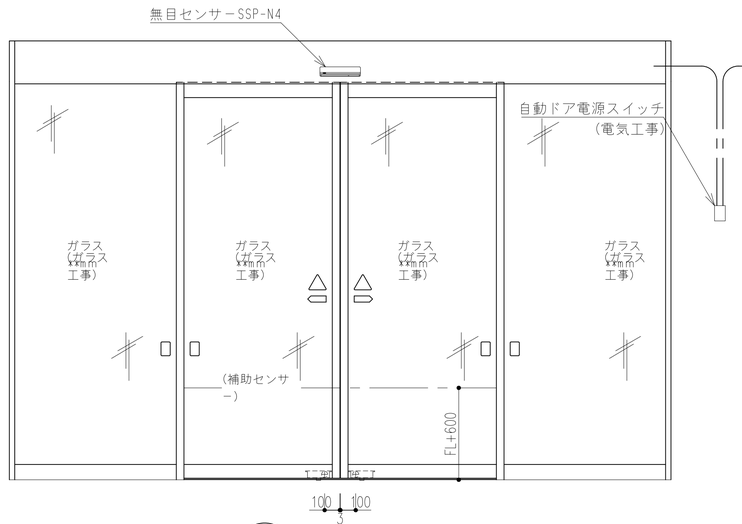
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建具詳細図（２）	縮尺 1/A1:30 A3:60 / 日付 2019・02・28	A — 124 / No

改訂：2013.09.02



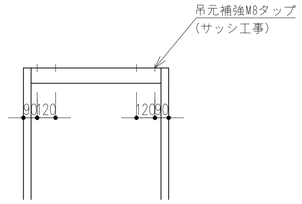


FB割付ハ点検口側（風除室）観図トスル



STD 6 外観図

STD 5 外観図

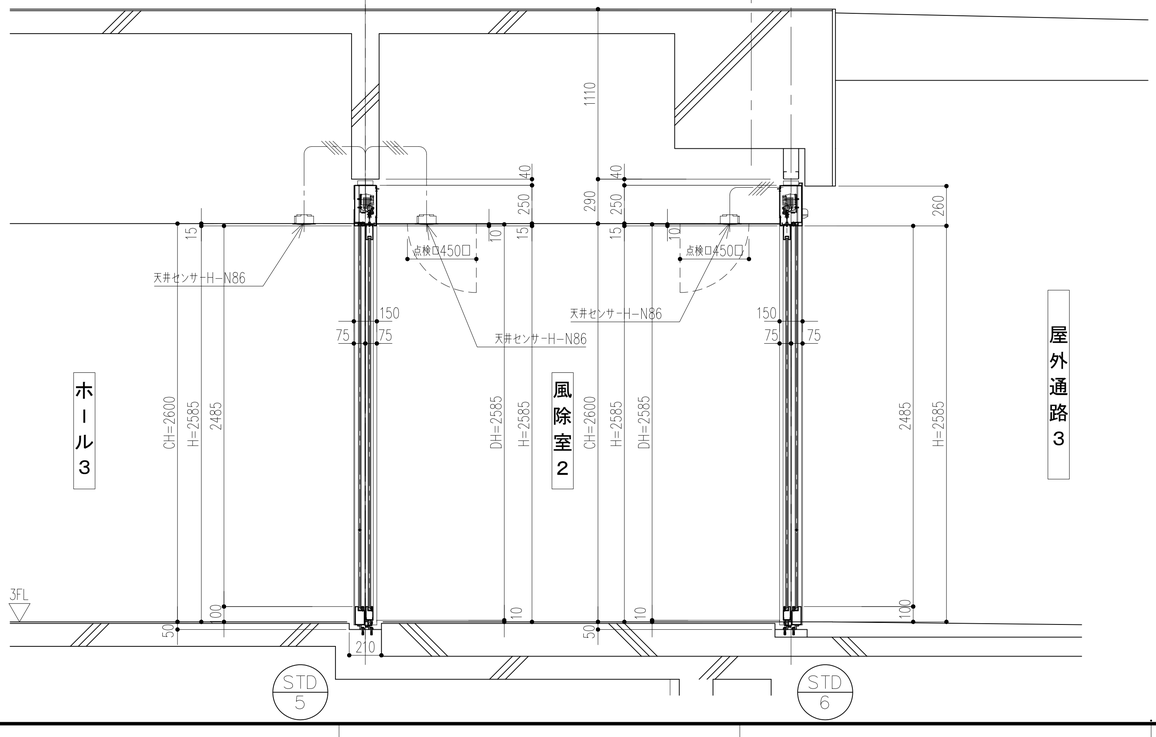


扉吊位置ヲホス

枠 仕 上	SUS304 HL仕上 B角			
扉 仕 上	SUS304 HL仕上 B角			
符号	数	取 付 場 所		
STD 5	1	風除室２ ～ ホール３		
商 品 名	メーカー	品 番	数量	備 考
エンジン	ナブコ	DSN型	1	
起動センサー	ナブコ	SSP-N4	2	無目付タイプ
補助光電センサー	ナブコ	NP-10	1	
戸当りゴム	マツエイ	ME-502	※m	
同等品とする				

枠 仕 上	SUS304 HL仕上 B角			
扉 仕 上	SUS304 HL仕上 B角			
符号	数	取 付 場 所		
STD 6	1	屋外通路３ ～ 風除室２		
商 品 名	メーカー	品 番	数量	備 考
エンジン	ナブコ	DSN型	1	
起動センサー	ナブコ	SSP-N4	2	無目付タイプ
補助光電センサー	ナブコ	NP-10	1	
錠 前	美 和	TRU-1	1	Bs100、Dt44
戸当りゴム	マツエイ	ME-502	※m	
同等品とする				

※パニックオープンとする。



6. 鋼製建具製作図（ステンレス建具）に依る

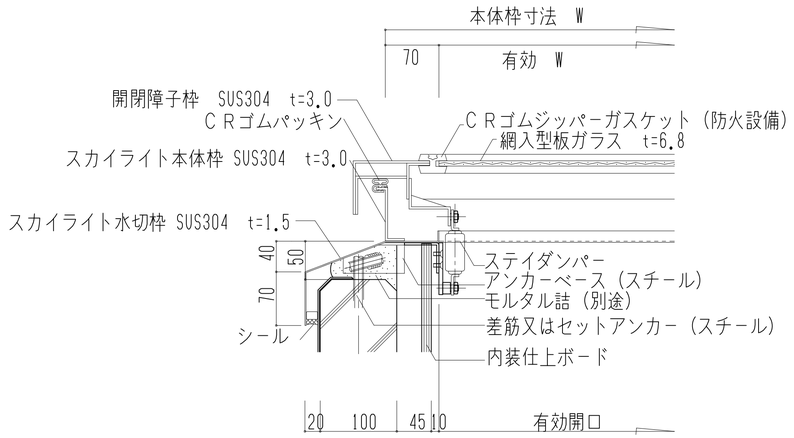
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士	
第199758号		第359522号				第2092号	
永廣 正邦		松浦 暢				押久保 正則	xxxx

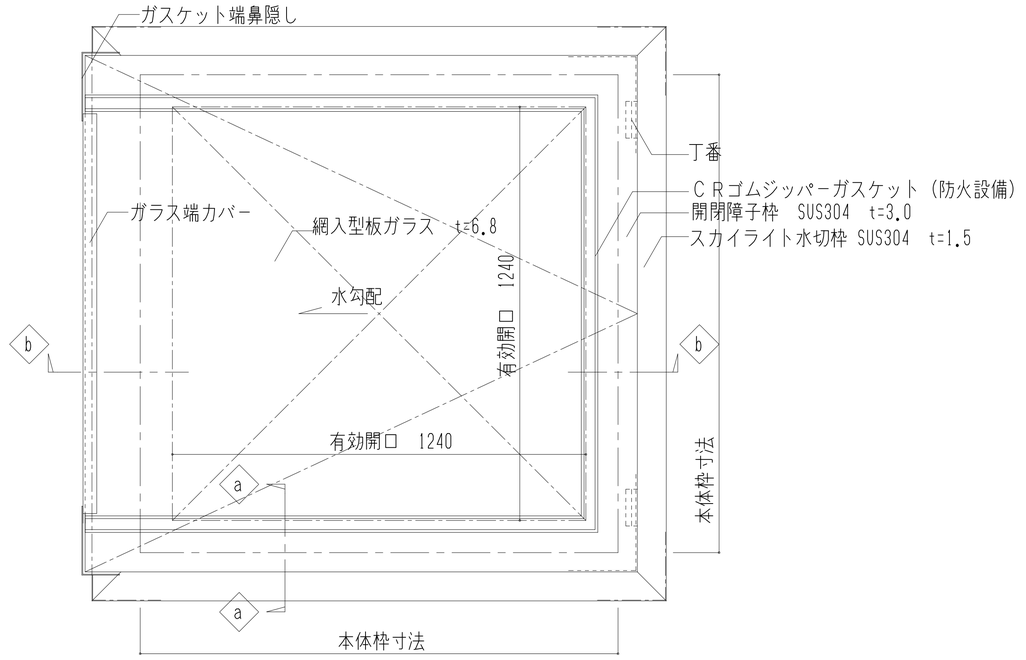
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
建具詳細図（３）	縮尺 1/A1:20 A3:40	日付 2019・02・28

A — 125

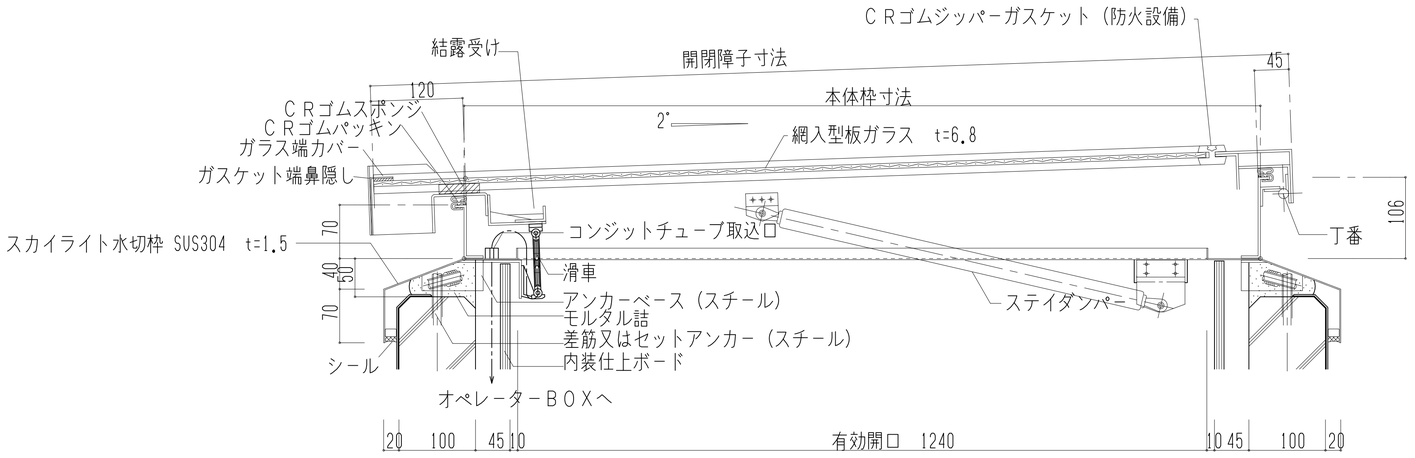
No



ａ－ａ断面



伏図



ｂ－ｂ断面

トップライト詳細図

電動オペレーター付き

本体枠：SUS304　二液型エポキシプライマー、焼付塗装（黒色）仕上
同等品とする

8. トップライト製作図に依る

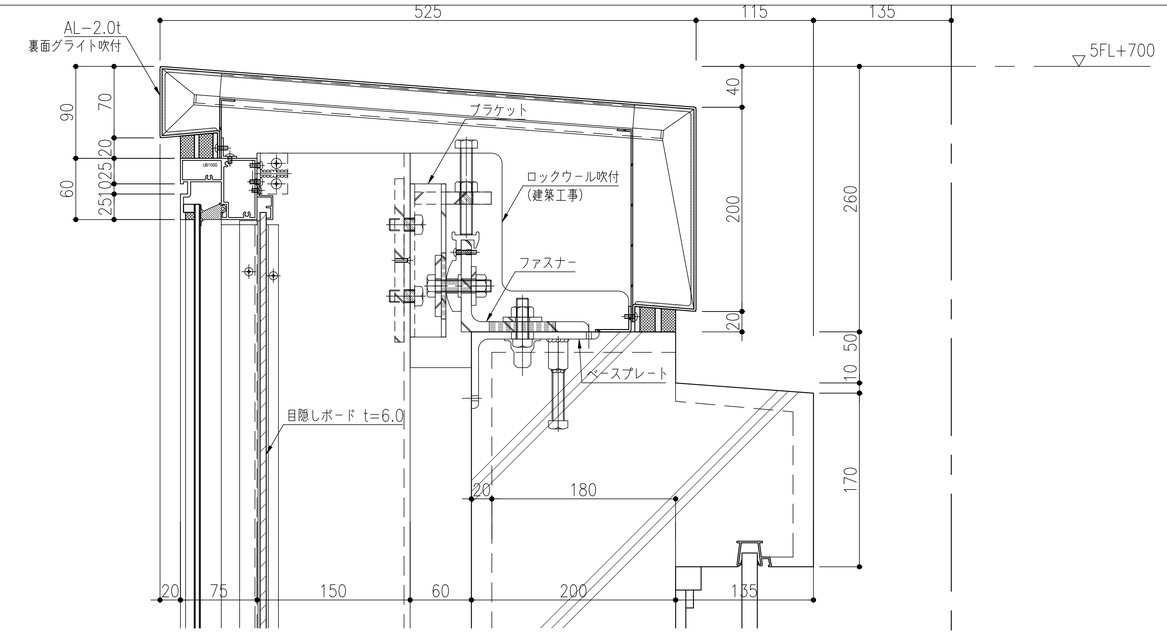
AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

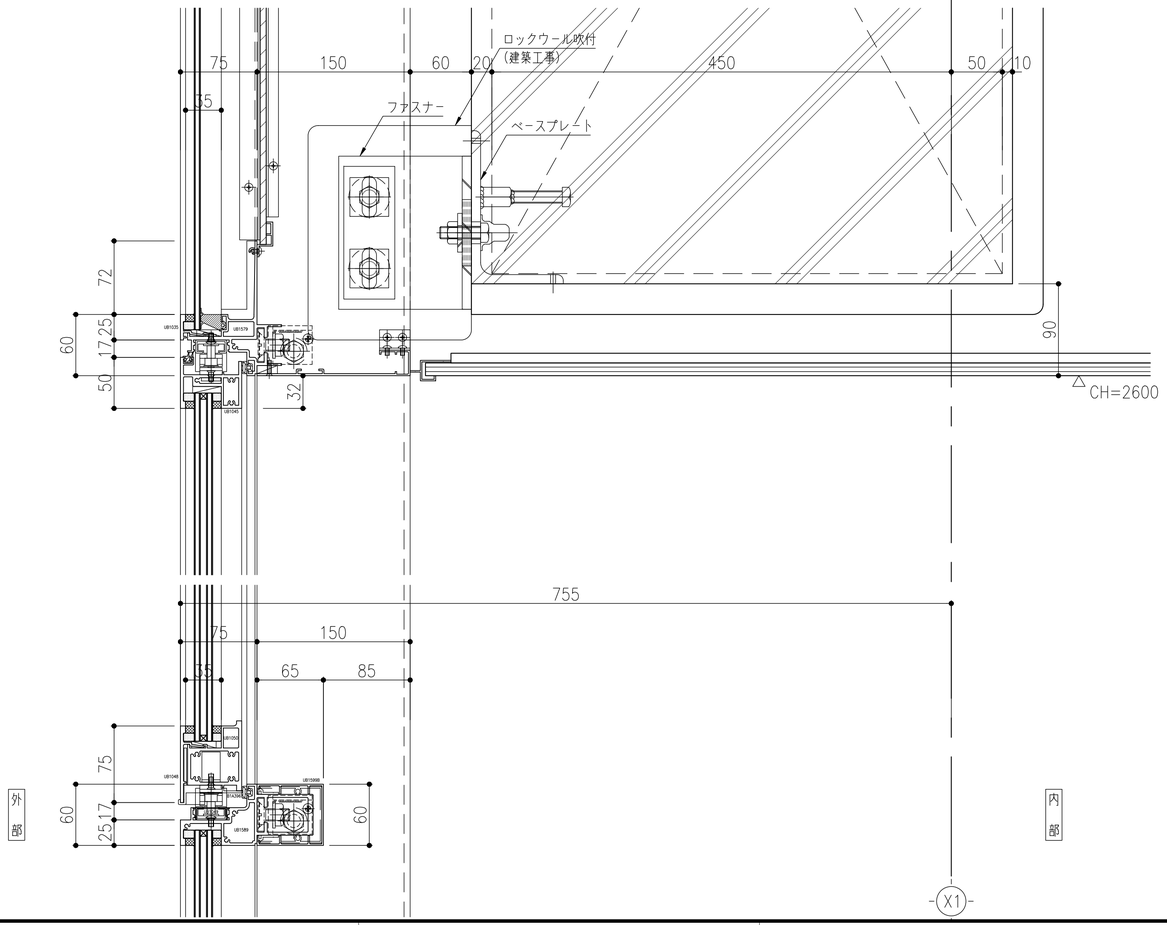
鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

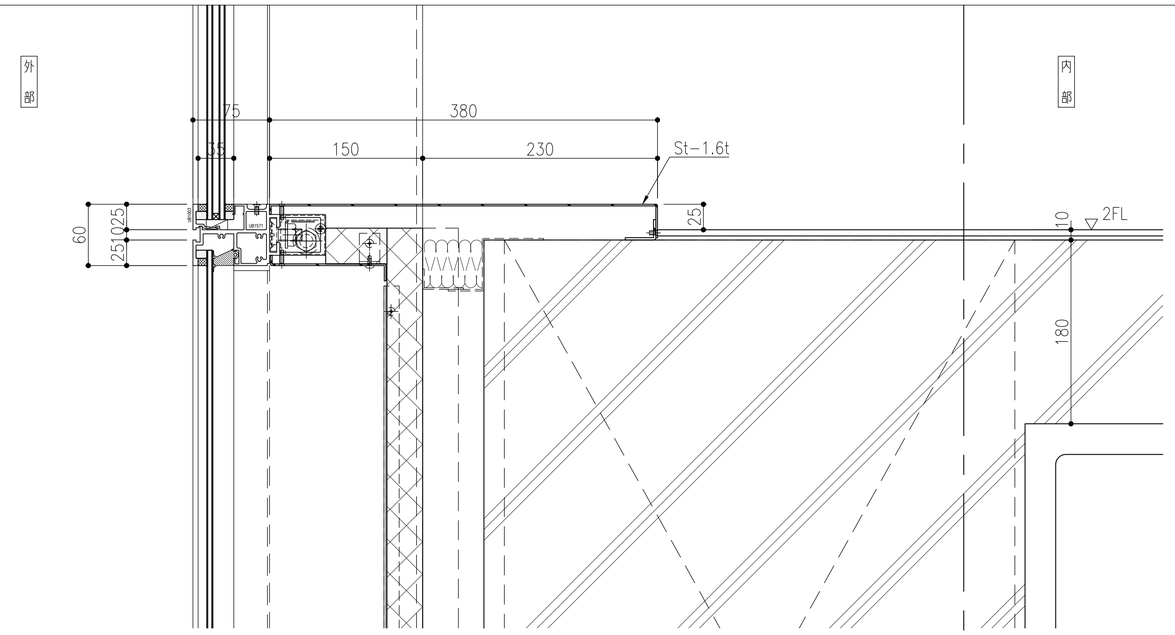
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号	A — 126
建具詳細図（４）	縮尺 1／A1:2 A3:4	日付 2019・02・28	No

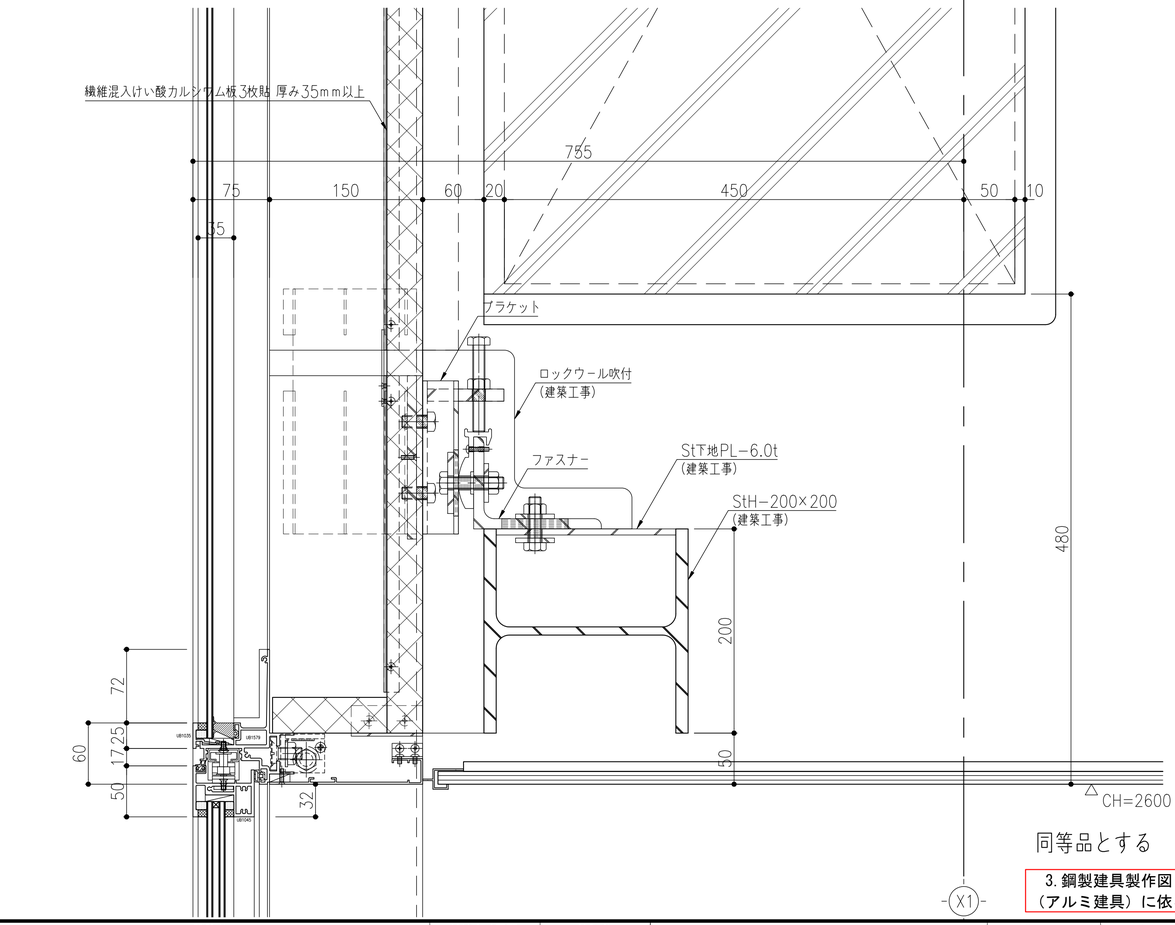
A 断面詳細図





B 断面詳細図





同等品とする

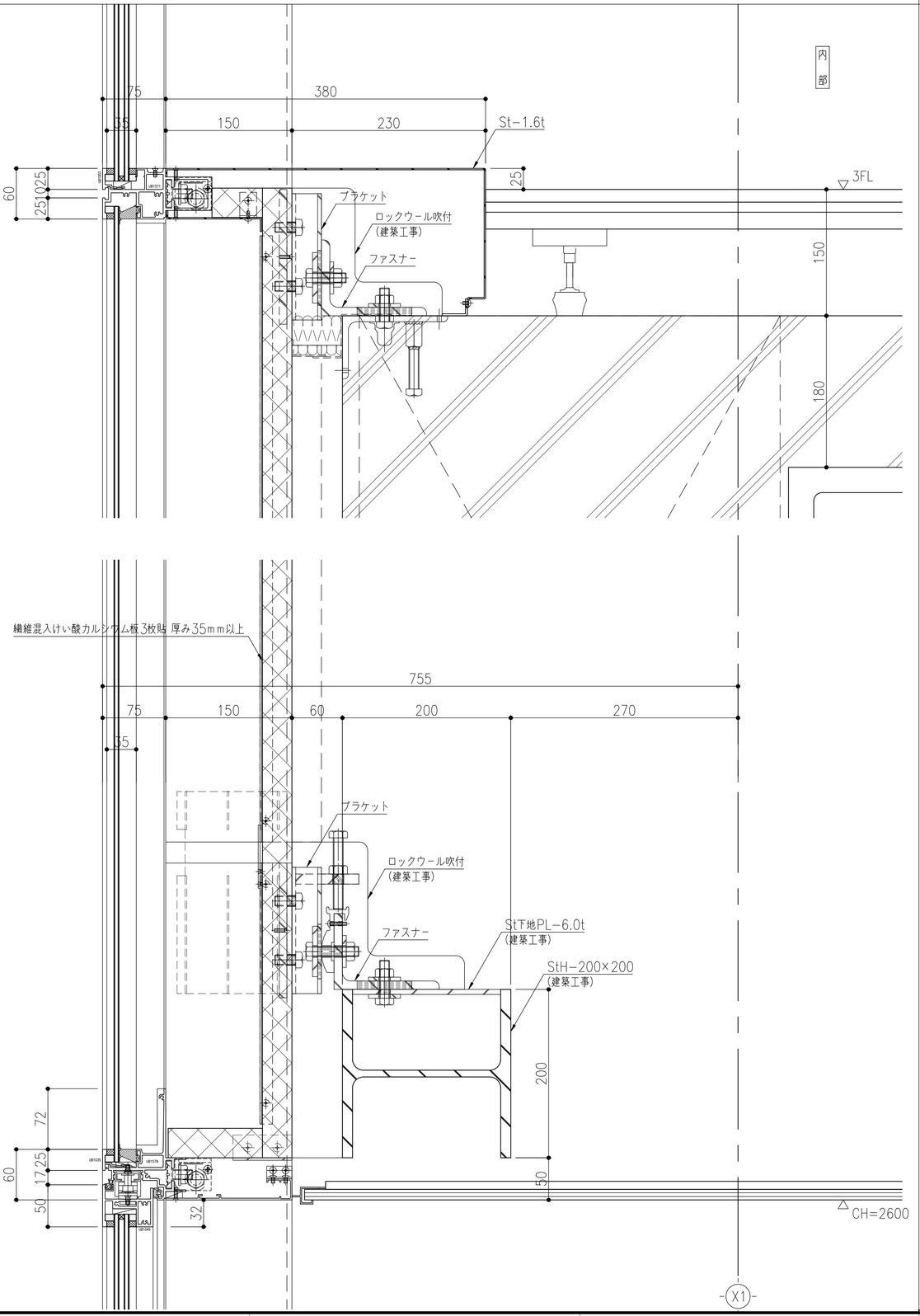
3. 鋼製建具製作図
（アルミ建具）に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	一級建築士事務所登録 東京第３８０号	鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店	一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

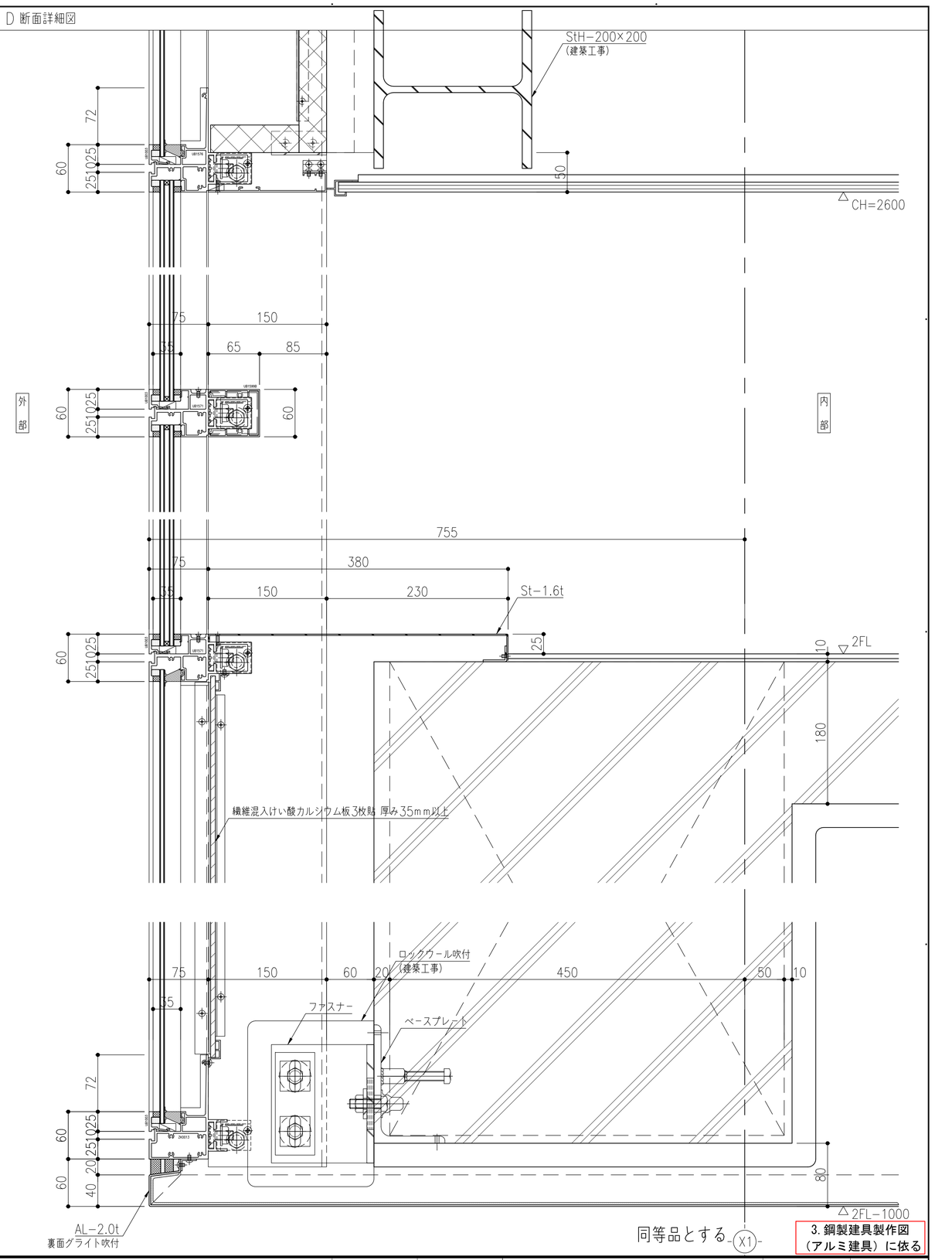
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A − 127
建具詳細図（５）	縮尺 1/A1:3 A3:6	日付 2019・02・28	No

C 断面詳細図



D 断面詳細図

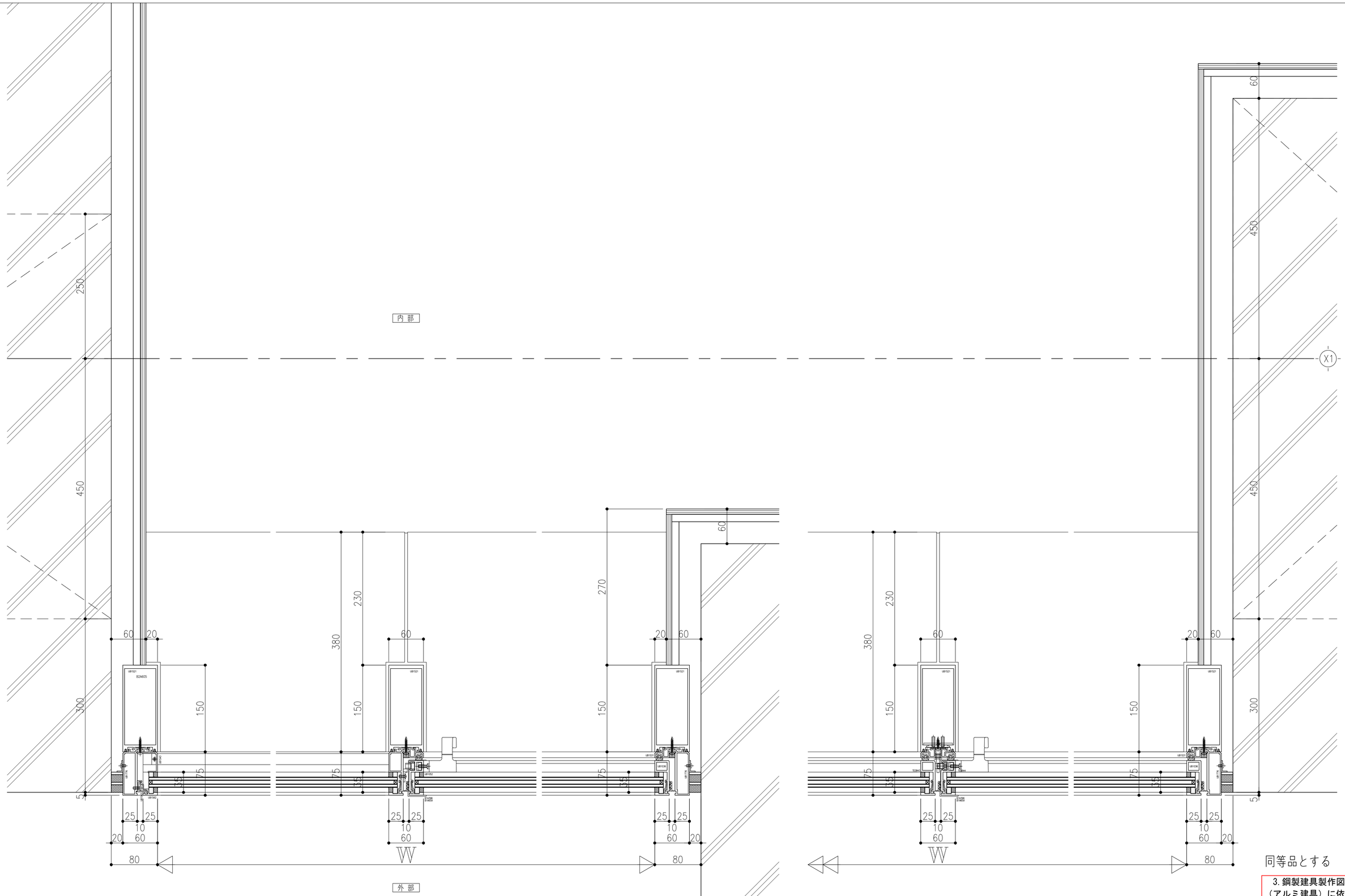


AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	一級建築士事務所登録 東京第３８０号	鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店	一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

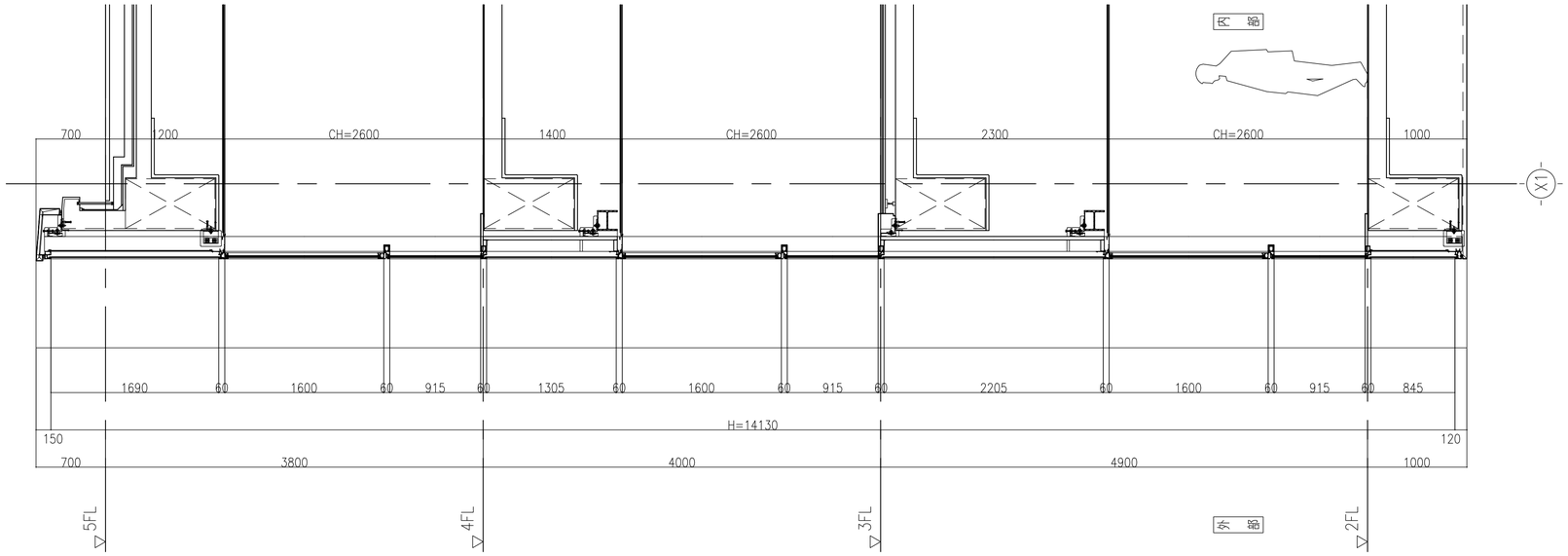
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

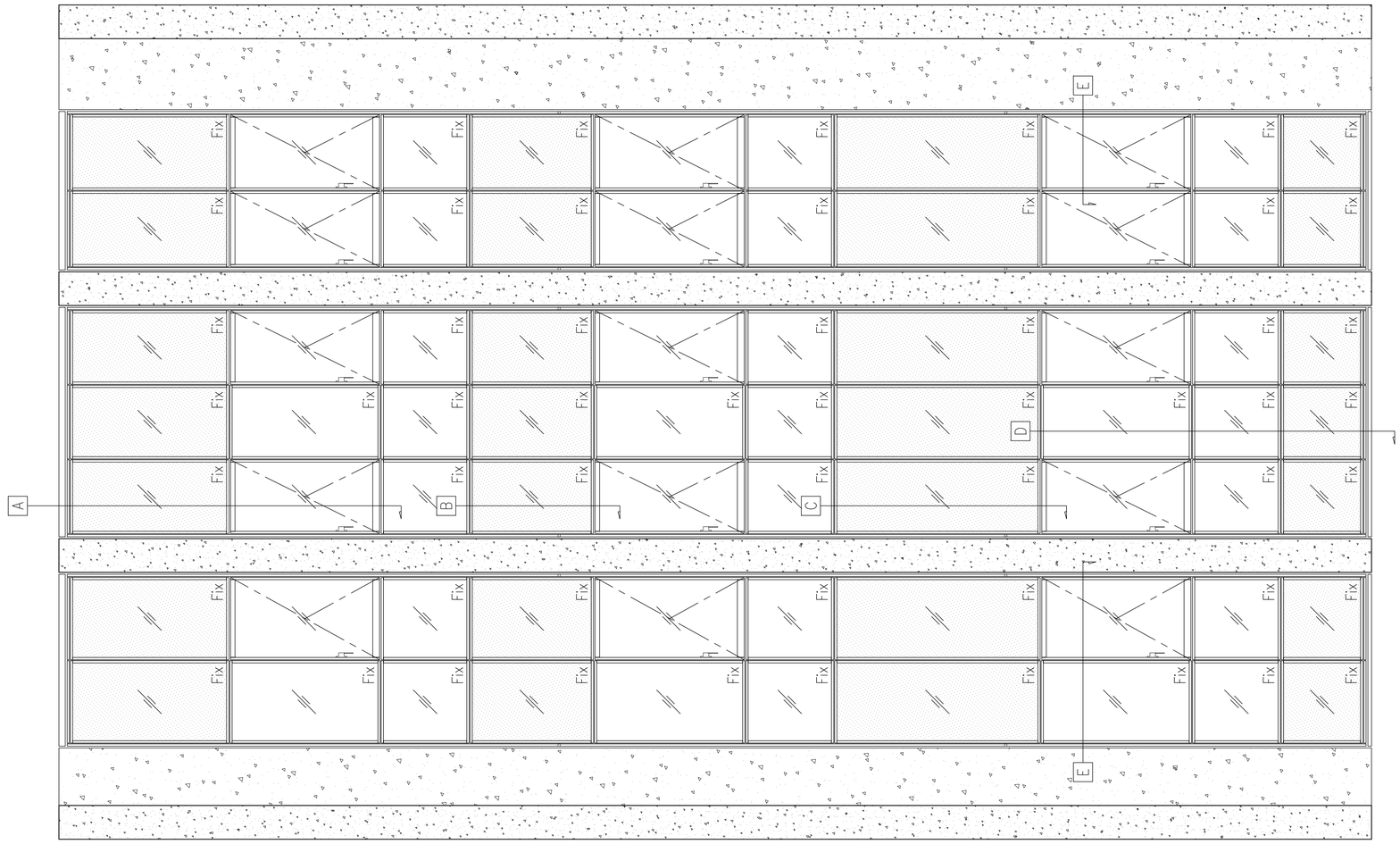
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号	A — 128
建具詳細図（６）	縮尺 1/ A1:3 A3:6	日付 2019・02・28	No

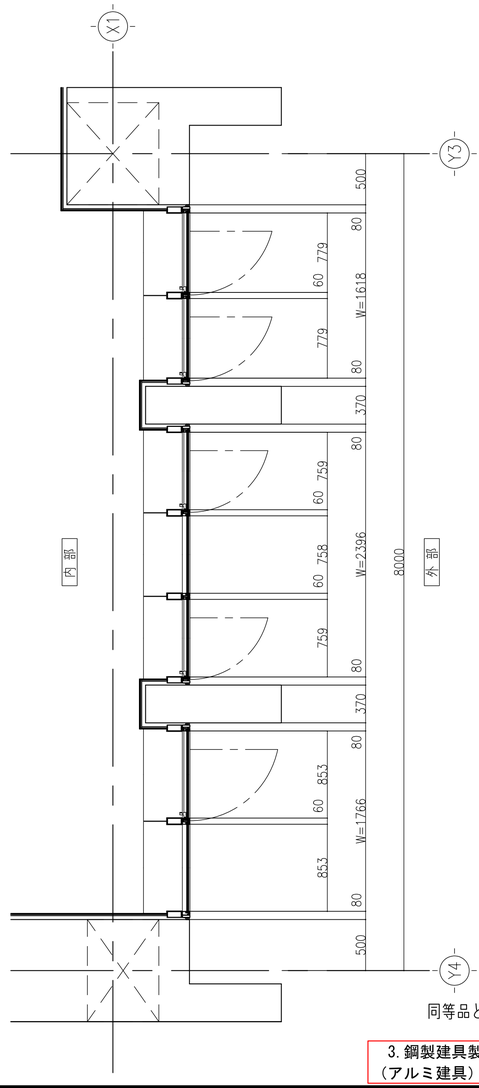
E 断面詳細図



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants 一級建築士事務所登録 東京第３８０号	鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店 一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号	設計者				法適合確認欄	検証者	藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
		一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx	建具詳細図（７）	縮尺 1／A1:3 A3:6	日付 2019・02・28	No A — 129







同等品とする

3.鋼製建具製作図
（アルミ建具）に依る

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

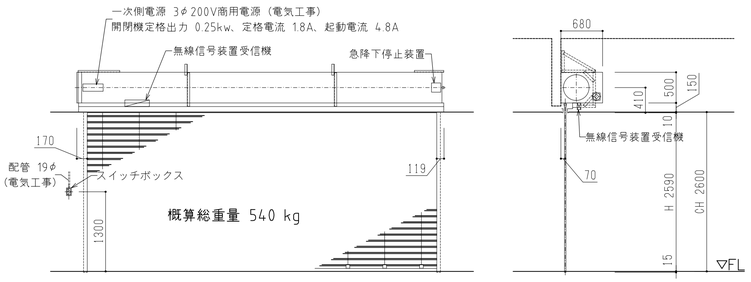
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号	
建具詳細図（８）	縮尺 1/ A1:30 A3:60	日付 2019・02・28	No

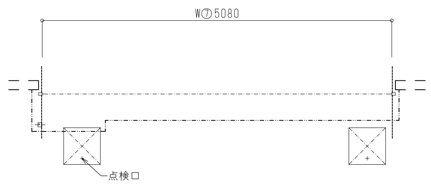
電動式重量グリルシャッター　　S：1／50

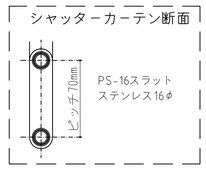
B！階 駐車場出入口、B１Fスロープ、B１Fピロティー、3階 子供の家



電動式グリルシャッター

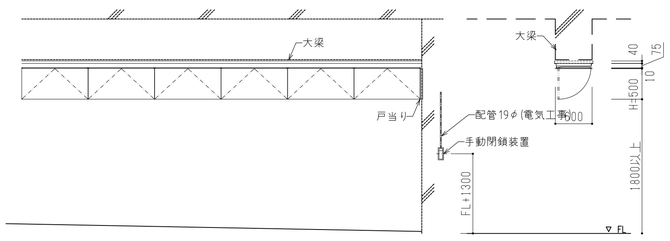
スラット	PS16	ステンレス	開閉機	SG20	定格出力	3φ200V 0.25kw 50Hz	
座板	障検	ステンレス	巻取シャフト	5"-35G	押ボタン	埋込ｼﾘﾝﾀﾞｰ	備考
ガイドレール		ステンレス	軸受 駆	No.3	手動開錠装置		急降下停止装置付（35）
まぐさ		ステンレス	軸受 従	No.3	解放装置		障害物検知装置付
ケース			手動時操作	ハンドル式			

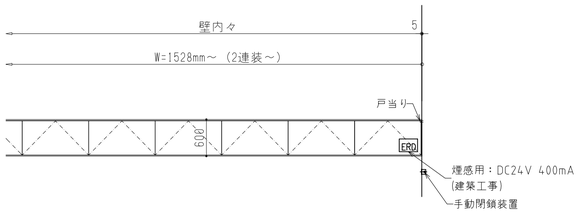


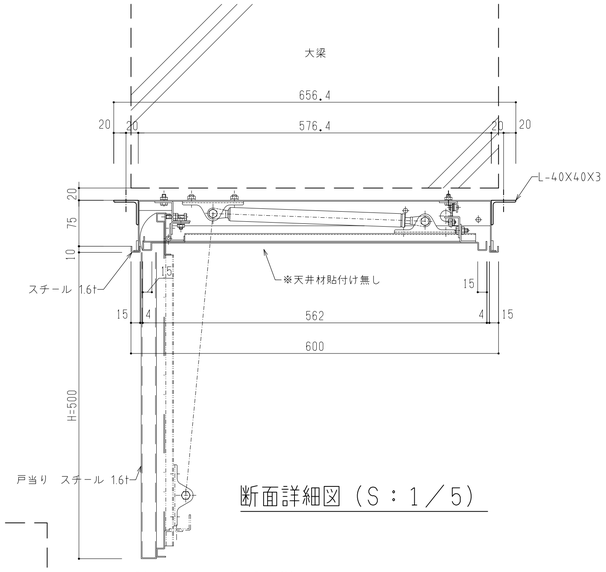


外部：スチール製防煙パネル　　S：1／5、1／50

地下１階 駐車場（３ヶ所）



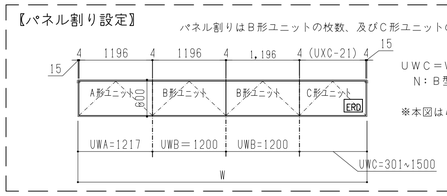




断面詳細図（S：1／5）

【パネル割り設定】

パネル割りはB形ユニットの枚数、及びC形ユニットの寸法にて調整。



UWC＝W－（1200xN）－1217
N：B型ユニット枚数（整数）

※本図は4枚割の場合を示す。

スチール製防煙パネル（煙感連動）

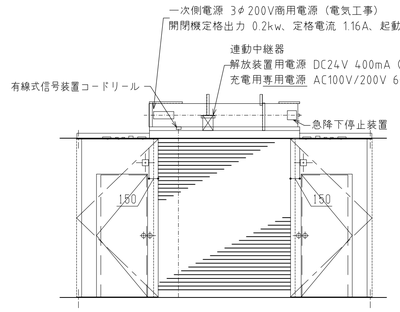
枠	スチール1.6t	開閉機	－－	ハンドル式チェーン式	電源	－－φ－－V－－Hz－－kW	
パネル	スチール1.6t	巻取シャフト	－－		押ボタン	露埋シサ	
		軸受 左	－－	右 －－	解放装置	ER-S・D・A	
		特記事項				DC24V 400mA	

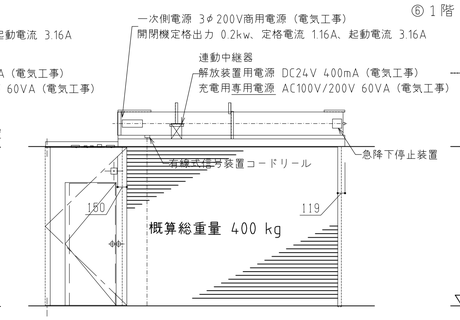
※スチール部は焼付塗装仕上げ

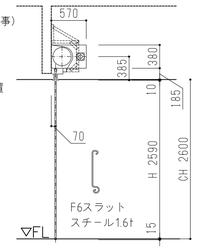
電動式袖扉連動防火防煙シャッター　　S：1／50

⑧階段室 2階、3階、4階（３ヶ所）

⑥１階 管理事務室

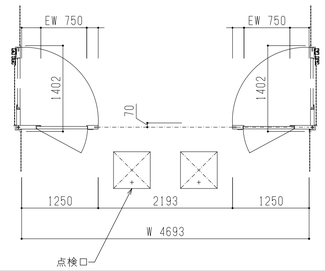


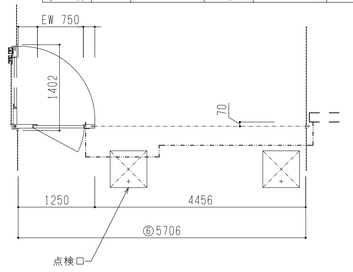




電動式袖扉連動防火・防煙シャッター（避難時停止装置付）

スラット	F-6	スチール1.6t	開閉機	SG15	定格出力	3φ200V 0.2kw 50Hz	
座板		ステンレス	巻取シャフト	4"-35G	押ボタン		備考
ガイドレール		ステンレス	軸受 駆	No.0	手動開錠装置	SEOS-A	急降下停止装置付（35）
まぐさ		ステンレス	軸受 従	No.0	解放装置	ER-N	
ケース		スチール	手動時操作	ハンドル式		DC24V 400mA	





※スチール部は焼付塗装仕上げ

5. 鋼製建具製作図
（シャッター、可動防煙垂壁）に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

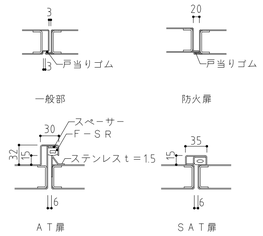
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 131
建具詳細図（９）	縮尺 1/A1:-, A3:-	日付 2019・02・28	No

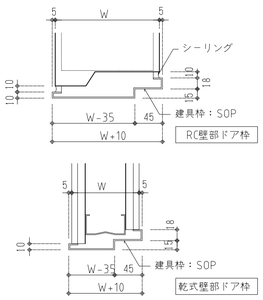
改訂：2013.09.02

建具一般　扉召し合わせ部　1:5

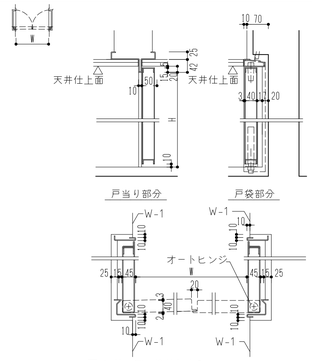


建具一般　スチールドア枠廻り　1:5

※　竪枠・上枠共通

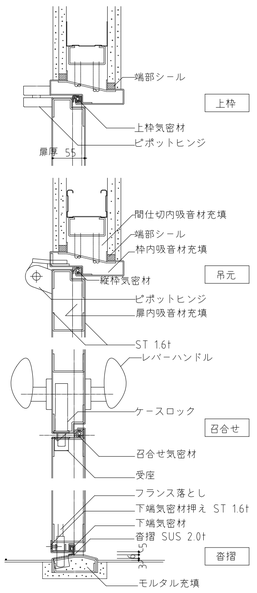


建具一般　防火戸：埋込み９０度両開き（RC壁）　1:5,1:50



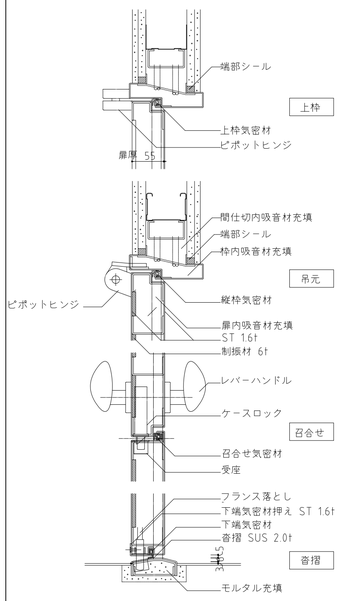
□ レリーズは枠付とする

D-防建1　防音扉(開き戸)　SAT　1:5



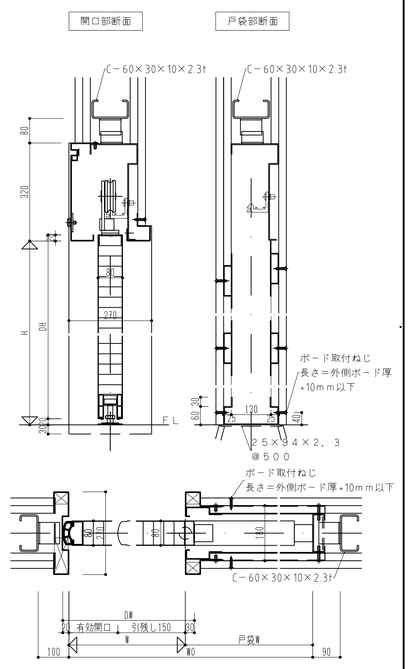
特定場所間音圧レベル差：25dB以上（中音域・500Hz）

D-防建2　防音扉(開き戸)　AT　1:5



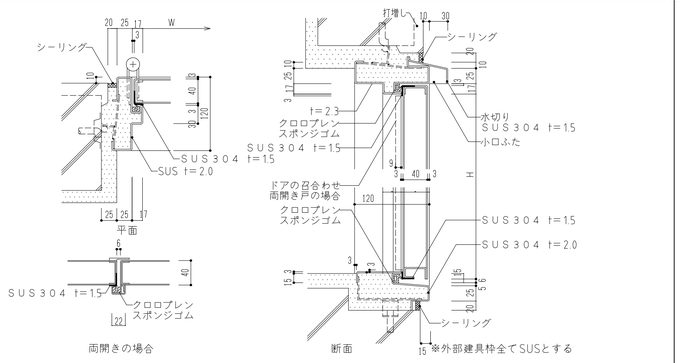
特定場所間音圧レベル差：30dB以上（中音域・500Hz）

D-防建4　防音扉(引き戸)　SAT　1:5

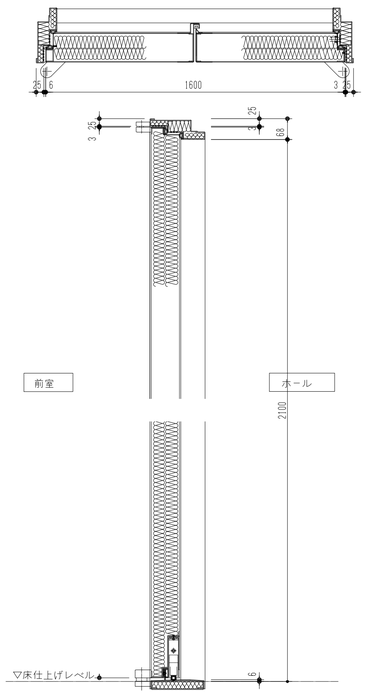


※ 本図は左勝手を示します。右勝手は本図と勝手違いとなります。

建具一般　外部スチールドア：外部気密ドア　1:5

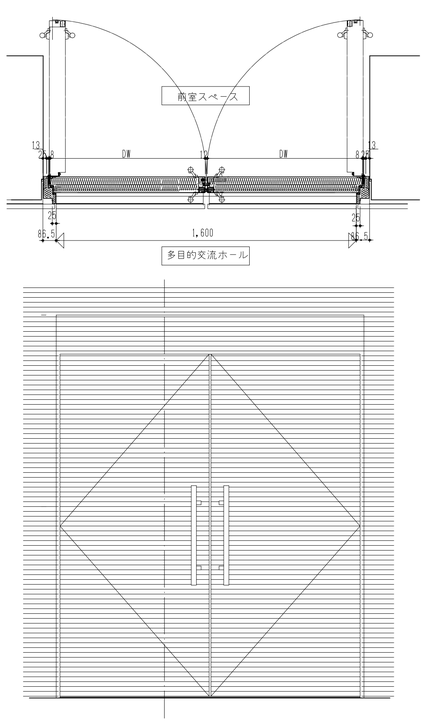


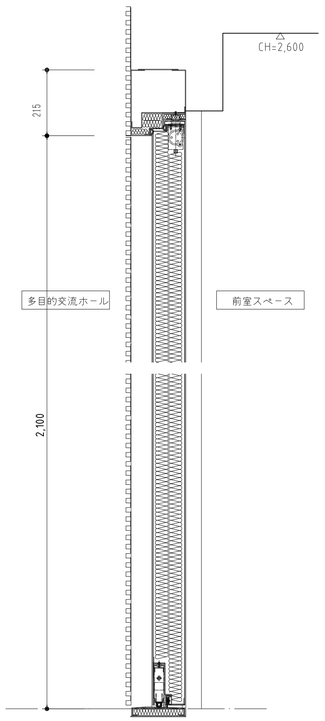
D-防建4　防音扉　T－4級　1:10



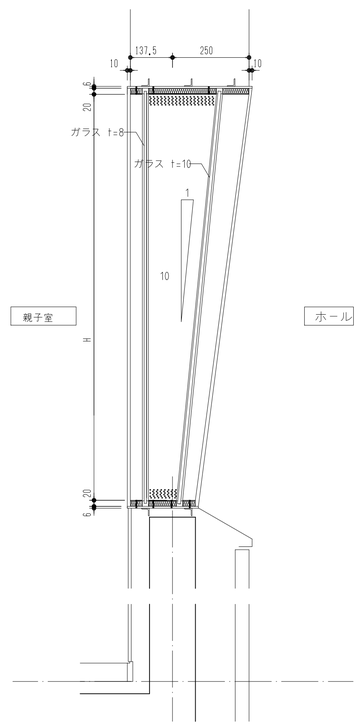
特定場所間音圧レベル差：40dB以上（中音域・500Hz）
面付ローラー付グレモンハンドル：ナカニシ SF-1程度

D-防建5　多目的交流ホール防音扉　T－4級　1:10



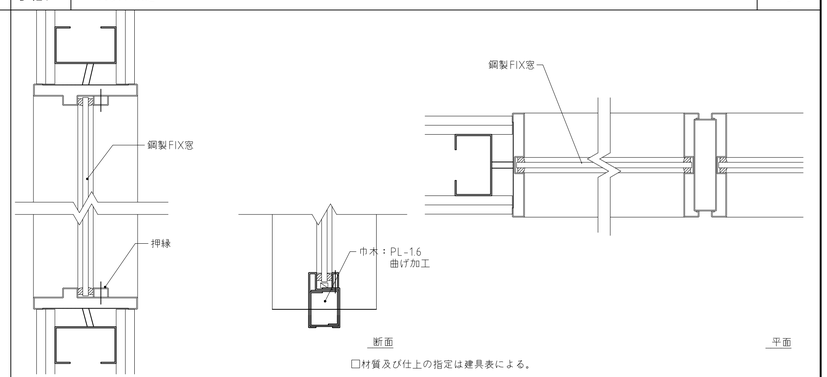


D-防建6　防音窓　T－4級　嵌め殺し傾斜窓　1:10



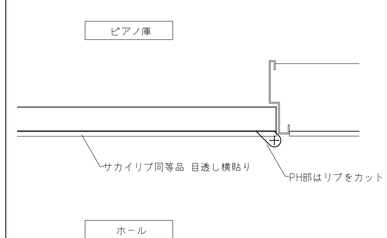
SW-109はT-2級：傾斜ガラスのみ

D-建7　鋼製Fix窓　1:5



□材質及び仕上の指定は建具表による。

D-建8　ピアノ庫扉　1:5



4.鋼製建具製作図（スチール建具）に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

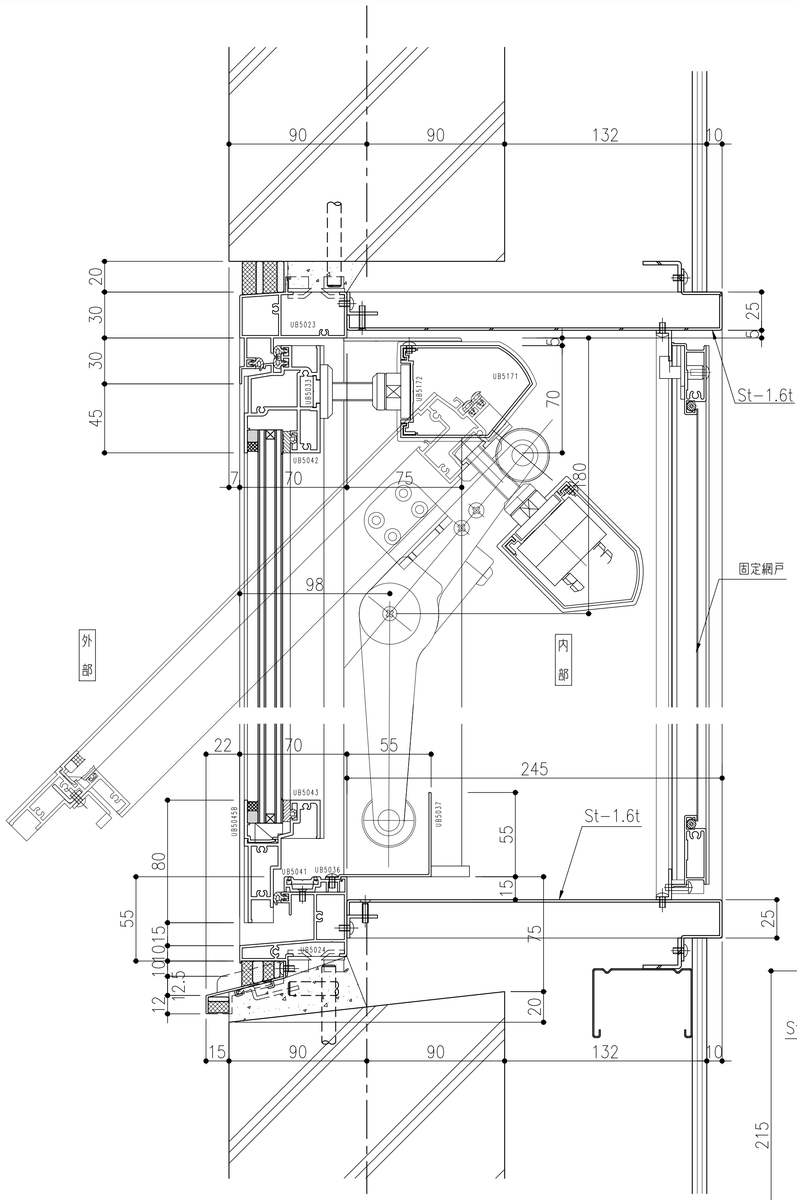
KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

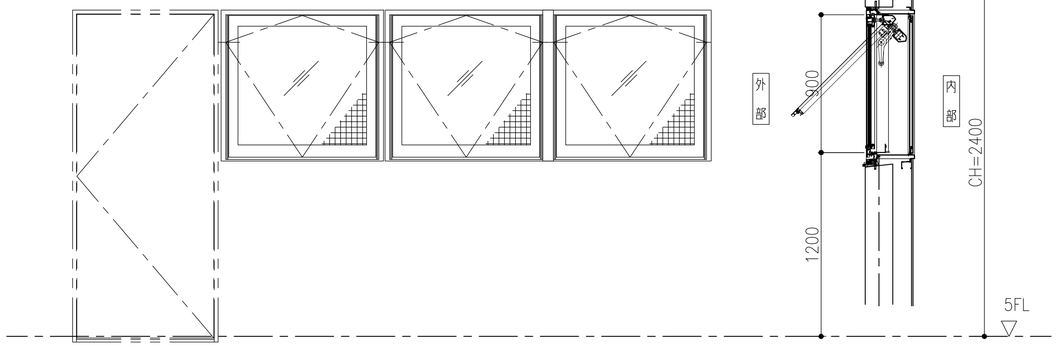
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

建具詳細図（１０）

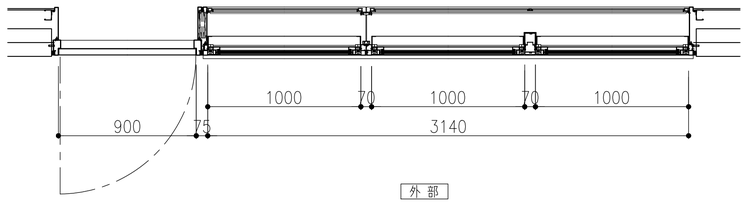
設計番号	図面番号
	A — 132
縮尺 1／A1：5,10 A3:10,20	日付 2019・02・28
	No



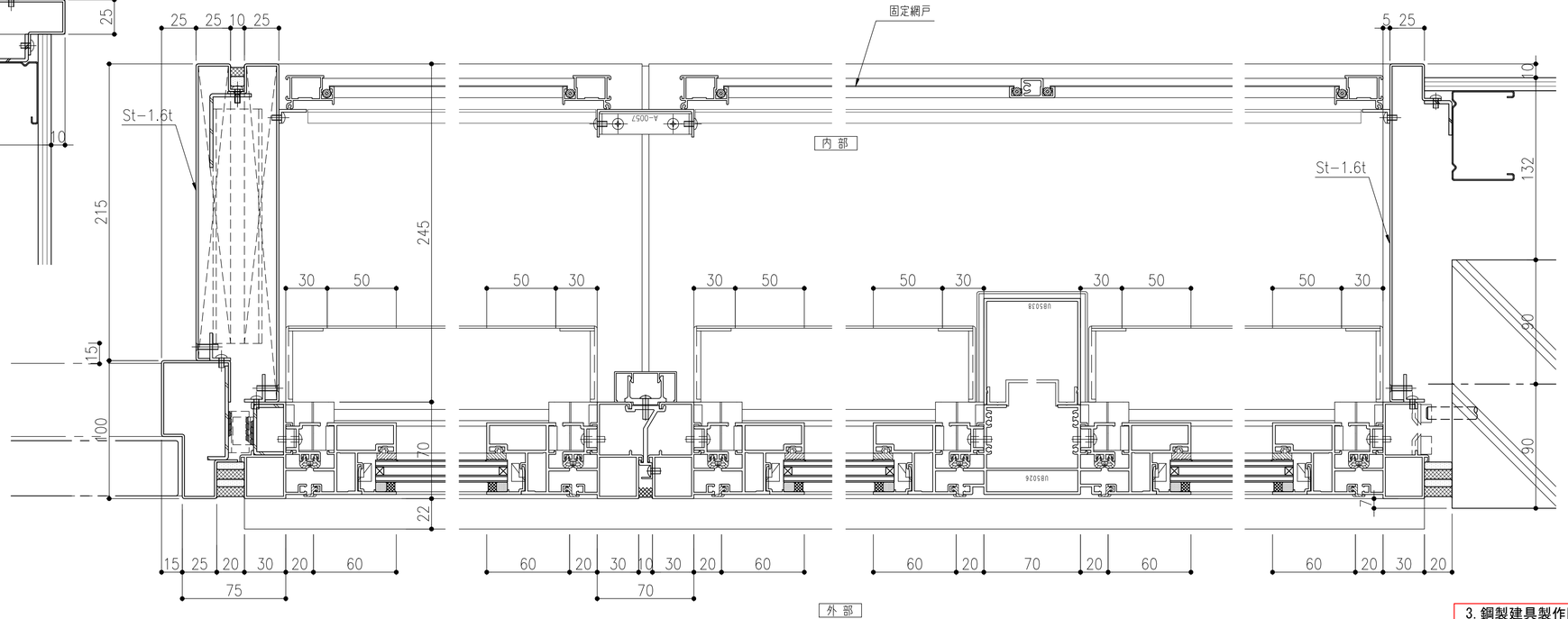
外観姿図　S:1/20



内部



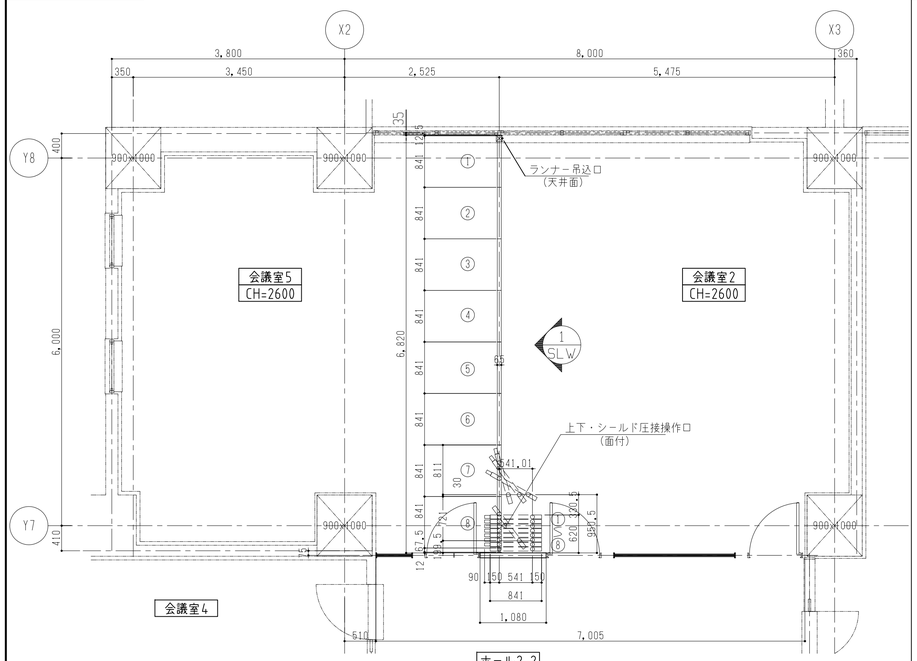
外部

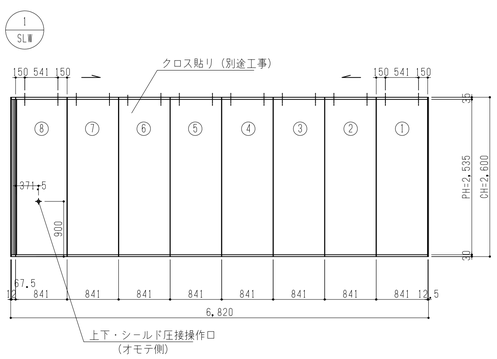


3. 鋼製建具製作図
（アルミ建具）に依る

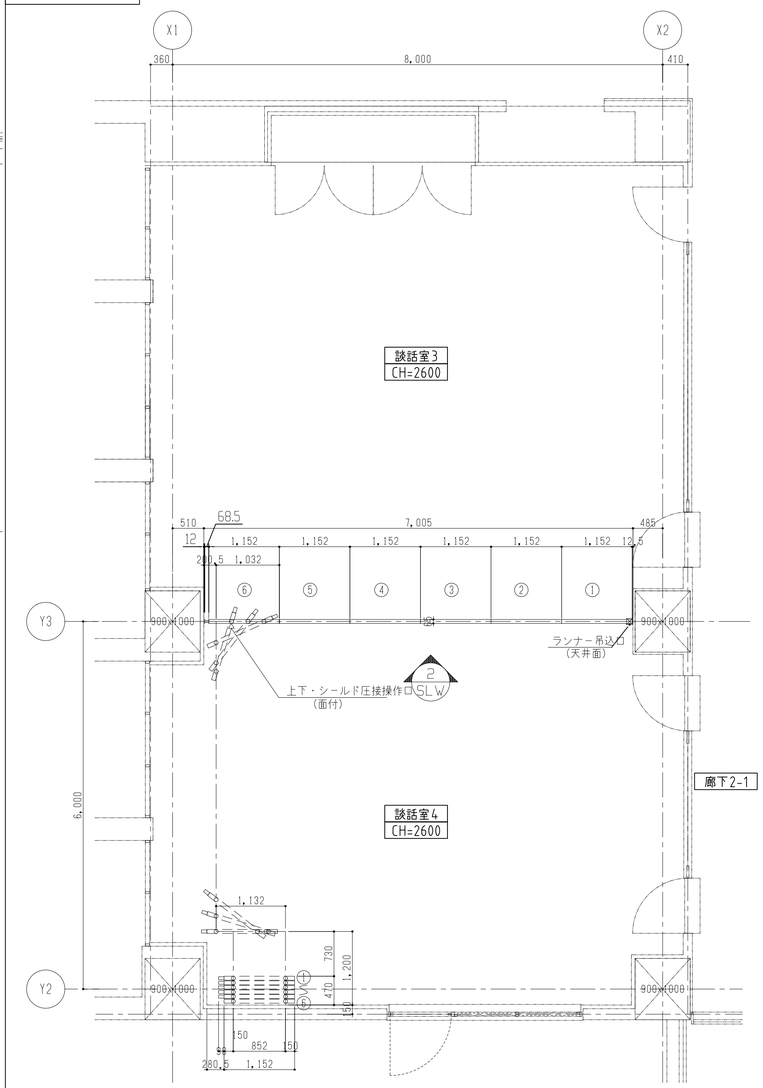
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号	鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号	設計者				法適合確認欄	検証者	藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
		一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx	建具詳細図（１１）	縮尺 1/ A1:2 A3:4	日付 2019・02・28	No
										A — 133	

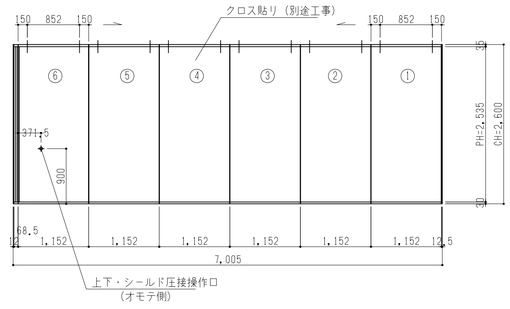
2階会議室2・5
S＝1：50



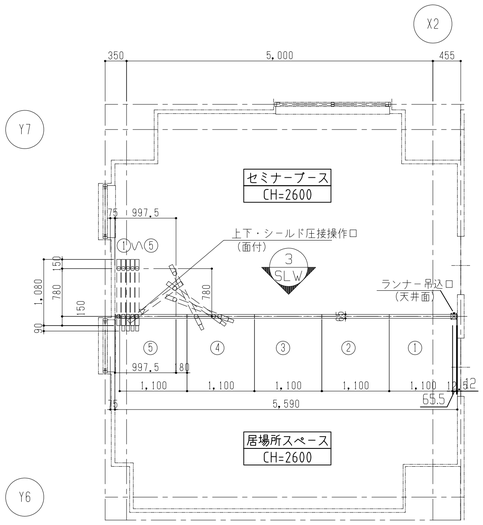


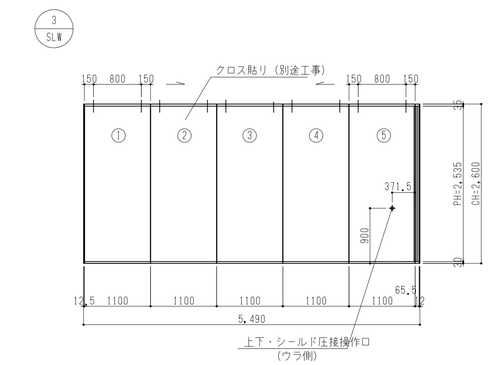
2階談話室3・4
S＝1：50





セミナーブース、居場所スペース
S＝1：50





22. スライディングウォール
製作図に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦
一級建築士 第359522号 松浦 暢

法適合確認欄
設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則

検証者 xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

建具詳細図（１２）

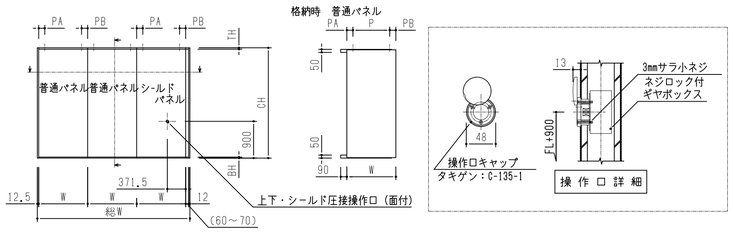
設計番号

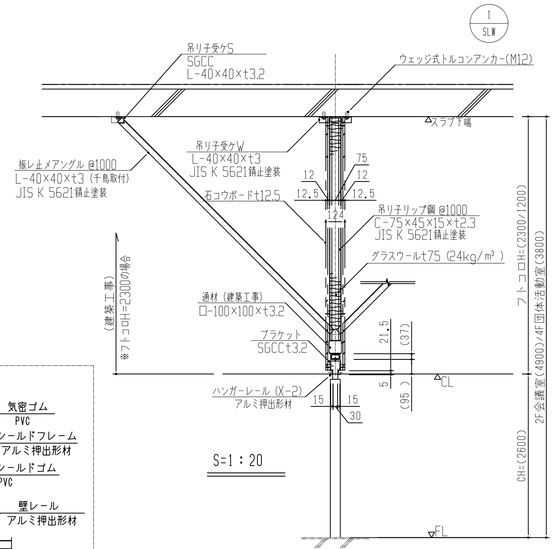
図面番号 A — 134

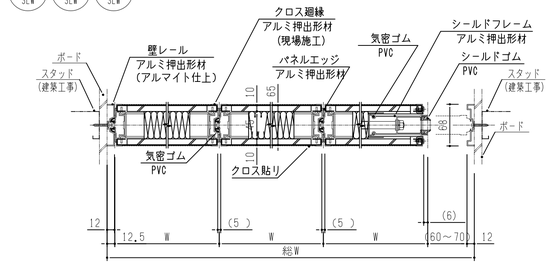
縮尺 1／A1：50 A3：100

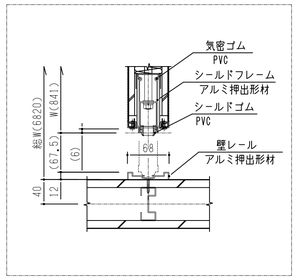
日付 2019・02・28

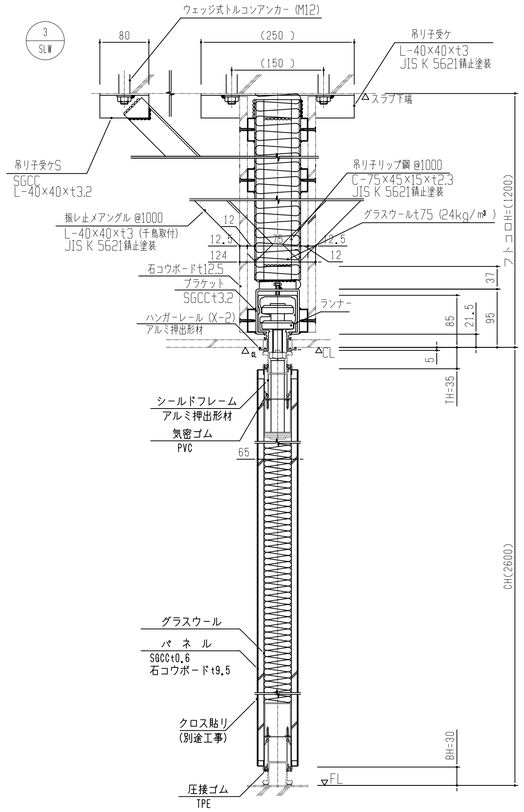
No

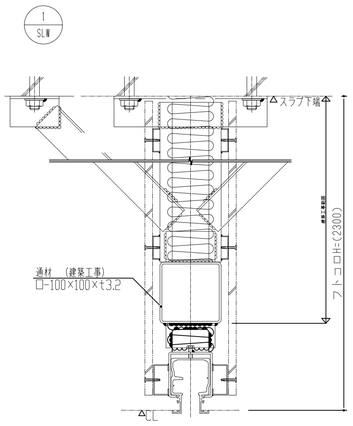


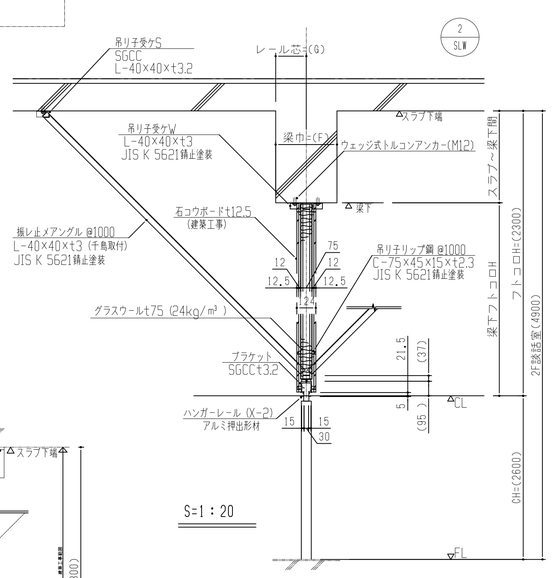












【スライディングウォール】仕様一覧表

DGSパネル（厚さ65ミリ）	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板（SGCC）t 0.6mm焼付塗装
	裏打材	石こうﾎﾞｰﾄﾞt9.5
	枠　材	溶融亜鉛めっき鋼板（SGCC）　t=1.6
	充填材	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ（32kg/m3）t40
気密ｺﾞﾑ		合成ｺﾞﾑ（EPDM）　塩化ﾋﾞﾆｰﾙ（PVC）
圧接ｺﾞﾑ		ｵﾚﾌｨﾝ樹脂（TPE）
エッジ		アルミニウム押出形材 アルマイトクリア仕上
吊 レ ー ル		アルミニウム押出形材 アルマイトクリア仕上
ラ ン ナ ー		ﾎﾟﾘｱｾﾀｰﾙ樹脂（ﾗｼﾞｱﾙﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ内蔵）
金　物	圧接装置	ワンタッチ式（ｽﾗｲﾄﾞﾛｯｸ機構）/回転式圧接装置
遮音性能		500Hz時 53.3dB減衰（ﾊﾟﾈﾙ単体）
環境配慮仕様		パネル分離型
特記	コマニー（株）ＤＰ-60S同等品	

22. スライディングウォール
製作図に依る

K11C00005_D001

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣　正邦	松浦　暢			押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 135
建具詳細図（１３）	縮尺 1／A1：5 A3:10	日付 2019・02・28	No

自然換気システム詳細図

[1]仕様

1.本工事に使用する自然換気システムを下記のように提示する。

・（自然換気用　排気スウィンドウ）

取付場所：5F階段室上部

① 無風時 各面自然開放（最大45°）

② 有風時 風上側自然閉鎖、風下側自然開放（最大45°）

③ 作動風速1m/s前後

④ 逆流防止機能付き

⑤ センサ-感知による強制閉鎖機能付き（風速・雨センサ-）

風速センサー（瞬間最大風速10m/s以上感知で閉鎖）

雨センサー（水滴感知で閉鎖）

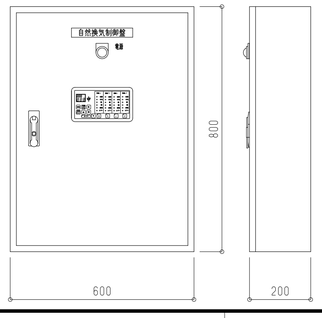
⑥ 年間タイマーによるスケジュール運転

[2]工事区分

	施工内容	建築工事	電気設備工事
	電源供給 自然換気制御盤 1φ2W AC100V		○
	電源供給 制御ユニット 1φ2W AC100V		○
	一次側の配管、配線工事		○
	二次側の配管、配線工事（センサ-含む）	○	
①	制御ユニット（取付け含む）	○	
	制御ユニットボックス（取付け含む）		○
	駆動装置（取付け含む）	○	
	駆動装置配線・配管（結線含む）	○	
②	自然換気制御盤（取付け含む）	○	
	結線、調整工事	○	
	センサー	○	
	センサーの取付	○	
	センサーの調整	○	

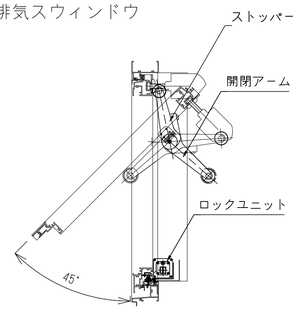
[3]自然換気制御盤

■② 自然換気制御盤

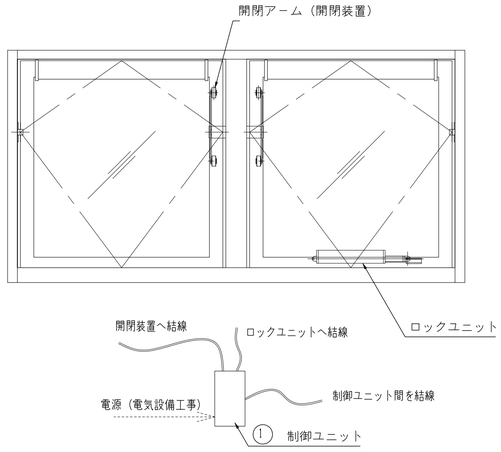


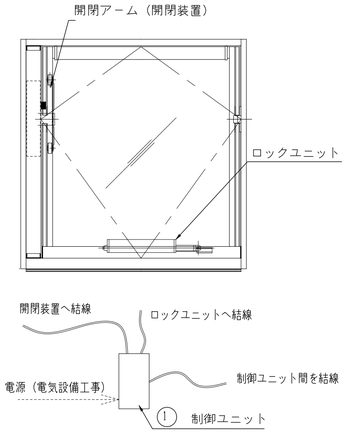
[4]開閉装置

☆排気スウィンドウ

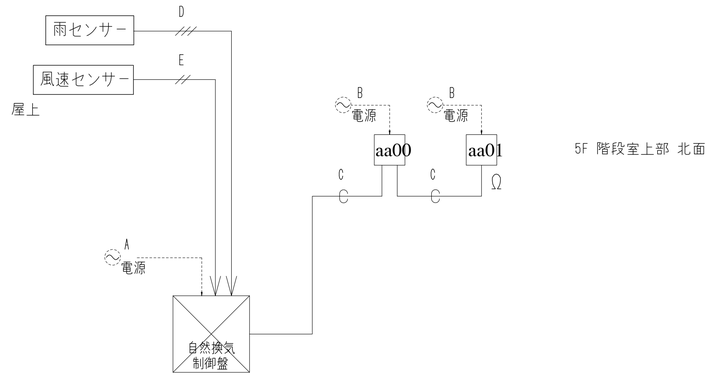


注記：スウィンドウの設置に際しては、必ず、室内側にメンテナンス用の通路又はキャットウォークを設置下さい。





[5]配線系統図



	記号	線種		備考
電源線	A	1φ2W AC100V 300VA	（自然換気制御盤電源）	接地線含む
	B	1φ2W AC100V 100VA	（制御ユニット電源）	接地線含む
信号線	C	EM-KPEE-S 0.75sq -3P	（自然換気制御盤から制御ユニットの間）	内2Pは予備
	D	VCT0.75sq -3C（100m以下）	（自然換気制御盤から雨センサーの間）	
	E	0.75sq -2C（シールド付 100m以下）	（自然換気制御盤から風速センサーの間）	

記号	内容	仕様	備考
a-x	制御ユニットを示す	AC100V	Ω：終端抵抗（100Ω 1/4W以上）

注記

・ ---------- は電気設備工事。

・受電電源は、自然換気制御盤に1φ2W AC100V 300VA

・受電電源は、制御ユニットに1φ2W AC100V 200VA（合計容量）

・受電電源配線は、接地線含む。

・電気工事（配線・配管）一次側は、電気設備工事とする。

・電気工事（配線・配管）二次側は、建築工事とする。

・制御ユニットから開閉及びロック装置への配線・配管は、建築工事とする。

・配線の一般基準事項は、「電気設備技術基準」・「内線規定」による。

・電源線の線径は、電圧降下を考慮の上、電気設備工事にて決定のこと。

このシステム図はエコ電線仕様です。

[6]作動システム

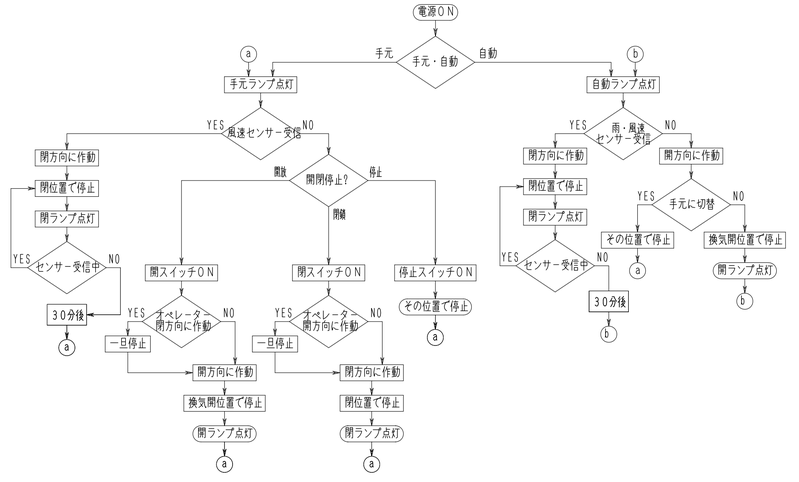
1.制御機構

信号　　雨センサー：くし形電極センサー

風速センサー：三杯風速計　（作動風速３ｍ／ｓ～３０ｍ／ｓ以下）

年間タイマー：

2.自然換気システム（スウィンドウ）開閉制御フロー



注１）閉ランプ又は開ランプのいずれかが常時点灯し、作動中は作動目的方向のランプが点滅する。

注２）操作スイッチは後押し優先となる。

注３）雨、風速、センサー作動中は、センサー受信ランプが点灯します。

注４）上記フローは標準仕様である。個別詳細仕様については、別途打合せの上決定とする。

3.鋼製建具製作図（アルミ建具）に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号	A — 136
建具詳細図（１４）	縮尺 1／A1:- A3:-	日付 2019・02・28	No

D101 コンクリート外壁目地の標準仕様 1

1．一般事項

□伸縮調整目地が必要な場合は原則柱際に入れ、@3,000以内毎に壁の内外に設ける。…… ▲
　柱際に入れない場合は、柱芯より1500までの間に設ける。
□伸縮調整目地深さは壁厚×1/5～1/4（内外合計）とする。…… a ≠ b ○
□パラペットの内側には目地を設けない。…… ※
□開口部水切りは、金属製が望ましい。
□シーリング材は、仕上げありの場合は、ポリサルファイド系（PS-2）とし、仕上げなしの場合は、変成シリコーン系
　（ＭＳ－２）とする。
□壁厚300～400以上であれば、伸縮調整目地は不要。

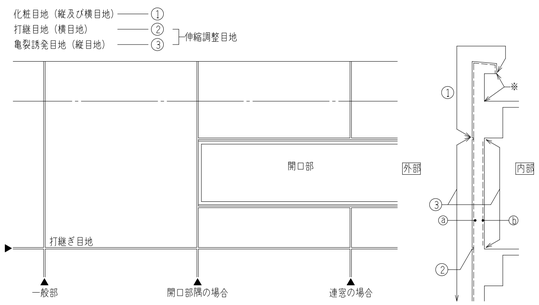
2．外壁仕上げ材の有無による「打増し」は以下とする。

仕上げ	打増し
コンクリート打放し	20mm～40mm
タイル型枠先付け	20mm
タイル張り50×100以下ユニット工法	20mm
タイル張り積上げ張り工法	20mm
タイル張り密着張り工法	20mm
石張り全とろ工法	20mm
石張り空積み工法	20mm
石張り乾式工法	20mm
金属板張り等	20mm
（塩害対策）	（＋10mm）

3．内壁打増しコンクリートについて

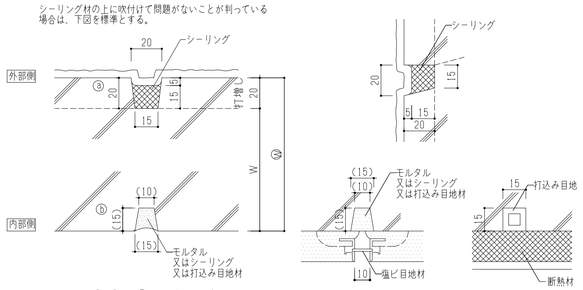
※打放し仕上でない場合はフカシ不要。（国交省仕様はゼロ）
※コンクリートかぶり厚さも仕上げの有無で変わる。
※コンクリートの中性化について
　中性化は外部より内部の方が起こりやすいためＰＪにて検討すること。
（中性化の因子（ＣＯ2）が多いため）

4．目地配置



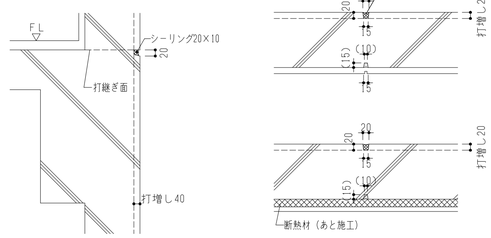
A1-0201

D102 コンクリート外壁目地の標準仕様 2　1/2

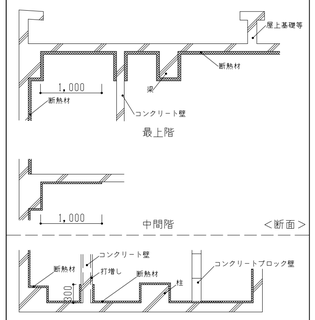


A1-0202

D103 コンクリート外壁目地（コンクリート化粧打放しの場合）　1/10



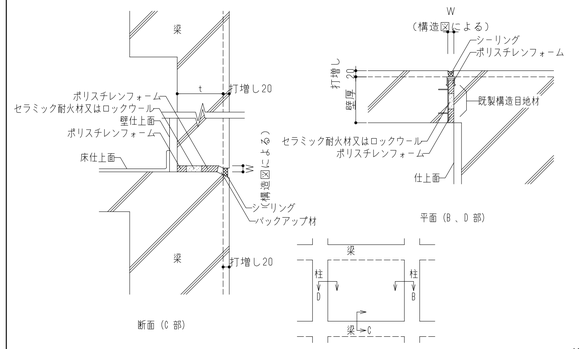
D104 断熱材範囲　1/50



＜分類＞
D1** ： 躯体
D2** ： 屋上・外構
D3** ： 床・壁・天井
D4** ： 部分

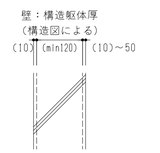
A1-0204

D105 コンクリート外壁目地の標準仕様 3（構造スリット）　1/10



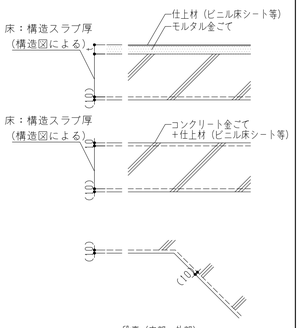
A1-0203t

D106 コンクリート内壁打増しコンクリート　1/10



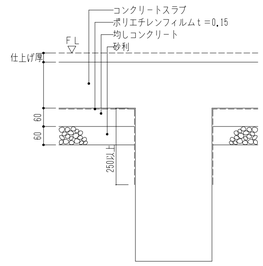
A1-0209

D107 コンクリートスラブ打増しコンクリート　1/10



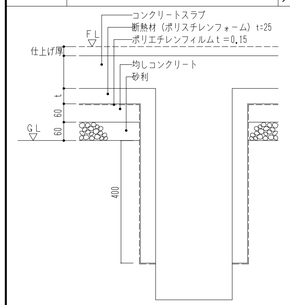
A1-0210

D108 床：スラブ防湿（土部ピットの場合）　1/10



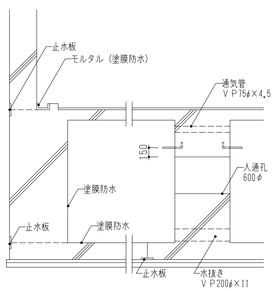
□砂利には再生クラッシャランを用いる。
□防湿層は、ポリエチレンフィルム厚さ０．１５mm以上とし、重ね合わせ及び基礎梁際ののみ込みは、２５０mm以上とする。

D109 床：スラブ断熱、防湿　1/10



□砂利には再生クラッシャランを用いる。
□防湿層は、ポリエチレンフィルム厚さ０．１５mm以上とし、重ね合わせ及び基礎梁際ののみ込みは、２５０mm以上とする。

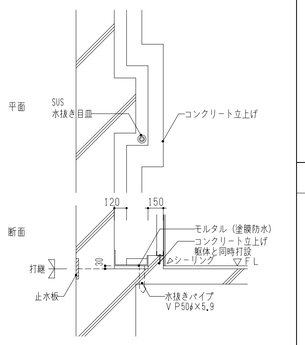
D110 地下外壁：各種水槽・防水　1/50



□人通孔・水抜きの位置は、図示による。
（通気管は水抜きの上部とする。）

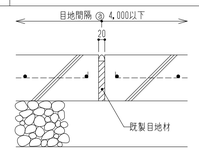
A1-0301 t 1

D111 地下外壁：防水立上り　1/30



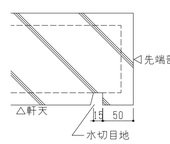
A1-0302

D112 土間コンクリート伸縮調整目地（ＲＣこて仕上げ）　1/10

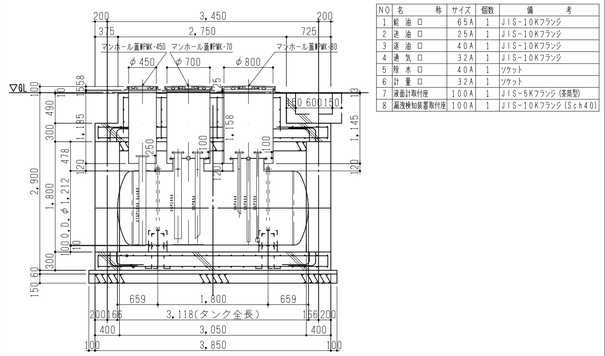


土間コンクリートこて仕上げの場合

D113 水切目地　1/5

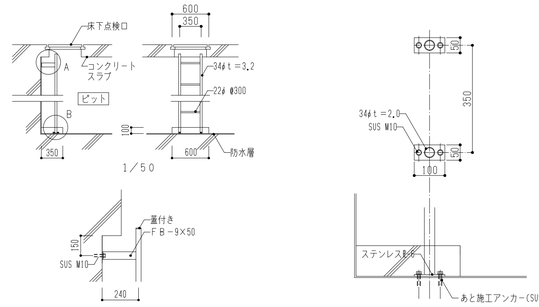


D120 屋外埋設オイルタンク（タンク室を設ける場合）　1/50



NO	名　　称	サイズ	個数	備　　考
1	給 油 口	65A	1	JIS-10Kフランス
2	送 油 口	25A	1	JIS-10Kフランス
3	戻 油 口	40A	1	JIS-10Kフランス
4	通 気 口	32A	1	JIS-10Kフランス
5	検 水 口	40A	1	ソケット
6	計 量 口	32A	1	ソケット
7	液面計取付座	100A	1	JIS-5Kフランス（本製型）
8	漏洩検知装置取付座	100A	1	JIS-10Kフランス（5ch40）

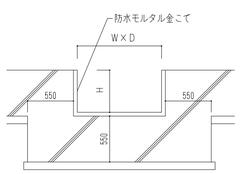
D121 タラップ（ピット内）　1/20　1/10



□材質はステンレスＳＵＳ３０４ ＨＬとする

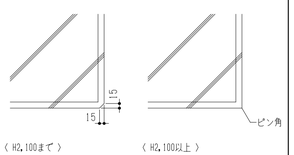
A8-0207

D114 釜場　1/20

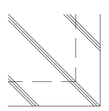


□消火水槽、環水槽、逆洗水槽、雨水貯留槽のみ塗膜防水とする。

D115 コーナー：コンクリート打放し　1/10

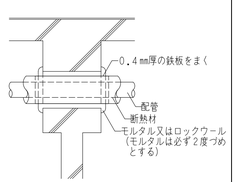


D116 コーナー：コンクリート打放し（外部）　1/5



A5-0701

D118 耐火被覆：ＲＣ造（防火区画）　1/20

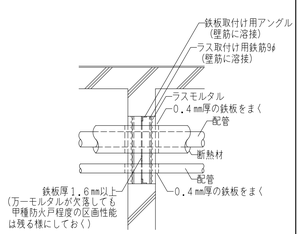


スリーブ１ヶ所に貫通配管が１本の場合

□ コンクリートブロック等の場合もこれに準ずる。

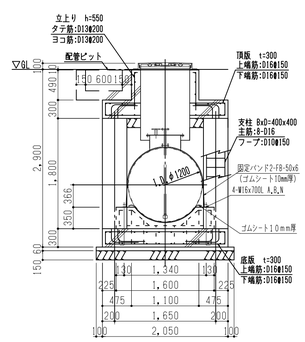
A1-0403

D119 耐火被覆：ＲＣ造（防火区画）　1/20



スリーブ１ヶ所に貫通配管が複数ある場合

A1-0404



A9-0705

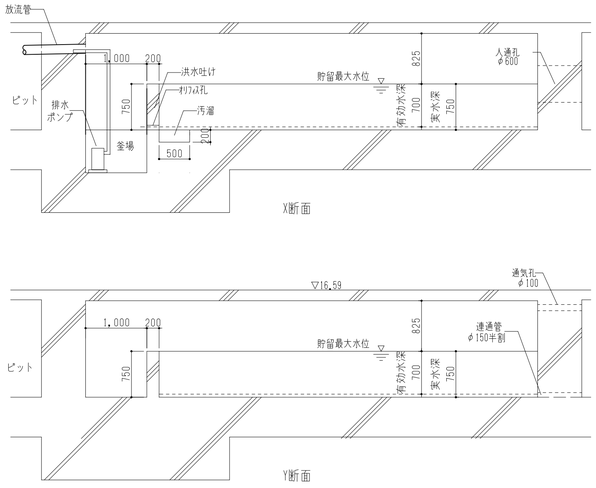
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

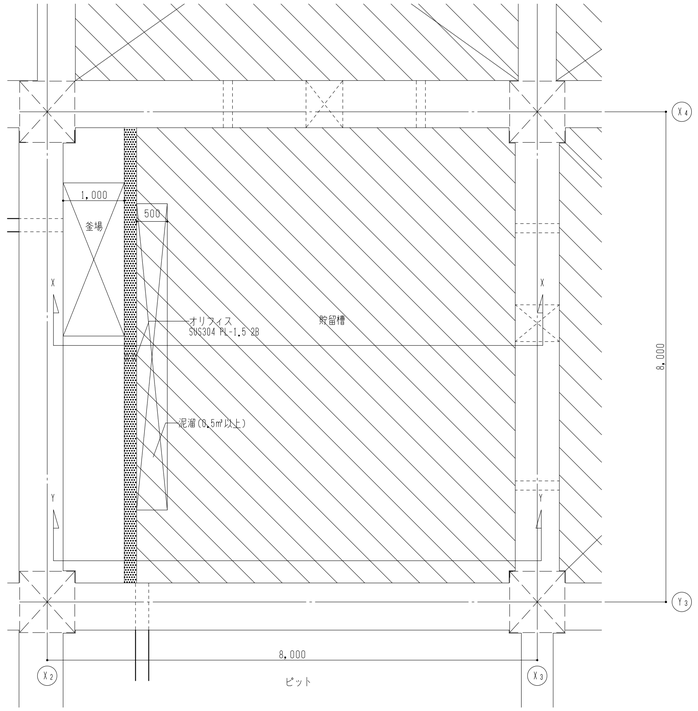
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
部分詳細図（１）	縮尺 1／A1:- A3:-	日付 2019・02・28
		A — 137
		No

D122 オリフィス 1/50

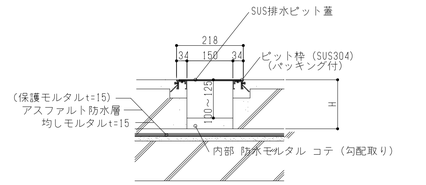


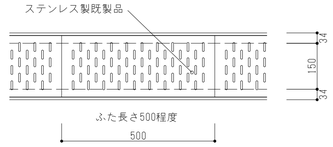
X断面

Y断面

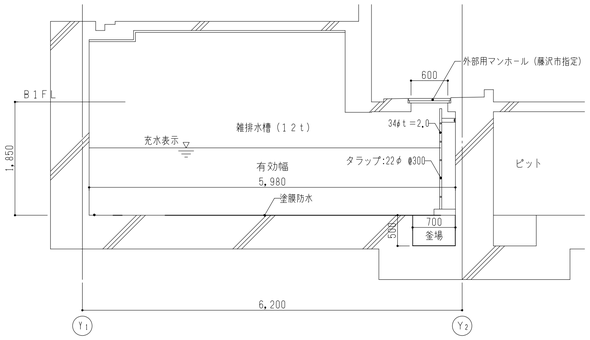


D123 厨房排水ピット 1/10

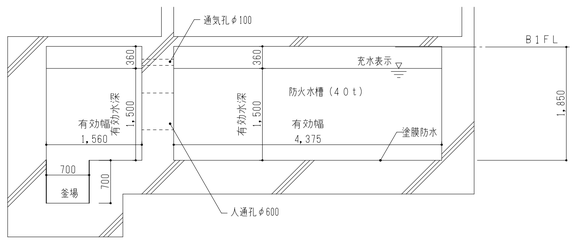




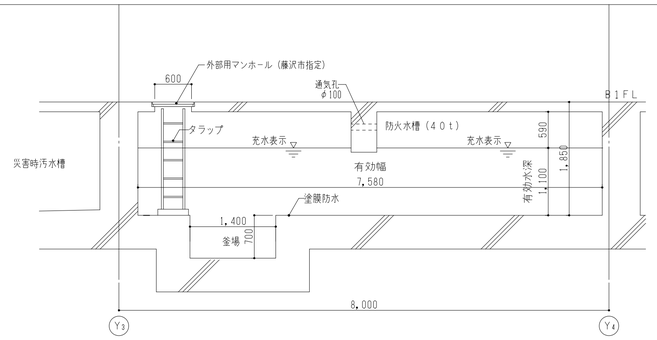
D129 雑排水槽詳細図 1/50



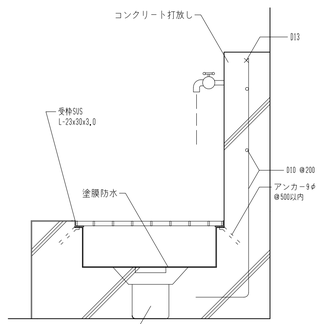
D125 防火水槽詳細図（1） 1/50



D126 防火水槽詳細図（2） 1/50

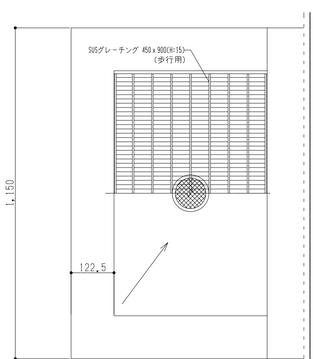


D129 地流し詳細図 1/10



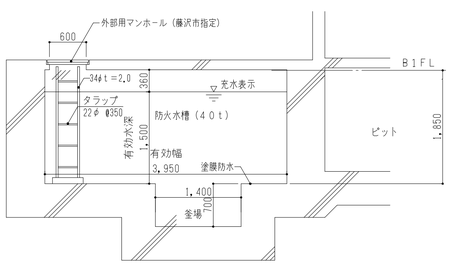
断面図

床排水トラップ
給水栓・目皿以降設備工事

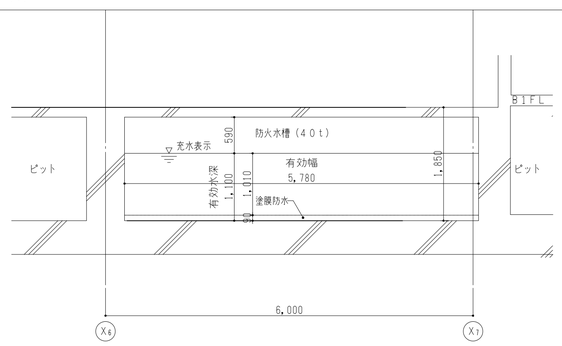


平面図

D127 防火水槽詳細図（3） 1/50



D128 防火水槽詳細図（4） 1/50



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 鹿島 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

部分詳細図（2）

設計番号	図面番号
	A — 138

縮尺	日付	No
1/A1:- A3:-	2019・02・28	

D201 屋根廻り共通事項－１

1．適用範囲
- □ この共通事項は寒冷地には適用しない。
- □ 材料仕様は詳細図に特記なき限り、特記仕様書に記載すること。
- □ 枠設計雨水排水設計基準書を作成すること。

2．パラペット
- □ 立上がりコンクリート厚さ　１８０mm 以上とし、配筋は構造図による。
- □ 立上りコンクリートは一体打ちとする。
- □ あご に水切りを設ける。
- □ 押出成形セメント板受アルミレールを止めるリベットは捨てコンクリート端部より３０mm以上確保する。
- □ 防水層立上がり寸法
  - ◇保護コンクリートを設ける場合　水上床躯体面より４００mm以上とする。
  - ◇露出防水の場合　水上床躯体面より３００mm以上とする。
- □ 防水層端部押え　立上り端部を金物で押さえる。
- □ 天端の水勾配　１／１０以上とする。
- □ 既製アルミ笠木１個の長さは２，０００mm程度とすること。
- □ アルミ笠木曲げ加工のジョイントピッチは２，０００mm程度とすること。
- □ アルミ笠木の取付強度は耐風圧計算書を確認すること。（アンカー径、ピッチ）

3．防水層
- □ 種類及び仕様　国交省公共建築工事共通仕様による。

4．防水保護コンクート
- □ 原則として普通コンクリートとする。　ｔ＝８０mm以上直押えとする。（モルタル仕上げ不可。溶接金網６φ１００×１００入れる）
- □ 配筋の要否、範囲を検討する。　車路、自走式ゴンドラ、ゴンドラ及び機械基礎回り、鉄骨造で大スパン等の場合。

5．勾配
- □ アスファルト防水（保護あり）　1／75 以上（スラブで勾配を取る）（国交省基準は1／100以上）
- □ 露出防水（アスファルト、又はシート）　1／50 以上（スラブで勾配を取る）（国交省基準は1／100以上）
- □ 溝勾配　原則 1／200 以上とする。（溝モルタルはｔ＝４０以上確保すること）

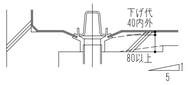
6．伸縮調整目地
- □ 各部伸縮調整目地の仕様

部位	目地幅	目地位置	
一般部	２５mm	３，０m内外 ４，０m以下	
パラペットぎわ	２５mm以上	溝のある場合	溝端より３００mm以内
		溝のない場合	立上がり面より６００mm以内
排水溝のモルタル塗り部分	伸縮目地２０mm（シーリング）	１．５m以上 ２．０m以下	

- □ 伸縮調整目地は成形伸縮調整目地材を使用し、品質は共通仕様書9.2.2の表9.2.3により、耐候性、熱伸縮を考慮し選定する。
- □ シール目地はＭＳ－２：２成分形変性シリコーン系シーリングとする。
- □ タイル仕上げの場合、保護コンクリートの伸縮調整目地とタイルの伸縮調整目地とを同一位置にする。
- □ 設備機器、手すり基礎などは伸縮目地にまたがらないように配置する。設備基礎がやむを得ずまたいだ場合は、基礎面より500mm以内に目地を設け、伸縮に影響しないように配置する。

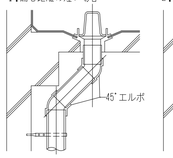
D202 屋根廻り共通事項－２（続き）

7．ルーフドレン
- □ ストレーナーの形は右図による。　縦型　出来るだけ高さの高いもの　横型
- □ 下げ代４０mm程度を確保できない場合は、ドレン周辺のスラブを下げる。（スラブの薄い場合、断熱材の無い場合、ドレンの成が高い場合等）

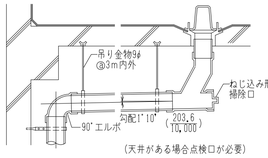


8．たて樋
- □ 外部に設ける場合で、塩ビ管を使用する場合はＶＰ管とする。たて樋受金物は、たて樋満水時の自重を支持する。
- □ 衝撃を受ける恐れのある部分には養生管を設ける。
- □ 屋内に設ける場合は原則として配管用鋼管（JIS G 3452）白管とし、下図の納まりとする。

1．偏心距離の短い場合



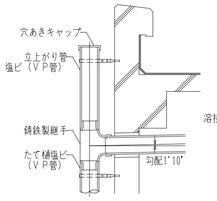
2．横引き管が長い場合



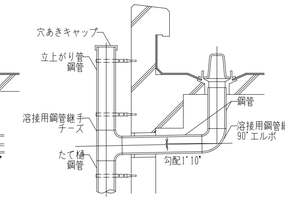
（天井がある場合点検口が必要）

- □ バリエーション

1．たて樋を上部まで伸ばす場合



2．たて樋を鋼管とし、上部まで伸ばす場合

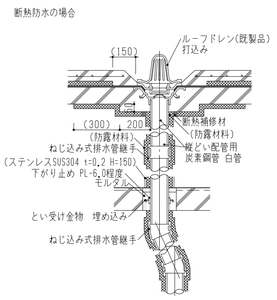


9．呼び樋・横引き管
- □ 屋内に設ける場合は配管用鋼管（JIS G 3452）白管とし、継手は鋳鉄製、又は、溶接用鋼管継手を用いる。

A2-0101

D203 ルーフドレン廻り（内どい・保護防水・外断熱） 1/20

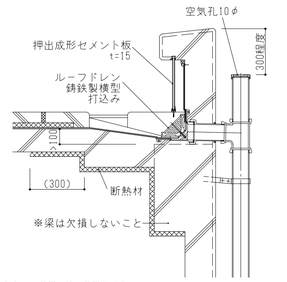
断熱防水の場合



※屋根廻り共通事項「A2-0101」を参照すること。　A2-0201

※参考：国土交通省建築工事標準詳細図【平成22年度版】5-32-1

D204 ルーフドレン廻り（横型・外どい・保護防水・外断熱） 1/20

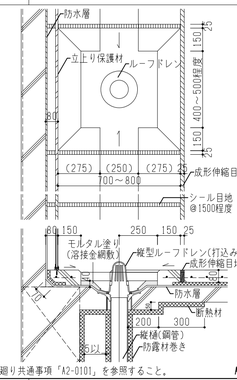


※梁は欠損しないこと。

※縦どいの仕様は特記仕様書による。
※屋根廻り共通事項「A2-0101」を参照すること。　A2-0203

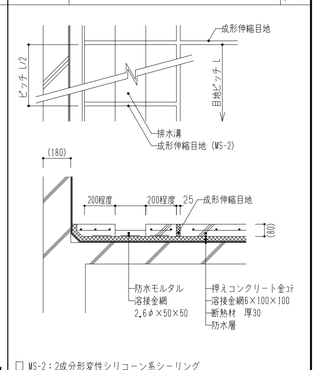
※参考：国土交通省建築工事標準詳細図【平成22年度版】5-32-1

D205 ルーフドレン廻り（内どい・保護防水・外断熱） 1/20



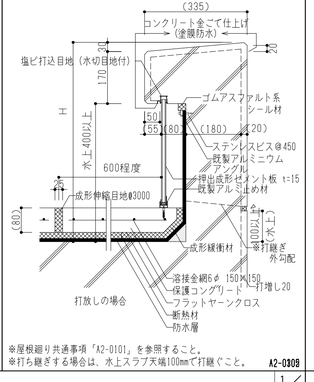
※屋根廻り共通事項「A2-0101」を参照すること。　A2-0204

D206 排水溝廻り（歩行・外断熱） 1/20



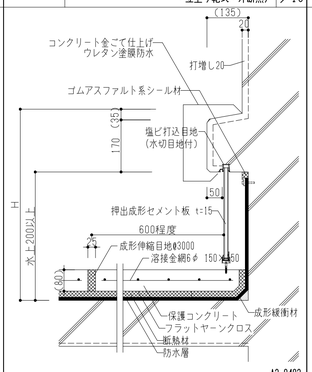
□ MS-2：2成分形変性シリコーン系シーリング

D207 屋上パラペット（保護防水・コンクリート笠木・立上り乾式・外断熱） 1/10



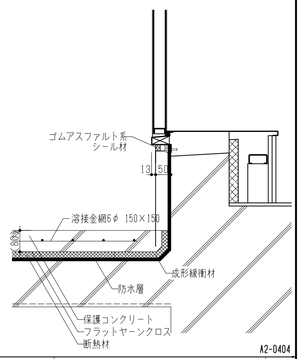
※屋根廻り共通事項「A2-0101」を参照すること。
※打ち継ぎする場合は、水上スラブ天端100mmで打継ぐこと。　A2-0309

D209 屋上壁取合い（保護防水・コンクリート笠木・立上り乾式・外断熱） 1/10



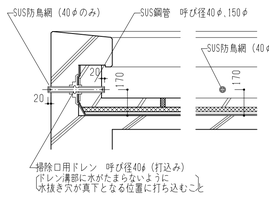
A2-0403

D210 屋上出入口（保護防水・コンクリート笠木・立上り乾式・外断熱） 1/10



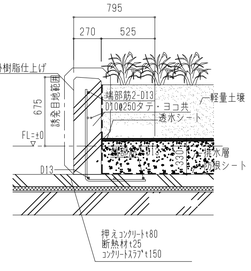
A2-0404

D211 オーバーフロー管 1/20

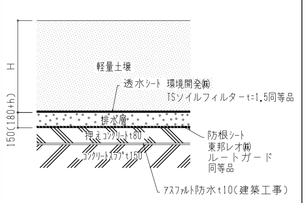


ZZ-02-02

D212 緑化部分 1/20

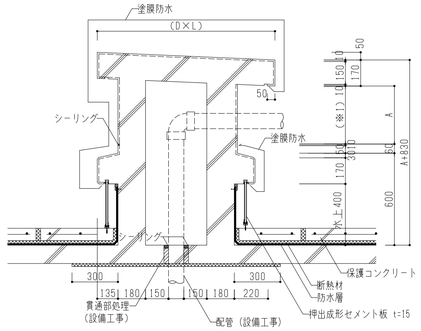


D213 人工地盤客土 1/20



※軽量発泡スチロールについては、
人口土壌を高中木部分は500ｍｍ以上、
低木部は300ｍｍ以上確保した上ですその下層に設置する。

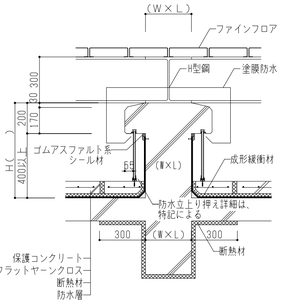
D214 屋上配管取出口 1/20



※配筋は構造図による

（※1）：＝Min700＝点検口600×600以上を設けること。　A2-0502

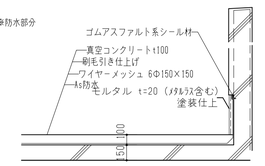
D215 屋上機器類基礎（保護防水・外断熱） 1/20



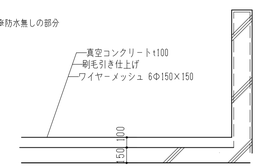
※基礎配筋は構造図による　A2-0506

D216 外部 オープン側溝 1/30

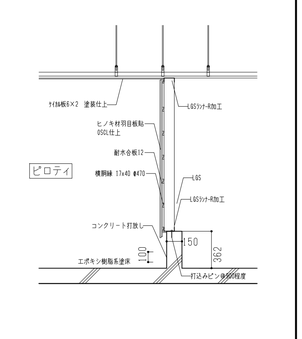
※防水部分



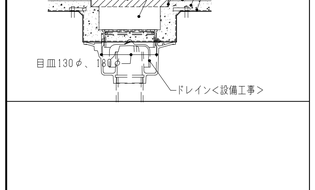
※防水無しの部分



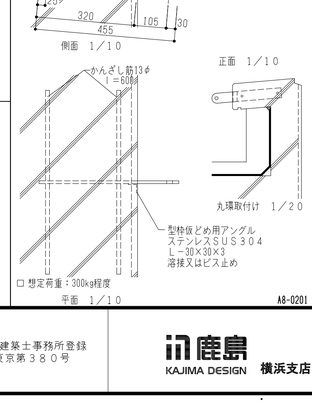
D217 ピロティ壁面R型羽目板貼 1/30



D218 SUS製グレーチング 1/10



D219 丸環 1/10 1/20



□ 想定荷重：300kg程度

平面 1／10

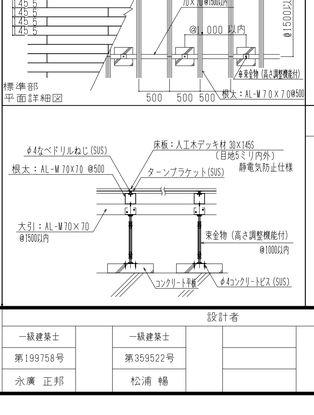
A8-0201

D220 設備機械基礎（屋内） 1/10

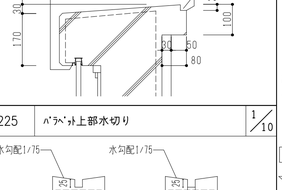


□ H及びW×D寸法は平面詳細図による。

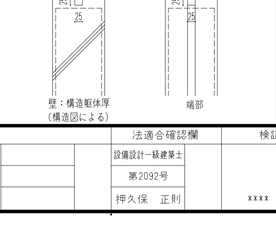
D223 ウッドデッキ 1/50 1/20



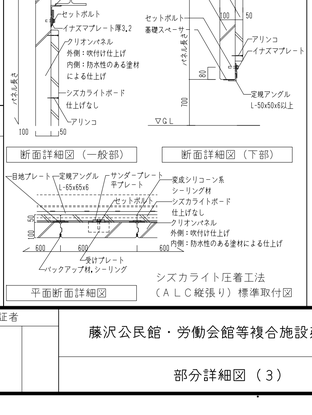
D224 コンクリート製笠木（リブ型枠部分） 1/10



D225 ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ上部水切り 1/10



D226 防音壁 1/20



断面詳細図（一般部）　断面詳細図（下部）

平面断面詳細図

シスカライト圧着工法
（ＡＬＣ縦張り）標準取付図

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

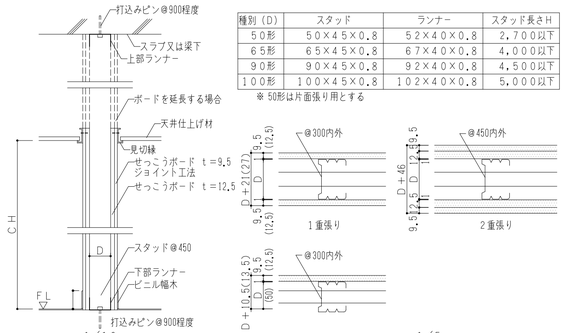
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

部分詳細図（３）

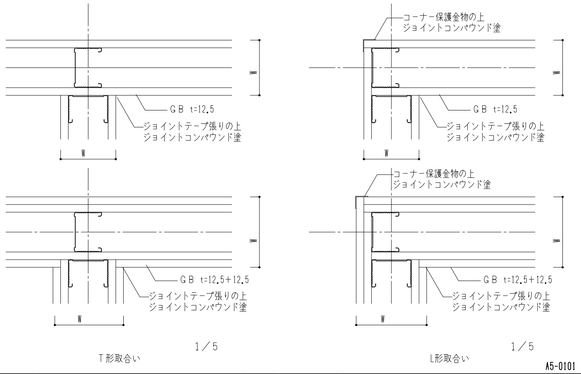
設計番号	図面番号
	A — 139
縮尺 1/A1:- A3:-	日付 2019・02・28
	No

D301 壁下地：軽量鉄骨間仕切壁 1/5 1/10



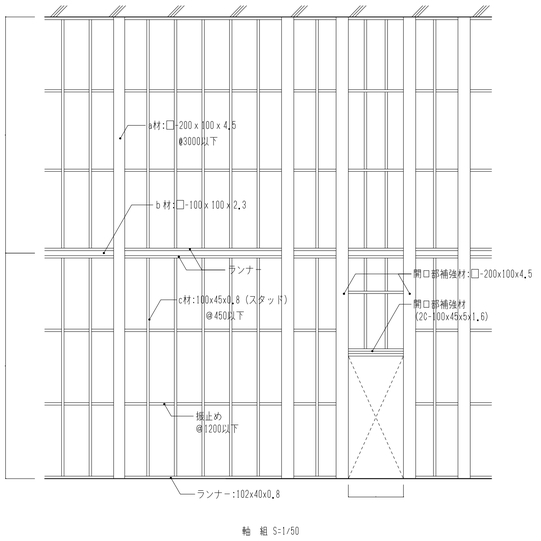
種別（D）	スタッド	ランナー	スタッド長さH
50形	50×45×0.8	52×40×0.8	2,700以下
65形	65×45×0.8	67×40×0.8	4,000以下
90形	90×45×0.8	92×40×0.8	4,500以下
100形	100×45×0.8	102×40×0.8	5,000以下

※ 50形は片面張り用とする



A5-0101

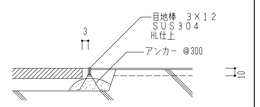
D302 5mを超える軽鉄軸組補強要領 1/50



軸 組 S=1/50

□ b材はa材の中央の位置に配置すること。開口により位置がずれる場合は、c材長が5m以下になるようにb材を追加すること。
□ 主フレーム柱及びトラス梁から振れ止めを取り付けること。
□ スタッド及び開口部補強材等の断面寸法は、100形の場合を示す
□ 開口部補強材及び補強材取付け用金物は防錆処置を行うこと。又、溶接箇所はさび止め塗料を塗布すること。

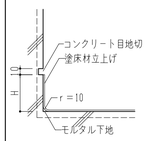
D303 床見切（異種異面） 1/5



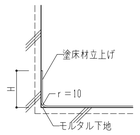
□ＳＵＳは３０４へアラインとする。
□モルタルはグラウトとする。

D304 床－壁：塗床立上げ 1/5

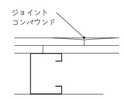
a）目地切りの場合



b）目地無しの場合

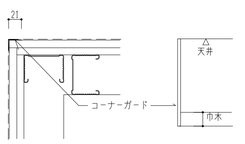


D305 継目処理工法 1/5

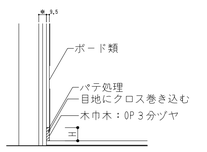


継目処理工法
（テーパーエッジ）

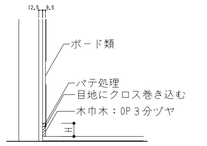
D306 コーナーガード（塩ビ製） 1/5



D307 木幅木（壁クロス） 1/10

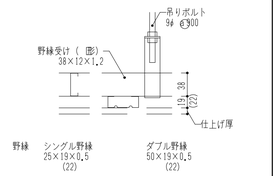


a）防火区画の場合



b） 一般壁の場合

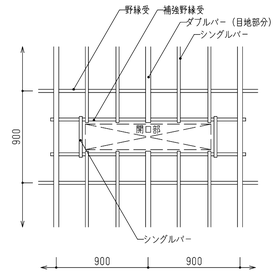
D308 天井下地：軽量鉄骨下地（内部） 1/5



野縁間隔		
上張りの種類		野縁間隔
ボード類で下地張りのある場合		360 内外
下地張りのない場合	標準（ボード寸法900×1,800程度）	300 内外
	特殊（ボード寸法450×900程度）	450 内外
金属成形板		450 内外

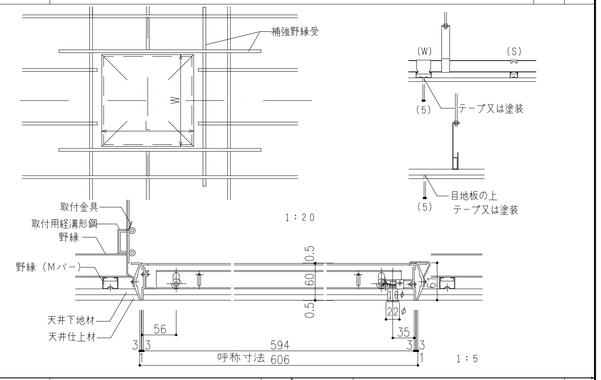
CE01-1t

D309 照明器具取付け開口補強 1/30

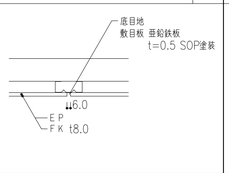


A6-0102

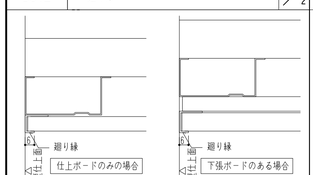
D310 天井点検口 1/5 1/20



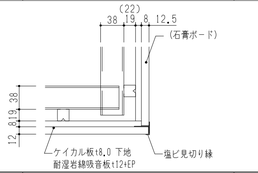
D311 天井：ケイカル板 EP 1/5



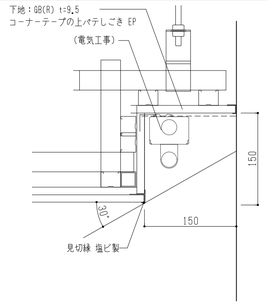
D312 廻り縁 1/2



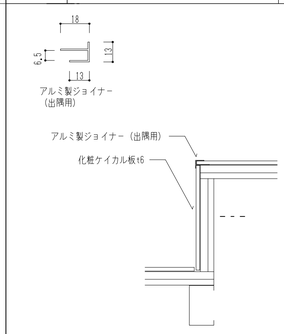
D313 折上天井見切縁 1/5



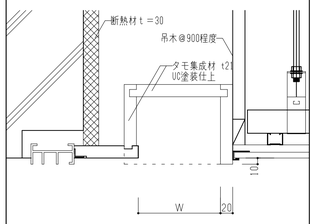
D315 壁面間接照明 1/5



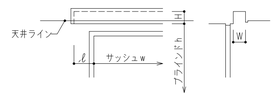
D316 化粧ケイカル板張り（ジョイナー工法） 1/5



D317 カーテンボックス 1/5



D318 カーテン・ブラインドボックス標準寸法 1/10

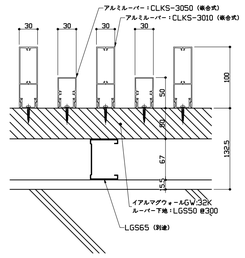


	種別		W	H	ℓ
1	レース・ケースメント・Eレーブ	いずれか一つ	150	110	200
2	レース+Eレーブ		180～200	110	200
3	横型ブラインド	幅＝25	120	$h\times\frac{9}{100}+b$	0
		幅＝35	120	$h\times\frac{9}{100}+b$	0
4	縦型ブラインド	幅＝80	120	60	$c\times\frac{w}{d}+e$
		幅＝100	120	60	$c\times\frac{w}{d}+e$

縦型ブラインドの,ℓ寸法は片引の場合を示す。
※a•e はメーカー寸法による。

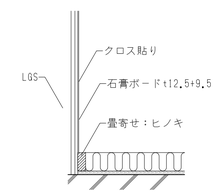
A6-0401

D319 嵌合式アルミルーバー 1/5

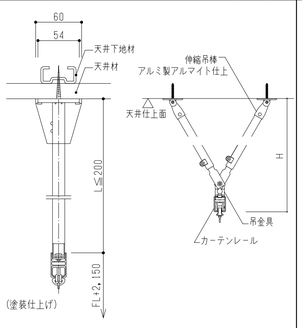


アルミルーバー：CLKS-3050,3010（理研金属工業）

D320 畳寄せ 1/10

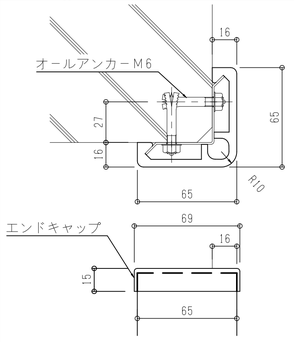


D321 カーテンレール 1/5 1/10



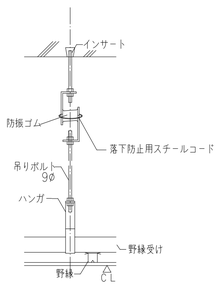
□ アルミ製 □H＝天井高さ2,600の室：600

D322 コーナーガード 1/2



ナカ工業 NPC-6565V 同等品

D324 天井下地：防振吊り 1/5



Z6-01-04

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

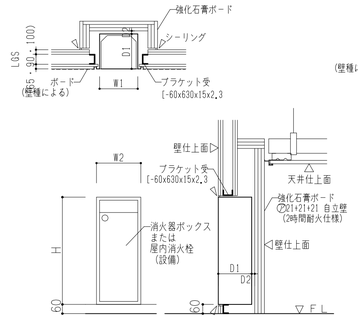
鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

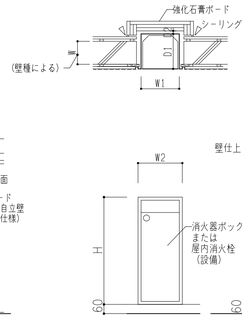
設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士					
第199758号		第359522号				設備設計一級建築士	
永廣 正邦		松浦 暢				第2092号	xxxx
						押久保 正則	

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号
			A — 140
部分詳細図（４）	縮尺 1／A1:- A3:-	日付 2019・02・28	No

D401 全埋込型消火器ボックス（既製品）・屋内消火栓 1/20

□ 壁面と同面納めを原則とする

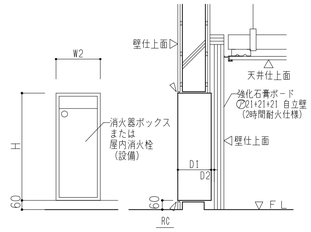




参考寸法 (㎜)

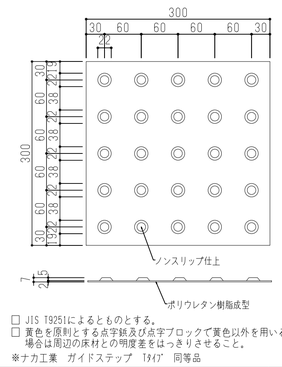
	W1	W2	H	D1	D2
消火器ボックス	270	280	810	210	-
屋内消火栓（設備工事）	設備機器による				200（配管納まり）

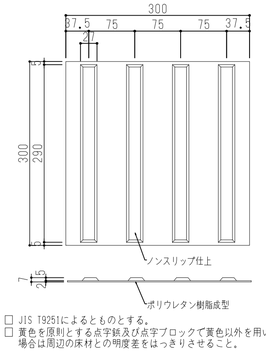
□ 消火器ボックスは、㈱ニイオン UFB-IF-2720（同等品）とする。
□ 屋内消火栓は、㈱ニイオン UFB-IF-2060L-MHT（同等品）とする。
※フェイスは建築工事
□ 消火器一体型は、UFB-IF-2060R-MHT（同等品）とする。



□ 耐火区画（LGS）に埋め込まれる場合は、ボックス裏面を壁面と同等の耐火性能とすること

D402 点字ブロック 1/5

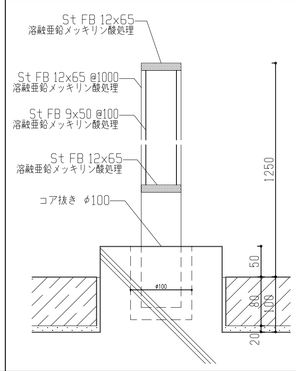




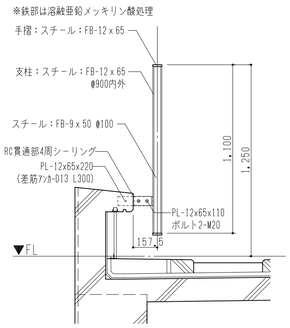
□ JIS T9251によるものとする。
□ 黄色を原則とする点字鋲及び点字ブロックで黄色以外を用いる場合は周辺の床材との明度差をはっきりさせること。
※ナカ工業 ガイドステップ ﾀｲﾌﾟ 同等品

□ JIS T9251によるものとする。
□ 黄色を原則とする点字鋲及び点字ブロックで黄色以外を用いる場合は周辺の床材との明度差をはっきりさせること。

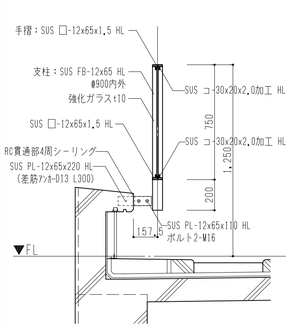
D403 屋外スロープ手摺 1/5



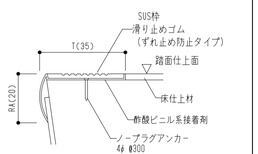
D404 屋上手摺 1/20



D404 屋上手摺（ガラス製） 1/20



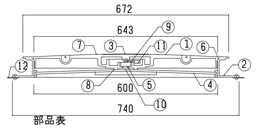
D406 階段：ノンスリップ 1/10



□ 仕様及び詳細寸法は、メーカー仕様による
□ 階段仕上面と段差が生じないように注意すること
□ 段鼻の識別がしやすい、床仕上材と明度差の大きい色とすること

D407 錆鉄製 マンホール 1/10

ロック式完全防水型

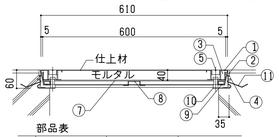


部品表

	部品名	材質	表面処理
①	カバー	FC200	樹脂系塗料塗装
②	受枠	FCD500	
③	錠力バー		
④	締つけカバー	SS400	溶融亜鉛ﾒｯｷ
⑤	スピンドル	SUS304	——
⑥⑦⑧	ゴムパッキン	クロロプレン	
⑨	締めつけナット	SS400	電気亜鉛ﾒｯｷ
⑩	ワッシャー		
⑪	南京錠	YB s C3	——
⑫	アンカー	SS400	
⑬	締めつけスパナ		電気亜鉛ﾒｯｷ

D408 床下点検口 1/10

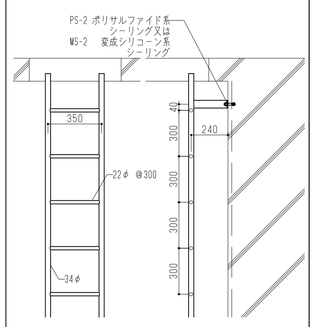
モルタル充填用 完全防水型・防臭型 ｽﾃﾝﾚｽ目地



部品表

	部品名	材質	表面処理
①	内目地	SUS304	——
②	外目地		
③	内枠	A6063S-T5	ｱﾙﾏｲﾄ処理
④	外枠		
⑤	錠	SUS304	——
⑥	鍵	SS400	電気亜鉛ﾒｯｷ
⑦	底板	SEHC	エポキシ粉体塗装
⑧	補強形鋼		
⑨	パッキン	クロロプレン	——
⑩	固定プレート	SUS304	
⑪	アンカー	SPCC	電気亜鉛ﾒｯｷ

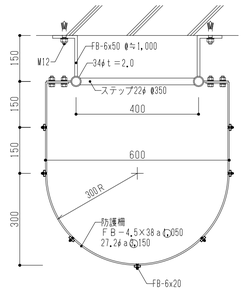
D409 タラップ 1/20



□ 材質はステンレスSUS304 HLとする

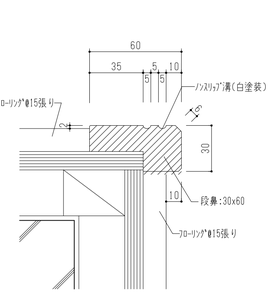
A8-0203

D410 タラップ（屋上） 1/10



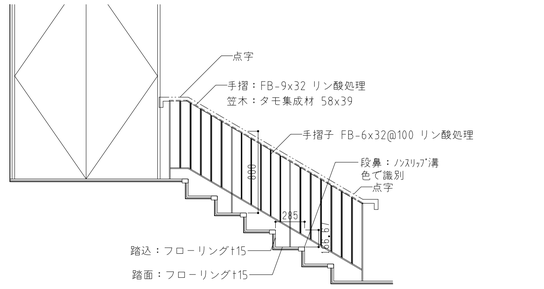
□ 材質はステンレスSUS304 HLとする

D411 木製床階段ノンスリップ 1/2

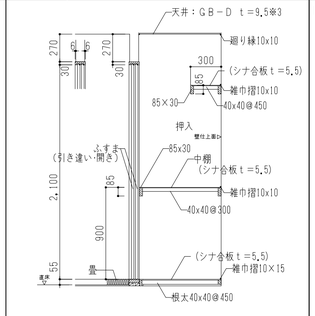


Z7-06-08

D442 ホール内階段 1/30



D413 押入れ 1/30

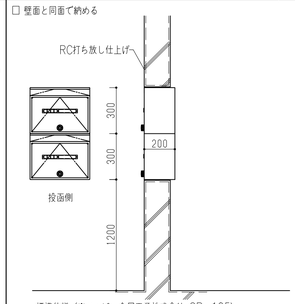


※ 不燃仕様の場合はGB-D t=12.5とする

A7-0403

D414 郵便受 1/20

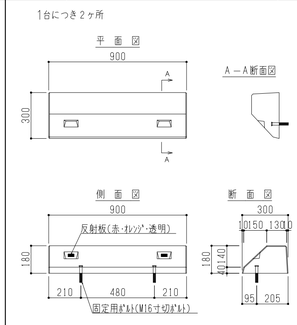
□ 壁面と同面で納める



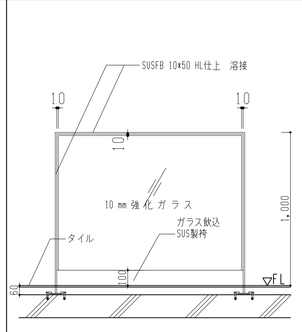
標準仕様（㈱ハッピー金属工業株式会社 CP-105）
本 体：ステンレス（SUS304）ヘアライン仕上 1.5t
差出口：ステンレス（SUS304）ヘアライン仕上 0.7t
取 手：硬質ゴム
錠 前：ダイヤル錠 合成樹脂

D415 駐車場車止めブロック 1/20

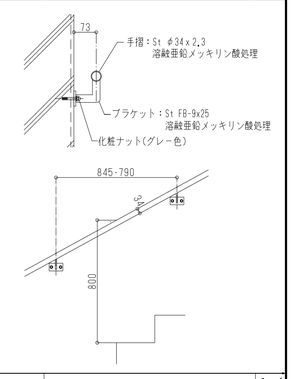
1台につき2ヶ所



D416 自動ドア防護柵 1/20

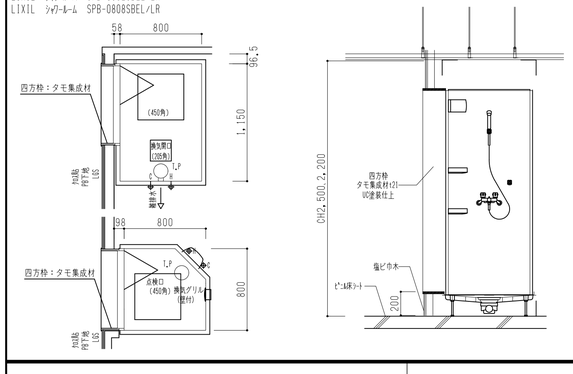


D417 屋外階段 手摺 1/20



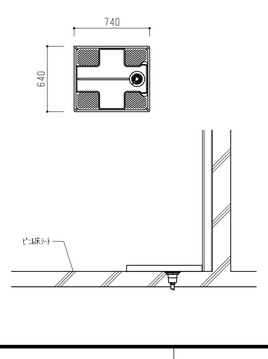
D420 シャワーブース 1/30

LIXIL シャワールーム SPB-0812SBEL/LR
LIXIL シャワールーム SPB-0808SBEL/LR

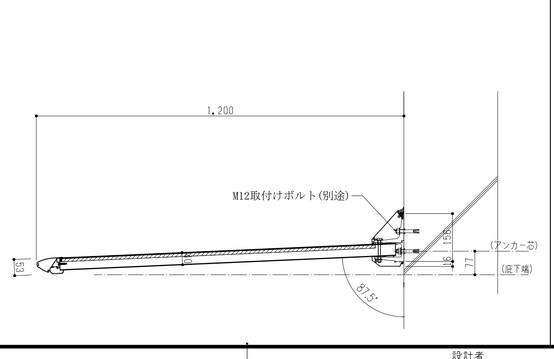


D421 洗濯機パン（設備工事） 1/30

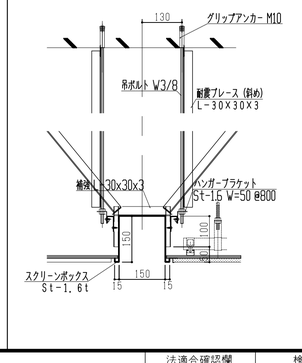
TOTO 洗濯機パン PWP740M



D422 アルミ庇 1/10

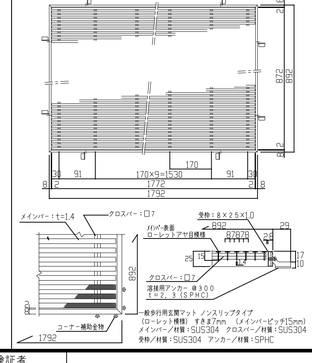


D423 スクリーンボックス：スチール製 1/5



D424 ステンレスマット 1/12 1/5

KANESO RM-15F 同等品



D425 ホワイトボード 1/30

コクヨ BB-H936W 同等品



壁掛けホワイトボード
W1805 D88 H905
重量11Kg
板面仕様 ホーロー
板受け有り

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第199758号	第359522号			第2092号	
永廣 正邦	松浦 暢			押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

部分詳細図（５）

設計番号

図面番号 A — 141

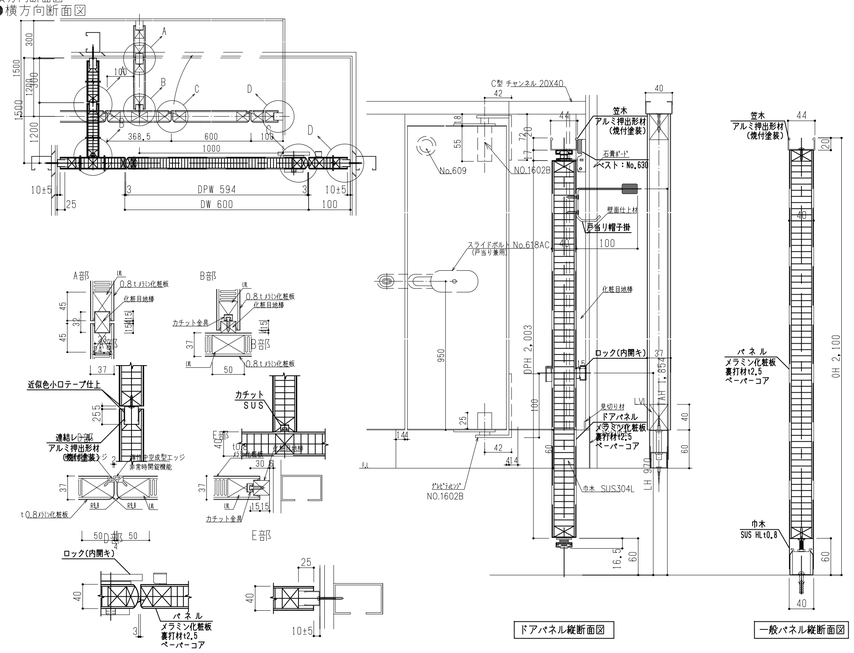
縮尺 1/A1:- A3:-

日付 2019・02・28

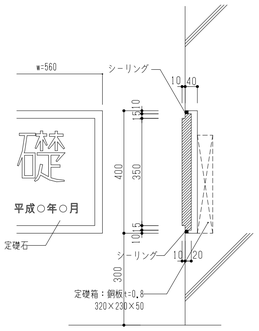
No

D426 トイレブース詳細図 1/50

●横方向断面図
●横方向断面図

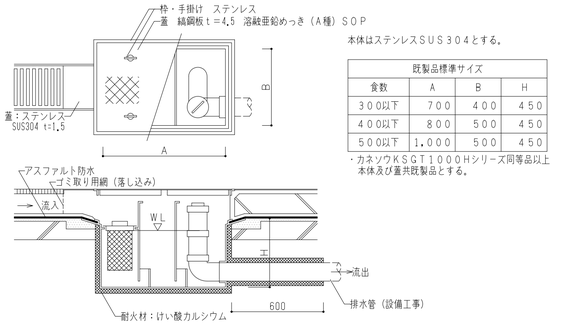


D427 定礎 1/10



□ 定礎：花崗岩 ㋐30 本みがき 指定文字掘込

D428 グリーストラップ（既製品） スラブの場合 1/20



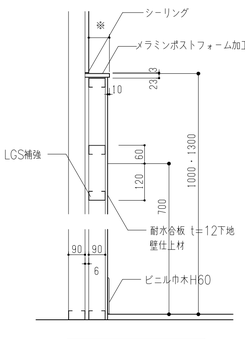
本体はステンレスＳＵＳ３０４とする。

既製品標準サイズ			
食数	A	B	H
３００以下	７００	４００	４５０
４００以下	８００	５００	４５０
５００以下	１,０００	５００	４５０

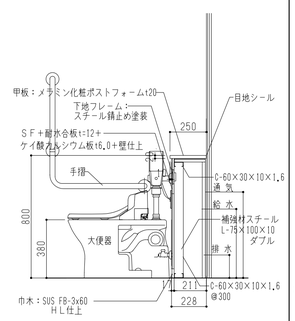
・カネソウＫＳＧＴ１０００Ｈシリーズ同等品以上
本体及び蓋共既製品とする。

A8-0304

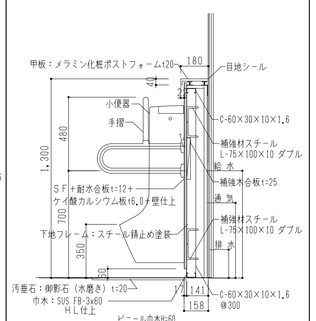
D429 配管ライニング 1/5



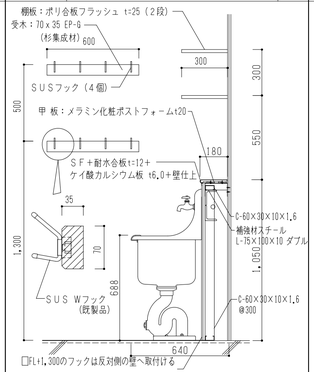
D430 ライニング廻り(WC大便器) 1/20



D431 ライニング廻り(WC小便器) 1/20

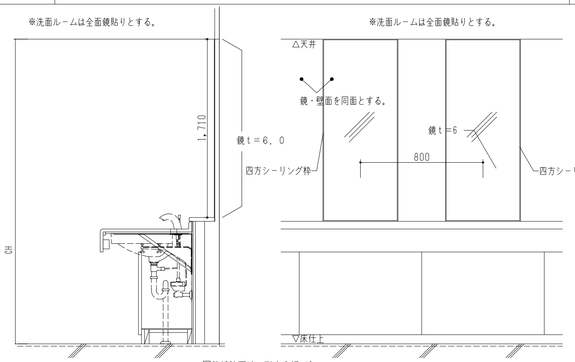


D432 ＳＫ廻り 1/20



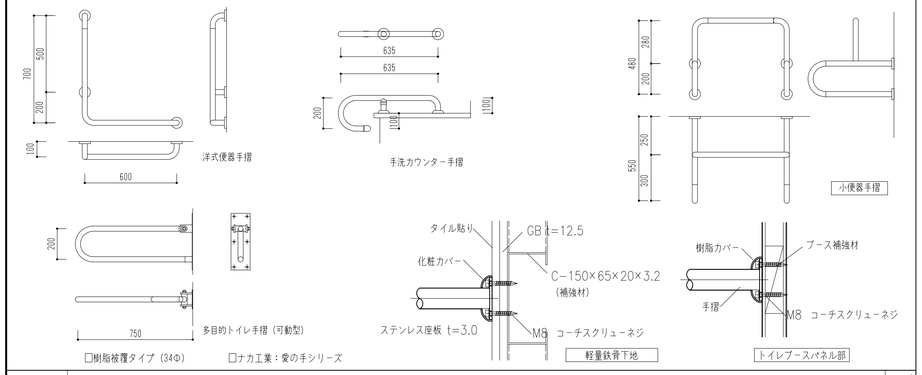
□FL+1,300のフックは反対側の壁へ取付ける

D433 鏡 更衣室・脱衣室・洗面ルーム・WC 1/20



□鏡補強下地：耐水合板t12

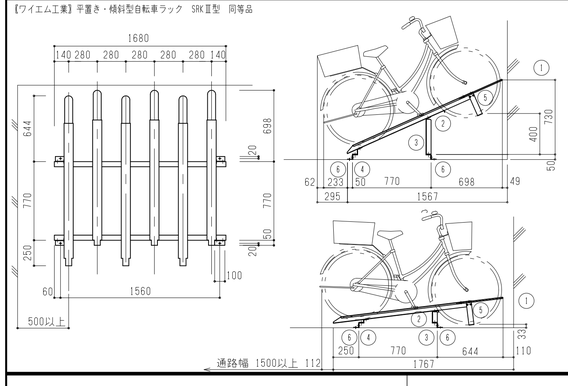
D434 便所各種手摺 1/5 1/20



□樹脂被覆タイプ（34Φ） □ナカ工業：愛の手シリーズ

D435 平置き傾斜型自転車ラック 1/30

【ワイエム工業】平置き・傾斜型自転車ラック SRK置型 同等品



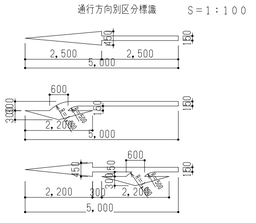
	部材品	呼び方(寸法)	材料	表面処理	標準色
①	レールポート	t2．3	ZAM		亜鉛メッキ色
	タイヤガイド	t4．5	SS400	粉体焼付塗装	ライトグレー 日塗工 N-75
	タイヤストッパ	φ18	ABS樹脂		オレンジ
	止めビス	M6X75L	SS400	ダクロメッキ	亜鉛メッキ色
	タイヤキャッチャー		ABS樹脂		オレンジ
②	ベース	L50X50X4	SS400	溶融亜鉛メッキ	亜鉛メッキ色
③	レールポート受：前	L50X50X4	SS400	溶融亜鉛メッキ	亜鉛メッキ色
	レールポート受：後	t4．5	SS400	溶融亜鉛メッキ	亜鉛メッキ色
④	アンカーブラケット	L50X50X4	SS400	溶融亜鉛メッキ	亜鉛メッキ色
⑤	六角ボルト・ナット	M10X25L	SS400	溶融亜鉛メッキ	亜鉛メッキ色
⑥	ホールインアンカー	M10X60L	SS400	三価クロメートメッキ	亜鉛メッキ色

D436 路面表示図 1/100

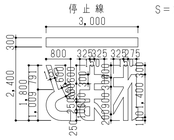
駐車区分・進入通路中心線・側線 S＝1：100



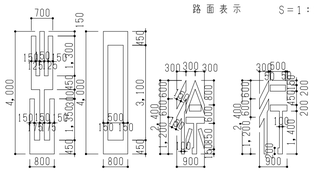
通行方向別区分標識 S＝1：100



停止線 S＝1：100



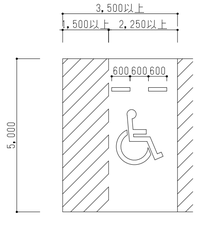
路面表示 S＝1：100



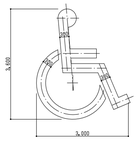
① 仕様は
溶着式ペイント とする。
（ＪＩＳ Ｋ５６６５３種1号）

② 仕上色、下記とする。
・コンクリート下地 黄色
・アスファルト下地 白色

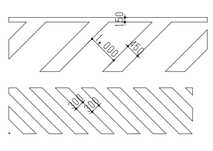
身障者用駐車エリア表示 S＝1：100



車椅子マーク S＝1：50

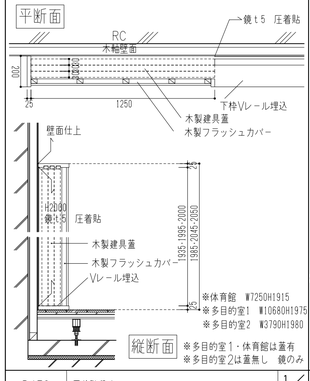


駐車禁止範囲 S＝1：100

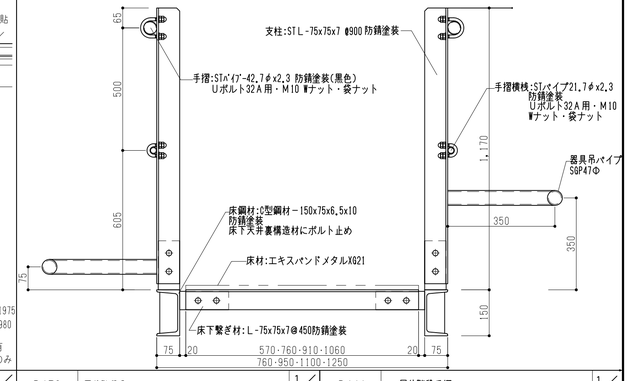


Z9-07-05

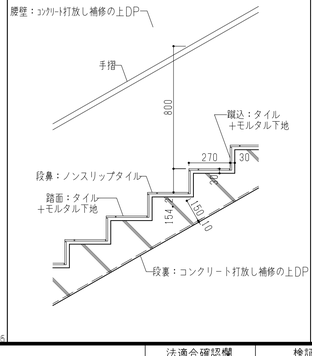
D437 バレエ用鏡 1/20



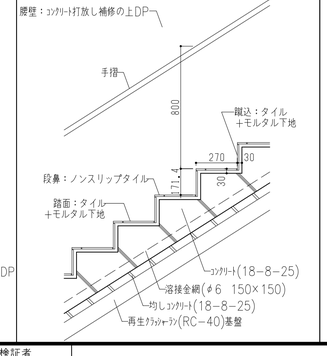
D438 キャットウォーク 1/10



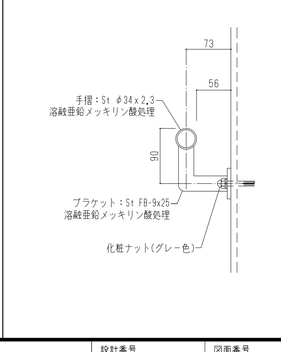
D439 屋外階段1 1/20



D439 屋外階段2 1/20



D441 屋外階段手摺 1/5



AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

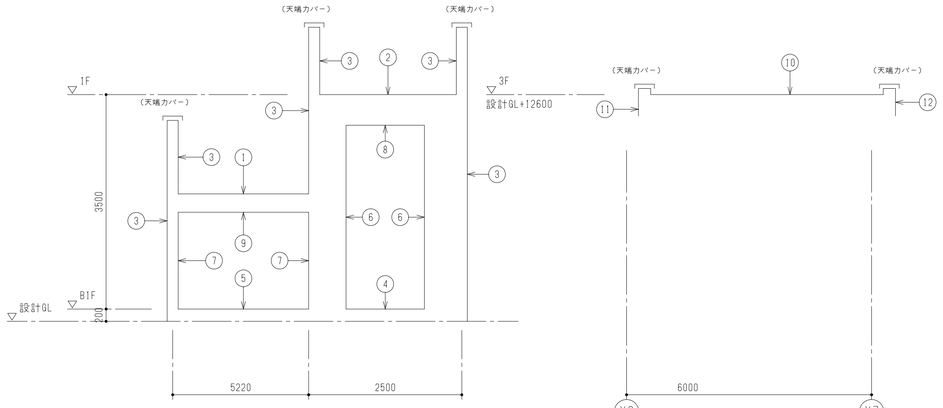
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

部分詳細図（６）

設計番号	図面番号
	A －142

縮尺	日付	No
1/A1:- A3:-	2019・02・28	

Exp.j キープラン

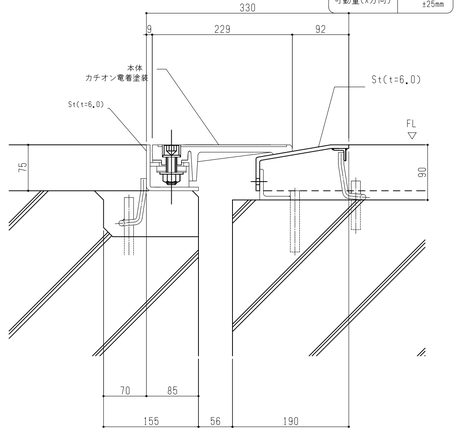


（ 管理用スロープ・エントランステラス部 Exp.j キープラン ）

（ 屋外通路3部 Exp.j キープラン ）

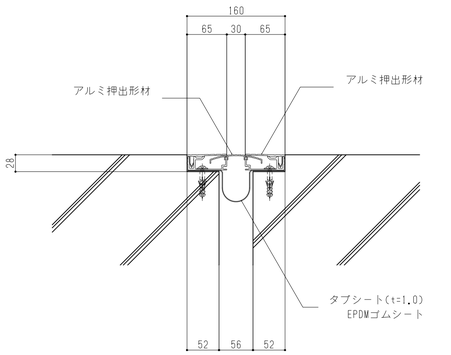
① 床 Exp.j（スチール製）T-25対応　T-25S　S=1:5

クリアランス	55.5mm
可動量(X方向)	±25mm



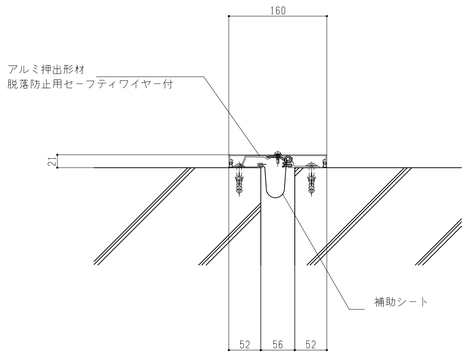
② 床ー床 Exp.J（アルミ製）　SO5-AFX　S=1:5

クリアランス	55.5mm
可動量(X方向)	±30mm



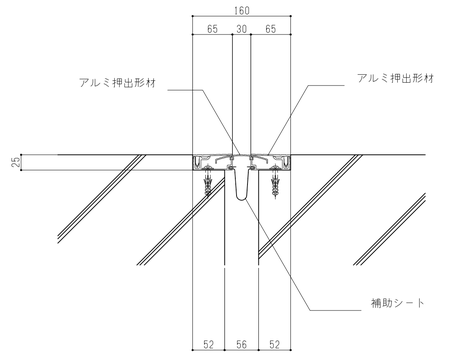
③ 外壁ー外壁 Exp.J（アルミ製）　SO5-AEW　S=1:5

クリアランス	55.5mm
可動量(X方向)	±33mm



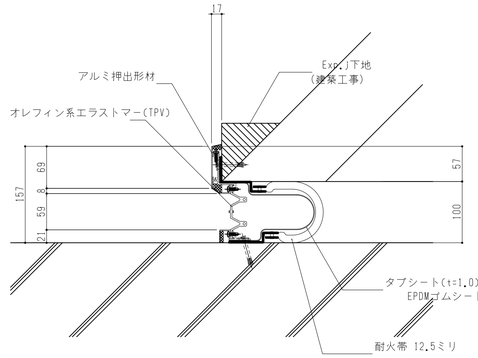
④ 床ー床 Exp.J（アルミ製）　SO5-AFX　S=1:5

クリアランス	55.5mm
可動量(X方向)	±30mm



⑪ 外壁コーナー Exp.J（エラストマー製）　EU-100C　S=1:5

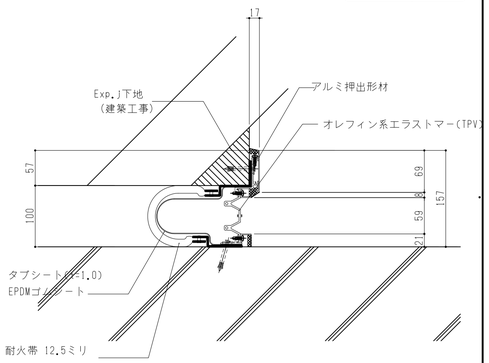
クリアランス	100mm
可動量(X方向)	±50mm



カバー本体:オレフィン系エラストマー(完全架橋 TPVタイプ)t=2.4mm同等以上

⑫ 外壁コーナー Exp.J（エラストマー製）　EU-100C　S=1:5

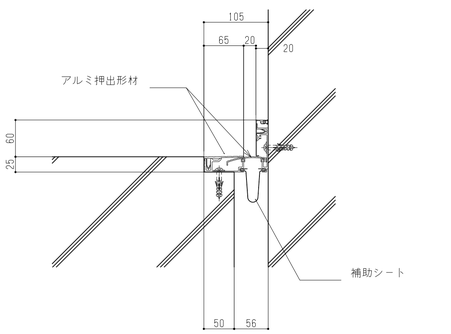
クリアランス	100mm
可動量(X方向)	±50mm



カバー本体:オレフィン系エラストマー(完全架橋 TPVタイプ)t=2.4mm同等以上

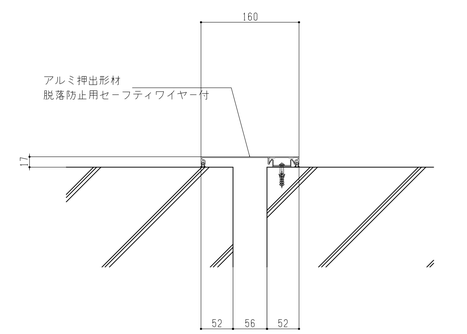
⑤ 床コーナー Exp.J（アルミ製）　SO5-AFXC　S=1:5

クリアランス	55.5mm
可動量(X方向)	±24mm



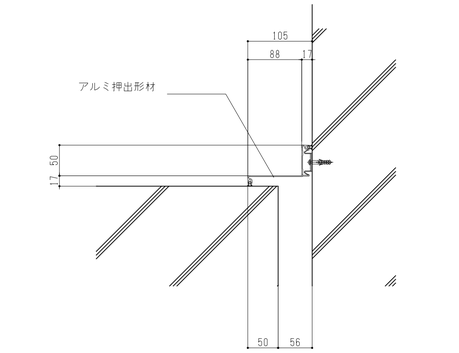
⑥ 内壁ー内壁 Exp.J（アルミ製）　SO5-AUW　S=1:5

クリアランス	55.5mm
可動量(X方向)	±50mm



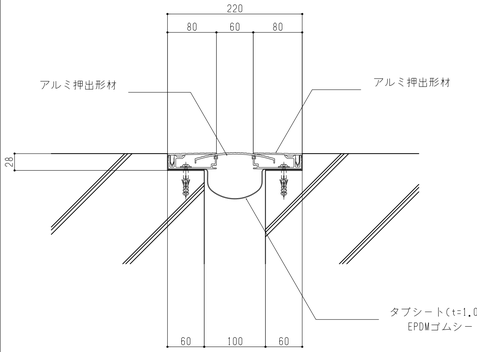
⑦ 内壁コーナー Exp.J（アルミ製）　SO5-AUWC　S=1:5

クリアランス	55.5mm
可動量(X方向)	±50mm



⑩ 床ー床 Exp.J（アルミ製）　S10-AFX　S=1:5

クリアランス	100mm
可動量(X方向)	±60mm



31.EXP/J製作図に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

部分詳細図（７）

設計番号 A — 143

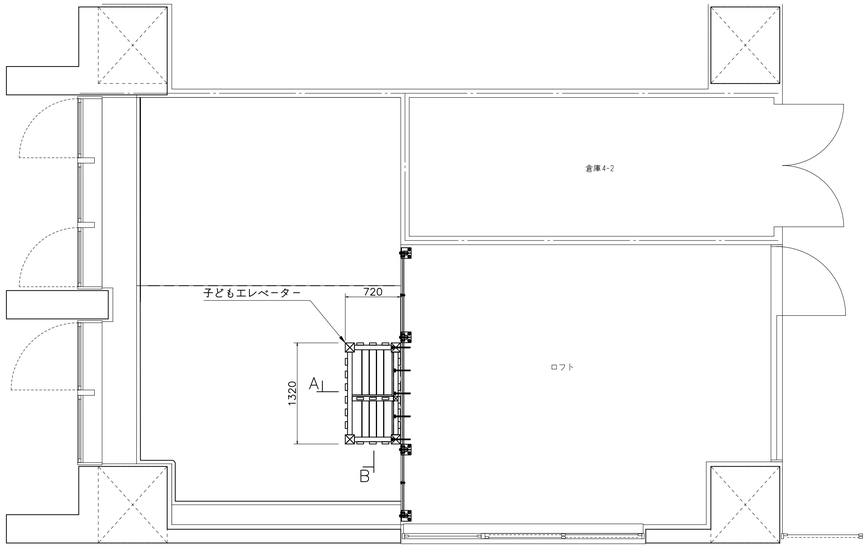
図面番号

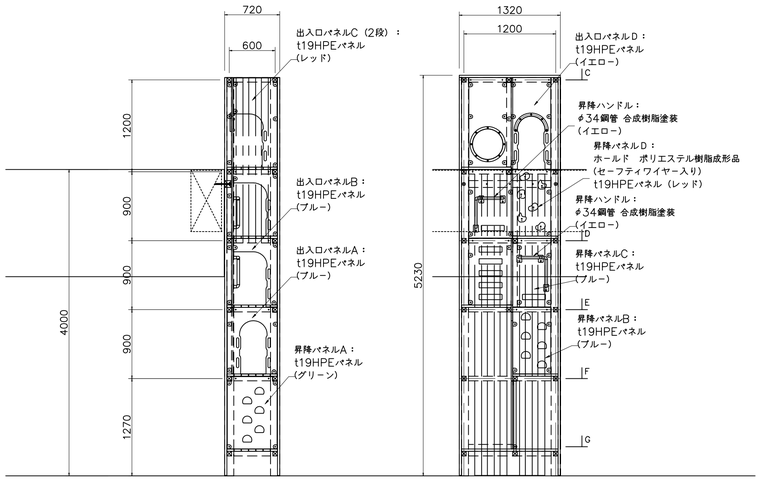
縮尺 1/A1: 50 A3:100

日付 2019・02・28

No

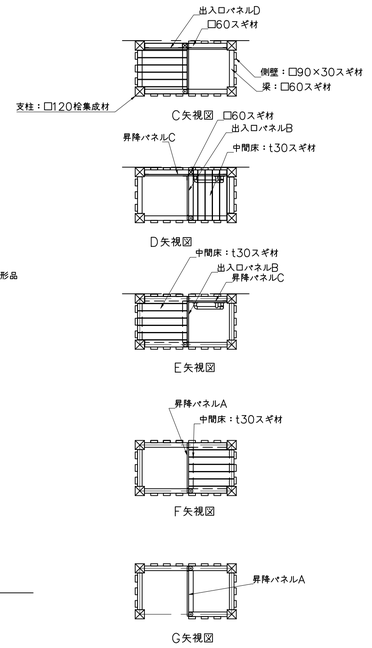
子どもエレベーター製品図

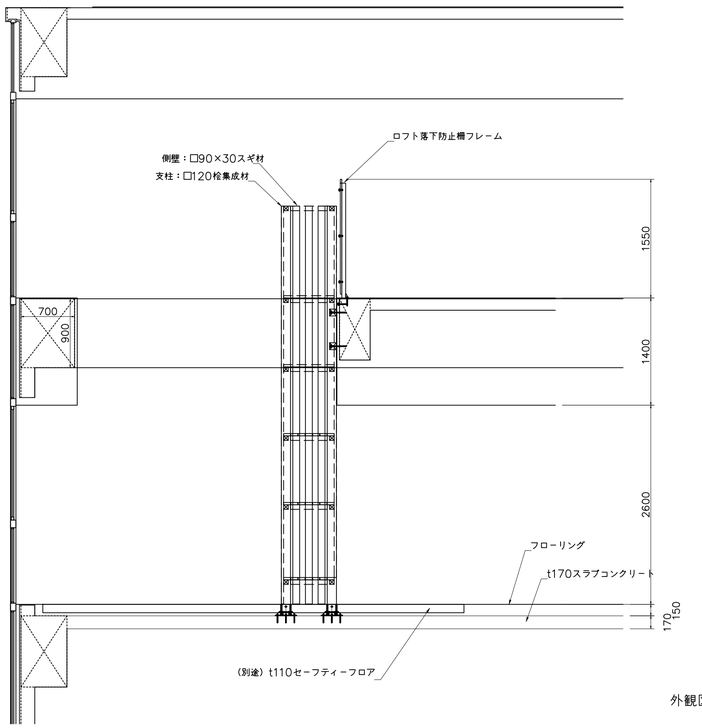


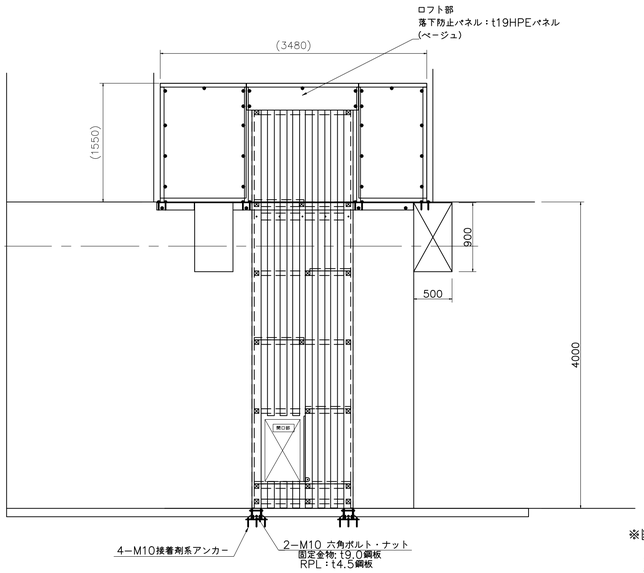


A矢視図

B矢視図







外観図 S=1/50

子どもエレベーター	支柱□120検集成材 側壁 90×30 スギ材 梁 □60 スギ材
昇降パネル	t19HPEパネル（ブルー/レッド/グリーン/イエロー）
ロフト部落下防止パネル	t19HPEパネル（ベージュ）
フレーム	□50 鋼管 合成樹脂塗装（ダークブラウン）

⚠ 設置上の注意
- 本製品の専有スペースとしての安全域を確保すること。
- 落下等による危険を最少にするために安全域内の設置面には適切な衝撃吸収性を有する材料を敷設すること。
- 本製品はおおむね6才~12才を対象にデザインされています。
- 本製品はJPFA−SP−S: 2014に準拠した製品です。
- 本製品は（一社）日本公園施設業協会の団体加入する公園施設団体賠償責任保険制度を適用します。

※断面詳細・平面詳細が不明のため、固定方法および図中の寸法は全て参考とする。
また、本図遊具は現段階での提案参考図とし、建築計画の詳細決定後、構成、構造、および固定方法は再度打ち合わせの上、検討を要する。

※鋼材は錆止め塗装の上、合成樹脂塗装

※搬入経路・遊具工事現場取付作業の工程により本図の構成から変更となる場合があります。

参考図

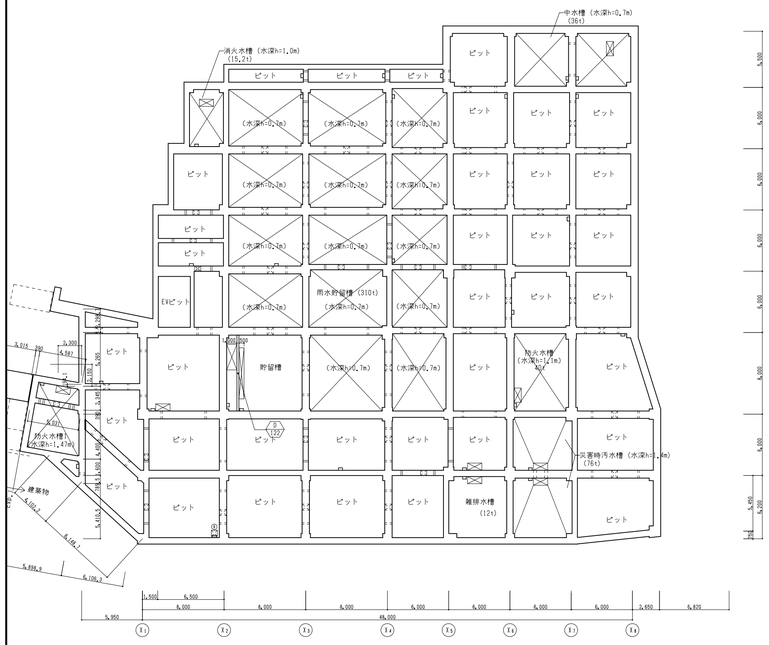
33. 藤沢子供の家ネット遊具製作図に依る

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

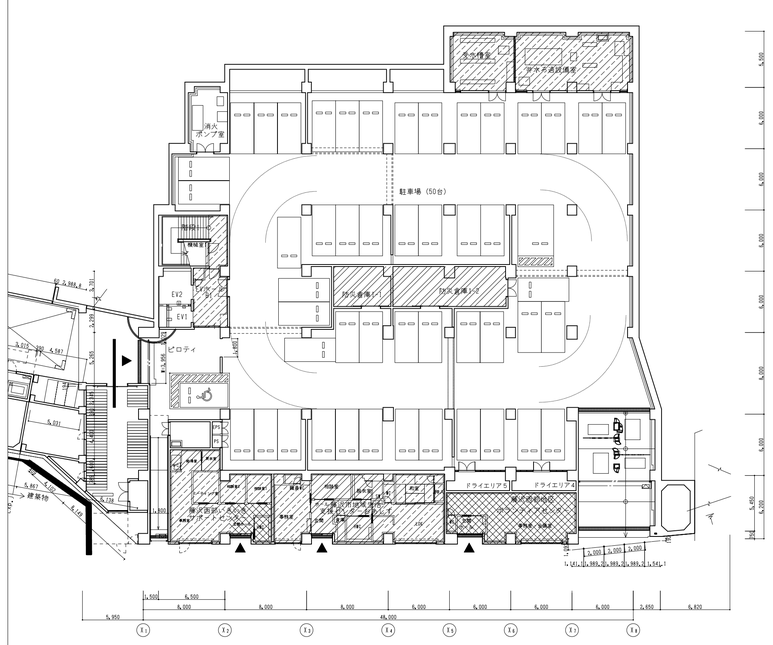
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	xxxx

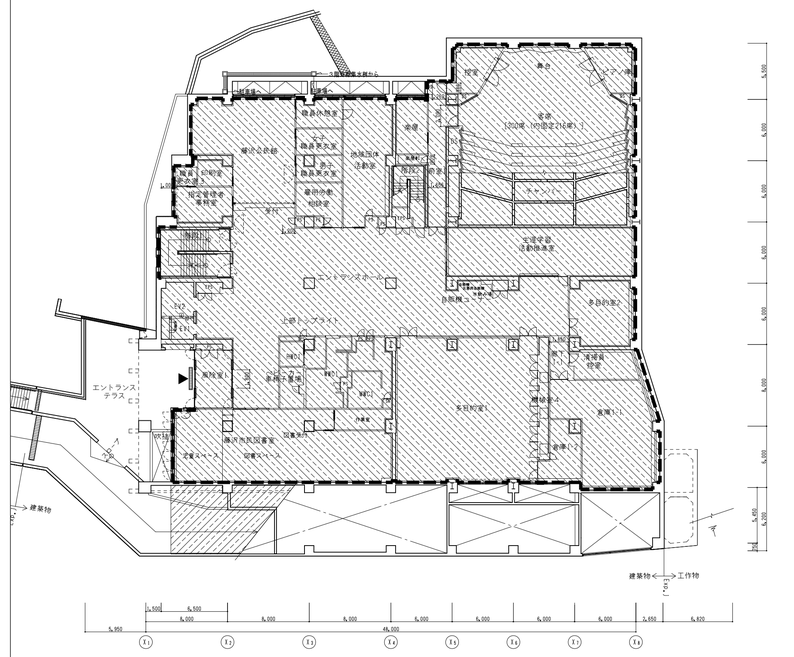
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事		設計番号	図面番号 A — 144
部分詳細図（８）	縮尺 1/ A1:40 A3:80	日付 2019・02・28	No



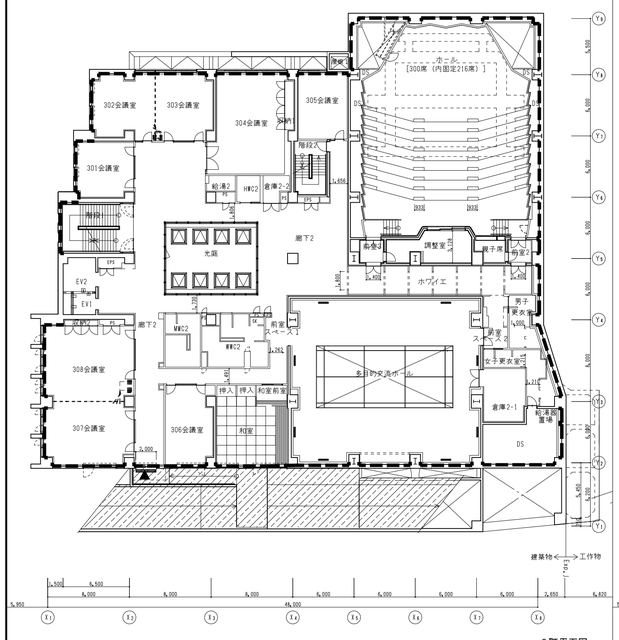
ピット階平面図



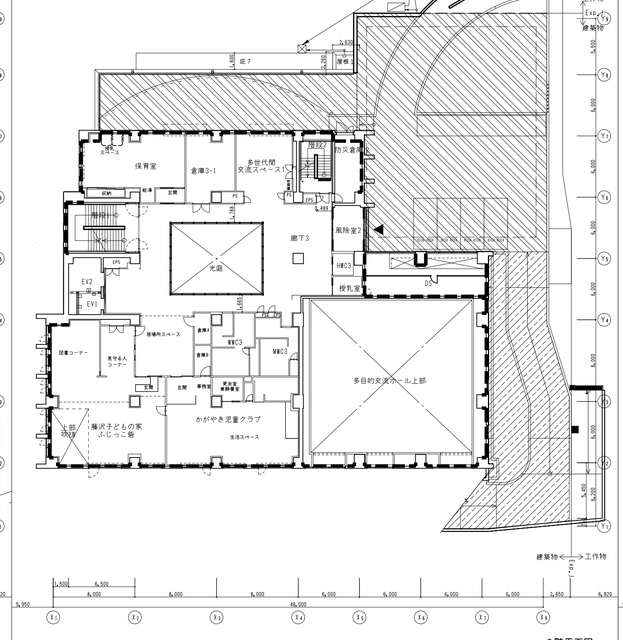
地下１階平面図



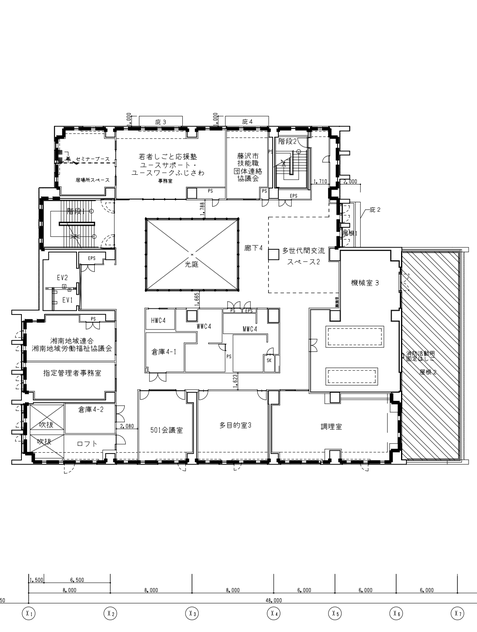
１階平面図



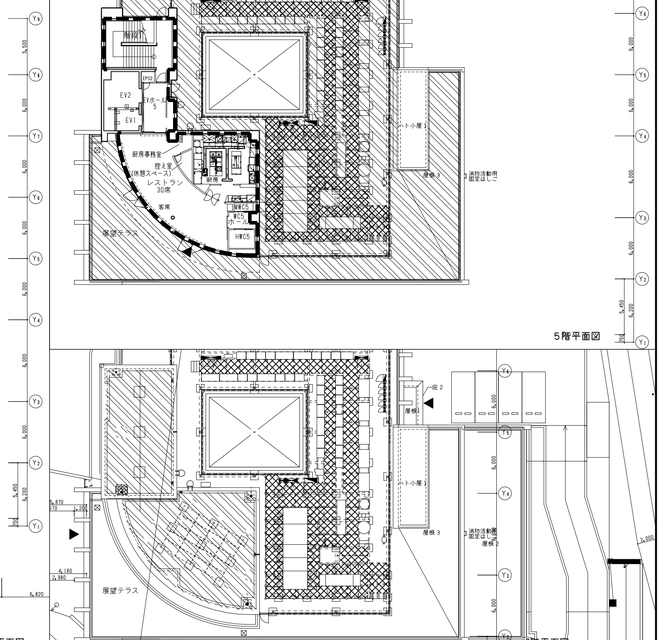
２階平面図



３階平面図



４階平面図



５階平面図

断熱範囲図凡例

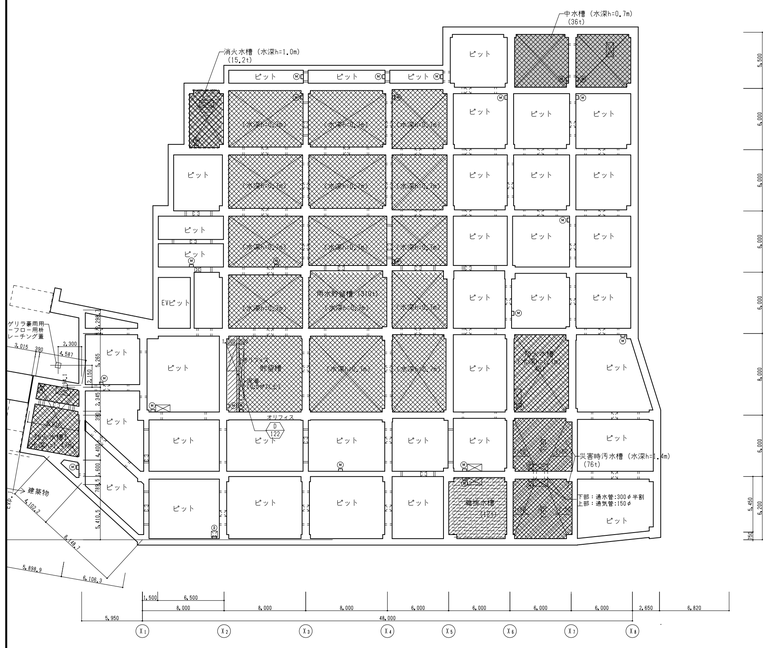
	スラブ上断熱：押出法ポリスチレンフォーム保温板b t=25		スラブ下断熱：不燃ウレタン PUXFLAME t=20（現場発泡）
	スラブ下断熱：吹付硬質ウレタンフォームt=30（現場発泡　ノンフロン）		スラブ下断熱：押出法ポリスチレンフォーム保温板b t=25（在来スラブ取込断熱）
	壁断熱：吹付硬質ウレタンフォーム t=30（現場発泡）		スラブ下断熱：スタイロパネルＫ打込み（ケイ素カルシウム板ｔ＝8）

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

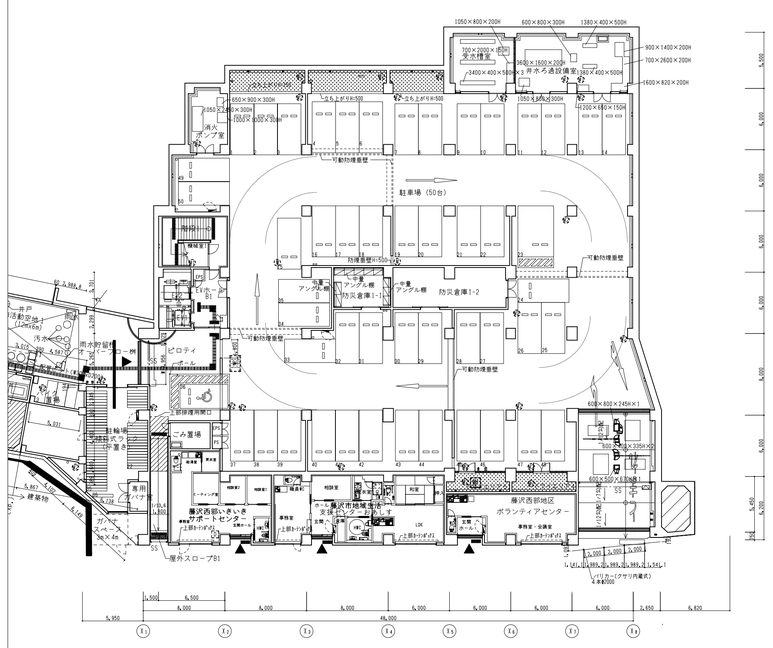
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄		検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士		
第199758号		第359522号				第2092号		
永廣　正邦		松浦　暢				押久保　正則		xxxx

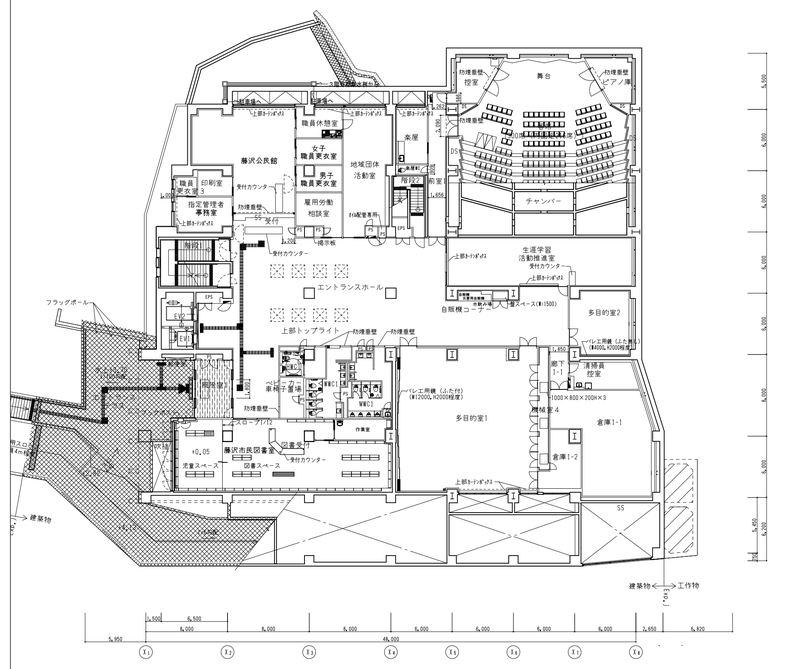
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	A — 145	図面番号
断熱範囲図	縮尺 1/ A1:300 A3:600	日付 2019・02・28	No



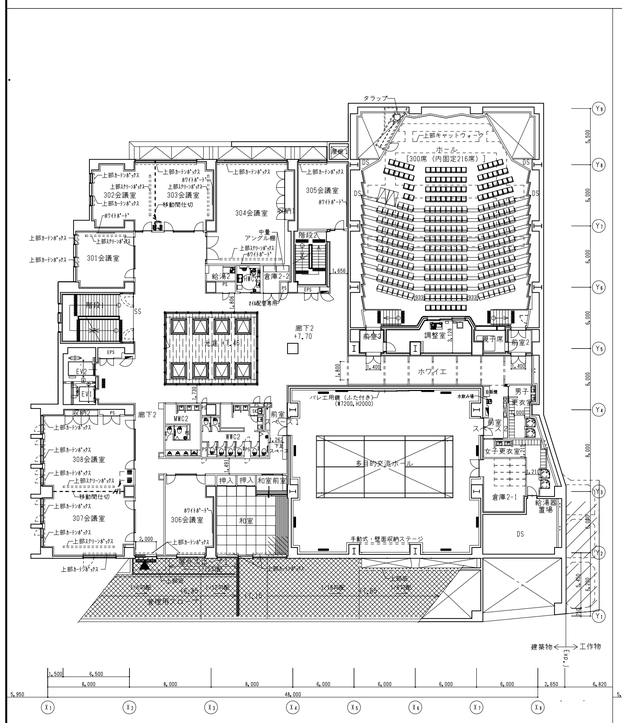
ピット階平面図



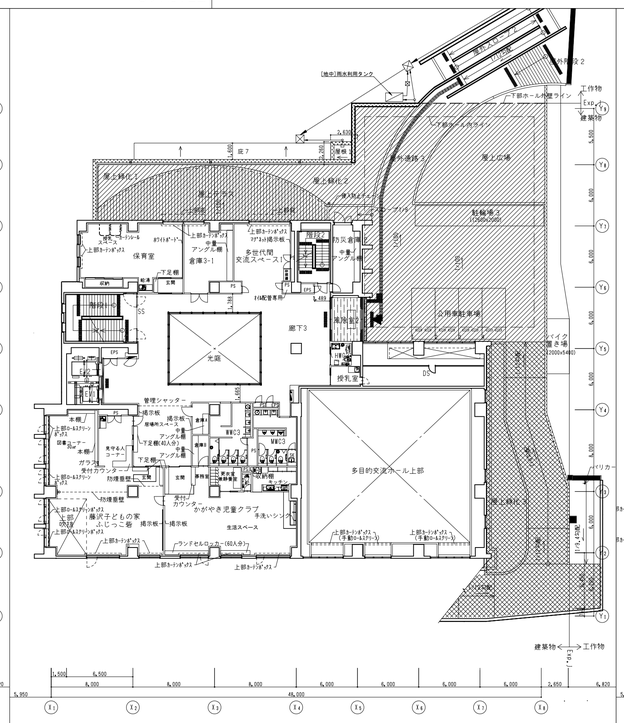
地下1階平面図



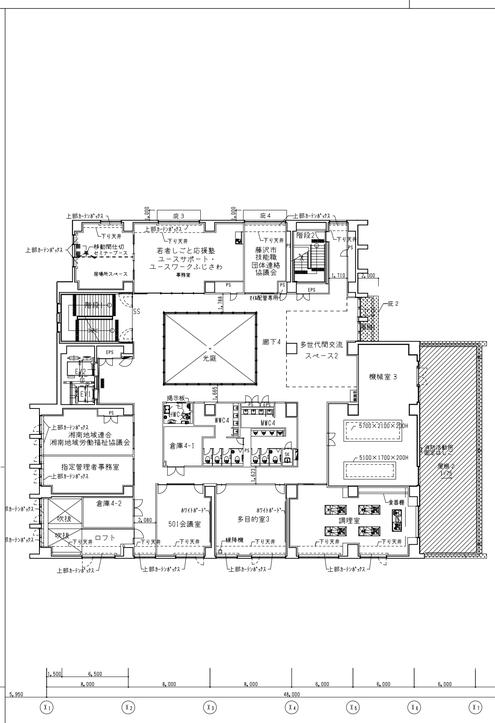
1階平面図



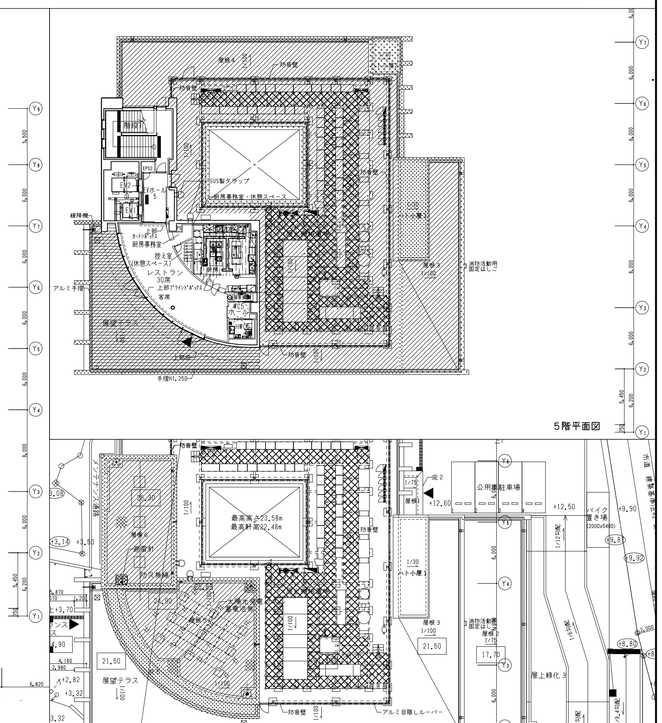
2階平面図



3階平面図



4階平面図



5階平面図

R階平面図

防水範囲図凡例

A		ケイ酸質系塗膜防水(GA-1)	D		AS防水 A1-1工法(屋根保護防水密着断熱工法)	G		ウレタン塗膜防水 HCエコプルーフ KE-30-A
B		ポリマーセメント塗膜防水(ビックサンGR)	E		AS防水 A-1工法(屋根保護防水密着工法)			
C		防食防水工法(ビックサンGR-D：6面防水)	F		AS防水 A-4工法(KA-PF工法)			

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄		検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士		
第199758号		第359522号				第2092号		xxxx
永廣 正邦		松浦 暢				押久保 正則		

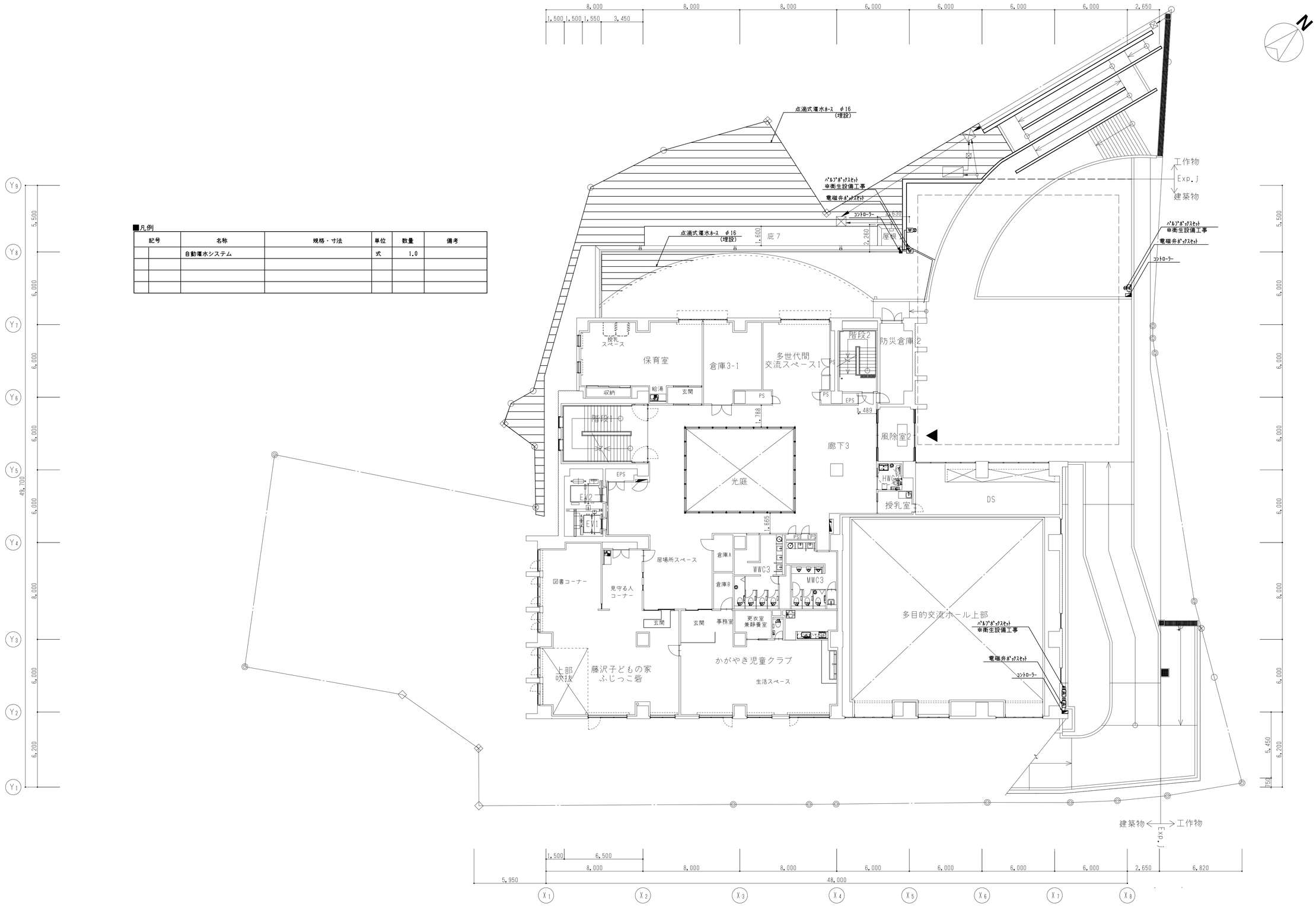
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事

防水範囲図

設計番号	図面番号
	A — 146
縮尺 1/ A1:300 A3:600	日付 2019・02・28
	No

■凡例

記号		名称	規格・寸法	単位	数量	備考
		自動灌水システム		式	1.0	



AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

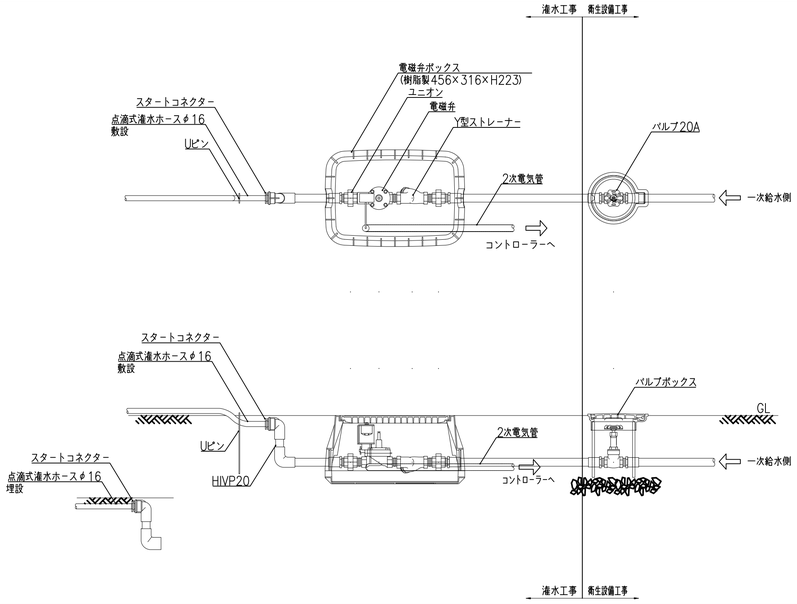
KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士	
第199758号		第359522号				第2092号	
永廣 正邦		松浦 暢				押久保 正則	xxxx

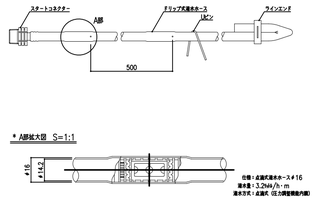
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
自動灌水システム図（１）	縮尺 1/A1:150 A3:300	日付 2019・02・28
		No

A — 147

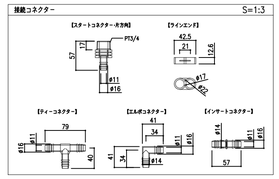
自動灌水システム詳細図（２０Ａ）　S=1:5



点滴式灌水ホースφ１６詳細図　図　示

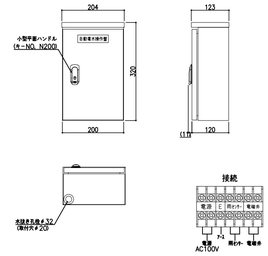


接続コネクター　S=1:3

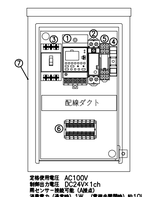


電気式コントローラー（ＤＳ１－Ｋ）詳細図　S=1:5

本体図 S=1:5



制御ユニット操作部 S=1:3



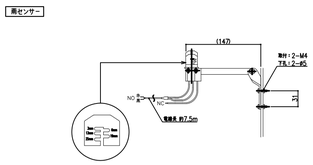
定格使用電圧　AC100V
制御出力電圧　DC24V×1ch
開ヒンジ・施錠下扉（A4程度）
消費電力（通常時）1W、（電磁弁開閉時）約10W

特記事項
※1　連続開角度は約１００度です。
※2　点はさ孔は等辺の対応には合わません。

キ ャ ビ ネ ッ ト 仕 様	
扉　式	扉内用
材ケース	SUS304　t1.0
材ア	SUS304　t1.0
表　面	鏡面　t1.0
塗装色	ライトベージュ（5Y7/1）
1　P	保護等級　IP44　※2

No	品名	型式	メーカー	数量
①	1ch休憩式タイムスイッチ	TB73201K	パナソニック	1
②	パワーサプライ	SBVS-03024	オムロン	1
③	ブレーカ（ELB）	NV30FAS0/10A 2P	三菱	1
④	ヒューズ	F-10B	内ムデン	1
⑤	リレー	G2R-2-SND DC24V	オムロン	1
⑥	端子台	BK-15MW	アイデック	7
⑦	ボックス	SD12-23SA	日東工業	1

雨センサー（ミニクリック）詳細図　S=1:3



仕　様

・本体電圧：最大24V　　・材　質
・接　点：NO・NC選択（A/B接点）　　ハウジング　：紫外線対策ABSポリカーボネート
※出荷時はNO（A接点）仕様となります。　　検査ディスク：特殊構造
・感知精度：調整ギャップ　　精度 ＝ ±0.15mm
3mm（1/8"）　6mm（1/4"）　※NC使用時
13mm（1/2"）　19mm（3/4"）　NC端子台線を接続してください。
25mm（１"）

機能説明

ミニクリップ：上部のキャップを回転する事で感知精度を調整できます。
3mm（1/8"）～25mm（1"）、大、ミニクリップ・下部には調整ロがあり
作先と同時合致・選択量を行ってください。

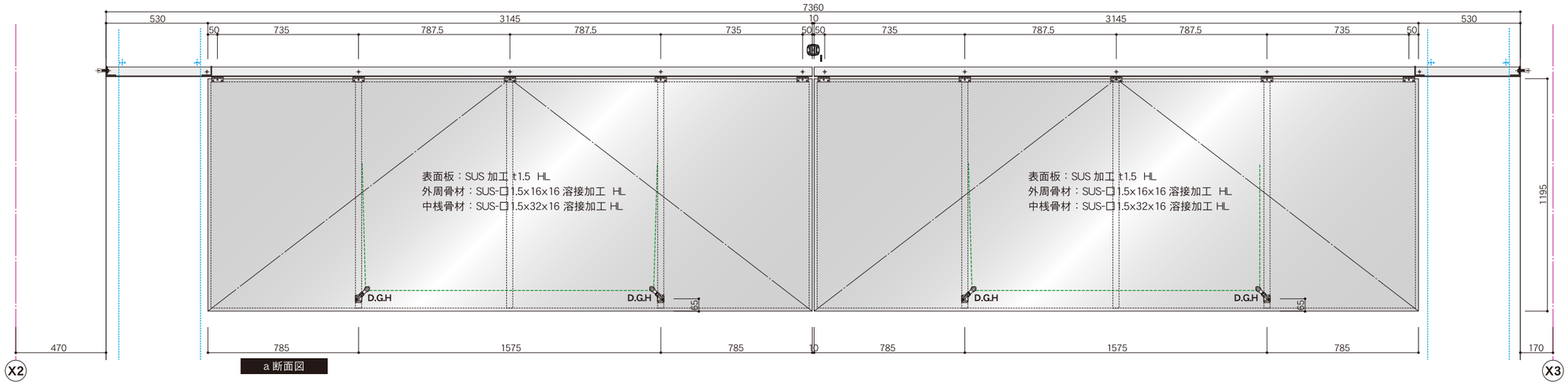
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　一級建築士事務所登録 東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店　一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号

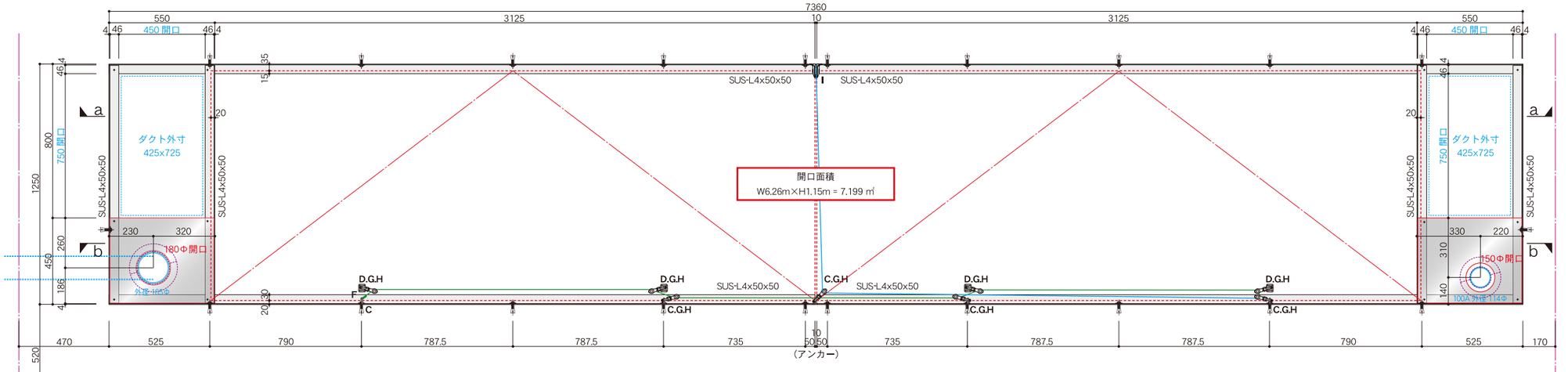
設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士	
第199758号		第359522号				第2092号	
永廣　正邦		松浦　暢				押久保　正則	xxxx

藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A — 148
自動灌水システム図（２）	縮尺 1/A1:10 A3:20	日付 2019・02・28	No

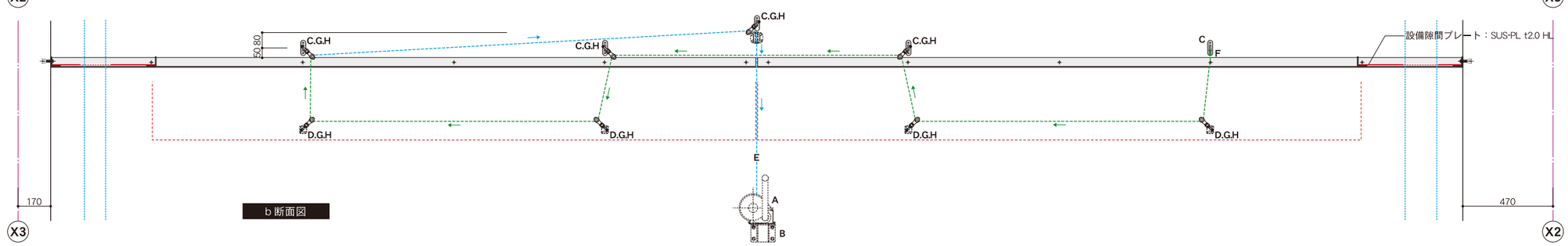
改訂：2013.09.02



a 断面図



平面図



b 断面図

A ウインチ（SUS 製）



使用荷重／ 200kg

B ウインチ取付台（SUS 製）



C バッドアイ（SUS 製）



使用荷重／ 40kg

D アイプレート（SUS 製）



使用荷重／ 30kg

E ワイヤー（SUS 製）3Φ



破断荷重／ 565kg

F ワイヤークリップ（SUS 製）



使用荷重／ 70kg

G ブロック（SUS 製）



使用荷重／ 80kg

H シャックル（SUS 製）



使用荷重／ 90kg

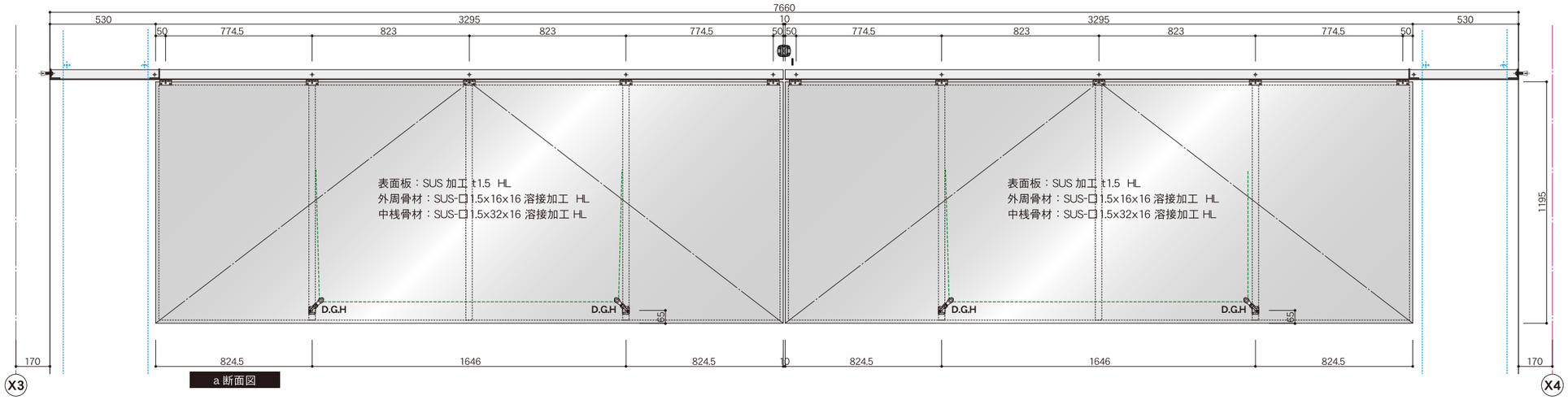
I 固定滑車縦型 1 車（SUS 製）



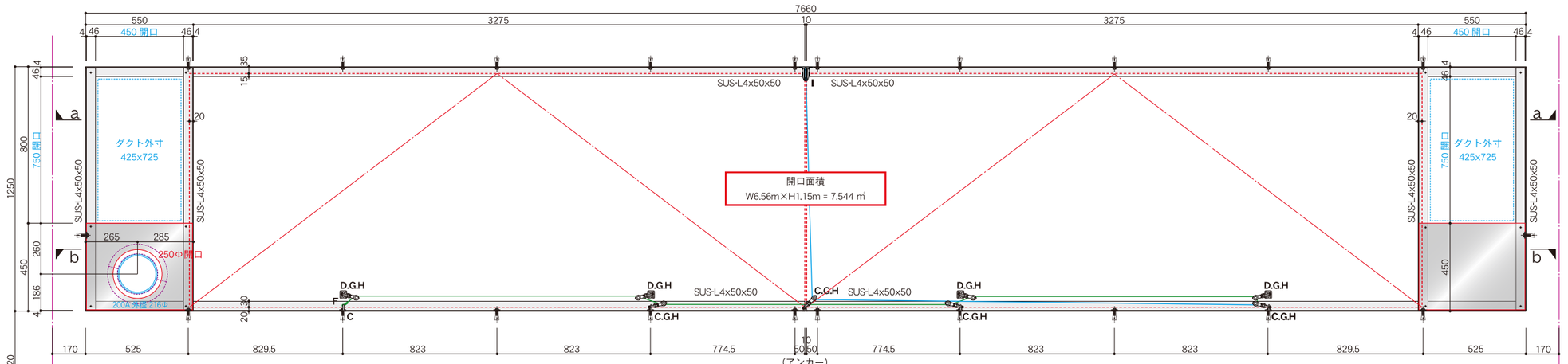
使用荷重／ 200kg

※メーカー名：浅野金属工業株式会社

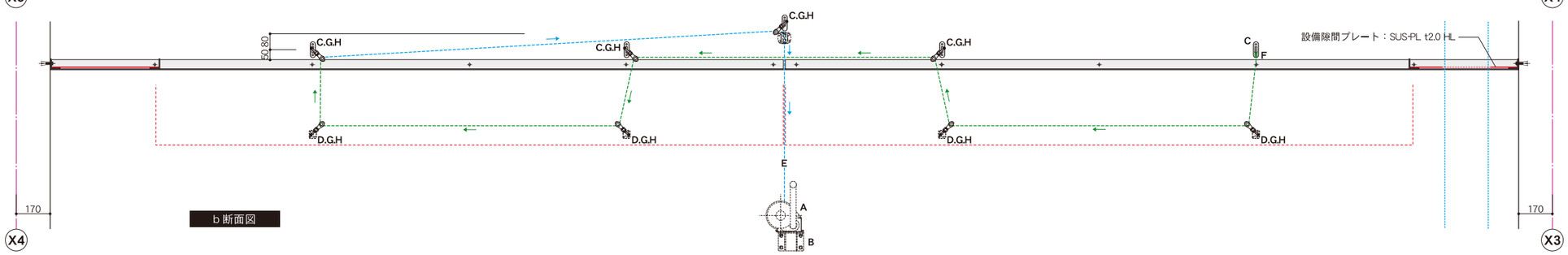
| | | |



a 断面図



平面図



b 断面図

A ウインチ（SUS 製）



使用荷重／ 200kg

B ウインチ取付台（SUS 製）



C バッドアイ（SUS 製）



使用荷重／ 40kg

D アイプレート（SUS 製）



使用荷重／ 30kg

E ワイヤー（SUS 製）3Φ



破断荷重／ 565kg

F ワイヤークリップ（SUS 製）



使用荷重／ 70kg

G ブロック（SUS 製）



使用荷重／ 80kg

H シャックル（SUS 製）



使用荷重／ 90kg

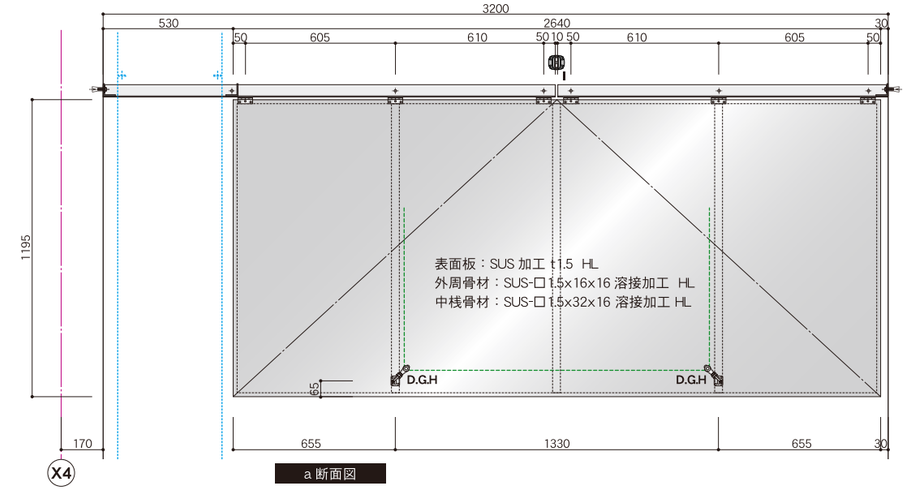
I 固定滑車縦型 1 車（SUS 製）



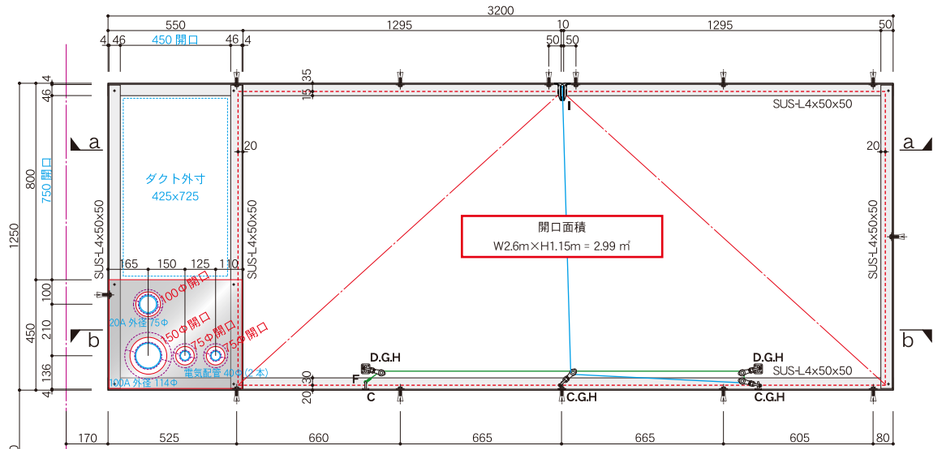
使用荷重／ 200kg

※メーカー名：浅野金属工業株式会社

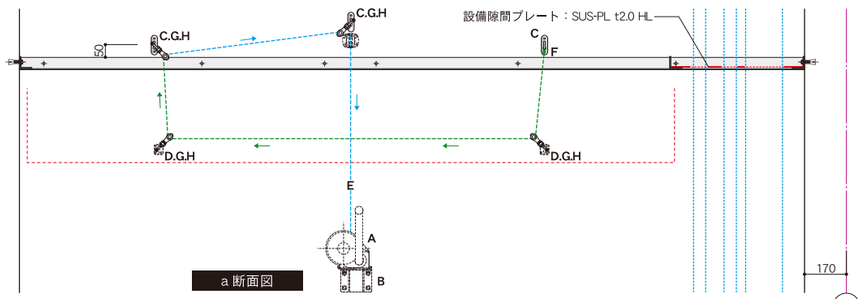
| | | |



a 断面図



平面図



a 断面図

A ウインチ（SUS 製）



使用荷重／ 200kg

B ウインチ取付台（SUS 製）



C バッドアイ（SUS 製）



使用荷重／ 40kg

D アイプレート（SUS 製）



使用荷重／ 30kg

E ワイヤー（SUS 製）3Φ



破断荷重／ 565kg

F ワイヤークリップ（SUS 製）



使用荷重／ 70kg

G ブロック（SUS 製）



使用荷重／ 80kg

H シャックル（SUS 製）



使用荷重／ 90kg

I 固定滑車縦型 1 車（SUS 製）



使用荷重／ 200kg

※メーカー名：浅野金属工業株式会社

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants
一級建築士事務所登録
東京第３８０号

KAJIMA DESIGN 横浜支店
一級建築士事務所登録
神奈川第１３２号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士	
第199758号		第359522号				第2092号	
永廣　正邦		松浦　暢				押久保　正則	*****

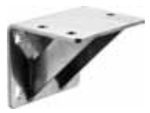
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号		図面番号 A － 151
簡易排煙装置（X4～X5通）	縮尺 1/25	日付 2019・02・28	No

A ウインチ（SUS 製）



使用荷重／ 200kg

B ウインチ取付台（SUS 製）



C パッドアイ（SUS 製）



使用荷重／ 40kg

D アイプレート（SUS 製）



使用荷重／ 30kg

E ワイヤー（SUS 製）3Φ



破断荷重／ 565kg

F ワイヤークリップ（SUS 製）



使用荷重／ 70kg

G ブロック（SUS 製）



使用荷重／ 80kg

H シャックル（SUS 製）



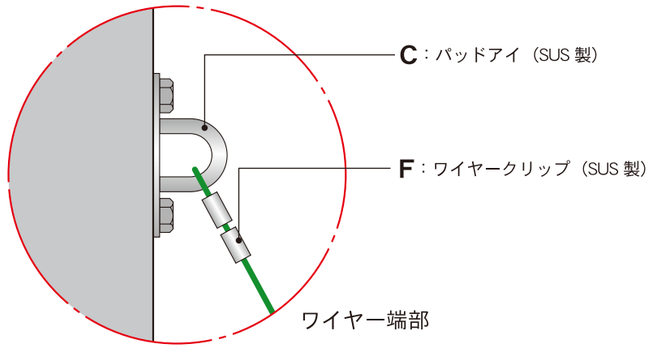
使用荷重／ 90kg

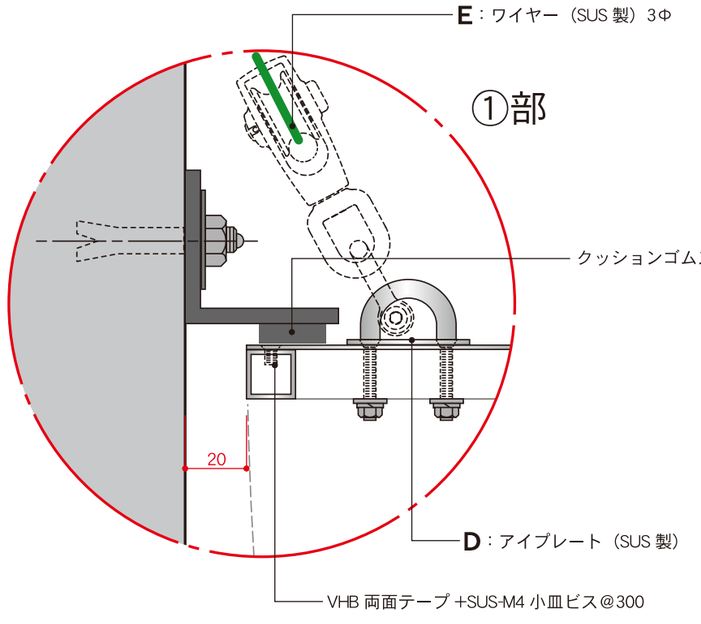
I 固定滑車縦型 1 車（SUS 製）

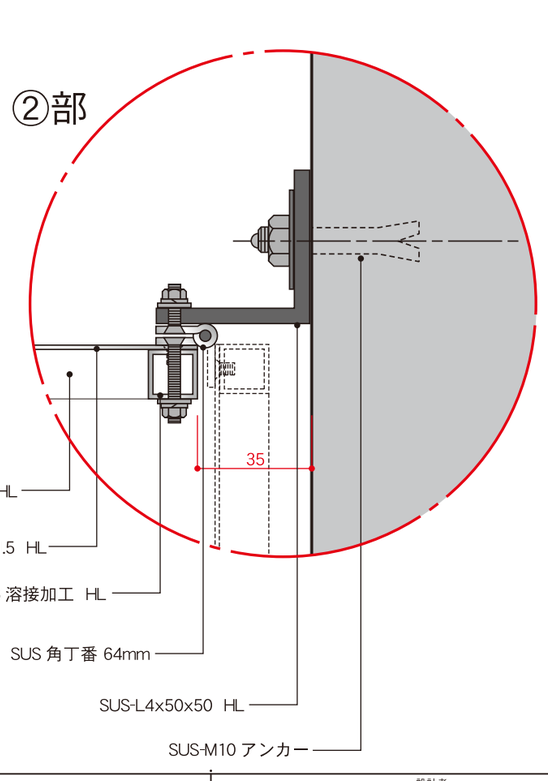


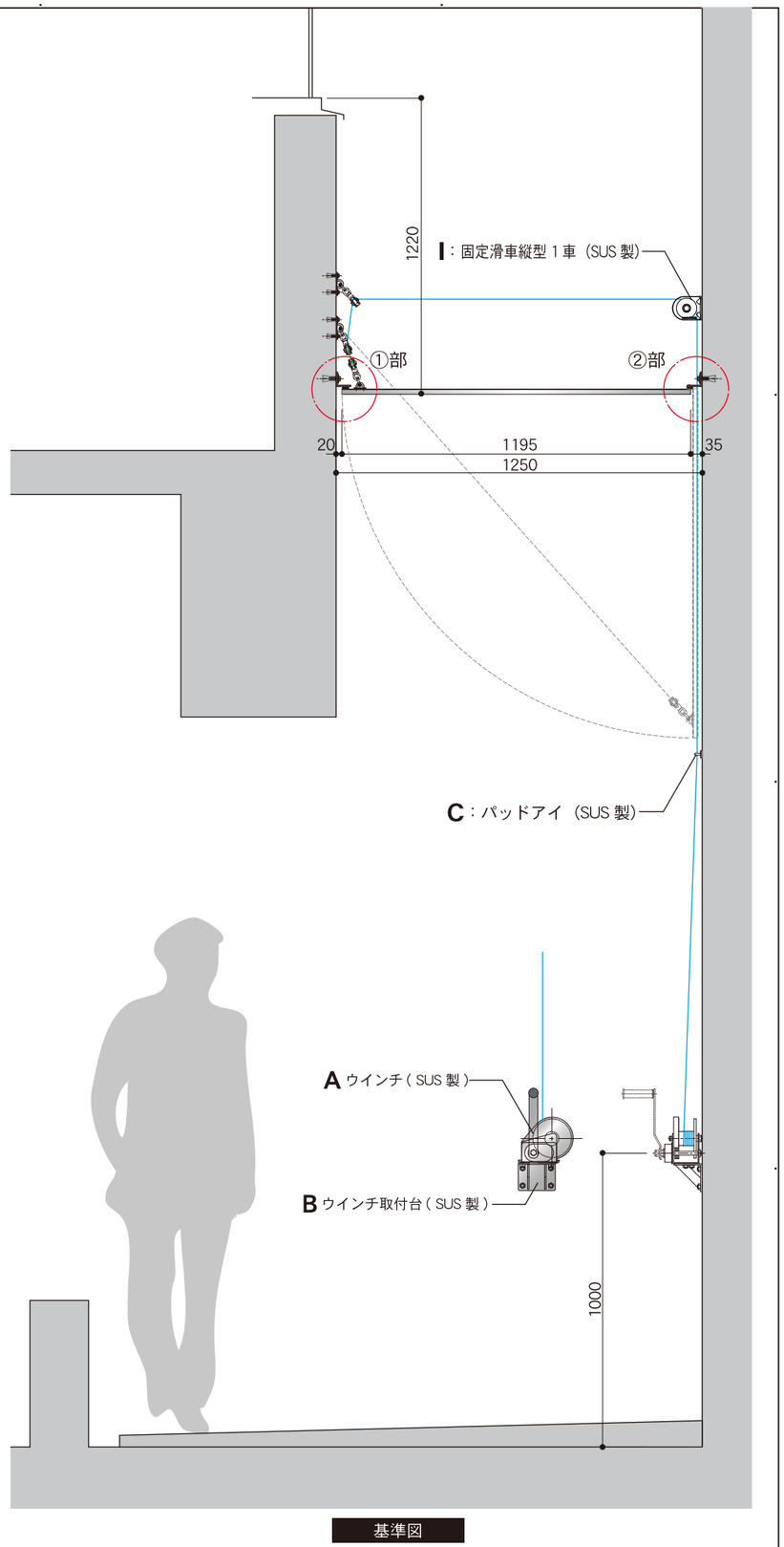
使用荷重／ 200kg

※メーカー名：浅野金属工業株式会社









基準図

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants 一級建築士事務所登録 東京第３８０号	鹿島 KAJIMA DESIGN 横浜支店 一級建築士事務所登録 神奈川第１３２号		設計者				法適合確認欄	検証者	藤沢公民館・労働会館等複合施設建設工事	設計番号	図面番号
			一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第359522号 松浦 暢			設備設計一級建築士 第2092号 押久保 正則	*****	簡易排煙装置断面図	縮尺 1/20 1/2 1/3	日付 2019・02・28	A － 152 No